千原台ニュータウンXXⅡ

－市原市押沼第２遺跡（下層）・川焼台遺跡（下層）－
第１分冊

平成22年１月

独立行政法人　都市再生機構

財団法人　千葉県教育振興財団

千原台ニュータウンXXII

－市原市押沼第２遺跡（下層）・川焼台遺跡（下層）－

第１分冊

序　　文

財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）は，埋蔵文化財の調査研究，文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され，以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび，千葉県教育振興財団調査報告第632集として，独立行政法人都市再生機構千葉地域支社の千原台地区区画整理事業に伴って実施した市原市押沼第２遺跡（下層）及び川焼台遺跡（下層）の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

これらの調査では，旧石器時代各時期の石器集中地点が91か所以上検出され，この地域における旧石器時代の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり，この報告書が学術資料として，また地域の歴史解明の資料として広く活用されることを願っております。

終わりに，調査に際し御指導，御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関，また，発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成22年１月

財団法人千葉県教育振興財団
理事長　篠　塚　俊　夫

凡　　例

1　本書は，独立行政法人都市再生機構千葉地域支社による千原台地区におけるニュータウン建設計画（土地区画整理事業）に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2　本書に収録したのは，押沼遺跡群のうち，千葉県市原市押沼字高堀901-1（現ちはら台東７丁目11番地）ほかに所在する押沼第２遺跡（遺跡コード219-012）の旧石器時代（下層）及び千葉県市原市草刈字川焼台1695-2（現ちはら台南２丁目７番地）ほかに所在する川焼台遺跡（遺跡コード219-025）の旧石器時代（下層）の資料である。なお，押沼第２遺跡及び川焼台遺跡の上層については報告書を刊行済みである。

3　発掘調査から報告書刊行に至る業務は，独立行政法人都市再生機構千葉地域支社の委託を受け，財団法人千葉県教育振興財団が実施した。

4　発掘調査及び整理作業の経緯と組織・担当者は，第１章第１節に記載した。

5　本書に記載した石器及び石材の分類を上席研究員　田島　新，石器の実測を整理課，原稿執筆及び編集を上席研究員　田島　新が担当した。

6　発掘調査から報告書刊行に至るまで，千葉県教育庁教育振興部文化財課，独立行政法人都市再生機構千葉地域支社，市原市教育委員会の御指導，御協力を得た。

7　本書で使用した周辺航空写真の内，図版１は京葉測量株式会社による昭和42年撮影のもの，図版15は財団法人日本地図センター発行の昭和45年撮影のものである。

8　本書で使用した地形図は，下記のとおりである。

第１図　　国土地理院発行　　1/25,000地形図「蘇我」（NI-54-19-15-2）

第３・４図　昭和測量工業株式会社・日本測量株式会社調整昭和46年測量

1/2,500　千原台地区現況図（No.４）

9　出土遺物写真の縮尺は，基本的に1/2であるが，カラー図版18の内，M13-Aブロックの細石刃（１～70）は2/3である。

10　本書で使用した図面の方位は，すべて座標北である。座標値は，日本測地系である。

11　石材の色の記載については，小山正忠・竹原秀雄 1999『新版 標準土色帖』日本色研事業株式会社の色名を使用し，色の測定にあたっては，第一合成株式会社の土色計「SCR-1」を用いた。

12　挿図に使用した記号の用例は，次のとおりである。黒曜石及び頁岩については肉眼観察ではあるが，原産地を意識して細分した。

石器；ナイフ形石器（KN），台形石器（TP），搔先形石器・有茎尖頭器（PO），角錐状石器（KP），掻器（ES），削器（SS），彫器（GR），鏃状石器（DR），模形石器（PQ），加工痕ある剥片（RF），使用痕ある剥片（UF），石刃（BL），馬蹄磨製石斧（HO），礫器（PT），敲石（HS），台石（AS），剥片（FL），砕片（CH），石核（CO），原石（SM），削片（SP），細石刃核（MC），不明（UK），礫（PE）

石材；黒曜石Ａ（OBA：栃木県・高原山産），黒曜石Ｂ（OBB：信州・和田峠周辺産），黒曜石Ｃ（OBC：信州・麦草峠産），黒曜石Ｆ（OBF：神津島産），黒曜石Ｇ（OBG：不明），安山岩（AN），軟質の安山岩＝トロトロ石（TO），流紋岩（RH），頁岩Ａ（SHA：硬質緻密で光沢のある東北東頁岩），頁岩Ｂ（SHB：北関東産の頁岩とくに西荒川産を意識しているが，緑色のものは凝灰岩とした），頁岩Ｃ（SHC：県南嶺岡産の頁岩），頁岩Ｄ（SHD：珪化度の高い頁岩で産地不明のもの），頁岩Ｅ（SHE：上記以外の頁岩），チャート（CH），凝灰岩（TU），粘板岩（SL），礫岩（CO），砂岩（SA），ホルンフェルス（HO），蛇紋岩（SP），閃緑岩（DI），石英（QU），瑪瑙・玉髄（CC），不明（UK）

礫石材；安山岩（AN），軟質の安山岩＝トロトロ石（TO），流紋岩（RH），頁岩（SH），チャート（CH），凝灰岩（TU），粘板岩（SL），礫岩（CO），砂岩（SA），ホルンフェルス（HO），閃緑岩（DI），花崗岩（GR），瑪瑙・玉髄（CC）

本文目次

（第１分冊）
第１篇　押沼第２遺跡
第１章　はじめに …… 1
第１節　調査の概要 …… 1
1　発掘調査の経緯 …… 1
2　調査の方法 …… 2
第２節　遺跡の位置と環境 …… 2
1　遺跡の位置と地形 …… 2
2　押沼第２遺跡と周辺の遺跡 …… 3
第３節　基本土層 …… 8
第２章　旧石器時代 …… 10
第１節　調査の概要 …… 10
第２節　第１文化層 …… 13
第３節　第２文化層 …… 54
第４節　第３文化層 …… 73
第５節　第４文化層 …… 234
第６節　第５文化層 …… 439
第７節　第６文化層 …… 516
第８節　時期不明 …… 534
第３章　まとめ …… 535
（第２分冊）
第２篇　川焼台遺跡
第１章　はじめに …… 545
第１節　調査の概要 …… 545
1　発掘調査の経緯 …… 545
2　調査の方法 …… 545
第２節　遺跡の位置と環境 …… 545
第３節　基本土層 …… 547
第２章　旧石器時代 …… 549
第１節　調査の概要 …… 549
第２節　第１文化層 …… 549
第３節　第２文化層 …… 601
第４節　第３文化層・第４文化層・時期不明 …… 620
第３章　まとめ …… 629

挿図目次

（第１分冊）

押沼第２遺跡

調査の概要

第１図　押沼第２遺跡・川焼台遺跡周辺の旧石器時代遺跡 …… 5

第２図　押沼第２遺跡調査区及び基本土層 …… 9

第３図　押沼第２遺跡調査概要 …… 11

第４図　押沼第２遺跡ブロック別分布状況 …… 12

第１文化層

第５図　S15-Aブロック出土遺物分布 …… 13

第６図　S15-Aブロック出土遺物 …… 14

第７図　V16-Aブロック出土遺物分布（１）…… 16

第８図　V16-Aブロック出土遺物分布（２）…… 17

第９図　V16-Aブロック出土遺物分布（３）…… 18

第10図　V16-Aブロック出土遺物分布（４）…… 19

第11図　V16-Aブロック出土遺物分布（５）…… 20

第12図　V16-Aブロック出土遺物（１）…… 32

第13図　V16-Aブロック出土遺物（２）…… 33

第14図　V16-Aブロック出土遺物（３）…… 34

第15図　V16-Aブロック出土遺物（４）…… 35

第16図　V16-Aブロック出土遺物（５）…… 36

第17図　V16-Aブロック出土遺物（６）…… 37

第18図　V16-Aブロック出土遺物（７）…… 38

第19図　V16-Aブロック出土遺物（８）…… 39

第20図　V16-Aブロック出土遺物（９）…… 40

第21図　V16-Aブロック出土遺物(10) …… 41

第22図　V16-Aブロック出土遺物(11) …… 42

第23図　V17-Aブロック出土遺物分布（１）…… 44

第24図　V17-Aブロック出土遺物分布（２）…… 45

第25図　V17-Aブロック出土遺物（１）…… 48

第26図　V17-Aブロック出土遺物（２）…… 49

第27図　N18-Dブロック出土遺物分布 …… 51

第28図　N18-Dブロック出土遺物 …… 51

第29図　第１文化層ブロック外出土遺物 …… 52

第30図　第１文化層ブロック外出土遺物分布 …… 53

第２文化層

第31図　S24-Fブロック出土遺物分布 …… 55

第32図　S24-Fブロック出土遺物 …… 55

第33図　R24-Aブロック出土遺物分布（１）…… 56

第34図　R24-Aブロック出土遺物分布（２）…… 57

第35図　R24-Aブロック出土遺物 …… 58

第36図　Q25-Bブロック出土遺物分布（１）…… 59

第37図　Q25-Bブロック出土遺物分布（２）…… 59

第38図　Q25-Bブロック出土遺物 …… 60

第39図　S25-Kブロック出土遺物分布（１）…… 61

第40図　S25-Kブロック出土遺物分布（２）…… 62

第41図　S25-Kブロック出土遺物（１）…… 64

第42図　S25-Kブロック出土遺物（２）…… 65

第43図　S26-Eブロック出土遺物分布（１）…… 66

第44図　S26-Eブロック出土遺物分布（２）…… 67

第45図　S26-Eブロック出土遺物 …… 69

第46図　S26-Fブロック出土遺物分布（１）…… 71

第47図　S26-Fブロック出土遺物分布（２）…… 71

第48図　S26-Fブロック出土遺物 …… 71

第49図　第２文化層ブロック外出土遺物分布 …… 72

第50図　第２文化層ブロック外出土遺物 …… 72

第３文化層

第51図　M13-Bブロック出土遺物分布（１）…… 73

第52図　M13-Bブロック出土遺物分布（２）…… 73

第53図　M13-Bブロック出土遺物 …… 74

第54図　K15-Aブロック出土遺物分布（１）…… 76

第55図　K15-Aブロック出土遺物分布(2)……76
第56図　K15-Aブロック出土遺物……77
第57図　S14-Aブロック出土遺物分布……78
第58図　S14-Aブロック出土遺物……78
第59図　V18-Bブロック出土遺物分布……80
第60図　V18-Bブロック出土遺物……80
第61図　N17-Aブロック出土遺物分布(1)……81
第62図　N17-Aブロック出土遺物分布(2)……82
第63図　N17-Aブロック出土遺物分布(3)……83
第64図　N17-Aブロック出土遺物(1)……92
第65図　N17-Aブロック出土遺物(2)……94
第66図　N17-Aブロック出土遺物(3)……95
第67図　N17-Aブロック出土遺物(4)……96
第68図　N17-Aブロック出土遺物(5)……97
第69図　N17-Aブロック出土遺物(6)……98
第70図　N17-Bブロック出土遺物分布(1)……100
第71図　N17-Bブロック出土遺物分布(2)……100
第72図　N17-Bブロック出土遺物……102
第73図　M18-Aブロック出土遺物分布(1)……104
第74図　M18-Aブロック出土遺物分布(2)……105
第75図　M18-Aブロック出土遺物(1)……108
第76図　M18-Aブロック出土遺物(2)……109
第77図　N18-Aブロック出土遺物分布(1)……111
第78図　N18-Aブロック出土遺物分布(2)……111
第79図　N18-Aブロック出土遺物……114
第80図　N18-Bブロック出土遺物分布(1)……116
第81図　N18-Bブロック出土遺物分布(2)……116
第82図　N18-Bブロック出土遺物……116
第83図　N18-Cブロック出土遺物分布(1)……118
第84図　N18-Cブロック出土遺物分布(2)……118
第85図　N18-Cブロック出土遺物……118
第86図　N18-Eブロック出土遺物分布(1)……120
第87図　N18-Eブロック出土遺物分布(2)……120
第88図　N18-Eブロック出土遺物……120
第89図　N18-Fブロック出土遺物分布(1)……122
第90図　N18-Fブロック出土遺物分布(2)……122
第91図　N18-Fブロック出土遺物……122
第92図　N18-Gブロック出土遺物分布(1)…124
第93図　N18-Gブロック出土遺物分布(2)…125
第94図　N18-Gブロック出土遺物(1)……129
第95図　N18-Gブロック出土遺物(2)……130
第96図　N18-Gブロック出土遺物(3)……131
第97図　N18-Hブロック出土遺物分布(1)…134
第98図　N18-Hブロック出土遺物分布(2)…135
第99図　N18-Hブロック出土遺物分布(3)…136
第100図　N18-Hブロック出土遺物分布(4)…137
第101図　N18-Hブロック出土遺物分布(5)…138
第102図　N18-Hブロック出土遺物(1)……144
第103図　N18-Hブロック出土遺物(2)……146
第104図　N18-Hブロック出土遺物(3)……147
第105図　N18-Hブロック出土遺物(4)……148
第106図　N18-Hブロック出土遺物(5)……149
第107図　N18-Hブロック出土遺物(6)……150
第108図　N18-Hブロック出土遺物(7)……151
第109図　N19-Aブロック出土遺物分布(1)…153
第110図　N19-Aブロック出土遺物分布(2)…154
第111図　N19-Aブロック出土遺物(1)……161
第112図　N19-Aブロック出土遺物(2)……162
第113図　N19-Aブロック出土遺物(3)……163
第114図　N19-Aブロック出土遺物(4)……164
第115図　N19-Bブロック出土遺物分布(1)…165
第116図　N19-Bブロック出土遺物分布(2)…166
第117図　N19-Bブロック出土遺物……168
第118図　M20-Aブロック出土遺物分布(1)…170
第119図　M20-Aブロック出土遺物分布(2)…170
第120図　M20-Aブロック出土遺物……172
第121図　Q20-Aブロック出土遺物分布(1)…174
第122図　Q20-Aブロック出土遺物分布(2)…175
第123図　Q20-Aブロック出土遺物(1)……176
第124図　Q20-Aブロック出土遺物(2)……177
第125図　S20-Aブロック出土遺物分布(1)…179
第126図　S20-Aブロック出土遺物分布(2)…180
第127図　S20-Aブロック出土遺物(1)……183
第128図　S20-Aブロック出土遺物(2)……184

第129図　S20-Aブロック出土遺物(3)…… 185
第130図　S20-Bブロック出土遺物分布(1)… 187
第131図　S20-Bブロック出土遺物分布(2)… 188
第132図　S20-Bブロック出土遺物(1)…… 194
第133図　S20-Bブロック出土遺物(2)…… 195
第134図　S20-Bブロック出土遺物(3)…… 196
第135図　S20-Bブロック出土遺物(4)…… 197
第136図　T20-Aブロック出土遺物分布(1)… 199
第137図　T20-Aブロック出土遺物分布(2)… 200
第138図　T20-Aブロック出土遺物(1)…… 201
第139図　T20-Aブロック出土遺物(2)…… 202
第140図　T20-Aブロック出土遺物(3)…… 203
第141図　U20-Bブロック出土遺物分布(1)… 205
第142図　U20-Bブロック出土遺物分布(2)… 206
第143図　U20-Bブロック出土遺物(1)…… 211
第144図　U20-Bブロック出土遺物(2)…… 212
第145図　U20-Bブロック出土遺物(3)…… 213
第146図　U20-Bブロック出土遺物(4)…… 214
第147図　U20-Cブロック出土遺物分布(1)… 216
第148図　U20-Cブロック出土遺物分布(2)… 217
第149図　U20-Cブロック出土遺物 …… 220
第150図　U21-Aブロック出土遺物分布(1)… 221
第151図　U21-Aブロック出土遺物分布(2)… 221
第152図　U21-Aブロック出土遺物 …… 222
第153図　U21-Bブロック出土遺物分布(1)… 223
第154図　U21-Bブロック出土遺物分布(2)… 223
第155図　U21-Bブロック出土遺物(1)…… 224
第156図　U21-Bブロック出土遺物(2)…… 225
第157図　S26-Cブロック出土遺物分布(1)… 227
第158図　S26-Cブロック出土遺物分布(2)… 227
第159図　S26-Cブロック出土遺物 …… 229
第160図　第3文化層ブロック外出土遺物分布…231
第161図　第3文化層ブロック外出土遺物……232
第162図　炭化物集中地点……233

第4文化層

第163図　J13-Aブロック出土遺物分布(1)… 235
第164図　J13-Aブロック出土遺物分布(2)… 235
第165図　J13-Aブロック出土遺物(1)…… 237
第166図　J13-Aブロック出土遺物(2)…… 238
第167図　M16-Aブロック出土遺物分布 …… 239
第168図　M16-Aブロック出土遺物 …… 239
第169図　M16-Bブロック出土遺物分布(1)… 241
第170図　M16-Bブロック出土遺物分布(2)… 241
第171図　M16-Bブロック出土遺物分布(3)… 242
第172図　M16-Bブロック出土遺物 …… 242
第173図　M16-Cブロック出土遺物分布 …… 243
第174図　P14-Aブロック出土遺物分布(1)… 244
第175図　P14-Aブロック出土遺物分布(2)… 245
第176図　P14-Aブロック出土遺物分布(3)… 246
第177図　P14-Aブロック出土遺物分布(4)… 246
第178図　P14-Aブロック出土遺物 …… 249
第179図　P14-Bブロック出土遺物分布(1)… 251
第180図　P14-Bブロック出土遺物分布(2)… 252
第181図　P14-Bブロック出土遺物分布(3)… 253
第182図　P14-Bブロック出土遺物 …… 255
第183図　R14-Aブロック出土遺物分布(1)… 257
第184図　R14-Aブロック出土遺物分布(2)… 258
第185図　R14-Aブロック出土遺物 …… 259
第186図　V13-Aブロック出土遺物分布(1)… 261
第187図　V13-Aブロック出土遺物分布(2)… 261
第188図　V13-Aブロック出土遺物 …… 262
第189図　V13-Bブロック出土遺物分布(1)… 264
第190図　V13-Bブロック出土遺物分布(2)… 265
第191図　V13-Bブロック出土遺物(1)…… 268
第192図　V13-Bブロック出土遺物(2)…… 269
第193図　V13-Bブロック出土遺物(3)…… 270
第194図　V13-Bブロック出土遺物(4)…… 271
第195図　V13-Cブロック出土遺物分布(1)… 273
第196図　V13-Cブロック出土遺物分布(2)… 274
第197図　V13-Cブロック出土遺物(1)…… 278
第198図　V13-Cブロック出土遺物(2)…… 279
第199図　V13-Eブロック出土遺物分布(1)… 281
第200図　V13-Eブロック出土遺物分布(2)… 282

第201図　V13-Eブロック出土遺物分布(3)…283
第202図　V13-Eブロック出土遺物……283
第203図　U14-Bブロック出土遺物分布(1)…285
第204図　U14-Bブロック出土遺物分布(2)…286
第205図　U14-Bブロック出土遺物……288
第206図　V17-Bブロック出土遺物分布(1)…290
第207図　V17-Bブロック出土遺物分布(2)…290
第208図　V17-Bブロック出土遺物分布(3)…291
第209図　V17-Bブロック出土遺物……291
第210図　V18-Aブロック出土遺物分布(1)…293
第211図　V18-Aブロック出土遺物分布(2)…294
第212図　V18-Aブロック出土遺物分布(3)…295
第213図　V18-Aブロック出土遺物(1)……297
第214図　V18-Aブロック出土遺物(2)……298
第215図　U20-Aブロック出土遺物分布(1)…300
第216図　U20-Aブロック出土遺物分布(2)…300
第217図　U20-Aブロック出土遺物……302
第218図　U21-Cブロック出土遺物分布(1)…303
第219図　U21-Cブロック出土遺物分布(2)…304
第220図　U21-Cブロック出土遺物分布(3)…305
第221図　U21-Cブロック出土遺物(1)……309
第222図　U21-Cブロック出土遺物(2)……310
第223図　U21-Cブロック出土遺物(3)……311
第224図　U21-Dブロック出土遺物分布(1)…313
第225図　U21-Dブロック出土遺物分布(2)…313
第226図　U21-Dブロック出土遺物分布(3)…313
第227図　U21-Dブロック出土遺物……313
第228図　U21-Eブロック出土遺物分布(1)…315
第229図　U21-Eブロック出土遺物分布(2)…316
第230図　U21-Eブロック出土遺物分布(3)…317
第231図　U21-Eブロック出土遺物(1)……320
第232図　U21-Eブロック出土遺物(2)……321
第233図　U21-Fブロック出土遺物分布(1)…322
第234図　U21-Fブロック出土遺物分布(2)…323
第235図　U21-Fブロック出土遺物分布(3)…324
第236図　U21-Fブロック出土遺物分布(4)…324
第237図　U21-Fブロック出土遺物分布(5)…325
第238図　U21-Fブロック出土遺物分布(6)…325
第239図　U21-Fブロック出土遺物……329
第240図　U21-Gブロック出土遺物分布(1)…330
第241図　U21-Gブロック出土遺物分布(2)…331
第242図　U21-Gブロック出土遺物分布(3)…332
第243図　U21-Gブロック出土遺物分布(4)…333
第244図　U21-Gブロック出土遺物分布(5)…334
第245図　U21-Gブロック出土遺物分布(6)…335
第246図　U21-Gブロック出土遺物(1)……338
第247図　U21-Gブロック出土遺物(2)……339
第248図　U21-Gブロック出土遺物(3)……340
第249図　U21-Gブロック出土遺物(4)……341
第250図　U21-Hブロック出土遺物分布……344
第251図　U21-Hブロック出土遺物……344
第252図　N21-Aブロック出土遺物分布(1)…346
第253図　N21-Aブロック出土遺物分布(2)…347
第254図　N21-Aブロック出土遺物分布(3)…348
第255図　N21-Aブロック出土遺物……350
第256図　N22-Aブロック出土遺物分布(1)…352
第257図　N22-Aブロック出土遺物分布(2)…353
第258図　N22-Aブロック出土遺物分布(3)…354
第259図　N22-Aブロック出土遺物分布(4)…355
第260図　N22-Aブロック出土遺物(1)……356
第261図　N22-Aブロック出土遺物(2)……357
第262図　N22-Aブロック出土遺物(3)……358
第263図　N22-Aブロック出土遺物(4)……359
第264図　R22-Aブロック出土遺物分布……361
第265図　R22-Bブロック出土遺物分布(1)…363
第266図　R22-Bブロック出土遺物分布(2)…364
第267図　R22-Bブロック出土遺物分布(3)…365
第268図　R22-Bブロック出土遺物(1)……368
第269図　R22-Bブロック出土遺物(2)……369
第270図　R22-Bブロック出土遺物(3)……370
第271図　R22-Bブロック出土遺物(4)……371
第272図　R22-Bブロック出土遺物(5)……372
第273図　S23-Aブロック出土遺物分布(1)…374
第274図　S23-Aブロック出土遺物分布(2)…375

第275図　S23-Aブロック出土遺物分布(3)…376
第276図　S23-Aブロック出土遺物分布(4)…376
第277図　S23-Aブロック出土遺物……377
第278図　R25-Aブロック出土遺物分布(1)…380
第279図　R25-Aブロック出土遺物分布(2)…381
第280図　R25-Aブロック出土遺物分布(3)…382
第281図　R25-Aブロック出土遺物……384
第282図　R25-Bブロック出土遺物分布(1)…386
第283図　R25-Bブロック出土遺物分布(2)…387
第284図　R25-Bブロック出土遺物分布(3)…388
第285図　R25-Bブロック出土遺物(1)……390
第286図　R25-Bブロック出土遺物(2)……391
第287図　R25-Bブロック出土遺物(3)……392
第288図　R25-Bブロック出土遺物(4)……393
第289図　R25-Bブロック出土遺物(5)……394
第290図　R25-Bブロック出土遺物(6)……395
第291図　R25-Cブロック出土遺物分布(1)…397
第292図　R25-Cブロック出土遺物分布(2)…397
第293図　R25-Cブロック出土遺物……398
第294図　R25-Dブロック出土遺物分布(1)…399
第295図　R25-Dブロック出土遺物分布(2)…400
第296図　R25-Dブロック出土遺物分布(3)…401
第297図　R25-Dブロック出土遺物(1)……409
第298図　R25-Dブロック出土遺物(2)……410
第299図　R25-Dブロック出土遺物(3)……411
第300図　R25-Dブロック出土遺物(4)……412
第301図　Q25-Aブロック出土遺物分布(1)…414
第302図　Q25-Aブロック出土遺物分布(2)…415
第303図　Q25-Aブロック出土遺物分布(3)…416
第304図　Q25-Aブロック出土遺物分布(4)…417
第305図　Q25-Aブロック出土遺物分布(5)…418
第306図　Q25-Aブロック出土遺物分布(6)…419
第307図　Q25-Aブロック出土遺物(1)……428
第308図　Q25-Aブロック出土遺物(2)……429
第309図　Q25-Aブロック出土遺物(3)……430
第310図　Q25-Aブロック出土遺物(4)……431
第311図　Q25-Aブロック出土遺物(5)……432
第312図　M25-Aブロック出土遺物分布……434
第313図　M25-A出土遺物……434
第314図　M25-Bブロック出土遺物分布……435
第315図　M25-Cブロック出土遺物分布……435
第316図　第4文化層ブロック外出土遺物分布…437
第317図　第4文化層ブロック外出土遺物……438

第5a文化層

第318図　L13-Aブロック出土遺物分布……440
第319図　L13-A出土遺物……441
第320図　T24-Aブロック出土遺物分布(1)…442
第321図　T24-Aブロック出土遺物分布(2)…442
第322図　T24-A出土遺物……444
第323図　S24-Aブロック出土遺物分布(1)…445
第324図　S24-Aブロック出土遺物分布(2)…446
第325図　S24-A出土遺物(1)……449
第326図　S24-Aブロック出土遺物(2)……450
第327図　S24-Cブロック出土遺物分布(1)…452
第328図　S24-Cブロック出土遺物分布(2)…453
第329図　S24-C出土遺物……454
第330図　S24-Eブロック出土遺物分布(1)…456
第331図　S24-Eブロック出土遺物分布(2)…457
第332図　S24-E出土遺物(1)……459
第333図　S24-Eブロック出土遺物(2)……460
第334図　S24-E出土遺物(3)……461
第335図　S25-Aブロック出土遺物分布(1)…462
第336図　S25-Aブロック出土遺物分布(2)…462
第337図　S25-A出土遺物……463
第338図　S25-Bブロック出土遺物分布(1)…464
第339図　S25-Bブロック出土遺物分布(2)…465
第340図　S25-B出土遺物分布(3)…465
第341図　S25-B出土遺物……466
第342図　S25-Cブロック出土遺物分布(1)…469
第343図　S25-Cブロック出土遺物分布(2)…469
第344図　S25-C出土遺物……470
第345図　S25-Dブロック出土遺物分布……470
第346図　S25-Jブロック出土遺物分布(1)…472

第347図　S25-Jブロック出土遺物分布(2)…472
第348図　S25-Jブロック出土遺物……474
第349図　S26-Aブロック出土遺物分布(1)…476
第350図　S26-Aブロック出土遺物分布(2)…477
第351図　S26-Aブロック出土遺物分布(3)…477
第352図　S26-Aブロック出土遺物……479
第353図　S26-Bブロック出土遺物分布(1)…481
第354図　S26-Bブロック出土遺物分布(2)…482
第355図　S26-Bブロック出土遺物分布(3)…483
第356図　S26-Bブロック出土遺物……485
第357図　S26-Dブロック出土遺物分布(1)…486
第358図　S26-Dブロック出土遺物分布(2)…486
第359図　S26-Dブロック出土遺物……487
第360図　第5a文化層ブロック外出土遺物……488
第361図　第5a文化層ブロック外出土遺物分布…489

第5b文化層

第362図　U14-Aブロック出土遺物分布(1)…491
第363図　U14-Aブロック出土遺物分布(2)…492
第364図　U14-Aブロック出土遺物分布(3)…493
第365図　U14-Aブロック出土遺物(1)……497
第366図　U14-Aブロック出土遺物(2)……498
第367図　S24-Bブロック出土遺物分布……501
第368図　S24-Bブロック出土遺物……502
第369図　S24-Dブロック出土遺物分布(1)…504
第370図　S24-Dブロック出土遺物分布(2)…505
第371図　S24-Dブロック出土遺物分布(3)…506
第372図　S24-Dブロック出土遺物(1)……508
第373図　S24-Dブロック出土遺物(2)……509
第374図　S25-Fブロック出土遺物分布……510
第375図　S25-Fブロック出土遺物……511
第376図　S25-Gブロック出土遺物分布(1)…513
第377図　S25-Gブロック出土遺物分布(2)…513
第378図　S25-Gブロック出土遺物……514
第379図　第5b文化層ブロック外出土遺物分布…515
第380図　第5b文化層ブロック外出土遺物……515

第6文化層

第381図　M13-Aブロック出土遺物分布(1)…517
第382図　M13-Aブロック出土遺物分布(2)…518
第383図　M13-Aブロック出土遺物分布(3)…519
第384図　M13-Aブロック出土遺物(1)……524
第385図　M13-Aブロック出土遺物(2)……525
第386図　M13-Aブロック出土遺物(3)……526
第387図　M13-Aブロック出土遺物(4)……527
第388図　S25-Eブロック出土遺物分布(1)…528
第389図　S25-Eブロック出土遺物分布(2)…528
第390図　S25-Eブロック出土遺物……529
第391図　S25-Iブロック出土遺物分布(1)…530
第392図　S25-Iブロック出土遺物分布(2)…530
第393図　S25-Iブロック出土遺物……532
第394図　第6文化層ブロック外出土遺物分布…533
第395図　第6文化層ブロック外出土遺物……533

時期不明

第396図　時期不明出土遺物……534

まとめ

第397図　ブロック別垂直分布グラフ（1）……538
第398図　ブロック別垂直分布グラフ（2）……539
第399図　ブロック別垂直分布グラフ（3）……540
第400図　ブロック別垂直分布グラフ（4）……541
第401図　ブロック別垂直分布グラフ（5）……542
第402図　ブロック別垂直分布グラフ（6）……543
第403図　ブロック別垂直分布グラフ（7）……544

（第2分冊）

川焼台遺跡

第404図　川焼台遺跡調査概要……546
第405図　基本土層及びグリッド別土層断面……548
第406図　川焼台遺跡文化層別出土遺物
分布状況……550

第１文化層
第407図　第１文化層出土遺物分布(１)……551
第408図　第１文化層出土遺物分布(２)……552
第409図　第１文化層出土遺物分布(３)……553
第410図　第１文化層出土遺物（１）……581
第411図　第１文化層出土遺物（２）……583
第412図　第１文化層出土遺物（３）……584
第413図　第１文化層出土遺物（４）……585
第414図　第１文化層出土遺物（５）……586
第415図　第１文化層出土遺物（６）……587
第416図　第１文化層出土遺物（７）……588
第417図　第１文化層出土遺物（８）……589
第418図　第１文化層出土遺物（９）……591
第419図　第１文化層出土遺物（10）……592
第420図　第１文化層出土遺物（11）……593
第421図　第１文化層出土遺物（12）……594
第422図　第１文化層出土遺物（13）……596
第423図　第１文化層出土遺物（14）……597
第424図　第１文化層出土遺物（15）……598
第425図　第１文化層出土遺物（16）……599
第426図　第１文化層出土遺物（17）……600
第２文化層
第427図　第２文化層出土遺物分布(１)……602
第428図　第２文化層出土遺物分布(２)……602
第429図　第２文化層出土遺物分布(３)……603
第430図　第２文化層出土遺物（１）……613
第431図　第２文化層出土遺物（２）……614
第432図　第２文化層出土遺物（３）……615
第433図　第２文化層出土遺物（４）……616
第434図　第２文化層出土遺物（５）……617
第435図　第２文化層出土遺物（６）……618
第436図　第２文化層出土遺物（７）……619
第３文化層・第４文化層・時期不明
第437図　第３文化層出土遺物……620
第438図　第４文化層出土遺物……621
第439図　時期不明出土遺物（１）……623
第440図　時期不明出土遺物（２）……625
第441図　時期不明出土遺物（３）……626
第442図　時期不明出土遺物（４）……627

表　目　次

（第１分冊）

押沼第２遺跡
第１文化層
第１表　S15-Aブロック母岩別石器組成……14
第２表　S15-Aブロック石材別石器組成……14
第３表　V16-Aブロック母岩別石器組成……21
第４表　V16-Aブロック石材別石器組成……23
第５表　V16-Aブロック礫組成……23
第６表　V17-Aブロック母岩別石器組成……50
第７表　V17-Aブロック石材別石器組成……50
第８表　V17-Aブロック礫組成……50
第９表　N18-Dブロック母岩別石器組成……52
第10表　N18-Dブロック石材別石器組成……52
第２文化層
第11表　S24-Fブロック母岩別石器組成……54
第12表　S24-Fブロック石材別石器組成……54
第13表　R24-Aブロック母岩別石器組成……57
第14表　R24-Aブロック石材別石器組成……57
第15表　Q25-Bブロック母岩別石器組成……59
第16表　Q25-Bブロック石材別石器組成……59
第17表　S25-Kブロック母岩別石器組成……63
第18表　S25-Kブロック石材別石器組成……63
第19表　S26-Eブロック母岩別石器組成……68
第20表　S26-Eブロック石材別石器組成……70
第21表　S26-Eブロック礫組成……70
第22表　S26-Fブロック母岩別石器組成……72
第23表　S26-Fブロック石材別石器組成……72

第３文化層

第24表　M13-Bブロック母岩別石器組成 …… 75
第25表　M13-Bブロック石材別石器組成 …… 75
第26表　K15-Aブロック母岩別石器組成 …… 76
第27表　K15-Aブロック石材別石器組成 …… 76
第28表　K15-Aブロック礫組成 …… 76
第29表　S14-Aブロック母岩別石器組成 …… 79
第30表　S14-Aブロック石材別石器組成 …… 79
第31表　V18-Bブロック母岩別石器組成 …… 79
第32表　V18-Bブロック石材別石器組成 …… 79
第33表　N17-Aブロック母岩別石器組成 …… 84
第34表　N17-Aブロック石材別石器組成 …… 85
第35表　N17-Aブロック礫組成 …… 85
第36表　N17-Bブロック母岩別石器組成……101
第37表　N17-Bブロック石材別石器組成……101
第38表　M18-Aブロック母岩別石器組成……110
第39表　M18-Aブロック石材別石器組成……110
第40表　N18-Aブロック母岩別石器組成……113
第41表　N18-Aブロック石材別石器組成……113
第42表　N18-Bブロック母岩別石器組成……117
第43表　N18-Bブロック石材別石器組成……117
第44表　N18-Cブロック母岩別石器組成……118
第45表　N18-Cブロック石材別石器組成……118
第46表　N18-Eブロック母岩別石器組成……121
第47表　N18-Eブロック石材別石器組成……121
第48表　N18-Fブロック母岩別石器組成……121
第49表　N18-Fブロック石材別石器組成……121
第50表　N18-Gブロック母岩別石器組成……132
第51表　N18-Gブロック石材別石器組成……132
第52表　N18-Gブロック礫組成……132
第53表　N18-Hブロック母岩別石器組成……139
第54表　N18-Hブロック石材別石器組成……140
第55表　N18-Hブロック礫組成……140
第56表　N19-Aブロック母岩別石器組成……155
第57表　N19-Aブロック石材別石器組成……156
第58表　N19-Bブロック母岩別石器組成……168
第59表　N19-Bブロック石材別石器組成……169
第60表　M20-Aブロック母岩別石器組成……171
第61表　M20-Aブロック石材別石器組成……171
第62表　Q20-Aブロック母岩別石器組成……173
第63表　Q20-Aブロック石材別石器組成……173
第64表　S20-Aブロック母岩別石器組成……186
第65表　S20-Aブロック石材別石器組成……186
第66表　S20-Bブロック母岩別石器組成……189
第67表　S20-Bブロック石材別石器組成……190
第68表　S20-Bブロック礫組成……190
第69表　T20-Aブロック母岩別石器組成……204
第70表　T20-Aブロック石材別石器組成……204
第71表　T20-Aブロック礫組成……204
第72表　U20-Bブロック母岩別石器組成……215
第73表　U20-Bブロック石材別石器組成……215
第74表　U20-Bブロック礫組成……215
第75表　U20-Cブロック母岩別石器組成……218
第76表　U20-Cブロック石材別石器組成……218
第77表　U21-Aブロック母岩別石器組成……221
第78表　U21-Aブロック石材別石器組成……221
第79表　U21-Aブロック礫組成……221
第80表　U21-Bブロック母岩別石器組成……226
第81表　U21-Bブロック石材別石器組成……226
第82表　S26-Cブロック母岩別石器組成……228
第83表　S26-Cブロック石材別石器組成……228

第４文化層

第84表　J13-Aブロック母岩別石器組成……236
第85表　J13-Aブロック石材別石器組成……236
第86表　M16-Aブロック母岩別石器組成……239
第87表　M16-Aブロック石材別石器組成……239
第88表　M16-Aブロック礫組成……239
第89表　M16-Bブロック母岩別石器組成……240
第90表　M16-Bブロック石材別石器組成……240
第91表　M16-Bブロック礫組成……240
第92表　M16-Cブロック礫組成……243
第93表　P14-Aブロック母岩別石器組成……247
第94表　P14-Aブロック石材別石器組成……247

第 95 表　P14-Aブロック礫組成 …… 250
第 96 表　P14-Bブロック母岩別石器組成 …… 254
第 97 表　P14-Bブロック石材別石器組成 …… 254
第 98 表　P14-Bブロック礫組成 …… 254
第 99 表　R14-Aブロック母岩別石器組成 …… 260
第100表　R14-Aブロック石材別石器組成 …… 260
第101表　R14-Aブロック礫組成 …… 260
第102表　V13-Aブロック母岩別石器組成 …… 263
第103表　V13-Aブロック石材別石器組成 …… 263
第104表　V13-Aブロック礫組成 …… 263
第105表　V13-Bブロック母岩別石器組成 …… 266
第106表　V13-Bブロック石材別石器組成 …… 266
第107表　V13-Bブロック礫組成 …… 266
第108表　V13-Cブロック母岩別石器組成 …… 277
第109表　V13-Cブロック石材別石器組成 …… 280
第110表　V13-Cブロック礫組成 …… 280
第111表　V13-Eブロック母岩別石器組成 …… 284
第112表　V13-Eブロック石材別石器組成 …… 284
第113表　V13-Eブロック礫組成 …… 284
第114表　U14-Bブロック母岩別石器組成 …… 287
第115表　U14-Bブロック石材別石器組成 …… 287
第116表　U14-Bブロック礫組成 …… 287
第117表　V17-Bブロック母岩別石器組成 …… 289
第118表　V17-Bブロック石材別石器組成 …… 289
第119表　V17-Bブロック礫組成 …… 289
第120表　V18-Aブロック母岩別石器組成 …… 299
第121表　V18-Aブロック石材別石器組成 …… 299
第122表　V18-Aブロック礫組成 …… 299
第123表　U20-Aブロック母岩別石器組成 …… 301
第124表　U20-Aブロック石材別石器組成 …… 301
第125表　U20-Aブロック礫組成 …… 301
第126表　U21-Cブロック母岩別石器組成 …… 306
第127表　U21-Cブロック石材別石器組成 …… 306
第128表　U21-Cブロック礫組成 …… 306
第129表　U21-Dブロック母岩別石器組成 …… 312
第130表　U21-Dブロック石材別石器組成 …… 312
第131表　U21-Dブロック礫組成 …… 314
第132表　U21-Eブロック母岩別石器組成 …… 319
第133表　U21-Eブロック石材別石器組成 …… 319
第134表　U21-Eブロック礫組成 …… 319
第135表　U21-Fブロック母岩別石器組成 …… 326
第136表　U21-Fブロック石材別石器組成 …… 326
第137表　U21-Fブロック礫組成 …… 327
第138表　U21-Gブロック母岩別石器組成 …… 342
第139表　U21-Gブロック石材別石器組成 …… 342
第140表　U21-Gブロック礫組成 …… 343
第141表　U21-Hブロック母岩別石器組成 …… 345
第142表　U21-Hブロック石材別石器組成 …… 345
第143表　U21-Hブロック礫組成 …… 345
第144表　N21-Aブロック母岩別石器組成 …… 348
第145表　N21-Aブロック石材別石器組成 …… 348
第146表　N21-Aブロック礫組成 …… 349
第147表　N22-Aブロック母岩別石器組成 …… 359
第148表　N22-Aブロック石材別石器組成 …… 360
第149表　N22-Aブロック礫組成 …… 360
第150表　R22-Aブロック母岩別石器組成 …… 361
第151表　R22-Aブロック石材別石器組成 …… 361
第152表　R22-Aブロック礫組成 …… 361
第153表　R22-Bブロック母岩別石器組成 …… 367
第154表　R22-Bブロック石材別石器組成 …… 367
第155表　R22-Bブロック礫組成 …… 373
第156表　S23-Aブロック母岩別石器組成 …… 378
第157表　S23-Aブロック石材別石器組成 …… 378
第158表　S23-Aブロック礫組成 …… 378
第159表　R25-Aブロック母岩別石器組成 …… 383
第160表　R25-Aブロック石材別石器組成 …… 383
第161表　R25-Aブロック礫組成 …… 385
第162表　R25-Bブロック母岩別石器組成 …… 396
第163表　R25-Bブロック石材別石器組成 …… 396
第164表　R25-Bブロック礫組成 …… 396
第165表　R25-Cブロック母岩別石器組成 …… 397
第166表　R25-Cブロック石材別石器組成 …… 397
第167表　R25-Cブロック礫組成 …… 398
第168表　R25-Dブロック母岩別石器組成 …… 402

第169表　R25-Dブロック石材別石器組成 …… 403
第170表　R25-Dブロック礫組成 …… 403
第171表　Q25-Aブロック母岩別石器組成 …… 420
第172表　Q25-Aブロック石材別石器組成 …… 421
第173表　Q25-Aブロック礫組成 …… 422
第174表　M25-Aブロック母岩別石器組成 …… 433
第175表　M25-Aブロック石材別石器組成 …… 433
第176表　M25-Bブロック礫組成 …… 435
第177表　M25-Cブロック礫組成 …… 435

第５a文化層

第178表　L13-Aブロック母岩別石器組成 …… 439
第179表　L13-Aブロック石材別石器組成 …… 439
第180表　T24-Aブロック母岩別石器組成 …… 443
第181表　T24-Aブロック石材別石器組成 …… 443
第182表　T24-Aブロック礫組成 …… 443
第183表　S24-Aブロック母岩別石器組成 …… 451
第184表　S24-Aブロック石材別石器組成 …… 451
第185表　S24-Aブロック礫組成 …… 451
第186表　S24-Cブロック母岩別石器組成 …… 453
第187表　S24-Cブロック石材別石器組成 …… 453
第188表　S24-Cブロック礫組成 …… 453
第189表　S24-Eブロック母岩別石器組成 …… 455
第190表　S24-Eブロック石材別石器組成 …… 462
第191表　S24-Eブロック礫組成 …… 462
第192表　S25-Aブロック母岩別石器組成 …… 463
第193表　S25-Aブロック石材別石器組成 …… 463
第194表　S25-Aブロック礫組成 …… 463
第195表　S25-Bブロック母岩別石器組成 …… 467
第196表　S25-Bブロック石材別石器組成 …… 467
第197表　S25-Bブロック礫組成 …… 467
第198表　S25-Cブロック母岩別石器組成 …… 468
第199表　S25-Cブロック石材別石器組成 …… 468
第200表　S25-Cブロック礫組成 …… 468
第201表　S25-Dブロック母岩別石器組成 …… 471
第202表　S25-Dブロック石材別石器組成 …… 471
第203表　S25-Dブロック礫組成 …… 471
第204表　S25-Jブロック母岩別石器組成 …… 475
第205表　S25-Jブロック石材別石器組成 …… 475
第206表　S26-Aブロック母岩別石器組成 …… 480
第207表　S26-Aブロック石材別石器組成 …… 480
第208表　S26-Aブロック礫組成 …… 480
第209表　S26-Bブロック母岩別石器組成 …… 484
第210表　S26-Bブロック石材別石器組成 …… 484
第211表　S26-Bブロック礫組成 …… 485
第212表　S26-Dブロック母岩別石器組成 …… 487
第213表　S26-Dブロック石材別石器組成 …… 487
第214表　S26-Dブロック礫組成 …… 488

第５b文化層

第215表　U14-Aブロック母岩別石器組成 …… 499
第216表　U14-Aブロック石材別石器組成 …… 500
第217表　U14-Aブロック礫組成 …… 500
第218表　S24-Bブロック母岩別石器組成 …… 502
第219表　S24-Bブロック石材別石器組成 …… 502
第220表　S24-Dブロック母岩別石器組成 …… 507
第221表　S24-Dブロック石材別石器組成 …… 507
第222表　S24-Dブロック礫組成 …… 510
第223表　S25-Fブロック母岩別石器組成 …… 512
第224表　S25-Fブロック石材別石器組成 …… 512
第225表　S25-Fブロック礫組成 …… 512
第226表　S25-Gブロック母岩別石器組成 …… 514
第227表　S25-Gブロック石材別石器組成 …… 514
第228表　S25-Gブロック礫組成 …… 514

第６文化層

第229表　M13-Aブロック母岩別石器組成 …… 520
第230表　M13-Aブロック石材別石器組成 …… 521
第231表　M13-Aブロック礫組成 …… 521
第232表　M13-Aブロック遺物属性(フルイ分) 522
第233表　S25-Eブロック母岩別石器組成 …… 529
第234表　S25-Eブロック石材別石器組成 …… 529
第235表　S25-Iブロック母岩別石器組成 …… 531
第236表　S25-Iブロック石材別石器組成 …… 531

（第２分冊）
川焼台遺跡
第１文化層
第237表　第１文化層グリッド別器種組成……554
第238表　第１文化層グリッド別石材組成……555
第239表　第１文化層母岩別石器組成……556
第240表　第１文化層石材別石器組成……560
第241表　第１文化層グリッド別礫石材組成……561
第242表　第１文化層母岩別礫組成……562
第243表　第１文化層石材別礫母岩復元率……562
第２文化層
第244表　第２文化層グリッド別器種組成……601
第245表　第２文化層グリッド別石材組成……601
第246表　第２文化層母岩別石器組成……604
第247表　第２文化層石材別石器組成……605
第248表　第２文化層グリッド別礫石材組成……605
第249表　第２文化層母岩別礫組成……606
第250表　第２文化層石材別礫母岩復元率……607
第３文化層
第251表　第３文化層遺物属性……621
第４文化層
第252表　第４文化層遺物属性……621
時期不明
第253表　時期不明遺物属性……628

図版目次

（第２分冊）
押沼第２遺跡
図版１　押沼第２遺跡周辺航空写真
（約1:10,000　昭和42年撮影）
図版２　遺物出土状況
図版３　土層断面
図版４　第１文化層遺物出土状況，
第２文化層遺物出土状況１
図版５　第２文化層遺物出土状況２，
第３文化層遺物出土状況１
図版６　第３文化層遺物出土状況２
図版７　第３文化層遺物出土状況３
図版８　第３文化層遺物出土状況４，
第４文化層遺物出土状況１
図版９　第４文化層遺物出土状況２
図版10　第４文化層遺物出土状況３
図版11　第４文化層遺物出土状況４
図版12　第４文化層遺物出土状況５，
第５a文化層遺物出土状況１
図版13　第５a文化層遺物出土状況２，
第５b文化層遺物出土状況１
図版14　第５b文化層遺物出土状況２，
第６文化層遺物出土状況

（第２分冊）
川焼台遺跡
図版15　川焼台遺跡周辺航空写真
（約1:10,000　昭和45年撮影）
図版16　土層断面，第１文化層遺物出土状況１
図版17　第１文化層遺物出土状況２
図版18　第１文化層遺物出土状況３
図版19　第１文化層遺物出土状況４，
第１・２文化層遺物出土状況１
図版20　第１・２文化層遺物出土状況２，
第２文化層遺物出土状況

カラー図版目次

（第２分冊）

押沼第２遺跡

1．第１文化層出土遺物１
2．第１文化層出土遺物２，第２文化層出土遺物
3．第３文化層出土遺物１
4．第３文化層出土遺物２
5．第３文化層出土遺物３
6．第３文化層出土遺物４
7．第３文化層出土遺物５
8．第３文化層出土遺物６
9．第３文化層出土遺物７
10．第３文化層出土遺物８，第４文化層出土遺物１
11．第４文化層出土遺物２
12．第４文化層出土遺物３
13．第４文化層出土遺物４
14．第４文化層出土遺物５
15．第４文化層出土遺物６
16．第４文化層出土遺物７，第５a文化層出土遺物１
17．第５a文化層出土遺物２，第５b文化層出土遺物１
18．第５b文化層出土遺物２，第６文化層出土遺物，時期不明出土遺物
19．接合資料１
20．接合資料２
21．接合資料３
22．接合資料４
23．接合資料５
24．接合資料６

（第２分冊）

川焼台遺跡

25．第１文化層出土遺物１
26．第１文化層出土遺物２
27．第１文化層出土遺物３，第２文化層出土遺物１
28．第２文化層出土遺物２，第３文化層出土遺物，第４文化層出土遺物，時期不明出土遺物
29．接合資料

第1章　は　じ　め　に

第1節　調査の概要

1　発掘調査の経緯

市原市と千葉市にまたがる台地上に，住宅・都市整備公団（現独立行政法人都市再生機構）による千原台地区土地区画整理事業が計画された。このため，千葉県教育委員会は，事業地内の用地内の埋蔵文化財の取扱いについて関係諸機関と協議した結果，現状保存が困難な部分については，やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなり，記録保存については，財団法人千葉県教育振興財団が委託を受けて発掘調査を実施することとなった。

今回報告する押沼第２遺跡の調査は，昭和62年度から平成９年度まで断続的に行われた。また，押沼第２遺跡（上層），押沼大六天遺跡（上層・下層），押沼第１遺跡（上層・下層）については，すでに報告書を刊行している。

本書は押沼第２遺跡から出土した旧石器時代（下層調査）を対象としたもので，発掘調査及び整理事業に関わる各年度の実施内容・担当者は以下のとおりである。

昭和60年度

組　織　調査部長　鈴木道之助，班長　阪田正一

担当者　押沼第２遺跡　調査研究員　川島利道・金子　進

内　容　押沼第２遺跡　下層調査対象面積　3,000㎡

昭和62年度

組　織　調査部長　堀部昭夫，班長　阪田正一

担当者　押沼第２遺跡　班長代理　西川博孝

内　容　押沼第２遺跡　下層調査対象面積　8,000㎡

平成元年度

組　織　調査部長　堀部昭夫，班長　大原正義

担当者　押沼第２遺跡　技師　小林信一・島立　桂

内　容　押沼第２遺跡　下層調査対象面積　80,000㎡

平成７年度

組　織　調査研究部長　西山太郎，所長　矢戸三男

担当者　押沼第２遺跡　主任技師　新田浩三・波邊高弘，技師　四柳　隆・吉野健一・永塚俊司

内　容　押沼第２遺跡　下層調査対象面積　35,800㎡

平成８年度

組　織　調査部長　西山太郎，所長　藤崎芳樹

担当者　押沼第２遺跡　主任技師　井上哲朗

担当者　押沼第２遺跡（地区外）　主任技師　酒井　宏

内　容　押沼第２遺跡　下層調査対象面積　2,586㎡

内　容　押沼第２遺跡（地区外）　下層調査対象面積　3,060㎡

平成９年度
　組　織　調査部長　西山太郎，所長　藤崎芳樹
　担当者　主任技師　岩谷久美子
　内　容　下層調査対象面積　360㎡
平成16年度
　組　織　調査部長　矢戸三男，所長　谷　旬
　担当者　上席研究員　田島　新
　内　容　水洗・注記から接合まで
平成18年度
　重点遺跡整理促進事業
　組　織　調査研究部長　矢戸三男，課長　郷田良一
　担当者　上席研究員　新田浩三・四柳　隆，整理技術員　山岡磨由子
　内　容　実測・トレースまで
平成19年度
　組　織　調査研究部長　矢戸三男，所長　折原　繁
　担当者　上席研究員　田島　新
　内　容　素図作成から原稿の作成の一部まで
平成20年度
　組　織　調査研究部長　大原正義，所長　折原　繁
　担当者　上席研究員　田島　新
　内　容　原稿の作成の一部から編集まで
平成21年度
　組　織　調査研究部長　及川淳一，所長　折原　繁
　内　容　報告書刊行

２　調査の方法

発掘区の設定は，国家座標を基準として40m×40mの大グリッドを設け，この中を４m×４mの小グリッドに分割して行った。また，下層確認調査は，小グリッドをさらに４分割して２m×２mのグリッドを設定し，調査対象面積の４％を基本に，武蔵野ローム層上面まで掘り下げた。出土遺物は，４m×４mの小グリッドごとに１点ずつ取り上げた。

第２節　遺跡の位置と環境

１　遺跡の位置と地形

押沼第２遺跡は，ちはら台ニュータウン造成地域の北東端，市原市ちはら台東７丁目11番地（旧押沼字高堀901-1）ほかに所在し，村田川中流域北岸の茂呂支谷が樹枝状に入り組んだ最奥部の台地に位置する。千葉市街地からは東南へ12km，下総台地南部を西に向かって流れる村田川の河口からは７kmほど上流の右岸台地上で，現河川からは１kmほど離れている。西側と南側は，茂呂支谷に接しており，標高は，40m～

50mの下総台地上位面である。

2　押沼第２遺跡と周辺の遺跡（第１図・図版１）

押沼第２遺跡からは，旧石器時代から奈良・平安時代にかけての各種遺構が検出された。主な遺構としては，旧石器時代各時期の石器ブロック，縄文時代早期の陥穴や炉穴，奈良・平安時代の集落と製鉄関連遺構などである。

押沼第２遺跡を含む押沼遺跡群（１～３）は，ちはら台地区北東部端にあたり，村田川に沿って分布する旧石器時代の遺跡としては，草刈遺跡などとともに最も下流に位置する（第１図１）。ちはら台ニュータウン事業地内において旧石器時代石器群が出土した遺跡を，村田川を遡りながらあげてみると草刈遺跡（４），草刈六之台遺跡（５），中永谷遺跡（６），川焼台遺跡（７），鵜牧遺跡（８），鵜牧古墳群（９），ナキノ台遺跡（10），ばあ山遺跡（11），野馬堀遺跡（12）が並ぶ。押沼遺跡群は，これらの遺跡のさらに奥に位置している。

押沼大六天遺跡では，立川ローム層Ⅸ層からⅢ層にかけて，帰属時期不明の文化層を含め，５枚の文化層が確認され，Ⅸ層上部からⅨ層下部とⅣ層下部で多くのブロックが検出されている。第１文化層は，Ⅸa層からⅨc層にかけて出土した石器群で，最も多くのブロックが検出されており，大規模なブロック群が２か所ある。凝灰岩，北関東産頁岩，瑪瑙・玉髄，安山岩などの石材による石刃石器群や横岡産珪質頁岩，流紋岩，安山岩などの石材による剥片主体の石器群などがあり，両者とも石斧が伴っている。この文化層は出土層位の差などから２～３時期に細分される可能性がある。第２文化層は，ハードローム層最上部を中心として出土した石器群で，武蔵野台地におけるⅣ層下部の石器群に対応するものと考えられる。ブロックによる石器組成や石材組成の差が顕著で，高原山産黒曜石，北関東産頁岩，上総丘陵砂礫層の石材などによる石器類を主体とするブロックと焼け礫を主体として少量の石器をもつブロックがある。第３文化層は，ソフトローム層から出土した石刃石器群で，武蔵野台地におけるⅣ層上部の「砂川期」の石器群に対応するものと考えられる。第４文化層はソフトローム層から出土した槍先形石器を伴う旧石器時代終末期の石器群である。この文化層は石器群の内容の差などから２時期に細分される可能性がある。

押沼第１遺跡では，立川ローム層第２黒色帯下部から立川ローム層最上部及びⅡ層にかけて，帰属時期不明の文化層を含め，６枚の文化層が確認され，立川ローム層第２黒色帯上半部とその周辺（Ⅶ層～Ⅵ層）で，最も多くのブロックが検出されている。第１文化層は，立川ローム層第２黒色帯下半部（Ⅸ層上部～下部）の石器群であるが，安山岩，流紋岩，黒色頁岩などの石材による石刃石器群や石斧を伴う石器群などがある。この文化層は出土層位に幅があり，石器群の内容も多様であることから，本来は２～３時期に細分される可能性がある。第２文化層は，立川ローム層第２黒色帯上半部とその周辺（Ⅶ層～Ⅵ層）を中心として出土した石器群で，武蔵野台地のⅥ層の石器群に相当すると考えられる。最も多くのブロック及び石器が発見された文化層である。信州産の良質な黒曜石を主体として，東北産頁岩，東関東～房総半島産各種石材が複合する中・小型石刃石器群が検出されている。なお，本文化層は武蔵野台地のⅥ層石器群に相当するものとされようが，Ⅴ層下部～Ⅵ層上部出土の信州産の良質な黒曜石あるいは高原山産黒曜石による石器群やⅦ層上部出土の珪化度の高い頁岩類による石器群などと併せて，いわゆるＡＴ降灰前後の石器群の詳細な再検討が必要とされている。第３文化層は，立川ローム層のハードローム層最上部（Ⅳ層）からソフトローム層下部（Ⅲ層）にかけて出土した石器群で，武蔵野台地における立川ローム層Ⅳ層下部

から出土する石器群に対応すると考えられる。第４文化層は，立川ローム層のソフトローム層（Ⅲ層）を中心に出土した石器群で，武蔵野台地における立川ローム層Ⅳ層上部から出土する砂川期の石器群に概ね対応すると考えられる。第５文化層は，Ⅱ層から立川ローム層のソフトローム層最上部（Ⅲ層）にかけて出土した細石刃石器群で，野岳－休場型の細石刃核などが出土している。

草刈遺跡では，武蔵野ローム層Ⅺ層から立川ローム層Ⅲ層にかけて７枚の文化層が確認された。第１文化層は，武蔵野ローム層Ⅺ層から立川ローム層Ⅹ層最下部にかけて出土した県内最古の石器群である。第２文化層は，Ⅹ層から出土した石器群で，嶺岡産珪質頁岩の台形石器や楔形石器などに石斧が伴っている。第３文化層は，Ⅸ層下部から出土した石器群で，嶺岡産珪質頁岩の台形石器に石斧が伴う。第４文化層は，Ⅶ層からⅨ層上部にかけて出土した石器群で，最も多くのブロックが検出されている。房総半島南部産の石材による不定型な剥片石器群を主体とし，これに遠隔地石材による石刃石器群が搬入品として存在する。この文化層は出土層位の差などから２～３時期に細分される可能性が指摘されている。第５文化層は，Ⅵ層からⅦ層上部にかけて出土した石器群で，３種類のブロックが存在する。①東北産頁岩による石刃石器群，②東北産と推定される頁岩と信州産黒曜石による小型の石刃石器群及び不定型な剥片石器群，③房総半島南部産と推定される石材による不定型な剥片石器群である。これらは，概ね同時期に帰属すると考えられている。第６文化層はハードローム層最上部からソフトローム層下部にかけて出土した石器群で，武蔵野台地におけるⅣ層下部の石器群に対応するものと考えられている。信州産黒曜石，房総半島南部産の石材，上総丘陵砂礫層の石材などによるナイフ形石器や角錐状石器などの石器類を主体とするブロックと焼け礫を主体として少量の石器をもつブロックがある。第７文化層はソフトローム層から出土した槍先形石器を指標とする石器群などが出土しており，特異な剥片剥離技術を伴っている。また，３時期の時間差が想定されている。

草刈六之台遺跡では，立川ローム層Ⅹ層からⅢ層にかけて７枚の文化層が確認されたが，Ⅵ層以下の資料が充実している。とくにⅩ層，Ⅸ層下部，Ⅸ層上部で確認した３枚の文化層からは，それぞれ刃部磨製石斧を含む石器群が出土している。Ⅸ層下部では神津島産黒曜石による大型の台形石器，Ⅸ層上部では信州産黒曜石を主体とする石刃石器群に刃部磨製石斧とともに石斧用の砥石が伴っており，草刈遺跡との関係が想定される。

中永谷遺跡では，立川ローム層Ⅶ層とⅣ層下部の資料が中心である。野馬堀遺跡ではⅩ層，Ⅳ層，Ⅲ層から剥片類が，ばあ山遺跡では石刃，槍先形石器が出土している。

ナキノ台遺跡では，立川ローム層第２黒色帯（Ⅶ層～Ⅸ層）を中心に多量の石斧を伴う石器群が出土している。また，立川ローム層ソフトローム層（Ⅲ層下部）からハードローム層上層（Ⅳ・Ⅴ層）にかけて多量の焼礫を伴うⅣ層下部の石器群及び同層から人為的に掘り込まれた遺構として積極的に扱うことには難点があるように思われるが，住居跡の可能性もあると考えられている竪穴状遺構が発見されている。

草刈遺跡の北側では，東南部ニュータウン事業地内を中心に旧石器時代の石器群が確認されている。大規模な遺跡は少ないが，一地域全体の様子を窺うことのできる貴重な資料である。以下，出土層位ごとに概観する。

Ⅹ層の資料ははっきりしないが，高沢遺跡（42）ではⅨ層下部からⅩ層上部で楔形石器，刃部磨製石斧に関係すると考えられる剥片を利用した加工痕ある剥片，小型の剥片類による小規模なブロックが検出されている。石材は半数が良質の黒曜石（信州産か）で，このほか玉髄，凝灰岩，頁岩がある。Ⅸ層の資料

1 **押沼第２遺跡**　2 押沼第１遺跡　3 押沼大六天遺跡　4 草刈遺跡　5 草刈六之台遺跡　6 中永谷遺跡
7 **川焼台遺跡**　8 鵜牧遺跡　9 鵜牧古墳群　10 ナキノ台遺跡　11 ぱあ山遺跡　12 野馬堀遺跡　13 パクチ穴遺跡
14 大勝野南貝塚　15 太田法師遺跡　16 ムコアラク遺跡　17 六通金山遺跡　18 六通神社南遺跡　19 白鳥台遺跡
20 御塚台遺跡　21 小金沢古墳群　22 小金沢貝塚　23 六通貝塚　24 六通遺跡　25 神明社墓遺跡　26 春日作遺跡
27 椎名崎古墳群Ｃ支群　28 椎名崎古墳群Ｂ支群　29 今台遺跡　30 椎名神社遺跡　31 椎名崎遺跡　32 木戸作遺跡
33 城ノ台遺跡　34 馬ノロ遺跡　35 有吉南貝塚　36 有吉北貝塚　37 有吉城跡　38 有吉南遺跡　39 鎌取遺跡
40 鎌取場台遺跡　41 南二重堀遺跡　42 高沢遺跡　43 有吉遺跡　44 上赤塚遺跡　45 辺田山谷遺跡　46 コロニー内遺跡　47 大既遺跡

第１図　押沼第２遺跡・川焼台遺跡周辺の旧石器時代遺跡（1:25,000）

は多くの遺跡で出土している。白鳥台遺跡（19）では安山岩製の楔形石器，剥片類に軟質砂岩による石斧用の砥石が伴っている。城ノ台遺跡（33）でも安山岩製の楔形石器を中心とする石器群が出土している。環状ブロック群の一部かも知れない。鎌取遺跡（39）では安山岩による台形石器を主体とする環状ブロック群と考えられる石器群と頁岩製による中規模な石刃石器群が地点を違えて出土している。小金沢貝塚(22)，馬ノ口遺跡（34）でも台形石器を含む石器群がある。有吉城跡（37）では石斧が数点出土しているが，頻繁な刃部再生の後，楔形石器や石核に転用されている。六通金山遺跡（17）でも刃部磨製石斧が出土している。神明社裏遺跡（25）では６枚の文化層から37か所のブロックが検出されているが，出土層準などで重複が見られることから，文化層の再編も示唆されている。第２黒色帯下半部の上層を中心に出土した石器群が主体で，刃部磨製石斧の調整剥片や６号墳からは刃部磨製石斧や石斧が出土している。

Ⅵ層からⅦ層では，太田法師遺跡（15）で信州産と考えられる黒曜石や硬質頁岩を中心とするナイフ形石器，石刃を中心とする石器群などが出土している。

Ⅳ層からⅤ層では，バクチ穴遺跡（13）で高原山産と考えられる黒曜石や珪質頁岩を中心とする切出形のナイフ形石器，角錐状石器，掻器の一群があり，類例は鎌取遺跡，小金沢古墳群（21），有吉遺跡（43）などでも出土している。小金沢古墳群，鎌取場台遺跡（40）では礫器も見られる。また，太田法師遺跡では，黒曜石，各種頁岩，チャートなど各種石材を中心とするナイフ形石器，角錐状石器，掻器などのブロックが検出されているが，第８ブロックについては第１文化層の石器が混在している可能性もある。

Ⅲ層には複数時期の石器群があるが，有吉遺跡（第４次調査）からは，旧石器時代終末期に帰属する細身の木葉形をした槍先形石器のブロックがある。同時期の資料は小金沢古墳群にもあり，槍先形石器を製作したブロックとして注目される。ムコアラク遺跡（16）では，樋状剥離をもつ槍先形石器がある。

細石刃石器群の出土は乏しいが，春日作遺跡（26）からは嶺岡産珪質頁岩と信州産黒曜石による細石刃石器群がある。細石刃核は得られていない。また，椎名崎古墳群Ｂ支群（28）でも古墳の墳丘下から黒曜石による野岳・休場型細石刃核を指標とする細石刃石器群が出土している。

六通神社南遺跡（18）では土器出現期に帰属すると考えられる大型の槍先形石器がまとまっており，石器石材の原産地推定分析によると奈良県二上山のサヌカイトや岐阜県の下呂石が含まれている。また，東南部ニュータウン北東に隣接する辺田山谷遺跡（45）では，富里市南大溜袋遺跡に代表される狭長な槍先形石器が散見される。

千原台ニュータウン関連文献

（財）千葉県文化財センター　1980　『千原台ニュータウンⅠ（野馬堀遺跡・ばあ山遺跡・他）』

（財）千葉県文化財センター　1983　『千原台ニュータウンⅡ　草刈遺跡Ａ区（第１次調査）　鵜牧古墳群・人形塚』

（財）千葉県文化財センター　1986　『千原台ニュータウンⅢ　草刈遺跡（Ｂ区）』

（財）千葉県文化財センター　1991　『千原台ニュータウンⅣ　中永谷遺跡』

（財）千葉県文化財センター　1994　『千原台ニュータウンⅥ　－草刈六之台遺跡－』

（財）千葉県文化財センター　2003　『千原台ニュータウンⅧ　－市原市草刈遺跡（東部地区縄文時代）－』

（財）千葉県文化財センター　2003　『千原台ニュータウンⅨ　－市原市押沼第１・第２遺跡（上層）－』

（財）千葉県文化財センター　2004　『千原台ニュータウンⅩ　－市原市草刈遺跡（東部地区旧石器時代）－』

(財) 千葉県文化財センター　2005　『千原台ニュータウンⅩⅢ　－市原市草刈遺跡（西部地区旧石器時代）－』
(財) 千葉県教育振興財団　2006　『千原台ニュータウンⅩⅤ　－市原市押沼大六天遺跡（下層）－』
(財) 千葉県教育振興財団　2007　『千原台ニュータウンⅩⅩⅢ　－市原市ナキノ台遺跡（下層）－』
(財) 千葉県教育振興財団　2008　『千原台ニュータウンⅩⅩ　－市原市押沼第１遺跡（下層）－』

千葉東南部ニュータウン関連文献

(財) 千葉県文化財センター　1979　『千葉東南部ニュータウン６　－椎名崎遺跡－』
(財) 千葉県文化財センター　1979　『千葉東南部ニュータウン７　－木戸作遺跡（第２次）－』
(財) 千葉県文化財センター　1979　『千葉東南部ニュータウン８　－ムコアラク遺跡・小金沢古墳群－』
(財) 千葉県文化財センター　1980　『千葉東南部ニュータウン９　－六通遺跡・御塚台遺跡－』
(財) 千葉県文化財センター　1982　『千葉東南部ニュータウン10　－小金沢貝塚－』
(財) 千葉県文化財センター　1981　『千葉東南部ニュータウン11　－六通金山遺跡－』
(財) 千葉県文化財センター　1983　『千葉東南部ニュータウン12　－南二重堀遺跡－』
(財) 千葉県文化財センター　1983　『千葉東南部ニュータウン14　－パクチ穴遺跡・有吉遺跡（第３次）・有吉南遺跡－』
(財) 千葉県文化財センター　1984　『千葉東南部ニュータウン15　－馬ノ口遺跡・有吉城跡・白鳥台遺跡－』
(財) 千葉県文化財センター　1990　『千葉東南部ニュータウン17　－高沢遺跡－』
(財) 千葉県文化財センター　1993　『千葉東南部ニュータウン18　－鎌取遺跡－』
(財) 千葉県文化財センター　1998　『千葉東南部ニュータウン19　－千葉市有吉北貝塚１－』
(財) 千葉県文化財センター　1999　『千葉東南部ニュータウン21　－有吉遺跡（第４次）・高沢古墳群－』
(財) 千葉県文化財センター　1999　『千葉東南部ニュータウン22　－鎌取場台遺跡－』
(財) 千葉県文化財センター　2003　『千葉東南部ニュータウン26　－千葉市椎名神社遺跡・古城小弓遺跡・六通神社南遺跡・御塚台遺跡－』
(財) 千葉県文化財センター　2003　『千葉東南部ニュータウン27　－千葉市春日作遺跡－』
(財) 千葉県文化財センター　2004　『千葉東南部ニュータウン29　－千葉市パクチ穴遺跡・大膳野南貝塚・有吉城跡２（旧石器時代）－』
(財) 千葉県文化財センター　2005　『千葉東南部ニュータウン32　－千葉市小金沢古墳群２－』
(財) 千葉県教育振興財団　2006　『千葉東南部ニュータウン34　－千葉市城ノ台遺跡－』
(財) 千葉県教育振興財団　2006　『千葉東南部ニュータウン35　－千葉市椎名崎Ｂ支群－』
(財) 千葉県教育振興財団　2006　『千葉東南部ニュータウン36　－千葉市神明社裏遺跡１（旧石器時代）－』
(財) 千葉県教育振興財団　2007　『千葉東南部ニュータウン37　－千葉市六通貝塚－』
(財) 千葉県教育振興財団　2008　『千葉東南部ニュータウン39　－千葉市太田法師遺跡１（旧石器時代）－』

第３節　基本土層

本遺跡における立川ローム層の堆積状況は，下総台地で広く観察される基本層序と共通する。千葉市から市原市にかけての東京湾岸地域では不明瞭なことが多い第２黒色帯下部中の間層（Ⅸb層）が確認されており，当地域の中では比較的良好な堆積状況を示している。立川ローム層の厚さは，概ね2.0mである（第２図）。

Ⅲ層：黄褐色～褐色の軟質ロームで，厚さは20cm～60cmである。さらに２枚に分層される地点もある。

Ⅲa層：暗黄灰色で粘性のある軟質ロームで，厚さは25cmである。

Ⅲb層：明黄灰色で粘性のある軟質ロームで，厚さは30cmである。

Ⅳ層：黄褐色～明黄灰色の硬質ロームである。武蔵野台地のⅣ層上部に相当する層は軟質化してⅢ層に取り込まれており，本層は武蔵野台地Ⅳ層下部に対応すると考えられる。厚さは15cm～35cmである。

Ⅴ層：暗赤褐色～褐色の硬質ロームで，第１黒色帯に相当する。赤色のスコリアを含む。厚さは10cm～30cmほどである。

Ⅵ層：明黄褐色～明黄灰白色の硬質ロームで，黒色，赤色，暗緑灰色のスコリア，火山ガラスを含む。ＡＴ（姶良丹沢火山灰層）のブロックがまとまって見られる地点もある。厚さは10cm～30cmである。さらに３枚に分層される地点もある。

Ⅵa層：暗黄灰白色の硬質ロームで，厚さは15cmである。

Ⅵb層：黄灰白色の硬質ロームで，最も明るい。厚さは15cmである。

Ⅵc層：暗黄灰白色の硬質ロームで，厚さは10cmである。

Ⅶ層：暗黄褐色～褐色の硬質ロームで，第２黒色帯上半部に相当する。ＡＴが細かく拡散しており，あまり暗い色調ではない。赤色，黒色，暗緑色のスコリアを含む。厚さは10cm～50cmである。

Ⅸ層：黒褐色～暗褐色の硬質ロームで，第２黒色帯下半部である。調査当時は単一の土層として認識されていたり，Ⅶa層（現在のⅦ層下部とⅨa層），Ⅶb層（現在のⅨb層），Ⅶc層（現在のⅨc層）に区分されたりしている。厚さは10cm～45cmである。整理作業の中で細分可能な場合は，以下のとおりとした。

Ⅸa層：暗褐色の硬質ローム層で，第２黒色帯下半部の上層にあたる。赤色，黒色，暗緑色，白色のスコリアを含む。厚さは20cm～30cmである。

Ⅸb層：暗褐色～褐色の硬質ローム層で，第２黒色帯下半部中の間層である。色調はやや明るく，赤色，黒色，暗緑色，白色のスコリアを含む。安定した土層ではないが，一部の調査区で確認できた。厚さは10cmである。

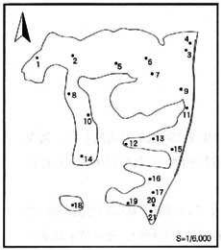
Ⅸc層：暗褐色の硬質ローム層で，第２黒色帯下半部の下層にあたる。立川ローム層の中では最も暗く，薄墨を流したようにみえる。赤色，黒色，暗緑色，白色のスコリアを含む。厚さは20cm～30cmである。

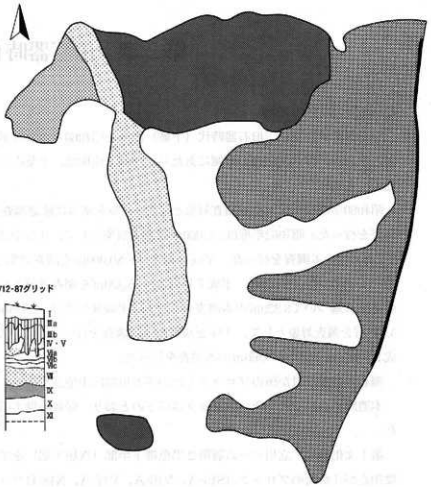
Ⅹ層：黄褐色～赤褐色の硬質ローム層であるが，Ⅸ層に比べて軟質で粘性が強い。赤色，黒色，白色のスコリアが激減する。厚さは35cm～40cmである。さらに２枚に分層される地点もある。

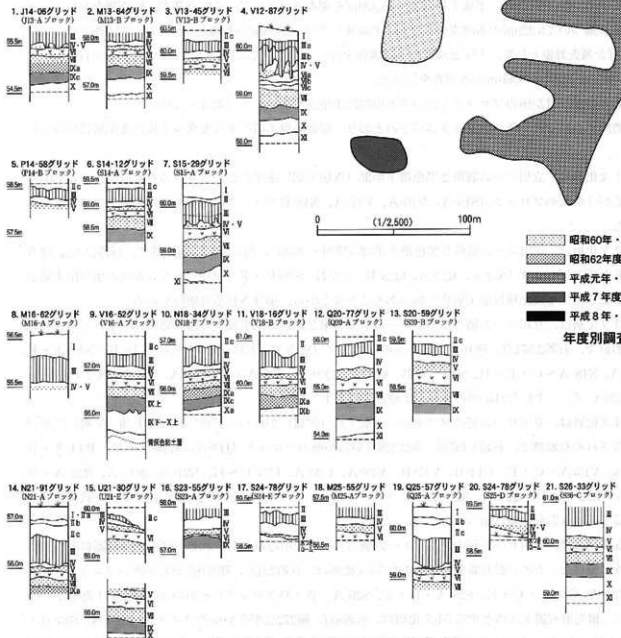
Ⅹa層：茶褐色の硬質ローム層で，厚さは15cmである。

Ⅹb層：暗茶褐色の硬質ローム層で，厚さは15cmである。

Ⅺ層：暗灰色の硬質ローム層で，Ⅹ層との境界は波状をなし，不整合になっている。軟質で粘性が強い。







第２図　押沼第２遺跡調査区及び基本土層

第２章　旧石器時代

第１節　調査の概要

押沼第２遺跡では，旧石器時代（下層）調査を昭和60年度から平成９年度まで断続的に実施した。調査区の位置は，押沼遺跡群の南側にあたり，西側と南側は，千葉市と市原市とを画する茂呂谷津に面した台地上である。

昭和60年度は，3,000㎡を調査対象として，４％を基本に確認調査を行い，その結果に基づいて310㎡の本調査を行った。昭和62年度は，8,000㎡を調査対象として，４％を基本に確認調査を行い，その結果に基づいて200㎡の本調査を行った。平成元年度は，80,000㎡を調査対象として，４％を基本に確認調査を行い，7,320㎡の本調査を行った。平成７年度は，35,800㎡を調査対象として，４％を基本に確認調査を行い，その結果に基づいて8,220㎡の本調査を行った。平成８年度は，2,556㎡の本調査を行った。地区外については，3,060㎡を調査対象として，４％を基本に確認調査を行い，その結果に基づいて75㎡の本調査を行った。平成９年度は，地区外の360㎡の本調査を行った。

調査の結果，91か所のブロックと72か所の単独出土地点を検出した（第３・４図）。

本遺跡における91か所のブロックは以下のとおり，帰属時期不明の１枚を含み７枚の文化層に区分された。

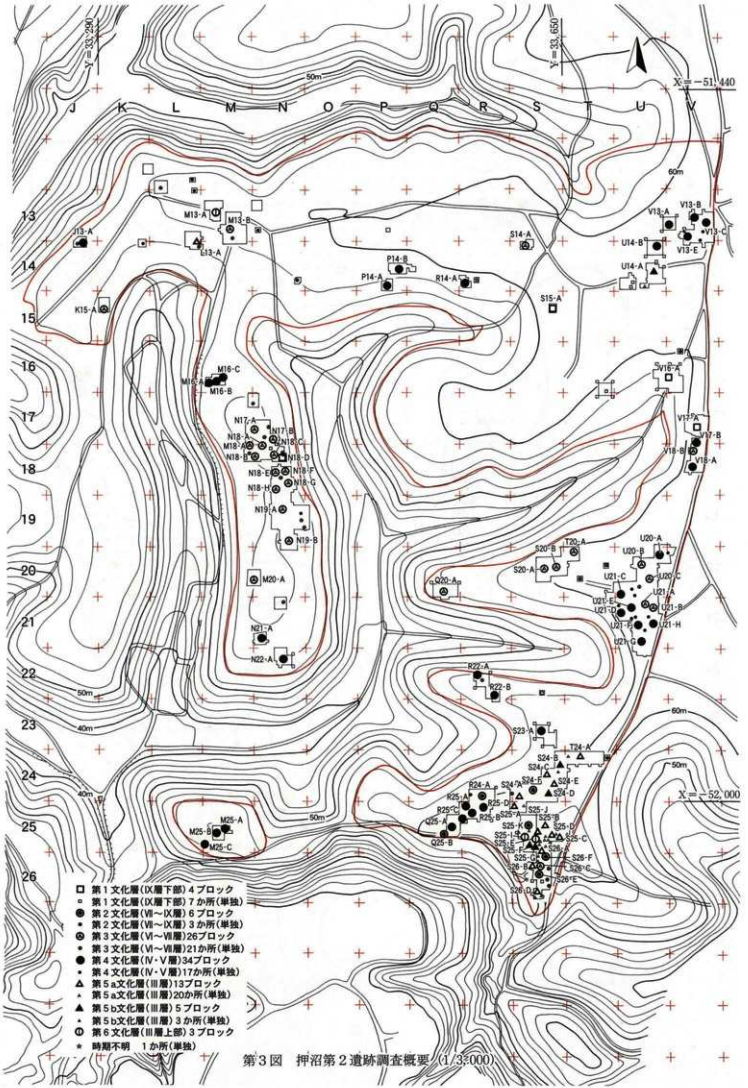
第１文化層は，立川ローム層第２黒色帯下半部（Ⅸ層下部）を中心に包含される石器群で，石器430点，礫70点が４か所のブロック（S15-A，V16-A，V17-A，N18-Dブロック）と７か所の単独出土地点から出土した。

第２文化層は，立川ローム層第２黒色帯下半部（Ⅶ層～Ⅸ層）に包含される石器群で，石器110点，礫６点が６か所のブロック（S24-F，R24-A，Q25-B，S25-K，S26-E・Fブロック）と３か所の単独出土地点から出土した。本文化層は出土層位に幅があることなどから，細分される可能性もある。

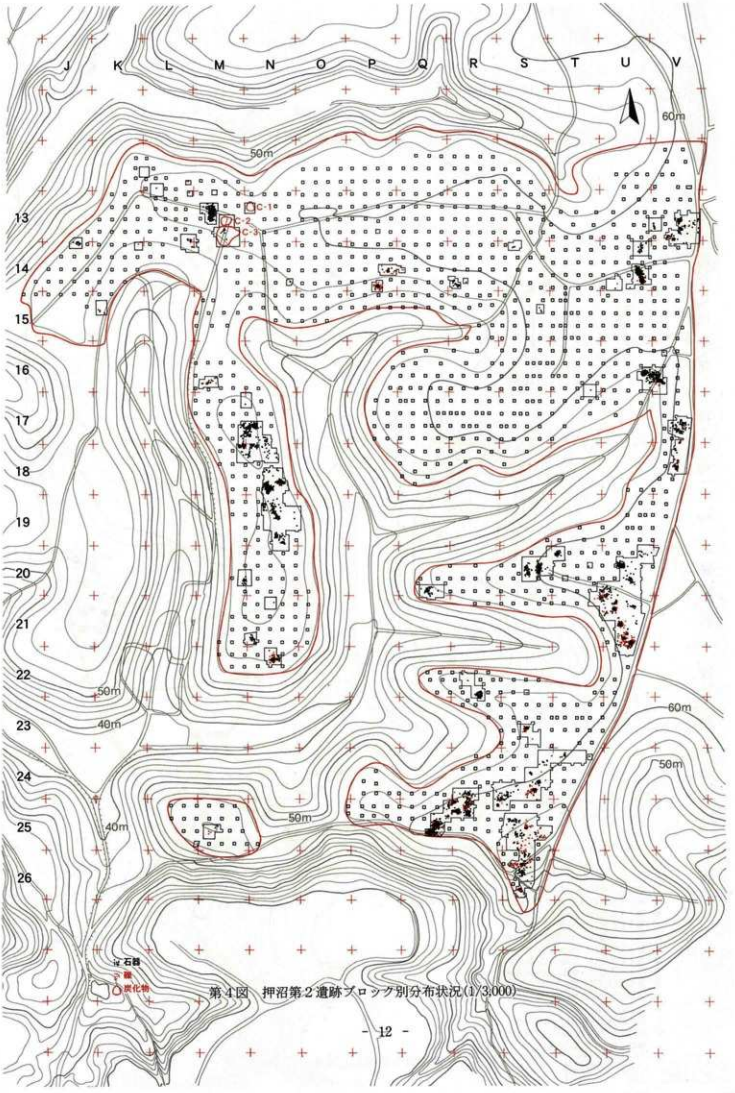
第３文化層は，立川ローム層のハードローム層から第２黒色帯上半部（Ⅵ層～Ⅶ層）にかけて包含される石器群で，石器2,571点，礫16点が26か所のブロック（M13-B，K15-A，S14-A，V18-B，N17-A・B，M18-A，N18-A～C・E～H，N19-A・B，M20-A，Q20-A，S20-A・B，T20-A，U20-B・C，U21-A・B，S26-Cブロック）と21か所の単独出土地点から出土した。

第４文化層は，立川ローム層のソフトローム層下部（Ⅳ層）からハードローム層最上部（Ⅴ層）にかけて包含される石器群で，石器1,437点，礫2,328点が34か所のブロック（J13-A，M16-A～C，P14-A・B，R14-A，V13-A～C・E，U14-B，V17-B，V18-A，U20-A，U21-C～H，N21-A，N22-A，R22-A・B，S23-A，R25-A～D，Q25-A，M25-A～Cブロック）と17か所の単独出土地点から出土した。武蔵野台地のⅣ層下部の石器群に概ね相当すると考えられる。

第５文化層は，立川ローム層のソフトローム層（Ⅲ層）を中心に包含される石器群で，石器群の内容から２枚に分けた。ナイフ形石器を主体とする５a文化層は，石器221点，礫160点が13か所のブロック（L13-A，T24-A，S24-A・C・E，S25-A～D・J，S26-A・B・Dブロック）と20か所の単独出土地点から出土した。槍先形石器を主体とする５b文化層は，石器877，礫272点が５か所のブロック（U14-A，S24-B・D，S25-F・Gブロック）と３か所の単独出土地点から出土した。武蔵野台地のⅣ層上部の砂川期の石器群



第3図　押沼第2遺跡調査概要(1/3000)



第４図　押沼第２遺跡ブロック別分布状況(1/3,000)

に概ね相当すると考えられる。

第６文化層は，立川ローム層のソフトローム層（Ⅲ層）上部を中心に包含される石器群で，石器457点，礫９点が３か所のブロック（M13-A，S25-E・Ⅰブロック）から出土した。細石刃石器群である。

この他，R14-73グリッドの１か所の単独出土地点から石器１点が出土しているが，出土層準が不明なため，帰属文化層を決定することができなかった。

第２節　第１文化層

第１文化層は，立川ローム層第２黒色帯下半部（Ⅸ層下部）を中心に包含されている石器群である。S15-A，V16-A，V17-A，N18-Dブロックの４か所が該当する。

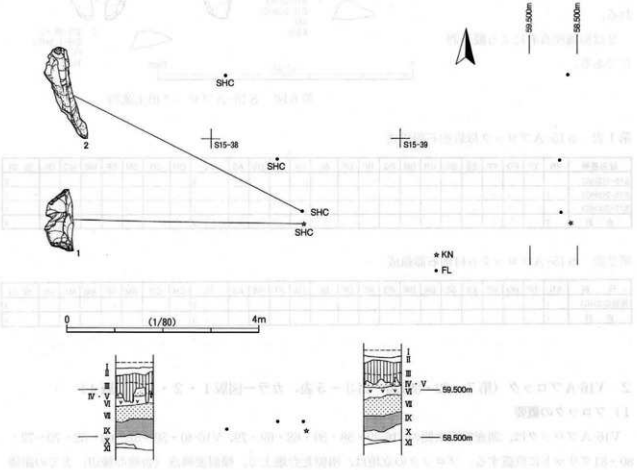
1　S15-Aブロック（第５・６・397図，第１・２表，カラー図版１，図版４）

1）ブロックの概要

S15-Aブロックは，調査範囲東側のS15-28・38グリッドに位置する。ブロックの立地は，北側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は15mである。

ブロックの規模と形状は，４mの直線状に４点の石器が分布する。出土層位は，Ⅸ層からⅩ層にかけて，20cmほどの高低差をもって包含されている（第５図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，剥片３点の合計４点で構成される。石器石材は，頁岩Ｃ４点である。



第５図　S15-Aブロック出土遺物分布－器種・石材別分布－

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，頁岩Ｃ３母岩（S15-１～３）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（４/４点）である。

・**S15-１**：自然面は凹凸が顕著で黄褐色（10YR5/6），内部は灰黄色（2.5Y6/2）・にぶい黄色（2.5Y6/4），節理は明黄褐色（10YR6/6）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（15.5ｇ）である。

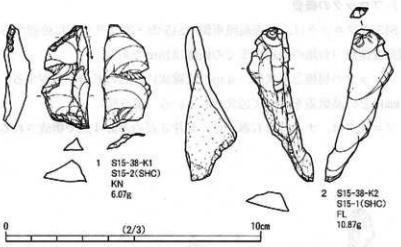
・**S15-２**：自然面は比較的平滑で褐色（10YR4/4），内部は灰オリーブ色（5Y4/2）の地に褐色（10YR4/4），が部分的に混じり，節理はオリーブ褐色（2.5Y4/3）の嶺岡産頁岩である。ナイフ形石器１点（6.1ｇ）の単独資料である。

・**S15-３**：自然面は比較的平滑でオリーブ褐色（2.5Y4/4），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰オリーブ色（5Y6/2）・黄褐色（2.5Y5/4）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（7.3ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第６図）

１は嶺岡産頁岩による部分加工のナイフ形石器としたが，加工痕ある剥片の可能性もある。打面側を基部として，左側縁上部に調整加工を行っている。右側縁上部に微細な剥離痕が見られる。

２は嶺岡産頁岩による縦長剥片である。



第６図　S15-Aブロック出土遺物

第１表　S15-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
S15-1(SHC)																	2								2
S15-2(SHC)	1																								1
S15-3(SHC)																	1								1
合計	1																3								4

第２表　S15-Aブロック石材別石器組成

石材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
頁岩C(SHC)	1																3								4
合計	1																3								4

２　V16-Aブロック（第７～22・397図，第３～５表，カラー図版１・２・19，図版４）

１）ブロックの概要

V16-Aブロックは，調査範囲東側のU16-49・58・59・68・69・79，V16-40・50～52・60～62・70～72・80・81グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側北台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は15mである。

ブロックの規模と形状は，長軸21m，短軸15mの範囲に350点の石器・礫が分布する。その内，原位置不明の遺物が1点あり，その他に垂直分布のない遺物が2点ある。出土層位は，Ⅵ層からⅩ層にかけて160cmほどの高低差をもって包含されているが，Ⅸ層を中心として80cmほどの高低差の一群とⅨ層からⅩ層を中心として80cmほどの高低差の一群に分かれており，特異な垂直分布状況を示している（第7～11図）。あるいは2～3時期に細分される可能性もある。なお，V16-52グリッド付近の土層断面の注記によれば，Ⅸ層～Ⅹ層は水付きローム で，さらにその下の層は，礫片が凝固したような赤褐色粘質土が混じる青灰色粘土層となっていることなど，土壌の変質が考えられる。

ブロックは，ナイフ形石器5点，削器1点，楔形石器1点，加工痕ある剥片8点（7個体），使用痕ある剥片8点（7個体），石刃8点，局部磨製石斧1点，剥片177点（165個体），砕片83点，石核19点の合計311点（297個体）と礫39点で構成される。石器石材は，黒曜石A20点（19個体），黒曜石B2点，黒曜石G26点，安山岩13点，軟質の安山岩2点，流紋岩26点，頁岩B2点，頁岩C19点，頁岩D70点（59個体），頁岩E27点，チャート5点，凝灰岩10点，砂岩5点，ホルンフェルス62点（61個体），瑪瑙・玉髄22点（21個体）である。礫石材は，安山岩2点（2母岩；51.3g），流紋岩18点（8母岩；638.7g），凝灰岩2点（2母岩；244.8g），砂岩15点（8母岩；533.0g），識別できなかった流紋岩2点（1.1g）で，識別率は95%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは110母岩を識別した。内訳は，黒曜石A2母岩（V16-15・16），黒曜石B1母岩（V16-17），安山岩9母岩（V16-2～10），軟質の安山岩2母岩（V16-1・76），流紋岩4母岩（V16-11～14），頁岩B2母岩（V16-26・27），頁岩C11母岩（V16-28～38），頁岩D20母岩（V16-39～58），頁岩E17母岩（V16-59～75），チャート5母岩（V16-98～101・108），凝灰岩9母岩（V16-18～25・77），砂岩2母岩（V16-78・110），ホルンフェルス20母岩（V16-79～97・109），瑪瑙・玉髄6母岩（V16-102～107）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は75%（233/311点）である。

・**V16-1**：内部はにぶい黄色（2.5Y6/4）・黄灰色（2.5Y6/1），新鮮な面は灰色（N5/0）の軟質の安山岩である。剥片1点（1.1g）の単独資料である。

・**V16-2**：自然面は比較的平滑で灰オリーブ色（5Y5/3），内部は灰色（5Y5/1）の資料，内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・暗灰黄色（2.5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の資料など母岩内に変異がある安山岩である。石器群の内訳は，剥片3点，砕片1点，石核1点の合計5点（41.4g）である。

・**V16-3**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部はにぶい黄褐色（10YR4/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片1点（1.3g）の単独資料である。

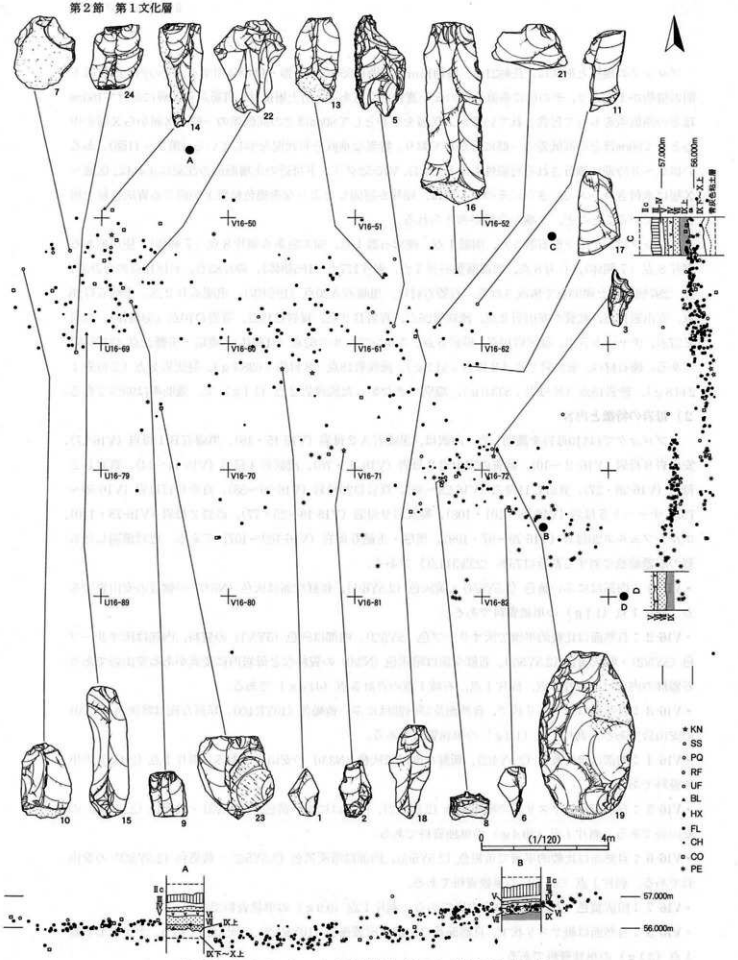
・**V16-4**：内部は暗灰黄色（2.5Y4/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片1点（2.4g）の単独資料である。

・**V16-5**：自然面は紙ヤスリ状で暗灰黄色（2.5Y5/2），内部はにぶい黄色（2.5Y6/3）・黄褐色（2.5Y5/3）の安山岩である。剥片1点（59.4g）の単独資料である。

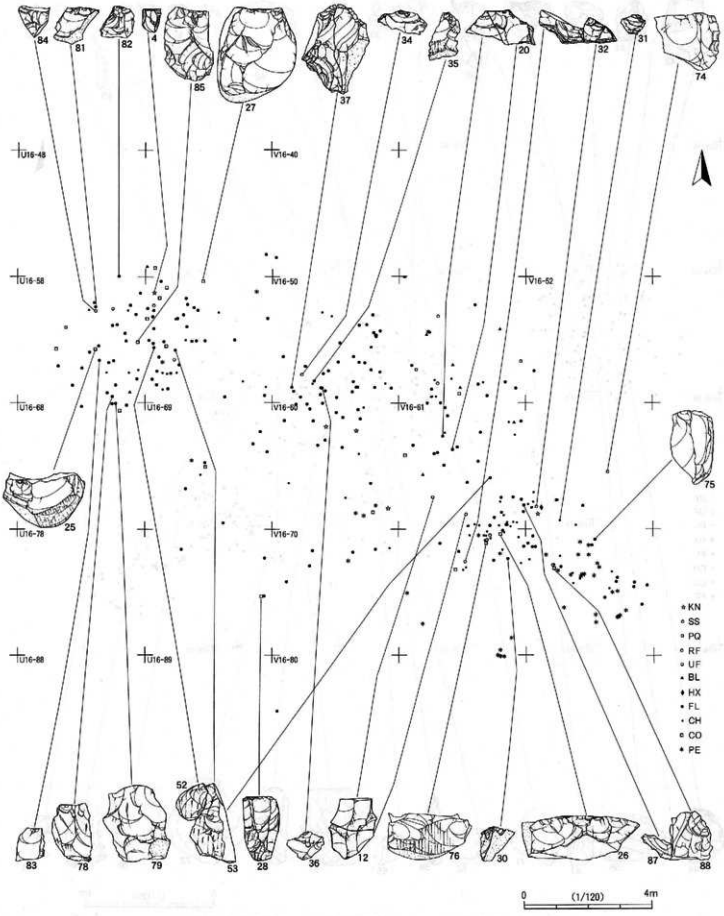
・**V16-6**：自然面は比較的平滑で黄褐色（2.5Y5/3），内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）・黄褐色（2.5Y5/3）の安山岩である。剥片1点（3.3g）の単独資料である。

・**V16-7**：暗灰黄色（2.5Y5/2）の安山岩である。剥片1点（0.9g）の単独資料である。

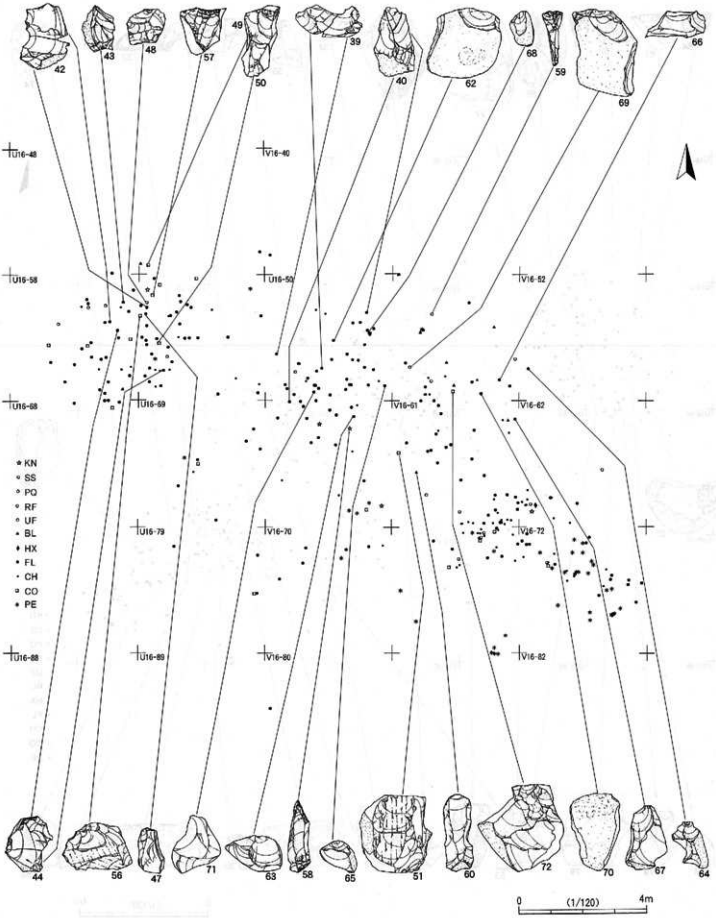
・**V16-8**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰黄褐色（10YR4/2）の安山岩である。ナイフ形石器1点（3.1g）の単独資料である。



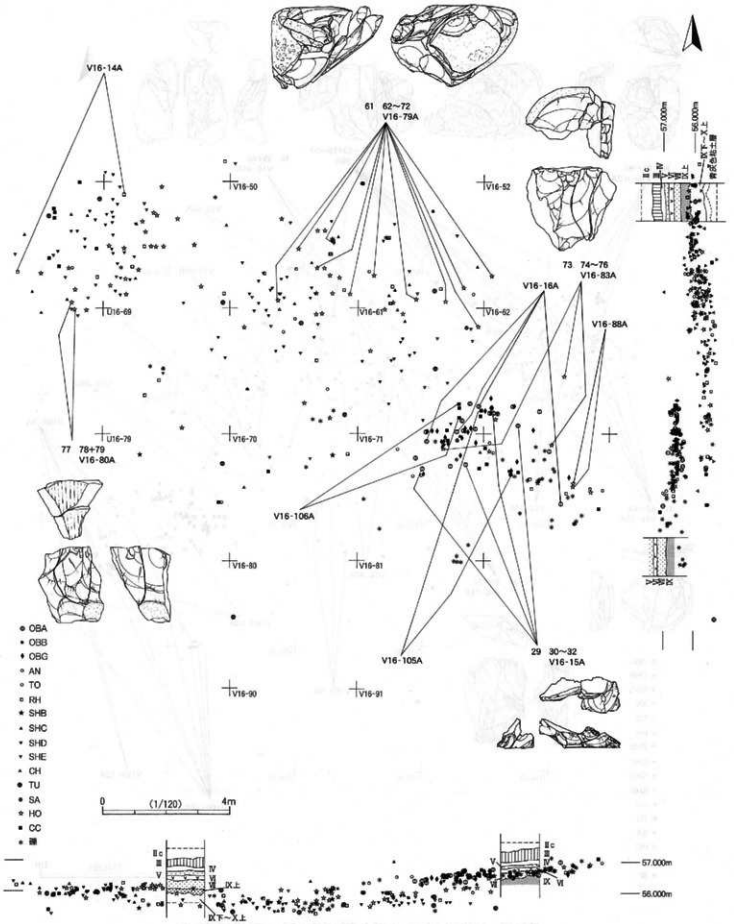
第7図　V16-Aブロック出土遺物分布(1)－器種別分布(1)



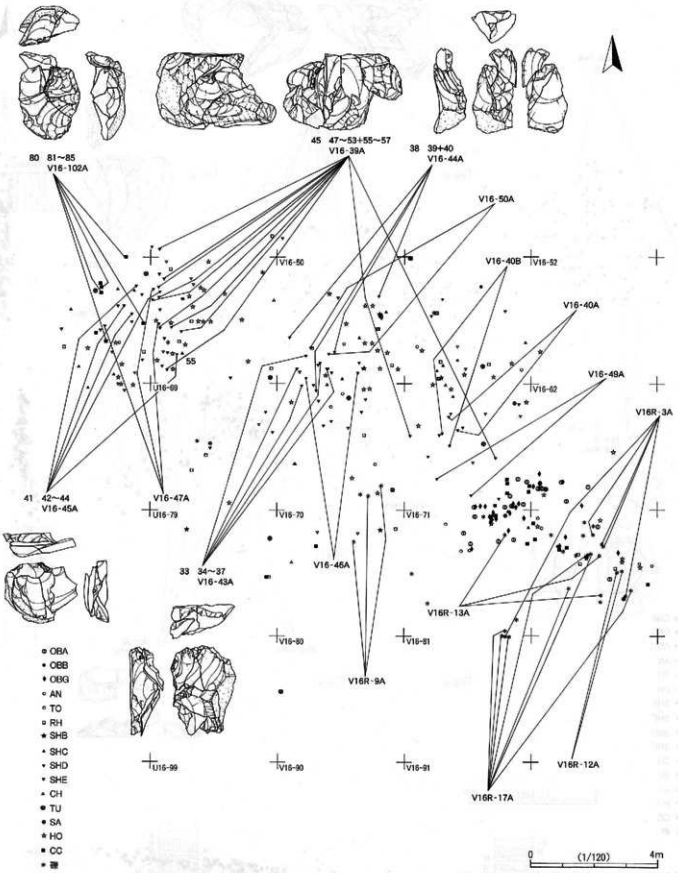
第８図　V16-Aブロック出土遺物分布（２）－器種別分布（２）－



第9図　V16-Aブロック出土遺物分布(3)－器種別分布(3)－



第10図　V16-Aブロック出土遺物分布(4)－石材別分布(1)－



第11図　V16-Aブロック出土遺物分布(５)ー石材別分布(２)ー

第３表　V16-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	EG	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
V16-1(TO)																	1								1
V16-2(AN)																	3	1	1						5
V16-3(AN)																	1								1
V16-4(AN)																	1								1
V16-5(AN)																	1								1
V16-6(AN)																	1								1
V16-7(AN)																	1								1
V16-8(AN)	1																								1
V16-9(AN)																	1								1
V16-10(AN)																	1								1
V16-11(RH)											1														1
V16-12(RH)																	1								1
V16-13(RH)																	1								1
V16-14(RH)																	1		1						2
V16-15(OBA)										2(1)							2	1							5(4)
V16-16(OBA)																	2	2							4
V16-17(OBB)										1							1								2
V16-18(TU)													1												1
V16-19(TU)																		1							1
V16-20(TU)																	1								1
V16-21(TU)																	2								2
V16-22(TU)																	1								1
V16-23(TU)	1																								1
V16-24(TU)																	1								1
V16-25(TU)																	1								1
V16-26(SHB)																	1								1
V16-27(SHB)																	1								1
V16-28(SHC)						1																			1
V16-29(SHC)											1						2								3
V16-30(SHC)											1														1
V16-31(SHC)																	1								1
V16-32(SHC)																	1								1
V16-33(SHC)																	3								3
V16-34(SHC)																		1							1
V16-35(SHC)																	1								1
V16-36(SHC)																	1								1
V16-37(SHC)																	1								1
V16-38(SHC)																	1								1
V16-39(SHD)	1										2	1					7(6)	2	5						18(17)
V16-40(SHD)	1																6(4)								7(5)
V16-41(SHD)																	1								1
V16-42(SHD)																			1						1
V16-43(SHD)											1						6(5)								7(6)
V16-44(SHD)																	4(2)								4(2)
V16-45(SHD)																	5(3)								5(3)
V16-46(SHD)																	2								2
V16-47(SHD)																	5(4)								5(4)
V16-48(SHD)												1													1
V16-49(SHD)											2(1)														2(1)
V16-50(SHD)																	2(1)								2(1)
V16-51(SHD)																	1								1
V16-52(SHD)																	1								1
V16-53(SHD)												1													1
V16-54(SHD)																	2								2
V16-55(SHD)																	1								1
V16-56(SHD)																	1								1
V16-57(SHD)																	1								1
V16-58(SHD)									1																1
V16-59(SHE)																	1		1						2
V16-60(SHE)												1													1

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
V16-61(SHE)																			1						1
V16-62(SHE)												2													2
V16-63(SHE)												1													1
V16-64(SHE)												1							1						2
V16-65(SHE)																	2								2
V16-66(SHE)																	1								1
V16-67(SHE)																	1								1
V16-68(SHE)																	1								1
V16-69(SHE)																	2								2
V16-70(SHE)																	1								1
V16-71(SHE)																	1								1
V16-72(SHE)																	1								1
V16-73(SHE)																	1								1
V16-74(SHE)																	1								1
V16-75(SHE)																	3								3
V16-76(TO)																	1								1
V16-77(TU)																	1								1
V16-78(SA)																			1						1
V16-79(HO)										1							9		1						11
V16-80(HO)																	2								2
V16-81(HO)																	6	3							9
V16-82(HO)																	5	1							6
V16-83(HO)										1							1		1						3
V16-84(HO)																			1						1
V16-85(HO)																	7								7
V16-86(HO)																	2								2
V16-87(HO)																	1								1
V16-88(HO)																	2(1)								2(1)
V16-89(HO)																	1								1
V16-90(HO)																	4								4
V16-91(HO)	1																1								2
V16-92(HO)																	1								1
V16-93(HO)																	1								1
V16-94(HO)																	1								1
V16-95(HO)																	1								1
V16-96(HO)																	1								1
V16-97(HO)																	1								1
V16-98(CH)										1															1
V16-99(CH)																	1								1
V16-100(CH)																	1								1
V16-101(CH)																	1								1
V16-102(CC)										1							5		1						7
V16-103(CC)																			1						1
V16-104(CC)																	1								1
V16-105(CC)										1							5	3	1						10
V16-106(CC)																	2(1)								2(1)
V16-107(CC)																	1								1
V16-108(CH)																	1								1
V16-109(HO)																			1						1
V16-110(SA)																	1								1
その他(OBA)																	7	4							11
その他(OBG)																		26							26
その他(RH)																		21							21
その他(SHC)																		4							4
その他(SHD)																	3	3							6
その他(SHE)																		3							3
その他(SA)																		3							3
その他(HO)																		4							4
合　計	5					1			1	8(7)	8(7)	8	1				177(165)	83	19					311(297)

・V16-9：にぶい黄褐色（10YR4/3）・暗灰黄色（2.5Y4/2）の安山岩である。剥片１点（0.6ｇ）の単独資料である。

・V16-10：黄灰色（2.5Y4/1）の安山岩である。剥片１点（1.2ｇ）の単独資料である。

・V16-11：自然面は平滑で灰白色（2.5Y8/2），内部は灰白色（2.5Y8/1）・にぶい黄橙色（10YR7/2）の地に明黄褐色（10YR6/6）が部分的に混じる流紋岩である。使用痕ある剥片１点（5.5ｇ）の単独資料である。

・V16-12：灰白色（7.5Y7/1）の地に灰黄色（2.5Y6/2）が部分的に混じる流紋岩である。剥片１点（13.5ｇ）の単独資料である。

・V16-13：内部は灰白色（2.5Y8/2）の地に黄灰色（2.5Y5/1）が部分的に混じり，新鮮な面は灰白色（2.5Y8/2）

第４表　V16-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合 計
黒曜石A(OBA)										2(1)							11	7							20(19)
黒曜石B(OBB)										1							1								2
黒曜石G(OBG)																		26							26
安山岩(AN)	1																10	1	1						13
安山岩(TO)																	2								2
流紋岩(RH)											1						3	21	1						26
頁岩B(SHB)																	2								2
頁岩C(SHC)						1					2						11	5							19
頁岩D(SHD)	2								1		5(4)	3					48(38)	5	6						70(59)
頁岩E(SHE)												5					16	3	3						27
チャート(CH)										1							4								5
凝灰岩(TU)	1												1				7	1							10
砂岩(SA)																	1	3	1						5
ホルンフェルス(HO)	1									2							47(46)	8	4						62(61)
瑪瑙・玉髄(CC)										2							14(13)	3	3						22(21)
合　計	5					1			1	8(7)	8(7)	8	1				177(165)	83	19						311(297)

第５表　V16-Aブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
V16R-1	AN	1	30.21
V16R-2	TU	1	30.31
V16R-3	RH	5	357.04
V16R-4	RH	3	10.70
V16R-5	RH	1	6.52
V16R-6	RH	1	11.03
V16R-7	RH	1	5.71
V16R-8	RH	1	1.32
V16R-9	RH	3	69.23
V16R-10	SA	1	28.60

母　岩	石 材	個数	重量
V16R-11	SA	1	58.05
V16R-12	SA	2	10.05
V16R-13	RH	3	177.16
V16R-14	SA	1	44.13
V16R-15	TU	1	214.52
V16R-16	AN	1	21.09
V16R-17	SA	7	303.57
V16R-18	SA	1	15.94
V16R-19	SA	1	3.92
V16R-20	SA	1	68.76
その他	RH	2	1.08

石　材	個数	重量
安山岩(AN)	2	51.30
流紋岩(RH)	20	639.79
凝灰岩(TU)	2	244.83
砂岩(SA)	15	533.02
合　計	39	1,468.94

の流紋岩である。剥片１点（1.0ｇ）の単独資料である。

・V16-14：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は明オリーブ灰色(2.5GY7/1)・オリーブ灰色(5GY6/1)・灰白色（7.5Y8/2）・灰オリーブ色（7.5Y6/2）・灰白色（N7/0），新鮮な面は灰色（N4/0）の流紋岩である。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（236.1ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（236.1ｇ）である。

・V16-15：自然面は平滑で黒灰色，内部は黒色の黒曜石である。φ２㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片２点（１個体），剥片２点，砕片１点の合計５点（４個体；10.5ｇ）である。接合資料は，加工痕ある剥片２点（１個体），剥片１点，砕片１点の合計４点（３個体；8.4ｇ）である。

・V16-16：黒色で半透明な黒曜石である。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点，砕片２点の合計４点（2.6ｇ）である。接合資料は，剥片２点，砕片２点の合計４点（2.6ｇ）である。

・V16-17：自然面は平滑で褐灰色（10YR4/1），内部は薄墨を流したような地に灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（3.8ｇ）である。

・V16-18：自然面は平滑で灰オリーブ色（5Y5/3），内部は明オリーブ灰色（2.5GY7/1）・灰白色（5Y7/2），節理は灰オリーブ色（5Y5/3）・オリーブ灰色（5GY5/1）の凝灰岩である。局部磨製石斧１点（231.7ｇ）の単独資料である。

・V16-19：浅黄色（5Y7/4）の地に灰色（5Y5/1）の筋が入る凝灰岩である。砕片１点（0.7ｇ）の単独資料である。

・V16-20：淡黄色（5Y8/3）の凝灰岩である。剥片１点（1.2ｇ）の単独資料である。

・V16-21：内部は淡黄色（5Y8/3）・明オリーブ灰色（2.5GY7/1），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片２点（53.1ｇ）である。

・V16-22：明オリーブ灰色（2.5GY7/1）の地にオリーブ灰色（2.5GY6/1）の筋が入る珪化度が高い凝灰岩である。剥片１点（1.4ｇ）の単独資料である。

・V16-23：灰白色（10Y7/1）・オリーブ黄色（7.5Y6/3）の地に灰色（10Y5/1）の筋が入る珪化度が高い凝灰岩である。ナイフ形石器１点（5.1ｇ）の単独資料である。

・V16-24：灰白色（10Y8/1）・にぶい赤褐色（5YR5/3）・オリーブ黄色（5Y6/3）・灰白色（10Y7/1）の珪化度が高い凝灰岩である。剥片１点（1.8ｇ）の単独資料である。

・V16-25：明黄褐色（10YR6/6）・浅黄橙色（10YR8/4）の凝灰岩である。剥片１点（2.8ｇ）の単独資料である。

・V16-26：にぶい黄色（2.5Y6/3）・にぶい黄褐色（10YR5/4）の北関東産頁岩である。剥片１点（9.8ｇ）の単独資料である。

・V16-27：黄褐色（2.5Y5/3）の北関東産頁岩である。剥片１点（1.3ｇ）の単独資料である。

・V16-28：暗灰黄色（2.5Y5/2）・黄灰色（2.5Y4/1）の嶺岡産頁岩である。削器１点（22.5ｇ）の単独資料である。

・V16-29：自然面は爪形の浅い裂痕が粗でにぶい黄褐色（10YR4/3），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色

（5Y5/1），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片２点の合計３点（48.9ｇ）である。

・V16-30：暗灰黄色（2.5Y5/2）・暗灰黄色（2.5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片１点（12.4ｇ）の単独資料である。

・V16-31：自然面は平滑で黄褐色（2.5Y5/3），内部は灰オリーブ色（5Y6/2），節理は黄褐色（2.5Y5/3）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（4.1ｇ）の単独資料である。

・V16-32：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR4/3），内部は灰オリーブ色（5Y6/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（3.4ｇ）の単独資料である。

・V16-33：自然面は爪形の浅い裂痕が粗でオリーブ褐色（2.5Y4/6），内部は灰オリーブ色（5Y5/2），節理は黄褐色（10YR5/6）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片３点（2.0ｇ）である。

・V16-34：自然面は平滑で褐色（10YR4/4），内部は灰色（10Y6/1）の嶺岡産頁岩である。砕片１点（0.6ｇ）の単独資料である。

・V16-35：灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y5/1）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（1.6ｇ）の単独資料である。

・V16-36：灰オリーブ色（5Y6/2）の地に灰色（5Y5/1）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。剥片１点（0.9ｇ）の単独資料である。

・V16-37：黒褐色（2.5Y3/2）・灰黄褐色（10YR4/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（3.1ｇ）の単独資料である。

・V16-38：暗褐色（10YR3/4）の地に砂質の明黄褐色（2.5Y7/6）が混じる嶺岡産頁岩としたが，硬質緻密な頁岩の可能性がある。剥片１点（2.5ｇ）の単独資料である。

・V16-39：内部は灰白色（2.5Y8/2），節理は明黄褐色（10YR6/6）・褐色（7.5YR4/3）・暗赤褐色（2.5YR3/6）の資料，内部は灰色（5Y5/1）・灰白色（2.5Y8/2），節理が灰オリーブ色（5Y5/2）・にぶい黄褐色（10YR5/4）の資料など母岩内に変異があり，新鮮な面は灰色（10Y4/1）の硬質緻密な頁岩である。一部の資料は被熱による変色の可能性がある。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，使用痕ある剥片２点，石刃１点，剥片７点（６個体），砕片２点，石核５点の合計18点（17個体；189.0ｇ）である。接合資料は，使用痕ある剥片１点，剥片４点（３個体），砕片１点，石核５点の合計11点（10個体；175.0ｇ）である。

・V16-40：内部は浅黄橙色（10YR8/3）・にぶい黄橙色（10YR7/3）・にぶい黄橙色（10YR7/2）の資料，内部は灰黄褐色(10YR6/2)・にぶい黄橙色(10YR7/3)の資料など母岩内に変異があり，新鮮な面は褐灰色(10YR4/1)の硬質緻密な頁岩である。なお，後者の一部は被熱による変色の可能性がある。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，剥片６点（４個体）の合計７点（５個体；23.4ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片２点（１個体；5.8ｇ），Ｂは剥片２点（１個体；13.7ｇ）である。

・V16-41：自然面は比較的平滑で浅黄色（2.5Y7/3），内部は灰黄褐色（10YR6/2），節理は黄褐色（10YR5/6）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（1.0ｇ）の単独資料である。

・V16-42：自然面は比較的平滑で暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）と暗灰色（N3/0）が縞状に入り，にぶい黄褐色（10YR5/3）が部分的に混じり，節理は灰色（5Y5/1）の硬質緻密な頁岩である。石核１点（91.8ｇ）の単独資料であるが，V16-43・44・46・50～52・56は同一母岩の可能性がある。

・V16-43：自然面は比較的平滑で黄褐色（2.5Y5/3），内部は黄灰色（2.5Y6/1）・黄灰色（2.5Y5/1）・暗灰色

（N3/0），節理は黄褐色（2.5Y5/3）の硬質緻密な頁岩である。V16-43・44・46・50～52・56は同一母岩の可能性がある。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片６点（５個体）の合計７点（６個体；39.5ｇ）である。接合資料は，使用痕ある剥片１点，剥片４点（３個体）の合計５点（４個体；37.3ｇ）である。

・**V16-44**：自然面は比較的平滑な部分と爪形の浅い裂痕の部分があり，自然面及び内部は暗灰色（N3/0）・灰色（N5/0）の地に黄褐色（2.5Y5/3）が部分的に混じる硬質緻密な頁岩である。V16-42・43・46・50～52・56は同一母岩の可能性がある。石器群の内訳は，剥片４点（２個体；20.4ｇ）である。接合資料は，剥片４点（２個体；20.4ｇ）である。

・**V16-45**：自然面は比較的平滑で灰白色（5Y8/2），内部は暗灰色（N3/0）・灰色（N4/0）・灰色（N5/0）の地に灰色（5Y6/1）・黄褐色（2.5Y5/3）が部分的に混じる硬質緻密な頁岩である。V16-47と同一母岩の可能性がある。石器群の内訳は，剥片５点（３個体；16.0ｇ）である。接合資料は，剥片５点（３個体；16.0ｇ）である。

・**V16-46**：自然面は比較的平滑でにぶい黄色（2.5Y6/4）・黄灰色（2.5Y6/1）・黄褐色（2.5Y5/3）が縞状に入り，内部は暗灰色（N3/0）・黄褐色（2.5Y5/3）・灰色（2.5Y5/1）が縞状に入る硬質緻密な頁岩である。V16-42～44・50～52・56は同一母岩の可能性がある。石器群の内訳は，剥片２点（9.4ｇ）である。接合資料は，剥片２点（9.4ｇ）である。

・**V16-47**：自然面は灰白色（10Y8/1）・灰白色（10YR7/1），内部は暗灰色（N3/0）の資料，内部は灰色（N4/0）・黄灰色（2.5Y6/1）・褐灰色（10YR5/1）の資料など母岩内に変異がある硬質緻密な頁岩である。V16-45と同一母岩の可能性がある。石器群の内訳は，剥片５点（４個体；15.2ｇ）である。接合資料は，剥片３点（２個体；7.0ｇ）である。

・**V16-48**：自然面は比較的平滑で灰色（10Y6/1）に明黄褐色（10YR6/6）の砂質土が付着している。内部は褐灰色（10YR4/1）の硬質緻密な頁岩である。石刃１点（14.1ｇ）の単独資料である。

・**V16-49**：内部はオリーブ黒色（5Y3/1），節理は灰オリーブ色（5Y5/2）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片２点（１個体；7.9ｇ）である。接合資料は，使用痕ある剥片２点（１個体；7.9ｇ）である。

・**V16-50**：自然面は平滑で，自然面及び内部は黄灰色（2.5Y4/1）の地に暗灰色（N3/0）が部分的に混じる硬質緻密な頁岩である。V16-42～44・46・51・52・56は同一母岩の可能性がある。石器群の内訳は，剥片２点（１個体；0.7ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；0.7ｇ）である。

・**V16-51**：内部は暗灰色（N3/0）・黄灰色（2.5Y5/1）が縞状に入り，節理は黄褐色（2.5Y5/3）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（2.8ｇ）の単独資料であるが，V16-42～44・46・50・52・56は同一母岩の可能性がある。

・**V16-52**：自然面は比較的平滑で灰色（10Y5/1）・灰色（10Y4/1）・黄褐色（2.5Y5/3）が縞状に入り，内部は黒色（N2/0）の地に灰オリーブ色（5Y5/2）が部分的に縞状に入る硬質緻密な頁岩である。剥片１点（2.8ｇ）の単独資料であるが，V16-42～44・46・50・51・56は同一母岩の可能性がある。

・**V16-53**：自然面はにぶい黄橙色（10YR6/4）の地に灰白色（2.5Y7/1）が部分的に入り，内部は黄灰色（2.5Y6/1）の地に灰黄色（2.5Y7/2）・黄褐色（2.5Y5/3）・にぶい黄褐色（10YR5/4）が部分的に縞状に入り，節理は褐色（7.5YR4/4）の硬質緻密な頁岩である。石刃１点（17.7ｇ）の単独資料である。

・**V16-54**：自然面はにぶい黄色（2.5Y6/4）の資料，にぶい黄橙色（10YR6/3）の資料，内部は灰黄褐色（10YR5/2），

新鮮な面は灰黄褐色（10YR4/2）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（20.4ｇ）である。

・V16-55：自然面は黄灰色（2.5Y6/1）・黄灰色（2.5Y6/2），節理は浅黄色（2.5Y7/3）・にぶい黄色（2.5Y6/3），新鮮な面は黄灰色（2.5Y5/1）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（2.6ｇ）の単独資料である。

・V16-56：自然面は比較的平滑で暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は灰黄色（2.5Y5/1）・暗灰色（N3/0）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（5.3ｇ）の単独資料であるが，V16-42～44・46・50～52は同一母岩の可能性がある。

・V16-57：自然面は比較的平滑で暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は暗灰色（N3/0）・灰色（N4/0）の地に黄褐色（2.5Y5/4）が部分的に混じる硬質緻密な頁岩である。剥片１点（4.7ｇ）の単独資料である。

・V16-58：自然面は平滑で暗灰色（N3/0），内部は暗灰色（N3/0）の地に灰色（10Y4/1）が部分的に混じる硬質緻密な頁岩である。楔形石器１点（12.4ｇ）の単独資料である。

・V16-59：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（10Y5/1），節理は灰オリーブ色（5Y5/2）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（54.5ｇ）である。

・V16-60：内部は灰色（5Y6/1）の地に灰白色（5Y7/2）が放射状に入り，新鮮な面は灰色（5Y6/1）の頁岩である。石刃１点（25.1ｇ）の単独資料である。

・V16-61：自然面は平滑で灰白色（5Y8/2）・灰白色（5Y7/2），内部は白色（5Y7/2），節理は灰色（N6/0）・黄褐色（10YR5/6）・オリーブ灰色（2.5GY5/1）の頁岩である。石核１点（86.4ｇ）の単独資料であるが，V16-69と同一母岩の可能性がある。

・V16-62：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（7.5Y6/1）・灰白色（5Y7/2），節理は褐色（10YR4/4），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石器群の内訳は，石刃２点（90.3ｇ）である。

・V16-63：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は灰白色（5Y7/2）・灰色（5Y6/1），新鮮な面は灰白色（5Y7/1）の頁岩である。石刃１点（8.8ｇ）の単独資料である。

・V16-64：自然面は平滑で黄褐色（2.5Y5/4）・黄灰色（2.5Y4/1），内部は灰白色（5Y7/2）・灰黄色（2.5Y6/2）・灰色（5Y7/1）の頁岩である。石器群の内訳は，石刃１点，石核１点の合計２点（17.4ｇ）である。

・V16-65：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y6/2）・浅黄色（2.5Y7/3）の地に灰白色（5Y8/1）の粒が混じる頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（2.6ｇ）である。

・V16-66：自然面は平滑で灰色（5Y5/1）の地に黄褐色（2.5Y5/3）が部分的に混じり，内部は灰色（5Y6/1）の地に灰白色（5Y7/2）が部分的に混じる頁岩である。剥片１点（3.5ｇ）の単独資料である。

・V16-67：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰白色（5Y7/2）・浅黄色（2.5Y7/3）・オリーブ灰色（2.5GY6/1）の頁岩である。剥片１点（12.8ｇ）の単独資料である。

・V16-68：自然面は平滑で，自然面及び内部は浅黄色（2.5Y7/3）・灰オリーブ色（5Y6/2）の地に淡黄色（2.5Y8/3）が部分的に混じる頁岩である。剥片１点（9.5ｇ）の単独資料である。

・V16-69：内部は灰オリーブ色（5Y6/2），節理は褐色（10YR4/4），新鮮な面は灰色（5Y5/1）の頁岩である。V16-61と同一母岩の可能性がある。石器群の内訳は，剥片２点（3.7ｇ）である。

・V16-70：内部は灰白色（2.5Y8/2），新鮮な面は黄灰色（2.5Y4/1）の頁岩である。剥片１点（1.9ｇ）の単独資料である。

・V16-71：灰黄色（2.5Y6/2）の頁岩である。剥片１点（1.1ｇ）の単独資料である。

・V16-72：内部は灰黄色（2.5Y6/2）の地に淡黄色（2.5Y8/3）が部分的に混じり，節理は黄褐色（10YR5/6），

新鮮な面は灰色（10Y4/1）の頁岩である。剥片1点（13.7g）の単独資料である。

・V16-73：自然面は比較的平滑で灰白色（7.5Y8/2），内部は灰色（7.5Y6/1）の地に灰白色（7.5Y7/1）が縞状に入る頁岩である。剥片1点（3.9g）の単独資料である。

・V16-74：内部は灰黄色（2.5Y7/2）の地に浅黄色（2.5Y7/3）・褐色（7.5YR4/6）が部分的に混じり，節理は褐色（7.5YR4/3）の頁岩である。剥片1点（10.1g）の単独資料である。

・V16-75：灰オリーブ色（5Y6/2）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片3点（4.0g）である。

・V16-76：灰色（10Y6/1）・灰白色（5Y8/2）の地に褐色（10YR4/6）の付着が見られる軟質の安山岩である。剥片1点（3.5g）の単独資料である。

・V16-77：オリーブ黄色（5Y6/4）・淡黄色（5Y8/3）の地にオリーブ灰色（10Y5/2）・オリーブ灰色（10Y4/2）が部分的に混じる若干珪化度が高い凝灰岩である。剥片1点（20.6g）の単独資料である。

・V16-78：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y5/1）・灰色（5Y6/1），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）・褐色（7.5YR4/4）の砂岩である。石核1点（75.9g）の単独資料である。

・V16-79：自然面は平滑で灰オリーブ色（5Y5/2）の地に灰色（10Y4/1）・浅黄色（2.5Y7/3）が部分的に混じり，内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）・灰黄色（2.5Y6/2）の資料，自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y4/1）の資料など母岩内に変異があり，新鮮な面は灰色（5Y5/1）のホルンフェルスである。一部の資料は被熱による変色の可能性がある。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，剥片9点，石核1点の合計11点（301.8g）である。接合資料は，加工痕ある剥片1点，剥片9点，石核1点の合計11点（301.8g）である。

・V16-80：自然面は平滑で灰色（10Y4/1），内部は灰色（10Y4/1）・灰色（10Y5/1）の地に灰白色（5Y8/2）が部分的に混じり，節理は褐色（7.5YR4/4）・オリーブ褐色（2.5Y4/6）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片2点（69.8g）である。接合資料は，剥片2点（69.8g）である。

・V16-81：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（10Y5/1）の資料，自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰白色（5Y7/2）の資料，内部は灰色（10Y5/1）の資料など母岩内に変異があり，新鮮な面は灰色（N4/0）のホルンフェルスである。V16-82の一部と同一母岩の可能性がある。石器群の内訳は，剥片6点，砕片3点の合計9点（51.1g）である。

・V16-82：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（10Y5/1）・オリーブ黄色（5Y6/3）の資料，内部は灰白色（5Y7/1）の資料など母岩内に変異があり，新鮮な面は灰色（N4/0）のホルンフェルスである。V16-81の一部と同一母岩の可能性がある。石器群の内訳は，剥片5点，砕片1点の合計6点（73.0g）である。

・V16-83：自然面は比較的平滑で灰白色（2.5Y7/1）・浅黄色（2.5Y7/4），内部は灰黄色（2.5Y7/2）・灰黄色（2.5Y6/2）の資料，内部は黄灰色（2.5Y6/1）・黄灰色（2.5Y5/1）・灰黄色（2.5Y7/2）の資料など母岩内に変異があり，新鮮な面は暗灰色（N3/0），節理は褐色（10YR4/4）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，剥片1点，石核1点の合計3点（125.3g）である。接合資料は，加工痕ある剥片1点，剥片1点，石核1点の合計3点（125.3g）である。

・V16-84：自然面は比較的平滑で黄灰色（2.5Y5/1），内部はにぶい黄橙色（10YR7/3），節理は暗褐色（7.5YR3/4）のホルンフェルスである。石核1点（207.6g）の単独資料である。

・V16-85：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y5/1）の地に灰白色（5Y7/2）が部分的に混じるホルンフェルスである。V16-90と同一母岩の可能性がある。石器群の内訳は，剥片7点（94.9g）である。

・V16-86：灰色（10Y6/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片2点（4.0g）である。

・V16-87：灰色（5Y6/1）の地に灰黄色（2.5Y6/2）・黄灰色（2.5Y4/1）が部分的に混じるホルンフェルスである。剥片１点（17.4ｇ）の単独資料である。

・V16-88：黄灰色（2.5Y4/1）・にぶい黄色（2.5Y6/3）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点（１個体；1.6ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；1.6ｇ）である。

・V16-89：灰色（10Y5/1）のホルンフェルスである。剥片１点（5.7ｇ）の単独資料である。

・V16-90：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y5/1）の地に灰黄色（2.5Y7/2）が部分的に混じり，新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。V16-85と同一母岩の可能性がある。石器群の内訳は，剥片４点（42.4ｇ）である。

・V16-91：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y5/1）・灰色（10Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，剥片１点の合計２点（16.2ｇ）である。

・V16-92：にぶい黄橙色（10YR6/4）の地に灰黄色（2.5Y7/2）が筋状に入るホルンフェルスである。剥片１点（2.7ｇ）の単独資料である。

・V16-93：自然面は比較的平滑で灰色（10Y4/1）の地に浅黄色（2.5Y7/4）・灰黄色（2.5Y7/2）が部分的に混じり，内部は灰色（10Y5/1），節理は灰オリーブ色（5Y5/2）のホルンフェルスである。剥片１点（27.2ｇ）の単独資料である。

・V16-94：内部は灰色（5Y5/1）の地に灰白色（5Y7/2）が部分的に混じり，新鮮な面は灰色（7.5Y5/1）のホルンフェルスである。剥片１点（4.3ｇ）の単独資料である。

・V16-95：自然面は比較的平滑で灰黄色（2.5Y7/2）の地に灰色（10Y4/1）が点状に入り，内部は灰色（5Y6/1）の地に灰白色（5Y7/2）が部分的に混じるホルンフェルスである。剥片１点（6.5ｇ）の単独資料である。

・V16-96：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y5/1）のホルンフェルスである。剥片１点（2.7ｇ）の単独資料である。

・V16-97：灰色（5Y4/1）の地に灰白色（5Y7/2）が部分的に混じるホルンフェルスである。剥片１点（6.0ｇ）の単独資料である。

・V16-98：自然面は比較的平滑で灰色（10Y6/1）・灰色（10Y5/1），内部は灰色（N4/0）・オリーブ灰色（2.5GY5/1）・オリーブ灰色（10Y5/2），節理はオリーブ褐色（2.5Y4/4）・黄褐色（2.5Y5/4）のチャートである。加工痕ある剥片１点（40.6ｇ）の単独資料である。

・V16-99：自然面は比較的平滑で灰オリーブ色（5Y5/3）の地に灰色（5Y4/1）の筋が入り，内部は灰オリーブ色（5Y5/2），節理は黄褐色（2.5Y5/4）のチャートである。剥片１点（11.3ｇ）の単独資料である。

・V16-100：自然面は平滑で灰色（5Y4/1）・灰オリーブ色（5Y4/2），内部は灰色（N4/0）・灰オリーブ色（5Y5/2），節理はオリーブ褐色（2.5Y4/6）のチャートである。剥片１点（7.1ｇ）の単独資料である。

・V16-101：内部は灰色（N4/0），節理は灰オリーブ色（５Y4/2）のチャートである。剥片１点（2.3ｇ）の単独資料である。

・V16-102：自然面は爪形の裂痕が密で，自然面及び内部は明褐色（7.5YR5/6）・浅黄色（2.5Y7/3）の地に灰白色（5Y8/1）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片５点，石核１点の合計７点（48.3ｇ）である。接合資料は，加工痕ある剥片１点，剥片３点，石核１点の合計５点（45.9ｇ）である。

・V16-103：灰黄色（2.5Y7/2）の地に灰白色（2.5Y8/1）・暗赤褐色（2.5YR3/4）・にぶい黄橙色（10YR7/3）

が混じる瑪瑙・玉髄である。石核1点（26.6g）の単独資料である。

・V16-104：自然面は爪形の裂痕が密でにぶい赤褐色（5YR4/4），内部は灰黄色（2.5Y7/2）の地に暗赤褐色（5YR3/6）・灰黄色（2.5Y6/2）が混じる瑪瑙・玉髄である。剥片1点（12.7g）の単独資料である。

・V16-105：自然面は平滑で浅黄色（2.5Y7/4），内部は黄褐色（2.5Y5/4）の資料，黄褐色（2.5Y5/4）の地に灰白色（2.5Y7/1）が部分的に混じる資料，褐灰色（10YR6/1）の資料など母岩内に変異がある瑪瑙・玉髄である。V16-106と同一母岩の可能性がある。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，剥片5点，砕片3点，石核1点の合計10点（46.8g）である。接合資料は，剥片1点，石核1点の合計2点（21.8g）である。

・V16-106：褐灰色（10YR6/1）の地に淡黄色（2.5Y8/3）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。V16-105の一部と同一母岩の可能性がある。石器群の内訳は，剥片2点（1個体；7.6g）である。接合資料は，剥片2点（1個体；7.6g）である。

・V16-107：灰白色（5Y8/2）で半透明な地に灰白色（2.5Y8/1）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。剥片1点（8.0g）の単独資料である。

・V16-108：自然面は紙ヤスリ状でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は灰オリーブ色（5Y6/2）・にぶい黄褐色（10YR5/4）の地に暗灰色（N3/0）の筋が入るチャートである。剥片1点（4.6g）の単独資料である。

・V16-109：自然面は比較的平滑でにぶい黄橙色（10YR6/3）の地に黒褐色（10YR3/2）が部分的に混じり，内部はにぶい黄色（2.5Y6/3）のホルンフェルスである。石核1点（61.1g）の単独資料である。

・V16-110：自然面は平滑で，自然面及び内部はにぶい黄色（2.5Y6/4）の砂岩である。剥片1点（3.2g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Aの剥片7点，砕片4点の合計11点（7.6g），黒曜石Gの砕片26点（4.6g），流紋岩の砕片21点（8.1g），頁岩Cの砕片4点（1.0g），頁岩Dの剥片3点，砕片3点の合計6点（1.7g），頁岩Eの砕片3点（1.3g），砂岩の砕片3点（1.1g），ホルンフェルスの砕片4点（3.0g）がある。

3）出土遺物（第12～14図，第15図27・28）

1は安山岩による部分加工のナイフ形石器である。縦長剥片の打面側を基部として，右側縁下部に細かい調整加工を行っている。なお，左側縁下部の自然面も含め，基部加工と考えることも可能である。2は凝灰岩による基部加工のナイフ形石器である。縦長剥片の打面側を基部として，両側縁基部に調整加工を行っている。3はホルンフェルスによるナイフ形石器である。打面側を先端部として，左側縁下部の一部に素材の剥離面を残してほぼ全体に調整加工を行っている。調整加工のあり方など角錐状石器に類似しており，その可能性も否定できない。なお，上下逆にして，正面図左側縁の下部を刃部とする二側縁加工と考えた方が良いかもしれない。4は硬質緻密な頁岩によるナイフ形石器である。上半部を欠損していることから，形態は不明である。

5は嶺岡産頁岩による削器である。打面再生剥片と考えられる縦長剥片を用い，左側縁に調整加工を行っている。また，右側縁の一部には微細な剥離痕が見られる。

6は信州和田峠周辺産の黒曜石，7はチャート，8は瑪瑙・玉髄による加工痕ある剥片である。6は右側縁の下半部，7は右側縁の一部に調整加工が見られるが，7は石核と考えた方が良いかもしれない。8は打面側に急角度の調整加工を行っている。

9は流紋岩，10・11は嶺岡産頁岩，12は硬質緻密な頁岩による使用痕ある剥片である。いずれも石刃あ

るいは石刃状の縦長剥片を素材とし，９は左側縁，11は正面右側縁と裏面左側縁，12は左側縁下部と上部の折断面に微細な剥離痕が見られる。12は２点が接合して１個体となる。10は裏面左側縁に細かい剥離痕，正面末端の一部に微細な剥離痕が見られる。

13・14は硬質緻密な頁岩，15～18は頁岩による石刃である。16は正面右側縁，裏面左側縁と末端の一部，17は裏面左側縁の一部に細かい剥離痕が見られる。

19は凝灰岩による局部磨製石斧である。両面とも器体中央部に及ぶ大きな調整加工と周辺への細かい調整加工を行い，刃部が丁寧に研磨されている。

20は硬質緻密な頁岩，21は凝灰岩，22はホルンフェルスによる不定型な剥片である。20は２点が接合して１個体となる。

23は硬質緻密な頁岩，24・25は頁岩，26は砂岩，27はホルンフェルス，28は瑪瑙・玉髄による石核である。23・24・28は複剥離打面による両設打面の石核から比較的縦長の剥片を剥離している。いずれも，打面調整あるいは頭部調整が顕著であるが，24の末端は線状になっていることから，下端部の頭部調整状の細かい剥離痕は，両極打法により生じた可能性が高い。25～27は単剥離面打面あるいは複剥離面打面による単設打面の石核から不定型な剥片を剥離している。

４）接合資料とその関連資料（第15図29～32，第16～22図）

・**V16-15（第15図29～32）**　黒色などの黒曜石である。栃木県高原山産と考えられる。29は加工痕ある剥片２点（１個体；32），剥片１点（30），砕片１点（31）の接合資料である。32は末端の右側縁に調整加工を行っており，加工痕ある剥片２点が接合して１個体となる。

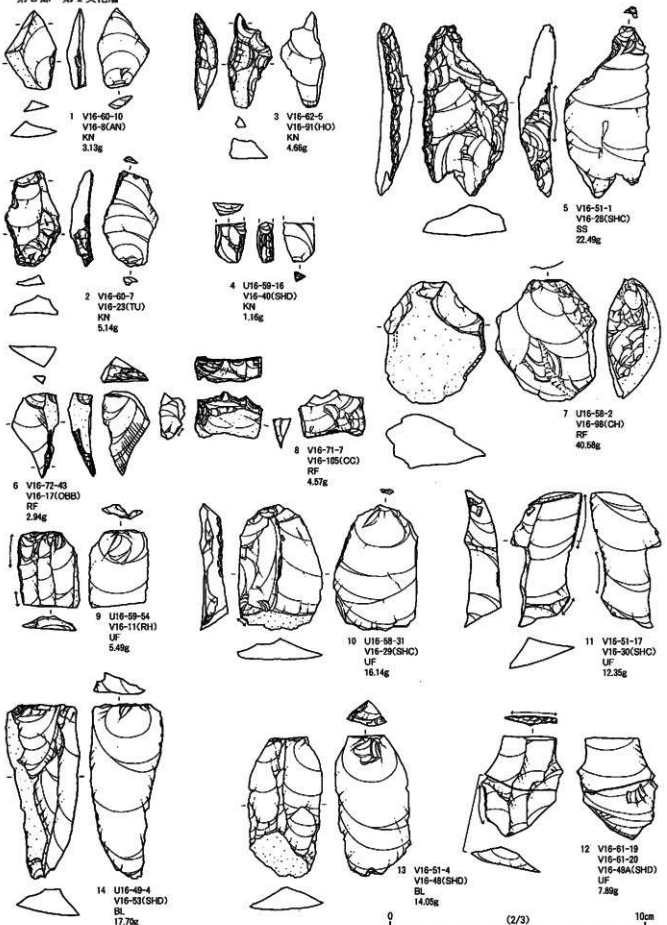
・**V16-43（第16図33～37）**　黄灰色（2.5Y6/1）などの硬質緻密な頁岩である。33は使用痕ある剥片１点（34），剥片４点（３個体；35～37）の接合資料である。その内，37は剥片２点が接合して１個体となる。側面も含め，90度の打面転移を行いながら，剥片を剥離した母岩と思われるが，打面再生剥片の可能性もある。34は末端の一部に微細な剥離痕が見られる。

・**V16-44（第16図38～40）**　暗灰色（N3/0）などの硬質緻密な頁岩である。38は剥片４点（２個体；39・40）の接合資料である。その内，39は剥片２点が接合して１個体，40は剥片２点が接合して１個体となる。

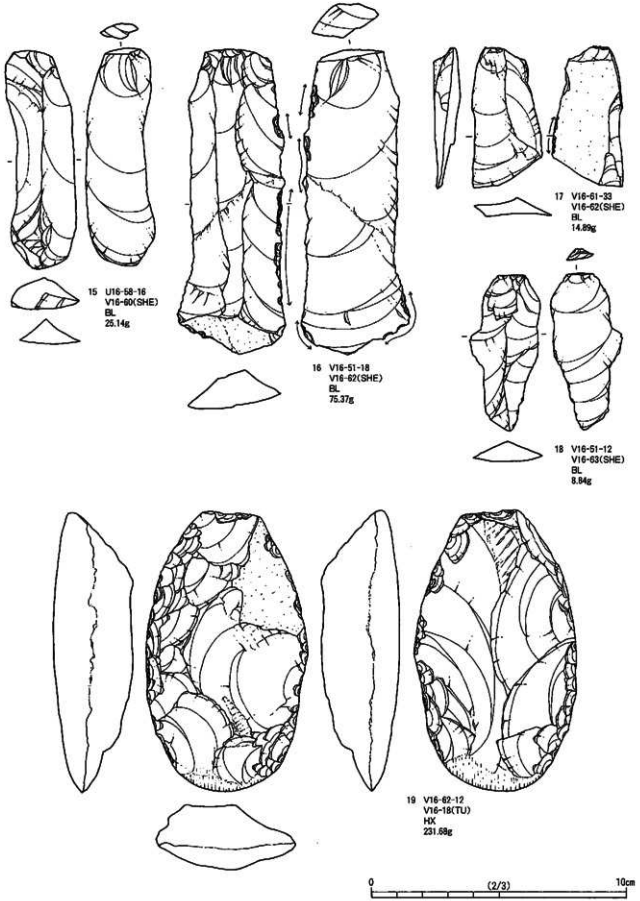
・**V16-45（第16図41～44）**　暗灰色（N3/0）などの硬質緻密な頁岩である。41は剥片５点（３個体；42～44）の接合資料である。その内，42は剥片２点が接合して１個体，44は剥片２点が接合して１個体となる。90度の打面転移を行いながら，不定型な剥片を剥離したものと思われるが，打面調整剥片の可能性もある。

・**V16-39（第17・18図）**　灰白色（2.5Y8/2）などの硬質緻密な頁岩である。45は使用痕ある剥片１点（48），剥片４点（３個体；47・52・53），砕片１点（55），石核５点（49～51・56・57）の接合資料である。節理の発達が顕著な母岩で，節理で分割あるいは欠損した個体を石核として，49・50・57は小型の縦長剥片，51・56は不定型な剥片を剥離している。49・50は元々，１個体であったが，２つに欠損後も，49は剥離を続けている。また，48は49・50を含む46の個体の打面再生剥片で，末端の一部に微細な剥離痕が見られる。なお，53は被熱の可能性があり，接合して１個体となる。

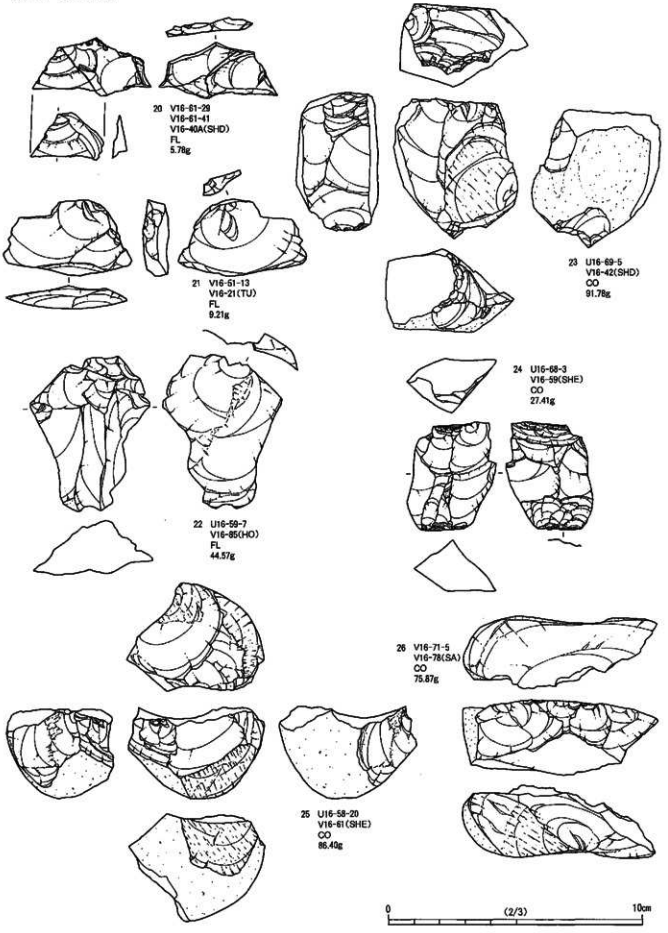
58～60は接合しなかった同一母岩の資料である。58は部分加工のナイフ形石器である。石刃の打面側を基部として，右側縁上部に調整加工を行っている。59は使用痕ある剥片である。石刃あるいは石刃状の縦長剥片を素材とし，右側縁の一部に微細な剥離痕が見られる。60は石刃である。左縁上部に微細な剥離痕が見られる。



第12図　V16-Aブロック出土遺物(１)



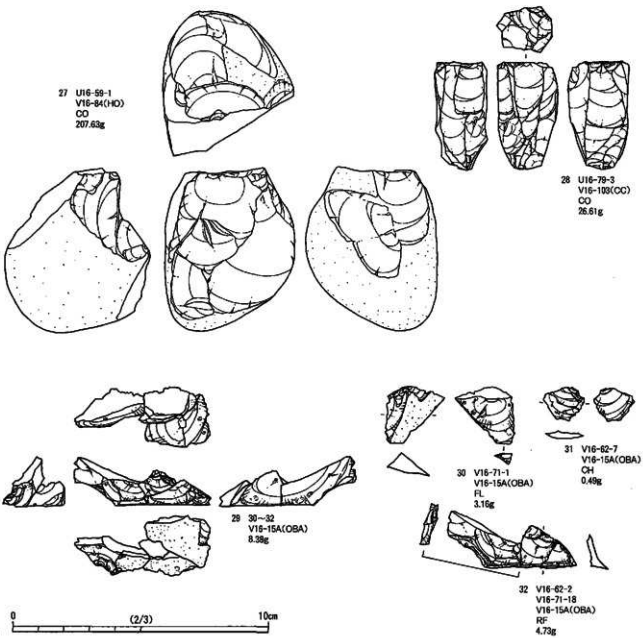
第13図　V16-Aブロック出土遺物(2)



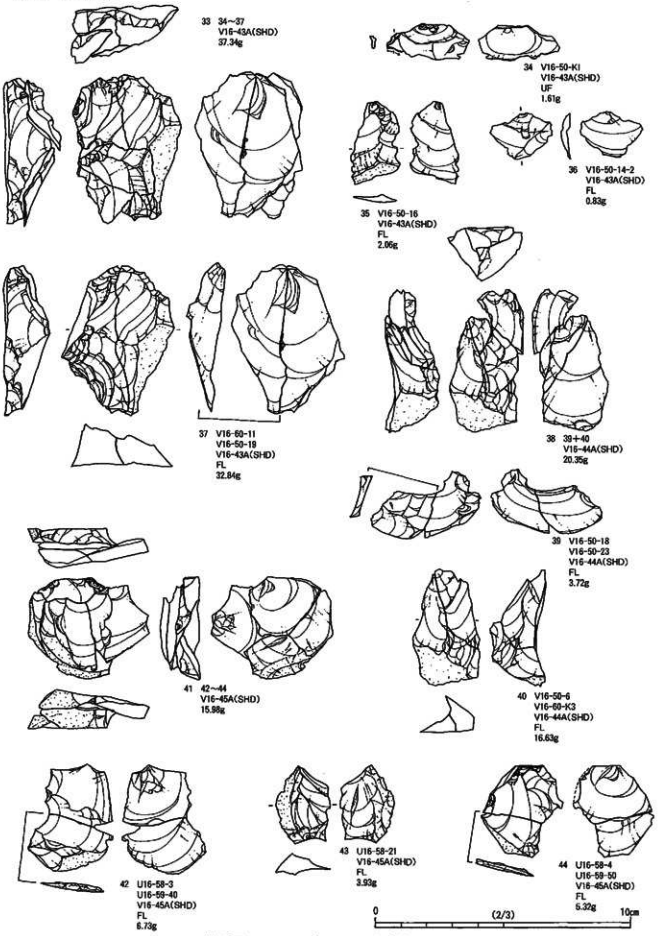
第14図　V16-Aブロック出土遺物（３）

・V16-79（第19図・第20図67～72）　暗灰黄色（2.5Y5/2）などのホルンフェルスである。61は加工痕ある剥片１点（69），剥片９点（62～68，70・71），石核１点（72）の接合資料である。子供の拳大の不定型な礫を素材として，打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。69は裏面右側縁の一部に調整加工を行っている。70は被熱の可能性がある。

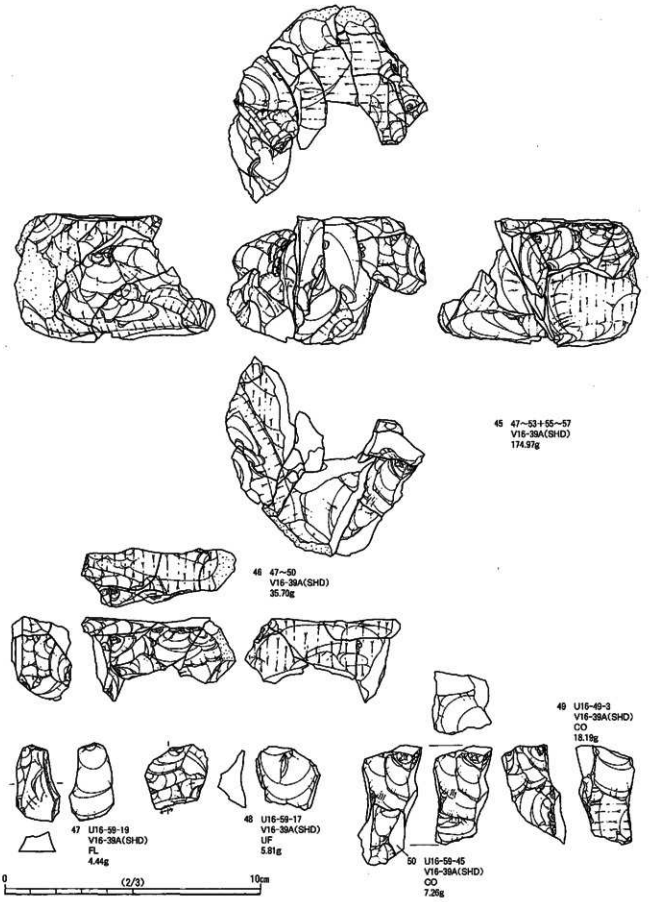
・V16-83（第20図73，第21図74～76）　灰黄色（2.5Y7/2）などのホルンフェルスである。73は加工痕ある剥片１点（74），剥片１点（75），石核１点（76）の接合資料である。74の剥離方向などから，当初は打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離したものと考えられるが，最終的には75を含む縦長剥片を剥離している。74は右側縁の一部に調整加工を行っている。



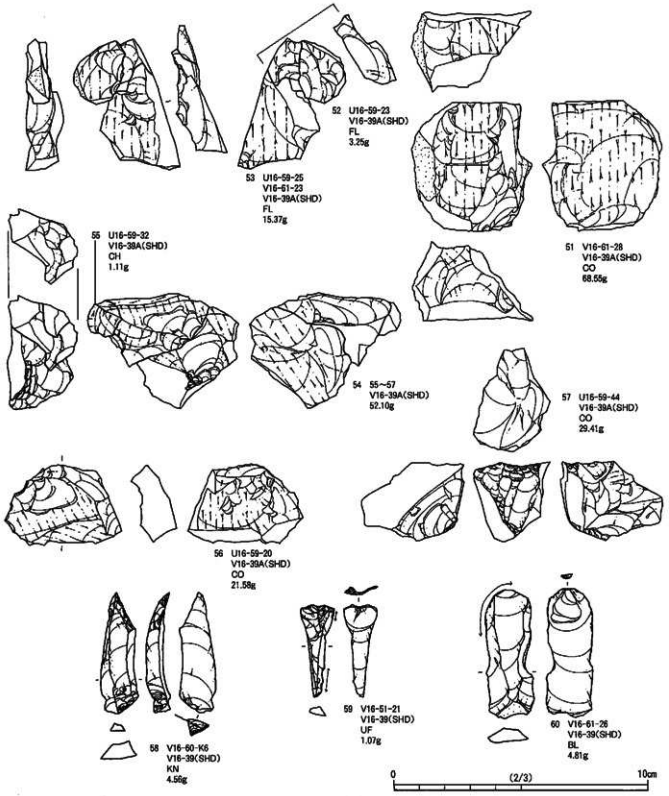
第15図　V16-Aブロック出土遺物（４）



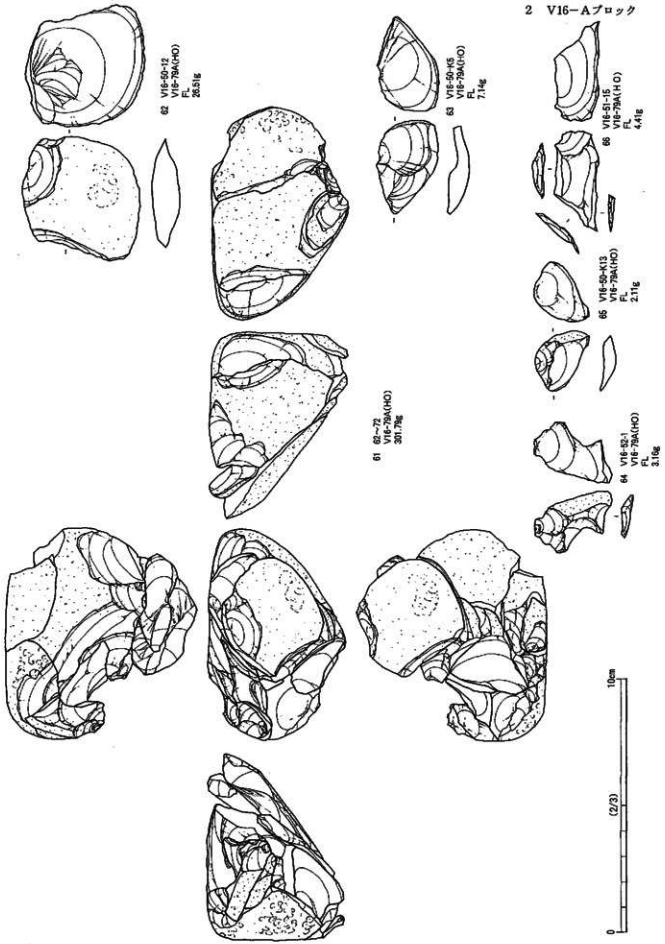
第16図　V16-Aブロック出土遺物(５)



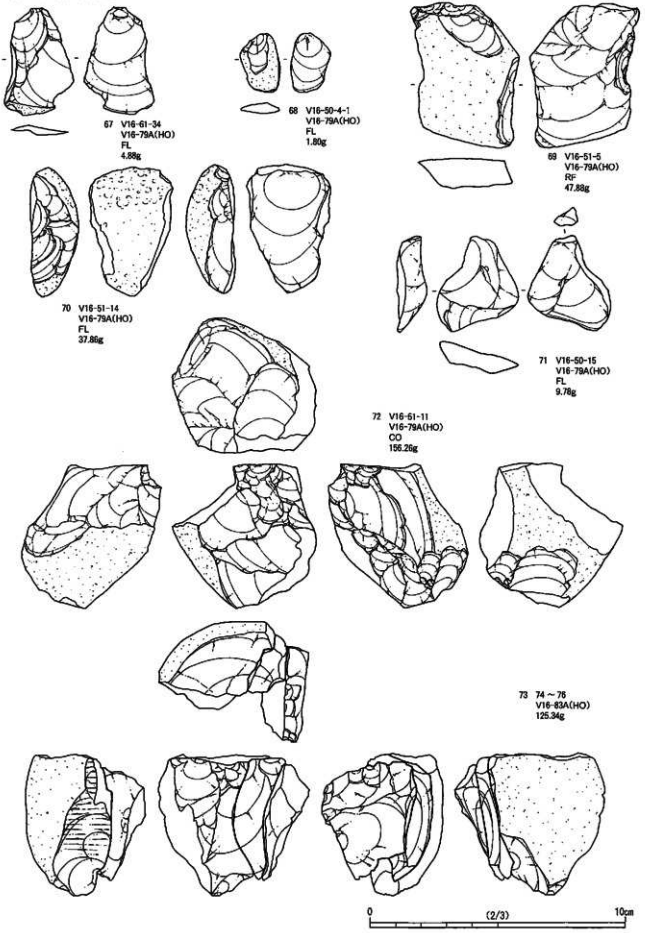
第17図　V16-Aブロック出土遺物(6)



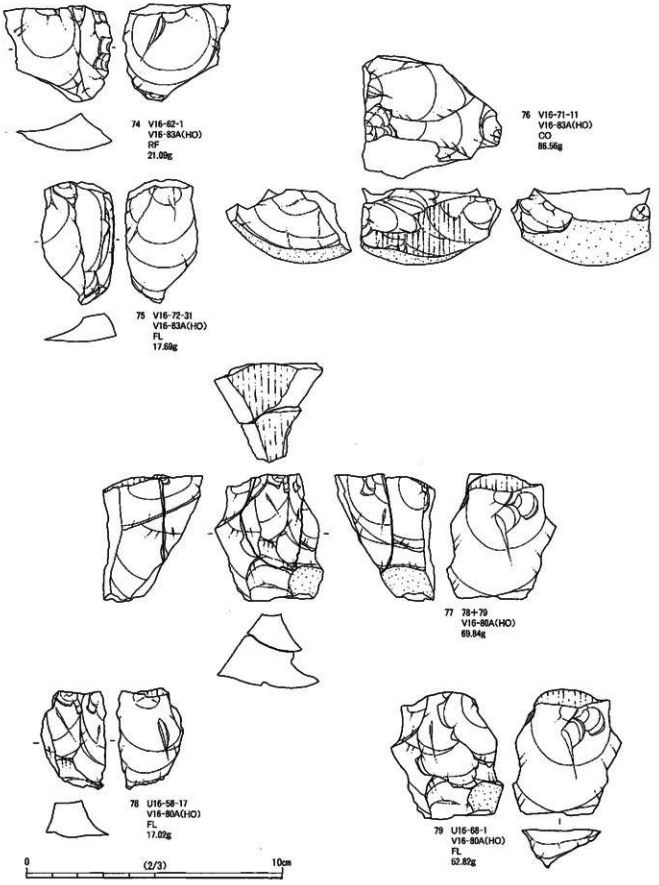
第18図　V16-Aブロック出土遺物(７)



第19図　V16-Aブロック出土遺物(8)



第20図　V16-Aブロック出土遺物(9)

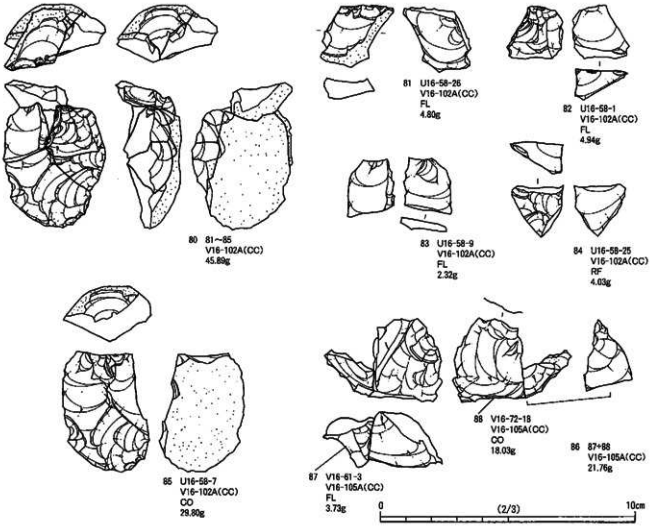


第21図　V16-Aブロック出土遺物(10)

・V16-80（第21図77～79）　灰色（10Y4/1）などのホルンフェルスである。77は剥片2点（78・79）の接合資料である。78・79は両設打面の石核から剥離された厚みのある不定型な剥片である。

・V16-102（第22図80～85）　明褐色（7.5YR5/6）などの瑪瑙・玉髄である。80は加工痕ある剥片1点（84），剥片3点（81～83），石核1点（85）の接合資料である。81を剥離して，打面を作出して82・84，83を剥離し，その後，求心的な剥離作業により不定型な剥片を剥離している。84は折断面を打面として，調整加工を行っている。

・V16-105（第22図86～88）　黄褐色（2.5Y5/4）などの瑪瑙・玉髄である。86は剥片1点（87），石核1点（88）の接合資料である。



第22図　V16-Aブロック出土遺物(11)

3　V17-Aブロック（第23～26・397図，第6～8表，カラー図版2・19，図版4）

1）ブロックの概要

V17-Aブロックは，調査範囲東側のV17-46・54～57・64～67・75・76グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側北台地上の縁辺部である。

ブロックの規模と形状は，長軸17m，短軸12mの範囲に143点の石器・礫が分布する。その内，原位置不

明の遺物が１点ある。出土層位は，Ⅳ層からⅩ層にかけて，160cmほどの高低差をもって包含されている（第23・24図）。

ブロックは，ナイフ形石器２点，削器１点，加工痕ある剥片２点，使用痕ある剥片１点，剥片80点（79個体），砕片19点，石核７点（６個体）の合計112点（110個体）と礫31点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ１点，黒曜石Ｇ１点，安山岩68点（66個体），軟質の安山岩２点，頁岩Ｃ20点，頁岩Ｄ１点，チャート３点，凝灰岩６点，瑪瑙・玉髄10点である。礫石材は，チャート21点（５母岩；288.0ｇ），砂岩10点（４母岩；259.0ｇ）で，識別率は100％である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは36母岩を識別した。内訳は黒曜石Ｂ１母岩（V17-20），黒曜石Ｇ１母岩（V17-38），安山岩23母岩（V17-１～18・33～37），軟質の安山岩１母岩（V17-19），頁岩Ｃ２母岩（V17-24・25），頁岩Ｄ１母岩(V17-23)，チャート３母岩(V17-28・39・40)，凝灰岩２母岩(V17-21・22)，瑪瑙・玉髄２母岩(V17-26・27）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は89％（100/112点）である。

・V17-１：黄灰色（2.5Y5/1）の安山岩である。石器群の内訳は，石核２点（１個体；19.2ｇ）である。接合資料は，石核２点（１個体；19.2ｇ）である。

・V17-２：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y4/2）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点（１個体；6.4ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；6.4ｇ）である。

・V17-３：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片４点（22.7ｇ）である。

・V17-４：自然面は爪形の裂痕が密で黄褐色(2.5Y5/3)，内部は暗灰黄色(2.5Y5/2)，新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。石器群の内訳は，剥片３点（13.9ｇ）である。

・V17-５：内部は暗オリーブ色（5Y4/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片３点（3.6ｇ）である。

・V17-６：黄灰色（2.5Y5/1）の安山岩である。石核１点（43.0ｇ）の単独資料である。

・V17-７：自然面は紙ヤスリ状で灰色（5Y4/1）内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y4/1）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点（30.7ｇ）である。

・V17-８：内部は灰色(5Y6/1)，新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点(18.0ｇ）である。

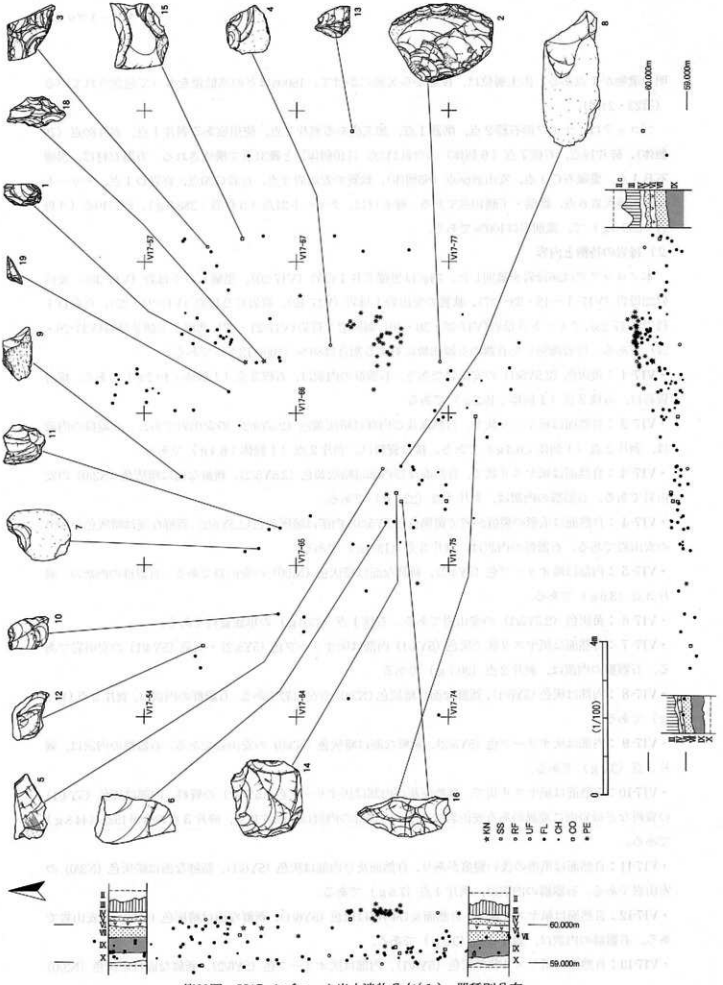
・V17-９：内部は灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片３点（3.2ｇ）である。

・V17-10：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y4/2）の資料，内部は灰色（5Y4/1）の資料など母岩内に変異がある安山岩である。石器群の内訳は，剥片12点，砕片３点の合計15点（44.8ｇ）である。

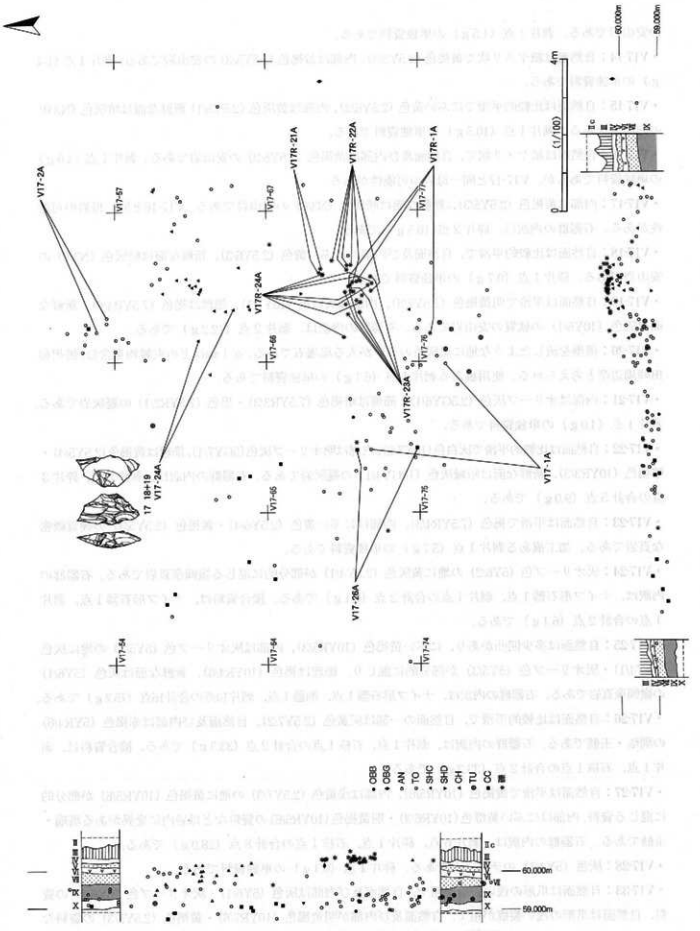
・V17-11：自然面は爪形の浅い裂痕があり，自然面及び内部は灰色（5Y6/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片４点（7.6ｇ）である。

・V17-12：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰色（5Y6/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片３点（3.9ｇ）である。

・V17-13：自然面は紙ヤスリ状で灰色（5Y6/1），内部は灰オリーブ色（5Y6/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）



第23図　V17-Aブロック出土遺物分布(1)－器種別分布－



第24図　V17-Aブロック出土遺物分布(２)－石材別分布－

の安山岩である。剥片1点（1.5g）の単独資料である。

・V17-14：自然面は紙ヤスリ状で黄褐色（2.5Y5/4），内部は黄褐色（2.5Y5/3）の安山岩である。剥片1点（1.4g）の単独資料である。

・V17-15：自然面は比較的平滑でにぶい黄色（2.5Y6/3），内部は黄灰色（2.5Y5/1）新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片1点（10.5g）の単独資料である。

・V17-16：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は黄褐色（2.5Y5/3）の安山岩である。剥片1点（4.6g）の単独資料であるが，V17-17と同一母岩の可能性がある。

・V17-17：内部は黄褐色（2.5Y5/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。V17-16と同一母岩の可能性がある。石器群の内訳は，砕片2点（0.5g）である。

・V17-18：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部はにぶい黄色（2.5Y6/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。砕片1点（0.7g）の単独資料である。

・V17-19：自然面は平滑で明黄褐色（2.5Y7/6），内部は灰白色（10Y7/1），節理は褐色（7.5YR4/6），新鮮な面は灰色（10Y6/1）の軟質の安山岩である。石器群の内訳は，剥片2点（12.2g）である。

・V17-20：薄墨を流したような地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。φ1mmほどの夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。使用痕ある剥片1点（6.1g）の単独資料である。

・V17-21：内部はオリーブ灰色（2.5GY6/1），節理は暗褐色（7.5YR3/3）・黒色（7.5YR2/1）の凝灰岩である。剥片1点（4.0g）の単独資料である。

・V17-22：自然面は比較的平滑で灰白色（10Y7/2），内部は明オリーブ灰色（5GY7/1），節理は黄褐色（2.5Y5/4）・暗褐色（10YR3/3），新鮮な面は暗緑灰色（10GY4/1）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片2点，砕片3点の合計5点（9.0g）である。

・V17-23：自然面は平滑で褐色（7.5YR4/3），内部はにぶい黄色（2.5Y6/4）・黄褐色（2.5Y5/4）の硬質緻密な頁岩である。加工痕ある剥片1点（5.7g）の単独資料である。

・V17-24：灰オリーブ色（5Y6/2）の地に黄灰色（2.5Y4/1）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，剥片1点の合計2点（6.1g）である。接合資料は，ナイフ形石器1点，剥片1点の合計2点（6.1g）である。

・V17-25：自然面は多少凹凸があり，にぶい黄褐色（10YR5/3），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の地に灰色（5Y4/1）・灰オリーブ色（5Y5/3）が部分的に混じり，節理は褐色（10YR4/6），新鮮な面は灰色（5Y6/1）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，削器1点，剥片14点の合計16点（75.2g）である。

・V17-26：自然面は比較的平滑で，自然面の一部は灰黄色（2.5Y7/2），自然面及び内部は赤褐色（5YR4/6）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片1点，石核1点の合計2点（33.3g）である。接合資料は，剥片1点，石核1点の合計2点（33.3g）である。

・V17-27：自然面は平滑で黄褐色（10YR5/6），内部は浅黄色（2.5Y7/3）の地に黄褐色（10YR5/6）が部分的に混じる資料，内部はにぶい黄橙色（10YR6/3）・明黄褐色（10YR6/6）の資料など母岩内に変異がある瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片6点，砕片1点，石核1点の合計8点（28.0g）である。

・V17-28：灰色（5Y4/1）のチャートである。砕片1点（0.1g）の単独資料である。

・V17-33：自然面は爪形の浅い裂痕が粗で，自然面及び内部は灰色（5Y6/1）・灰オリーブ色（5Y6/2）の資料，自然面は爪形の浅い裂痕が粗で，自然面及び内部が明黄褐色（10YR7/6）・黄褐色（2.5Y5/3）の資料な

ど母岩内に変異があり，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点（84.4ｇ）である。

・V17-34：内部は灰オリーブ色（5Y4/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片１点（18.2ｇ）の単独資料である。

・V17-35：内部は灰色（5Y5/1）・灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石核１点（31.8ｇ）の単独資料である。

・V17-36：自然面は爪形の浅い裂痕が密で，自然面及び内部は灰色（5Y6/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（11.8ｇ）である。

・V17-37：自然面は紙ヤスリ状で，自然面はオリーブ褐色（2.5Y4/4）・灰オリーブ色（5Y4/2），内部は灰色（5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片１点（7.3ｇ）の単独資料である。

・V17-38：黒色の黒曜石である。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。産地は不明であるが，栃木県高原山産の可能性もある。石核１点（5.8ｇ）の単独資料である。

・V17-39：自然面は平滑で，自然面及び内部はオリーブ黒色（5Y3/1）のチャートである。剥片１点（1.7ｇ）の単独資料である。

・V17-40：自然面は平滑で，自然面はオリーブ褐色（2.5Y4/4），内部はオリーブ灰色（7.5Y5/2），節理はオリーブ褐色（2.5Y4/4）のチャートである。剥片１点（7.1ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の剥片４点，砕片６点の合計10点（4.1ｇ），頁岩Ｃの砕片２点（0.1ｇ）がある。

3）出土遺物（第25図，第26図12～16）

１は嶺岡産頁岩による基部加工のナイフ形石器である。不定型な剥片の打面側を基部として，両側縁基部に調整加工を行っている。

２は嶺岡産頁岩による削器である。大型の横長剥片を素材として，両側縁に調整加工を行っている。

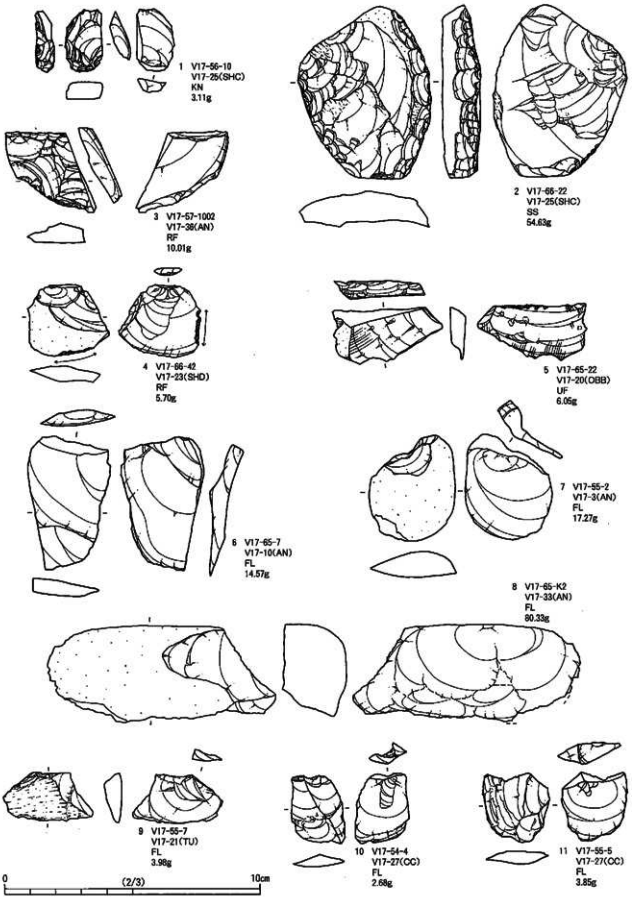
３は安山岩，４は硬質緻密な頁岩による加工痕ある剥片である。３は上部の折断面を打面として調整加工を行っている。末端の細かい剥離痕については，主要剥離面あるいは折断面との新旧関係がないため，調整加工かどうか不明である。４は裏面右側縁に調整加工，正面末端と裏面右側縁に微細な剥離痕が見られる。

５は信州和田峠周辺産の黒曜石による使用痕ある剥片である。上部の折断面に微細な剥離痕が見られる。６～８は安山岩，９は凝灰岩，10～11は瑪瑙・玉髄による剥片である。６は縦長剥片，８は大型で厚みのある横長剥片，残りは不定型な剥片である。

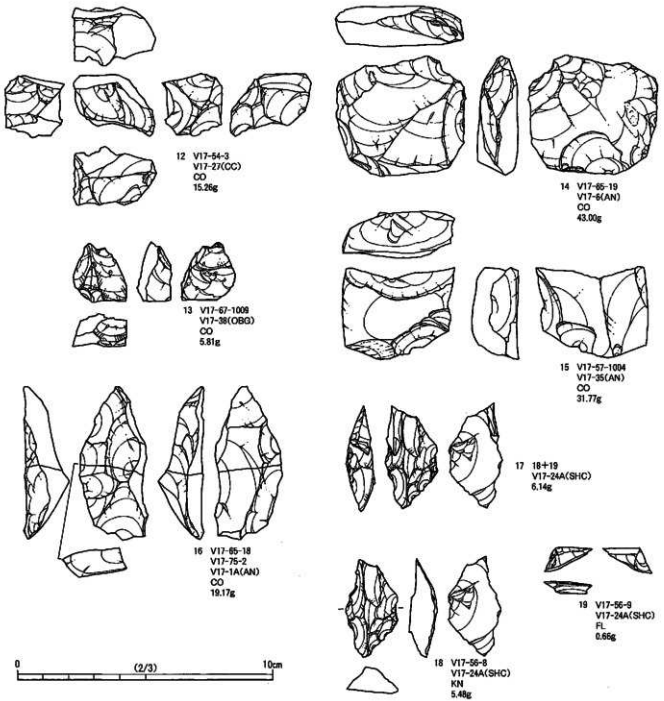
12は瑪瑙・玉髄，13は産地不明の黒曜石，14～16は安山岩による石核である。12・13は打面転移を繰り返しながら不定型な剥片を剥離し，14～16は求心的な剥離作業により，比較的横長の剥片を剥離している。16は２点が接合して１個体となる。

4）接合資料とその関連資料（第26図17～19）

・V17-24（第26図17～19）　灰オリーブ色（5Y6/2）などの嶺岡産頁岩である。17はナイフ形石器１点（18），剥片１点（19）の接合資料である。18は横長剥片を横位に用い，右側縁と左側縁の一部に鋸歯状の調整加工を行っている。19は調整剥片である。



第25図　V17-Aブロック出土遺物(１)



第26図　V17-Aブロック出土遺物(2)

第6表　V17-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
V17-1(AN)																			2(1)						2(1)
V17-2(AN)																	2(1)								2(1)
V17-3(AN)																	4								4
V17-4(AN)																	3								3
V17-5(AN)																	3								3
V17-6(AN)																			1						1
V17-7(AN)																	2								2
V17-8(AN)																	2								2
V17-9(AN)																	3								3
V17-10(AN)																	12	3							15
V17-11(AN)																	4								4
V17-12(AN)																	3								3
V17-13(AN)																	1								1
V17-14(AN)																	1								1
V17-15(AN)																	1								1
V17-16(AN)																	1								1
V17-17(AN)																		2							2
V17-18(AN)																		1							1
V17-19(TO)																	2								2
V17-20(OBB)											1														1
V17-21(TU)																	1								1
V17-22(TU)																	2	3							5
V17-23(SHD)										1															1
V17-24(SHC)	1																1								2
V17-25(SHC)	1						1										14								16
V17-26(CC)																	1		1						2
V17-27(CC)																	6	1	1						8
V17-28(CH)																		1							1
V17-33(AN)																	2								2
V17-34(AN)																	1								1
V17-35(AN)																			1						1
V17-36(AN)										1							1								2
V17-37(AN)																	1								1
V17-38(OBG)																			1						1
V17-39(CH)																	1								1
V17-40(CH)																	1								1
その他(AN)																	4	6							10
その他(SHC)																		2							2
合　計	2						1			2	1						80(79)	19	7(6)						112(110)

第7表　V17-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
黒曜石B(OBB)											1														1
黒曜石G(OBG)																			1						1
安山岩(AN)										1							51(50)	12	4(3)						68(66)
安山岩(TO)																	2								2
頁岩C(SHC)	2						1										15	2							20
頁岩D(SHD)										1															1
チャートH(CH)																	2	1							3
凝灰岩(TU)																	3	3							6
珠髓・玉髓(CC)																	7	1	2						10
合　計	2						1			2	1						80(79)	19	7(6)						112(110)

第8表　V17-Aブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
V17R-1	CH	3	8.23
V17R-2	CH	4	20.98
V17R-3	SA	1	6.08
V17R-4	SA	1	2.39
V17R-20	CH	1	4.13

母　岩	石　材	個数	重量
V17R-21	SA	2	103.90
V17R-22	SA	6	146.62
V17R-23	CH	6	133.15
V17R-24	CH	7	121.53

石　材	個数	重量
チャートH(CH)	21	288.02
砂岩(SA)	10	258.99
合　計	31	547.01

4　N18-Dブロック（第27・28・397図，第９・10表，カラー図版２）

1）ブロックの概要

N18-Dブロックは，調査範囲西側のN18-26グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側台地上の縁辺部である。

ブロックの規模と形状は，２ｍの直線状に３点の石器が分布する。出土層位は，Ⅸc層からⅩa層にかけて，30cmほどの高低差をもって包含されている（第27図）。

ブロックは，使用痕ある剥片１点，剥片２点の合計３点で構成される。石器石材は，頁岩Ｃ２点，チャート１点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，頁岩Ｃ２母岩（N18-１・３），チャート１母岩（N18-４）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（３/３点）である。

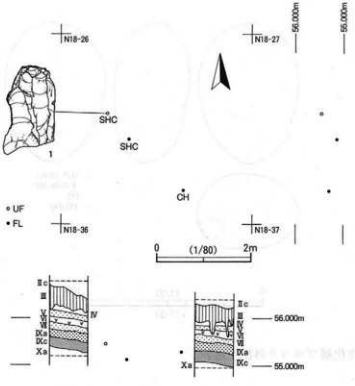
・N18-１：自然面は比較的平滑で，自然面は黄灰色（2.5Y5/1），内部は灰色（5Y5/1）・灰オリーブ色（5Y5/2）の地に暗灰色（N3/0）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片１点（17.9ｇ）の単独資料である。

・N18-３：自然面は平滑で灰黄褐色（10YR4/2），内部は灰オリーブ色（5Y4/2）・灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（2.4ｇ）の単独資料である。

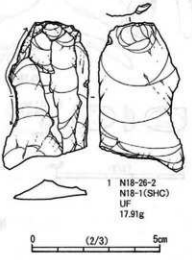
・N18-４：灰色（5Y4/1）のチャートである。剥片１点（0.8ｇ）の単独資料である。

3）出土遺物（第28図）

１は嶺岡産頁岩による使用痕ある剥片である。石刃あるいは石刃状の縦長剥片の左側縁に微細な剥離痕が見られる。



第27図　N18-Dブロック出土遺物分布
－器種・石材別分布－



第28図　N18-Dブロック出土遺物

第9表　N18-Dブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
N18-1(SHC)											1														1
N18-3(SHC)																	1								1
N18-4(CH)																	1								1
合計											1						2								3

第10表　N18-Dブロック石材別石器組成

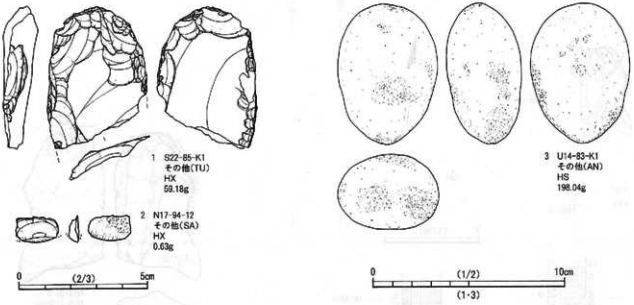
石材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
頁岩C(SHC)											1						1								2
チャート(CH)																	1								1
合計											1						2								3

5　ブロック外（第29・30図，カラー図版2）

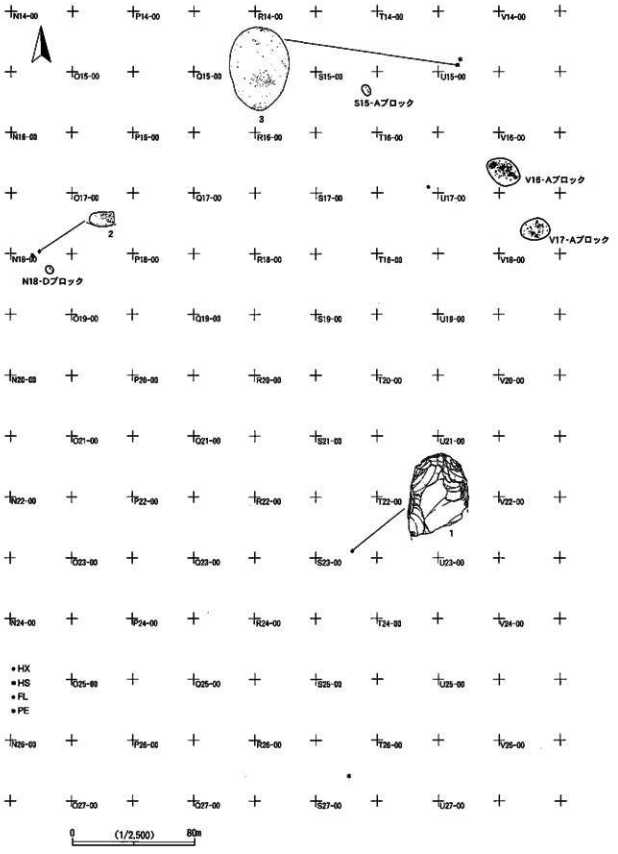
ここでは第1文化層のブロックを形成していないグリッド単独（原則として2点以下）の出土遺物について記述する。局部磨製石斧2点，敲石1点，剥片3点，礫2点の合計8点が出土した。

1はオリーブ灰色（2.5GY6/1）の凝灰岩による局部磨製石斧である。両面の周辺に調整加工を行っている。局部磨製石斧としたが，本資料に研磨痕は見られない。2は自然面が平滑で，自然面及び敲打面は暗灰黄色（2.5Y4/2）の砂岩による局部磨製石斧の刃部破片である。

3は自然面が比較的平滑，自然面及び内部は褐灰色（10YR5/1）・灰褐色（5YR5/2）の安山岩による敲石である。上下両端に浅い敲打痕が見られる。なお，灰褐色（5YR5/2）は被熱による変色の可能性がある。



第29図　第1文化層ブロック外出土遺物



第30図 第１文化層ブロック外出土遺物分布

第３節　第２文化層

第２文化層は，立川ローム層第２黒色帯下半部（Ⅶ層～Ⅸ層）に包含される石器群である。S24-F，R24-A，Q25-B，S25-K，S26-E・Fブロックの６か所が該当する。なお，本文化層は出土層位に幅があることなどから，細分される可能性もある。

1　S24-Fブロック（第31・32・397図，第11・12表，カラー図版２）

1）ブロックの概要

S24-Fブロックは，調査範囲東側のS24-73・74グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は25mである。

ブロックの規模と形状は，長軸４m，短軸１mの範囲に４点の石器が分布する。その内，垂直分布のない遺物が１点ある。出土層位は，Ⅶ層からⅩ層にかけて，10cmほどの高低差をもって包含されている（第31図）。なお，Ⅶ層～Ⅸ層・Ⅹ層の上部はⅢ層（ローム漸移層及びソフトローム化した層），下部は水つきロームとなっている。

ブロックは，石刃１点，剥片３点の合計４点で構成される。石器石材は，流紋岩１点，頁岩Ｅ２点，瑪瑙・玉髄１点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，流紋岩１母岩（S24-69），頁岩Ｅ１母岩（S24-70），瑪瑙・玉髄１母岩（S24-71）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（４/４点）である。

・**S24-69**：自然面は比較的平滑で浅黄色(2.5Y7/4)，内部は浅黄色(5Y7/3)・浅黄色(2.5Y7/4)・黄褐色(10YR5/6)，節理はにぶい黄褐色（10YR4/3）で多孔質な流紋岩である。剥片１点（5.9ｇ）の単独資料である。

・**S24-70**：灰白色（5Y8/2）の資料，灰オリーブ色（5Y6/2）の地に浅黄色（2.5Y7/4）が部分的に混じる資料など母岩内に変異がある頁岩である。石器群の内訳は，石刃１点，剥片１点の合計２点（25.1ｇ）である。

・**S24-71**：にぶい黄色（2.5Y6/4）・黄灰色（2.5Y5/1）で半透明な瑪瑙・玉髄である。剥片１点（3.0ｇ）の単独資料である。

3）出土遺物（第32図）

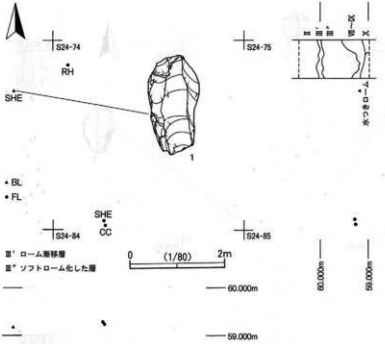
１は頁岩による石刃である。器体左側には稜上調整の剥離痕が見られる。

第11表　S24-Fブロック母岩別石器組成

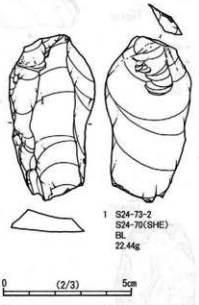
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
S24-69(RH)																	1								1
S24-70(SHE)												1					1								2
S24-71(CC)																	1								1
合　計												1					3								4

第12表　S24-Fブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
流紋岩(RH)																	1								1
頁岩E(SHE)												1					1								2
瑪瑙・玉髄(CC)																	1								1
合　計												1					3								4



第31図　S24－Fブロック出土遺物分布
－器種・石材別分布－



第32図　S24－Fブロック出土遺物

2　R24-Aブロック（第33～35・397図，第13・14表，カラー図版２・19，図版４）

1）ブロックの概要

R24-Aブロックは，調査範囲東側のR24-82～85・93・95グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は15mである。

ブロックの規模と形状は，長軸11m，短軸５mの範囲に21点の石器が分布する。出土層位は，Ⅶ層からⅨc層にかけて，50cmほどの高低差をもって包含されている（第33・34図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，局部磨製石斧１点，剥片17点（16個体），砕片２点の合計21点（20個体）で構成される。石器石材は，頁岩Ｄ１点，頁岩Ｅ３点，ホルンフェルス13点，瑪瑙・玉髄１点，礫岩２点（１個体），蛇紋岩１点である。

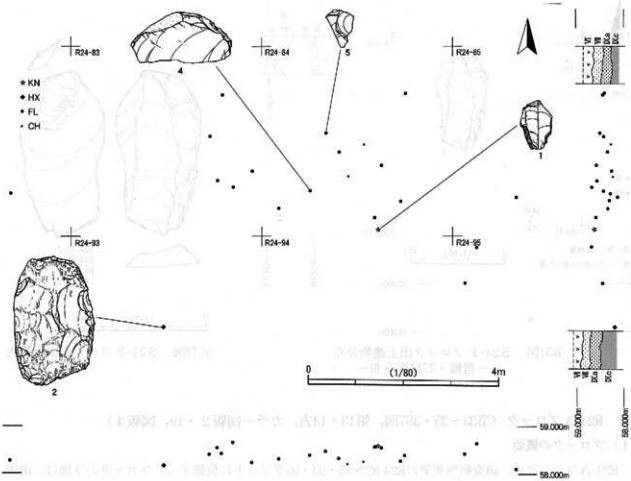
2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは11母岩を識別した。内訳は，頁岩Ｄ１母岩（R24-４），頁岩Ｅ１母岩（R24-３），礫岩１母岩（R24-２），ホルンフェルス６母岩（R24-５～10），蛇紋岩１母岩（R24-１），瑪瑙・玉髄１母岩（R24-11）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は90％（19/21点）である。

・**R24-1**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は暗緑灰色（7.5GY3/1）・明緑灰色（7.5GY7/1）・緑灰色（7.5GY5/1）の蛇紋岩である。局部磨製石斧１点（102.5ｇ）の単独資料である。

・**R24-2**：灰白色（N8/0）・灰色（7.5Y6/1）の地に暗灰色（N3/0）が部分的に混じる礫岩である。石器群の内訳は，剥片２点（１個体；6.1ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；6.1ｇ）である。

・**R24-3**：自然面は平滑で浅黄色（5Y7/3），内部は灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は褐灰色（10YR4/1）の資料，R24-85-K1の自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（10Y5/1）に灰白色（7.5Y7/1）の筋が入り，新鮮な面は灰色（10Y4/1）の資料など母岩内に変異がある頁岩である。石器群の内訳は，剥片３点（42.6ｇ）



第33図　Ｒ24-Ａブロック出土遺物分布（１）－器種別分布－

である。

・**R24-4**：オリーブ黄色（5Y6/3）・淡黄色（5Y8/3）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（2.9ｇ）の単独資料である。

・**R24-5**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（10Y4/1），新鮮な面は灰色（10Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点（22.6ｇ）である。

・**R24-6**：内部は灰色（10Y4/1），新鮮な面は灰色（N4/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片３点（35.7ｇ）である。接合資料は，剥片２点（29.7ｇ）である。

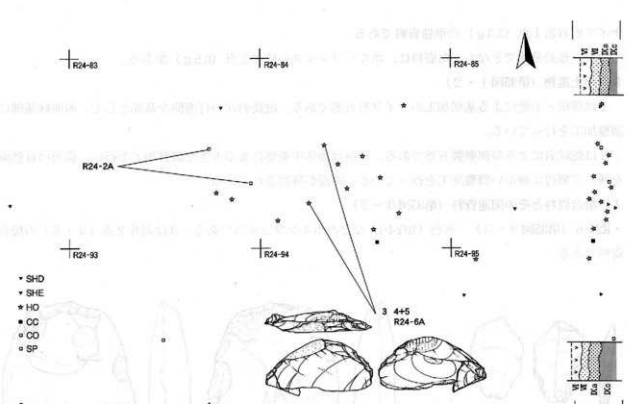
・**R24-7**：内部は灰オリーブ色（7.5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点（8.2ｇ）である。

・**R24-8**：灰色（7.5Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点（9.1ｇ）である。

・**R24-9**：灰オリーブ色（7.5Y5/2）のホルンフェルスである。剥片１点（3.3ｇ）の単独資料であるが，R24-10と同一母岩の可能性がある。

・**R24-10**：灰オリーブ色（7.5Y5/2）のホルンフェルスである。剥片１点（3.1ｇ）の単独資料であるが，R24-9と同一母岩の可能性がある。

・**R24-11**：自然面は平滑で黄褐色（10YR5/6），内部は浅黄色（2.5Y7/4）で半透明な瑪瑙・玉髄である。



第34図　R24-Aブロック出土遺物分布(2)－石材別分布－

第13表　R24-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
R24-1(SP)													1												1
R24-2(CO)																	2(1)								2(1)
R24-3(SHE)																	3								3
R24-4(SHD)																	1								1
R24-5(HO)																	2								2
R24-6(HO)																	3								3
R24-7(HO)																	2								2
R24-8(HO)																	2								2
R24-9(HO)																	1								1
R24-10(HO)																	1								1
R24-11(CC)	1																								1
その他(HO)																		2							2
合計	1												1				17(16)	2							21(20)

第14表　R24-Aブロック石材別石器組成

石材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
頁岩D(SHD)																	1								1
頁岩E(SHE)																	3								3
ホルンフェルス(HO)																	11	2							13
瑪瑙・玉髄(CC)	1																								1
硬岩(CO)																	2(1)								2(1)
蛇紋岩(SP)													1												1
合計	1												1				17(16)	2							21(20)

ナイフ形石器1点（3.3g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，ホルンフェルスの砕片2点（0.5g）がある。

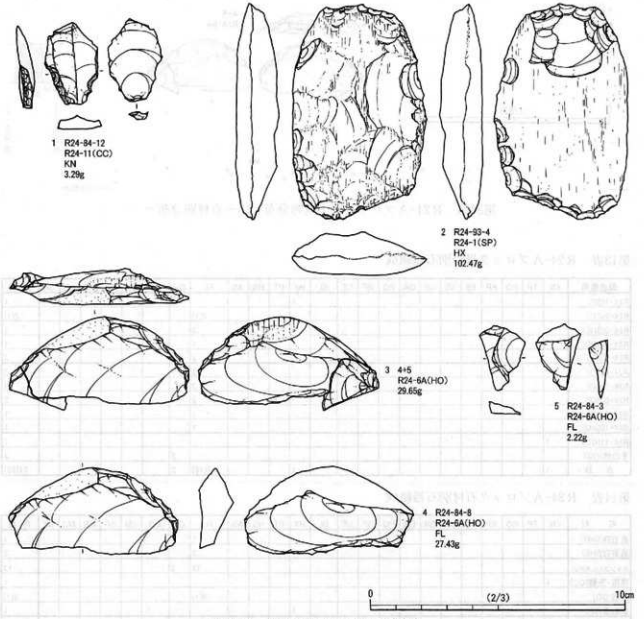
3）出土遺物（第35図1・2）

1は瑪瑙・玉髄による基部加工のナイフ形石器である。縦長剥片の打面側を基部として，両側縁基部に調整加工を行っている。

2は蛇紋岩による局部磨製石斧である。正面は器体中央部に及ぶ大きな調整加工を行い，裏面は自然面を残して周辺に細かい調整加工を行っている。両面が研磨されている。

4）接合資料とその関連資料（第35図3～5）

・R24-6（第35図3～5）　灰色（10Y4/1）などのホルンフェルスである。3は剥片2点（4・5）の接合資料である。



第35図　R24-Aブロック出土遺物

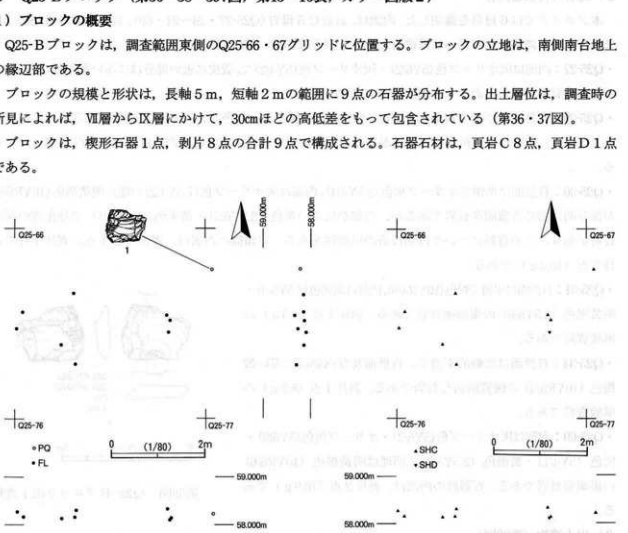
3　Q25-Bブロック（第36～38・397図，第15・16表，カラー図版２）

1）ブロックの概要

Q25-Bブロックは，調査範囲東側のQ25-66・67グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上の縁辺部である。

ブロックの規模と形状は，長軸５m，短軸２mの範囲に９点の石器が分布する。出土層位は，調査時の所見によれば，Ⅶ層からⅨ層にかけて，30cmほどの高低差をもって包含されている（第36・37図）。

ブロックは，楔形石器１点，剥片８点の合計９点で構成される。石器石材は，頁岩Ｃ８点，頁岩Ｄ１点である。



第36図　Q25-Bブロック出土遺物分布（１）
－器種別分布－

第37図　Q25-Bブロック出土遺物分布（２）
－石材別分布－

第15表　Q25-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
Q25-27(SHC)																	1								1
Q25-29(SHC)																	2								2
Q25-30(SHC)									1								1								2
Q25-31(SHC)																	1								1
Q25-34(SHD)																	1								1
Q25-69(SHC)																	2								2
合　計									1								8								9

第16表　Q25-Bブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
頁岩C(SHC)									1								7								8
頁岩D(SHD)																	1								1
合　計									1								8								9

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは6母岩を識別した。内訳は，頁岩C5母岩（Q25-27・29～31・69），頁岩D1母岩（S25-34）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（9/9点）である。

・Q25-27：内部は灰オリーブ色(5Y6/2)・灰オリーブ色(5Y4/2)で，表皮に近い部分はにぶい黄褐色(10YR5/4)の嶺岡産頁岩である。剥片1点（2.2g）の単独資料である。

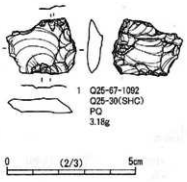
・Q25-29：自然面は平滑で黄褐色（2.5Y5/4），内部は灰オリーブ色（7.5Y4/2）の資料，内部はオリーブ灰色（10Y5/2）の資料など母岩内に変異がある嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（3.6g）である。

・Q25-30：自然面は平滑でオリーブ褐色(2.5Y4/4)，内部は灰オリーブ色(7.5Y4/2)の地に明黄褐色(10YR6/6)が部分的に混じる嶺岡産頁岩であるが，内部がにぶい黄色（2.5Y6/3）・黄灰色（2.5Y4/1）で珪化度の高い資料があり，この資料については別母岩の可能性がある。石器群の内訳は，楔形石器1点，剥片1点の合計2点（10.4g）である。

・Q25-31：自然面は平滑で褐色(10YR4/6)，内部は黄褐色(2.5Y5/4)・明黄褐色（2.5Y6/6）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（4.5g）の単独資料である。

・Q25-34：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部はにぶい黄褐色（10YR5/4）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（8.2g）の単独資料である。

・Q25-69：内部は灰オリーブ色(5Y5/2)・オリーブ黄色(5Y6/3)・灰色（5Y4/1）・黄褐色（2.5Y5/3），節理は明黄褐色（10YR6/6）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（10.9g）である。



第38図　Q25-Bブロック出土遺物

3）出土遺物（第38図）

1は嶺岡産頁岩による楔形石器である。上下両端と両側縁に対向する剥離痕が見られる。

4　S25-Kブロック（第39～42・397図，第17・18表，カラー図版2・19，図版4）

1）ブロックの概要

S25-Kブロックは，調査範囲東側のS25-32・33・42～44グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は35mである。

ブロックの規模と形状は，長軸11m，短軸6mの範囲に37点の石器が分布する。その内，垂直分布のない遺物が1点ある。出土層位は，Ⅶ層からⅩ層にかけて，70cmほどの高低差をもって包含されている（第39・40図）。

ブロックは，楔形石器3点（2個体），石刃4点（3個体），剥片22点（19個体），砕片8点の合計37点（32個体）で構成される。石器石材は，黒曜石A3点（2個体），黒曜石G1点，安山岩22点（19個体），頁岩C2点（1個体），頁岩D1点，頁岩E7点，チャート1点である。

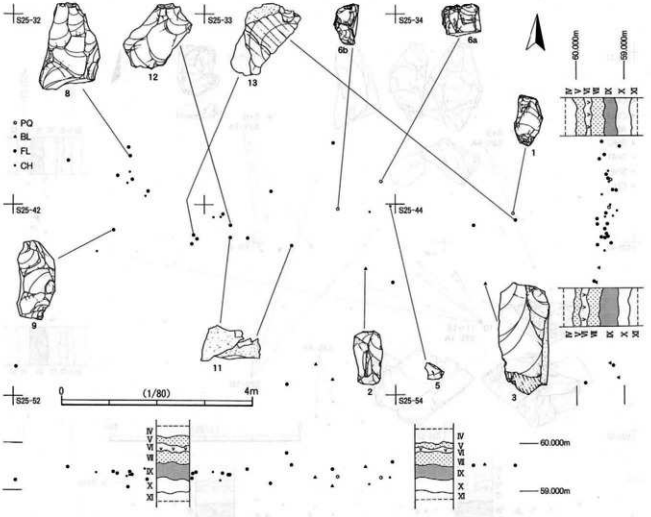
2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは9母岩を識別した。内訳は，黒曜石A1母岩（S25-2），黒曜石G1母岩（S25-3），安山

岩１母岩（S25-１），頁岩Ｃ１母岩（S25-４），頁岩Ｄ１母岩（S25-５），頁岩Ｅ３母岩（S25-６～８），チャート１母岩（S25-９）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（９/９点）である。

・**S25-１**：自然面は爪形の浅い裂痕が粗で，自然面及び内部は灰色（7.5Y5/1）・灰オリーブ色（7.5Y5/2）の資料，自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（7.5Y4/1）の資料など母岩内に変異があり，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片16点（13個体），砕片６点の合計22点（19個体；125.2ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片５点（３個体；50.1ｇ），Ｂは剥片３点（２個体；14.5ｇ）である。

・**S25-２**：黒色の黒曜石である。φ１㎜ほどの夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，楔形石器２点（１個体），砕片１点の合計３点（２個体；9.0ｇ）である。接合資料は，楔形石器２点（１個体），砕片１点の合計３点（２個体；9.0ｇ）である。



第39図　Ｓ25-Ｋブロック出土遺物分布（１）－器種別分布－

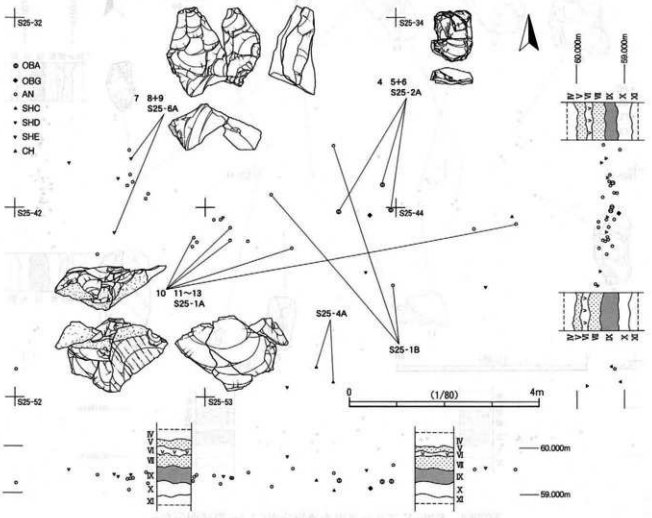
・S25-3：黒灰色で半透明な黒曜石である。産地は不明である。砕片１点（0.3ｇ）の単独資料である。

・S25-4：内部はにぶい黄褐色(10YR5/4)・黄褐色(2.5Y5/3)，節理は黄褐色(10YR5/6)・灰黄褐色(10YR4/2)の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，石刃２点（１個体；5.4ｇ）である。接合資料は，石刃２点（１個体；5.4ｇ）である。

・S25-5：内部はにぶい黄色（2.5Y6/4），新鮮な面はオリーブ灰色（5GY6/1）の硬質緻密な頁岩である。石刃１点（5.9ｇ）の単独資料である。

・S25-6：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部はオリーブ灰色（10Y6/2）・灰色（N5/0），節理は暗灰黄色（2.5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片４点（81.1ｇ）である。接合資料は，剥片２点（61.2ｇ）である。

・S25-7：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y5/2），節理はオリーブ黄色（5Y6/3）・浅黄色（2Y7/3）・褐色（10YR4/4），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石刃１点（32.9ｇ）の単独資料である。



第40図　S25-Kブロック出土遺物分布(２)－石材別分布－

・S25-8：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y6/1）の資料，内部は灰オリーブ色（5Y6/2）の資料など変異があり，新鮮な面は灰色（N5/0）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（10.8ｇ）である。

・S25-9：暗灰色（N3/0）・灰色（10Y5/1）に黒灰色の筋が入るチャートである。楔形石器１点（7.0ｇ）の単独資料である。

3）出土遺物（第41図１～３）

１はチャートによる楔形石器である。上下両端に対向する剥離痕が見られる。

２は硬質緻密な頁岩，３は頁岩による石刃である。

4）接合資料とその関連資料（第41図４～９，第42図）

・S25-2（第41図４～６）　黒色の黒曜石である。栃木県高原山産と考えられる。４は楔形石器２点（１個体；６a・６b），砕片１点（５）の接合資料である。６a・６bは上下両端に対向する剥離痕が見られる。

・S25-6（第41図７～９）　オリーブ灰色（10Y6/2）などの頁岩である。７は剥片２点（８・９）の接合資料である。

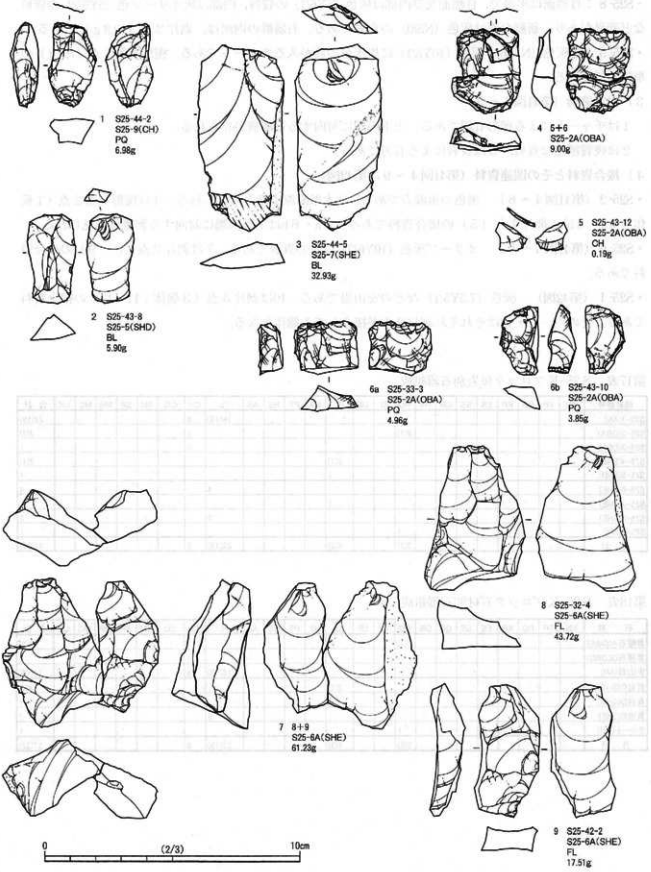
・S25-1（第42図）　灰色（7.5Y5/1）などの安山岩である。10は剥片５点（３個体；11～13）の接合資料である。その内，11・13はそれぞれ剥片２点が接合して１個体となる。

第17表　S25-Kブロック母岩別石器組成

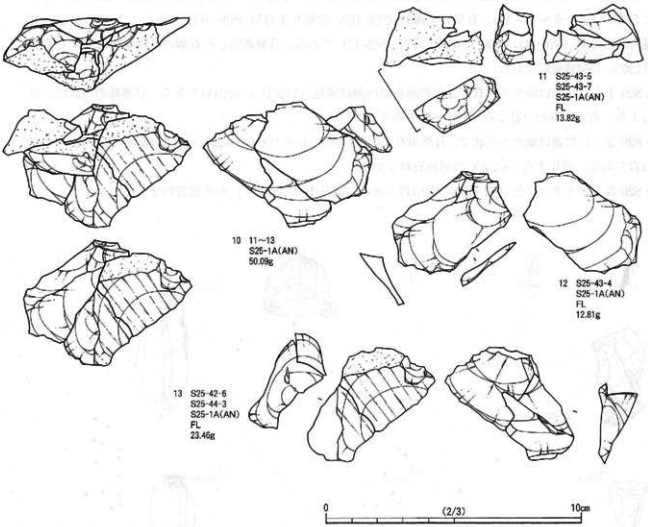
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
S25-1(AN)																	16(13)	6							22(19)
S25-2(OBA)									2(1)									1							3(2)
S25-3(OBG)																		1							1
S25-4(SHC)												2(1)													2(1)
S25-5(SHD)												1													1
S25-6(SHE)																	4								4
S25-7(SHE)												1													1
S25-8(SHE)																	2								2
S25-9(CH)									1																1
合　計									3(2)			4(3)					22(19)	8							37(32)

第18表　S25-Kブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
黒曜石A(OBA)									2(1)									1							3(2)
黒曜石G(OBG)																		1							1
安山岩(AN)																	16(13)	6							22(19)
頁岩C(SHC)												2(1)													2(1)
頁岩D(SHD)												1													1
頁岩E(SHE)												1					6								7
チャート(CH)									1																1
合　計									3(2)			4(3)					22(19)	8							37(32)



第41図　S25-Kブロック出土遺物(1)



第42図　S25-Kブロック出土遺物（2）

5　S26-Eブロック（第43～45・397図，第19～21表，カラー図版2・19，図版5）

1）ブロックの概要

S26-Eブロックは，調査範囲東側のS26-34・35・44・45・54・55グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は15mである。

ブロックの規模と形状は，長軸9m，短軸7mの範囲に41点の石器・礫が分布する。その内，原位置不明の遺物が3点あり，その他に垂直分布のない遺物が2点ある。出土層位は，Ⅳ層からⅨ層にかけて，70cmほどの高低差をもって包含されている（第43・44図）。

ブロックは，使用痕ある剥片2点，石刃3点，剥片25点，砕片4点，石核1点の合計35点と礫6点で構成される。石器石材は，安山岩4点，流紋岩4点，頁岩C22点，頁岩D1点，頁岩E1点，チャート1点，凝灰岩1点，瑪瑙・玉髄1点である。礫石材は，流紋岩1点（1母岩；24.1g），チャート2点（2母岩；34.3g），砂岩3点（3母岩；164.9g）で，識別率は100%である。

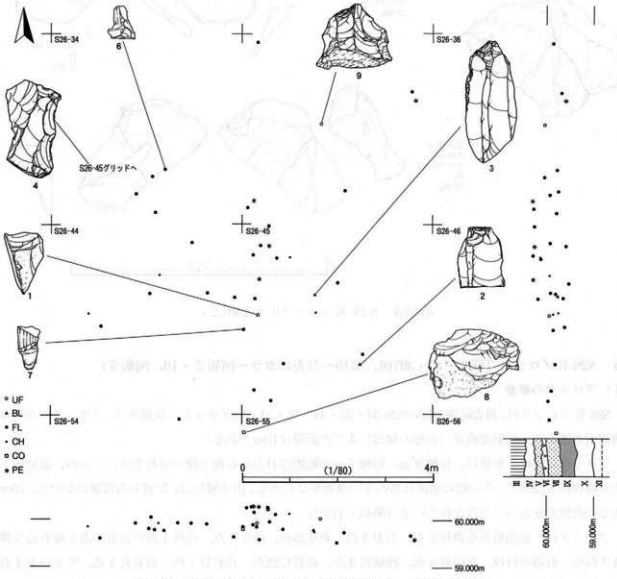
２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは14母岩を識別した。内訳は，安山岩３母岩（S26-１～３），流紋岩１母岩（S26-４），頁岩Ｃ５母岩（S26-５～８・14），頁岩Ｄ１母岩（S26-10），頁岩Ｅ１母岩（S26-９），チャート１母岩（S26-13），凝灰岩１母岩（S26-11），瑪瑙・玉髄１母岩（S26-12）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（35/35点）である。

・**S26-１**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰色（5Y5/1）の安山岩である。石器群の内訳は，石刃１点，剥片１点の合計２点（19.0ｇ）である。

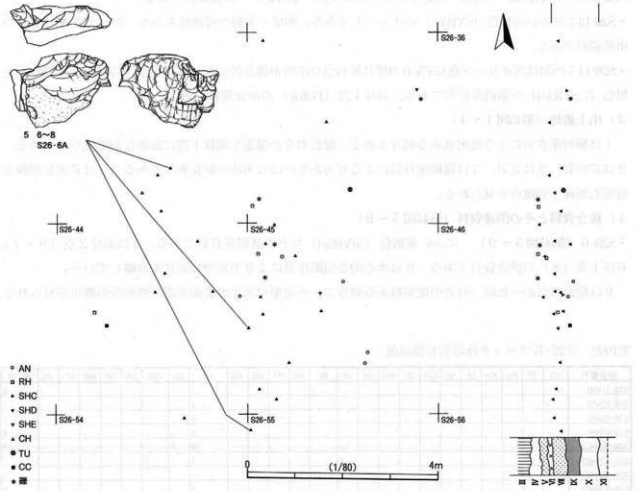
・**S26-２**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y6/2），新鮮な面は灰色（N4/0）の安山岩である。剥片１点（8.2ｇ）の単独資料である。

・**S26-３**：灰オリーブ色（5Y5/2）の安山岩である。剥片１点（10.6ｇ）の単独資料である。



第43図　S26-Ｅブロック出土遺物分布（１）－器種別分布－

・S26-4：自然面は紙ヤスリ状でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は浅黄色（2.5Y7/3）の地に灰白色（N8/0）が部分的に混じる流紋岩である。石器群の内訳は，剥片３点，砕片１点の合計４点（7.7ｇ）である。
・S26-5：自然面は平滑で褐色(10YR4/4)，内部は灰オリーブ色(5Y5/2)・黄褐色(10YR5/6)・黄褐色(2.5Y5/3)の資料，内部は灰色（10Y6/1）の資料など母岩内に変異がある嶺岡産頁岩である。S26-８の一部と同一母岩の可能性がある。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片10点，砕片３点の合計14点（34.8ｇ）である。
・S26-6：自然面は比較的平滑な部分と爪形の浅い裂痕が密な部分があり，にぶい黄褐色（10YR5/4），内部はにぶい黄褐色（10YR5/4）・灰オリーブ色（5Y5/2）・黄褐色（2.5Y5/3），節理は黄褐色（2.5Y5/3）・にぶい黄橙色（10YR6/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片３点，石核１点の合計５点（115.5ｇ）である。接合資料は，剥片２点，石核１点の合計３点（66.6ｇ）である。
・S26-7：自然面は比較的平滑なにぶい黄褐色(10YR5/4)，内部は黄褐色(2.5Y5/4)・灰オリーブ色(5Y6/2)・



第44図　S26-Eブロック出土遺物分布(２)－石材別分布－

にぶい黄褐色（10YR5/4），節理は褐色（10YR4/6）の嶺岡産頁岩である。石刃1点（27.5g）の単独資料である。

・S26-8：自然面は平滑で褐色（10YR4/4），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・黄褐色（2.5Y5/4），節理は褐色（10YR4/6）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（40.6g）の単独資料であるが，S26-5の一部と同一母岩の可能性がある。

・S26-9：内部は灰色（10Y6/1）・浅黄色（2.5Y7/3），新鮮な面は灰色（N6/0）の頁岩である。石刃1点（37.0g）の単独資料である。

・S26-10：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（7.5Y6/1）の地に灰色（N5/0）が線状に入り，節理はにぶい黄橙色（10YR6/4）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（1.9g）の単独資料である。

・S26-11：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（7.5Y6/2），新鮮な面は灰色（7.5Y6/1）の硬度の高い凝灰岩である。剥片1点（2.5g）の単独資料である。

・S26-12：自然面は凹凸があり明黄褐色（10YR7/6），内部は明黄褐色（10YR7/6）・灰白色（5Y8/2），節理は黄褐色（10YR5/6）の瑪瑙・玉髄である。剥片1点（46.4g）の単独資料である。

・S26-13：にぶい赤褐色（5YR4/4）のチャートである。瑪瑙・玉髄の可能性もある。剥片1点（1.7g）の単独資料である。

・S26-14：内部は灰オリーブ色(5Y5/3)の地に灰白色(N7/0)が部分的に混じり，節理は明黄褐色(10YR6/6)・褐色（7.5YR4/4）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（17.6g）の単独資料である。

3）出土遺物（第45図1～4）

1は嶺岡産頁岩による使用痕ある剥片である。縦長剥片の裏面左側縁下部に微細な剥離痕が見られる。2は安山岩，3は頁岩，4は嶺岡産頁岩による石刃あるいは石刃状の縦長剥片である。3は正面左側縁と裏面右側縁に剥離痕が見られる。

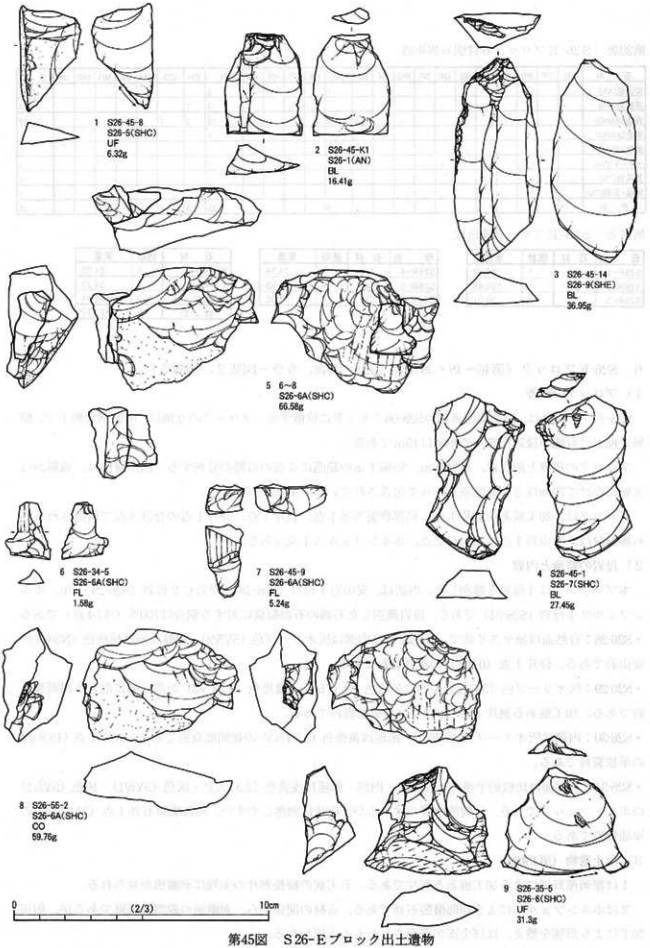
4）接合資料とその関連資料（第45図5～9）

・S26-6（第45図5～9）　にぶい黄褐色（10YR5/4）などの嶺岡産頁岩である。5は剥片2点（6・7），石核1点（8）の接合資料である。8は求心的な剥離作業により不定型な剥片を剥離している。

9は接合しなかった同一母岩の使用痕ある剥片で，不定型な剥片の裏面末端に微細な剥離痕が見られる。

第19表　S26-Eブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
S26-1(AN)												1					1								2
S26-2(AN)																	1								1
S26-3(AN)																	1								1
S26-4(RH)																	3	1							4
S26-5(SHC)											1						10	3							14
S26-6(SHC)											1						3		1						5
S26-7(SHC)												1													1
S26-8(SHC)																	1								1
S26-9(SHE)												1													1
S26-10(SHD)																	1								1
S26-11(TU)																	1								1
S26-12(CC)																	1								1
S26-13(CH)																	1								1
S26-14(SHC)																	1								1
合計											2	3					25	4	1						35



第45図　S26-Eブロック出土遺物

第20表　Ｓ26-Ｅブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
安山岩(AN)												1					3								4
流紋岩(RH)																	3	1							4
頁岩C(SHC)											2	1					15	3	1						22
頁岩D(SHD)																	1								1
頁岩E(SHE)												1													1
チャート(CH)																	1								1
凝灰岩(TU)																	1								1
瑪瑙・玉髄(CC)																	1								1
合　計											2	3					25	4	1						35

第21表　Ｓ26-Ｅブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
S26R-1	RH	1	24.09
S26R-2	SA	1	109.46
S26R-3	SA	1	30.91
S26R-4	SA	1	24.54
S26R-5	CH	1	16.95
S26R-6	CH	1	17.32

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	1	24.09
チャート(CH)	2	34.27
砂岩(SA)	3	164.91
合　計	6	223.27

6　S26-Ｆブロック（第46～48・397図，第22・23表，カラー図版２，図版５）

1）ブロックの概要

S26-Ｆブロックは，調査範囲東側のS26-06グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は15mである。

ブロックの規模と形状は，長軸２m，短軸１mの範囲に４点の石器が分布する。出土層位は，Ⅶ層からＸ層にかけて70cmほどの高低差をもって包含されている（第46・47図）。

ブロックは，加工痕ある剥片１点，局部磨製石斧１点，剥片１点，砕片１点の合計４点で構成される。石器石材は，安山岩１点，頁岩Ｃ２点，ホルンフェルス１点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（S26-28），頁岩Ｃ２母岩（S26-29・30），ホルンフェルス１母岩（S26-31）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（４/４点）である。

・**S26-28**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。砕片１点（0.8ｇ）の単独資料である。

・**S26-29**：灰オリーブ色（5Y5/2）の地に黄灰色（2.5Y5/1）・黄褐色（2.5Y5/3）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。加工痕ある剥片１点（10.4ｇ）の単独資料である。

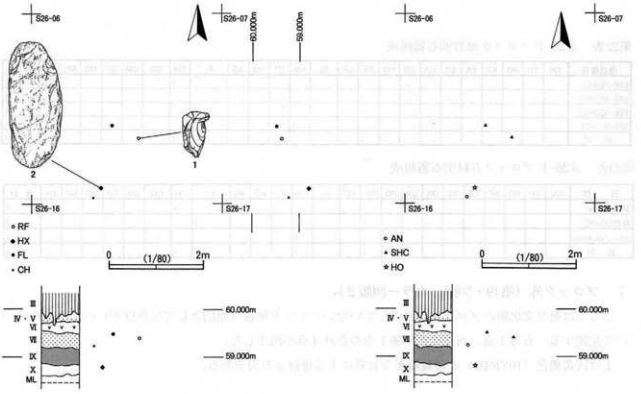
・**S26-30**：内部は灰オリーブ色（5Y5/2），節理は黄褐色（2.5Y5/3）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（13.9ｇ）の単独資料である。

・**S26-31**：自然面は比較的平滑で，自然面・内部・節理は浅黄色（2.5Y7/3）・灰色（5Y6/1）・灰色（5Y5/1）のホルンフェルスである。比較的硬質ではあるが，板状に剥落しやすい。局部磨製石斧１点（211.5ｇ）の単独資料である。

3）出土遺物（第48図）

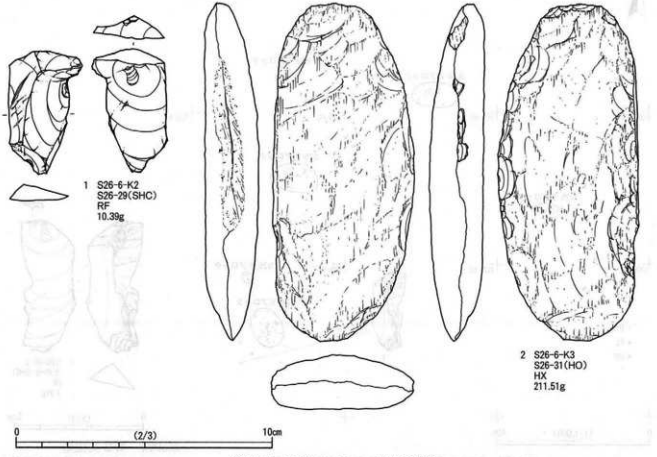
１は嶺岡産頁岩による加工痕ある剥片である。石刃状の縦長剥片の末端に剥離痕が見られる。

２はホルンフェルスによる局部磨製石斧である。石材の関係から，剥離面の観察は困難であるが，周辺加工により形態を整え，ほぼ全面が研磨されたものと思われる。



第46図　S26-Fブロック出土遺物分布(1)
－器種別分布－

第47図　S26-Fブロック出土遺物分布(2)
－石材別分布－



第48図　S26-Fブロック出土遺物

第22表　S26-Fブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
S26-28(AN)																		1							1
S26-29(SHC)										1															1
S26-30(SHC)																	1								1
S26-31(HO)													1												1
合　計										1			1				1	1							4

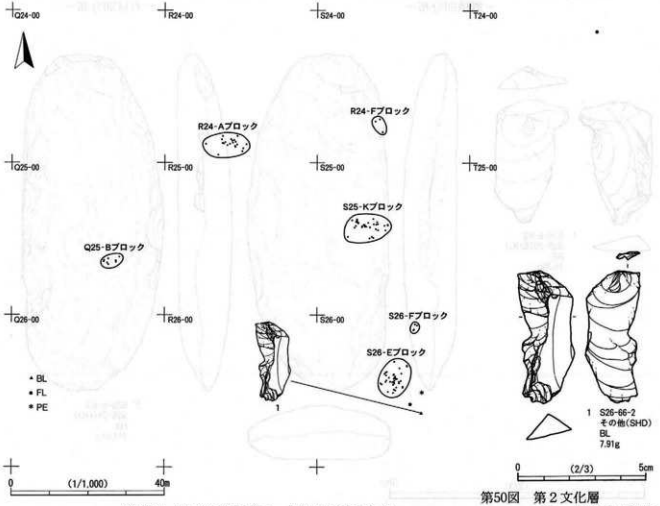
第23表　S26-Fブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
安山岩(AN)																		1							1
頁岩C(SHC)										1							1								2
ホルンフェルス(HO)													1												1
合　計										1			1				1	1							4

7　ブロック外（第49・50図，カラー図版２）

ここでは第２文化層のブロックを形成していないグリッド単独（原則として２点以下）の出土遺物について記述する。石刃１点，剥片２点，礫１点の合計４点が出土した。

１は灰黄褐色（10YR4/2）の硬質緻密な頁岩による稜付き石刃である。



第49図　第２文化層ブロック外出土遺物分布

第50図　第２文化層ブロック外出土遺物

第4節　第3文化層

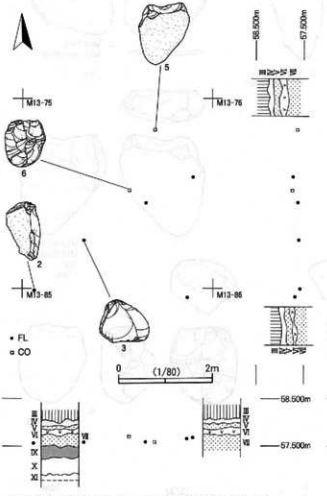
第3文化層は，立川ローム層のハードローム層から第2黒色帯上半部（Ⅵ層～Ⅶ層）にかけて包含される石器群である。M13-B，K15-A，S14-A，V18-B，N17-A・B，M18-A，N18-A～C・E～H，N19-A・B，M20-A，Q20-A，S20-A・B，T20-A，U20-B・C，U21-A・B，S26-Cブロックの26か所が該当する。M18-A，M20-A，N17-A，N18-A・E～H，N19-A・B，S20-A・B，T20-A，U20-B・Cブロック，ブロック外（N17-63，M18-19グリッド）にはブロック間に接合関係，これら及びN18-Bブロックにはブロック間に母岩の共有関係がある。

1　M13-Bブロック（第51～53・397図，第24・25表，カラー図版3・19）

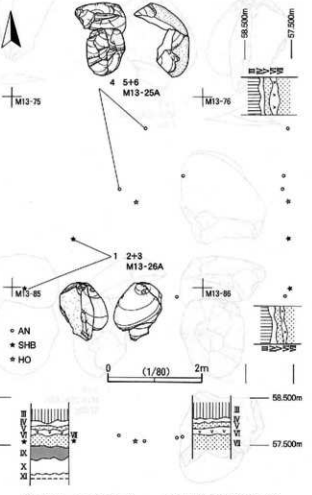
1）ブロックの概要

M13-Bブロックは，調査範囲西側のM13-75・85グリッドに位置する。ブロックの立地は，北側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は30mである。

ブロックの規模と形状は，長軸5m，短軸3mの範囲に7点の石器が分布する。出土層位は，Ⅶ層を中心に，10cmほどの高低差をもって包含されている（第51・52図）。



第51図　M13-Bブロック出土遺物分布（1）
－器種別分布－



第52図　M13-Bブロック出土遺物分布（2）
－石材別分布－

ブロックは，剥片5点，石核2点の合計7点で構成される。石器石材は，安山岩4点，頁岩B2点，ホルンフェルス1点である。

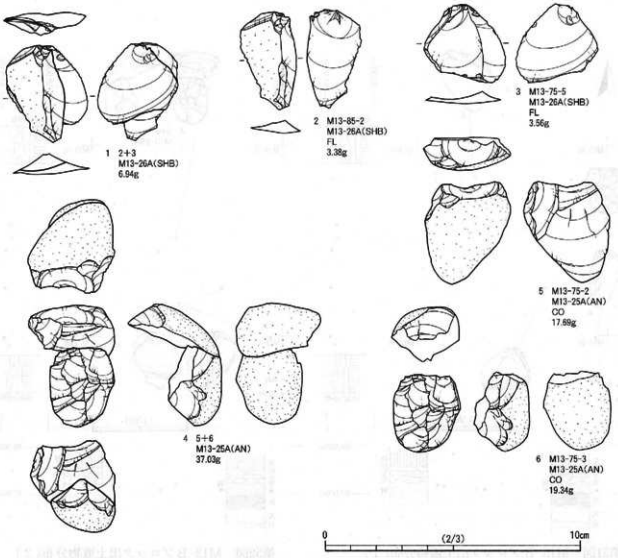
2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは3母岩を識別した。内訳は，安山岩1母岩（M13-25），頁岩B1母岩（M13-26），ホルンフェルス1母岩（M13-27）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（7/7点）である。

・**M13-25**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は黄褐色（2.5Y5/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片2点，石核2点の合計4点（46.3g）である。接合資料は，石核2点（37.0g）である。

・**M13-26**：自然面は平滑で明黄褐色（10YR6/6），内部はにぶい黄橙色（10YR6/4）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（6.9g）である。接合資料は，剥片2点（6.9g）である。

・**M13-27**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y5/2）のホルンフェルスである。剥片1点（2.3g）の単独資料である。



第53図　M13-Bブロック出土遺物

3）接合資料とその関連資料（第53図）

・M13-26（第53図１～３）　にぶい黄橙色（10YR6/4）などの北関東産頁岩である。１は剥片２点（２・３）の接合資料である。

・M13-25（第53図４～６）　黄褐色（2.5Y5/3）などの安山岩である。４は石核２点（５・６）の接合資料である。５は６の打面調整剥片を素材として，打面と作業面を入れ替えながら，小型で横長の剥片を剥離している。６は右側面の一部に直交する剥離面を残すが，５を剥離した平坦な単剥離面打面から小型の縦長剥片を剥離している。

第24表　M13-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
M13-25(AN)																	2		2						4
M13-26(SHB)																	2								2
M13-27(HO)																	1								1
合　計																	5		2						7

第25表　M13-Bブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
安山岩(AN)																	2		2						4
頁岩B(SHB)																	2								2
ホルンフェルス(HO)																	1								1
合　計																	5		2						7

2　K15-Aブロック（第54～56・397図，第26～28表，カラー図版３・19，図版５）

1）ブロックの概要

K15-Aブロックは，調査範囲西側のK15-30～32・42グリッドに位置する。ブロックの立地は，北側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は10mである。

ブロックの規模と形状は，長軸６m，短軸１mの範囲に５点の石器・礫が分布する。出土層位は，調査時の所見によればⅢ層を中心に，40cmほどの高低差をもって包含されている（第54・55図）。なお，Ⅲ層（ソフトローム層及びハードロームのブロックが少量混じるソフトローム層）の下部は，暗褐色粘質土で，あるいは第５a文化層など別文化層の可能性がある。

ブロックは，使用痕ある剥片１点，剥片３点の合計４点と礫１点で構成される。石器石材は，頁岩Ｂ４点である。礫石材は，ホルンフェルス１点（１母岩；9.8ｇ）で，識別率は100％である。

2）母岩の特徴と内容

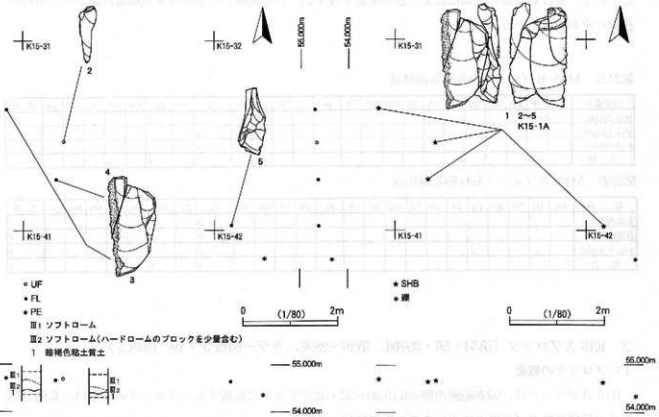
本ブロックでは１母岩を識別した。内訳は，頁岩Ｂ１母岩（K15-1）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（４/４点）である。

・K15-1：自然面は凹凸が顕著でにぶい黄色（2.5Y6/4），内部は暗灰黄色（2.5Y4/2），新鮮な面は暗灰黄色（2.5Y4/2）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片３点の合計４点（33.1ｇ）である。接合資料は，使用痕ある剥片１点，剥片３点の合計４点（33.1ｇ）である。

3）接合資料とその関連資料（第56図）

・K15-1（第56図）　暗灰黄色（2.5Y4/2）などの北関東産頁岩である。１は使用痕ある剥片１点（２），剥

片3点（3～5）の接合資料である。2～5を含む複数に欠損した個体としたが，むしろ比較的大型の石刃を素材として，2・4・5などの縦長剥片あるいは石刃状の剥片を剥離した個体と考えた方が良いかもしれない。その場合，3は石核となる。なお，2は左側縁に微細な剥離痕が見られる。



第54図　K15-Aブロック出土遺物分布（1）
－器種別分布－

第55図　K15-Aブロック出土遺物分布（2）
－石材別分布－

第26表　K15-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
K15-1(SHB)											1						3								4
合　計											1						3								4

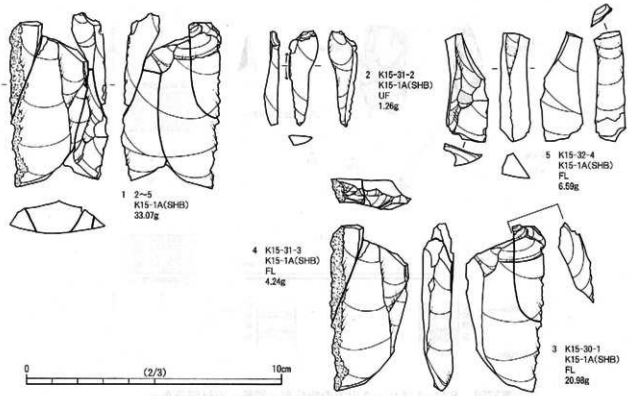
第27表　K15-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
頁岩B(SHB)											1						3								4
合　計											1						3								4

第28表　K15-Aブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
K15R-1	HO	1	9.79

石　材	個数	重量
ホルンフェルス(HO)	1	9.79
合　計	1	9.79



第56図　K15-Aブロック出土遺物

3　S14-Aブロック（第57・58・397図，第29・30表，カラー図版3，図版7）

1）ブロックの概要

S14-Aブロックは，調査範囲東側のS14-02・03グリッドに位置する。ブロックの立地は，北側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は40mである。

ブロックの規模と形状は，2mの直線状に4点の石器が分布する。その内，原位置不明の遺物が1点ある。出土層位は，Ⅵ層を中心に，20cmほどの高低差をもって包含されている（第57図）。

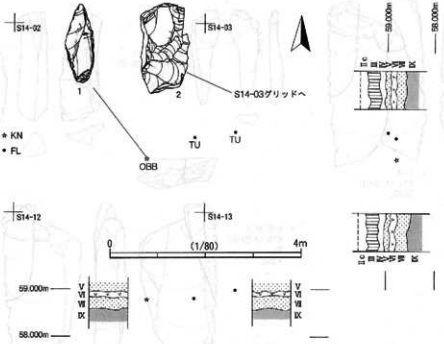
ブロックは，ナイフ形石器1点，剥片2点，石核1点の合計4点で構成される。石器石材は，黒曜石B1点，凝灰岩3点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは2母岩を識別した。内訳は，黒曜石B1母岩（S14-1），凝灰岩1母岩（S14-2）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（4/4点）である。

・S14-1：薄墨を流したような地に黒灰色・灰色の縞が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器1点（4.8g）の単独資料である。

・S14-2：内部は灰オリーブ色（7.5Y5/3）・オリーブ灰色（10Y5/2）・オリーブ黒色（10Y3/2）にオリーブ黒色(10Y3/2)が筋状に入る資料，内部は黄褐色(2.5Y5/3)・暗灰黄色(2.5Y4/2)，節理はオリーブ褐色(2.5Y4/3)の資料など母岩内に変異がある珪化度の高い凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片2点，石核1点の合計3点（33.2g）である。

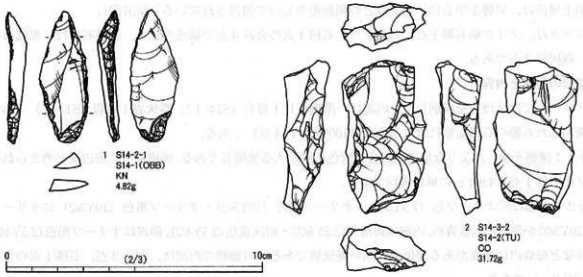


第57図　S14-Aブロック出土遺物分布－器種・石材別分布－

3）出土遺物（第58図）

1は信州和田峠周辺産の黒曜石による二側縁加工のナイフ形石器である。石刃の打面側を先端部として，右側縁と左側縁下半部に細かい調整加工，さらに裏面基部加工を行っている。

2は凝灰岩による石核である。石刃状の縦長剥片を素材として，石刃状の縦長剥片を剥離している。S14-03グリッドから出土している。



第58図　S14-Aブロック出土遺物

第29表　S14-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
S14-1(OBB)	1																								1
S14-2(TU)																	2		1						3
合　計	1																2		1						4

第30表　S14-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
黒曜石B(OBB)	1																								1
凝灰岩(TU)																	2		1						3
合　計	1																2		1						4

4　V18-Bブロック（第59・60・397図，第31・32表，カラー図版3，図版7）

1）ブロックの概要

V18-Bブロックは，調査範囲東側のV18-04・05・15グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側北台地上の縁辺部である。

ブロックの規模と形状は，長軸4m，短軸1mの範囲に5点の石器が分布する。出土層位は，Ⅵ層からⅦ層にかけて，20cmほどの高低差をもって包含されている（第59図）。

ブロックは，剥片1点，砕片3点，石核1点の合計5点で構成される。石器石材は，安山岩4点，瑪瑙・玉髄1点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは2母岩を識別した。内訳は，安山岩1母岩（V18-18），瑪瑙・玉髄1母岩（V18-19）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（5/5点）である。

・V18-18：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰色（10Y6/1）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片1点，砕片2点，石核1点の合計4点（59.5g）である。

・V18-19：橙色（7.5YR6/8）・明黄褐色（10YR6/6）で半透明な瑪瑙・玉髄である。砕片1点（0.4g）の単独資料である。

3）出土遺物（第60図）

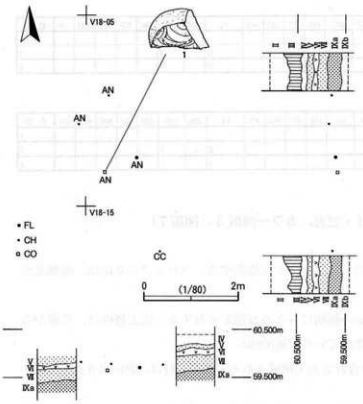
1は安山岩による石核である。打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。

第31表　V18-Bブロック母岩別石器組成

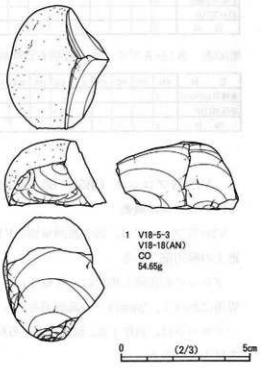
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
V18-18(AN)																	1	2	1						4
V18-19(CC)																		1							1
合　計																	1	3	1						5

第32表　V18-Bブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
安山岩(AN)																	1	2	1						4
瑪瑙・玉髄(CC)																		1							1
合　計																	1	3	1						5



第59図　V18-Bブロック出土遺物分布
－器種・石材別分布－



第60図　V18-Bブロック出土遺物

5　N17-Aブロック（第61～69・398図，第33～35表，カラー図版3・4・19，図版5・6）

1）ブロックの概要

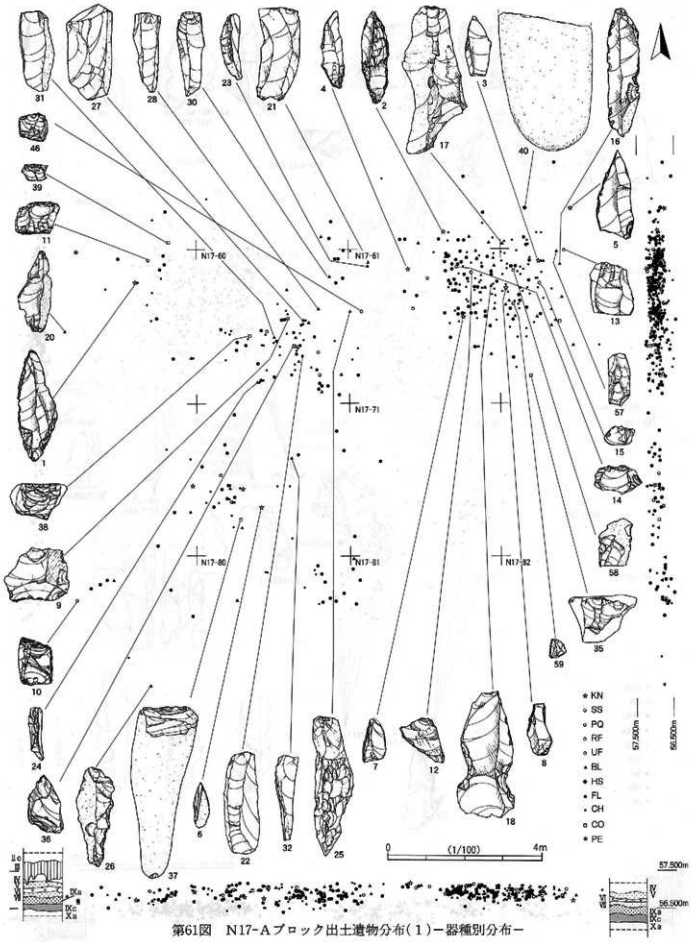
N17-Aブロックは，調査範囲西側のM17-59・69・79・89，N17-50～52・60～62・70・71・80・81グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は25mである。

ブロックの規模と形状は，長軸18m，短軸12mの範囲に370点の石器・礫が分布する。その内，垂直分布のない遺物が1点ある。出土層位は，Ⅳ層からⅨc層にかけて，80cmほどの高低差をもって包含されているが，中心はⅣ層からⅦ層で，40cmほどである（第61～63図）。

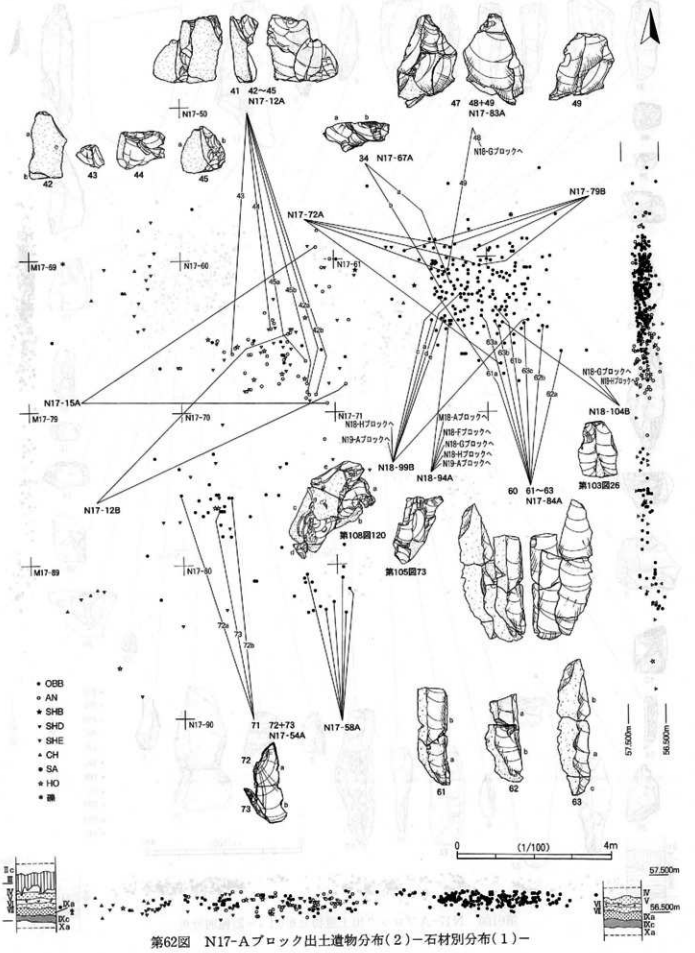
ブロックは，ナイフ形石器10点（9個体），削器1点，楔形石器5点（4個体），加工痕ある剥片7点（6個体），使用痕ある剥片5点，石刃51点（44個体），敲石1点，剥片131点（114個体），砕片152点，石核6点の合計369点（342個体）と礫1点で構成される。石器石材は，黒曜石B247点（226個体），安山岩43点（40個体），頁岩B2点，頁岩D3点（2個体），頁岩E54点（53個体），チャート9点（8個体），砂岩1点，ホルンフェルス10点である。礫石材は，ホルンフェルス1点（1母岩：15.5g）で，識別率は100%である。

2）母岩の特徴と内容

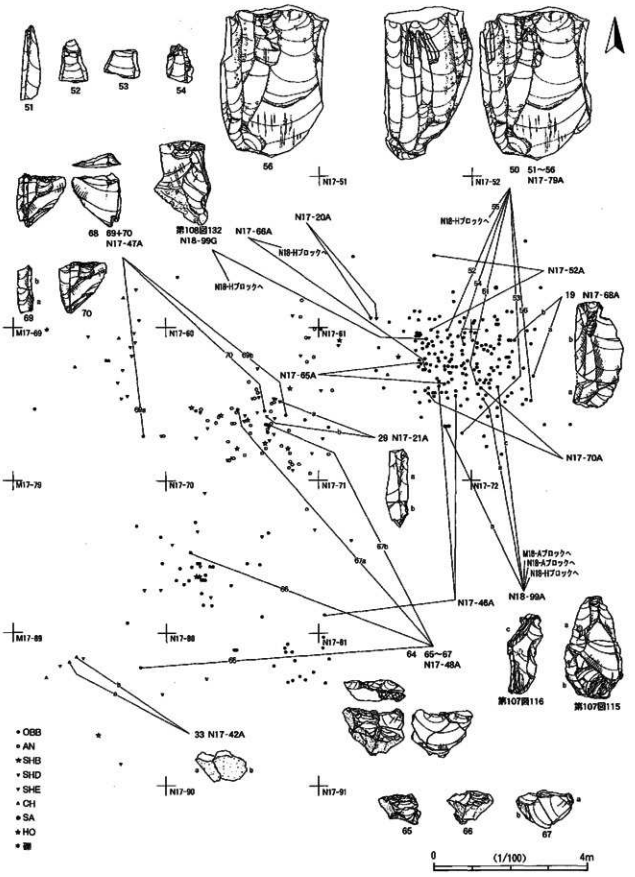
本ブロックでは79母岩を識別した。内訳は，黒曜石B43母岩（N17-46～85・N18-94・99・104），安山岩4母岩（N17-12～15），頁岩B2母岩（N17-17・18），頁岩D2母岩（N17-19・20），頁岩E17母岩（N17-21～34・36・37・N18-12），チャート5母岩（N17-42～45・N18-15），砂岩1母岩（N17-16），ホルンフェルス5母岩（N17-35・38～41）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は66%（243/369点）である。



第61図　N17-Aブロック出土遺物分布（1）－器種別分布－



第62図　N17-Aブロック出土遺物分布(2)－石材別分布(1)－



第63図　N17-Aブロック出土遺物分布(3)－石材別分布(2)－

第33表　N17-Ａブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
N17-12(AN)									3(2)								18(14)	10							29(26)
N17-13(AN)																	1								1
N17-14(AN)																	2	5							7
N17-15(AN)																	3								3
N17-16(SA)															1										1
N17-17(SHB)												1													1
N17-18(SHB)											1														1
N17-19(SHD)																			1						1
N17-20(SHD)																	2(1)								2(1)
N17-21(SHE)												5(4)					2								7(6)
N17-22(SHE)												2													2
N17-23(SHE)												2						1							3
N17-24(SHE)																	1								1
N17-25(SHE)												2													2
N17-26(SHE)												1													1
N17-27(SHE)												1													1
N17-28(SHE)												1													1
N17-29(SHE)												1													1
N17-30(SHE)												1													1
N17-31(SHE)												2													2
N17-32(SHE)												1					6	2							9
N17-33(SHE)												1													1
N17-34(SHE)												1					1								2
N17-35(HO)												1													1
N17-36(SHE)																			1						1
N17-37(SHE)																	2								2
N17-38(HO)																	1								1
N17-39(HO)																	1	1							2
N17-40(HO)																		3	1						4
N17-41(HO)																	2								2
N17-42(CH)																	2(1)								2(1)
N17-43(CH)																	1								1
N17-44(CH)																	1								1
N17-45(CH)									1									1							2
N17-46(OBB)																	3								3
N17-47(OBB)																	3(2)								3(2)
N17-48(OBB)										3(2)							2								5(4)
N17-49(OBB)	1																								1
N17-50(OBB)																			1						1
N17-51(OBB)																	1	1							2
N17-52(OBB)																	2								2
N17-53(OBB)	1											1													2
N17-54(OBB)	2(1)									1															3(2)
N17-55(OBB)																	2	5							7
N17-56(OBB)												1					3	3							7
N17-57(OBB)												1							1						2
N17-58(OBB)																	8(5)								8(5)
N17-59(OBB)											1														1
N17-60(OBB)																		1							1
N17-61(OBB)											1						2								3
N17-62(OBB)	1																1								1
N17-63(OBB)	1																1	2							4
N17-64(OBB)																	1								1
N17-65(OBB)																	2(1)								2(1)
N17-66(OBB)																	1								1
N17-67(OBB)																	2(1)								2(1)
N17-68(OBB)												2(1)													2(1)
N17-69(OBB)	1																								1
N17-70(OBB)																	2(1)								2(1)
N17-71(OBB)	1																								1

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
N17-72(OBB)																	4(3)								4(3)
N17-73(OBB)	1																								1
N17-74(OBB)												1													1
N17-75(OBB)																	1								1
N17-76(OBB)																	1								1
N17-77(OBB)										1															1
N17-78(OBB)	1																								1
N17-79(OBB)										2		11(10)					7	8	1						29(26)
N17-80(OBB)												1													1
N17-81(OBB)												1													1
N17-82(OBB)																	1								1
N17-83(OBB)																	1								1
N17-84(OBB)												7(3)													7(3)
N17-85(OBB)												1													1
N18-12(SHE)						1											5	7							13
N18-15(CH)									1																1
N18-94(OBB)																	1								1
N18-99(OBB)																	9(4)								9(4)
N18-104(OBB)												1													1
その他(OBB)											2						22	93							117
その他(AN)																		3							3
その他(SHE)																		4							4
その他(CH)																		2							2
合　計	10(9)					1			5(4)	7(6)	5	51(44)			1		121(114)	152	6						369(342)

第34表　N17-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
黒曜石B(OBB)	10(9)									7(6)	4	28(22)					82(69)	113	3						247(229)
安山岩(AN)									3(2)								22(20)	18							43(40)
頁岩B(SHB)											1	1													2
頁岩C(SHD)																	2(1)		1						3(2)
頁岩E(SHE)						1						21(20)					17	14	1						54(53)
チャートI(CH)									2								4(3)	3							9(8)
砂岩(SA)															1										1
ホルンフェルス(HO)												1					4	4	1						10
合　計	10(9)					1			5(4)	7(6)	5	51(44)			1		121(114)	152	6						369(342)

第35表　N17-Aブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
N17R-1	HO	1	15.54

石　材	個数	重量
ホルンフェルス(HO)	1	15.54
合　計	1	15.54

・N17-12：自然面は比較的平滑で灰色（5Y5/1），内部は灰色（N4/0），節理は灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，楔形石器３点（２個体），剥片16点（14個体），砕片10点の合計29点（26個体；66.0ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは楔形石器２点（１個体），剥片４点（３個体）の合計６点（４個体：22.1ｇ），Ｂは剥片２点（4.0ｇ）である。

・N17-13：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y5/3）の安山岩である。剥片１点（2.6ｇ）の単独資料である。

・N17-14：内部は灰色（5Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点，砕片５点の合計７点（5.9ｇ）である。

・N17-15：自然面は平滑で，自然面及び内部は明緑灰色（7.5GY7/1）・緑灰色（7.5GY5/1），新鮮な面は暗緑

灰色（7.5GY4/1）の安山岩としたが，凝灰岩の可能性もある。石器群の内訳は，剥片3点（37.4g）である。接合資料は，剥片2点（36.5g）である。

・N17-16：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部はにぶい黄色（2.5Y6/4）の砂岩である。敲石1点（451.6g）の単独資料である。

・N17-17：自然面は平滑で褐色（10YR4/6），内部はにぶい黄褐色（10YR5/4）に灰黄褐色（10YR4/2）・にぶい黄色（2.5Y6/4）が縞状に入る北関東産頁岩である。石刃1点（13.0g）の単独資料である。

・N17-18：にぶい黄褐色（10YR5/4）の北関東産頁岩である。使用痕ある剥片1点（4.4g）の単独資料である。

・N17-19：灰色（N4/0）・灰色（N5/0）・灰色（7.5Y4/1）の硬質緻密な頁岩である。石核1点（3.3g）の単独資料である。

・N17-20：暗灰色（N3/0）の硬質緻密な頁岩である。クレーター状の剥落が見られることから被熱の可能性がある。石器群の内訳は，剥片2点（1個体；0.8g）である。接合資料は，剥片2点（1個体；0.8g）である。

・N17-21：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（10Y6/1）の資料，自然面及び内部は灰色（10Y5/1）の資料など変異があり，新鮮な面は暗灰色（N3/0）・灰褐色（7.5YR4/2）の頁岩である。石器群の内訳は，石刃5点（4個体），剥片2点の合計7点（6個体；21.2g）である。接合資料は，石刃2点（1個体；4.2g）である。

・N17-22：内部は灰色（10Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石器群の内訳は，石刃2点（17.6g）である。

・N17-23：内部は灰白色（5Y7/2）・灰色（5Y6/1），新鮮な面は灰色（N5/0）の頁岩である。石器群の内訳は，石刃2点，砕片1点の合計3点（9.6g）である。

・N17-24：内部は灰色（10Y6/1），新鮮な面は褐灰色（10YR4/1）の頁岩である。剥片1点（2.2g）の単独資料である。

・N17-25：内部は灰白色（7.5Y7/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石器群の内訳は，石刃2点（4.3g）である。

・N17-26：内部は灰色（10Y5/1），節理は灰オリーブ色（7.5Y4/2），新鮮な面は灰色（10Y4/1）の頁岩である。石刃1点（25.5g）の単独資料である。

・N17-27：内部は灰色（7.5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石刃1点（15.1g）の単独資料である。

・N17-28：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y6/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石刃1点（16.8g）の単独資料である。

・N17-29：灰色（5Y6/1）の頁岩である。石刃1点（3.5g）の単独資料である。

・N17-30：内部は灰白色（7.5Y7/1），新鮮な面は灰色（10Y4/1）の頁岩である。石刃1点（2.4g）の単独資料である。

・N17-31：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰白色（5Y7/2），節理は褐色（10YR4/4），新鮮な面は褐灰色（7.5YR4/1）の頁岩である。石器群の内訳は，石刃2点（18.1g）である。

・N17-32：自然面は比較的平滑で浅黄色（2.5Y7/3），内部は浅黄色（2.5Y7/3）・明黄褐色（2.5Y6/6），新鮮

な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石器群の内訳は，石刃１点，剥片６点，砕片２点の合計９点（38.1ｇ）である。

・N17-33：内部は灰白色（7.5Y7/1），節理は褐色（10YR4/4），新鮮な面は黄灰色（2.5Y4/1）の頁岩である。石刃１点（9.3ｇ）の単独資料である。

・N17-34：内部は灰色（10Y6/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石器群の内訳は，石刃１点，剥片１点の合計２点（4.3ｇ）である。

・N17-35：内部は灰黄色（2.5Y6/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石刃１点（6.4ｇ）の単独資料である。

・N17-36：自然面は平滑で，自然面・内部・節理は暗灰色（N3/0）の頁岩としたが，粘板岩の可能性もある。石核１点（149.8ｇ）の単独資料である。

・N17-37：灰色（10Y4/1）の頁岩としたが，粘板岩の可能性もある。石器群の内訳は，剥片２点（2.8ｇ）である。

・N17-38：灰色（7.5Y4/1）のホルンフェルスである。剥片１点（1.4ｇ）の単独資料である。

・N17-39：内部は灰色（7.5Y5/1），新鮮な面は褐灰色（10YR4/1）・灰色（N4/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片１点，砕片１点の合計２点（3.9ｇ）である。

・N17-40：内部は灰色（10Y4/1）の地に黄粉状の点紋が入り，新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，砕片３点，石核１点の合計４点（16.4ｇ）である。

・N17-41：自然面は比較的平滑で灰色（7.5Y4/1），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・にぶい黄色（2.5Y6/4）・灰色（7.5Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点（2.0ｇ）である。

・N17-42：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（7.5Y4/1），節理は黄灰色（2.5Y5/1）のチャートである。石器群の内訳は，剥片２点（１個体；5.7ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；5.7ｇ）である。

・N17-43：灰色（5Y5/1）・灰色（5Y6/1）・灰オリーブ色（5Y6/2）のチャートとしたが，嶺岡産頁岩の可能性もある。剥片１点（1.3ｇ）の単独資料である。

・N17-44：内部はオリーブ黒色（10Y3/2），節理は灰白色（7.5Y8/2）・灰黄色（2.5Y6/2）のチャートである。剥片１点（1.9ｇ）の単独資料である。

・N17-45：自然面は平滑で黒色（N2/0）・灰褐色（7.5YR4/2），内部は暗青灰色（5PB3/1）の地に灰オリーブ色（5Y5/3）が部分的に混じり，節理は灰オリーブ色（5Y5/3）のチャートである。石器群の内訳は，楔形石器１点，砕片１点の合計２点（4.3ｇ）である。

・N17-46：透明な地に黒色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。N17-49と同一母岩の可能性がある。石器群の内訳は，剥片３点（7.6ｇ）である。接合資料は，剥片３点（7.6ｇ）である。

・N17-47：透明な地に黒色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片３点（２個体；7.5ｇ）である。接合資料は，剥片３点（２個体；7.5ｇ）である。

・N17-48：透明な地に黒色の筋が多数入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片３点（２個体），剥片２点の合計５点（４個体；11.5ｇ）である。接合資料は，加工痕ある剥片３点（２個体），剥片１点の合計４点（３個体；10.9ｇ）である。

・N17-49：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は透明な地に黒色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器１点（14.4ｇ）の単独資料であるが，N17-46と同一母岩の可能性がある。

・N17-50：自然面は比較的平滑で黒褐色（2.5Y3/1），内部は黒色で半透明な地に暗黒褐色が部分的に混じる黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石核１点（47.4ｇ）の単独資料である。

・N17-51：自然面は凹凸が顕著で，一部平滑な部分があり，自然面及び内部は黒色な地に暗黒褐色が部分的に混じる黒曜石である。φ５㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片１点，砕片１点の合計２点（23.2ｇ）である。

・N17-52：透明な地に黒色の筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（0.7ｇ）である。接合資料は，剥片２点（0.7ｇ）である。

・N17-53：自然面はスリガラス状でにぶい黄色（2.5Y6/3），内部は透明な地に黒色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，石刃１点の合計２点（2.4ｇ）である。

・N17-54：透明な地に黒色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器２点（１個体），加工痕ある剥片１点の合計３点（２個体；4.5ｇ）である。接合資料は，ナイフ形石器２点（１個体），加工痕ある剥片１点の合計３点（２個体；4.5ｇ）である。

・N17-55：内部は透明な地に筋状のモヤが少数入り，節理は灰黄色（2.5Y7/2）の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点，砕片５点の合計７点（2.1ｇ）である。

・N17-56：透明な地に若干褐色がかった黒色のモヤが入り，部分的に剥離痕が見られるが，全体的に平滑な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃１点，剥片３点，砕片３点の合計７点（6.0ｇ）である。

・N17-57：自然面は平滑で，自然面及び内部は若干褐色がかった黒色の地に透明な部分が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃１点，石核１点の合計２点（47.1ｇ）である。

・N17-58：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は透明な地に若干褐色がかった黒色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。N17-56と同一個体の可能性があるが，モヤはN17-56より多く，自然面の有無で分けた。石器群の内訳は，剥片８点（５個体；14.4ｇ）である。接合資料は，剥片６点（３個体；13.0ｇ）である。

・N17-59：透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。使用痕ある剥片１点（8.9ｇ）の単独資料である。

・N17-60：自然面は平滑で灰黄色（2.5Y7/2），内部は黒色で半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。砕片１点（0.6ｇ）の単独資料である。

・N17-61：若干褐色がかった黒色で半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片２点の合計３点（5.8ｇ）である。

・N17-62：半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器１点（2.8ｇ）の単独資料である。

・N17-63：自然面・内部・節理は半透明な地に黒灰色のモヤが入り，全体がスリガラス状の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。表面の変化は被熱によるものと思われる。石器群の内訳は，ナイフ形石

器１点，剥片１点，砕片２点の合計４点（3.0ｇ）である。

・N17-64：内部は半透明な地に黒灰色のモヤが入り，節理は浅黄色（2.5Y7/3）の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（1.6ｇ）の単独資料である。

・N17-65：薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（１個体；3.8ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；3.8ｇ）である。

・N17-66：薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。本ブロックでは剥片１点（1.3ｇ）の単独資料であるが，N18-Hブロックの剥片１点と接合して１個体となる。

・N17-67：薄墨を流したような透明な地に部分的にわずかに筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。N17-66に近く，同一母岩の可能性がある。石器群の内訳は，剥片２点（１個体；2.7ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；2.7ｇ）である。

・N17-68：薄墨を流したような半透明な地に部分的に黒灰色の線が数条入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。N17-66に近く，同一母岩の可能性がある。石器群の内訳は，石刃２点（１個体；14.6ｇ）である。接合資料は，石刃２点（１個体；14.6ｇ）である。

・N17-69：薄墨を流したような透明な地に部分的に黒灰色の縞が数条入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器１点（2.5ｇ）の単独資料である。

・N17-70：スリガラス状で薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（１個体；3.9ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；3.9ｇ）である。

・N17-71：薄墨を流したような半透明な地に部分的に灰色の縞が数条入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器１点（7.6ｇ）の単独資料である。

・N17-72：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片４点（３個体；6.0ｇ）である。接合資料は，剥片４点（３個体；6.0ｇ）である。

・N17-73：薄墨を流したような透明な地にφ１㎜ほどの気泡が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器１点（2.8ｇ）の単独資料である。

・N17-74：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点（5.7ｇ）の単独資料である。

・N17-75：薄墨を流したような透明な地に灰色の線状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（2.4ｇ）の単独資料である。

・N17-76：自然面は平滑で黄灰色（2.5Y6/1），自然面及び内部は透明な地に灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（1.3ｇ）の単独資料である。

・N17-77：透明な地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。加工痕ある剥片１点（2.8ｇ）の単独資料である。

・N17-78：薄墨を流したような地に灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器１点（8.5ｇ）の単独資料である。

・N17-79：自然面は平滑で，自然面及び内部は多少紫色がかった黒灰色で半透明，節理は灰白色（2.5Y7/1）・黄灰色（2.5Y6/1）・黄灰色（2.5Y4/1）の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。長軸方向の節理が顕著である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片２点，石刃11点（10

個体），剥片7点，砕片8点，石核1点の合計29点（28個体；473.7g）である。接合資料は，2グループあり，Aは石刃4点，石核1点の合計5点（440.2g）がN18-Hブロックの加工痕ある剥片1点と接合している。Bは石刃4点（3個体；6.1g）である。その他に同一母岩がN18-Gブロックに5点（2個体），ブロック外（N17-63グリッド）に1点ある。C，Dについては，当該ブロックとの接合関係が見られないことから別母岩の可能性もある。

・N17-80：半透明な地に灰色のモヤが入り，全体がスリガラス状，あるいは白化している黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。表面の変化は被熱によるものと思われる。石刃1点（29.6g）の単独資料である。

・N17-81：自然面は紙ヤスリ状で黄灰色（2.5Y5/1），内部は半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃1点（15.4g）の単独資料である。

・N17-82：自然面は紙ヤスリ状でにぶい黄橙色（10YR6/3），内部は透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点（1.2g）の単独資料である。

・N17-83：自然面はスリガラス状で，自然面及び内部は透明な地に灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。本ブロックでは剥片1点（14.0g）の単独資料であるが，N18-Gブロックの剥片1点と接合している。

・N17-84：自然面はスリガラス状の部分と爪形の浅い裂痕の部分があり，灰白色（2.5Y7/1）・灰白色（2.5Y8/1），内部は薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃7点（3個体；19.5g）である。接合資料は，石刃7点（3個体；19.5g）である。

・N17-85：自然面は紙ヤスリ状で黄灰色（2.5Y6/1），自然面及び内部は透明な地に灰白色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃1点（3.3g）の単独資料である。

・N18-12：内部は暗灰色（N3/0），節理は灰色（10Y4/1）の頁岩としたが，若干珪化度の高い粘板岩あるいは硬質緻密な頁岩の可能性がある。石器群の内訳は，削器1点，剥片5点，砕片7点の合計13点（30.8g）である。その他に同一母岩がN18-Aブロックに2点，N18-Bブロックに9点（8個体）ある。

・N18-15：自然面は平滑で，内部は暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）・オリーブ灰色（2.5GY5/1）・オリーブ灰色（2.5GY6/1）のチャートである。本ブロックでは楔形石器1点（8.3g）の単独資料であるが，その他に同一母岩がN18-Aブロックに6点（5個体）ある。

・N18-94：自然面は若干，紙ヤスリ状で，自然面・内部・節理は透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。本ブロックでは剥片1点（7.8g）の単独資料であるが，M18-Aブロックの剥片1点，石核1点の合計2点，N18-Fブロックの剥片1点，N18-Gブロックの錐状石器1点，剥片5点の合計6点，N18-Hブロックの使用痕ある剥片4点，剥片42点（38個体），砕片1点，石核2点の合計49点（45個体），N19-Aブロックの使用痕ある剥片1点，剥片2点の合計3点と接合している。その内，剥片1点がN18-Hブロックの剥片1点と接合して1個体となる。その他に同一母岩がN18-Gブロックに1点，N18-Hブロックに8点ある。

・N18-99：自然面は平滑な部分と深い裂痕の部分があり黄灰色（2.5Y4/1），内部は薄墨を流したような透明な部分と半透明な部分があり，部分的に黒灰色の筋が入る黒曜石である。φ5mmほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片9点（4個体；99.2g）である。接合資料は，3グループあり，Aは剥片3点（2個体；38.8g）が，M18-Aブロックの剥片1点，N18-Aブロックの剥

片１点，N18-Hブロックの使用痕ある剥片１点，剥片５点（３個体），石核１点の合計７点（５個体）と接合している。Bは剥片５点（１個体；35.9ｇ）が，N18-Hブロックの剥片６点（４個体），N19-Aブロックの剥片１点と接合している。Gは剥片１点（24.6ｇ）が，N18-Hブロックの剥片１点と接合している。その他に同一母岩がN18-Gブロックに１点，N18-Hブロックに14点，N19-Aブロックに１点，ブロック外（M18-19グリッド）に１点ある。

・**N18-104**：自然面は紙ヤスリ状で黄灰色（2.5Y5/1），内部は薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。本ブロックでは石刃１点（6.1ｇ）の単独資料であるが，N18-Gブロックの石刃１点，N18-Hブロックの石刃１点と接合している。その他に同一母岩がN18-Hブロックに９点（８個体）ある。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Bの使用痕ある剥片２点，剥片22点，砕片93点の合計117点（36.1ｇ），安山岩の砕片３点（0.2ｇ），頁岩Eの砕片４点（0.6ｇ），チャートの砕片２点（0.3ｇ）がある。

３）出土遺物（第64～66図，第67図40）

１～８は石刃あるいは石刃状の縦長剥片の素材とした信州和田峠周辺産の黒曜石によるナイフ形石器で，１・２・４は二側縁加工，３・６・８は部分加工，５・７は一側縁加工あるいは二側縁加工である。１は打面側を先端部として，左側縁と右側縁下半部に調整加工，さらに裏面基部加工を行っている。また，右側縁上半部の刃部には微細な剥離痕が見られる。２は打面側を基部として，右側縁と左側縁下半部に調整加工を行っている。また，裏面右側縁の刃部の一部に微細な剥離痕が見られる。３は打面側を基部として，右側縁下部に細かい調整加工を行っている。右側縁から下部の折断面にかけての剥離痕は周辺の剥離面に比べ，光沢があることから，ガジリの可能性もある。４は打面側を基部として，左側縁と右側縁下部に調整加工を行っている。５は打面側を基部として，左側縁と右側縁の一部に調整加工を行っている。一側縁加工と考えたが，右側縁の一部に調整加工が見られることや下部を欠損することなどから，二側縁加工の可能性もある。６は打面側を基部として，右側縁上半部と左側縁下半部に調整加工を行っている。なお，右側縁下半部の自然面も含め，二側縁加工と考えることも可能である。７は打面側を基部として，左側縁に調整加工を行っているが，下部を欠損することなどから，二側縁加工の可能性もある。８は打面側を先端部として，左側縁上半部と右側縁下部に調整加工を行っている。なお，裏面下部からの剥離痕は，素材が剥離する際に同時に生じた衝撃剥離痕と思われる。

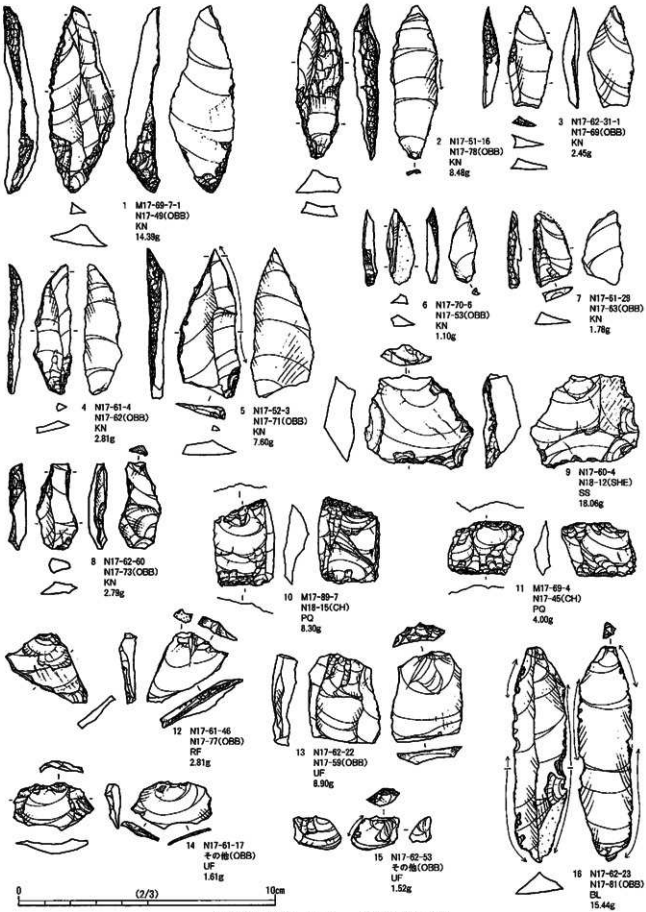
９は頁岩による削器である。不定型な剥片を素材として，両面とも右側縁から末端にかけて調整加工を行っている。

10・11はチャートによる楔形石器である。両者とも両面の上下両端に潰痕状の剥離痕が見られる。

12は信州和田峠周辺産の黒曜石による加工痕ある剥片である。不定型な剥片の末端に細かい調整加工を行っていると考えたが，後述する使用痕ある剥片の一部の微細な剥離痕と大きさにそれほど差はない。

13～15は信州和田峠周辺産の黒曜石による使用痕ある剥片である。13は石刃状の縦長剥片の右側縁，14・15は不定型な剥片の末端や裏面左側縁に微細な剥離痕が見られる。

16～20は信州和田峠周辺産の黒曜石，21は北関東産頁岩，22～27・29～32は頁岩，28はホルンフェルスによる石刃である。16は両面のほぼ全周，17は正面右側縁と裏面左側縁，20は右側縁下部，28は裏面右側縁下部，29は右側縁下部に微細な剥離痕が見られる。18は両側縁に抉入削器状の調整加工を行い，両側縁には樋状の剥離痕が見られる。21は左側縁に樋状の剥離痕が見られ，さらに左側縁下半部に微細な剥離痕



第64図　N17-Aブロック出土遺物(1)

が見られる。18・21は彫器とした方が良かったかもしれない。26は両面の右側縁に調整加工を行っている。23～25は稜付き石刃である。19・29はそれぞれ２点が接合して１個体となる。

33はチャート，34は信州和田峠周辺産の黒曜石による不定型な剥片で，それぞれ２点が接合して１個体となる。

35・36は信州和田峠周辺産の黒曜石，37は頁岩，38はホルンフェルス，39は硬質緻密な頁岩による石核である。35・39は打面転移を繰り返したもの，36は求心的な剥離作業を行ったもの，37は棒状で厚みのある縦長剥片を素材として，不定型な剥片を剥離しているが，両極打法による可能性が高い。38は複剥離面打面による両設打面の石核から不定型な剥片を剥離している。打面調整，頭部調整が顕著であるが，末端が線状になっていることから，下端部の頭部調整状の細かい剥離痕は，両極打法により生じた可能性が高い。　40は砂岩による敲石である。末端に浅い敲打痕が見られる。

４）接合資料とその関連資料（第67図41～46，第68・69図）

・N17-12（第67図41～46）　灰色（N4/0）などの安山岩である。41は楔形石器２点（１個体；45），剥片４点（３個体；42～44）の接合資料である。その内，42は剥片２点，45は楔形石器２点が接合して１個体となる。45は上下両端に対向する剥離痕が見られる。

46は接合しなかった同一母岩の楔形石器である。上下両端に対向する剥離痕が見られる。

・N17-83（第67図47～49）　透明な地に灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。47は剥片１点（49），N18-Gブロックの剥片１点（48）の接合資料である。両者とも直交する剥離痕が見られる。

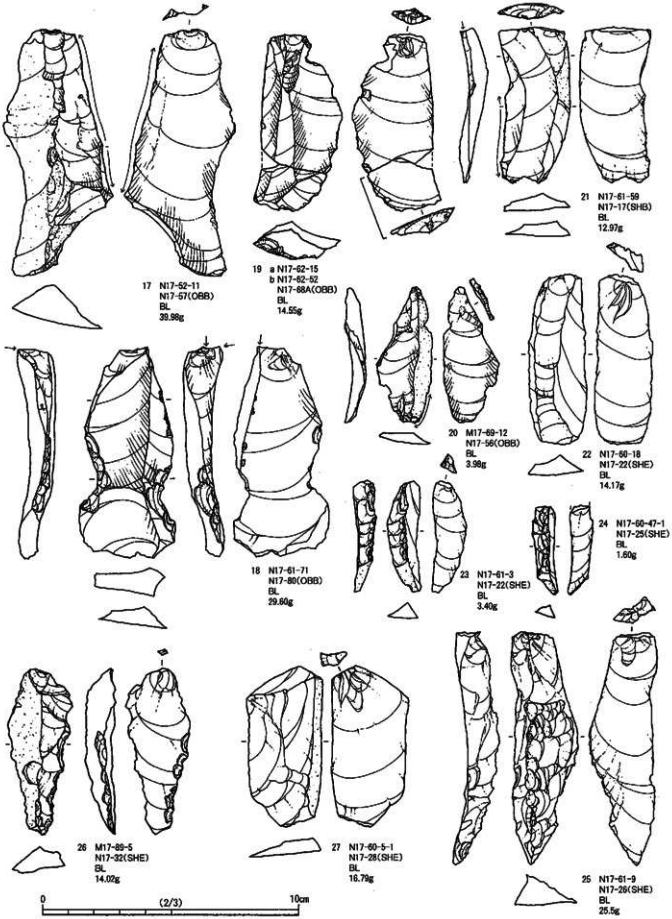
・N17-79（第68図）　半透明で多少紫色がかった黒灰色などの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。50は石刃４点（51～54），石核１点（56），N18-Hブロックの加工痕ある剥片１点（55）の接合資料である。打面調整は入念に行われている。長軸方向に平行する節理が顕著で，それに直交する剥離痕はほとんど見られないが，全周にわたって石刃を剥離している。51～53は石刃の両側縁，54は両面の左側縁に微細な剥離痕が見られる。55は裏面末端に調整加工を行っている。なお，56の正面図下半部に残る主要剥離面状のポジティブな剥離面とそこから裏面下部につながる石刃を剥離した作業面とは異なる方向の剥離面の一部は，若干パティナが異なり，自然面の可能性がある。その場合，複剥離面打面による単設打面の石刃石核と考えられる。

57～59は接合しなかった同一母岩の資料である。57は石刃で，右側縁に微細な剥離痕が見られる。58・59は加工痕ある剥片としたが，ナイフ形石器等の未製品の可能性がある。図上，正面左側縁に調整加工を行っている。

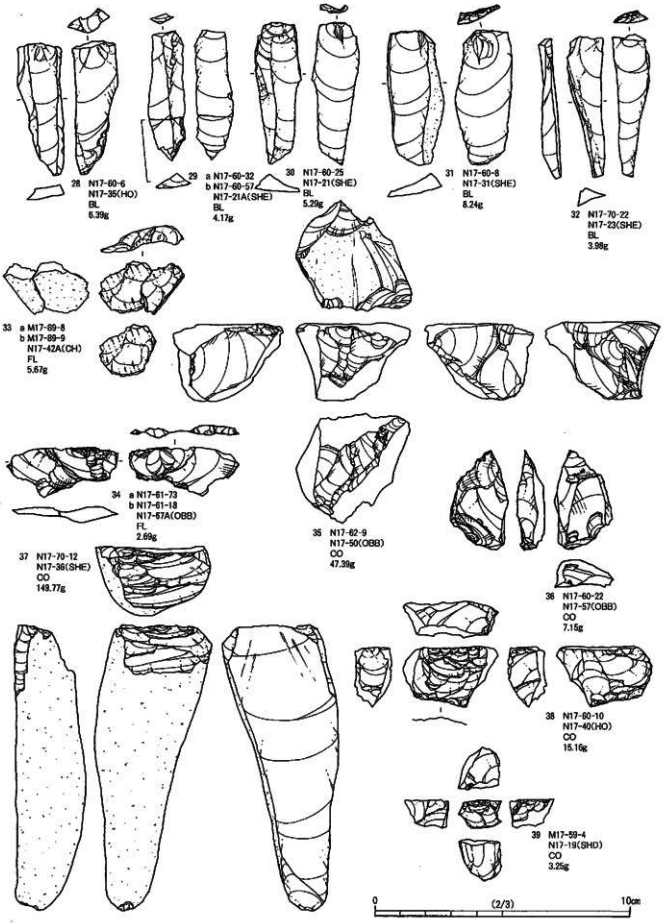
・N17-84（第69図60～63）　薄墨を流したような透明などの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。60は石刃７点（３個体；61～63）の接合資料である。その内，61・62は石刃２点，63は石刃３点が接合して１個体となる。いずれも，単設打面の石核から剥離されている。

・N17-48（第69図64～67）　透明な地に黒色の筋が多数入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。64は加工痕ある剥片３点（２個体；66・67），剥片１点（65）の接合資料である。その内，67は加工痕ある剥片２点が接合して１個体となる。66・67は不定型な剥片の打面側に調整加工を行っている。この個体は打面調整剥片の可能性がある。

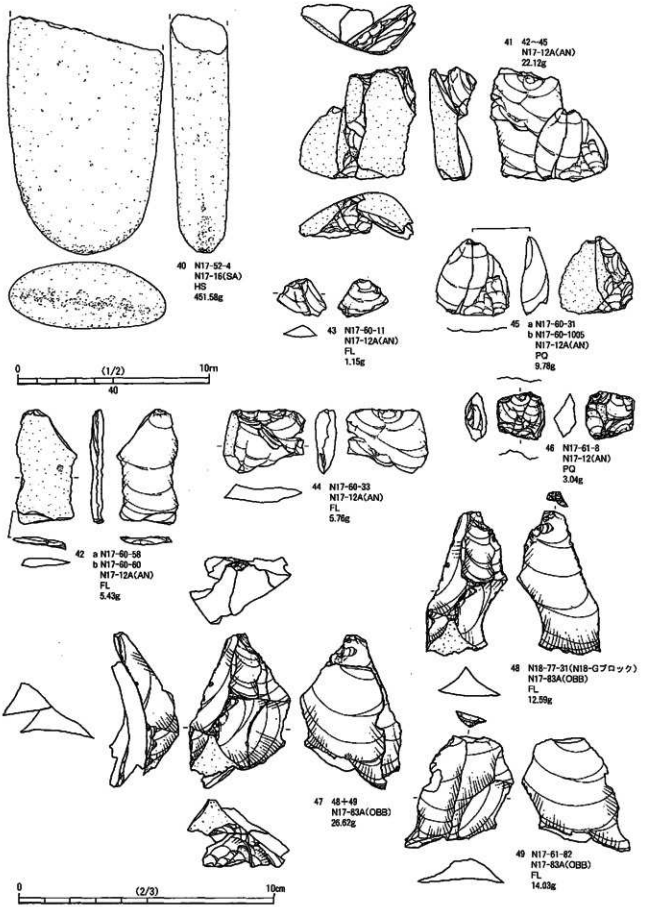
・N17-47（第69図68～70）　透明な地に黒色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。



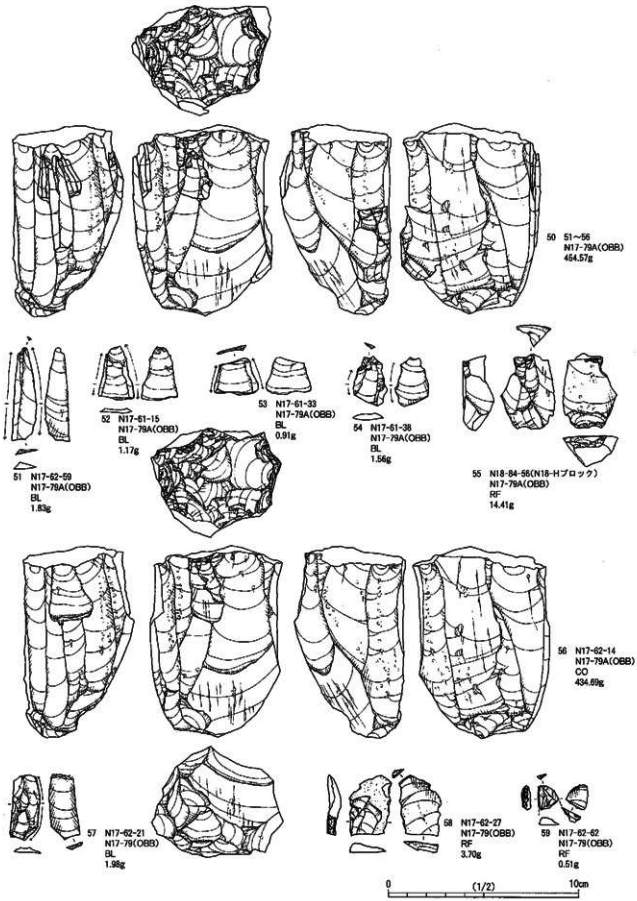
第65図　N17-Aブロック出土遺物(2)



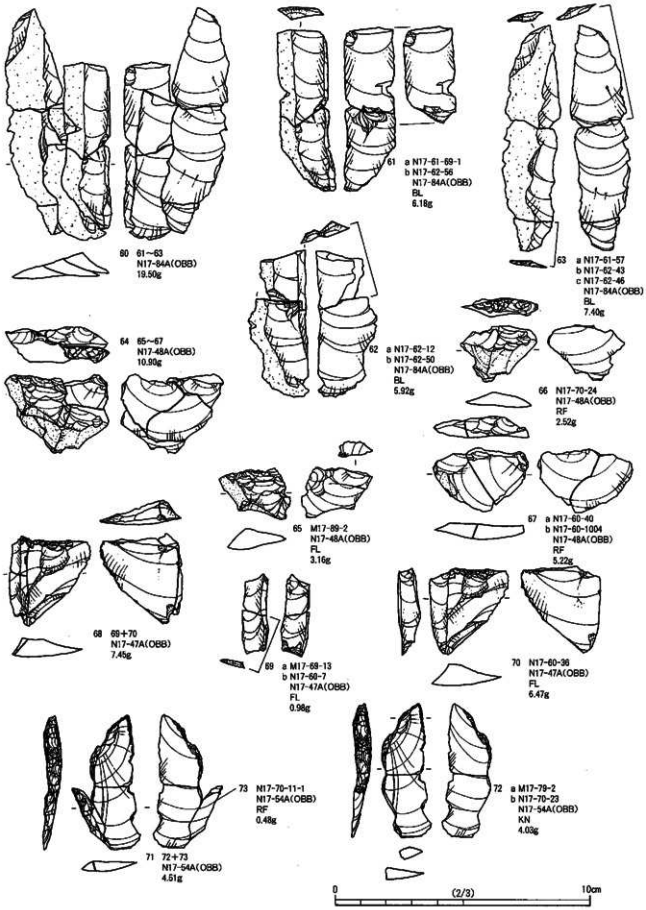
第66図　N17-Aブロック出土遺物(3)



第67図　N17-Aブロック出土遺物(4)



第68図　N17-Aブロック出土遺物(5)



第69図　N17-Aブロック出土遺物(6)

68は剥片３点（２個体；69・70）の接合資料である。その内，69は剥片２点が接合して１個体となる。この個体については，折断面からの細かい剥離痕などを欠損時の衝撃によって生じたものと考え，剥片としたが，折断面からの剥離痕は顕著で規則的なことから，69を小石刃，70を石核と考えることも可能である。さらに，両者には非常に微細ではあるが，両者が剥離された後に生じた思われる剥離痕も見られる。

・N17-54（第69図71～73）　透明な地に黒色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。71はナイフ形石器２点（１個体；72），加工痕ある剥片１点（73）の接合資料である。72は石刃の打面側を先端部として，左側縁の上半部に調整加工を行った一側縁加工のナイフ形石器で，２点が接合して１個体となる。73はナイフ形石器の調整剥片を素材として，左側縁に調整加工を行っている。

6　N17-Bブロック（第70～72・398図，第36・37表，カラー図版４・19）

1）ブロックの概要

N17-Bブロックは，調査範囲西側のN17-83・84・93・94，N18-04グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は10mである。

ブロックの規模と形状は，長軸９m，短軸４mの範囲に21点の石器が分布する。出土層位は，Ⅵ層からⅨc層にかけて，60cmほどの高低差をもって包含されている（第70・71図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，楔形石器１点，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片２点，石刃３点（２個体），剥片９点（８個体），砕片２点，石核２点の合計21点（19個体）で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ８点，黒曜石Ｇ１点，安山岩１点，軟質の安山岩３点，頁岩Ｃ８点（６個体）である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは11母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ３母岩（N17-２～４），黒曜石Ｇ１母岩（N17-11），安山岩１母岩（N17-10），軟質の安山岩１母岩（N17-１），頁岩Ｃ５母岩（N17-５～９）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（21/21点）である。

・N17-1：自然面は平滑で，灰白色（5Y7/1）・浅黄色（5Y7/3），内部は灰白色（5Y7/1）の地に灰白色（5Y8/1）が部分的に混じり，新鮮な面は灰色（5Y5/1）の軟質の安山岩である。石器群の内訳は，剥片３点（49.9ｇ）である。接合資料は，剥片２点（47.6ｇ）である。

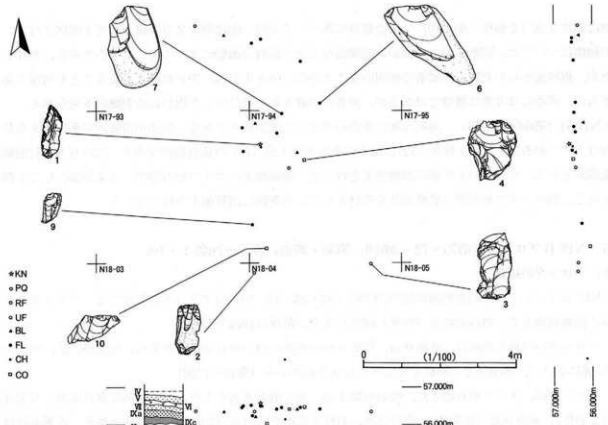
・N17-2：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は黒色で半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，加工痕ある剥片１点，石刃１点，剥片１点，石核１点の合計５点（37.9ｇ）である。

・N17-3：透明な地に若干褐色がかった黒色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片１点，砕片１点の合計２点（1.2ｇ）である。

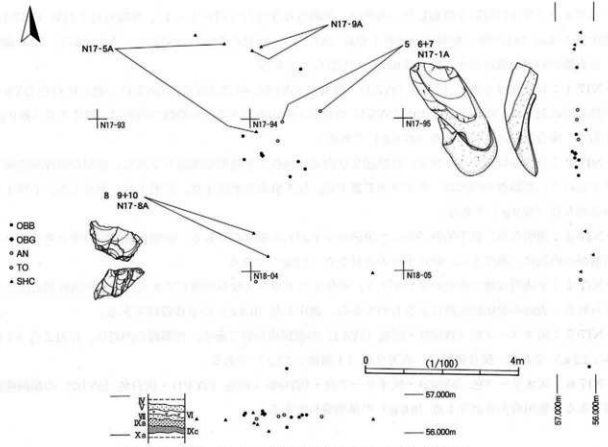
・N17-4：半透明な地に灰色のモヤが入り，全体がスリガラス状の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。表面の変化は被熱によるものである。剥片１点（0.3ｇ）の単独資料である。

・N17-5：灰オリーブ色（5Y6/2）・灰色（5Y4/1）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，石刃２点（１個体；2.2ｇ）である。接合資料は，石刃２点（１個体；2.2ｇ）である。

・N17-6：灰オリーブ色（5Y5/2）・灰オリーブ色・（5Y6/2）・灰色（5Y4/1）・灰白色（5Y7/2）の嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片１点（6.6ｇ）の単独資料である。



第70図　N17-Bブロック出土遺物分布(1)－器種別分布－



第71図　N17-Bブロック出土遺物分布(2)－石材別分布－

・N17-7：灰オリーブ色（5Y5/2）の地に灰色（5Y5/1）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片１点（3.2ｇ）の単独資料である。

・N17-8：内部は灰オリーブ色（5Y4/2）・灰オリーブ色（5Y5/2），節理は灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（10.1ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（10.1ｇ）である。

・N17-9：自然面は比較的平滑で灰オリーブ色(5Y5/2)の地に暗褐色(7.5YR3/3),内部はオリーブ灰色(10Y6/2)・暗灰黄色（2.5Y5/2）の地ににぶい黄褐色（10YR5/3）・にぶい褐色（7.5YR5/3）が部分的に混じり，節理は暗褐色（7.5YR3/3）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（１個体；5.5ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；5.5ｇ）である。

・N17-10：自然面は紙ヤスリ状で灰オリーブ色（5Y5/2），内部は灰色（5Y5/1），新鮮な面は灰色（N4/0）の安山岩である。楔形石器１点（3.2ｇ）の単独資料である。

・N17-11：透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。産地は不明である。砕片１点（0.1ｇ）の単独資料である。

3）出土遺物（第72図１～４）

１は信州和田峠周辺産の黒曜石による部分加工のナイフ形石器である。石刃の打面側を基部として，正面左側縁の一部と右側縁の上部，裏面左側縁の一部と右側縁の一部に調整加工を行っている。

２は安山岩による楔形石器である。上下両端に対向する剥離痕が見られる。

３は嶺岡産頁岩による使用痕ある剥片である。石刃あるいは石刃状の縦長剥片の正面右側縁の一部と裏面左側縁に微細な剥離痕が見られる。

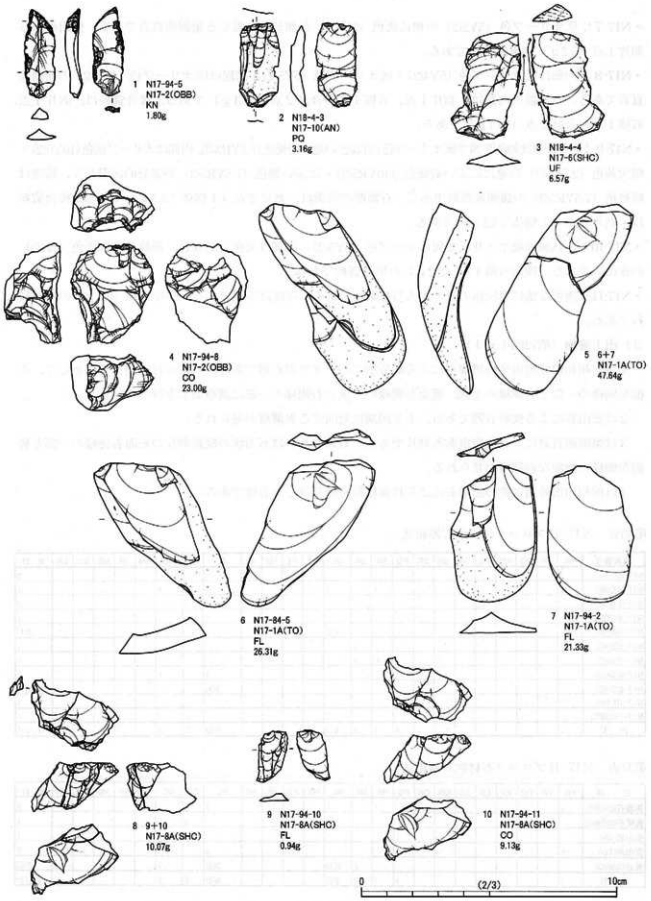
４は信州和田峠周辺産の黒曜石による打面転移を繰り返した石核である。

第36表　N17-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
N17-1(TO)																	3								3
N17-2(OBB)	1									1		1					1		1						5
N17-3(OBB)																	1	1							2
N17-4(OBB)																	1								1
N17-5(SHC)												2(1)													2(1)
N17-6(SHC)											1														1
N17-7(SHC)											1														1
N17-8(SHC)																	1		1						2
N17-9(SHC)																	2(1)								2(1)
N17-10(AN)									1																1
N17-11(OBG)																		1							1
合　計	1								1	1	2	3(2)					9(8)	2	2						21(19)

第37表　N17-Bブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
黒曜石B(OBB)	1									1		1					3	1	1						8
黒曜石G(OBG)																		1							1
安山岩(AN)									1																1
安山岩(TO)																	3								3
頁岩C(SHC)											2	2(1)					3(2)		1						8(6)
合　計	1								1	1	2	3(2)					9(8)	2	2						21(19)



第72図　N17-Bブロック出土遺物

4）接合資料とその関連資料（第72図5～10）

・N17-1（第72図5～7）　灰白色（5Y7/1）などの軟質の安山岩である。5は剥片2点（6・7）の接合資料である。

・N17-8（第72図8～10）　灰オリーブ色（5Y4/2）などの嶺岡産頁岩である。8は剥片1点（9），石核1点（10）の接合資料である。10は小型の剥片を素材として，小型で縦長の剥片を剥離している。

7　M18-Aブロック（第73～76・398図，第38・39表，カラー図版4・20，図版5）

1）ブロックの概要

M18-Aブロックは，調査範囲西側のM17-99，M18-08・09，N17-90，N18-00グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，直径6mの範囲に84点の石器が分布する。出土層位は，Ⅴ層からⅦ層にかけて，50cmほどの高低差をもって包含されている（第73・74図）。

ブロックは，ナイフ形石器2点，削器1点，楔形石器2点，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片2点，石刃6点，剥片39点（36個体），砕片29点，石核2点の合計84点（81個体）で構成される。石器石材は，黒曜石B83点（80個体），頁岩D1点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは26母岩を識別した。内訳は，黒曜石B25母岩（M18-1～22・N18-94・95・99），頁岩D1母岩（M18-23）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は65％（55/84点）である。

・M18-1：自然面は平滑で，自然面及び内部は黒色で透明な地に筋状のモヤが部分的に入り，節理のある黒曜石である。灰色の大きな夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点（11.9g）の単独資料である。

・M18-2：自然面は紙ヤスリ状で暗灰色（N3/0），内部は黒色の黒曜石である。φ1mmの灰白色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。削器1点（27.9g）の単独資料である。

・M18-3：暗黒褐色で半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。使用痕ある剥片1点（8.4g）の単独資料である。

・M18-4：自然面は平滑で，自然面及び内部は透明な地に暗黒褐色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点（5.9g）の単独資料である。

・M18-5：自然面は平滑で，自然面及び内部は黒色で半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片5点（10.3g）である。接合資料は，剥片5点（10.3g）がブロック外（M18-19グリッド）の剥片1点と接合している。

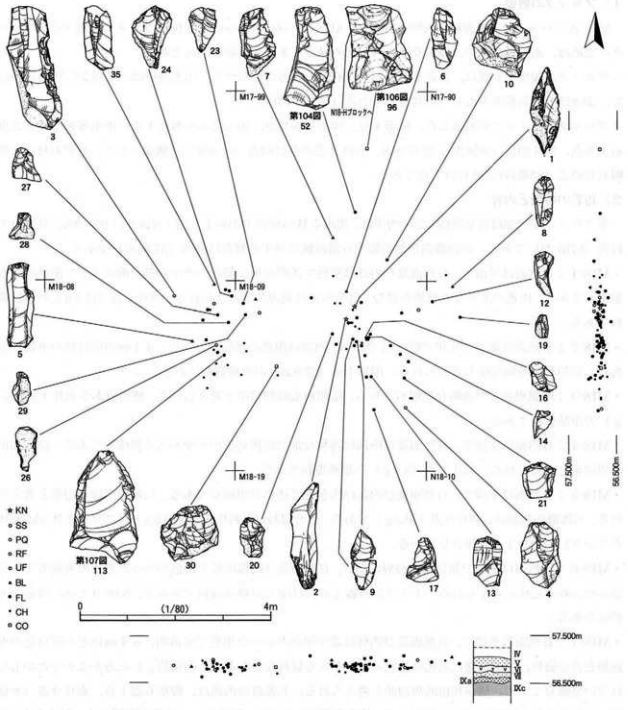
・M18-6：自然面は平滑で部分的に裂痕があり，自然面及び内部は若干褐色がかった黒色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器1点（7.0g）の単独資料であるが，N18-9と同一母岩の可能性がある。

・M18-7：自然面は平滑で，自然面及び内部は若干褐色がかった黒色で半透明，φ1mmほどの灰白色の夾雑物を含む資料，透明な地に黒色の筋状のモヤが入る資料などがあり，別母岩とした方がよかったかもしれない黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，楔形石器1点，剥片9点（8個体）の合計10点（9個体：23.4g）である。接合資料は，4グループあり，Aは楔形石器1点，剥片2点（1

個体）の合計3点（2個体；4.8g），Bは剥片3点（4.3g），Cは剥片2点（7.3g），Dは剥片2点（7.0g）である。

・M18-8：薄墨を流したような半透明な地に若干褐色がかった黒色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器1点（8.3g）の単独資料であるが，M18-9と同一母岩の可能性がある。

・M18-9：透明な地に黒色の筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。M18-8と

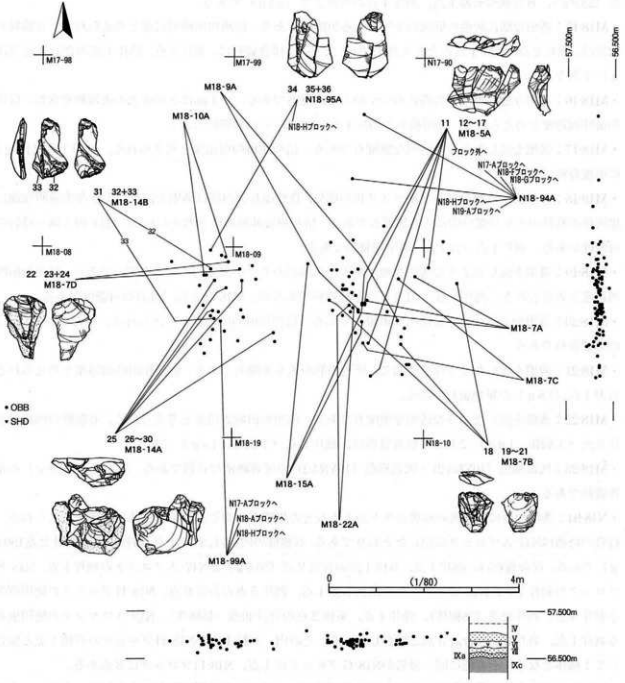


第73図　M18-Aブロック出土遺物分布（1）－器種別分布－

一部と同一母岩の可能性がある。石器群の内訳は，剥片１点，砕片１点の合計２点（1.2ｇ）である。接合資料は，剥片１点，砕片１点の合計２点（1.2ｇ）である。

・M18-10：透明な地に若干褐色がかった黒色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（１個体；0.4ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；0.4ｇ）である。

・M18-11：自然面は平滑で，自然面及び内部は透明な地に黒色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点（3.4ｇ）の単独資料である。



第74図　M18-Aブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

・M18-12：自然面及び内部は黒色で半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点(3.9g）の単独資料である。

・M18-13：薄墨を流したような透明な地に黒灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点（2.7g）の単独資料である。

・M18-14：自然面はスリガラス状の部分と裂痕の部分があり，自然面及び内部は薄墨をながしたような黒灰色で半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。全体に光沢がなく，被熱による可能性がある。石器群の内訳は，楔形石器1点，加工痕ある剥片1点，剥片7点，砕片1点，石核1点の合計11点（36.2g）である。接合資料は，2グループあり，Aは加工痕ある剥片1点，剥片3点，石核1点の合計5点（23.9g），Bは楔形石器1点，剥片1点の合計2点（4.4g）である。

・M18-15：透明な地に灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片2点，砕片1点の合計3点（5.0g）である。接合資料は，剥片2点，砕片1点の合計3点（5.0g）である。

・M18-16：透明な地に黒灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。φ1mmほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。使用痕ある剥片1点（8.9g）の単独資料である。

・M18-17：薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃1点（1.6g）の単独資料である。

・M18-18：自然面は平滑な部分と紙ヤスリ状の部分，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色の筋状のモヤが部分的に入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。M18-19と同一母岩の可能性がある。剥片1点（17.1g）の単独資料である。

・M18-19：薄墨を流したような透明な地に黒灰色の筋状のモヤが部分的に入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点（4.1g）の単独資料であるが，M18-18と同一母岩の可能性がある。

・M18-20：薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃1点（4.2g）の単独資料である。

・M18-21：薄墨を流したような半透明で，灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃1点（1.6g）の単独資料である。

・M18-22：薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は剥片2点（1個体；1.8g）である。接合資料は，剥片2点（1個体；1.8g）である。

・M18-23：灰黄褐色（10YR5/2）・灰黄褐色（10YR4/2）の硬質緻密な頁岩である。石刃1点（1.5g）の単独資料である。

・N18-94：透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入るなどの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴はN17-Aブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，剥片1点，石核1点の合計2点(50.6g）である。接合資料は，剥片1点，石核1点の合計2点（50.6g）がN17-Aブロックの剥片1点，N18-Fブロックの剥片1点，N18-Gブロックの錐状石器1点，剥片5点の合計6点，N18-Hブロックの使用痕ある剥片4点，剥片42点（38個体），砕片1点，石核2点の合計49点（45個体），N19-Aブロックの使用痕ある剥片1点，剥片2点の合計3点と接合している。その内，石核1点がN18-Hブロックの石核1点と接合して1個体となる。その他に同一母岩がN18-Gブロックに1点，N18-Hブロックに8点ある。

・N18-95：透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。本ブロックで

は石刃１点（4.9ｇ）の単独資料であるが，N18-Hブロックの石刃１点と接合している。

・N18-99：薄墨を流したような透明な部分と半透明な部分があり，部分的に黒灰色の筋が入るなどの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴は，N17-Aブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（29.4ｇ）の単独資料であるが，N17-Aブロックの剥片３点（２個体），N18-Aブロックの剥片１点，N18-Hブロックの使用痕ある剥片１点，剥片５点（３個体），石核１点の合計７点（５個体）と接合している。その他に同一母岩がN17-Aブロックに６点（２個体），N18-Gブロックに１点，N18-Hブロックに21点（18個体），N19-Aブロックに２点，ブロック外（M18-19グリッド）に１点ある。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Ｂの剥片３点，砕片26点の合計29点（8.0ｇ）がある。

３）出土遺物（第75図１～10）

１は信州和田峠周辺産の黒曜石による部分加工あるいは基部加工のナイフ形石器で，稜付きの石刃あるいは石刃状の縦長剥片の打面側を基部として，基部と右側縁上部に調整加工を行っている。なお，正面の右側の加撃軸に直交する剥離面は，光沢が他の剥離面と異なり，左側の自然面に類似していることから，自然面の可能性がある。２は信州和田峠周辺産の黒曜石による基部加工のナイフ形石器で，石刃の打面側を基部として，両面の基部に調整加工を行っている。また，両側縁の一部に微細な剥離痕などが見られる。

３は信州和田峠周辺産の黒曜石による削器で，石刃の右側縁に調整加工を行っている。また，正面の左側縁上部と末端，裏面の右側縁上部に微細な剥離痕などが見られる。

４は信州和田峠周辺産の黒曜石による使用痕ある剥片で，石刃状の縦長剥片の両側縁の一部に微細な剥離痕などが見られる。なお，図上ではガジリとして白ヌキで表現されているが，そのほとんどが使用痕と思われる。

５～７は信州和田峠周辺産の黒曜石，８は硬質緻密な頁岩による石刃である。５は裏面両側縁の一部に微細な剥離痕などが見られ，８は裏面末端に細かい剥離痕が見られる。

９・10は信州和田峠周辺産の黒曜石による剥片で，９は石刃状の縦長剥片，10は不定型な剥片であるが，左側面に加撃軸に直交する剥離面が見られ，打面再生剥片の可能性がある。９は接合して１個体となる。

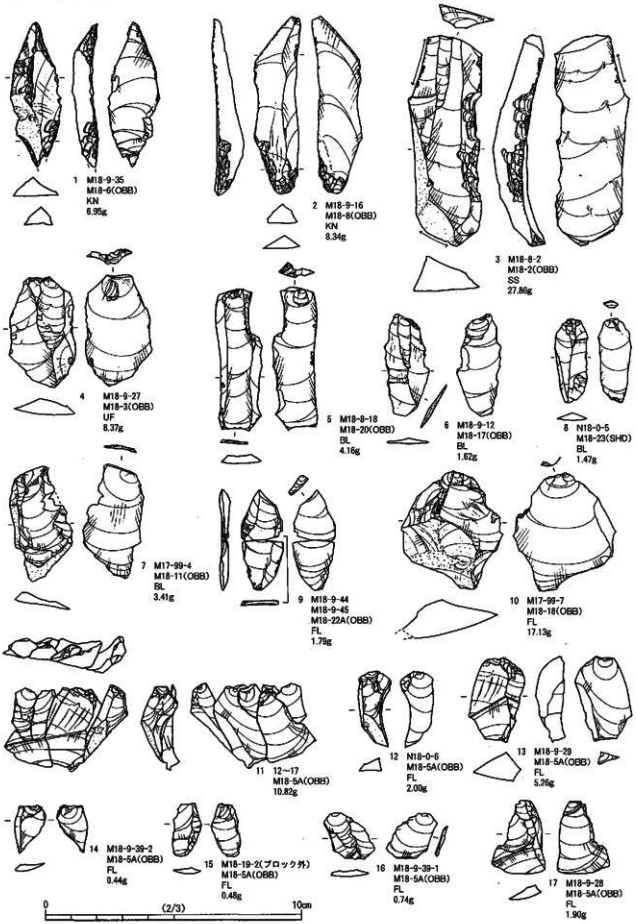
４）接合資料とその関連資料（第75図11～17，第76図）

・M18-5（第75図11～17）　半透明で黒色などの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。11は剥片５点（12～14・16・17），ブロック外（M18-19グリッド）の剥片１点（15）の接合資料である。11の背面には加撃方向と180度異なる剥離痕が見られる。

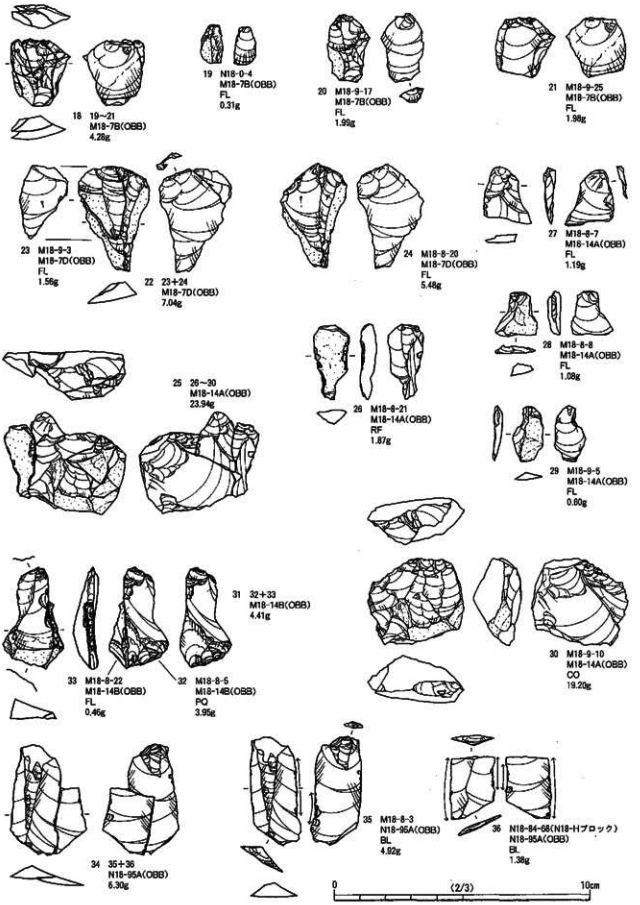
・M18-7（第76図18～24）　半透明で若干褐色がかった黒色などの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。18は剥片３点（19～21）の接合資料である。22は剥片２点（23・24）の接合資料である。

・M18-14（第76図25～33）　薄墨をながしたような黒灰色で半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。25は加工痕ある剥片１点（26），剥片３点（27～29），石核１点（30）の接合資料である。26は両側縁の一部に調整加工を行っている。30は比較的厚みのある剥片を素材として，小型で縦長の剥片を剥離している。31は楔形石器１点（32），剥片１点（33）の接合資料である。31の右側縁に調整加工が見られることから，加工痕ある剥片に両極打法により加撃され，33が剥離されたものと思われる。

・N18-95（第76図34～36）　透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。34は石刃１点（35），N18-Hブロックの石刃１点（36）の接合資料である。35は正面右側縁と裏面左側縁の一部，36は両面の両側縁に微細な剥離痕が見られる。



第75図　M18-Aブロック出土遺物(1)



第76図　M18-Aブロック出土遺物（2）

第38表　M18-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
M18-1(OBB)																	1								1
M18-2(OBB)						1																			1
M18-3(OBB)											1														1
M18-4(OBB)																	1								1
M18-5(OBB)																	5								5
M18-6(OBB)	1																								1
M18-7(OBB)										1							9(8)								10(9)
M18-8(OBB)	1																								1
M18-9(OBB)																	1	1							2
M18-10(OBB)																	2(1)								2(1)
M18-11(OBB)												1													1
M18-12(OBB)																	1								1
M18-13(OBB)																	1								1
M18-14(OBB)									1	1							7	1	1						11
M18-15(OBB)																	2	1							3
M18-16(OBB)											1														1
M18-17(OBB)												1													1
M18-18(OBB)																	1								1
M18-19(OBB)																	1								1
M18-20(OBB)												1													1
M18-21(OBB)												1													1
M18-22(OBB)																	2(1)								2(1)
M18-23(SHD)												1													1
M18-94(OBB)																	1		1						2
M18-95(OBB)												1													1
M18-99(OBB)																	1								1
その他(OBB)																	3	26							29
合　計	2					1			2	1	2	6					39(36)	29	2						84(81)

第39表　M18-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
黒曜石B(OBB)	2					1			2	1	2	5					39(36)	29	2						83(80)
頁岩D(SHD)												1													1
合　計	2					1			2	1	2	6					39(36)	29	2						84(81)

8　N18-Aブロック（第77～79・398図，第40・41表，カラー図版４・20）

1）ブロックの概要

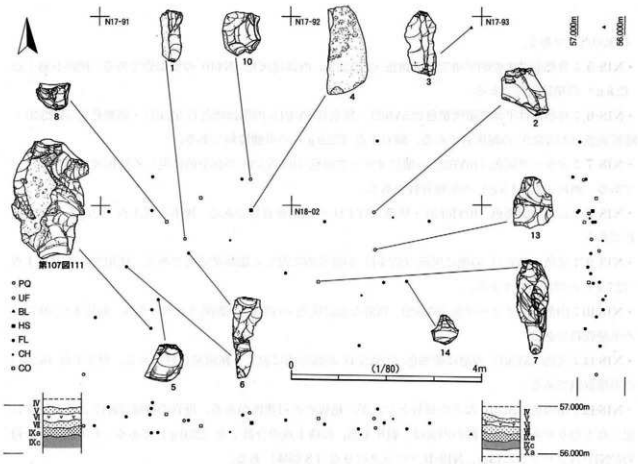
N18-Aブロックは，調査範囲西側のN17-91・92，N18-00～02グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸８m，短軸５mの範囲に29点の石器と北に３mほど離れて１点の石器が分布する。出土層位は，Ⅳ層からⅨa層にかけて，70cmほどの高低差をもって包含されている（第77・78図）。

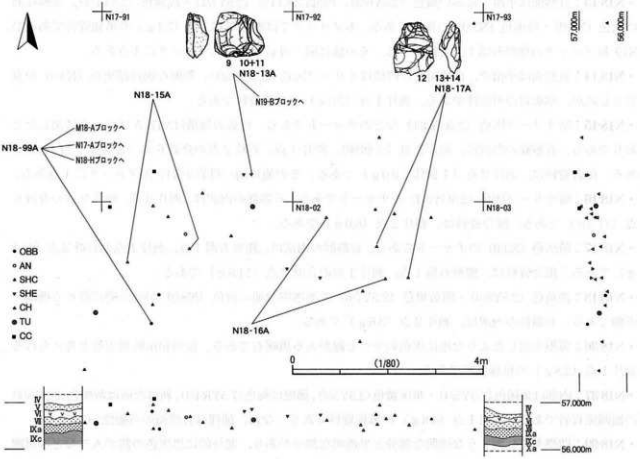
ブロックは，楔形石器４点，使用痕ある剥片１点，石刃１点，敲石１点，剥片17点（16個体），砕片３点，石核３点の合計30点（29個体）で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ２点，安山岩１点，頁岩Ｃ５点，頁岩Ｅ４点，チャート14点（13個体），凝灰岩２点，瑪瑙・玉髄２点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは17母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ２母岩（N18-36・99），安山岩１母岩（N18-５），頁岩Ｃ５母岩（N18-８～11・37），頁岩Ｅ３母岩（N18-12～14），チャート３母岩（N18-15～17），凝灰岩２母岩（N18-６・７），瑪瑙・玉髄１母岩（N18-18）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%



第77図　N18-Aブロック出土遺物分布(１)－器種別分布－



第78図　N18-Aブロック出土遺物分布(２)－石材別分布－

（30/30点）である。

・N18-5：自然面は比較的平滑で暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は灰色（N4/0）の安山岩である。楔形石器1点（3.8g）の単独資料である。

・N18-6：自然面は平滑で暗灰黄色(2.5Y5/2)・灰色(7.5Y4/1)，内部は灰色(7.5Y4/1)・暗褐色(7.5YR3/3)・暗灰黄色（2.5Y5/2）の凝灰岩である。敲石1点（72.9g）の単独資料である。

・N18-7：オリーブ灰色（10Y6/2）の地にオリーブ灰色（10GY5/1）が部分的に混じる珪化度の高い凝灰岩である。剥片1点（1.5g）の単独資料である。

・N18-8：にぶい黄褐色（10YR4/3）・灰色（5Y4/1）の嶺岡産頁岩である。楔形石器1点（9.0g）の単独資料である。

・N18-9：灰色（5Y6/1）の地に灰色（5Y5/1）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片1点（2.7g）の単独資料である。

・N18-10：内部は灰オリーブ色（5Y6/2），新鮮な面は灰色（5Y5/1）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（0.7g）の単独資料である。

・N18-11：灰色（5Y5/1）の地に黄褐色（2.5Y5/4）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。剥片1点（6.2g）の単独資料である。

・N18-12：暗灰色（N3/0）などの頁岩としたが，粘板岩の可能性がある。母岩の特徴はN17-Aブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，剥片1点，石核1点の合計2点（23.0g）である。その他に同一母岩がN17-Aブロックに13点，N18-Bブロックに9点（8個体）ある。

・N18-13：自然面は平滑でにぶい黄色（2.5Y6/3），内部は灰白色（2.5Y7/1）・浅黄色（2.5Y7/4），新鮮な面は灰色（N4/0）・暗灰色（N3/0）の頁岩である。本ブロックでは楔形石器1点（7.1g）の単独資料であるが，N19-Bブロックの楔形石器1点と接合する。その他に同一母岩がN18-Bブロックに1点ある。

・N18-14：自然面は平滑で，自然面及び内部はオリーブ灰色（2.5GY5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩としたが，粘板岩の可能性がある。剥片1点（3.0g）の単独資料である。

・N18-15：暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）などのチャートである。母岩の特徴はN17-Aブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，剥片3点（2個体），砕片1点，石核2点の合計6点（5個体；25.4g）である。接合資料は，剥片2点（1個体；6.0g）である。その他に同一母岩がN17-Aブロックに1点ある。

・N18-16：暗オリーブ灰色（2.5GY3/1）のチャートである。石器群の内訳は，剥片4点，砕片2点の合計6点（17.3g）である。接合資料は，剥片2点（6.0g）である。

・N18-17：暗灰色（N3/0）のチャートである。石器群の内訳は，楔形石器1点，剥片1点の合計2点（11.8g）である。接合資料は，楔形石器1点，剥片1点の合計2点（11.8g）である。

・N18-18：淡黄色（2.5Y8/4）・明黄褐色（2.5Y7/6）で半透明な地に白色（N9/0）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片2点（3.6g）である。

・N18-36：薄墨を流したような地に灰色のモヤと線が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点（2.8g）の単独資料である。

・N18-37：内部は黄褐色(2.5Y5/4)・暗灰黄色(2.5Y5/2)，節理は褐色(7.5YR4/4)，新鮮な面は黄褐色(2.5Y5/4)の嶺岡産頁岩である。石刃1点（4.8g）の単独資料である。なお，節理は自然面の可能性がある。

・N18-99：薄墨を流したような透明な部分と半透明な部分があり，部分的に黒灰色の筋が入るなどの黒曜

石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴は，N17-Aブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（53.2ｇ）の単独資料であるが，N17-Aブロックの剥片３点（２個体），M18-Aブロックの剥片１点，N18-Hブロックの使用痕ある剥片１点，剥片５点（３個体），石核１点の合計７点（５個体）と接合している。その他に同一母岩がN17-Aブロックに６点（２個体），N18-Gブロックに１点，N18-Hブロックに21点（18個体），N19-Aブロックに２点，ブロック外（M18-19グリッド）に１点ある。

３）出土遺物（第79図１～８）

１は安山岩，２は嶺岡産頁岩による楔形石器である。それぞれ，上下両端に対向する剥離痕が見られる。なお，２は裏面左側縁に微細な剥離痕が見られる。

３は嶺岡産頁岩による石刃である。

４は凝灰岩による敲石である。末端と器体中央部に粗い敲打痕が見られる。

５は信州和田峠周辺産の黒曜石，６はチャートによる剥片である。６は２点が接合して１個体となる。

７は頁岩による石核である。縦長剥片の主要剥離面を打面として，不定型な剥片を剥離している。また，正面の左側縁下半部に微細な剥離痕が見られる。８はチャートによる細石刃核に類似した小型の石核である。打面調整を施した平坦な単剥離面打面から小型で不定型な剥片を剥離している。

４）接合資料とその関連資料（第79図９～14）

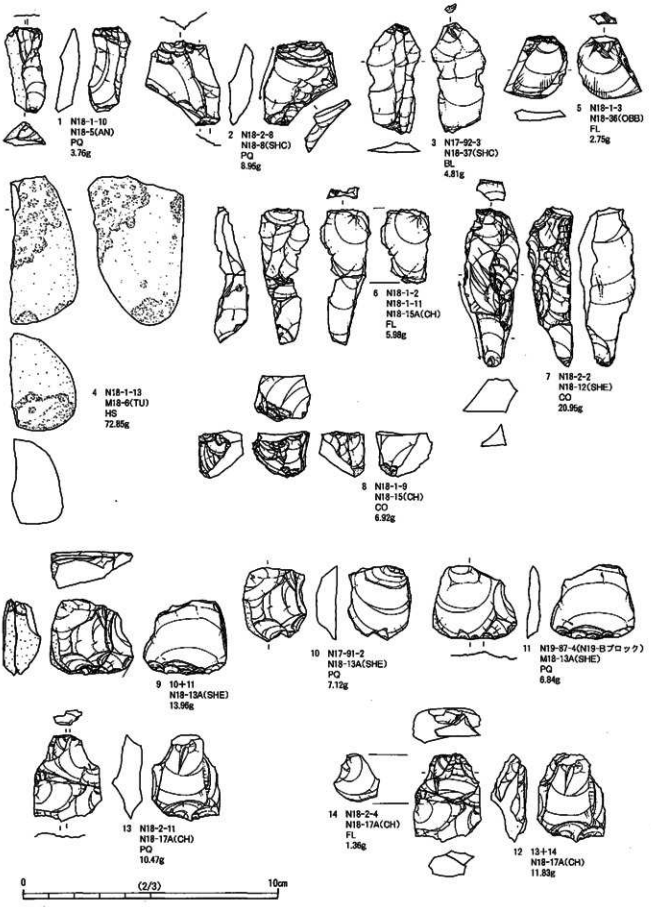
・N18-13（第79図９～11）　灰白色（2.5Y7/1）などの頁岩である。９は楔形石器１点（10），N19-Bブロッ

第40表　N18-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
N18-5(AN)									1																1
N18-6(TU)															1										1
N18-7(TU)																	1								1
N18-8(SHC)									1																1
N18-9(SHC)											1														1
N18-10(SHC)																	1								1
N18-11(SHC)																	1								1
N18-12(SHE)																	1		1						2
N18-13(SHE)									1																1
N18-14(SHE)																	1								1
N18-15(CH)																	3(2)	1	2						6(5)
N18-16(CH)																	4	2							6
N18-17(CH)									1								1								2
N18-18(CC)																	2								2
N18-36(OBB)																	1								1
N18-37(SHC)												1													1
N18-99(OBB)																	1								1
合　計									4		1	1			1		17(16)	3	3						30(29)

第41表　N18-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
黒曜石B(OBB)																	2								2
安山岩(AN)									1																1
頁岩C(SHC)									1		1	1					2								5
頁岩E(SHE)									1								2		1						4
チャート(CH)									1								8(7)	3	2						14(13)
凝灰岩(TU)															1		1								2
碧玉・玉髄(CC)																	2								2
合　計									4		1	1			1		17(16)	3	3						30(29)



第79図　N18-Aブロック出土遺物

クの楔形石器１点（11）の接合資料である。上下両端に対向する潰痕状の剥離痕が見られる。10は11の剥片（スポール）とした方が良いかもしれない。

・N18-17（第79図12～14）　暗灰色（N3/0）のチャートである。12は楔形石器１点（13），剥片１点（14）の接合資料である。上下両端に対向する剥離痕が見られる。14は13の剥片（スポール）である。

9　N18-Bブロック（第80～82・398図，第42・43表，カラー図版４）

1）ブロックの概要

N18-Bブロックは，調査範囲西側のM18-29，N18-10・20グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸６m，短軸４mの範囲に17点の石器が分布する。出土層位は，Ⅳ層からⅨa層にかけて，50cmほどの高低差をもって包含されている（第80・81図）。

ブロックは，楔形石器２点（１個体），剥片11点（10個体），砕片４点の合計17点（15個体）で構成される。石器石材は，頁岩Ｃ５点（４個体），頁岩Ｅ11点（10個体），ホルンフェルス１点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは６母岩を識別した。内訳は，頁岩Ｃ３母岩（N18-31～33），頁岩Ｅ２母岩（N18-12・13），ホルンフェルス１母岩（N18-34）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は94％（16/17点）である。

・N18-12：暗灰色（N3/0）などの頁岩としたが，粘板岩の可能性がある。母岩の特徴はN17-Aブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，楔形石器２点（１個体），剥片４点，砕片３点の合計９点（８個体；25.0ｇ）である。接合資料は，楔形石器２点（１個体；10.3ｇ）である。その他に同一母岩がN17-Aブロックに13点，N18-Aブロックに２点ある。

・N18-13：灰白色（2.5Y7/1）などの頁岩である。母岩の特徴はN18-Aブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（1.4ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がN18-Aブロックに１点，N19-Bブロックに１点ある。

・N18-31：内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の地に灰白色（5Y7/1）・灰オリーブ色（5Y6/2）が部分的に混じり，節理は黄褐色（2.5Y5/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（35.0ｇ）である。

・N18-32：灰オリーブ色（5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（１個体：2.2ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；2.2ｇ）である。

・N18-33：自然面は比較的平滑で褐色（10YR4/4），内部は暗灰黄色（2.5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（0.8ｇ）の単独資料である。

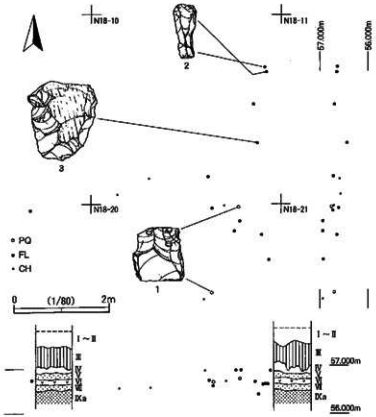
・N18-34：自然面は平滑で灰色（10Y5/1），内部及び新鮮な面は灰色（10Y4/1）のホルンフェルスである。剥片１点（15.6ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，頁岩Ｅの砕片１点（0.1ｇ）がある。

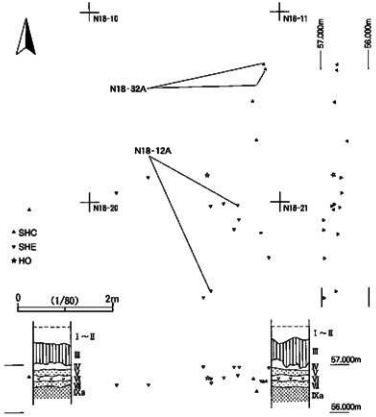
3）出土遺物（第82図）

１は頁岩による楔形石器である。上下両端に対向する潰痕状の剥離痕が見られる。

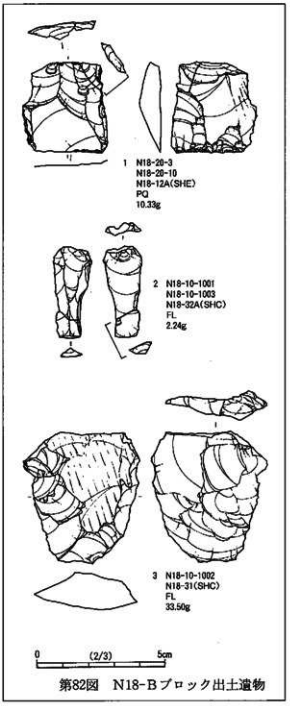
２・３は嶺岡産頁岩による剥片である。２は２点が接合して１個体となる。



第80図　N18-Bブロック出土遺物分布（1）
－器種別分布－



第81図　N18-Bブロック出土遺物分布（2）
－石材別分布－



第82図　N18-Bブロック出土遺物

第42表　N18-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合 計
N18-12(SHE)									2(1)								4	2							8(8)
N18-13(SHE)																	1								1
N18-31(SHC)																	2								2
N18-32(SHC)																	2(1)								2(1)
N18-33(SHC)																	1								1
N18-34(HO)																	1								1
その他(SHE)																		1							1
合　計									2(1)								11(10)	4							17(15)

第43表　N18-Bブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合 計
頁岩C(SHC)																	5(4)								5(4)
頁岩E(SHE)									2(1)								5	4							11(10)
ホルンフェルス(HO)																	1								1
合　計									2(1)								11(10)	4							17(15)

10　N18-Cブロック（第83～85・398図，第44・45表，カラー図版4）

1）ブロックの概要

N18-Cブロックは，調査範囲西側のN18-13・14・24グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は15mである。

ブロックの規模と形状は，長軸6m，短軸4mの範囲に7点の石器が分布する。出土層位は，Ⅳ層からⅨc層にかけて，80cmほどの高低差をもって包含されている（第83・84図）。

ブロックは，使用痕ある剥片1点，剥片5点，砕片1点の合計7点で構成される。石器石材は，安山岩3点，軟質の安山岩1点，頁岩C2点，頁岩E1点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは6母岩を識別した。内訳は，安山岩2母岩（N18-20・21），軟質の安山岩1母岩（N18-19），頁岩C2母岩（N18-22・35），頁岩E1母岩（N18-23）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（7/7点）である。

・N18-19：灰色（5Y6/1）の軟質の安山岩である。砕片1点（0.3g）の単独資料である。

・N18-20：自然面は紙ヤスリ状で暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は黄灰色（2.5Y5/1），新鮮な面は灰色（N4/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片2点（8.3g）である。

・N18-21：黄褐色（2.5Y5/3）の安山岩である。剥片1点（1.7g）の単独資料である。

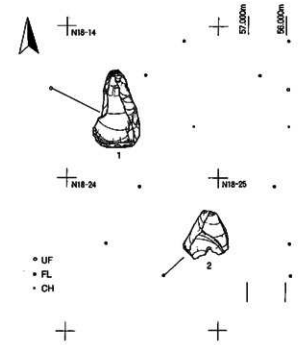
・N18-22：内部は黄灰色（2.5Y4/1）の地に褐色（10YR4/4）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片1点（9.9g）の単独資料である。

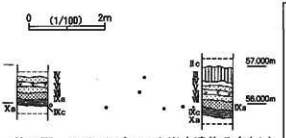
・N18-23：内部は暗灰黄色（N3/0），節理は灰色（10Y5/1）の頁岩としたが，粘板岩の可能性もある。剥片1点（1.3g）の単独資料である。

・N18-35：オリーブ褐色（2.5Y4/6）・灰色（5Y6/1）・灰色（N4/0）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（17.3g）の単独資料である。

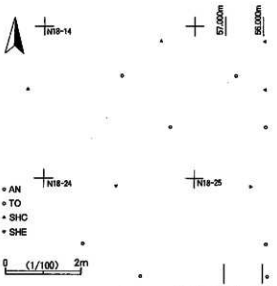
3）出土遺物（第85図）

1は嶺岡産頁岩による使用痕ある剥片である。縦長剥片の末端と右側縁の一部に微細な剥離痕が見られる。2は安山岩による不定型な剥片である。

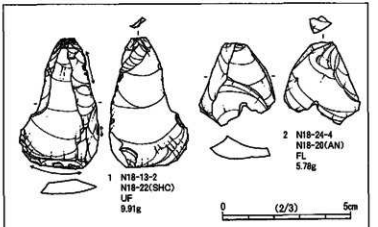




第83図　N18-Cブロック出土遺物分布(1)
―器種別分布―



第84図　N18-Cブロック出土遺物分布(2)
―石材別分布―



第85図　N18-Cブロック出土遺物

第44表　N18-Cブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
N18-18(TO)																		1							1
N18-20(AN)																	2								2
N18-21(AN)																	1								1
N18-22(SHC)											1														1
N18-23(SHE)																	1								1
N18-35(SHC)																	1								1
合計											1						5	1							7

第45表　N18-Cブロック石材別石器組成

石材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
安山岩(AN)																	3								3
安山岩(TO)																		1							1
頁岩C(SHC)											1						1								2
頁岩E(SHE)																	1								1
合計											1						5	1							7

11　N18-Eブロック（第86～88・398図，第46・47表，カラー図版4，図版6）

1）ブロックの概要

N18-Eブロックは，調査範囲西側のN18-44・53・54グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は15mである。

ブロックの規模と形状は，長軸5m，短軸2mの範囲に8点の石器が分布する。出土層位は，Ⅵ層からⅨ層にかけて，50cmほどの高低差をもって包含されている（第86・87図）。

ブロックは，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片1点，剥片5点，石核1点の合計8点で構成される。石器石材は，黒曜石B2点，軟質の安山岩1点，頁岩C3点，頁岩D1点，頁岩E1点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは8母岩を識別した。内訳は，黒曜石B2母岩（N18-25・82），軟質の安山岩1母岩（N18-24），頁岩C3母岩（N18-26～28），頁岩D1母岩（N18-29），頁岩E1母岩（N18-30）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（8/8点）である。

・**N18-24**：内部は灰白色（5Y7/1）の地に灰白色（5Y8/1）が部分的に混じり，新鮮な面は灰色（5Y5/1）の軟質の安山岩である。剥片1点（2.5g）の単独資料である。

・**N18-25**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は半透明な地に灰色のモヤが入る黒曜石である。φ2mm～4mmほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。加工痕ある剥片1点（7.0g）の単独資料である。

・**N18-26**：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR4/3），内部は灰色（5Y6/1）・灰色（5Y5/1）・灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（1.6g）の単独資料である。

・**N18-27**：黄褐色（2.5Y5/4）・灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（1.3g）の単独資料である。

・**N18-28**：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR4/3），内部は暗灰黄色（2.5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片1点（2.0g）の単独資料である。

・**N18-29**：黄灰色（2.5Y4/1）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（2.1g）の単独資料である。

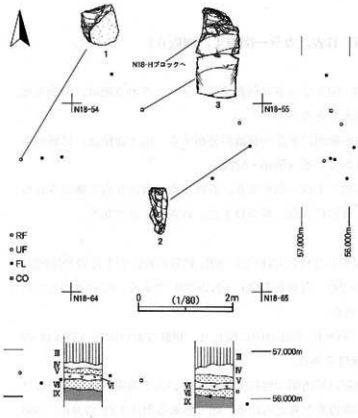
・**N18-30**：内部は暗オリーブ灰色（2.5GY4/1），新鮮な面は黒色（N2/0）の頁岩である。剥片1点（2.3g）の単独資料である。

・**N18-82**：半透明な地に若干褐色がかった黒灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。φ1mmほどの灰白色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。本ブロックでは石核1点（7.4g）の単独資料であるが，N18-Hブロックの石核1点と接合して1個体となる。

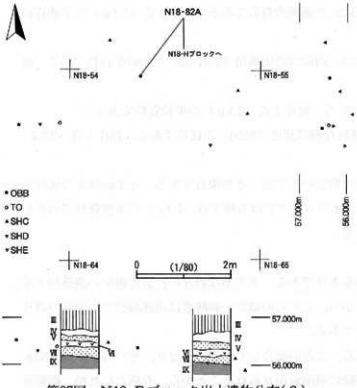
3）出土遺物（第88図）

1は信州和田峠周辺産の黒曜石による加工痕ある剥片である。不定型な剥片の打面に細かい調整加工が見られるが，主要剥離面との新旧関係はないことから，これらの細かい剥離痕は頭部調整で，通常の剥片の可能性もある。2は嶺岡産頁岩による縦長剥片である。

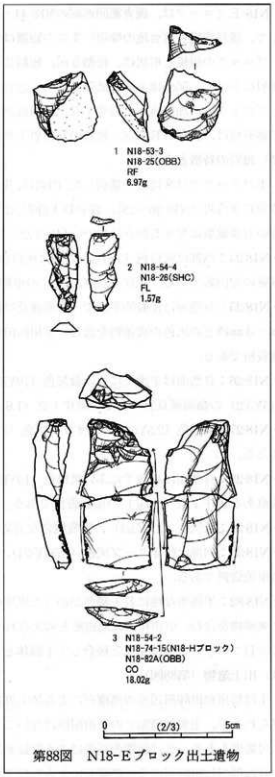
3は信州和田峠周辺産の黒曜石による石核である。2点が接合して1個体となり，その内の1点はN18-Hブロックから出土している。正面の上部と左側縁に剥離痕が見られることから，石核としたが，彫器等の可能性もある。また，破損後も両側縁に微細な剥離痕が見られることから，再利用された様である。



第86図　N18-Eブロック出土遺物分布（１）
－器種別分布－



第87図　N18-Eブロック出土遺物分布（２）
－石材別分布－



第88図　N18-Eブロック出土遺物

第46表　N18-Eブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
N18-24(TO)																	1								1
N18-25(OBB)										1															1
N18-26(SHC)																	1								1
N18-27(SHC)																	1								1
N18-28(SHC)											1														1
N18-29(SHD)																	1								1
N18-30(SHE)																	1								1
N18-82(OBB)																			1						1
合　計										1	1						5		1						8

第47表　N18-Eブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
黒曜石B(OBB)										1									1						2
安山岩(TO)																	1								1
頁岩C(SHC)											1						2								3
頁岩D(SHD)																	1								1
頁岩E(SHE)																	1								1
合　計										1	1						5		1						8

12　N18-Fブロック（第89～91・398図，第48・49表，カラー図版４，図版６）

１）ブロックの概要

N18-Fブロックは，調査範囲西側のN18-46・56グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側台地上の縁辺部である。

ブロックの規模と形状は，長軸２m，短軸１mの範囲に３点の石器が分布する。出土層位は，Ⅴ層からⅥ層にかけて，10cmほどの高低差をもって包含されている（第89・90図）。

ブロックは，使用痕ある剥片１点，石刃１点，剥片１点の合計３点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ３点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ３母岩（N18-76・77・94）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（3/3点）である。

・N18-76：薄墨を流したような透明な黒曜石である。φ３mmほどの灰白色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。使用痕ある剥片１点（10.7ｇ）の単独資料である。

第48表　N18-Fブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
N18-76(OBB)											1														1
N18-77(OBB)												1													1
N18-94(OBB)																	1								1
合　計											1	1					1								3

第49表　N18-Fブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
黒曜石B(OBB)											1	1					1								3
合　計											1	1					1								3

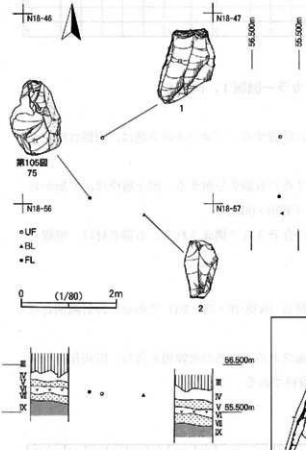
・N18-77：薄墨を流したような半透明な地に黒灰色・灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃1点（4.4g）の単独資料である。

・N18-94：透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入るなどの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴はN17-Aブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片1点（19.2g）の単独資料であるが，M18-Aブロックの剥片1点，石核1点の合計2点，N17-Aブロックの剥片1点，N18-Gブロックの錐状石器1点，剥片5点の合計6点，N18-Hブロックの使用痕ある剥片4点，剥片42点（38個体），砕片1点，石核2点の合計49点（45個体），N19-Aブロックの使用痕ある剥片1点，剥片2点の合計3点と接合している。その他に同一母岩がN18-Gブロックに1点，N18-Hブロックに8点ある。

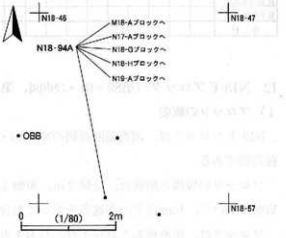
3）出土遺物（第91図）

1は信州和田峠周辺産の黒曜石による使用痕ある剥片で，両面の両側縁に微細な剥離痕が見られる。

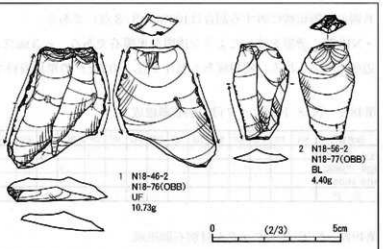
2は信州和田峠周辺産の黒曜石による石刃で，左側縁下半部に微細な剥離痕が見られる。



第89図　N18-Fブロック出土遺物分布（1）
－器種別分布－



第90図　N18-Fブロック出土遺物分布（2）
－石材別分布－



第91図　N18-Fブロック出土遺物

13 N18-Gブロック（第92～96・398図，第50～52表，カラー図版5・20，図版6）

1）ブロックの概要

N18-Gブロックは，調査範囲西側のN18-66・67・76・77グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側台地上の縁辺部である。

ブロックの規模と形状は，長軸8m，短軸6mの範囲に107点の石器・礫が分布する。その内，原位置不明の遺物が3点ある。出土層位は，Ⅲ層からⅦ層にかけて，90cmほどの高低差をもって包含されている（第92・93図）。

ブロックは，ナイフ形石器10点（9個体），掻器1点，錐状石器1点，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片5点（4個体），石刃17点（15個体），剥片48点（42個体），砕片15点，石核1点の合計99点（89個体）と礫8点で構成される。石器石材は，黒曜石B95点（85個体），チャート3点，粘板岩1点である。礫石材は，砂岩8点（2母岩；695.4g）で，識別率は100%である。なお，N18R-1についてはN18-Hブロックと接合関係がある。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは45母岩を識別した。内訳は，黒曜石B41母岩（N17-79・83・N18-38～70・75・94・98・99・104・N19-38），チャート3母岩（N18-72～74），粘板岩1母岩（N18-71）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は74%（73/99点）である。

・N17-79：半透明で多少紫色がかった黒灰色などの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴は17-Aブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，使用痕ある剥片2点（1個体），剥片3点（1個体）の合計5点（2個体；25.6g）である。接合資料は，2グループあり，Cは剥片3点（1個体；8.9g）が，ブロック外（N17-63グリッド）の剥片1点と接合している。Dは使用痕ある剥片2点（1個体；14.7g）である。その他に同一母岩がN17-Aブロックに29点（28個体），N18-Hブロックに1点，ブロック外（N17-63グリッド）に1点ある。

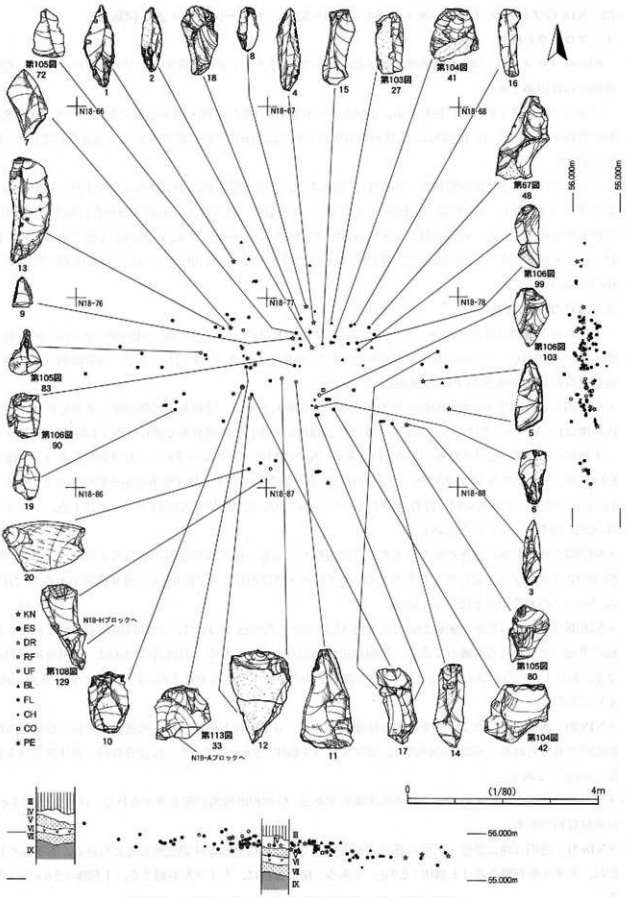
・N17-83：透明な地に灰色のモヤが入るなどの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴はN17-Aブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片1点（12.6g）の単独資料であるが，N17-Aブロックの剥片1点と接合している。

・N18-38：自然面は爪形の裂痕が密で灰黄色（2.5Y7/2）・黄灰色（2.5Y4/1），内部は薄墨をながしたような地に黒色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片2点，剥片1点の合計3点（82.3g）である。接合資料は，使用痕ある剥片1点，剥片1点の合計2点（66.7g）である。

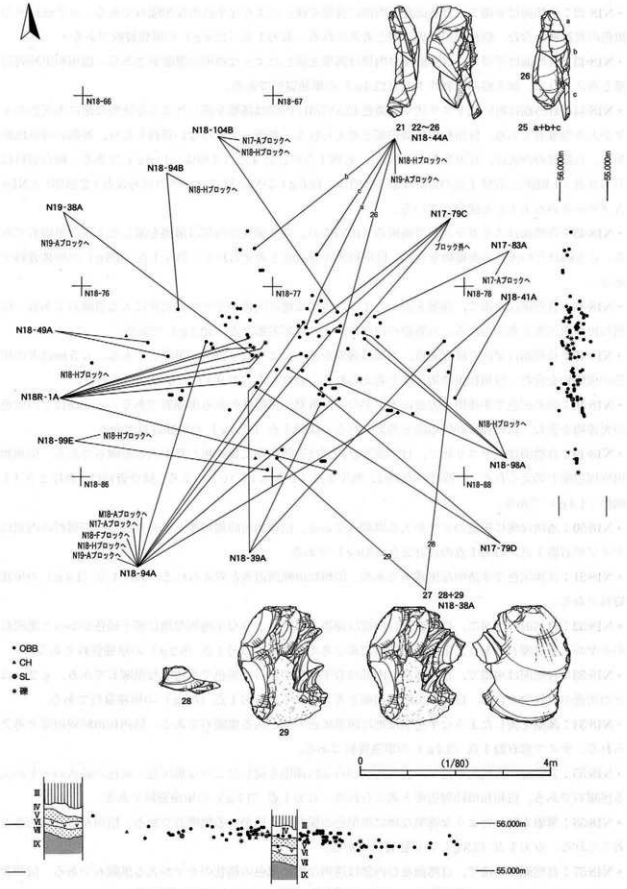
・N18-39：薄墨を流したような半透明な黒曜石である。φ3mmほどの灰白色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片3点（1個体；9.6g）である。接合資料は，剥片3点（1個体；9.6g）である。

・N18-40：透明な地に灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃1点（4.1g）の単独資料である。

・N18-41：透明な地に黒色・灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器2点（1個体；2.0g）である。接合資料は，ナイフ形石器2点（1個体；2.0g）である。



第92図　N18-Gブロック出土遺物分布(1)－器種別分布－



第93図　N18-Gブロック出土遺物分布(２)－石材別分布－

・N18-42：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。φ２㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点（12.8ｇ）の単独資料である。

・N18-43：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。加工痕ある剥片１点（13.4ｇ）の単独資料である。

・N18-44：自然面は粗い紙ヤスリ状で浅黄色（2.5Y7/3），内部は薄墨を流したような透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。表面に光沢のない資料もあり，被熱の可能性がある。石器群の内訳は，石刃３点（１個体），石核１点の合計４点（２個体；13.6ｇ）である。接合資料は，石刃３点（１個体），石核１点の合計４点（２個体；13.6ｇ）がN18-Hブロックの石刃３点（２個体）とN19-Aブロックの石刃１点と接合している。

・N18-45：自然面はスリガラス状で褐灰色（10YR6/1），自然面及び内部は薄墨を流したような黒曜石である。φ５㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（5.6ｇ）の単独資料である。

・N18-46：自然面は平滑で，薄墨を流したような透明な地に灰色のモヤが点紋状に入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器２点（10.2ｇ）である。

・N18-47：自然面は平滑で淡黒灰色，内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。φ５㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（21.9ｇ）の単独資料である。

・N18-48：淡黒灰色で半透明，表面に光沢がなく，被熱の可能性のある黒曜石である。φ１㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。掻器１点（12.4ｇ）の単独資料である。

・N18-49：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は透明な地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（１個体；1.3ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；1.3ｇ）である。

・N18-50：透明な地に黒色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，石刃１点の合計２点（3.9ｇ）である。

・N18-51：淡黒灰色で半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（1.4ｇ）の単独資料である。

・N18-52：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に若干褐色がかった黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点（8.2ｇ）の単独資料である。

・N18-53：自然面は平滑で，自然面及び内部は若干褐色がかった黒色で半透明な黒曜石である。φ２㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点（7.9ｇ）の単独資料である。

・N18-54：薄墨を流したような半透明な地に淡黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器１点（3.4ｇ）の単独資料である。

・N18-55：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような黒灰色・灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点（3.7ｇ）の単独資料である。

・N18-56：薄墨を流したような透明な地に黒褐色の屈曲した筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点（3.8ｇ）の単独資料である。

・N18-57：自然面は平滑で，自然面及び内部は透明な地に黒色の筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（16.2ｇ）である。

・N18-58：自然面は平滑で，自然面及び内部は若干褐色がかった黒色で半透明な黒曜石である。φ３㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（7.9ｇ）の単独資料である。

・N18-59：薄墨を流したような透明な地に黒灰色の筋が多数入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点（1.4ｇ）の単独資料である。

・N18-60：自然面は平滑でにぶい褐色（7.5YR5/3），薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器１点（4.9ｇ）の単独資料である。

・N18-61：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な地に黒灰色の筋が多数入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点，砕片２点の合計４点（4.1ｇ）である。

・N18-62：透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（3.2ｇ）の単独資料である。

・N18-63：薄墨を流したような透明な地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（5.7ｇ）の単独資料である。

・N18-64：薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（2.6ｇ）である。

・N18-65：薄墨を流したような透明な地に灰色の筋が入る黒曜石である。φ５㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点（1.8ｇ）の単独資料である。

・N18-66：透明な地に淡灰色の筋が入る黒曜石である。φ２㎜ほどの灰白色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点（2.6ｇ）の単独資料である。

・N18-67：自然面はスリガラス状でにぶい黄色（2.5Y6/4），内部は薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点（0.9ｇ）の単独資料である。

・N18-68：薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（1.9ｇ）の単独資料である。

・N18-69：自然面は紙ヤスリ状で黄灰色（2.5Y4/1），内部は薄墨を流したような地に若干褐色がかった黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点（7.8ｇ）の単独資料である。

・N18-70：薄墨を流したような透明な地に若干褐色がかった黒色・灰色のモヤが部分的に入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器１点（2.1ｇ）の単独資料である。

・N18-71：内部は暗灰色（N3/0），節理はにぶい黄褐色（10YR5/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の粘板岩である。剥片１点（2.0ｇ）の単独資料である。

・N18-72：灰色（5Y4/1）のチャートである。剥片１点（1.1ｇ）の単独資料である。

・N18-73：自然面は平滑でオリーブ黒色（7.5Y3/2）・暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は灰色（10Y4/1），節理は灰オリーブ色（5Y6/2）・灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y4/1）・にぶい黄褐色（10YR4/3）・浅黄色（2.5Y7/4）のチャートである。剥片１点（29.3ｇ）の単独資料である。

・N18-74：灰オリーブ色（5Y5/2）のチャートである。剥片１点（1.2ｇ）の単独資料である。

・N18-75：薄墨を流したような透明な地に黒灰色の帯状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器１点（5.4ｇ）の単独資料である。

・N18-94：透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入るなどの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。

母岩の特徴はN17-Aブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，錐状石器1点，剥片6点の合計7点（30.0g）である。接合資料は，2グループあり，Aは錐状石器1点，剥片5点の合計6点（28.7g）が，N17-Aブロックの剥片1点，M18-Aブロックの剥片1点，石核1点の合計2点，N18-Fブロックの剥片1点，N18-Hブロックの使用痕ある剥片4点，剥片42点（38個体），砕片1点，石核2点の合計49点（45個体），N19-Aブロックの使用痕ある剥片1点，剥片2点の合計3点と接合している。Bは剥片1点（1.3g）が，N18-Hブロックの剥片3点と接合している。その他に同一母岩がN18-Hブロックに5点ある。

・N18-98：自然面は平滑で黄灰色（2.5Y4/1），内部は薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，剥片2点（1個体）の合計3点（2個体；7.5g）である。接合資料は，使用痕ある剥片1点，剥片2点（1個体）の合計3点（2個体；7.5g）がN18-Hブロックの使用痕ある剥片3点，剥片5点，石核1点の合計9点と接合している。その他に同一母岩がN18-Hブロックに1点ある。

・N18-99：薄墨を流したような透明な部分と半透明な部分があり，部分的に黒灰色の筋が入るなどの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴は，N17-Aブロックに記したとおりである。本ブロックでは石刃1点（7.0g）の単独資料であるが，N18-Hブロックの石刃2点，剥片1点の合計3点と接合している。その内，本ブロックの石刃1点がN18-Hブロックの石刃1点と接合して1個体となる。その他に同一母岩がM18-Aブロックに1点，N17-Aブロックに9点（4個体），N18-Aブロックに1点，N18-Hブロックに25点（20個体），N19-Aブロックに2点，ブロック外（M18-19グリッド）に1点ある。

・N18-104：薄墨を流したような透明などの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴はN17-Aブロックに記したとおりである。本ブロックでは石刃1点（3.7g）の単独資料であるが，N17-Aブロックの石刃1点，N18-Hブロックの石刃1点と接合している。その他に同一母岩がN18-Hブロックに9点（8個体）ある。

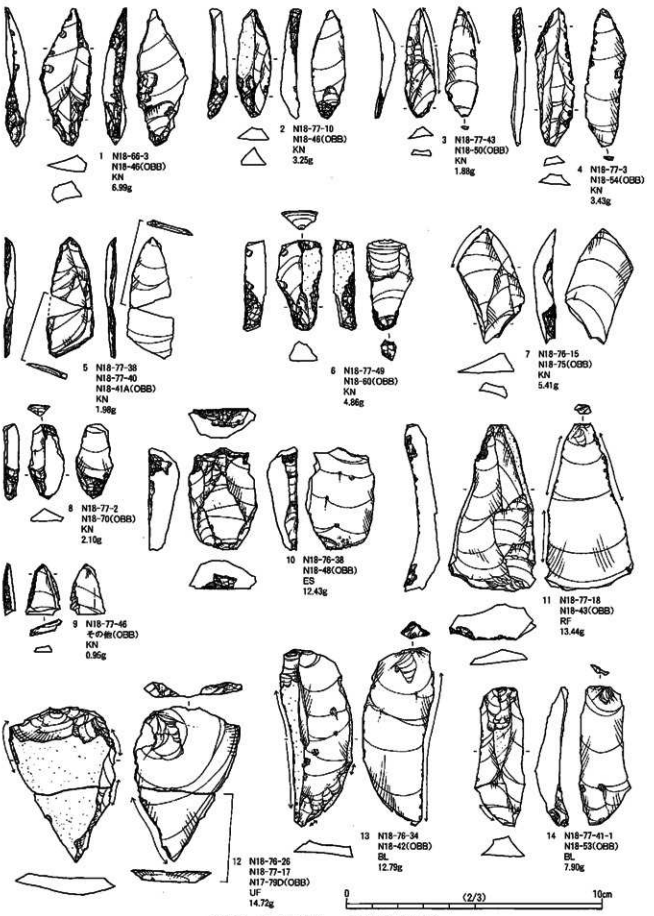
・N19-38：自然面は凹凸が顕著な部分と黒灰色でスリガラス状の部分があり浅黄色（2.5Y7/4），内部は透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。本ブロックでは剥片1点（12.7g）の単独資料であるが，N19-Aブロックの剥片3点と接合している。その内，本ブロックの剥片1点がN19-Aブロックの剥片1点と接合して1個体となる。その他に同一母岩がN18-Hブロックに1点，N19-Aブロックに6点（5個体）ある。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Bのナイフ形石器1点，剥片12点，砕片13点の合計16点（7.6g）がある。

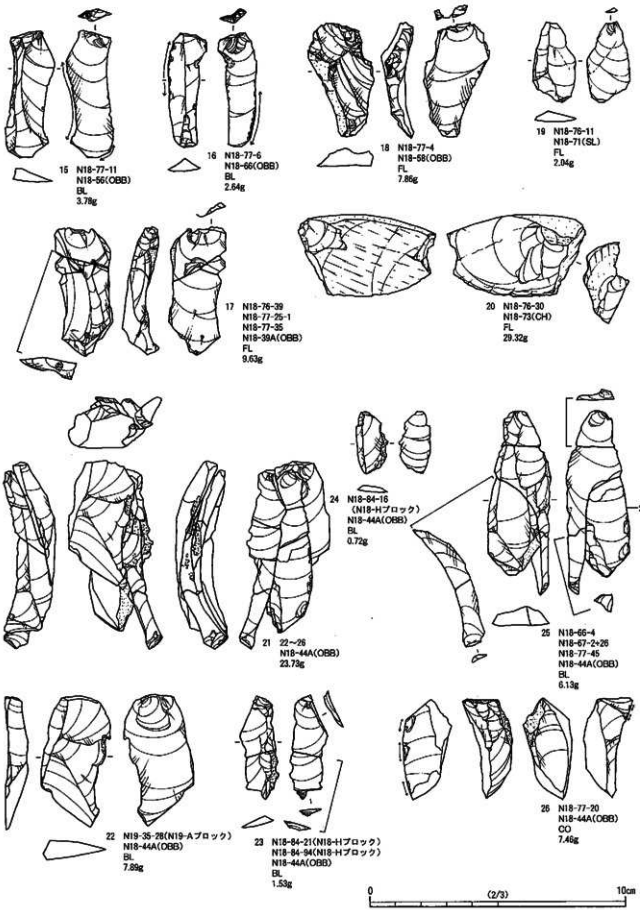
3）出土遺物（第94図，第95図15～20）

1～9は信州和田峠周辺産の黒曜石によるナイフ形石器である。1・5は二側縁加工で，両者とも打面側を先端部として，1は右側縁と左側縁下半部，5は左側縁と右側縁下半部に調整加工を行っており，2点が接合して1個体となる。3・6・8は基部加工で，3・6は打面側を基部，8は打面側を先端部として，基部に調整加工を行っている。2・4・7は部分加工で，2は左側縁下部と右側縁上部，4は左側縁上部，7は右側縁下部に調整加工を行っている。9は下半部を欠損するため，形態不明である。なお，1・2・6・8には裏面基部加工も見られる。また，3・7の刃部には，微細な剥離痕が見られる。

10は信州和田峠周辺産の黒曜石による掻器で，石刃あるいは石刃状の縦長剥片の上部の折断面と末端に急角度の調整加工を行っている。なお，右側面に見られる樋状の剥離痕は，欠損時に生じたものと思われる。



第94図　N18-Gブロック出土遺物(1)



第95図　N18-Gブロック出土遺物(2)

11は信州和田峠周辺産の黒曜石による加工痕ある剥片で，石刃あるいは石刃状の縦長剥片の左側縁の一部と末端の一部に調整加工を行っている。また，裏面の両側縁に微細な剥離痕が見られる。

12は信州和田峠周辺産の黒曜石による使用痕ある剥片で，不定型な剥片の正面両側縁の一部と裏面左側縁の下部に微細な剥離痕が見られる。２点が接合して１個体となる。

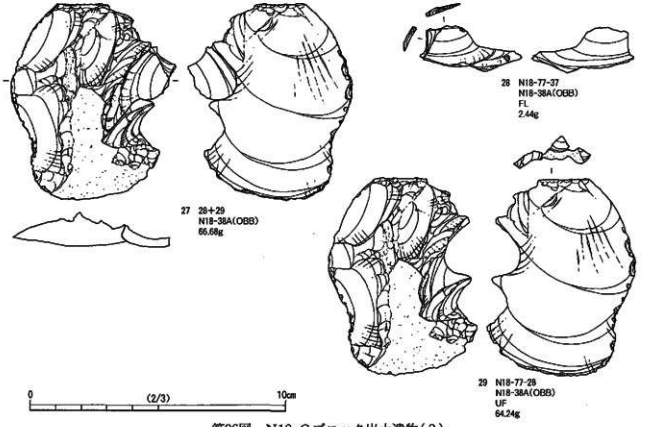
13～16は信州和田峠周辺産の黒曜石による石刃で，13は正面左側縁と右側縁の一部，裏面は右側縁，14は末端，15は裏面左側縁と末端，16は正面左側縁上部と裏面右側縁下部に微細な剥離痕が見られる。

17・18は信州和田峠周辺産の黒曜石，19は粘板岩，20はチャートによる剥片である。17～19は石刃あるいは石刃状の縦長剥片，20は横長剥片である。17は３点が接合して１個体となる。

４）接合資料とその関連資料（第95図21～26，第96図）

・**N18-44（第95図21～26）**　薄墨を流したような透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。21は石刃３点（１個体；25），石核１点（26），N18-Hブロックの石刃３点（２個体；23・24），N19-Aブロックの石刃１点（22）の接合資料である。その内，23は石刃２点，25は石刃３点が接合して１個体となる。大型の石刃を素材として，小石刃を剥離している。26は表面に光沢がなく，被熱の可能性がある。また，微細な剥離痕が見られる。

・**N18-38（第96図）**　薄墨をながしたような地に黒色のモヤが入るなどの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。27は使用痕ある剥片１点（29），剥片１点（28）の接合資料である。29は大型の縦長剥片の正面左側縁下半部と裏面右側縁に微細な剥離痕が見られる。



第96図　N18-Gブロック出土遺物（３）

第50表　N18-Gブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
N17-79(OBB)											2(1)						3(1)								5(2)
N17-83(OBB)																	1								1
N18-38(OBB)											2						1								3
N18-39(OBB)																	3(1)								3(1)
N18-40(OBB)												1													1
N18-41(OBB)	2(1)																								2(1)
N18-42(OBB)												1													1
N18-43(OBB)										1															1
N18-44(OBB)												3(1)							1						4(2)
N18-45(OBB)																	1								1
N18-46(OBB)	2																								2
N18-47(OBB)																	1								1
N18-48(OBB)					1																				1
N18-49(OBB)																	2(1)								2(1)
N18-50(OBB)	1											1													2
N18-51(OBB)																	1								1
N18-52(OBB)												1													1
N18-53(OBB)												1													1
N18-54(OBB)	1																								1
N18-55(OBB)												1													1
N18-56(OBB)												1													1
N18-57(OBB)																	2								2
N18-58(OBB)																	1								1
N18-59(OBB)												1													1
N18-60(OBB)	1																								1
N18-61(OBB)																	2	2							4
N18-62(OBB)																	1								1
N18-63(OBB)																	1								1
N18-64(OBB)																	2								2
N18-65(OBB)												1													1
N18-66(OBB)												1													1
N18-67(OBB)												1													1
N18-68(OBB)																	1								1
N18-69(OBB)												1													1
N18-70(OBB)	1																								1
N18-71(SL)																	1								1
N18-72(CH)																	1								1
N18-73(CH)																	1								1
N18-74(CH)																	1								1
N18-75(OBB)	1																								1
N18-94(OBB)								1									6								7
N18-98(OBB)											1						2(1)								3(2)
N18-99(OBB)												1													1
N18-104(OBB)												1													1
N19-38(OBB)																	1								1
その他(OBB)	1																12	13							26
合　計	10(9)				1			1		1	5(4)	17(15)					48(42)	15	1						99(89)

第51表　N18-Gブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
黒曜石B(OBB)	10(9)				1			1		1	5(4)	17(15)					44(38)	15	1						95(85)
チャート(CH)																	3								3
粘板岩(SL)																	1								1
合　計	10(9)				1			1		1	5(4)	17(15)					48(42)	15	1						99(89)

第52表　N18-Gブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
N18R-1	SA	7	632.61
N18R-2	SA	1	62.81

石　材	個数	重量
砂岩(SA)	8	695.42
合　計	8	695.42

14　N18-Hブロック（第97～108・398図，第53～55表，カラー図版５・６・20，図版６）

１）ブロックの概要

N18-Hブロックは，調査範囲西側のN18-73・74・83～85・94・95グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は15mである。

ブロックの規模と形状は，直径10mの範囲に713点の石器・礫が分布する。その内，原位置不明の遺物が12点ある。出土層位は，Ⅲ層からⅨ層にかけて，90cmほどの高低差をもって包含されているが，中心はⅤ層からⅦ層で，40cmほどである（第97～101図）。

ブロックは，ナイフ形石器４点（３個体），削器２点（１個体），彫器１点，楔形石器３点，加工痕ある剥片８点，使用痕ある剥片13点，石刃20点（18個体），剥片187点（173個体），砕片468点，石核６点の合計712点（694個体）と礫１点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ698点（680個体），黒曜石Ｇ１点，安山岩１点，頁岩Ａ２点，頁岩Ｃ１点，頁岩Ｄ４点，頁岩Ｅ４点，砂岩１点である。礫石材は，砂岩１点（１母岩；348.0ｇ）で，識別率は100％である。なお，N18R-１についてはN18-Gブロックと接合関係がある。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは51母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ40母岩（M20-１・６・N17-66・79・N18-44・79～92・94～108・118～122・N19-38），黒曜石Ｇ１母岩(N18-93)，安山岩１母岩(N18-78)，頁岩Ａ１母岩(N18-110)，頁岩Ｃ１母岩(N18-111)，頁岩Ｄ３母岩(N18-112～114)，頁岩Ｅ３母岩(N18-115～117)，砂岩１母岩(N18-109)である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は26％（183/712点）である。

・**M20-１**：透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。本ブロックでは石刃１点（0.7ｇ）の単独資料であるが，M20-Ａブロックの石刃１点と接合して１個体となる。その他に同一母岩がM20-Ａブロックに１点ある。

・**M20-６**：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような若干濁りのある透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。本ブロックでは剥片１点（3.2ｇ）の単独資料であるが，M20-Ａブロックの剥片１点と接合している。その他に同一母岩がM20-Ａブロックに２点ある。

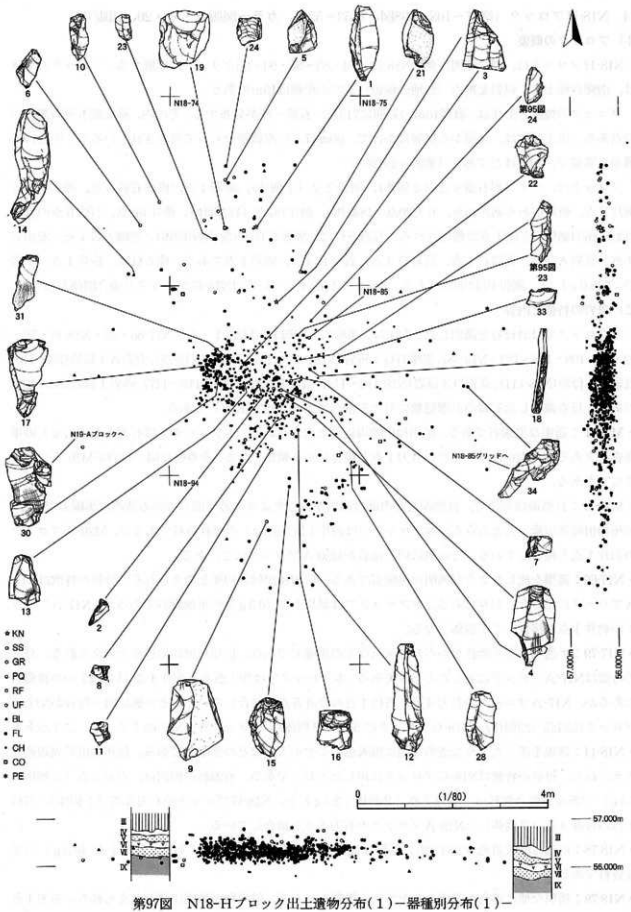
・**N17-66**：薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴はN17-Ａブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（0.3ｇ）の単独資料であるが，N17-Ａブロックの剥片１点と接合して１個体となる。

・**N17-79**：半透明で多少紫色がかった黒灰色などの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴はN17-Ａブロックに記したとおりである。本ブロックでは加工痕ある剥片１点（14.4ｇ）の単独資料であるが，N17-Ａブロックの石刃４点，石核１点の合計５点と接合している。その他に同一母岩がN17-Ａブロックに24点（23個体），N18-Gブロックに５点（２個体），ブロック外（N17-63グリッド）に１点ある。

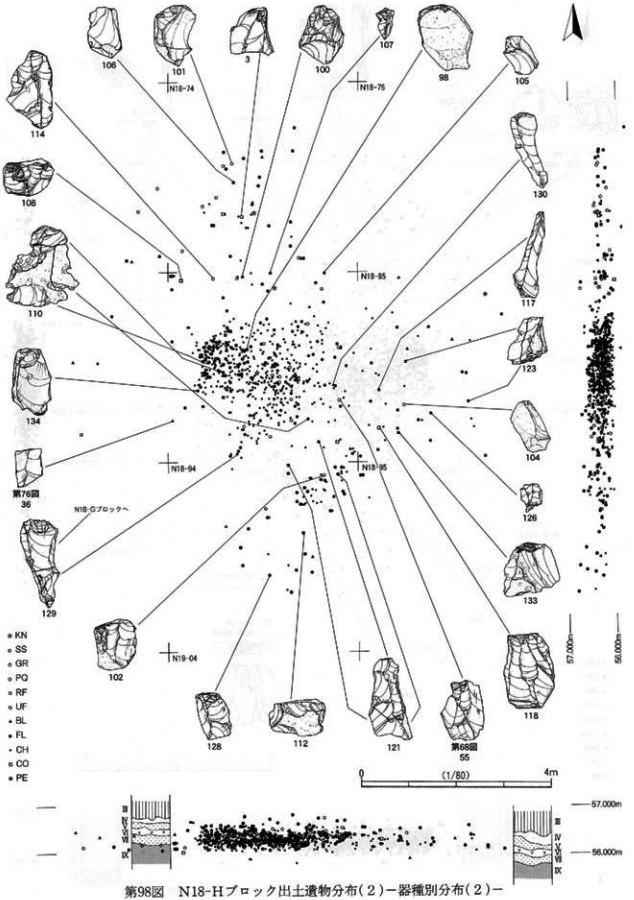
・**N18-44**：薄墨を流したような透明な地に黒灰色のモヤが入るなどの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴はN18-Ｇブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，石刃３点（２個体；2.3ｇ）である。接合資料は，石刃３点（２個体；2.3ｇ）が，N18-Ｇブロックの石刃３点（１個体），石核１点の合計４点（２個体）とN19-Ａブロックの石刃１点と接合している。

・**N18-78**：内部は暗灰黄色（2.5Y5/2），新鮮な面は灰色（N4/0）の安山岩である。砕片１点（0.3ｇ）の単独資料である。

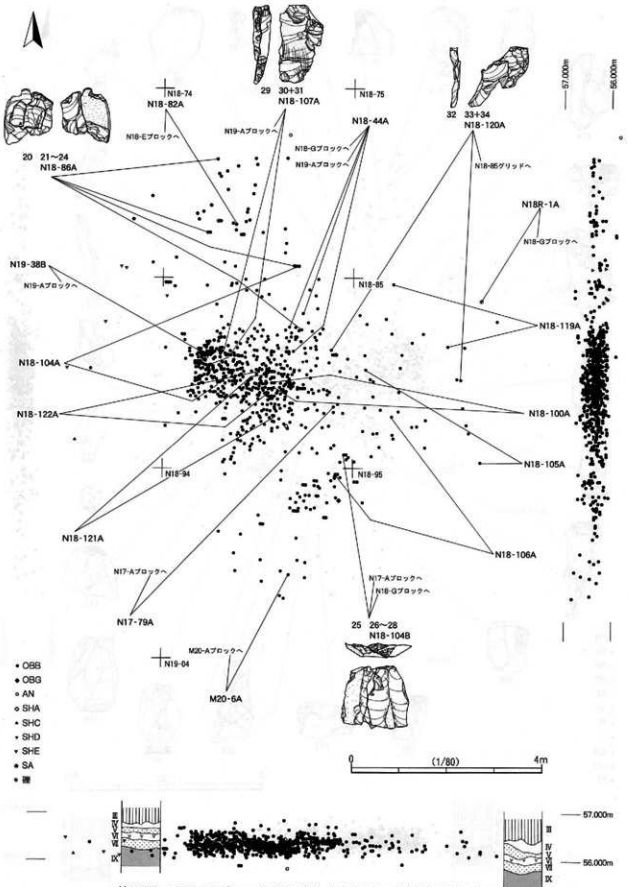
・**N18-79**：透明な地に黒色の帯状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点



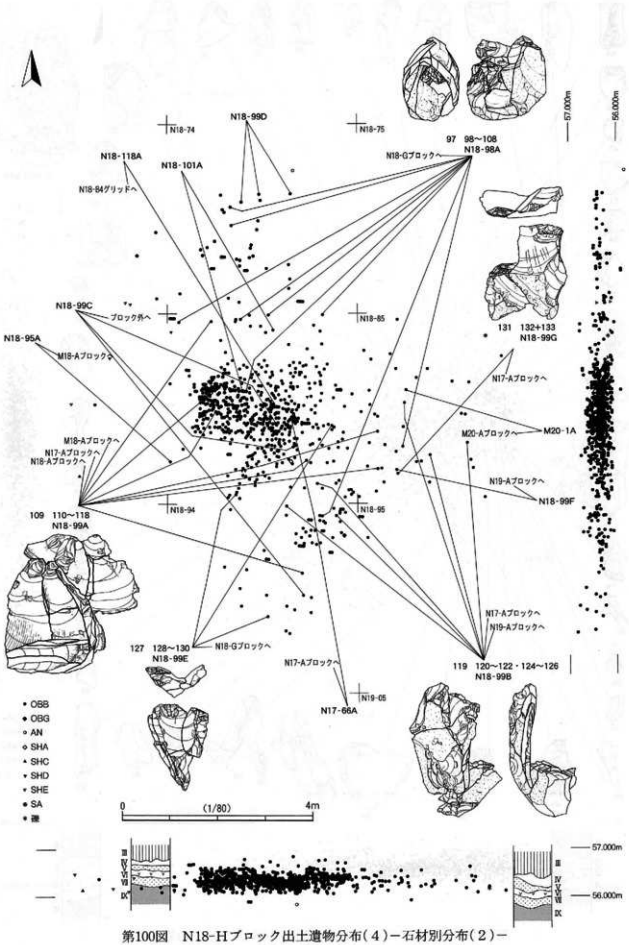
第97図　N18-Hブロック出土遺物分布(1)－器種別分布(1)－



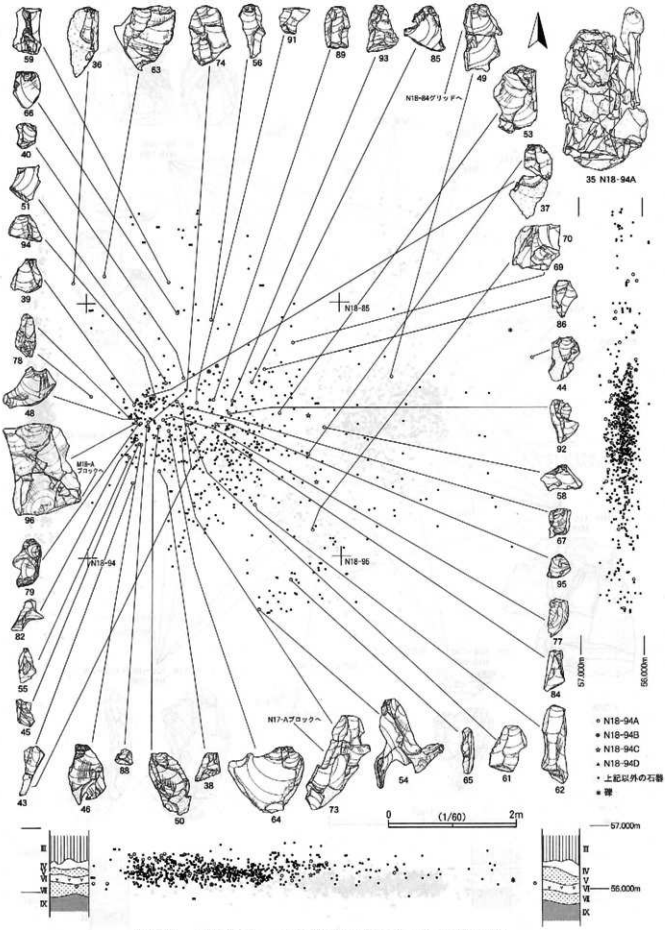
第98図　N18-Hブロック出土遺物分布(２)－器種別分布(２)－



第99図　N18-Hブロック出土遺物分布(３)－石材別分布(１)－



第100図　N18-Hブロック出土遺物分布(4)－石材別分布(2)－



第101図　N18-Hブロック出土遺物分布(５)－N18-94母岩分布－

(9.0ｇ）の単独資料である。

・N18-80：透明な地に若干褐色がかった黒色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点（7.3ｇ）の単独資料である。

第53表　N18-Hブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合 計
M20-1(OBB)												1													1
M20-6(OBB)																	1								1
N17-66(OBB)																	1								1
N17-79(OBB)										1															1
N18-44(OBB)												3(2)													3(2)
N18-78(AN)																		1							1
N18-79(OBB)												1													1
N18-80(OBB)												1													1
N18-81(OBB)												1													1
N18-82(OBB)																			1						1
N18-83(OBB)							1																		1
N18-84(OBB)												1					1								2
N18-85(OBB)											1														1
N18-86(OBB)									2								2								4
N18-87(OBB)																	1								1
N18-88(OBB)																	1								1
N18-89(OBB)											1														1
N18-90(OBB)																	2								2
N18-91(OBB)																	1								1
N18-92(OBB)										1															1
N18-93(OBG)																	1								1
N18-94(OBB)									1		4						49(45)	1	2						57(53)
N18-95(OBB)												1													1
N18-96(OBB)										1															1
N18-97(OBB)																		5							5
N18-98(OBB)											3						6		1						10
N18-99(OBB)											1	2					24(19)		1						28(23)
N18-100(OBB)						2(1)																			2(1)
N18-101(OBB)	2(1)																								2(1)
N18-102(OBB)	1																								1
N18-103(OBB)																	1								1
N18-104(OBB)												4(3)					6								10(9)
N18-105(OBB)																	2(1)								2(1)
N18-106(OBB)																	2(1)								2(1)
N18-107(OBB)																	2								2
N18-108(OBB)																	3	4							7
N18-109(SA)																			1						1
N18-110(SHA)										1							1								2
N18-111(SHC)											1														1
N18-112(SHD)																	1								1
N18-113(SHD)																	1								1
N18-114(SHD)																		2							2
N18-115(SHE)												1													1
N18-116(SHE)												1													1
N18-117(SHE)																	2								2
N18-118(OBB)																	2(1)								2(1)
N18-119(OBB)												2													2
N18-120(OBB)																	3(2)								3(2)
N18-121(OBB)																	2								2
N18-122(OBB)																	2(1)								2(1)
N19-38(OBB)																	1								1
その他(OBB)	1									4	2	1					66	455							529
合　計	4(3)					2(1)	1		3	8	13	20(18)					187(173)	468	6						712(694)

第54表　N18-Hブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
黒曜石B(OBB)	4(3)					2(1)	1		3	7	12	18(16)					181(167)	465	5						698(680)
黒曜石G(OBG)																	1								1
安山岩(AN)																		1							1
頁岩A(SHA)										1							1								2
頁岩C(SHC)											1														1
頁岩D(SHD)																	2	2							4
頁岩E(SHE)												2					2								4
砂岩(SA)																			1						1
合　計	4(3)					2(1)	1		3	8	13	20(18)					187(173)	468	6						712(694)

第55表　N18-Hブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
N18R-I	SA	1	348.01

石　材	個数	重量
砂岩(SA)	1	348.01
合　計	1	348.01

・N18-81：透明な地に若干褐色がかった黒色のモヤが入る黒曜石である。φ３㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点（9.2ｇ）の単独資料である。

・N18-82：半透明な地に若干褐色がかった黒灰色の筋状モヤが入るなどの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴はN18-Eブロックに記したとおりである。本ブロックでは石核１点（10.6ｇ）の単独資料であるが，N18-Eブロックの石核１点と接合して１個体となる。

・N18-83：自然面は平滑で，自然面及び内部は半透明な地に若干褐色がかった黒灰色のモヤが入る黒曜石である。φ２㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。彫器１点（4.0ｇ）の単独資料である。

・N18-84：自然面はスリガラス状で黄灰色（2.5Y4/1），内部は透明な地に黒褐色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃１点，剥片１点の合計２点（4.5ｇ）である。

・N18-85：黒褐色で半透明な黒曜石である。φ１㎜ほどの灰白色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。使用痕ある剥片１点（1.7ｇ）の単独資料である。

・N18-86：自然面は平滑で，自然面及び内部は若干褐色がかった黒色で半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，楔形石器２点，剥片２点の合計４点（11.7ｇ）である。接合資料は，楔形石器２点，剥片２点の合計４点（11.7ｇ）である。

・N18-87：自然面は平滑で，自然面及び内部は黒褐色で半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（1.2ｇ）の単独資料である。

・N18-88：自然面は平滑で，自然面及び内部は透明な地に黒灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（3.9ｇ）の単独資料である。

・N18-89：自然面は平滑で黒灰色，内部は半透明な地に黒灰色の筋が多数入る黒曜石である。φ３㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。使用痕ある剥片１点（13.0ｇ）の単独資料である。

・N18-90：薄墨を流したような黒灰色で半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（4.6ｇ）である。

・N18-91：薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（1.4ｇ）

の単独資料である。

・N18-92：薄墨を流したような半透明な黒曜石である。φ１㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。加工痕あるる剥片１点（2.0ｇ）の単独資料である。

・N18-93：黒灰色で，黄灰色の気泡のある半透明な黒曜石である。産地は不明である。剥片１点（2.6ｇ）の単独資料である。

・N18-94：透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入るなどの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴はN17-Aブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，楔形石器１点，使用痕ある剥片４点，剥片49点（45個体），砕片１点，石核２点の合計57点（53個体；249.3ｇ）である。接合資料は，４グループあり，Aは使用痕ある剥片４点，剥片42点（38個体），砕片１点，石核２点の合計49点（45個体；236.3ｇ）がN17-Aブロックの剥片１点，M18-Aブロックの剥片１点，石核１点の合計２点，N18-Fブロックの剥片１点，N18-Gブロックの錐状石器１点，剥片５点の合計６点，N19-Aブロックの使用痕ある剥片１点，剥片２点の合計３点と接合している。その内，剥片１点がN17-Aブロックの剥片１点と接合して１個体となる。また，石核１点がM18-Aブロックの石核１点と接合して１個体となる。Bは剥片３点（5.2ｇ）が，N18-Gブロックの剥片１点と接合している。Cは剥片２点（1.5ｇ）である。Dは剥片２点（5.2ｇ）である。

・N18-95：透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴は，M18-Aブロックに記したとおりである。本ブロックでは石刃１点（1.4ｇ）の単独資料であるが，M18-Aブロックの石刃１点と接合している。

・N18-96：透明な地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。加工痕ある剥片１点（1.2ｇ）の単独資料である。

・N18-97：透明な地に淡黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，砕片５点（1.1ｇ）である。

・N18-98：薄墨を流したような透明などの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴は，N18-Gブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，使用痕ある剥片３点，剥片６点，石核１点の合計10点（67.3ｇ）である。接合資料は，使用痕ある剥片３点，剥片５点，石核１点の合計９点（64.9ｇ）がN18-Gブロックの使用痕ある剥片１点，剥片２点（１個体）の合計３点（２個体）と接合している。

・N18-99：薄墨を流したような透明な部分と半透明な部分があり，部分的に黒灰色の筋が入るなどの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴は，N17-Aブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，石刃２点，剥片24点（19個体），石核１点の合計28点（23個体；134.6ｇ）である。接合資料は，７グループあり，Aは使用痕ある剥片１点，剥片５点（３個体），石核１点の合計７点（５個体；75.5ｇ）が，N17-Aブロックの剥片３点（２個体），M18-Aブロックの剥片１点，N18-Aブロックの剥片１点と接合している。Bは剥片６点（４個体；12.3ｇ）が，N17-Aブロックの剥片５点（１個体），N19-Aブロックの剥片１点と接合している。Cは剥片３点（5.3ｇ）が，ブロック外（M18-19グリッド）の剥片１点と接合している。Dは剥片３点（２個体；5.2ｇ）である。Eは石刃２点，剥片１点の合計３点（11.9ｇ）が，N18-Gブロックの石刃１点と接合している。その内，石刃１点がN18-Gブロックの石刃１点と接合して１個体となる。Fは剥片１点（1.5ｇ）が，N19-Aブロックの剥片１点と接合して１個体となる。Gは剥片１点（12.3ｇ）が，N17-Aブロックの剥片１点と接合している。

・N18-100：薄墨を流したような透明な地に部分的に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産

と考えられる。石器群の内訳は，削器2点（1個体；11.5g）である。接合資料は，削器2点（1個体；11.5g）である。

・N18-101：薄墨を流したような透明な地に淡黒灰色・黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器2点（1個体；5.6g）である。接合資料は，ナイフ形石器2点（1個体；5.6g）である。

・N18-102：透明な地に黒灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器1点（5.5g）の単独資料である。

・N18-103：自然面は紙ヤスリ状で黄灰色（2.5Y4/1），内部は透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点（3.5g）の単独資料である。

・N18-104：薄墨を流したような透明などの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴はN17-Aブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，石刃4点（3個体），剥片6点の合計10点（9個体；21.9g）である。接合資料は，2グループあり，Aは石刃2点（1個体；8.7g）である。Bは石刃1点（3.1g）が，N17-Aブロックの石刃1点，N18-Gブロックの石刃1点と接合している。

・N18-105：薄墨を流したような透明な黒曜石である。φ3㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片2点（1個体；3.7g）である。接合資料は，剥片2点（1個体；3.7g）である。

・N18-106：薄墨を流したような透明な地に淡黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片2点（1個体；0.9g）である。接合資料は，剥片2点（1個体；0.9g）である。

・N18-108：薄墨を流したような半透明な黒曜石である。φ3㎜～5㎜ほどの灰白色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片3点，砕片4点の合計7点（19.5g）である。

・N18-109：灰白色（5Y7/1）の砂岩である。石核1点（29.4g）の単独資料である。

・N18-110：黒褐色（10YR3/1）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，剥片1点の合計2点（5.7g）である。

・N18-111：内部及び新鮮な面は暗灰黄色（2.5Y5/2）の横岡産頁岩である。使用痕ある剥片1点（0.9g）の単独資料である。

・N18-112：灰黄褐色（10YR4/2）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（2.7g）の単独資料である。

・N18-113：にぶい黄橙色（10YR6/4）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（8.3g）の単独資料である。

・N18-114：暗灰色（N3/0）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，砕片2点（0.3g）である。

・N18-115：内部は灰色（10Y6/1），新鮮な面は灰色（N4/0）の頁岩である。石刃1点（13.7g）の単独資料である。

・N18-116：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y6/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石刃1点（3.8g）の単独資料である。

・N18-117：内部は暗オリーブ灰色（5GY4/1），新鮮な面は暗オリーブ灰色（5GY3/1）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（2.7g）である。

・N18-118：薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片2点（1個体；0.5g）である。接合資料は，剥片2点（1個体；0.5g）である。

・N18-119：薄墨を流したような透明な地に淡黒灰色の帯が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃２点（1.2ｇ）である。接合資料は，石刃２点（1.2ｇ）である。

・N18-120：透明な地に淡黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片３点（２個体；2.9ｇ）である。接合資料は，剥片３点（２個体；2.9ｇ）である。

・N18-121：透明な地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる石器群の内訳は，剥片２点（0.6ｇ）である。接合資料は，剥片２点（0.6ｇ）である。

・N18-122：透明な地に淡黒灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（１個体；0.5ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；0.5ｇ）である。

・N19-38：透明な地に黒灰色のモヤが入るなどの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴はN18-Gブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（1.3ｇ）の単独資料であるが，N19-Aブロックの剥片１点と接合している。その他に同一母岩がN18-Gブロックに１点，N19-Aブロックに８点（７個体）ある。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Ｂのナイフ形石器１点，加工痕ある剥片４点，使用痕ある剥片２点，石刃１点，剥片66点，砕片455点の合計529点（103.5ｇ）がある。

３）出土遺物（第102図）

１～３は信州和田峠周辺産の黒曜石によるナイフ形石器である。１は基部加工で，打面側を基部として，正面左側縁と裏面基部に調整加工を行っている。また，正面右側縁の上半部と裏面左側縁の上半部に微細な剥離痕が見られる。２は先端部のみで，形態不明である。３は部分加工で，打面側を先端部として，右側縁上部に調整加工を行っており，２点が接合して１個体となる。

４は信州和田峠周辺産の黒曜石による削器で，石刃の左側縁下部に調整加工を行っており，２点が接合して１個体となる。

５は信州和田峠周辺産の黒曜石による彫器で，素材の裏面末端側に楯状の剥離痕が見られる。

６～８は信州和田峠周辺産の黒曜石による加工痕ある剥片である。６は左側縁の一部，７は左側縁，８は右側縁に調整加工を行っている。また，６は正面の右側縁から末端と裏面左側縁上部に微細な剥離痕が見られる。

９～11は信州和田峠周辺産の黒曜石による使用痕ある剥片である。９は右側縁，10は末端，11は左側縁の一部に微細な剥離痕が見られる。

12・13は信州和田峠周辺産の黒曜石，14は頁岩による石刃である。12は両面の左側縁の一部，13は正面左側縁上部と裏面右側縁下部に微細な剥離痕が見られる。14は稜付き石刃である。

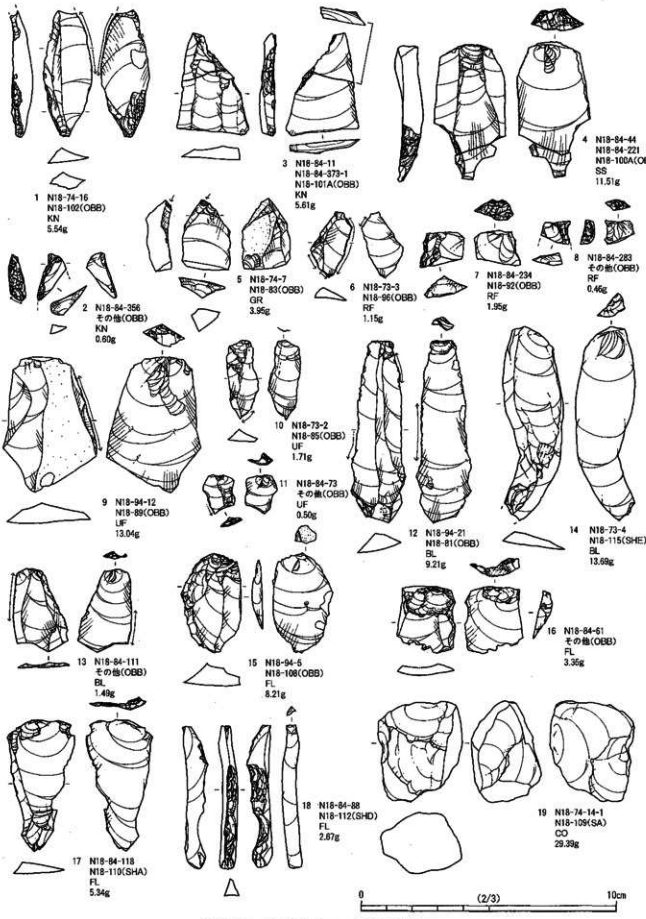
15・16は信州和田峠周辺産の黒曜石，17は東北産頁岩，18は硬質緻密な頁岩による剥片である。15・17は縦長剥片，18は大型の石刃等から剥離された縦長剥片，16は不定型な剥片である。

19は砂岩による打面転移を繰り返した石核である。

４）接合資料とその関連資料（第103～108図）

・N18-86（第103図20～24）　若干褐色がかった黒色で半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。20は楔形石器２点（21・22），剥片２点（23・24）の接合資料である。21・22は上下両端に対向する剥離痕が見られる。なお，21は左側縁に微細な剥離痕が見られる。

・N18-104（第103図25～28）　薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。



第102図　N18-Hブロック出土遺物(1)

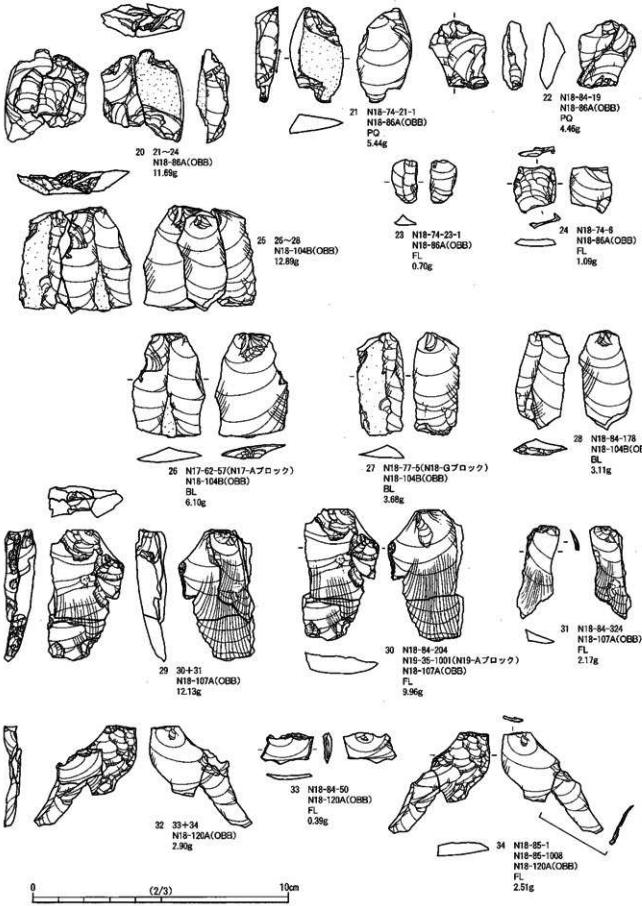
25は石刃１点（28），N17-Aブロックの石刃１点（26），N18-Gブロックの石刃１点（27）の接合資料である。入念に打面調整がされた単設打面の石核から剥離されている。

・N18-107（第103図29～31）　薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。29は剥片３点（２個体；30・31）の接合資料である。その内，30は本ブロックの剥片１点とN19-Aブロックの剥片１点が接合して１個体となる。

・N18-120（第103図32～34）　透明な地に淡黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。32は剥片３点（２個体；33・34）の接合資料である。その内，34は剥片２点が接合して１個体となる。

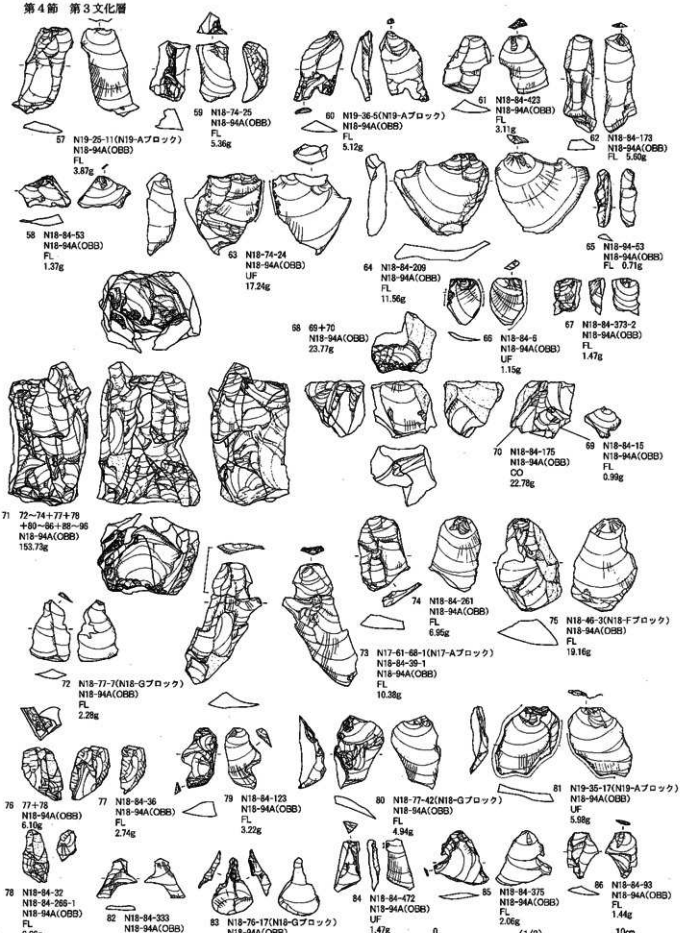
・N18-94（第104・105図，第106図87～96）　透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。一見すると，夾雑物をほとんど含まないガラス質の良質な素材だが，内部に自然面との識別が困難な節理が発達しており，若干，紙ヤスリ状の面と平滑な面がある。35は使用痕ある剥片４点（63・66・84・89），剥片43点（39個体；36～46・48～51・53～56・58・59・61・62・64・65・67・69・73・74・77～79・82・85・86・91～95），砕片１点（88），石核３点（２個体；70・96），M18-Aブロックの剥片１点（52），N18-Fブロックの剥片１点（75），N18-Gブロックの錐状石器１点（83），剥片５点（41・42・72・80・90），N19-Aブロックの使用痕ある剥片１点（81），剥片２点（57・60）の接合資料である。その内，37は剥片２点が接合して１個体，43は剥片２点が接合して１個体，49は剥片２点が接合して１個体，73は本ブロックの剥片１点がN17-Aブロックの剥片１点と接合して１個体，96は本ブロックの石核１点がM18-Aブロックの石核１点と接合して１個体となる。上面を除く５面に自然面が残っており，大人の拳より二まわりほど大きい角礫を素材としていると考えられる。以下，正面図を起点として，加撃方向と併せ，記述する。始めに69・70の個体と36～96の個体に節理で分割され，上から36～45→左から46・48・49→上から50→右から51→上から52～57→右から58→上から59・60→下から61→上から62→左から63～65→裏から66・67を剥離して打面調整し，上から72～74→90度打面転移して，下面側で左から75を剥離して打面再生し，裏から77→右から78→90度打面転移して，下面側で左から79，上面側で左から80・81を剥離して打面再生し，上から82～84→90度打面転移して，下面側で左から85を剥離して打面再生し，下から86・88→上から89～91→下から92～95の順に石刃状の縦長剥片や不定型な剥片を剥離している。内部の節理のため，目的とした剥片を剥離することが困難だったようである。83は不定型な剥片の右側面に正面側から細かい調整加工を行っている。その形状から錐状石器としたが，加工痕ある剥片とした方が良いかもしれない。両側面の折断面は剥離時に生じたものと考えられる。63・66・81・84・89は使用痕ある剥片で，63は正面右側縁と裏面左側縁のそれぞれ上半部，66は正面両側縁と裏面右側縁，81は正面のほぼ全周と裏面左側縁，89は末端に微細な剥離痕，84は裏面左側縁の上部に細かい剥離痕が見られる。

・N18-98（第106図97～108）　薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。97は使用痕ある剥片３点（101・102・104），剥片５点（98・100・105～107），石核１点（108），N18-Gブロックの使用痕ある剥片１点（103），N18-Gブロックの剥片２点（１個体；99）の接合資料である。以下，正面図を起点として，加撃方向と併せ，記述する。ほぼ全面に自然面が残っており，子供の拳大の亜円礫を素材としたことが分かる。上から98・99→左から100→右から101→表から102～104→右から105→表から106→上から107の順に縦長剥片や不定型な剥片を剥離している。接合状況や石核（108）の作業面からも分かるように90度の打面転移を繰り返しながら縦長剥片などを剥離した母岩と考えられる。101～104は使用



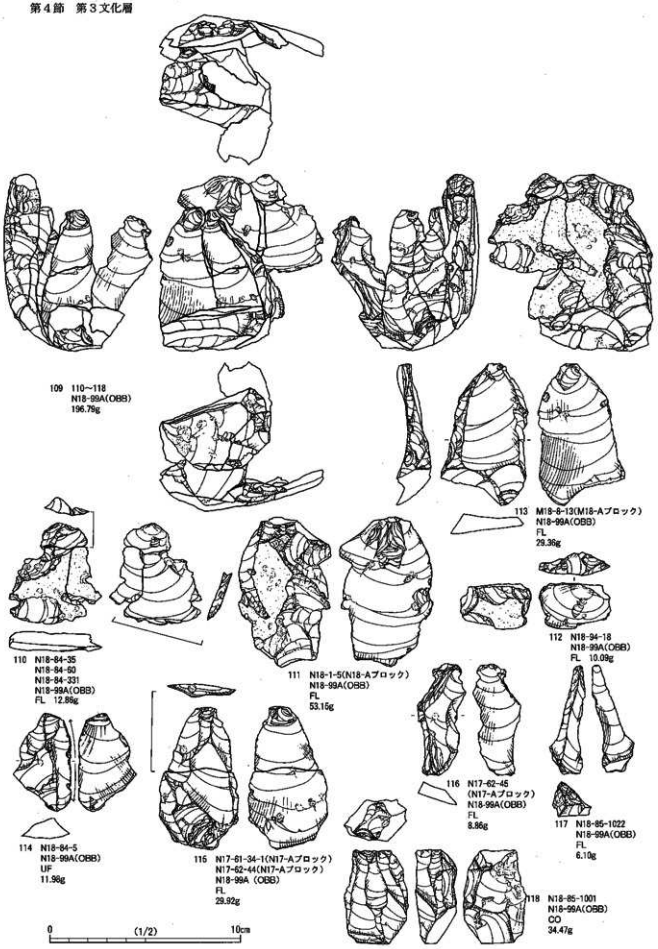
第103図　N18-Hブロック出土遺物(２)

第104図　N18-Hブロック出土遺物(3)



第105図　N18-Hブロック出土遺物(４)

第106図　N18-Hブロック出土遺物(5)



第107図　N18-Hブロック出土遺物(６)

第108図　N18-Hブロック出土遺物(7)

痕ある剥片で，101は正面のほぼ全周と裏面上部，102は末端，103は左側縁，104は正面の左側縁の一部と裏面の右側縁と末端に微細な剥離痕が見られる。

・N18-99（第107・108図）　薄墨を流したような透明な部分と半透明な部分があり，部分的に黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。109は使用痕ある剥片１点（114），剥片５点（３個体；110・112・117），石核１点（118），N17-Aブロックの剥片３点（２個体；115・116），M18-Aブロックの剥片１点（113），N18-Aブロックの剥片１点（111）の接合資料である。その内，110は剥片３点が接合して１個体，115は剥片２点が接合して１個体となる。以下，正面図を起点として，加撃方向と併せ，記述する。上から110・111→右から112→上から113～116→左から117の順に石刃状の縦長剥片などを剥離している。打面調整と考えられる90度の打面転移も見られるが，基本的には上から下への加撃方向が，主体となっており，石核（118）の作業面からも単設打面の石核から石刃状の縦長剥片などを剥離した母岩と考えられる。114は右側縁に細かい剥離痕が見られる。

119は剥片６点（４個体；121・124～126），N17-Aブロックの剥片５点（１個体：120），N19-Aブロックの剥片１点（122）の接合資料である。その内，120は剥片５点が，121は剥片３点が接合して１個体となる。上から120B→左上から120A→上から121→下から122～126の順に石刃状の縦長剥片などを剥離している。

127は石刃３点（２個体；129・130），剥片１点（128）の接合資料である。その内，129は本ブロックの石刃１点がN18-Gブロックの石刃１点と接合して１個体となる。128・129は加撃軸に直交する剥離痕が見られ，稜付きの石刃あるいは石刃状の縦長剥片と思われる。

131は剥片１点（133），N17-Aブロックの剥片１点（132）の接合資料である。

134は接合しなかった同一母岩の縦長剥片である。

15　N19-Aブロック（第109～114・398図，第56・57表，カラー図版６・７・20，図版６）

１）ブロックの概要

N19-Aブロックは，調査範囲西側のN19-05・06・13～16・23～27・35～37・45～47グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は15mである。

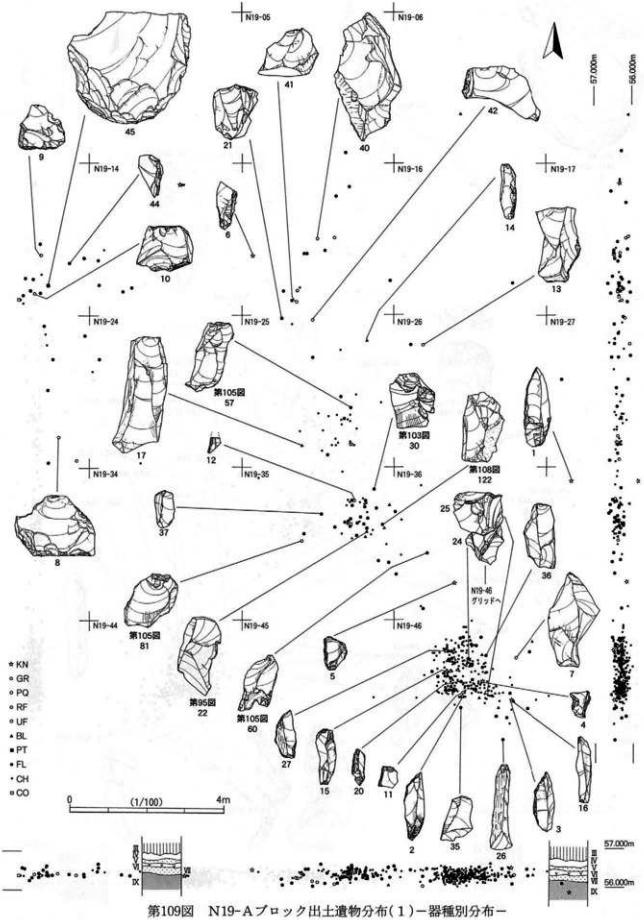
ブロックの規模と形状は，長軸17m，短軸14mの範囲に385点の石器が分布する。その内，原位置不明の遺物が１点ある。出土層位は，Ⅴ層からⅨ層にかけて，70cmほどの高低差をもって包含されているが，中心はⅥ層からⅦ層で，30cmほどである（第109・110図）。

ブロックは，ナイフ形石器９点（８個体），彫器１点，楔形石器５点，加工痕ある剥片４点，使用痕ある剥片４点，石刃17点（13個体），礫器１点，剥片91点（83個体），砕片254点，石核３点の合計389点（376個体）で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ317点（305個体），安山岩３点，頁岩Ａ３点，頁岩Ｂ11点（10個体），頁岩Ｄ１点，チャート36点，粘板岩９点，砂岩３点，ホルンフェルス６点である。

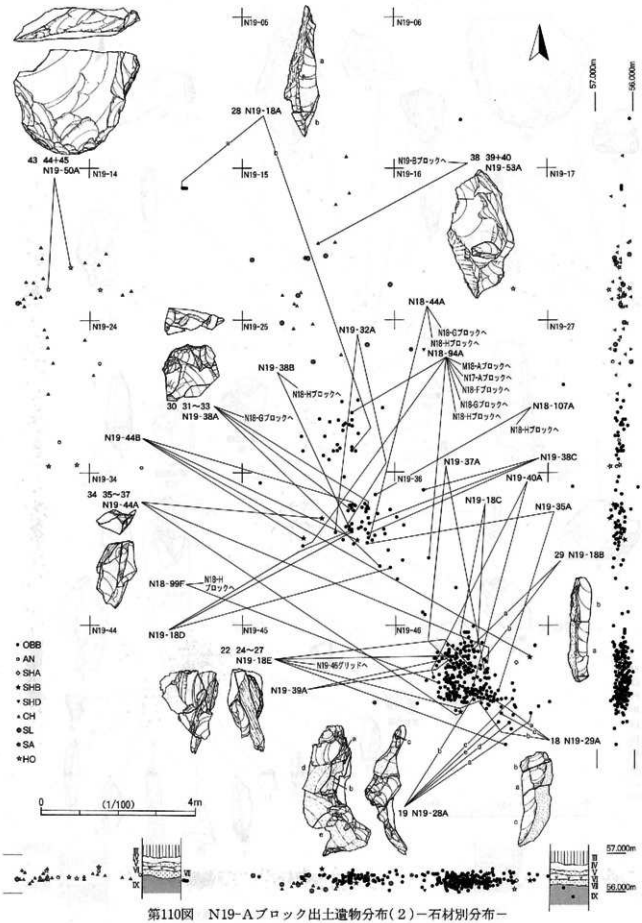
２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは48母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ27母岩（N18-44・94・99・107・N19-18～40），安山岩２母岩（N19-16・17），頁岩Ａ２母岩（N19-42・43），頁岩Ｂ２母岩（N19-44・45），頁岩Ｄ１母岩（N19-46），チャート７母岩（N19-53～59），粘板岩３母岩（N19-47～49），砂岩１母岩（N19-41），ホルンフェルス３母岩（N19-51・52）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は33%（128/389点）である。

・N18-44：薄墨を流したような透明な地に黒灰色のモヤが入るなどの黒曜石である。信州和田峠周辺産と



第109図　N19-Aブロック出土遺物分布(1)－器種別分布－



第110図　N19-Aブロック出土遺物分布(2)－石材別分布－

第56表　N19-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PQ	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
N18-44(OBB)												1													1
N18-94(OBB)											1						2								3
N18-99(OBB)																	2								2
N18-107(OBB)																	1								1
N19-16(AN)									1																1
N19-17(AN)																	1								1
N19-18(OBB)	3(2)											3(2)					10(9)		2						18(15)
N19-19(OBB)																	1								1
N19-20(OBB)												1													1
N19-21(OBB)												1													1
N19-22(OBB)												1													1
N19-23(OBB)												2													2
N19-24(OBB)	1																								1
N19-25(OBB)																	2								2
N19-26(OBB)												1													1
N19-27(OBB)																	1								1
N19-28(OBB)																	5(1)								5(1)
N19-29(OBB)												3(1)													3(1)
N19-30(OBB)																	1								1
N19-31(OBB)												1													1
N19-32(OBB)																	2(1)								2(1)
N19-33(OBB)																	1								1
N19-34(OBB)	1																								1
N19-35(OBB)												2(1)													2(1)
N19-36(OBB)	1																								1
N19-37(OBB)																	2								2
N19-38(OBB)																	7(6)	2							9(8)
N19-39(OBB)																	2								2
N19-40(OBB)																	2								2
N19-41(SA)																	2								2
N19-42(SHA)							1																		1
N19-43(SHA)																	1								1
N19-44(SHB)																	8(7)								8(7)
N19-45(SHB)																	1	2							3
N19-46(SHD)										1															1
N19-47(SL)																			1						1
N19-48(SL)																	1								1
N19-49(SL)	1										1	1					4								7
N19-50(HO)														1			1								2
N19-51(HO)																	1								1
N19-52(HO)									1								2								3
N19-53(CH)									1	1	2						2	5							11
N19-54(CH)									1								1								2
N19-55(CH)																	2	4							6
N19-56(CH)																	1								1
N19-57(CH)									1								2								3
N19-58(CH)																	1								1
N19-59(CH)																	1	2							3
その他(OBB)	2									2							9	236							249
その他(AN)																		1							1
その他(SHA)																		1							1
その他(CH)																	9								9
その他(SA)																		1							1
合　計	9(8)						1		5	4	4	17(13)		1			91(83)	254	3						389(376)

第57表　N19-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	XP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
黒曜石(OBS)	8(7)									2	1	16(12)					50(43)	239	2						317(305)
安山岩(AN)									1								1	1							3
頁岩A(SHA)							1										1	1							3
頁岩B(SHB)																	9(8)	2							11(10)
頁岩D(SHD)										1															1
チャート(CH)									3	1	2						19	11							36
粘板岩(SL)	1										1	1					5		1						9
砂岩(SA)																	2	1							3
ホルンフェルス(HO)									1					1			4								6
合　計	9(8)						1		5	4	4	17(13)		1			91(83)	254	3						389(376)

考えられる。母岩の特徴はN18-Gブロックに記したとおりである。本ブロックでは石刃１点（7.9ｇ）の単独資料であるが，N18-Gブロックの石刃３点（１個体），石核１点の合計４点（２個体）とN18-Hブロックの石刃３点（２個体）と接合している。

・N18-94：透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入るなどの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴はN17-Aブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片２点の合計３点（15.0ｇ）である。接合資料は，使用痕ある剥片１点，剥片２点の合計３点（15.0ｇ）がM18-Aブロックの剥片１点，石核１点の合計２点，N17-Aブロックの剥片１点，N18-Fブロックの剥片１点，N18-Gブロックの錐状石器１点，剥片５点の合計６点，N18-Hブロックの使用痕ある剥片４点，剥片42点（38個体），砕片１点，石核２点，の合計49点（45個体）が接合している。その他に同一母岩がN18-Gブロックに１点，N18-Hブロックに８点ある。

・N18-99：薄墨を流したような透明な部分と半透明な部分があり，部分的に黒灰色の筋が入るなどの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴は，N17-Aブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，剥片２点（17.4ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ｂは剥片１点（14.7ｇ）がN17-Aブロックの剥片５点（１個体），N18-Hブロックの剥片６点（４個体）と接合している。Ｆは剥片１点（2.7ｇ）がN18-Hブロックの剥片１点と接合して１個体となる。その他に同一母岩がN17-Aブロックに４点（３個体），M18-Aブロックに１点，N18-Aブロックに１点，N18-Gブロックに１点，N18-Hブロックに21点（18個体），ブロック外（M18-19グリッド）に１点ある。

・N18-107：薄墨を流したような半透明などの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴はN18-Hブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（8.2ｇ）の単独資料であるが，N18-Hブロックの剥片２点と接合している。その内，剥片１点とN18-Hブロックの剥片１点が接合して１個体となる。

・N19-16：内部は暗灰黄色（2.5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。楔形石器１点（25.7ｇ）の単独資料である。

・N19-17：内部は灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片１点（1.8ｇ）の単独資料である。

・N19-18：自然面は紙ヤスリ状で黒灰色，内部は薄墨を流したような地に褐色がかった黒灰色の筋状のモヤが入り，節理は灰白色（N7/0）黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器３点（２個体），石刃３点（２個体），剥片10点（９個体），石核２点の合計18点（15個体；80.1ｇ）

である。接合資料は，５グループあり，Aはナイフ形石器２点（１個体；8.8ｇ），Bは石刃２点（１個体；7.4ｇ），Cは剥片２点（3.9ｇ），Dは剥片２点，石核１点の合計３点（25.0ｇ），Eはナイフ形石器１点，剥片３点（２個体），石核１点の合計５点（４個体；24.0ｇ）である。

・N19-19：透明な地に褐色がかった黒灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（4.6ｇ）の単独資料である。

・N19-20：自然面は平滑で，自然面及び内部は透明な地に若干褐色がかった黒色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点（23.9ｇ）の単独資料であるが，N19-21と同一母岩の可能性がある。

・N19-21：透明な地に褐色がかった黒色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点（1.7ｇ）の単独資料であるが，N19-20と同一母岩の可能性がある。

・N19-22：透明な地に黒色の筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点（1.0ｇ）の単独資料である。

・N19-23：透明な地に黒灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃２点（2.6ｇ）である。

・N19-24：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な地に黒色・淡黒灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。φ１㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器１点（3.0ｇ）の単独資料である。

・N19-25：透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。N19-26と同一母岩の可能性がある。石器群の内訳は，剥片２点（3.6ｇ）である。

・N19-26：透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点（1.0ｇ）の単独資料であるが，N19-25と同一母岩の可能性がある。

・N19-27：透明な地に黒色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（2.2ｇ）の単独資料である。

・N19-28：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片５点（１個体；33.4ｇ）である。接合資料は，剥片５点（１個体；33.4ｇ）である。

・N19-29：自然面はスリガラス状で，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な地に黒灰色・淡黒灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃３点（１個体；5.9ｇ）である。接合資料は，石刃３点（１個体；5.9ｇ）である。

・N19-30：薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（1.1ｇ）の単独資料である。

・N19-31：薄墨を流したような透明な地に淡黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点（1.0ｇ）の単独資料である。

・N19-32：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な地に淡黒灰色のモヤが入る黒曜石である。φ１㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（１個体；4.8ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；4.8ｇ）である。

・N19-33：薄墨を流したような透明な地に淡黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考え

られる。剥片1点（5.3g）の単独資料である。

・N19-34：薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器1点（5.8g）の単独資料である。

・N19-35：薄墨を流したような透明な地に黒色・淡黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃2点（1個体；3.6g）である。接合資料は，石刃2点（1個体；3.6g）である。

・N19-36：薄墨を流したような透明な地に淡黒灰色の多数の筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器1点（1.7g）の単独資料である。

・N19-37：薄墨を流したような透明な地に淡黒灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片2点（0.7g）である。接合資料は，剥片2点（0.7g）である。

・N19-38：透明な地に黒灰色のモヤが入るなどの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴はN18-Gブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，剥片7点（6個体），砕片2点の合計9点（8個体；18.6g）である。接合資料は，3グループあり，Aは剥片3点（2.6g）が，N18-Gブロックの剥片1点と接合している。その内，剥片1点がN18-Gブロックの剥片1点と接合して1個体となる。Bは剥片1点（10.7g）が，N18-Hブロックの剥片1点と接合している。Cは剥片2点（1個体），砕片1点の合計3点（2個体；2.8g）である。

・N19-39：透明な地に黒灰色の筋が部分的に混じる黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片2点（0.6g）である。接合資料は，剥片2点（0.6g）である。

・N19-40：透明な地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片2点（0.5g）である。接合資料は，剥片2点（0.5g）である。

・N19-41：灰白色（10Y7/1）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片2点（7.0g）である。

・N19-42：黒褐色（10YR3/1）の東北産頁岩である。彫器1点（20.9g）の単独資料である。

・N19-43：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR4/3），内部は黒褐色（10YR3/1）の東北産頁岩である。剥片1点（8.7g）の単独資料である。

・N19-44：内部は黒褐色（10YR3/2）・黒褐色（10YR3/1）の地に灰白色（10YR8/1）が入る資料，内部は褐灰色（10YR4/1）・灰黄褐色（10YR4/2），節理が黄褐色（2.5Y5/3）の資料など母岩内に変異がある北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片8点（7個体；16.2g）である。接合資料は，2グループあり，Aは剥片3点（10.9g），Bは剥片4点（3個体；4.2g）である。

・N19-45：自然面は平滑でオリーブ褐色（2.5Y4/4），内部は黒褐色（2.5Y3/2）の地に暗灰黄色（2.5Y4/2）が部分的に混じる資料，黒褐色（10YR3/2）の資料など母岩内に変異がある北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点，砕片2点の合計3点（12.2g）である。

・N19-46：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)・オリーブ灰色(2.5GY5/1)・灰オリーブ色（5Y5/3），節理はオリーブ黄色（5Y6/3）・灰白色（5Y7/2）の硬質緻密な頁岩である。加工痕ある剥片1点（18.8g）の単独資料である。

・N19-47：自然面は比較的平滑で黄灰色（2.5Y5/1）・灰褐色（5YR5/2），内部は青黒色（5PB1.7/1）の粘板岩としたが，チャートの可能性がある。石核1点（45.4g）の単独資料である。

・N19-48：青黒色（5PB1.7/1）の粘板岩である。剥片1点（14.4g）の単独資料である。なお，剥離面の一

部は自然面の可能性がある。

・N19-49：暗灰色（N3/0）の粘板岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，使用痕ある剥片１点，石刃１点，剥片４点の合計７点（17.2ｇ）である。

・N19-50：内部は灰色（N4/0）・灰色（5Y4/1），節理はにぶい黄褐色（10YR4/3）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，礫器１点，剥片１点の合計２点（155.3ｇ）である。接合資料は，礫器１点，剥片１点の合計２点（155.3ｇ）である。

・N19-51：自然面及び内部は灰色（10Y4/1）のホルンフェルスである。剥片１点（4.6ｇ）の単独資料である。

・N19-52：内部はにぶい黄色（2.5Y6/4），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，楔形石器１点，剥片２点の合計３点（6.5ｇ）である。

・N19-53：自然面は平滑で灰白色（7.5Y7/2）・オリーブ灰色（2.5GY5/1），内部は灰色（10Y4/1）のチャートである。石器群の内訳は，楔形石器１点，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片２点，剥片２点，砕片５点の合計11点（91.6ｇ）である。接合資料は，使用痕ある剥片１点（30.5ｇ）が，N19-Bブロックの剥片１点と接合している。

・N19-54：自然面は平滑で，自然面及び内部は青黒色（5PB2/1）の地に暗灰色（N3/0）の線が入るチャートである。石器群の内訳は，楔形石器１点，剥片１点の合計２点（16.2ｇ）である。

・N19-55：暗灰色（N3/0）の地に半透明な灰オリーブ色（5Y6/2）が部分的に混じるチャートである。石器群の内訳は，剥片２点，砕片４点の合計６点（5.0ｇ）である。

・N19-56：自然面は比較的平滑で灰白色(10Y7/2)・オリーブ灰色(2.5GY6/1),内部は暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)のチャートである。剥片１点（5.7ｇ）の単独資料である。

・N19-57：内部は青黒色（5PB1.7/1）に暗灰色（N3/0）の線が入り，節理はオリーブ黄色（5Y6/3）のチャートである。石器群の内訳は，楔形石器１点，剥片２点の合計３点（14.7ｇ）である。

・N19-58：暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）のチャートである。剥片１点（2.2ｇ）の単独資料である。

・N19-59：灰オリーブ色（7.5Y5/2）・オリーブ黄色（5Y6/3）のチャートである。石器群の内訳は，剥片１点，砕片２点の合計３点（2.2ｇ）である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Ｂのナイフ形石器２点，加工痕ある剥片２点，剥片９点，砕片236点の合計249点（35.1ｇ），安山岩の砕片１点（0.01ｇ），頁岩Ａの砕片１点（0.04ｇ），チャートの剥片９点（6.6ｇ），砂岩の砕片１点（0.01ｇ）がある。

3）出土遺物（第111図，第112図18～21）

１～５は信州和田峠周辺産の黒曜石，６は粘板岩によるナイフ形石器である。１・２・４・６は二側縁加工で，１・４・６は打面側を基部，２は打面側を先端部として，１・２は左側縁と右側縁下部，４・６は右側縁と左側縁あるいは左側縁下部に調整加工を行っている。４はやや切出形である。３・５は一側縁加工で，打面側を基部として，左側縁に調整加工を行っている。

７は東北産頁岩による彫器で，不定型な剥片の末端から打面側に樋状の調整加工が行われている。また，裏面左側縁上部に微細な剥離痕が見られる。

８は安山岩，９・10はチャートによる楔形石器である。８は上下両端と両側縁に対向する剥離痕，９は下端部に潰痕状の剥離痕，10は上下両端に対向する剥離痕が見られる。

11・12は信州和田峠周辺産の黒曜石による加工痕ある剥片で，小型で不定型な剥片の左側縁に調整加工を行っている。13は硬質緻密な頁岩による加工痕ある剥片で，縦長剥片の右側縁下半部に細かい調整加工を行っている。

14は粘板岩，15～18は信州和田峠周辺産の黒曜石による石刃で，14は稜付き石刃である。15は右側縁に微細な剥離痕が見られる。18は3点が接合して1個体となる。

19・20は信州和田峠周辺産の黒曜石による剥片で，稜付き石刃の可能性がある。なお，19は5点が接合して1個体となる。21は粘板岩による不定型な剥片である。

4）接合資料とその関連資料（第112図22～29，第113・114図）

・**N19-18（第112図22～29）**　薄墨を流したような地に褐色がかった黒灰色の筋状のモヤが入るなどの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。22はナイフ形石器1点（27），剥片3点（2個体；24・26），石核1点（25）の接合資料である。その内，24は剥片2点が接合して1個体となる。23を剥離した後，打面を転移して26・27を剥離している。23は25を石核として，24などの不定型な剥片を剥離している。なお，23の正面図の剥離面は，稜線がローリングしており，光沢も若干にぶいことから，そのほぼ全面が自然面あるいはパティナに差が生じるほどの時間差があった可能性がある。26は石刃状の縦長剥片あるいは石刃，27は二側縁加工のナイフ形石器で，石刃状の縦長剥片あるいは石刃の打面側を先端部として，左側縁と右側縁下部に細かい調整加工を行っている。

28・29は接合しなかった同一母岩の資料である。28は部分加工のナイフ形石器で，石刃の打面側を先端部として，右側縁上部に細かい調整加工を行っており，2点が接合して1個体となる。29は稜付き石刃で，左側縁上部に調整加工を行っており，2点が接合して1個体となる。

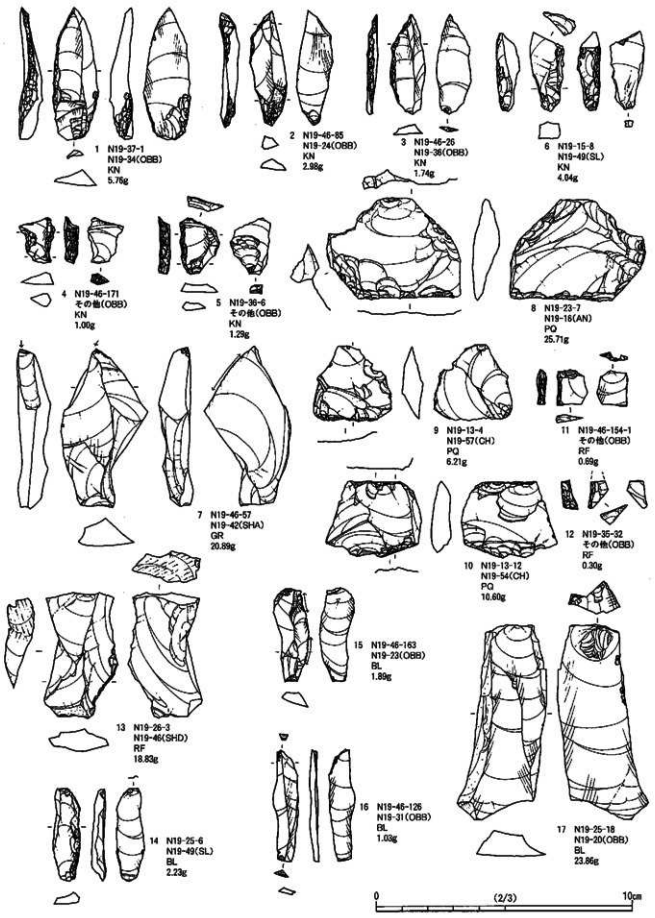
・**N19-38（第113図30～33）**　透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。30は剥片4点（3個体；31～33）の接合資料である。その内，33は本ブロックの剥片1点がN18-Gブロックの剥片1点と接合して1個体となる。この個体は，側面に加撃軸に直交する剥離面が見られることから，打面再生剥片の可能性がある。

・**N19-44（第113図34～37）**　黒褐色（10YR3/2）などの北関東産頁岩である。34は剥片3点（35～37）の接合資料である。34の正面には加撃軸に直交する剥離面が見られる。

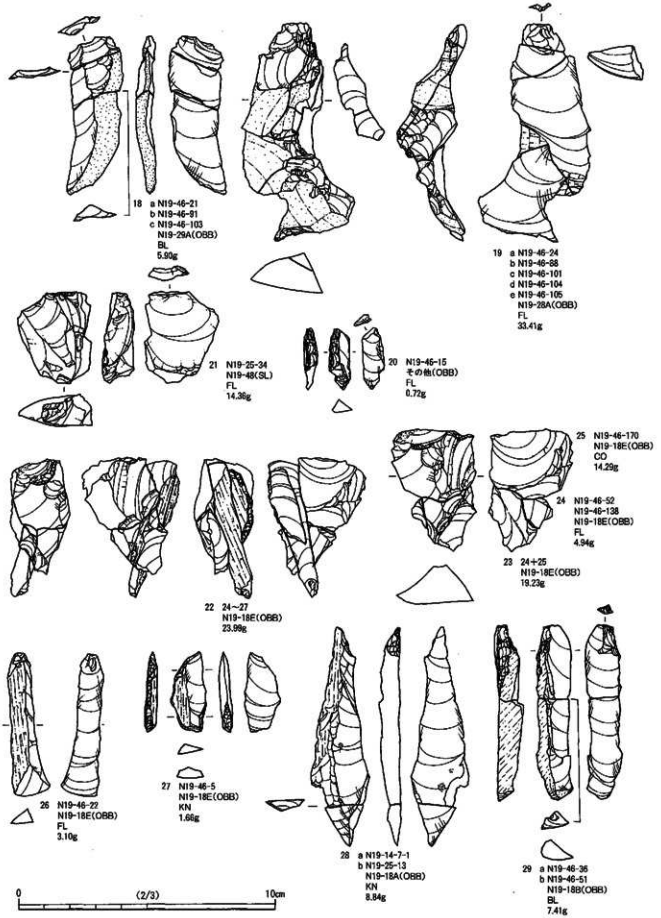
・**N19-53（第113図38～42）**　灰色（10Y4/1）などのチャートである。38は使用痕ある剥片1点（40），N19-Bブロックの剥片1点（39）の接合資料である。40は縦長剥片の両側縁下部に微細な剥離痕が見られる。

41・42は接合しなかった同一母岩の資料である。41は楔形石器で，素材の加撃軸とは若干ずれるが，裏面に対向する剥離痕が見られる。ただし，裏面右側縁の剥離痕は折断面に生じた極めて微細なもので，加工痕ある剥片の可能性もある。42は加工痕ある剥片で，不定型な剥片の左側縁に調整加工を行っている。

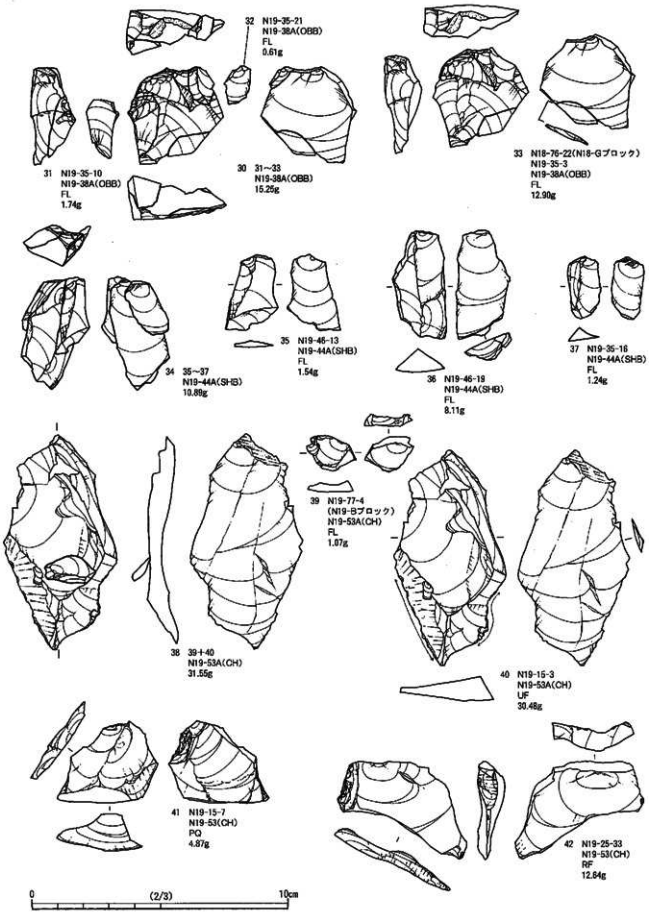
・**N19-50（第114図）**　灰色（N4/0）などのホルンフェルスである。43は礫器1点（45），剥片1点（44）の接合資料である。43は大型の剥片を素材として，両面の周辺に調整加工を行っている。44は刃部調整あるいは再生のための剥片である。



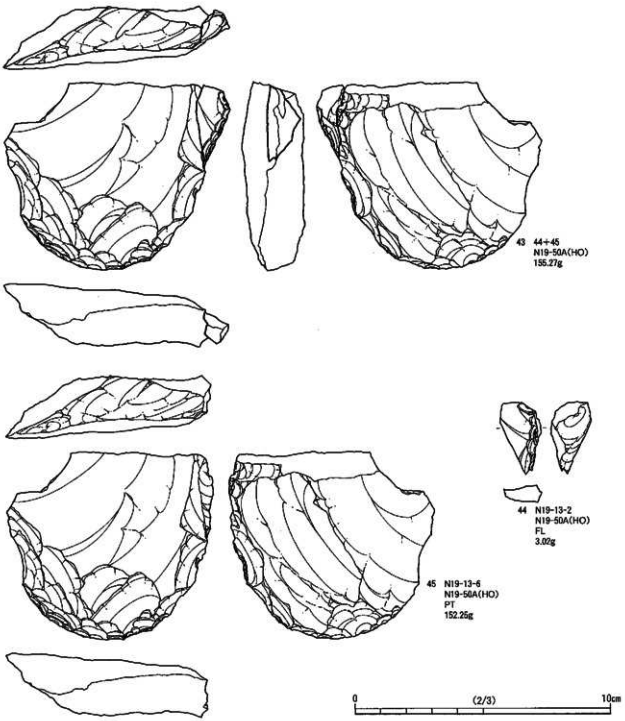
第111図　N19-Aブロック出土遺物(1)



第112図　N19-Aブロック出土遺物(2)



第113図　N19-Aブロック出土遺物(3)



第114図　N19-Aブロック出土遺物(4)

16　N19-Bブロック（第115～117・399図，第58・59表，カラー図版7・21，図版6）

1）ブロックの概要

N19-Bブロックは，調査範囲西側のN19-76・77・85～87・97グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

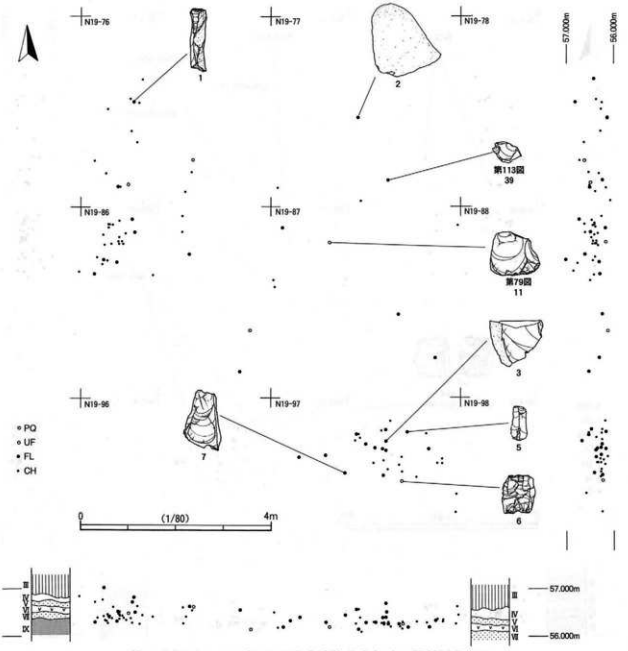
ブロックの規模と形状は，長軸11m，短軸7mの範囲に88点の石器が分布する。その内，原位置不明の

遺物が１点あり，その他に垂直分布のない遺物が１点ある。出土層位は，Ⅲ層からⅨ層にかけて，80cmほどの高低差をもって包含されている（第115・116図）。

ブロックは，楔形石器２点，使用痕ある剥片３点（２個体），剥片27点，砕片56点の合計88点（87個体）で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ43点（42個体），安山岩３点，頁岩Ｅ28点，チャート８点，凝灰岩３点，粘板岩１点，瑪瑙・玉髄２点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは17母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ５母岩（N19-３～７），安山岩２母岩（N19-１・２），頁岩Ｅ４母岩（N18-13・N19-９～11），チャート５母岩（N19-12～15・53），粘板岩１母岩（N19-８）であ



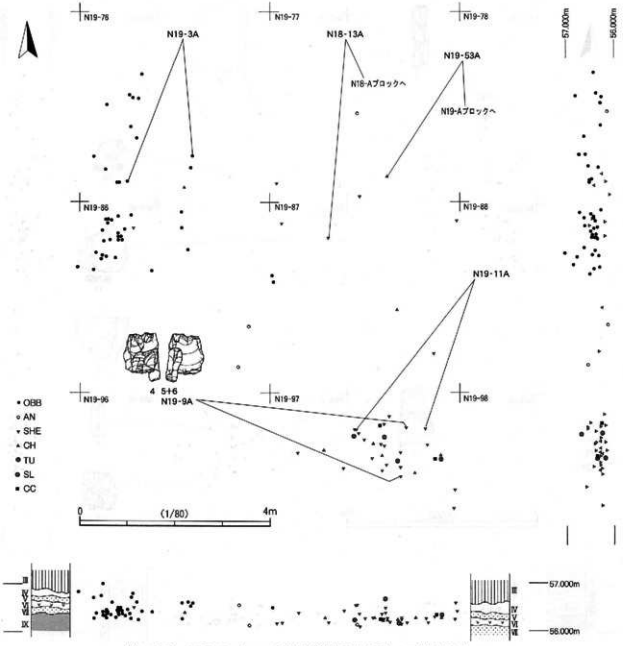
第115図　N19-Bブロック出土遺物分布（１）－器種別分布－

る。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は59%（52/88点）である。

・N18-13：灰白色（2.5Y7/1）などの頁岩である。母岩の特徴はN18-Aブロックに記したとおりである。本ブロックでは楔形石器1点（6.8g）の単独資料であるが，N18-Aブロックの楔形石器1点と接合する。その他に同一母岩がN18-Bブロックに1点ある。

・N19-1：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y4/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，剥片1点の合計2点（28.1g）である。

・N19-2：内部は灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片1点（4.2g）の単独資料である。



第116図　N19-Bブロック出土遺物分布(2)－石材別分布－

・N19-3：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は透明な地に黒色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片２点（１個体；2.1ｇ）である。接合資料は，使用痕ある剥片２点（１個体；2.1ｇ）である。

・N19-4：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な地に黒灰色のモヤが部分的に入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（2.1ｇ）の単独資料である。

・N19-5：自然面はスリガラス状，内部は薄墨を流したような透明な地に淡黒灰色のモヤが部分的に入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（0.9ｇ）の単独資料である。

・N19-6：透明な地に黒灰色のモヤが部分的に入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点，砕片６点の合計８点（4.8ｇ）である。

・N19-7：透明な地に黒色・黒灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片１点，砕片２点の合計３点（1.7ｇ）である。

・N19-8：自然面は平滑で，自然面及び内部は暗灰色（N4/0）の粘板岩である。剥片１点（12.5ｇ）の単独資料である。

・N19-9：自然面は平滑でオリーブ灰色（5GY5/1），内部は暗オリーブ灰色（5GY4/1），新鮮な面は暗オリーブ灰色（5GY3/1）の頁岩としたが，粘板岩の可能性がある。石器群の内訳は，楔形石器１点，剥片８点の合計９点（22.6ｇ）である。接合資料は，楔形石器１点，剥片１点の合計２点（5.3ｇ）である。

・N19-10：暗オリーブ灰色（2.5GY3/1）の頁岩としたが，粘板岩の可能性がある。石器群の内訳は，剥片５点，砕片５点の合計10点（7.6ｇ）である。

・N19-11：暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）の資料，暗灰色（N3/0）の資料など母岩内に変異がある頁岩としたが，粘板岩あるいはチャートの可能性がある。石器群の内訳は，砕片７点（2.2ｇ）である。接合資料は，砕片２点（0.6ｇ）である。

・N19-12：暗灰色（N3/0）・灰白色（7.5Y7/2）のチャートである。剥片１点（3.2ｇ）の単独資料である。

・N19-13：黄灰色（2.5Y4/1）の地に灰白色の筋が入るチャートである。剥片１点（2.0ｇ）の単独資料である。

・N19-14：灰色（10Y4/1）のチャートである。石器群の内訳は，剥片１点，砕片１点の合計２点（1.3ｇ）である。

・N19-15：オリーブ黒色（10Y3/1）のチャートとしたが，粘板岩の可能性がある。砕片１点（0.6ｇ）の単独資料である。

・N19-53：灰色（10Y4/1）などのチャートである。母岩の特徴はN19-Aブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（1.1ｇ）の単独資料であるが，N19-Aブロックの使用痕ある剥片１点と接合している。その他に同一母岩がN19-Aブロックに10点ある。

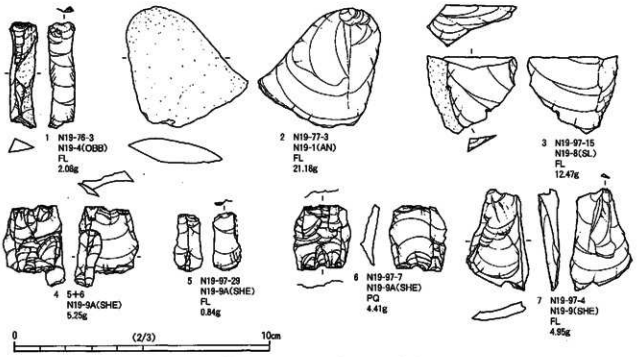
なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Ｂの剥片２点，砕片26点の合計28点（4.8ｇ），頁岩Ｅの砕片１点（0.01ｇ），チャートの砕片２点（0.1ｇ），凝灰岩の砕片３点（0.4ｇ），瑪瑙・玉髄の砕片２点（1.2ｇ）がある。

3）出土遺物（第117図１～３）

１は信州和田峠周辺産の黒曜石，２は安山岩，３は粘板岩による剥片である。１は石刃状の縦長剥片あるいは石刃，２・３は不定型な剥片である。

４）接合資料とその関連資料（第117図４～７）

・N19-9（第117図４～７）　暗オリーブ灰色（5GY4/1）などの頁岩である。４は楔形石器１点（６），剥片１点（５）の接合資料である。６は上下両端に対向する剥離痕が見られる。なお，５は楔形石器の剥片（スポール）と考えられる。７は接合しなかった同一母岩の縦長剥片である。



第117図　N19-Bブロック出土遺物

第58表　N19-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	NB	MC	UK	合　計
N18-13(SHE)									1																1
N19-1(AN)											1						1								2
N19-2(AN)																	1								1
N19-3(OBB)											2(1)														2(1)
N19-4(OBB)																	1								1
N19-5(OBB)																	1								1
N19-6(OBB)																	2	6							8
N19-7(OBB)																	1	2							3
N19-8(SL)																	1								1
N19-9(SHE)									1								8								9
N19-10(SHE)																	5	5							10
N19-11(SHE)																		7							7
N19-12(CH)																	1								1
N19-13(CH)																	1								1
N19-14(CH)																	1	1							2
N19-15(CH)																		1							1
N19-53(CH)																	1								1
その他(OBB)																	2	26							28
その他(SHE)																		1							1
その他(CH)																		2							2
その他(TU)																		3							3
その他(CC)																		2							2
合　計									2		3(2)						27	56							88(87)

第59表　N19-Bブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
黒曜石B(OBB)											2(1)						7	34							43(42)
安山岩(AN)											1						2								3
頁岩C(SHE)									2								13	13							28
チャート(CH)																	4	4							8
凝灰岩(TU)																		3							3
粘板岩(SL)																	1								1
瑪瑙・玉髄(CC)																		2							2
合　計									2		3(2)						27	56							88(87)

17　M20-Aブロック（第118～120・399図，第60・61表，カラー図版７・21，図版７）

１）ブロックの概要

M20-Aブロックは，調査範囲西側のM20-69・79，N20-60・70グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は15mである。

ブロックの規模と形状は，長軸７m，短軸３mの範囲に37点の石器が分布する。その内，原位置不明の遺物が１点ある。出土層位は，Ⅴ層からⅦ層にかけて，50cmほどの高低差をもって包含されている（第118・119図）。

ブロックは，ナイフ形石器３点，使用痕ある剥片２点，石刃５点（４個体），剥片12点（11個体），砕片15点の合計37点（35個体）で構成される。石器石材は，黒曜石B36点（34個体），頁岩C１点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは13母岩を識別した。内訳は，黒曜石B12母岩（M20-１～12），頁岩C１母岩（M20-13）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は70％（26/37点）である。

・M20-１：透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴はN18-Hブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，石刃２点（1.7ｇ）である。接合資料は，石刃１点（1.1ｇ）がN18-Hブロックの石刃１点と接合して１個体となる。

・M20-２：透明な地に若干褐色がかった黒色のモヤが入る黒曜石である。φ１mmほどの灰白色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃２点（１個体），剥片１点の合計３点（２個体；6.1ｇ）である。接合資料は，石刃２点（１個体：5.5ｇ）である。

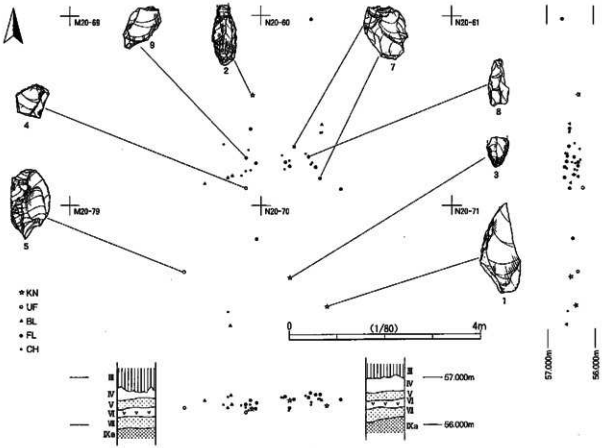
・M20-３：自然面は比較的平滑で黄灰色，内部は透明な地に褐色がかった黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器１点（9.1ｇ）の単独資料である。

・M20-４：透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点（2.7ｇ）の単独資料である。

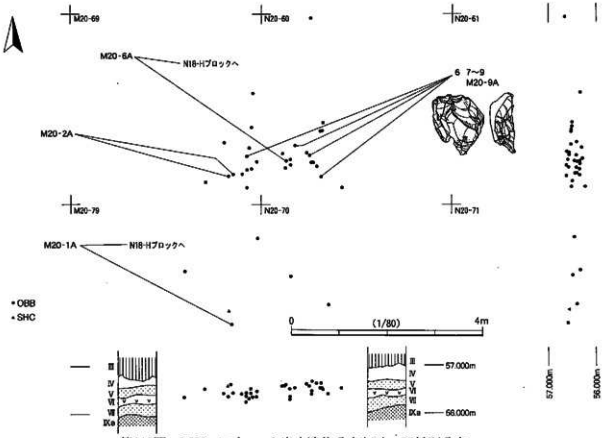
・M20-５：薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。使用痕ある剥片１点（8.0ｇ）の単独資料である。

・M20-６：薄墨を流したような若干濁りのある透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。母岩の特徴はN18-Hブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，剥片３点（11.6ｇ）である。接合資料は，剥片１点（2.2ｇ）がN18-Hブロックの剥片１点と接合している。

・M20-７：若干褐色がかった透明な地に縞状のモヤと通常のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器１点（1.6ｇ）の単独資料である。



第118図　M20-Aブロック出土遺物分布(１)－器種別分布－



第119図　M20-Aブロック出土遺物分布(２)－石材別分布－

・M20-8：自然面は平滑で，自然面及び内部は透明な地に淡黒灰色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点，砕片３点の合計５点（4.4ｇ）である。

・M20-9：薄墨を流したような濁りのある透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片５点（４個体；16.2ｇ）である。接合資料は，剥片４点（３個体；14.4ｇ）である。

・M20-10：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な地に若干褐色がかった黒灰色の帯が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器１点（4.1ｇ）の単独資料である。

・M20-11：薄墨を流したような透明な地に濁りのある薄いモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。使用痕ある剥片１点（3.2ｇ）の単独資料である。

・M20-12：薄墨を流したような透明な地に淡灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（3.0ｇ）の単独資料である。

・M20-13：自然面は平滑で褐色（10YR4/6），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。砕片１点（0.6ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Ｂの砕片11点（1.3ｇ）がある。

3）出土遺物（第120図１～５）

１～３は信州和田峠周辺産の黒曜石によるナイフ形石器である。１は部分加工あるいは一側縁加工で，石刃状の縦長剥片の打面側を先端部として，左側縁上半部に調整加工を行っている。下半部の自然面も含め，一側縁加工と考えることも可能である。また，右側縁下部に微細な剥離痕が見られる。２は二側縁加工で，石刃あるいは石刃状の縦長剥片の打面側を先端部として，右側縁と左側縁下部に調整加工を行っている。また，左側縁上部には使用によって生じたと考えられる細かい剥離痕が見られる。３は上半部を欠

第60表　M20-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
M20-1(OBB)												2													2
M20-2(OBB)												2(1)					1								3(2)
M20-3(OBB)	1																								1
M20-4(OBB)												1													1
M20-5(OBB)											1														1
M20-6(OBB)																	3								3
M20-7(OBB)	1																								1
M20-8(OBB)																	2	3							5
M20-9(OBB)																	5(4)								5(4)
M20-10(OBB)	1																								1
M20-11(OBB)											1														1
M20-12(OBB)																	1								1
M20-13(SHC)																		1							1
その他(OBB)																		11							11
合　計	3										2	5(4)					12(11)	15							37(35)

第61表　M20-Aブロック石材別石器組成

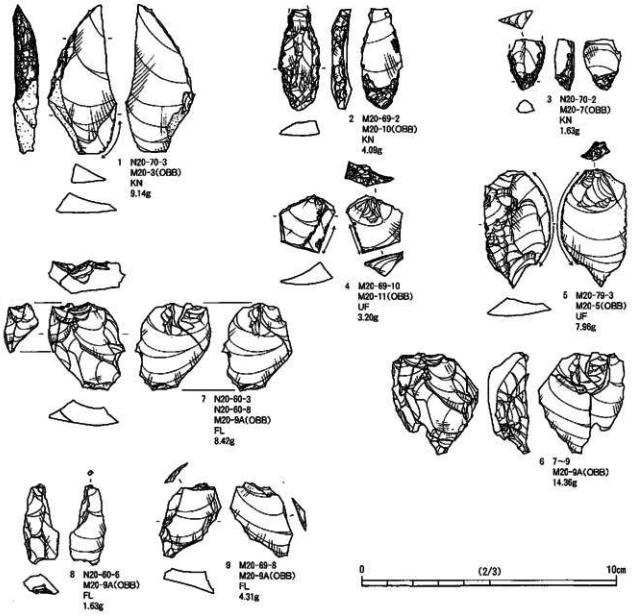
石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
黒曜石B(OBB)	3										2	5(4)					12(11)	14							36(34)
頁岩C(SHC)																		1							1
合　計	3										2	5(4)					12(11)	15							37(35)

損するため，形態不明であるが，打面側を基部とした基部加工あるいは二側縁加工の可能性がある。また，裏面基部加工が見られる。

4・5は信州和田峠周辺産の黒曜石による使用痕ある剥片である。4は不定型な剥片，5は縦長剥片のそれぞれ両面の両側縁に微細な剥離痕が見られる。

4）接合資料とその関連資料（第120図6～9）

・M20-9：薄墨を流したような濁りのある透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。6は剥片4点（3個体；7～9）の接合資料である。その内，7は剥片2点が接合して1個体となる。6の右側面に加撃軸に直交する剥離痕が見られることから，打面再生剥片の可能性がある。



第120図　M20-Aブロック出土遺物

18　Q20-Aブロック（第121～124・399図，第62・63表，カラー図版７・21，図版７）

１）ブロックの概要

Q20-Aブロックは，調査範囲東側のQ20-76・84～88・95～97グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側中央台地上の縁辺部である。

ブロックの規模と形状は，直径７ｍの範囲に87点の石器と東に３ｍほど離れて１点，西に３ｍほど離れて１点の石器が分布する。その内，原位置不明の遺物が４点ある。出土層位は，Ⅵ層からⅩ層にかけて，80cmほどの高低差をもって包含されているが，中心はⅦ層で，30cmほどである（第121・122図）。なお，東西方向の投影図では，Ⅶ～Ⅸ層に遺物は集中するが，調査時の所見及び南北方向の投影図によれば，Ⅵ～Ⅶ層と考えられ，出土遺物等を勘案してⅦ層を中心とした。

ブロックは，ナイフ形石器２点，削器１点，楔形石器１点，加工痕ある剥片１点，剥片44点（39個体），砕片40点の合計89点（84個体）で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ87点（82個体），頁岩Ｄ２点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ３母岩（Q20-１～３），頁岩Ｄ１母岩（Q20-４）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は54%（48/89点）である。

・**Q20-１**：自然面は紙ヤスリ状で灰黄褐色（10YR4/2）・灰黄褐色（10YR5/2）・にぶい黄橙色（10YR6/4），内部は薄墨を流したような透明な地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，削器１点，加工痕ある剥片１点，剥片35点（31個体），砕片３点の合計41点（37個体；126.6ｇ）である。接合資料は，８グループあり，Ａはナイフ形石器１点，加工痕ある剥片１点，剥片８点（7個体），砕片２点の合計12点（11個体；67.7ｇ），Ｂは剥片２点（１個体；5.9ｇ），Ｃは剥片６点（５個体；6.7ｇ），Ｄは剥片２点（１個体；2.1ｇ），Ｅは剥片３点（8.6ｇ），Ｆは剥片２点（3.8ｇ），Ｇは剥片３点（3.0ｇ），Ｈは剥片１点，砕片１点の合計２点（2.0ｇ）である。

・**Q20-２**：内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色のモヤが部分的に入り，節理はにぶい黄色(2.5Y6/4)・灰白色（2.5Y8/2）の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片３点（２個体），砕片１点の合計４点（３個体；4.2ｇ）である。接合資料は，剥片３点（２個体），砕片１点の合計４点（３個体；4.2ｇ）である。

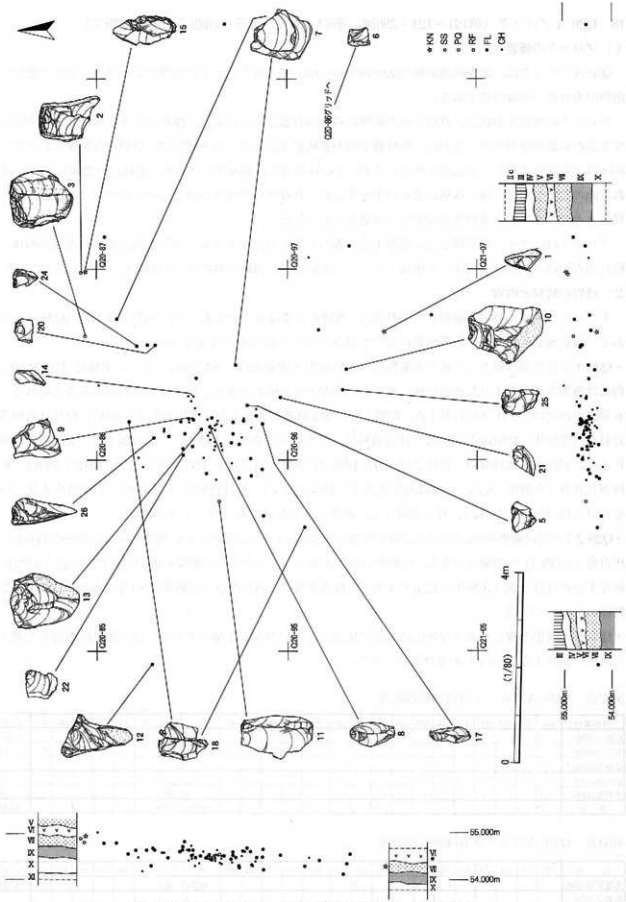
・**Q20-３**：薄墨を流したような半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（2.8ｇ）の単独資料である。

第62表　Q20-Aブロック母岩別石器組成

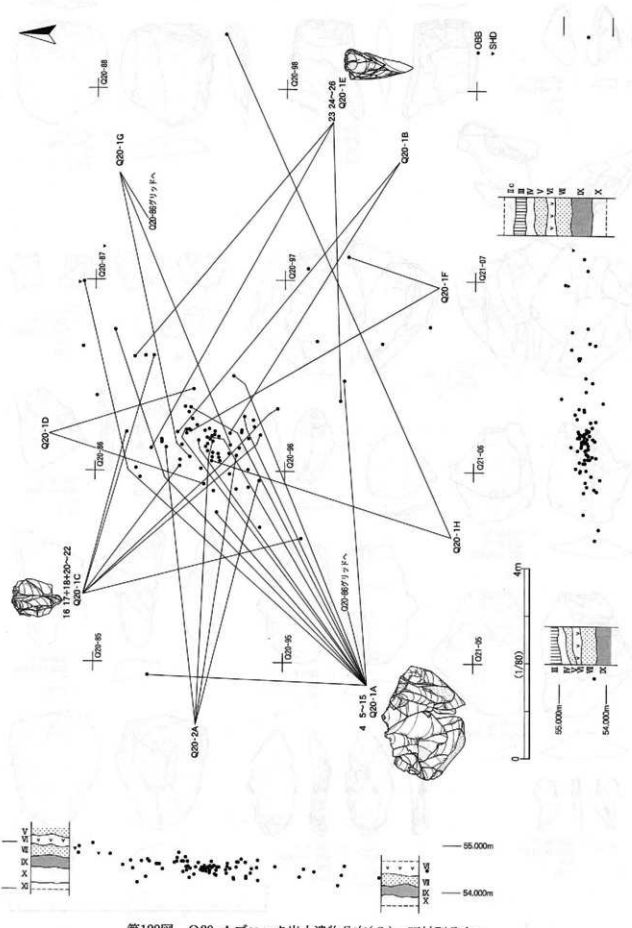
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
Q20-1(OBB)	1					1				1							35(31)	3							41(37)
Q20-2(OBB)																	3(2)	1							4(3)
Q20-3(OBB)																	1								1
Q20-4(SHD)									1								1								2
その他(OBB)	1																4	36							41
合　計	2					1			1	1							44(39)	40							89(84)

第63表　Q20-Aブロック石材別石器組成

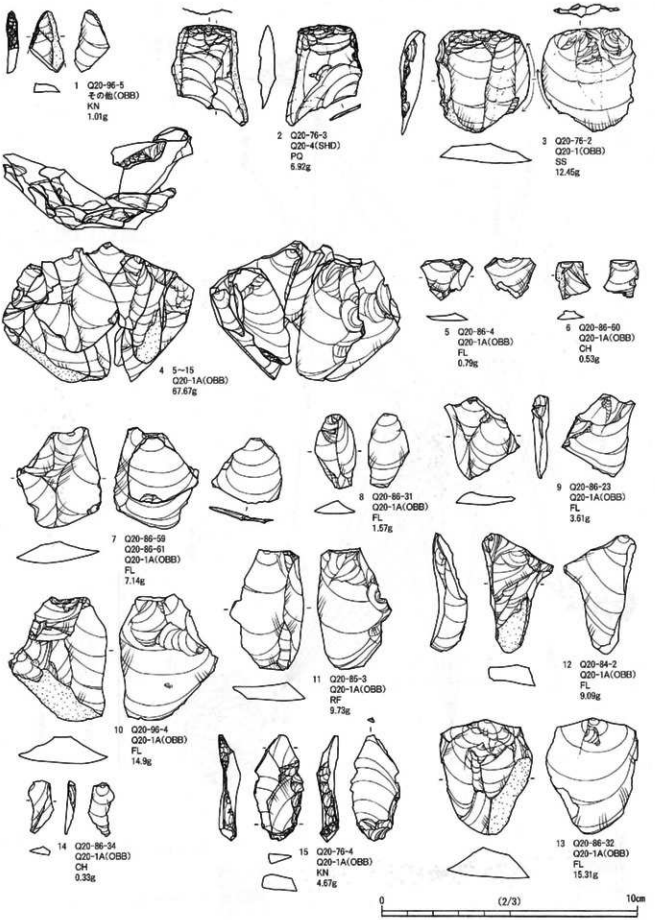
石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
黒曜石B(OBB)	2					1				1							43(38)	40							87(82)
頁岩D(SHD)									1								1								2
合　計	2					1			1	1							44(39)	40							89(84)



第121図　Q20-Aブロック出土遺物分布(1)－器種別分布－



第122図　Q20-Aブロック出土遺物分布(２)－石材別分布－



第123図　Q20-Aブロック出土遺物(1)

・Q20-4：暗灰黄色（2.5Y5/2）・灰黄色（2.5Y6/2）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器1点，剥片1点の合計2点（7.3g）である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Bのナイフ形石器1点，剥片4点，砕片36点の合計41点（9.8g）がある。

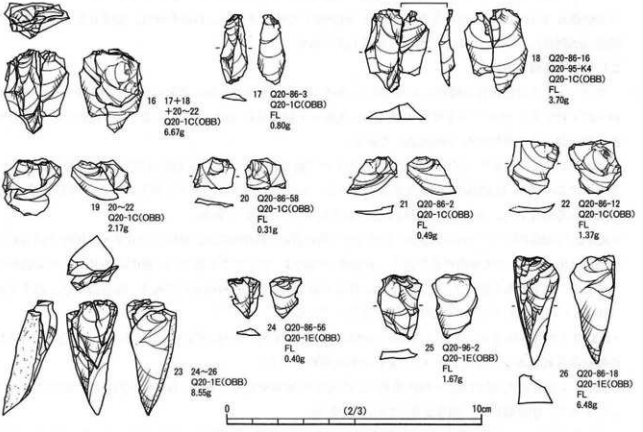
3）出土遺物（第123図1・2）

1は信州和田峠周辺産の黒曜石によるナイフ形石器である。下半部を欠損するため，形態不明であるが，打面側を先端部として，左側縁に調整加工を行っている。

2は硬質緻密な頁岩による楔形石器で，両面上部に潰痕状の剥離痕が見られる。

4）接合資料とその関連資料（第123図3～13，第124図）

・Q20-1（第123図3～13，第124図）　薄墨を流したような透明な地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。4はナイフ形石器1点（15），加工痕ある剥片1点（11），剥片8点（7個体；5・7～10・12・13），砕片2点（6・14）の接合資料である。その内，7は剥片2点が接合して1個体となる。ほぼ同一の打面から打点を左右に移動しながら，縦長剥片を主体に剥離している。11は裏面右側縁の中間部に見られる剥離痕を主要剥離面を切る調整加工と考えたが，新旧関係が逆の可能性もある。



第124図　Q20-Aブロック出土遺物（2）

15は二側縁加工のナイフ形石器で，打面側を基部として，左側縁の上半部と右側縁下部は裏面側から，左側縁下半部は正面側から調整加工を行っている。なお，裏側の裏面基部加工状の剥離痕はコーン（円錐体）である。

16は剥片6点（5個体；17・18・20～22）の接合資料である。その内，18は剥片2点が接合して1個体となる。23は剥片3点（24～26）の接合資料である。16・23ともに小型で縦長な剥片や不定形な剥片を剥離している。

3は接合しなかった同一母岩の削器で，不定型な剥片の左側縁に調整加工を行っている。また，表面の右側縁と裏面の左側縁に微細な剥離痕が見られる。

19　S20-Aブロック（第125～129・399図，第64・65表，カラー図版7・21，図版7）

1）ブロックの概要

S20-Aブロックは，調査範囲東側のS20-35・36・45・46・55・56グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側中央台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は15mである。

ブロックの規模と形状は，長軸11m，短軸6mの範囲に92点の石器が分布する。出土層位は，Ⅵ層からⅨ層にかけて，70cmほどの高低差をもって包含されているが，中心はⅦ層で，40cmほどである（第125・126図）。

ブロックは，ナイフ形石器7点，楔形石器4点，加工痕ある剥片3点，使用痕ある剥片6点，剥片54点（53個体），砕片14点，石核4点の合計92点（91個体）で構成される。石器石材は，黒曜石B1点，頁岩C89点（88個体），チャート1点，瑪瑙・玉髄1点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは23母岩を識別した。内訳は，黒曜石B1母岩（S20-20），頁岩C20母岩（S20-1～12・14～19・27・T20-7），チャート1母岩（S20-21），瑪瑙・玉髄1母岩（S20-22）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は96%（88/92点）である。

・S20-1：内部は灰オリーブ色（5Y4/2）・灰オリーブ色（5Y5/2）の地に灰白色（5Y8/1）が部分的に混じり，節理はにぶい黄色（2.5Y6/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器2点，楔形石器1点，使用痕ある剥片3点，剥片5点，石核2点の合計13点（77.5g）である。

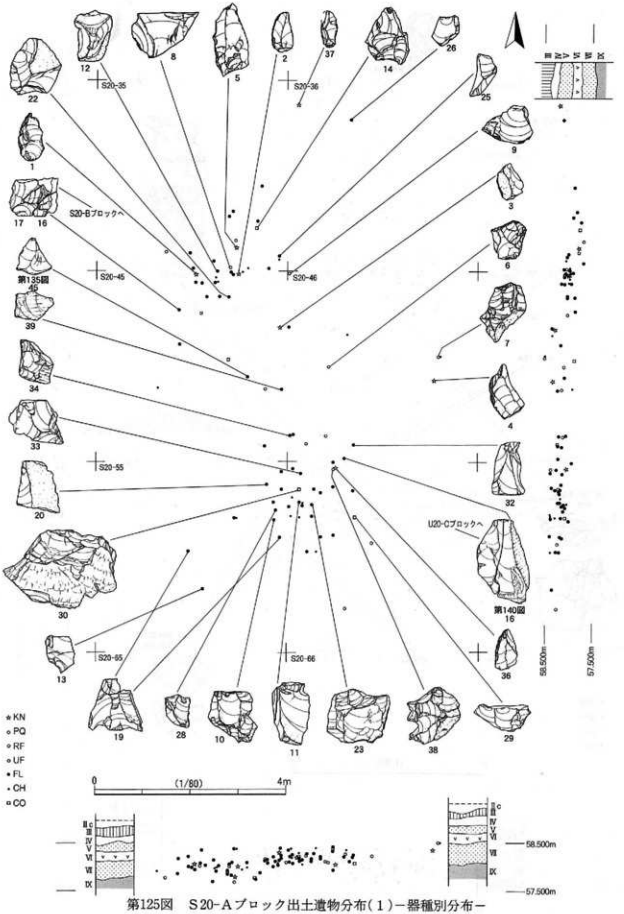
・S20-2：内部は灰オリーブ色(5Y5/2)・灰オリーブ色(5Y6/2)，節理はにぶい黄色(2.5Y6/4)・黒褐色(2.5Y3/1)・暗褐色（10YR3/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器2点，楔形石器2点，加工痕ある剥片2点，使用痕ある剥片1点，剥片11点，砕片5点の合計23点（60.0g）である。接合資料は，剥片3点（19.6g）がT20-Aブロックの剥片1点と接合している。

・S20-3：内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の地に灰白色（5Y7/2）が部分的に入り，節理は浅黄色（2.5Y7/4）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（11.3g）の単独資料である。

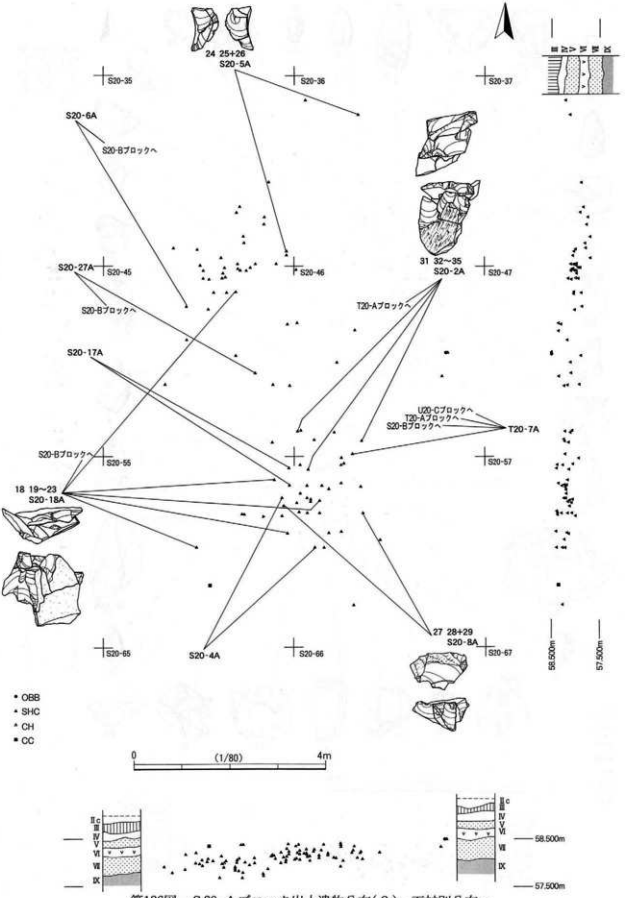
・S20-4：暗灰黄色（2.5Y4/2）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（2.9g）である。接合資料は，剥片2点（2.9g）である。

・S20-5：灰オリーブ色（5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（4.8g）である。接合資料は，剥片2点（4.8g）である。

・S20-6：内部は灰オリーブ色(5Y5/2)・褐色(7.5YR4/4)・にぶい黄褐色(10YR5/4)，節理は褐色(7.5YR4/4)



第125図　S20-Aブロック出土遺物分布(1)－器種別分布－



第126図　Ｓ20-Ａブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

の嶺岡産頁岩である。本ブロックでは剥片１点（4.2ｇ）の単独資料であるが，S20-Bブロックの石核１点と接合している。

・S20-7：灰オリーブ色（5Y4/2）・灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片２点の合計３点（30.5ｇ）である。

・S20-8：内部は灰オリーブ色（5Y6/2）・灰色（5Y6/1），節理は浅黄色（2.5Y7/4）・暗灰黄色（2.5Y4/2）・褐色（7.5YR4/3）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片２点，石核２点の合計５点（122.9ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（13.0ｇ）である。

・S20-9：灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，楔形石器１点，剥片４点，砕片１点の合計７点（15.2ｇ）である。

・S20-10：内部はにぶい黄褐色（10YR4/3）・暗灰黄色（2.5Y4/2）・明黄褐色（2.5Y7/6），新鮮な面は灰黄褐色（10YR4/2）・暗灰黄色（2.5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片３点，砕片１点の合計４点（11.7ｇ）である。

・S20-11：内部は灰オリーブ色(5Y5/2)の地に灰白色(5Y7/1)が部分的に混じり，節理は灰オリーブ色(5Y5/3)の嶺岡産頁岩である。剥片１点（5.3ｇ）の単独資料である。

・S20-12：内部は灰オリーブ色(5Y5/2)の地に灰白色(5Y7/1)が部分的に混じり，節理は黄褐色(2.5Y5/3)・にぶい黄褐色（10YR4/3）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（4.2ｇ）の単独資料である。

・S20-14：自然面は比較的平滑・自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の地に黒色（5Y2/1）の粒が付着，節理は浅黄色（2.5Y7/4）・淡黄色（2.5Y8/4）・褐色（7.5YR4/4）・黒色（5Y2/1）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（12.8ｇ）の単独資料である。

・S20-15：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR4/3），内部はオリーブ黄色（5Y6/3）の地に灰色（5Y5/1）が筋状に入る嶺岡産頁岩である。ナイフ形石器１点（2.5ｇ）の単独資料である。

・S20-16：灰オリーブ色（5Y5/2）の地にオリーブ黄色（5Y6/3）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。ナイフ形石器１点（9.7ｇ）の単独資料である。

・S20-17：灰オリーブ色（5Y5/2）の地に灰色（5Y5/1）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片４点（10.3ｇ）である。接合資料は，剥片２点（3.9ｇ）である。

・S20-18：内部は暗灰黄色（2.5Y4/2）・黒褐色（10YR3/1）・褐色（7.5YR4/4）の地に明黄褐色（10YR6/6）が部分的に混じり，節理は褐色（7.5YR4/4）・にぶい黄色（2.5Y6/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片10点（９個体），砕片２点の合計12点（11個体；58.2ｇ）である。接合資料は，剥片５点（４個体；44.6ｇ）がS20-Bブロックの剥片１点と接合している。

・S20-19：灰オリーブ色（5Y6/2）・灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（13.2ｇ）の単独資料である。

・S20-20：自然面は比較的平滑，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。φ１㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。使用痕ある剥片１点（5.4ｇ）の単独資料である。

・S20-21：オリーブ黒色（5Y3/2）のチャートである。砕片１点（0.9ｇ）の単独資料である。

・S20-22：浅黄色（2.5Y7/4）・明黄褐色（10YR7/6）で半透明な瑪瑙・玉髄である。剥片１点（2.1ｇ）の単独資料である。

・S20-27：灰オリーブ色（5Y5/2）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。本ブロックでは剥片1点（1.8g）の単独資料であるが，S20-Bブロックの剥片1点，石核1点の合計2点と接合している。その他に同一母岩がS20-Bブロックに16点ある。

・T20-7：内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y5/1）・灰オリーブ色（5Y6/2），節理は浅黄色（2.5Y7/4）・にぶい黄褐色（10YR5/4），新鮮な面は黒褐色（10YR3/1）の嶺岡産頁岩である。本ブロックでは剥片1点（8.7g）の単独資料であるが，S20-Bブロックの石核1点，T20-Aブロックの剥片8点，U20-Cブロックの剥片1点と接合している。その内，剥片1点がU20-Cブロックの剥片1点と接合して1個体となる。その他に同一母岩がT20-Aブロックに17点ある。

なお，母岩分類できなかった資料に，頁岩Cの砕片4点（1.8g）がある。

3）出土遺物（第127図1～14）

1～5は嶺岡産頁岩によるナイフ形石器である。1～5は一側縁加工で，1・2・4は打面側を基部，3は打面側を先端部として，左側縁に調整加工を行い，5は打面側を基部として，正面の左側縁下部と裏面の右側縁上部に調整加工を行っている。また，2は正面右側縁と裏面左側縁上部，4・5の右側縁には微細な剥離痕が見られる。

6は嶺岡産頁岩による楔形石器である。両面の上下両端に対向する剥離痕が見られる。

7は信州和田峠周辺産の黒曜石，8・9は嶺岡産頁岩による使用痕ある剥片である。7は正面の左側縁上部と裏面の右側縁上部，8は左側縁の一部，9は末端の一部に細かい剥離痕が見られる。なお，9の正面図末端の左側には加撃軸に対向する潰痕状の剥離痕が見られることから，両極剥片を素材とした可能性がある。

10～12は嶺岡産頁岩，13は瑪瑙・玉髄による不定型な剥片である。

14は嶺岡産頁岩による両設打面の石核で，主に小型で不定型な剥片を剥離しているが，右側面には2回ほど打面調整を行って，細石刃状の縦長剥片を剥離した作業面が残っている。

4）接合資料とその関連資料（第127図15～17，第128・129図）

・S20-6（第127図15～17）　灰オリーブ色（5Y5/2）などの嶺岡産頁岩である。15は剥片1点（16），S20-Bブロックの石核1点（17）の接合資料である。17は16の剥離後の剥片を素材として，小型で不定型な剥片を剥離している。

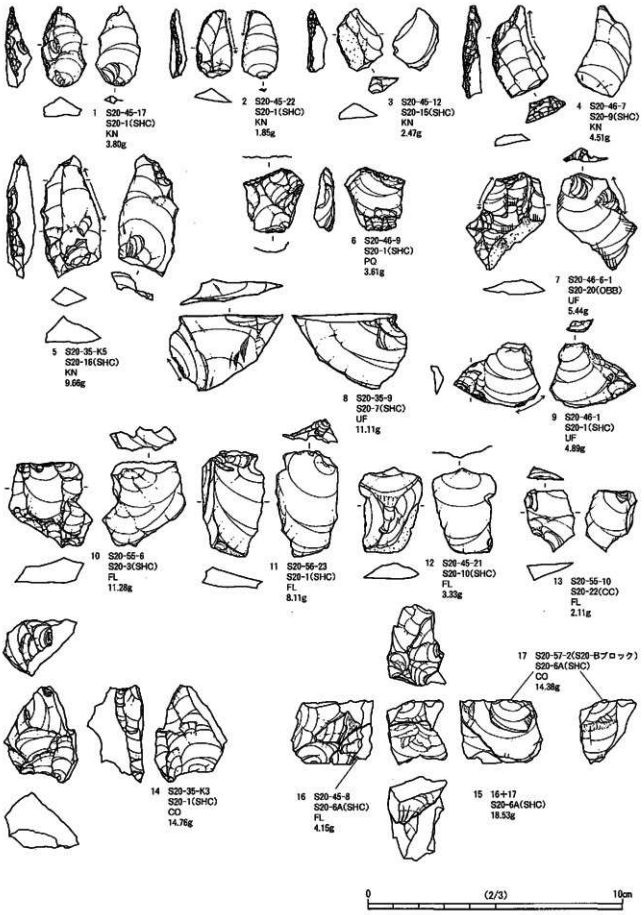
・S20-18（第128図18～23）　暗灰黄色（2.5Y4/2）などの嶺岡産頁岩である。18は剥片5点（4個体；19・20・22・23），S20-Bブロックの剥片1点（21）の接合資料である。その内，19は剥片2点が接合して1個体となる。19を上方向から剥離し，90度打面転移して20を剥離し，21～23は上方向から剥離している。すべて不定型な剥片である。

・S20-5（第128図24～26）　灰オリーブ色（5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。24は剥片2点（25・26）の接合資料である。

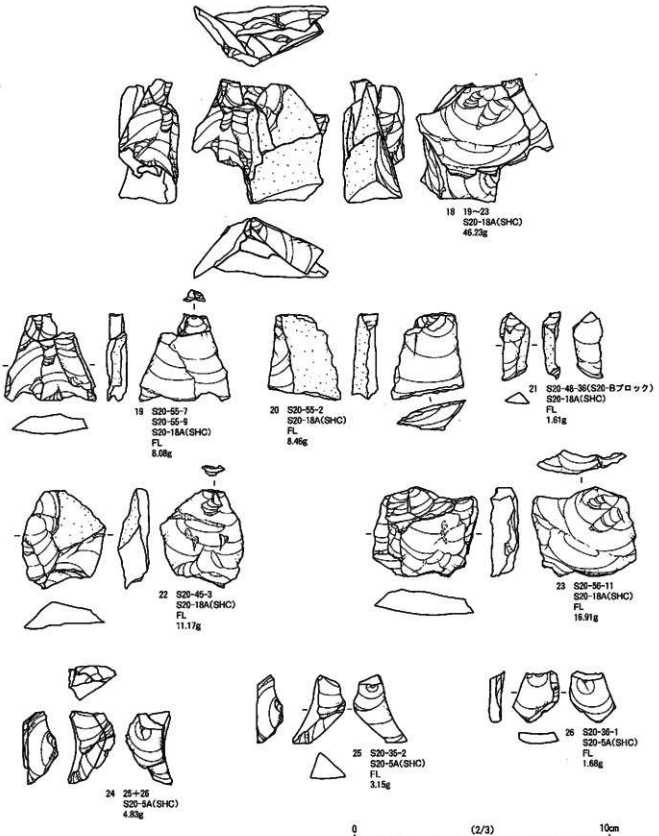
・S20-8（第129図27～30）　灰オリーブ色（5Y6/2）などの嶺岡産頁岩である。27は剥片1点（28），石核1点（29）の接合資料である。29は打面転移を繰り返しながら，小型で寸詰まりの剥片を剥離している。

30は接合しなかった同一母岩の石核である。節理の発達した大型の剥片を素材として，打面転移を繰り返しながら，29と同様な小型で寸詰まりの剥片を剥離している。

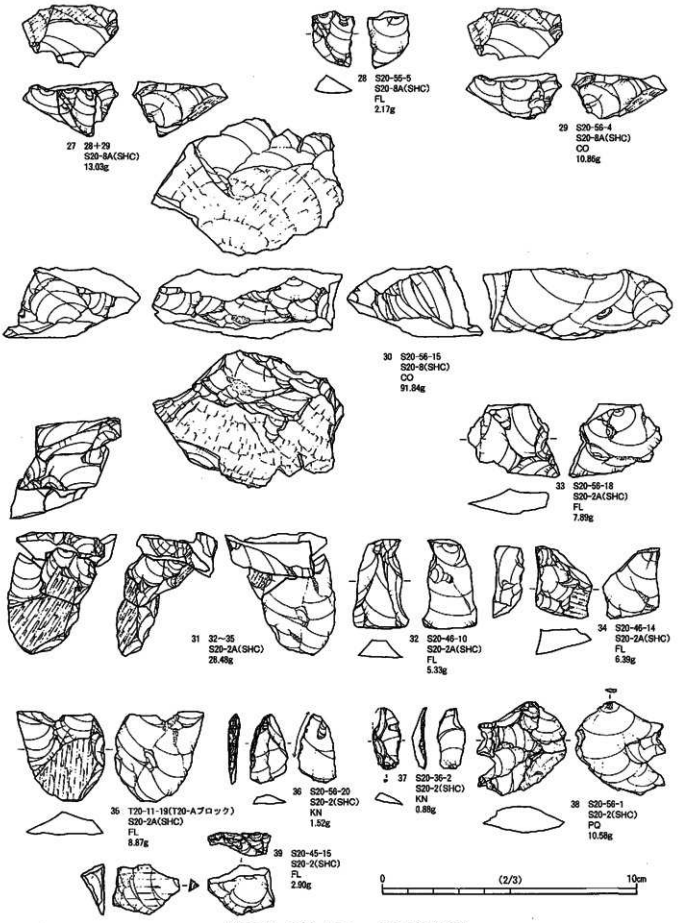
・S20-2（第129図31～39）　灰オリーブ色（5Y5/2）などの嶺岡産頁岩である。31は剥片3点（32～34），



第127図　S20-Aブロック出土遺物(1)



第128図　S20-Aブロック出土遺物(2)



第129図　S20-Aブロック出土遺物(3)

T20-Aブロックの剥片1点（35）の接合資料である。32・33を剥離した後，90度打面転移して34，さらに90度打面転移して35を剥離している。

36～39は接合しなかった同一母岩の資料である。36は一側縁加工のナイフ形石器で，縦長剥片の打面側を先端部として，左側縁に調整加工を行っている。また，裏面左側縁に微細な剥離痕が見られる。37は二側縁加工のナイフ形石器で，縦長剥片の打面側を基部として，右側縁と左側縁の下半部に調整加工を行っている。38は裏面の両側縁を中心に対向する剥離痕が見られる楔形石器である。39は不定型な剥片であるが，裏面側の上面に加撃軸に直交する剥離面が見られ，打面再生剥片の可能性がある。

第64表　S20-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合 計
S20-1(SHC)	2								1		3						5		2						13
S20-2(SHC)	2								2	2	1						11	5							23
S20-3(SHC)																	1								1
S20-4(SHC)																	2								2
S20-5(SHC)																	2								2
S20-6(SHC)																	1								1
S20-7(SHC)											1						2								3
S20-8(SHC)										1							2		2						5
S20-9(SHC)	1								1								4	1							7
S20-10(SHC)																	3	1							4
S20-11(SHC)																	1								1
S20-12(SHC)																	1								1
S20-14(SHC)																	1								1
S20-15(SHC)	1																								1
S20-16(SHC)	1																								1
S20-17(SHC)																	4								4
S20-18(SHC)																	10(9)	2							12(11)
S20-19(SHC)																	1								1
S20-20(OBB)											1														1
S20-21(CH)																		1							1
S20-22(CC)																	1								1
S20-27(SHC)																	1								1
T20-7(SHC)																	1								1
その他(SHC)																		4							4
合　計	7								4	3	6						54(53)	14	4						92(91)

第65表　S20-Aブロック石材別石器組成

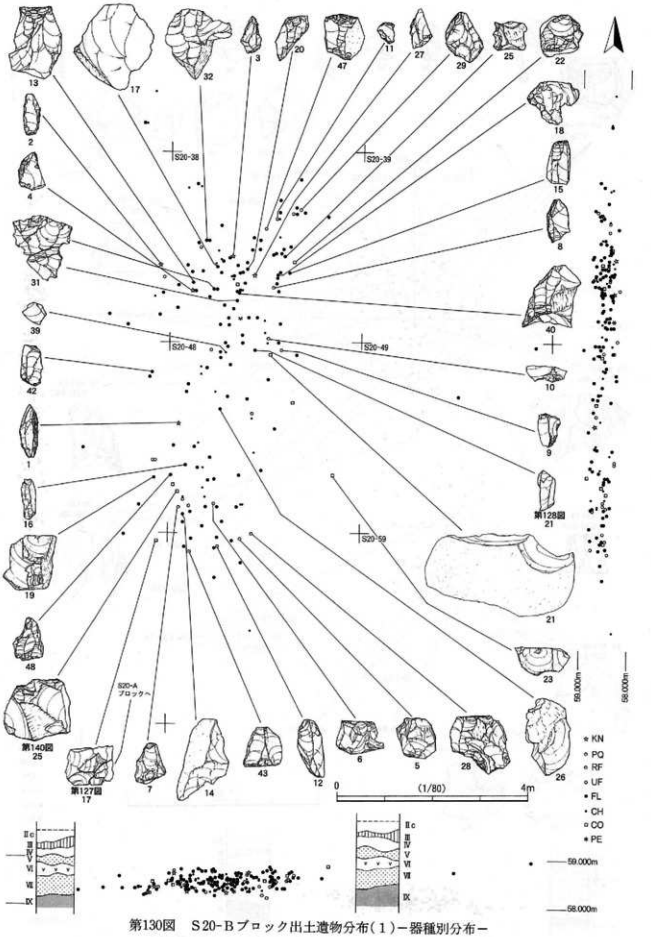
石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合 計
黒曜石B(OBB)											1														1
真珠(SHC)	7								4	3	5						53(52)	13	4						89(88)
チャート(CH)																		1							1
鳴瀬・玉髄(CC)																	1								1
合　計	7								4	3	6						54(53)	14	4						92(91)

20　S20-Bブロック（第130～135・399図，第66～68表，カラー図版8・21，図版7）

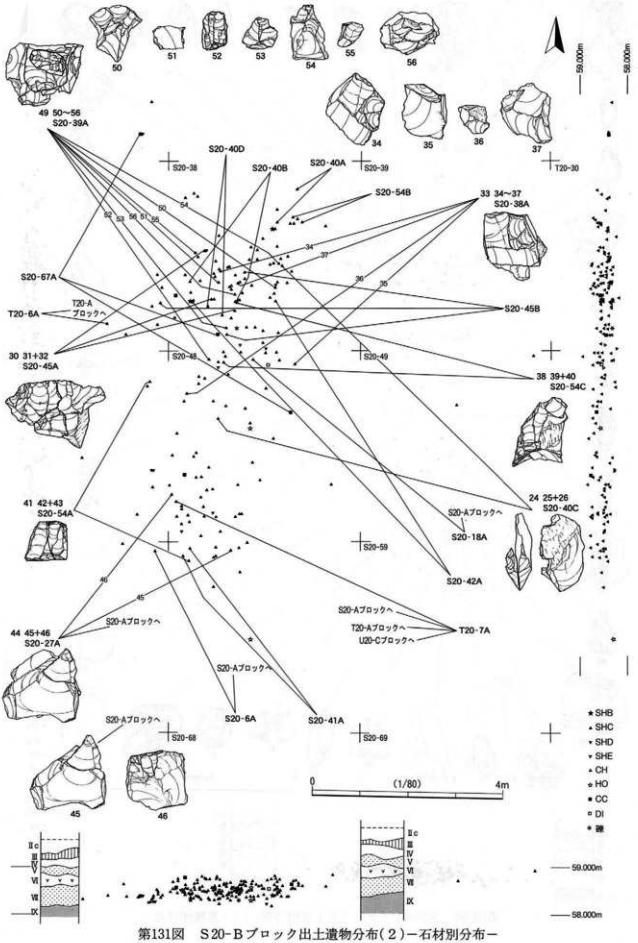
1）ブロックの概要

S20-Bブロックは，調査範囲東側のS20-27・37・38・47～49・57・58グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側中央台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は15mである。

ブロックの規模と形状は，長軸12m，短軸10mの範囲に183点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅵ層からⅨ層にかけて，70cmほどの高低差をもって包含されているが，中心はⅦ層で，50cmほどである（第130・131図）。



第130図　S20-Bブロック出土遺物分布(1)－器種別分布－



第131図　S20-Bブロック出土遺物分布(2)－石材別分布－

ブロックは，ナイフ形石器５点，楔形石器12点，加工痕ある剥片７点，使用痕ある剥片２点，剥片118点（110個体），砕片30点，石核８点の合計182点（174個体）と礫１点で構成される。石器石材は，頁岩Ｂ２点，頁岩Ｃ161点（153個体），頁岩Ｄ８点，頁岩Ｅ２点，チャート１点，ホルンフェルス２点，瑪瑙・玉髄５点，閃緑岩１点である。礫石材は，砂岩１点（１母岩；4.2ｇ）で，識別率は100％である。

第66表　S20-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	OO	SM	SP	MB	MC	UK	合 計
S20-6(SHC)																			1						1
S20-18(SHC)																	1								1
S20-23(D6)																			1						1
S20-24(SHB)	1									1															2
S20-25(SHC)									1																1
S20-26(SHC)									1								1								2
S20-27(SHC)									2								15		1						18
S20-28(SHC)																	2								2
S20-29(SHC)	1																								1
S20-30(SHC)											1														1
S20-31(SHC)											1						1								2
S20-32(SHC)																	2								2
S20-33(SHC)										2							5								7
S20-34(SHC)									1								1								2
S20-35(SHC)									1																1
S20-36(SHC)	1																								1
S20-37(SHC)									1								1								2
S20-38(SHC)																	4								4
S20-39(SHC)									1								5		1						7
S20-40(SHC)	1								1	1							22(19)	2							27(24)
S20-41(SHC)																	2(1)								2(1)
S20-42(SHC)									1								3(2)								4(3)
S20-43(SHC)																	4								4
S20-44(SHC)	1																8	7	1						17
S20-45(SHC)																	6(4)								6(4)
S20-46(SHC)																	4								4
S20-47(SHC)																	1								1
S20-48(SHC)																	2								2
S20-49(SHC)																	1								1
S20-50(SHC)																	1								1
S20-51(SHC)																	1								1
S20-52(SHC)																	1								1
S20-53(SHC)																		1							1
S20-54(SHC)									1								8(7)	1							10(9)
S20-55(SHC)																			1						1
S20-56(SHC)																	1								1
S20-57(SHC)																	3								3
S20-58(SHD)									1																1
S20-59(SHD)																		1							1
S20-60(SHD)										1							1								2
S20-61(SHD)										2															2
S20-62(SHD)																	2								2
S20-63(SHE)																	2								2
S20-64(HO)																		2							2
S20-65(CH)																	1								1
S20-66(CC)																	1								1
S20-67(CC)																	3		1						4
S20-68(SHC)																	1								1
T20-6(SHC)																	1								1
T20-7(SHC)																			1						1
その他(SHO)																		16							16
合　計	5								12	7	2						118(110)	30	8						182(174)

第67表　S20-Bブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
頁岩B(SHB)	1									1															2
頁岩C(SHC)	4								11	3	2						108(100)	27	6						161(153)
頁岩D(SHD)									1	3							3	1							8
頁岩E(SHE)																	2								2
チャート(CH)																	1								1
ホルンフェルス(HO)																		2							2
瑪瑙・玉髄(CC)																	4		1						5
閃緑岩(DI)																			1						1
合　計	5								12	7	2						118(110)	30	8						182(174)

第68表　S20-Bブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
S20-R1	SA	1	4.18

石　材	個数	重量
砂岩(SA)	1	4.18
合　計	1	4.18

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは50母岩を識別した。内訳は，頁岩Ｂ１母岩（S20-24），頁岩Ｃ38母岩（S20-６・18・25～57・68・T20-６・７），頁岩Ｄ５母岩（S20-58～62），頁岩Ｅ１母岩（S20-63），チャート１母岩（S20-65），ホルンフェルス１母岩（S20-64），閃緑岩１母岩（S20-23），瑪瑙・玉髄２母岩（S20-66・67）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は91％（166/182点）である。

・S20-６：灰オリーブ色（5Y5/2）などの嶺岡産頁岩である。母岩の特徴はS20-Ａブロックに記したとおりである。本ブロックでは石核１点（14.4ｇ）の単独資料であるが，S20-Ａブロックの剥片１点と接合している。

・S20-18：暗灰黄色（2.5Y4/2）などの嶺岡産頁岩である。母岩の特徴はS20-Ａブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（1.6ｇ）の単独資料であるが，S20-Ａブロックの剥片５点（４個体）と接合している。その他に同一母岩がS20-Ａブロックに７点ある。

・S20-23：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰色（5Y4/1）・灰色（5Y5/1）の地に褐色（7.5YR4/3）・オリーブ黒色（5Y3/1）が部分的に混じる閃緑岩である。石核１点（473.1ｇ）の単独資料である。

・S20-24：暗褐色（10YR3/3）・黒褐色（10YR3/2）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，加工痕ある剥片１点の合計２点（2.4ｇ）である。

・S20-25：黒褐色（2.5Y3/2）の嶺岡産頁岩である。楔形石器１点（1.3ｇ）の単独資料である。

・S20-26：灰オリーブ色（5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器１点，剥片１点の合計２点（5.4ｇ）である。

・S20-27：灰オリーブ色（5Y5/2）などの嶺岡産頁岩である。母岩の特徴はS20-Ａブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，楔形石器２点，剥片15点，石核１点の合計18点（92.8ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（34.8ｇ）がS20-Ａブロックの剥片１点と接合している。その内，剥片１点がＳ20-Ａブロックの剥片１点と接合して１個体となる。

・S20-28：オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（2.5ｇ）である。

・S20-29：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。ナイフ形石器１点（3.2ｇ）の単独資料である。

・S20-30：自然面は比較的平滑で褐色（10YR4/4），内部は灰オリーブ色（5Y4/2）・暗灰黄色（2.5Y5/2）・黄

灰色（2.5Y4/1），節理は褐色（10YR4/6）の嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片１点（10.2ｇ）の単独資料である。

・S20-31：灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y4/1）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（9.4ｇ）である。

・S20-32：灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y4/1）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（17.7ｇ）である。

・S20-33：内部は灰オリーブ色（5Y6/2）・灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y6/1），節理は浅黄色（2.5Y7/4）・暗灰黄色（2.5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片２点，剥片５点の合計７点（17.6ｇ）である。

・S20-34：灰オリーブ色（5Y4/2）・灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器１点，剥片１点の合計２点（8.3ｇ）である。

・S20-35：自然面は平滑で褐色（10YR4/4），内部は灰オリーブ色（5Y4/2）・暗灰黄色（2.5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。楔形石器１点（4.8ｇ）の単独資料である。

・S20-36：灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。ナイフ形石器１点（1.7ｇ）の単独資料である。

・S20-37：自然面は比較的平滑で暗灰黄色（2.5Y4/2），内部は灰オリーブ色（5Y5/2），節理はにぶい黄色（2.5Y6/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器１点，剥片１点の合計２点（29.0ｇ）である。

・S20-38：内部は灰色（10Y5/1），節理はにぶい黄色（2.5Y6/4），節理が多く質の悪い嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片４点（39.5ｇ）である。接合資料は，剥片４点（39.5ｇ）である。

・S20-39：内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（10Y5/1）の地にオリーブ黒色（10Y3/1）が部分的に入り，節理は灰オリーブ色（5Y5/2）・にぶい黄色（2.5Y6/3）の嶺岡産頁岩である。節理の発達が顕著である。石器群の内訳は，楔形石器１点，剥片５点，石核１点の合計７点（64.7ｇ）である。接合資料は，楔形石器１点，剥片５点，石核１点の合計７点（64.7ｇ）である。

・S20-40：内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰オリーブ色（5Y5/3）・灰オリーブ色（5Y4/2），節理は灰黄色（2.5Y6/2）・黒褐色（2.5Y3/2）・灰オリーブ色（5Y5/3）・浅黄色（5Y7/3）・褐色（10YR4/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，楔形石器１点，加工痕ある剥片１点，剥片22点（19個体），砕片２点の合計27点（24個体；106.8ｇ）である。接合資料は，４グループあり，Ａは剥片２点（１個体；11.1ｇ），Ｂは剥片２点（１個体；4.7ｇ），Ｃは剥片２点（15.6ｇ），Ｄは剥片２点（１個体；6.5ｇ）である。

・S20-41：内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の地に暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）が部分的に入り，新鮮な面は暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（１個体；9.3ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；9.3ｇ）である。

・S20-42：灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y6/1）・灰色（5Y5/1）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器１点，剥片３点（２個体）の合計４点（３個体；31.1ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；3.8ｇ）である。

・S20-43：暗灰黄色（2.5Y4/2）の資料，黒褐色（2.5Y3/2）の資料など母岩内に変異がある嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片４点（12.0ｇ）である。

・S20-44：内部はオリーブ灰色（2.5GY6/1）・灰色（10Y4/1）の資料，灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y4/1）の資料など変異があり，節理は灰色（5Y4/1）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，

剥片8点，砕片7点，石核1点の合計17点（51.4g）である。

・S20-45：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部はオリーブ灰色（2.5GY5/1）・灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片6点（4個体；35.1g）である。接合資料は，2グループあり，Aは剥片3点（2個体；26.3g），Bは剥片3点（2個体；8.8g）である。

・S20-46：自然面は比較的平滑で灰オリーブ色(5Y4/2)・にぶい黄色(2.5Y6/4),内部は灰オリーブ色(7.5Y4/2)・灰オリーブ色（7.5Y5/2）・灰色（7.5Y4/1），節理は灰オリーブ色（5Y5/3）・にぶい黄色（2.5Y6/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片4点（28.2g）である。

・S20-47：内部は灰オリーブ色（5Y5/2），節理は明黄褐色（2.5Y7/6），新鮮な面は灰色（5Y5/1）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（8.2g）の単独資料である。

・S20-48：灰オリーブ色（5Y5/2）の地に褐色（10YR4/4）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（5.5g）である。

・S20-49：オリーブ黄色（5Y6/3）・灰色（5Y5/1）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（12.4g）の単独資料である。

・S20-50：灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（7.6g）の単独資料である。

・S20-51：内部は灰オリーブ色（5Y6/2）・灰色（5Y5/1），節理は明黄褐色（2.5Y7/6）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（3.3g）の単独資料である。

・S20-52：暗灰黄色（2.5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（0.9g）の単独資料である。

・S20-53：灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。砕片1点（0.5g）の単独資料である。

・S20-54：内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰オリーブ色（5Y4/2）新鮮な面は暗灰黄色（2.5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器1点，剥片8点（7個体），砕片1点の合計10点（9個体；59.2g）である。接合資料は，3グループあり，Aは剥片1点，楔形石器1点の合計2点（8.4g），Bは剥片2点（1個体；5.6g），Cは剥片1点，砕片1点の合計2点（15.9g）である。

・S20-55：内部は灰オリーブ色（5Y5/2），節理はにぶい黄色（2.5Y6/3）の嶺岡産頁岩である。石核1点（13.4g）の単独資料である。

・S20-56：内部は明黄褐色（2.5Y7/6）・オリーブ褐色（2.5Y4/3），新鮮な面は黒褐色（2.5Y3/2）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（4.8g）の単独資料である。

・S20-57：内部は灰オリーブ色（5Y6/2）・灰白色（5Y7/2）・灰色（5Y5/1）・灰オリーブ色（5Y5/2），節理は浅黄色（2.5Y7/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片3点（8.4g）である。

・S20-58：内部は黒褐色（2.5Y3/1）の地に灰黄色（2.5Y6/2）の筋が入り，節理はオリーブ褐色（2.5Y4/3）の硬質緻密な頁岩である。楔形石器1点（5.4g）の単独資料である。

・S20-59：灰オリーブ色（5Y6/2）の硬質緻密な頁岩である。砕片1点（0.5g）の単独資料である。

・S20-60：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（10Y4/1）・暗灰黄色（2.5Y4/2），新鮮な面はオリーブ黒色（10Y3/1）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，剥片1点の合計2点（5.7g）である。

・S20-61：黒褐色（2.5Y3/2）・暗灰黄色（2.5Y4/2）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片2点（1.2g）である。

・S20-62：自然面は爪形の浅い裂痕があり浅黄色（2.5Y7/3）・黄灰色（2.5Y5/1）・暗灰黄色（2.5Y4/2），内

部は黄褐色（2.5Y5/3）・黒褐色（2.5Y3/1）・灰色（N6/0）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（5.8ｇ）である。

・S20-63：暗灰黄色（2.5Y4/2）・オリーブ黒色（5Y3/1）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（1.8ｇ）である。

・S20-64：自然面は平滑で灰色（5Y5/1），内部は灰オリーブ色（5Y6/2）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，砕片２点（1.4ｇ）である。

・S20-65：黄褐色（2.5Y5/3）・暗灰黄色（2.5Y4/2）のチャートである。剥片１点（1.9ｇ）の単独資料である。

・S20-66：明黄褐色（10YR7/6）の地に暗赤褐色（5YR3/4）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。剥片１点（2.6ｇ）の単独資料である。

・S20-67：自然面は比較的平滑で灰白色（2.5Y8/2）・黄褐色（10YR5/6）・暗灰黄色（2.5Y5/2）・にぶい黄橙色（10YR7/4），内部は黄褐色（10YR5/6）・浅黄色（2.5Y7/3）・灰白色（2.5Y8/2）・暗灰黄色（2.5Y5/2）・明褐色（7.5YR5/6）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片３点，石核１点の合計４点（19.0ｇ）である。接合資料は，剥片２点，石核１点の合計３点（17.4ｇ）である。

・S20-68：自然面は凹凸があり，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y5/3）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（5.8ｇ）の単独資料である。

・T20-６：自然面は比較的平滑でオリーブ灰色（2.5GY5/1），内部はオリーブ灰色（2.5GY5/1）・灰オリーブ色（7.5Y6/2）・灰色（7.5Y4/1）の嶺岡産頁岩である。本ブロックでは剥片１点（2.3ｇ）の単独資料であるが，T20-Ａブロックの剥片１点と接合している。

・T20-７：灰オリーブ色（5Y5/2）などの嶺岡産頁岩である。母岩の特徴はS20-Ａブロックに記したとおりである。本ブロックでは石核１点（31.5ｇ）の単独資料であるが，S20-Ａブロックの剥片１点，T20-Ａブロックの剥片８点，U20-Ｃブロックの剥片１点と接合している。その他に同一母岩がT20-Ａブロックに17点ある。

なお，母岩分類できなかった資料に，頁岩Ｃの砕片16点（9.4ｇ）がある。

３）出土遺物（第132図，第133図21～23）

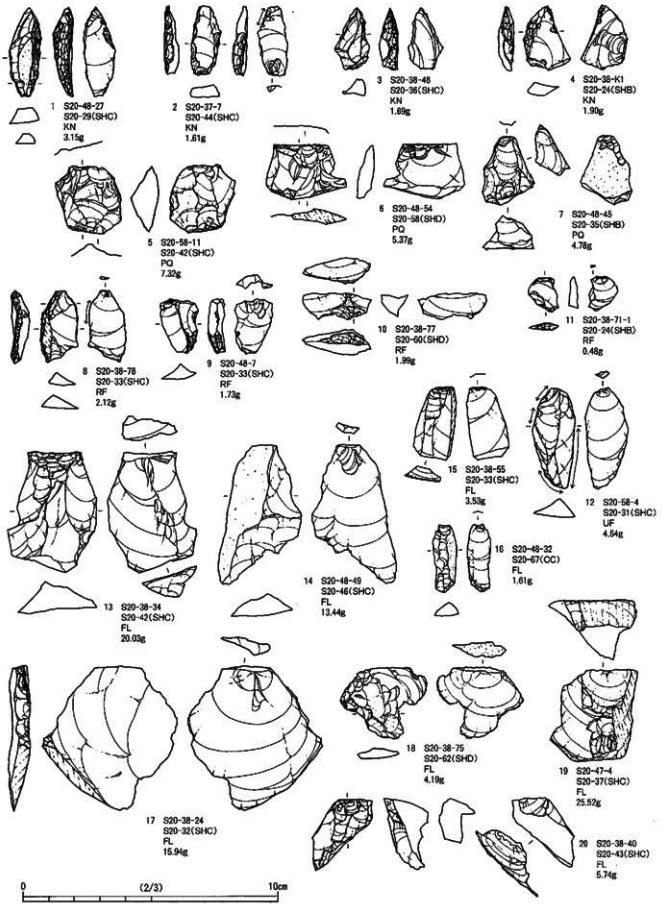
１～３は嶺岡産頁岩，４は北関東産頁岩によるナイフ形石器である。１・２は二側縁加工で，１は打面側を先端部として，右側縁と左側縁下部に調整加工を行っている。２は打面側を基部として，左側縁と右側縁下半部に調整加工を行っている。また，裏面左側縁上部に微細な剥離痕が見られる。３・４は一側縁加工で，横長剥片を横位に用い，３は右側縁，４は左側縁に調整加工を行っている。

５・７は嶺岡産頁岩，６は硬質緻密な頁岩による楔形石器で，上下両端に対向する剥離痕が見られる。

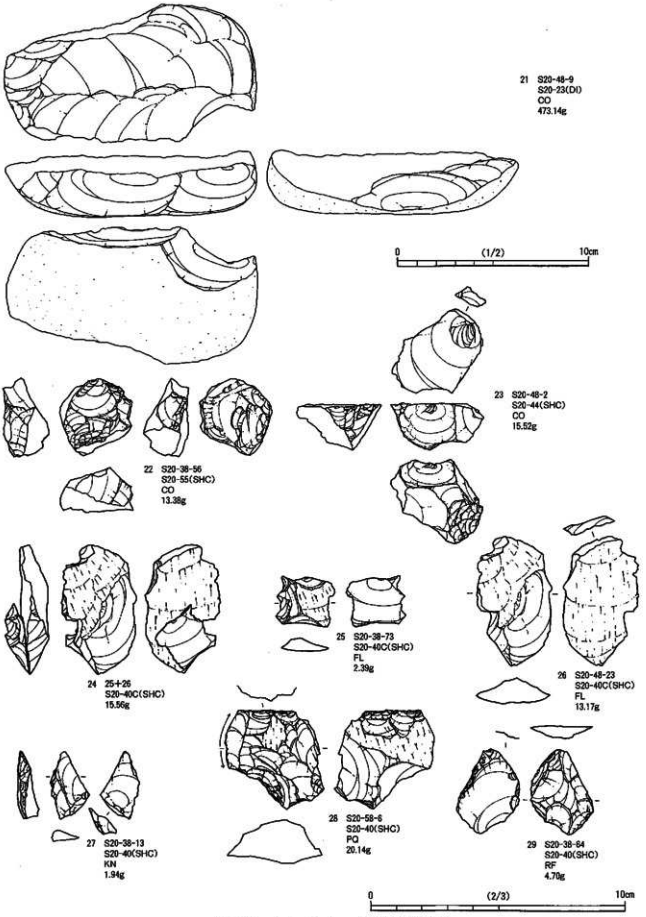
８・９は嶺岡産頁岩，10は硬質緻密な頁岩，11は北関東産頁岩による加工痕ある剥片である。８・９は縦長剥片を素材として，８は左側縁，９は右側縁下部，10・11は横長剥片や不定型な剥片を素材として，末端に調整加工を行っている。また，８は裏面左側縁上部に微細な剥離痕が見られる。

12は嶺岡産頁岩による使用痕ある剥片で，石刃状の縦長剥片のほぼ両側縁に微細な剥離痕が見られる。13～15・17・19・20は嶺岡産頁岩，16は瑪瑙・玉髄，18は硬質緻密な頁岩による剥片である。13～16は石刃状の縦長剥片，17～20は不定型な剥片である。

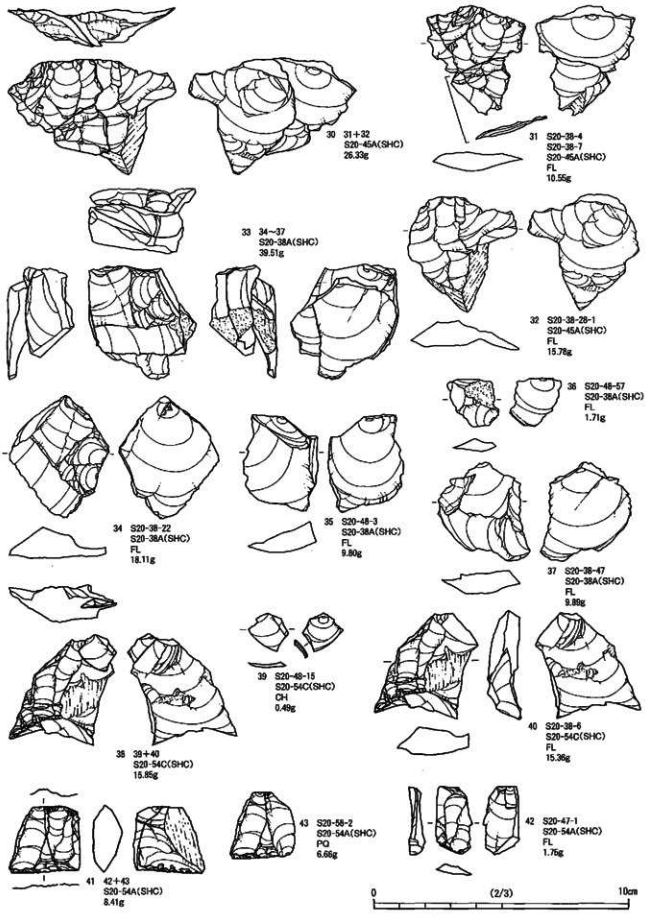
21は閃緑岩，22・23は嶺岡産頁岩による石核である。21は大型の剥片を素材として，求心的な剥離作業



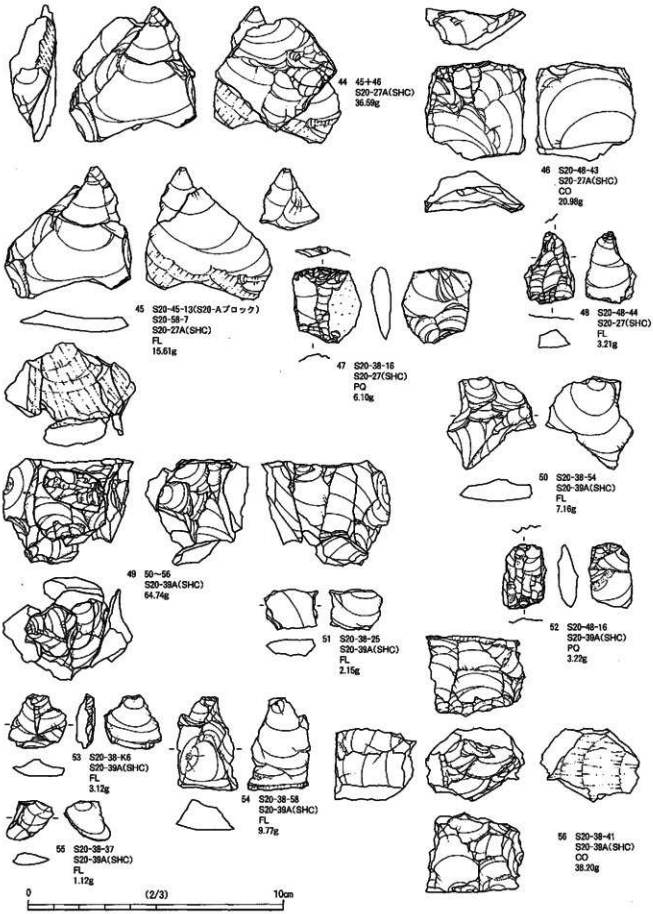
第132図　Ｓ20-Ｂブロック出土遺物（１）



第133図　S20-Bブロック出土遺物(2)



第134図　S20-Bブロック出土遺物(3)



第135図　S20-Bブロック出土遺物(4)

により横長剥片を剥離している。22は打面転移を繰り返し，23は厚みのある素材剥片の主要剥離面を打面として，打点をほぼ半周させながら，それぞれ小型で不定型な剥片を剥離している。

4）接合資料とその関連資料（第133図24～29，第134・135図）

・S20-40（第133図24～29）　灰オリーブ色（5Y5/2）などの嶺岡産頁岩である。24は節理の発達した剥片2点（25・26）の接合資料である。

27～29は接合しなかった同一母岩の資料である。27は一側縁加工のナイフ形石器で，不定型な剥片の打面側を基部として，左側縁に調整加工を行っている。28は楔形石器で，上下両端に対向する剥離痕が見られる。また，左側縁には微細な剥離痕が見られる。29は加工痕ある剥片としたが，上下両端と両側縁に対向する剥離痕が見られる楔形石器の可能性が高い。

・S20-45（第134図30～32）　オリーブ灰色（2.5GY5/1）などの嶺岡産頁岩である。30は剥片3点（2個体；31・32）の接合資料である。その内，31は剥片2点が接合して1個体となる。

・S20-38（第134図33～37）　灰色（10Y5/1）などの嶺岡産頁岩である。33は剥片4点（34～37）の接合資料である。同一打面から34・35を剥離し，90度打面転移して，36・37を剥離している。

・S20-54（第134図38～43）　灰オリーブ色（5Y5/2）などの嶺岡産頁岩である。38は剥片1点（40），砕片1点（39）の接合資料である。40は石核の底面を残す剥片である。41は剥片1点（42），楔形石器1点（43）の接合資料である。41は上下両端に対向する剥離痕が見られる。42は41の剥片（スポール）である。

・S20-27（第135図44～48）　灰オリーブ色（5Y5/2）などの嶺岡産頁岩である。44は剥片2点（1個体；45），石核1点（46）の接合資料である。その内，45は本ブロックの剥片1点とS20-Aブロックの剥片1点が接合して1個体となる。46は45の剥離後，小型で縦長の剥片を剥離している。また，45の末端の右側に細かい剥離痕が図示されているが，ガジリの可能性がある。

47・48は接合しなかった同一母岩の資料である。47は楔形石器である。上下両端に対向する剥離痕が見られる。48は末端に潰痕状の剥離痕が見られることから楔形石器の剥片（スポール）と考えられる。

・S20-39（第135図49～56）　灰オリーブ色（5Y5/2）などの嶺岡産頁岩である。49は楔形石器1点（52），剥片5点（50・51・53～55），石核1点（56）の接合資料である。打面転移を繰り返しながら，不定型な剥片を剥離した母岩である。52は上下両端に対向する剥離痕が見られる。

21　T20-Aブロック（第136～140・399図，第69～71表，カラー図版8・21，図版7）

1）ブロックの概要

T20-Aブロックは，調査範囲東側のT20-01・02・11・12グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側中央台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は15mである。

ブロックの規模と形状は，直径5mの範囲に51点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅵ層からⅨ層にかけて，70cmほどの高低差をもって包含されている（第136・137図）。

ブロックは，使用痕ある剥片1点，剥片43点（40個体），砕片2点，石核3点の合計49点（46個体）と礫2点で構成される。石器石材は，頁岩A1点，頁岩C47点（44個体），ホルンフェルス1点である。礫石材は，チャート1点（1母岩；11.4g），ホルンフェルス1点（1母岩；1.6g）で，識別率は100％である。

2）母岩の特徴と内容

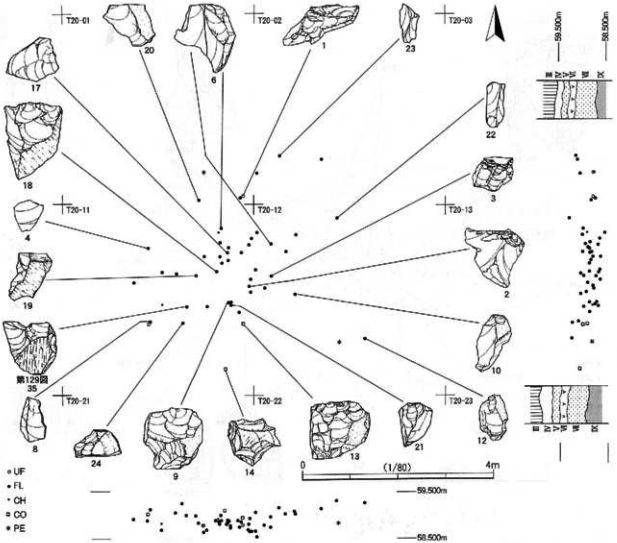
本ブロックでは12母岩を識別した。内訳は，頁岩Ａ１母岩（T20-１），頁岩Ｃ10母岩（S20-２・T20-２～10），ホルンフェルス１母岩（T20-11）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（49/49点）である。

・**S20-２**：灰オリーブ色（5Y5/2）などの嶺岡産頁岩である。母岩の特徴はS20-Ａブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（8.9ｇ）の単独資料であるが，S20-Ａブロックの剥片３点と接合している。その他に同一母岩がS20-Ａブロックに20点ある。

・**T20-１**：黒褐色（10YR3/2）の東北産頁岩である。剥片１点（1.4ｇ）の単独資料である。

・**T20-２**：灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片１点（12.6ｇ）の単独資料である。

・**T20-３**：自然面は比較的平滑でにぶい赤褐色（5YR4/3）・にぶい黄褐色（10YR5/4），内部は灰オリーブ色（5Y6/2）・灰色（5Y4/1）・灰色（5Y5/1）・にぶい褐色（7.5YR5/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（57.0ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（57.0ｇ）



第136図　T20-Ａブロック出土遺物分布（１）－器種別分布－

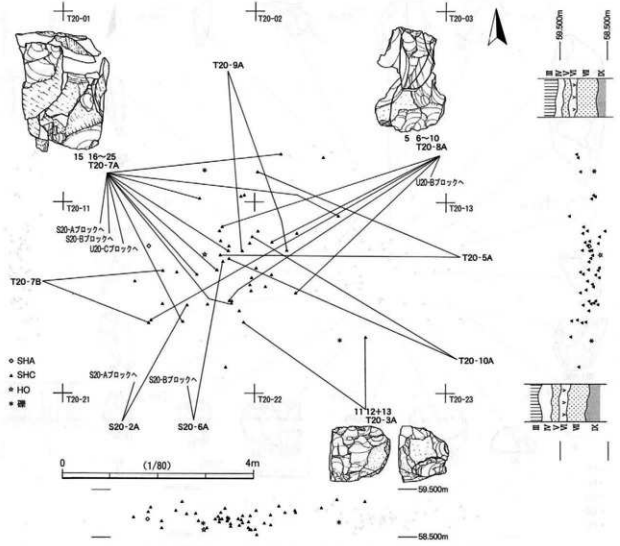
である。

・**T20-4**：灰オリーブ色（5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（2.8ｇ）の単独資料である。

・**T20-5**：自然面は比較的平滑，自然面及び内部はオリーブ灰色（10Y5/2）・オリーブ灰色（2.5GY5/1）・灰オリーブ色（7.5Y6/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（１個体；21.2ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；21.2ｇ）である。

・**T20-6**：オリーブ灰色（2.5GY5/1）などの嶺岡産頁岩である。母岩の特徴はS20-Ｂブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（21.9ｇ）の単独資料であるが，S20-Ｂブロックの剥片１点と接合している。

・**T20-7**：灰オリーブ色（5Y5/2）などの嶺岡産頁岩である。母岩の特徴はS20-Ａブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，剥片21点，砕片２点，石核２点の合計25点（105.5ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片８点（49.6ｇ）が，S20-Ａブロックの剥片１点，S20-Ｂブロックの石核１点，U20-Ｃブロックの剥片１点と接合している。Ｂは剥片１点，石核１点の合計２点（15.3ｇ）である。



第137図　T20-Ａブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

・T20-8：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部はにぶい黄橙色（10YR6/4）・灰色（5Y5/1）・灰オリーブ色（5Y5/2），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片５点（４個体；33.4ｇ）である。接合資料は，剥片５点（４個体；33.4ｇ）がU20-Bブロックの剥片１点と接合している。

・T20-9：自然面は比較的平滑で褐色(10YR4/4)，内部は灰オリーブ色(5Y5/3)，節理はにぶい黄褐色(10YR5/4)の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片３点（13.6ｇ）である。接合資料は，剥片２点（8.6ｇ）である。

・T20-10：内部はにぶい黄色(2.5Y6/4)・黒褐色(2.5Y3/2)・明黄褐色(10YR6/6)，新鮮な面は黒褐色(10YR3/2)の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片６点（５個体；28.5ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；5.6ｇ）である。

・T20-11：内部はオリーブ黒色（10Y3/2），節理はにぶい赤褐色（2.5YR4/3）のホルンフェルスである。剥片１点（5.7ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第138図）

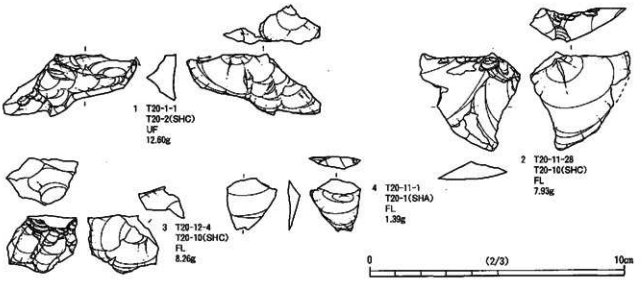
１は嶺岡産頁岩による使用痕ある剥片で，横長剥片の正面右側縁と裏面の打面側のそれぞれごく一部に微細な剥離痕が見られる。

２・３は嶺岡産頁岩，４は東北産頁岩による不定型な剥片である。

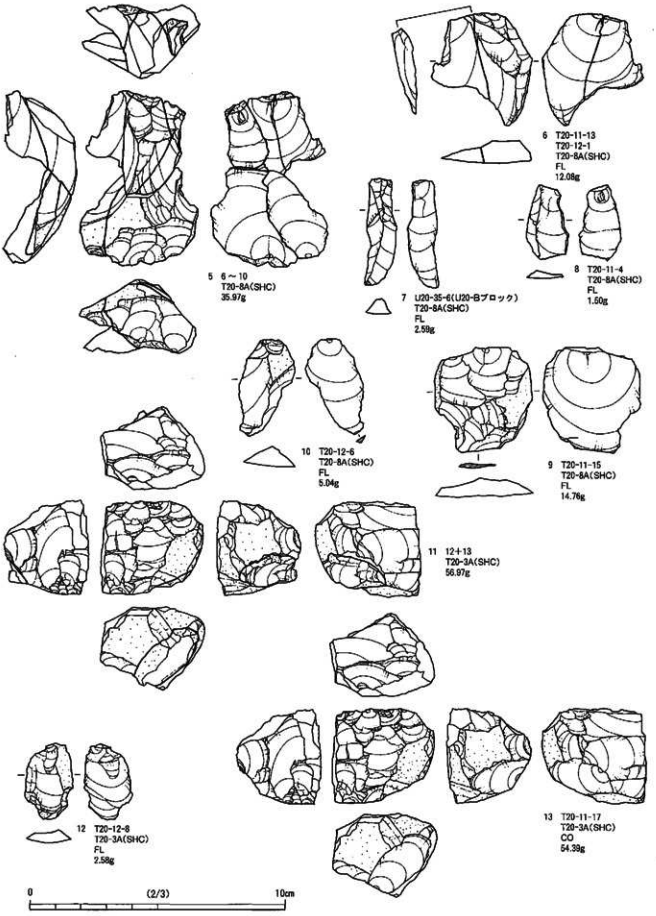
４）接合資料とその関連資料（第139～140図）

・T20-8（第139図５～10）　にぶい黄橙色（10YR6/4）などの嶺岡産頁岩である。５は剥片５点（４個体；６・８～10），U20-Bブロックの剥片１点（７）の接合資料である。その内，６は剥片２点が接合して１個体となる。６～８を剥離し，180度打面転移して，９・10を剥離している。

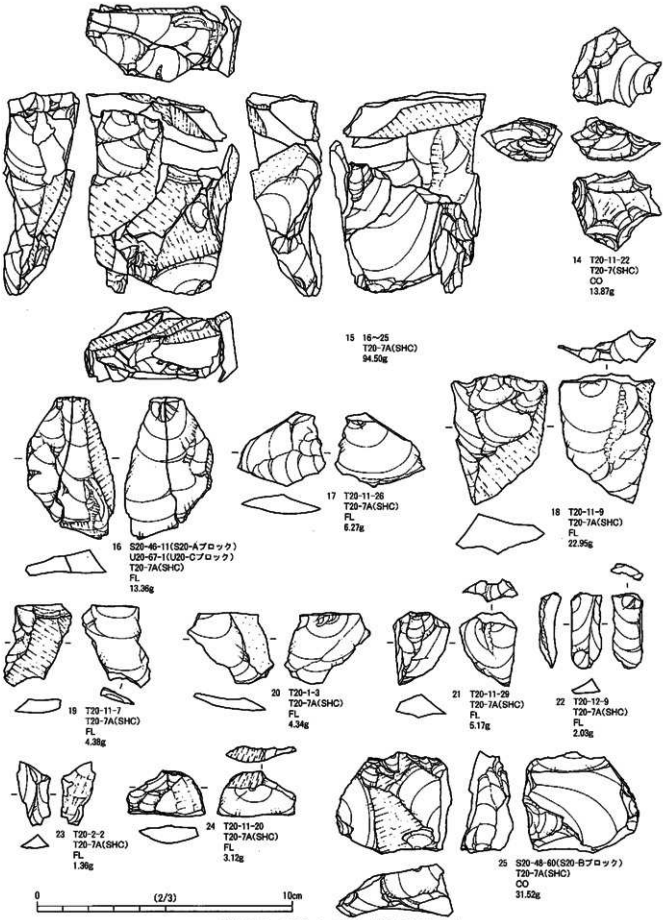
・T20-3（第139図11～13）　灰オリーブ色（5Y6/2）などの嶺岡産頁岩である。11は剥片１点（12），石核１点（13）の接合資料である。打面転移を繰り返しながら，小型で縦長の剥片を剥離した母岩である。



第138図　T20-Aブロック出土遺物（1）



第139図　T20-Aブロック出土遺物(2)



第140図　T20-Aブロック出土遺物(3)

・T20-7（第140図）　灰オリーブ色（5Y5/2）などの横岡産頁岩である。15は剥片10点（９個体；16～24），S20-Bブロックの石核１点(25)の接合資料である。その内，16はS20-Aブロックの剥片１点とU20-Cブロックの剥片１点が接合して１個体となる。15は16・17を剥離した打面から18を剥離した後，同じ方向から19，打面を90度ずらして20・21・22，さらに90度ずらして23を剥離した後，90度打面転移して24を剥離している。

14は接合しなかった同一母岩の石核で，求心的な剥離作業により小型で不定型な剥片を剥離している。

第69表　T20-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
S20-2(SHC)																	1								1
T20-1(SHA)																	1								1
T20-2(SHC)											1														1
T20-3(SHC)																	1		1						2
T20-4(SHC)																	1								1
T20-5(SHC)																	2(1)								2(1)
T20-6(SHC)																	1								1
T20-7(SHC)																	21	2	2						25
T20-8(SHC)																	5(4)								5(4)
T20-9(SHC)																	3								3
T20-10(SHC)																	6(5)								6(5)
T20-11(HO)																	1								1
合　計											1						43(40)	2	3						49(46)

第70表　T20-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
頁岩A(SHA)																	1								1
頁岩C(SHC)											1						41(38)	2	3						47(44)
ホルンフェルス(HO)																	1								1
合　計											1						43(40)	2	3						49(46)

第71表　T20-Aブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
T20R-1	HO	1	1.61
T20R-2	CH	1	11.37

石　材	個数	重量
チャート(CH)	1	11.37
ホルンフェルス(HO)	1	1.61
合　計	2	12.98

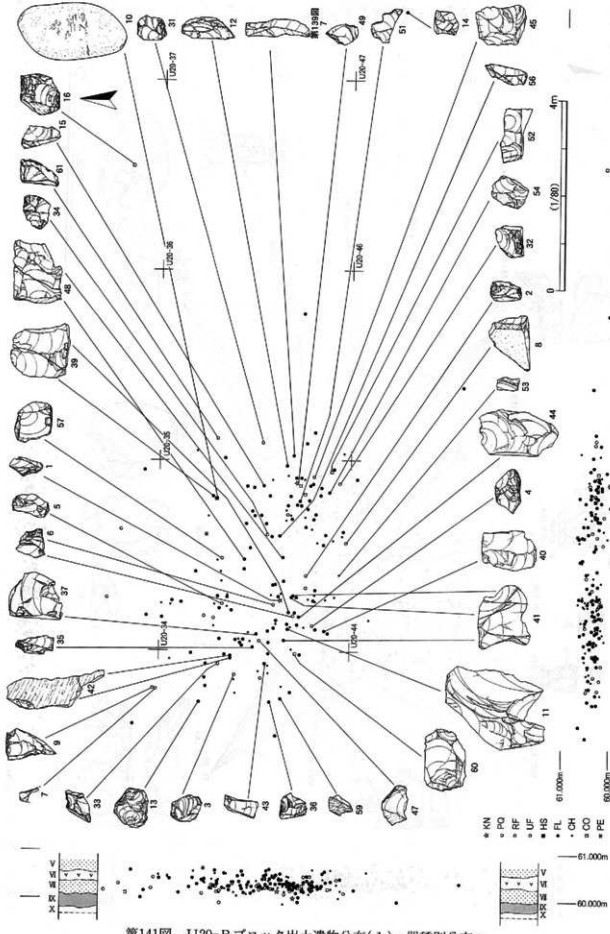
22　U20-Bブロック（第141～146・399図，第72～74表，カラー図版９・21，図版７）

１）ブロックの概要

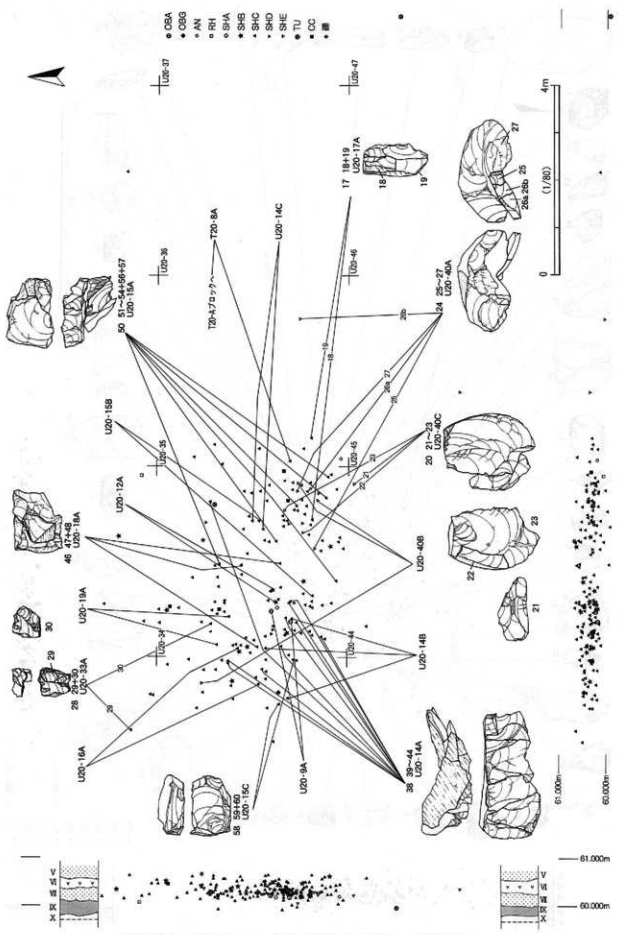
U20-Bブロックは，調査範囲東側のU20-23・24・26・33～35・44・45・47グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側中央台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離35mである。

ブロックの規模と形状は，長軸10m，短軸６mの範囲に181点の石器・礫が分布する。その他に，北に４mほど離れて１点，東に６mほど離れて１点の石器が分布する。その内，原位置不明の遺物が１点あり，その他に垂直分布のない遺物が３点ある。出土層位は，Ⅴ層からⅥ層にかけて，70cmほどの高低差をもって包含されているが，中心はⅥ層からⅦ層で，40cmほどである（第141・142図）。

ブロックは，ナイフ形石器２点，楔形石器10点，加工痕ある剥片７点（６個体），使用痕ある剥片７点，敲石１点，剥片103点（93個体），砕片47点，石核５点の合計182点（171個体）と礫１点で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ２点（１個体），黒曜石Ｇ２点，安山岩１点，流紋岩１点，頁岩Ａ１点，頁岩Ｂ10点，



第141図　U20-Bブロック出土遺物分布(1)－器種別分布－



第142図　U20-Bブロック出土遺物分布(２)－石材別分布－

頁岩Ｃ141点（132個体），頁岩Ｄ３点，頁岩Ｅ15点（14個体），凝灰岩２点，瑪瑙・玉髄４点である。礫石材は，砂岩１点（１母岩；1.8ｇ）で，識別率は100％である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは39母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ１母岩（U20-９），安山岩１母岩（U20-41），流紋岩１母岩（U20-８），頁岩Ａ１母岩（U20-66），頁岩Ｂ１母岩（U20-12），頁岩Ｃ25母岩（T20-８・U20-13～36），頁岩Ｄ３母岩（U20-37～39），頁岩Ｅ１母岩（U20-40），凝灰岩２母岩（U20-10・11），瑪瑙・玉髄３母岩（U20-42～44）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は93％（169/182点）である。

・T20-８：にぶい黄橙色（10YR6/4）などの嶺岡産頁岩である。母岩の特徴はT20-Ａブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（2.6ｇ）の単独資料であるが，T20-Ａブロックの剥片５点（４個体）と接合している。

・U20-８：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部はにぶい黄色（2.5Y6/4）・オリーブ黄色（5Y6/3），節理は暗灰黄色（2.5Y5/2）の流紋岩である。剥片１点（5.9ｇ）の単独資料である。

・U20-９：黒灰色で半透明な黒曜石である。φ１㎜ほどの灰白色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片２点（１個体；1.7ｇ）である。接合資料は，加工痕ある剥片２点（１個体；1.7ｇ）である。

・U20-10：自然面は平滑で灰オリーブ色（7.5Y4/2），内部は暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）の凝灰岩である。剥片１点（1.3ｇ）の単独資料である。

・U20-11：自然面は平滑で，自然面及び内部は明オリーブ灰色（5GY7/1）・灰黄色（2.5Y7/2）の凝灰岩である。礫石１点（143.7ｇ）の単独資料である。

・U20-12：黒褐色（10YR3/2）・暗褐色（10YR3/3）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器２点，使用痕ある剥片１点，剥片３点，砕片４点の合計10点（9.2ｇ）である。接合資料は，剥片２点（1.3ｇ）である。

・U20-13：自然面は平滑でオリーブ褐色（2.5Y4/3），内部は浅黄色（2.5Y7/3）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（4.2ｇ）の単独資料である。

・U20-14：内部は黒褐色(2.5Y3/2)・黄灰色(2.5Y4/1)・灰オリーブ色(5Y5/2)・灰色(5Y4/1)・灰色(5Y5/1)，節理は黄褐色（2.5Y5/3）・にぶい黄色（2.5Y6/3）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片15点（８個体）の合計16点（９個体；105.3ｇ）である。接合資料は，３グループあり，Ａは剥片10点（６個体；58.5ｇ），Ｂは剥片３点（１個体；18.3ｇ），Ｃは剥片２点（１個体；15.0ｇ）である。

・U20-15：内部は黄灰色（2.5Y4/1）・灰色（5Y5/1）・黒褐色（2.5Y3/2）・灰オリーブ色（5Y5/2），節理は黄灰色（2.5Y5/1）・黄褐色（2.5Y5/3）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器１点，使用痕ある剥片１点，剥片15点（14個体），砕片８点，石核２点の合計27点（26個体；125.8ｇ）である。接合資料は，３グループあり，Ａは楔形石器１点，剥片３点，砕片１点，石核１点の合計６点（34.7ｇ），Ｂは剥片２点（１個体；25.3ｇ），Ｃは剥片１点，石核１点の合計２点（21.1ｇ）である。

・U20-16：暗灰黄色（2.5Y4/2）・黒褐色（2.5Y3/2）・褐色（7.5YR4/3）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器１点，剥片１点の合計２点（10.8ｇ）である。接合資料は，楔形石器１点，剥片１点の合計２点（10.8ｇ）である。

・U20-17：内部は灰オリーブ色（5Y4/2）・灰色（5Y4/1），節理は灰オリーブ色（5Y5/3）の嶺岡産頁岩であ

る。石器群の内訳は，剥片5点（24.1g）である。接合資料は，剥片2点（10.7g）である。

・U20-18：内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y4/1）・オリーブ黄色（5Y6/3），節理は黄褐色（2.5Y5/3）・灰褐色（7.5YR4/2）・黄灰色（2.5Y5/1）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，楔形石器1点，加工痕ある剥片1点，剥片5点（4個体），砕片2点の合計10点（9個体；55.9g）である。接合資料は，加工痕ある剥片1点，剥片2点（1個体）の合計3点（2個体；25.7g）である。

・U20-19：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR4/3），内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）・黄灰色（2.5Y4/1）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（3.5g）である。接合資料は，剥片2点（3.5g）である。

・U20-20：自然面は比較的平滑で灰黄褐色（10YR5/2），内部は灰色（5Y5/1）・灰色（5Y6/1），節理は灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。石核1点（18.8g）の単独資料である。

・U20-21：黄灰色（2.5Y5/1）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片2点（4.2g）である。

・U20-22：灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y4/1）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（43.8g）の単独資料である。

・U20-23：内部は暗灰黄色（2.5Y5/2），節理は褐灰色（7.5YR4/1）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点，砕片1点の合計2点（2.2g）である。

・U20-24：暗灰黄色（2.5Y4/2）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（2.8g）の単独資料である。

・U20-25：灰オリーブ色（5Y5/2）の地に黒褐色（2.5Y3/2）の筋が入る嶺岡産頁岩である。剥片1点（3.5g）の単独資料である。

・U20-26：内部は暗オリーブ色（5Y4/4），節理は黄褐色（2.5Y5/3）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（4.5g）の単独資料である。

・U20-27：暗灰黄色（2.5Y4/2）・灰オリーブ色（5Y4/2）・灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点，砕片2点の合計4点（3.3g）である。

・U20-28：暗灰黄色（2.5Y5/2）・暗灰黄色（2.5Y4/2）の地ににぶい赤褐色（5YR4/3）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。楔形石器1点（4.0g）の単独資料である。

・U20-29：自然面は平滑でにぶい赤褐色（5YR4/4），内部は暗赤褐色（5YR3/2）・灰色（5Y5/1）・灰色（5Y4/1）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（8.8g）の単独資料である。

・U20-30：灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（0.9g）の単独資料である。

・U20-31：灰オリーブ色（5Y6/2）・灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（1.9g）の単独資料である。

・U20-32：灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（0.8g）の単独資料である。

・U20-33：自然面は平滑でオリーブ黒色（5Y3/2），内部は黒褐色（2.5Y3/3）・暗灰褐色（2.5Y4/2）・黄灰色（2.5Y4/1）・暗灰黄色（2.5Y5/2），節理は暗灰黄色（2.5Y4/2）・黄褐色（2.5Y5/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器4点，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片2点，剥片17点，砕片9点の合計33点（51.7g）である。接合資料は，楔形石器1点，剥片1点の合計2点（4.0g）である。

・U20-34：自然面は平滑で黒褐色（2.5Y3/2）・灰黄褐色（10YR4/2），内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，剥片9点，砕片3点の合計13点（15.4g）である。

・U20-35：自然面は凹凸があり褐色（10YR4/4）・黒褐色（2.5Y3/1），内部は黒褐色（2.5Y3/2）・浅黄色（2.5Y7/4）

の嶺岡産頁岩である。石核１点（24.3ｇ）の単独資料である。

・U20-36：自然面は比較的平滑で灰オリーブ色(5Y4/2)・にぶい赤褐色(5YR4/4)，内部は黒褐色(2.5Y3/2)・暗灰黄色（2.5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片１点（7.6ｇ）の単独資料である。

・U20-37：自然面は比較的平滑で暗灰黄色（2.5Y4/2），内部は黒褐色（2.5Y3/2）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（2.3ｇ）の単独資料である。

・U20-38：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は黒色（10YR2/1）・黄褐色（2.5Y5/3）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（3.7ｇ）の単独資料である。

・U20-39：黒色（N2/0）の硬質緻密な頁岩である。砕片１点（0.4ｇ）の単独資料である。

・U20-40：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰白色(2.5Y7/1)・にぶい黄色(2.5Y6/3)・灰黄色(2.5Y7/2)・灰黄褐色（10YR4/2），節理はにぶい黄色（2.5Y6/3）・黒褐色（10YR3/2），新鮮な面は黒褐色（2.5Y3/2）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片11点（10個体），砕片３点，石核１点の合計15点（14個体；164.2ｇ）である。接合資料は，３グループあり，Ａは剥片２点（１個体），砕片１点，石核１点の合計４点（３個体；84.2ｇ），Ｂは剥片３点（10.5ｇ），Ｃは剥片３点（45.5ｇ）である。

・U20-41：内部は灰色（5Y4/1），新鮮な面は灰色（N4/0）の安山岩である。砕片１点（0.5ｇ）の単独資料である。

・U20-42：灰白色（5Y7/1）・灰色（5Y6/1）の瑪瑙・玉髄である。加工痕ある剥片１点（1.5ｇ）の単独資料である。

・U20-43：自然面は爪形の裂痕が密な部分と平滑な部分があり，にぶい黄橙色（10YR6/4），内部はにぶい黄橙色（10YR6/4）の地に暗赤褐色（2.5YR3/6）が部分的に混じる半透明な瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片２点（6.2ｇ）である。

・U20-44：淡黄色（2.5Y8/4）の瑪瑙・玉髄である。剥片１点（0.8ｇ）の単独資料である。

・U20-66：黒褐色（10YR2/2）の東北産頁岩である。本ブロックではナイフ形石器１点（1.2ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Ｇの砕片２点（0.1ｇ），頁岩Ｃの砕片11点（1.6ｇ）がある。

3）出土遺物（第143図１～16）

１は東北産頁岩による部分加工のナイフ形石器で，剥片の打面側を基部として，左側縁下半部に調整加工を行っている。

２・３は北関東産頁岩，４は嶺岡産頁岩による上下両端に対向する剥離痕が見られる楔形石器である。また，４は裏面末端の一部に微細な剥離痕が見られる。

５は瑪瑙・玉髄，６は栃木県高原山産の黒曜石，７は嶺岡産頁岩による加工痕ある剥片で，不定型な剥片を素材として，５は末端，６・７は右側縁に調整加工を行っている。６は２点が接合して１個体となる。

８・９は嶺岡産頁岩による使用痕ある剥片で，８は正面左側縁と末端の一部，裏面右側縁，９は両側縁に微細な剥離痕が見られる。

10は凝灰岩による敲石で，両端と両面の一部に浅い敲打痕が見られる。

11・13・15は嶺岡産頁岩，12は瑪瑙・玉髄，14は凝灰岩による剥片で，11・12は縦長剥片，13～15は不定型な剥片である。

16は嶺岡産頁岩による石核で，打面転移を繰り返して，小型で不定型な剥片を剥離している。

４）接合資料とその関連資料（第143図17～19，第144～146図）

・U20-17（第143図17～19）　灰オリーブ色（5Y4/2）などの嶺岡産頁岩である。17は剥片２点（18・19）の接合資料である。18を剥離した後，90度打面転移して19を剥離している。

・U20-40（第144図20～27）　灰白色（2.5Y7/1）などの頁岩である。20は剥片３点（21～23）の接合資料である。90度打面をずらしたり転移しながら，21～23を剥離している。24は剥片２点（１個体；26），砕片１点（25），石核１点（27）の接合資料である。一応，石核・剥片・砕片としたが，チャンク状に剥離した母岩と思われる。26は剥片２点が接合して１個体となる。

・U20-33（第144図28～37）　黒褐色（2.5Y3/3）などの嶺岡産頁岩である。28は楔形石器１点（30），剥片１点（29）の接合資料である。30は上下両端に対向する剥離痕が見られる。29は30の剥片（スポール）である。

31～37は接合しなかった同一母岩の資料である。31・32は楔形石器で，31は上下両端，32は正面下部と右側面の折断面に対向する剥離痕が見られる。また，31は裏面右側縁に微細な剥離痕が見られる。
33は加工痕ある剥片で，不定型な剥片の裏面末端に細かい調整加工を行っている。34は使用痕ある剥片で，不定型な剥片の右側縁から末端にかけて微細な剥離痕が見られる。35～37は不定型な剥片であるが，35・36は上下両端などに潰痕状の剥離痕が見られることから楔形石器の剥片（スポール）と考えられる。

・U20-14（第145図38～45）　黒褐色（2.5Y3/2）などの嶺岡産頁岩である。38は剥片10点（６個体；39～44）の接合資料である。その内，39は剥片２点が接合して１個体，41は剥片３点が接合して１個体，42は剥片２点が接合して１個体となる。38は節理を打面として，39～42を剥離し，90度打面転移して43・44を剥離している。

45は接合しなかった同一母岩の加工痕ある剥片で，不定型な剥片の裏面左側縁から末端の一部にかけて調整加工を行っている。

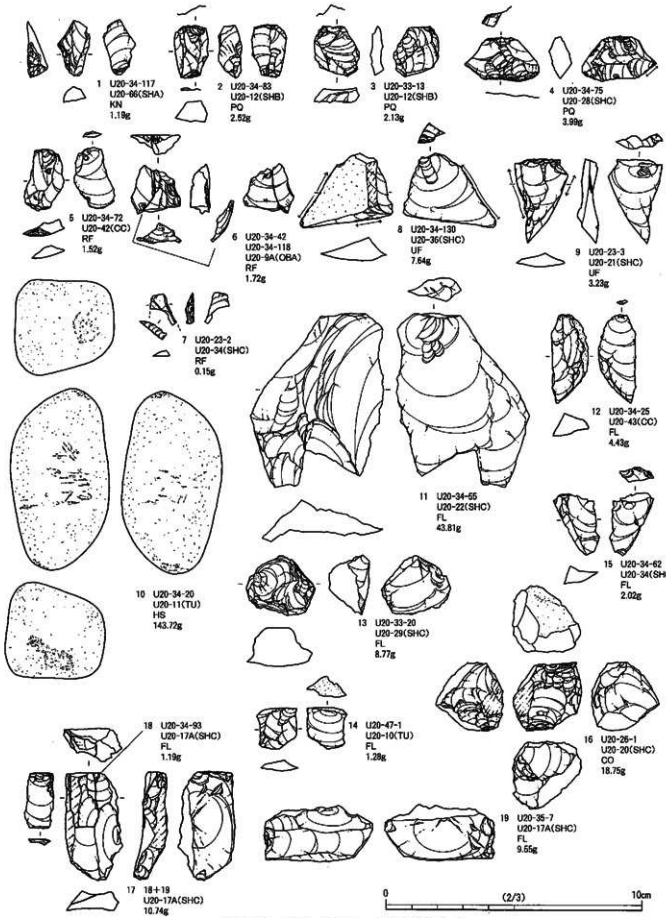
・U20-18（第145図46～49）　灰オリーブ色（5Y5/2）などの嶺岡産頁岩である。46は加工痕ある剥片１点（47），剥片２点（１個体；48）の接合資料である。47は不定型な剥片の上部に調整加工を行っている。

49は接合しなかった同一母岩の部分加工のナイフ形石器で，不定型な剥片の打面側を先端部として，左側縁上半部に調整加工を行っている。48は剥片２点が接合して１個体となる。

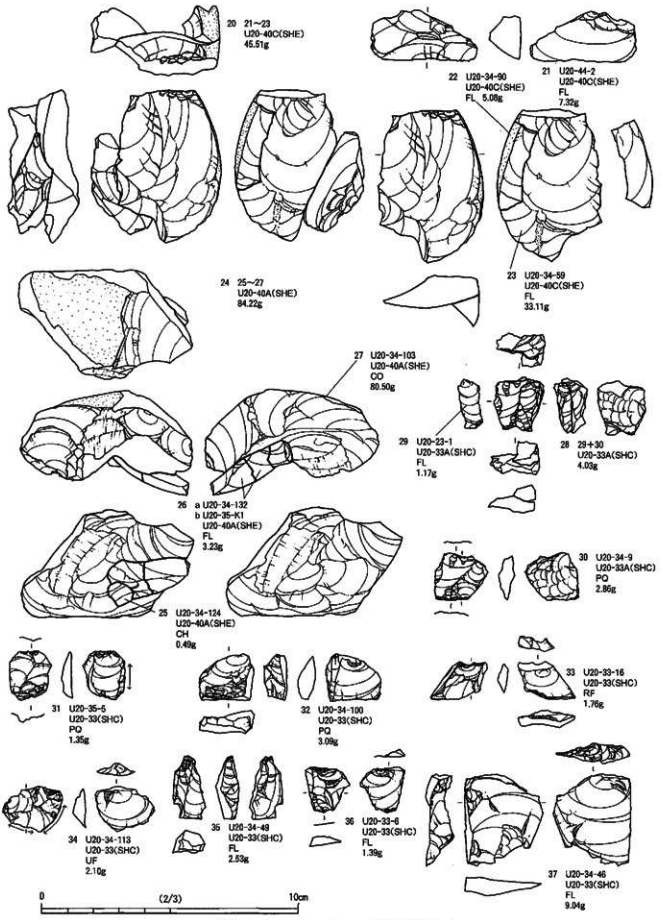
・U20-15（第146図）　黄灰色（2.5Y4/1）などの嶺岡産頁岩である。50は楔形石器１点（57），剥片３点（51・54・56），砕片１点（53），石核１点（52）の接合資料である。50は90度あるいは180度打面転移しながら不定型な剥片を剥離している。56は楔形石器（55）の剥片（スポール）と考えられる。56の剥離後も57を楔形石器として使用しており，上下両端に潰痕状の剥離痕が見られる。

58は剥片１点（59），石核１点（60）の接合資料である。60は比較的厚みのある剥片を素材として，小型で不定型な剥片を剥離している。

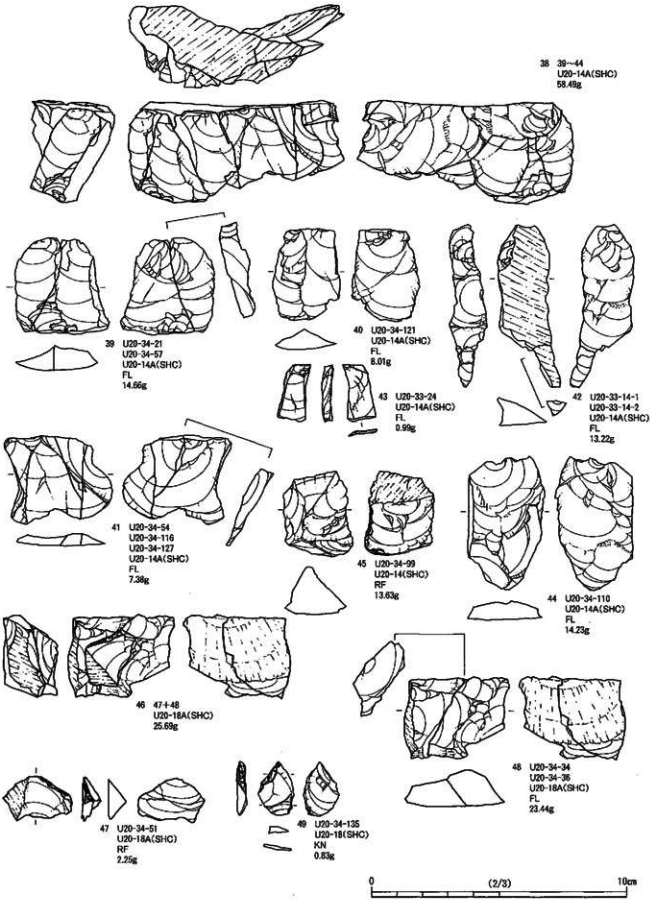
61は接合しなかった同一母岩の使用痕ある剥片で，縦長剥片の正面の右側縁，裏面の右側縁下部に微細な剥離痕が見られる。



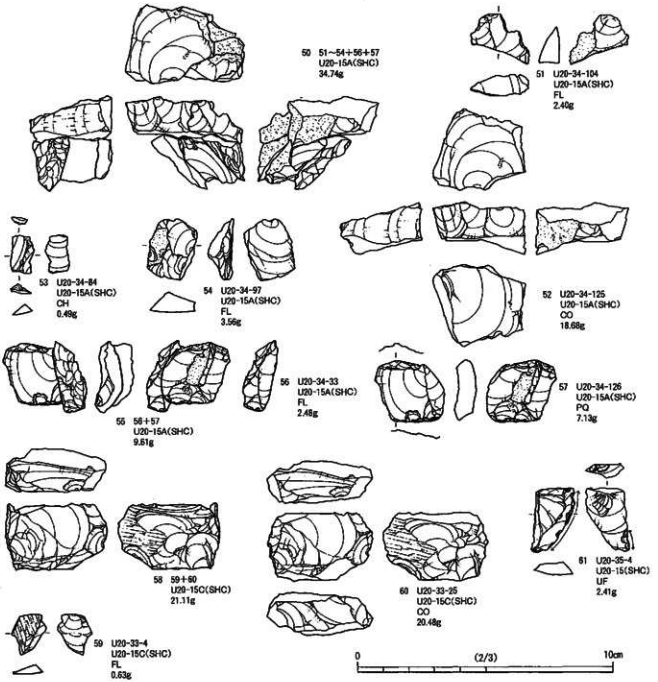
第143図　U20-Bブロック出土遺物(1)



第144図　U20-Bブロック出土遺物(2)



第145図　U20-Bブロック出土遺物(3)



第146図　U20-Bブロック出土遺物(4)

第72表　U20-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
T20-8(SHC)																	1								1
U20-8(RH)																	1								1
U20-9(OBA)										2(1)															2(1)
U20-10(TU)																	1								1
U20-11(TU)															1										1
U20-12(SHB)									2		1						3	4							10
U20-13(SHC)																	1								1
U20-14(SHC)										1							15(8)								16(9)
U20-15(SHC)									1		1						15(14)	8	2						27(26)
U20-16(SHC)									1								1								2
U20-17(SHC)																	5								5
U20-18(SHC)	1								1	1							5(4)	2							10(9)
U20-19(SHC)																	2								2
U20-20(SHC)																			1						1
U20-21(SHC)											2														2
U20-22(SHC)																	1								1
U20-23(SHC)																	1	1							2
U20-24(SHC)																	1								1
U20-25(SHC)																	1								1
U20-26(SHC)																	1								1
U20-27(SHC)																	2	2							4
U20-28(SHC)									1																1
U20-29(SHC)																	1								1
U20-30(SHC)																	1								1
U20-31(SHC)																	1								1
U20-32(SHC)																	1								1
U20-33(SHC)									4	1	2						17	9							33
U20-34(SHC)										1							9	3							13
U20-35(SHC)																			1						1
U20-36(SHC)											1														1
U20-37(SHD)																	1								1
U20-38(SHD)																	1								1
U20-39(SHC)																		1							1
U20-40(SHE)																	11(10)	3	1						15(14)
U20-41(AN)																		1							1
U20-42(CC)										1															1
U20-43(CC)																	2								2
U20-44(CC)																	1								1
U20-66(SHA)	1																								1
その他(OBG)																		2							2
その他(SHC)																		11							11
合　計	2								10	7(6)	7				1		103(93)	47	5						182(171)

第73表　U20-Bブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
黒曜石A(OBA)										2(1)															2(1)
黒曜石G(OBG)																		2							2
安山岩(AN)																		1							1
流紋岩(RH)																	1								1
頁岩A(SHA)	1																								1
頁岩B(SHB)									2		1						3	4							10
頁岩C(SHC)	1								8	4	6						82(73)	36	4						141(132)
頁岩D(SHD)																	2	1							3
頁岩E(SHE)																	11(10)	3	1						15(14)
凝灰岩(TU)															1		1								2
瑪瑙・玉髄(CC)										1							3								4
合　計	2								10	7(6)	7				1		103(93)	47	5						182(171)

第74表　U20-Bブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
U20R-5	SA	1	1.79

石　材	個数	重量
砂岩(SA)	1	1.79
合　計	1	1.79

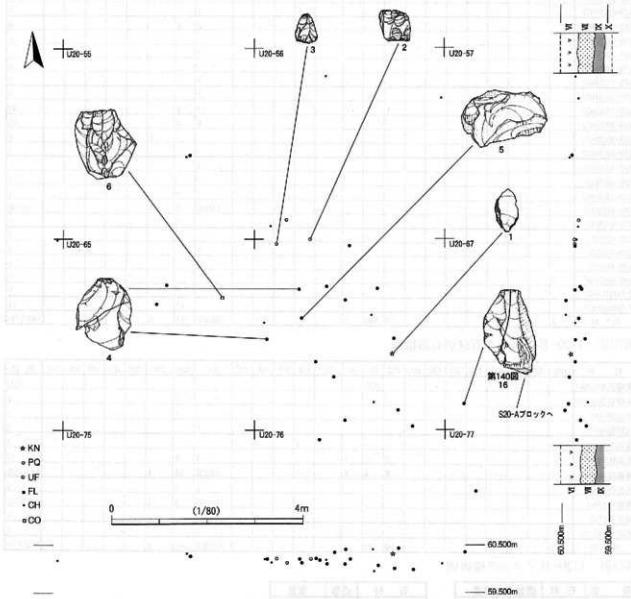
23　U20-Cブロック（第147～149・399図，第75・76表，カラー図版9，図版7・8）

1）ブロックの概要

U20-Cブロックは，調査範東側のU20-55・56・64～67・76・77グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側中央台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は40mである。

ブロックの規模と形状は，長軸10m，短軸8mの範囲に32点の石器が分布する。その内，垂直分布のない遺物が4点ある。出土層位は，Ⅵ層からⅦ層にかけて，50cmほどの高低差をもって包含されている（第147・148図）。

ブロックは，ナイフ形石器1点，楔形石器2点，使用痕ある剥片1点，剥片19点（18個体），砕片8点，石核1点の合計32点（31個体）で構成される。石器石材は，安山岩2点，軟質の安山岩1点，流紋岩3点，頁岩C9点，頁岩D8点，頁岩E3点（2個体），チャート3点，凝灰岩1点，瑪瑙・玉髄2点である。

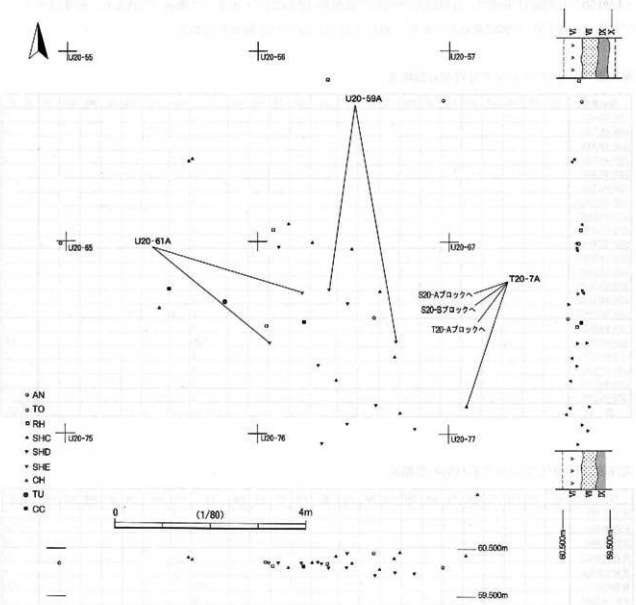


第147図　U20-Cブロック出土遺物分布（1）－器種別分布－

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは21母岩を識別した。内訳は，安山岩２母岩（U20-46・47），軟質の安山岩１母岩（U20-45），流紋岩１母岩（U20-48），頁岩Ｃ８母岩（T20-７・50～53・55～57），頁岩Ｄ３母岩（U20-58～60），頁岩Ｅ１母岩（U20-61），チャート２母岩（U20-62・63），凝灰岩１母岩（U20-49），瑪瑙・玉髄２母岩（U20-64・65）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（32/32点）である。

・**T20-７**：灰オリーブ色（5Y5/2）などの嶺岡産頁岩である。母岩の特徴はS20-Aブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（4.6ｇ）の単独資料であるが，S20-Aブロックの剥片１点，S20-Bブロックの石核１点，T20-Aブロックの剥片８点と接合している。その内，剥片１点がS20-Aブロックの剥片１点と接合して１個体となる。その他に同一母岩がT20-Aブロックに17点ある。



第148図　U20-Cブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

・**U20-45**：黄灰色（2.5Y6/1）の地に灰白色（10YR7/1）が部分的に混じる軟質の安山岩である。被熱の可能性がある。砕片1点（1.0g）の単独資料である。

・**U20-46**：内部は灰色（5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。砕片1点（0.6g）の単独資料である。

・**U20-47**：灰色（10Y4/1）の安山岩である。被熱の可能性がある。砕片1点（0.3g）の単独資料である。

・**U20-48**：内部はオリーブ灰色（5GY5/1），新鮮な面は暗オリーブ灰色（5GY3/1）の流紋岩である。石器群の内訳は，砕片3点（2.2g）である。

・**U20-49**：自然面は平滑でオリーブ灰色（10Y6/2）・灰オリーブ色（7.5Y5/2）に暗オリーブ灰色（5GY4/1）が縞状に入り，内部はオリーブ灰色（2.5GY6/1）の地に暗オリーブ灰色（5GY4/1）が部分的に混じり，節理は褐色（10YR4/4）の凝灰岩である。石核1点（79.1g）の単独資料である。

・**U20-50**：自然面は平滑で，自然面及び内部は黒褐色（2.5Y3/2）・オリーブ褐色（2.5Y4/3），節理はオリーブ褐色（2.5Y4/3）の瀬岡産頁岩である。剥片1点（5.5g）の単独資料である。

第75表　U20-Cブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
T20-7(SHC)																	1								1
U20-45(TO)																		1							1
U20-46(AN)																		1							1
U20-47(AN)																		1							1
U20-48(RH)																		3							3
U20-49(TU)																			1						1
U20-50(SHC)																	1								1
U20-51(SHG)									1																1
U20-52(SHC)											1						1								2
U20-53(SHC)																	1								1
U20-55(SHC)																	1								1
U20-56(SHC)	1																								1
U20-57(SHC)																		1							1
U20-58(SHD)																	1								1
U20-59(SHD)																	3	1							4
U20-60(SHD)									1								2								3
U20-61(SHE)																	3(2)								3(2)
U20-62(CH)																	1								1
U20-63(CH)																	2								2
U20-64(CC)																	1								1
U20-65(CC)																	1								1
合　計	1								2		1						19(18)	8	1						32(31)

第76表　U20-Cブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
安山岩(AN)																		2							2
安山岩(TO)																		1							1
流紋岩(RH)																		3							3
頁岩C(SHC)	1								1		1						5	1							9
頁岩D(SHD)									1								6	1							8
頁岩E(SHE)																	3(2)								3(2)
チャート(CH)																	3								3
凝灰岩(TU)																			1						1
珪質・玉髄(CC)																	2								2
合　計	1								2		1						19(18)	8	1						32(31)

・U20-51：内部は黒褐色（10YR3/2）・暗灰黄色（2.5Y4/2），節理は暗灰黄色（2.5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。楔形石器１点（3.0ｇ）の単独資料である。

・U20-52：灰オリーブ色（5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（2.7ｇ）である。

・U20-53：灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（1.4ｇ）の単独資料である。

・U20-55：黄灰色（2.5Y5/1）・にぶい黄色（2.5Y6/4）・黒褐色（2.5Y3/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（3.6ｇ）の単独資料である。

・U20-56：灰オリーブ色（5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。ナイフ形石器１点（2.1ｇ）の単独資料である。

・U20-57：灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。砕片１点（0.6ｇ）の単独資料である。

・U20-58：内部は灰黄色（2.5Y6/2），節理はにぶい黄色（2.5Y6/3）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（1.6ｇ）の単独資料である。

・U20-59：内部は褐色（10YR4/4），節理はにぶい黄橙色（10YR6/4）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片３点，砕片１点の合計４点（15.7ｇ）である。接合資料は，剥片２点（10.3ｇ）である。

・U20-60：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR4/3），内部は黒褐色（2.5Y3/2）・黄灰色（2.5Y4/1），節理は灰黄褐色（10YR4/2）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器１点，剥片２点の合計３点（14.5ｇ）である。

・U20-61：褐色(10YR4/4)・にぶい黄褐色(10YR5/4)・にぶい赤褐色(2.5YR4/4)・にぶい黄橙色(10YR7/3)・黄灰色（2.5Y6/1）・灰白色（7.5Y8/2）の頁岩である。被熱の可能性がある。石器群の内訳は，剥片３点（２個体；14.7ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；11.7ｇ）である。

・U20-62：青黒色（5PB2/1）・明青灰色（5PB7/1）・にぶい黄橙色（10YR6/3）のチャートである。剥片１点（1.5ｇ）の単独資料である。

・U20-63：灰黄褐色（10YR4/2）・灰色（N4/0）・褐色（10YR4/4）・黄褐色（2.5Y5/3）のチャートである。石器群の内訳は，剥片２点（10.9ｇ）である。

・U20-64：自然面は凹凸があり，自然面及び内部は淡黄色（2.5Y8/3）・灰白色（2.5Y8/1）・黄色（2.5Y8/6）・黒褐色（2.5Y3/2）の瑪瑙・玉髄である。剥片１点（23.2ｇ）の単独資料である。

・U20-65：自然面は比較的平滑，自然面及び内部は灰赤色（2.5YR4/2）・淡黄色（2.5Y8/4）の瑪瑙・玉髄である。剥片１点（5.7ｇ）の単独資料である。

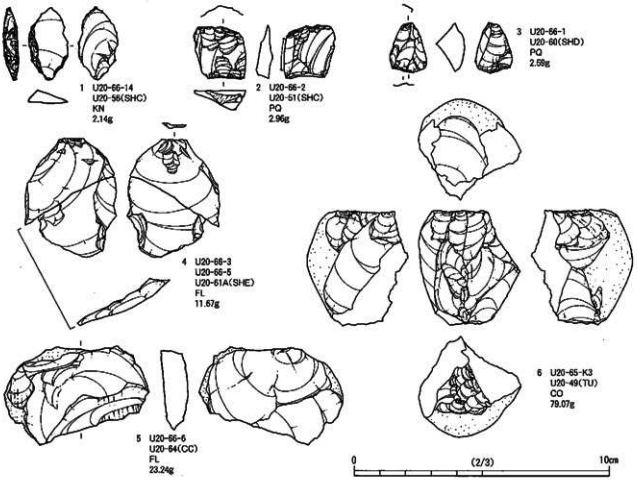
3）出土遺物（第149図）

１は嶺岡産頁岩による二側縁加工のナイフ形石器で，剥片の打面側を基部として，左側縁と右側縁下部に調整加工を行っている。右側縁下部の調整加工は左側縁に比べ細かいことから，使用等によって生じた剥離痕の可能性がある。

２は嶺岡産頁岩，３は硬質緻密な頁岩による上下両端に対向する剥離痕が見られる楔形石器である。また，２は裏面左側縁に微細な剥離痕が見られる。

４は頁岩，５は瑪瑙・玉髄による不定型あるいは横長の剥片で，４は２点が接合して１個体となる。

６は凝灰岩による石核である。子供の拳大の礫を素材として，打面を固定し，縦長剥片を剥離したり，打面と作業面を入れ替えて横長剥片を剥離している。



第149図　U20-Cブロック出土遺物

24　U21-Aブロック（第150～152・399図，第77～79表，カラー図版9）

1）ブロックの概要

U21-Aブロックは，調査範囲東側のU21-05・15グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側中央台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は25mである。

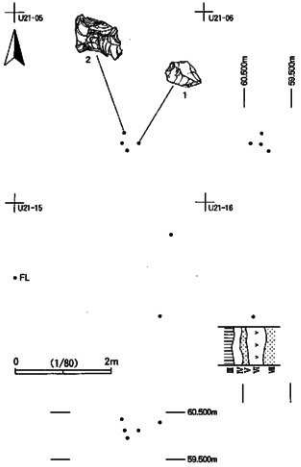
ブロックの規模と形状は，長軸4m，短軸1mの範囲に7点の石器・礫が分布する。その内，原位置不明の遺物が1点あり，その他に垂直分布のない遺物が1点ある。出土層位は，Ⅵ層からⅦ層にかけて，40cmほどの高低差をもって包含されている（第150・151図）。

ブロックは，剥片6点と礫1点で構成される。石器石材は，安山岩1点，瑪瑙・玉髄5点である。礫石材は，砂岩1点（1母岩；27.0g）で，識別率は100%である。

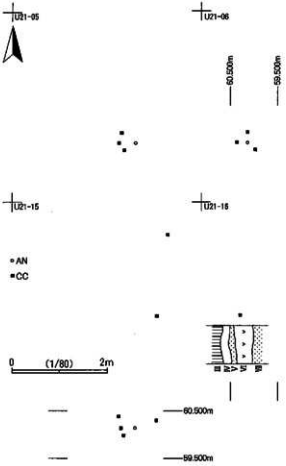
2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは2母岩を識別した。内訳は，安山岩1母岩（U21-73），瑪瑙・玉髄1母岩（U21-74）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（6/6点）である。

・U21-73：内部は灰色（5Y4/1）・灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片1点（1.9g）の単独資料である。



第150図　U21-Aブロック出土遺物分布（１）
－器種別分布－



第151図　U21-Aブロック出土遺物分布（２）
－石材別分布－

第77表　U21-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
U21-73(AN)																	1								1
U21-74(CC)																	5								5
合　計																	6								6

第78表　U21-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
安山岩(AN)																	1								1
瑪瑙・玉髄(CC)																	5								5
合　計																	6								6

第79表　U21-Aブロック礫組成

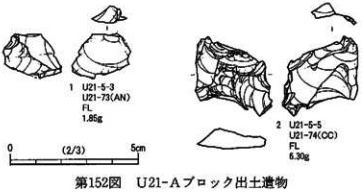
母　岩	石　材	個数	重量
U21R-177	SA	1	26.99

石　材	個数	重量
砂岩(SA)	1	26.99
合　計	1	26.99

・U21-74：自然面はスリガラス状でにぶい褐色（7.5YR5/4），内部は暗赤褐色（10R3/3）・にぶい赤褐色(2.5Y4/3)の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片５点（11.9ｇ）である。

３）出土遺物（第152図）

１は安山岩，２は瑪瑙・玉髄による不定型な剥片である。



第152図　U21-Aブロック出土遺物

25　U21-Bブロック（第153～156・399図，第80・81表，カラー図版９・22，図版８）

１）ブロックの概要

U21-Bブロックは，調査範囲東側のU21-16・17・27グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側中央台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は30ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸５ｍ，短軸２ｍの範囲に38点の石器が分布する。出土層位は，Ⅵ層からⅦ層にかけて50cmほどの高低差をもって包含されている（第153・154図）。

ブロックは，剥片27点（24個体），砕片８点，石核３点（１個体）の合計38点（33個体）で構成される。石器石材は，安山岩34点（29個体），頁岩Ｄ４点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，安山岩２母岩（U21-109・110），頁岩Ｄ１母岩（U21-111）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（38/38点）である。

・U21-109：自然面は紙ヤスリ状で暗灰黄色（2.5Y4/2）・にぶい黄色（2.5Y6/3），内部は黄褐色（2.5Y5/3）・暗灰黄色（2.5Y4/2），新鮮な面は灰色（N4/0）の安山岩である。剥片１点（9.8ｇ）の単独資料である。

・U21-110：自然面は紙ヤスリ状で黄褐色（2.5Y5/3），内部は黒褐色（2.5Y3/2）・暗灰黄色（2.5Y4/2）・暗灰色（N3/0），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片24点（21個体），砕片６点，石核３点（１個体）の合計33点（28個体；249.8ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片20点（18個体），砕片１点，石核３点（１個体）の合計24点（20個体；208.8ｇ），Ｂは剥片２点（１個体；8.7ｇ）である。

・U21-111：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色(10YR5/4)・褐色(10YR4/4)，内部は灰オリーブ色(5Y5/3)・灰色（5Y5/1），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点，砕片２点の合計４点（11.7ｇ）である。

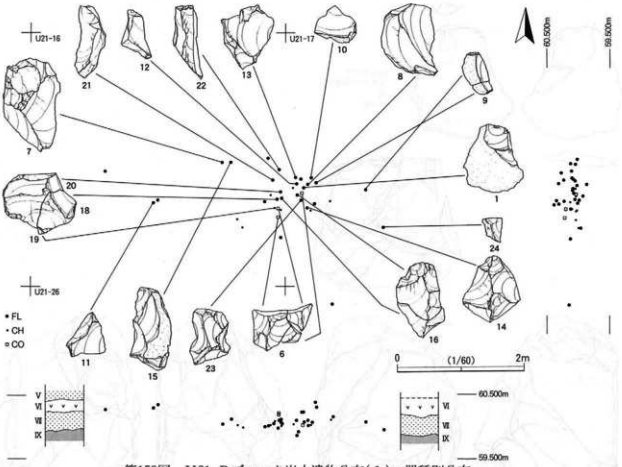
３）出土遺物（第155図１）

１は硬質緻密な頁岩による不定型な剥片である。

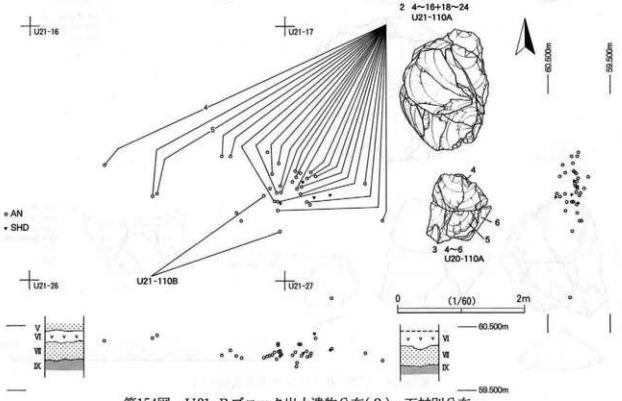
４）接合資料とその関連資料（第155図２～６，第156図）

・U21-110（第155図２～６，第156図）　黒褐色（2.5Y3/2）などの安山岩である。２は剥片20点（18個体；４・５・７～16・18・20～24），砕片１点（19），石核３点（１個体；６）の接合資料である。その内６は石核３点が接合して１個体，９は剥片２点が接合して１個体，16は剥片２点が接合して１個体となる。

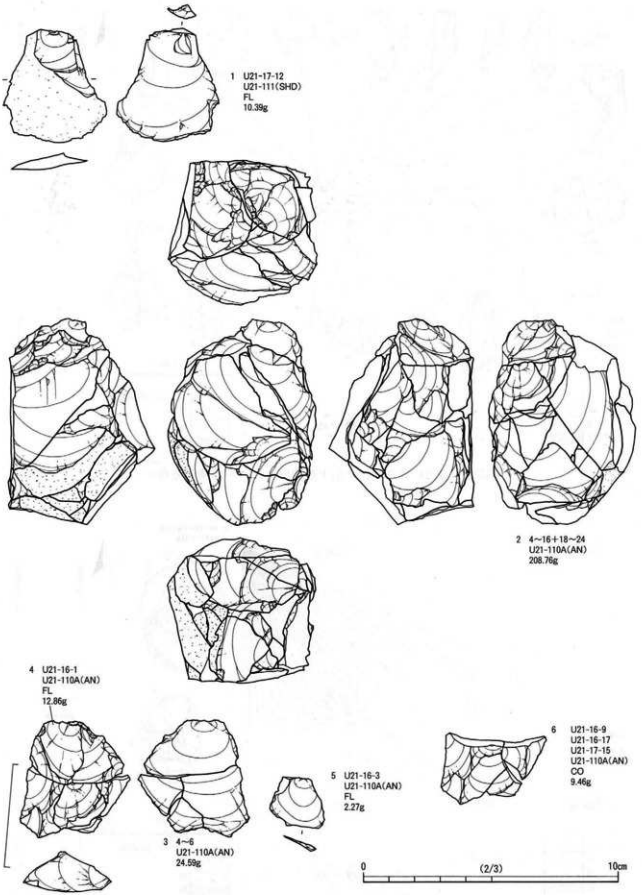
以下，正面図を起点として，加撃方向と併せ，記述する。表から４→上から５・６→表から７→左から８



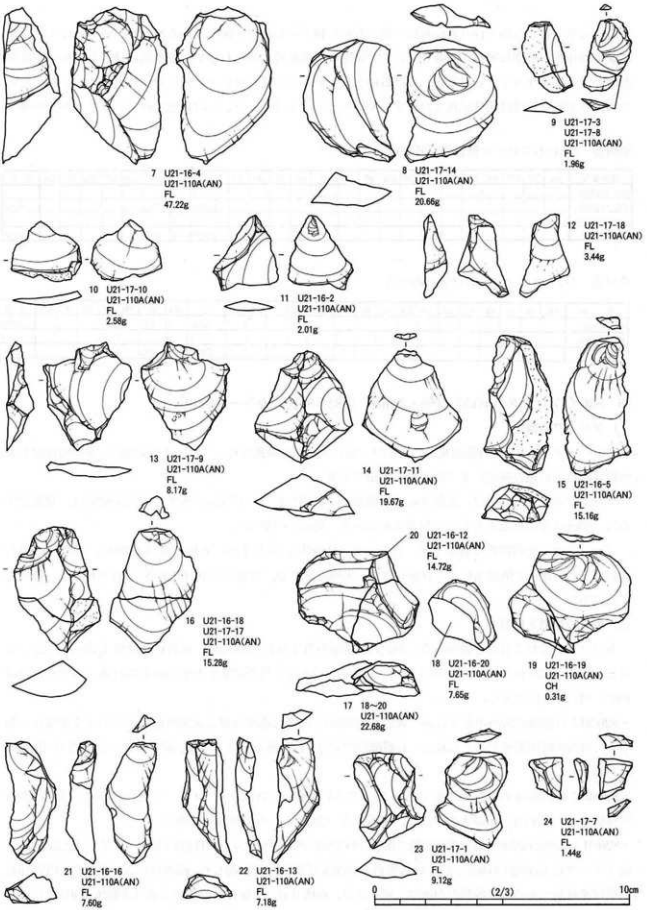
第153図　U21-Bブロック出土遺物分布(１)－器種別分布－



第154図　U21-Bブロック出土遺物分布(２)－石材別分布－



第155図　U21-Bブロック出土遺物(1)



第156図　U21-Bブロック出土遺物（2）

→表から9→右から10・11→表から12～16→右から18→左から19・20→上から21・22→表から23・24の順に縦長剥片や不定型な剥片を剥離している。90度の打面転移も見られるが，基本的には表から裏への加撃方向が，主体となっている。なお，6は石核としたが，3（4～6）の個体に対するもので，これらを除く個体の主要な石核は発見されておらず，少なくとも，本ブロックからは搬出されていることが分かる。

第80表　U21-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
U21-109(AN)																	1								1
U21-110(AN)																	24(21)	6	3(1)						33(28)
U21-111(SHD)																	2	2							4
合　計																	27(24)	8	3(1)						38(33)

第81表　U21-Bブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
安山岩(AN)																	25(22)	8	3(1)						34(29)
頁岩D(SHD)																	2	2							4
合　計																	27(24)	8	3(1)						38(33)

26　S26-Cブロック（第157～159・399図，第82・83表，カラー図版10・22）

1）ブロックの概要

S26-Cブロックは，調査範囲東側のS26-24・25グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸4m，短軸2mの範囲に17点の石器が分布する。出土層位は，Ⅶ層を中心に，30cmほどの高低差をもって包含されている（第157・158図）。

ブロックは，使用痕ある剥片1点，剥片12点（11個体），砕片1点，石核2点（1個体），原石1点の合計17点（15個体）で構成される。石器石材は，黒曜石B2点，頁岩C11点（9個体），頁岩E3点，凝灰岩1点である。

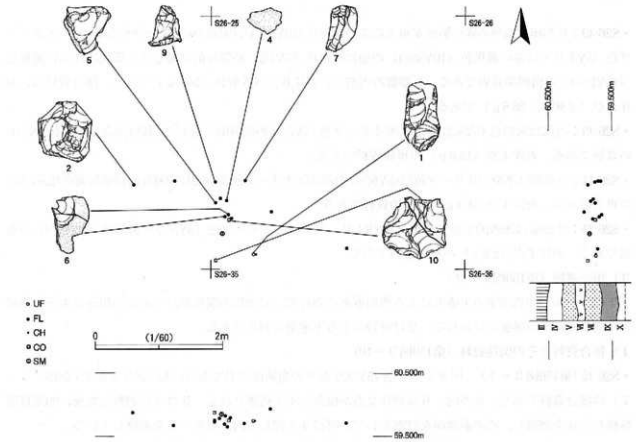
2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは7母岩を識別した。内訳は，黒曜石B1母岩（S26-39），頁岩C2母岩（S26-41・42），頁岩E3母岩（S26-43～45），凝灰岩1母岩（S26-40）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（17/17点）である。

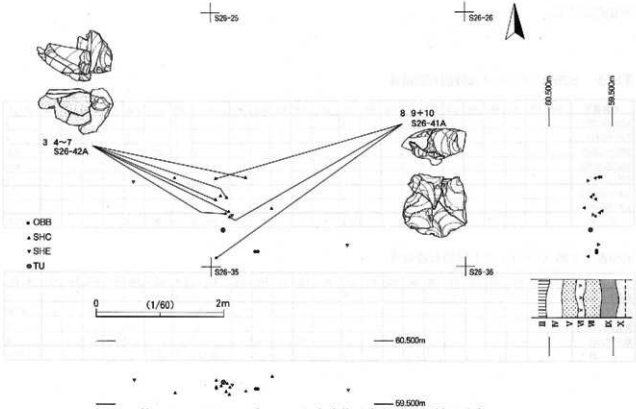
・**S26-39**：自然面は凹凸がありにぶい黄色（2.5Y6/4），内部は透明な地に淡黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，砕片1点の合計2点（9.6g）である。

・**S26-40**：自然面は平滑で黄褐色（2.5Y5/3）・にぶい黄色（2.5Y6/3）・灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は明緑灰色（7.5GY7/1）の凝灰岩である。原石1点（233.2g）の単独資料である。

・**S26-41**：自然面は爪形の深い裂痕が粗で褐色(10YR4/4)，内部は灰オリーブ色(5Y5/2)・灰オリーブ色(5Y4/2)・灰オリーブ色（5Y6/2）の地に，にぶい黄褐色（10YR5/4）が部分的に混じり，節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片3点，石核2点（1個体）の合計5点（4個体；40.0g）である。接合資料は，剥片1点，石核2点（1個体）の合計3点（2個体；38.9g）である。



第157図　S26-Cブロック出土遺物分布(1)－器種別分布－



第158図　S26-Cブロック出土遺物分布(2)－石材別分布－

・**S26-42**：自然面は爪形の浅い裂痕が粗でにぶい黄褐色(10YR5/4)，内部は灰オリーブ色(5Y5/2)・灰オリーブ色（5Y4/2）・にぶい黄褐色（10YR5/4）の地に灰白色（5Y7/2）が部分的に混じり，節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片6点（5個体；30.6g）である。接合資料は，剥片5点（4個体：26.6g）である。

・**S26-43**：内部は灰白色（5Y8/2）の地に灰オリーブ色（5Y5/3）が部分的に混じり，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。剥片1点（12.6g）の単独資料である。

・**S26-44**：自然面は平滑でオリーブ黄色(5Y6/3)，内部は灰オリーブ色(5Y6/2)，新鮮な面は暗灰黄色(2.5Y4/2)の頁岩である。剥片1点（6.1g）の単独資料である。

・**S26-45**：自然面は比較的平滑で褐色（10YR4/4），内部は灰オリーブ色（5Y5/3）・黄褐色（2.5Y5/4）の頁岩である。剥片1点（2.8g）の単独資料である。

3）出土遺物（第159図1・2）

1は信州和田峠周辺産の黒曜石による使用痕ある剥片で，石刃状の縦長剥片の正面両側縁と裏面左側縁の一部に微細な剥離痕が見られる。2は頁岩による不定型な剥片である。

4）接合資料とその関連資料（第159図3～10）

・**S26-42（第159図3～7）**　灰オリーブ色（5Y5/2）などの嶺岡産頁岩である。3は剥片5点（4個体；4～7）の接合資料である。その内，6は剥片2点が接合して1個体となる。3は4を剥離した後，90度打面転移して5を剥離し，その剥離面を打面として，再び4と同じ方向から6・7を剥離している。

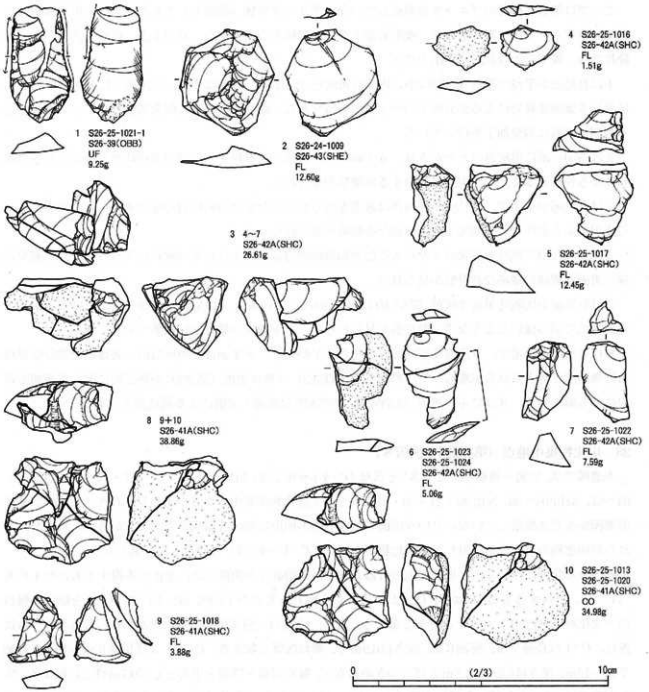
・**S26-41（第159図8～10）**　灰オリーブ色（5Y5/2）などの嶺岡産頁岩である。8は剥片1点（9），石核2点（1個体：10）の接合資料である。10は求心的な剥離作業により，横長あるいは不定型な剥片を剥離して，石核2点が接合して1個体となる。なお，10の左半分の個体は，欠損後も剥離作業が行われている可能性がある。

第82表　S26-Cブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
S26-39(OBB)											1							1							2
S26-40(TU)																				1					1
S26-41(SHC)																	3		2(1)						5(4)
S26-42(SHC)																	6(5)								6(5)
S26-43(SHE)																	1								1
S26-44(SHE)																	1								1
S26-45(SHE)																	1								1
合　計											1						12(11)	1	2(1)	1					17(15)

第83表　S26-Cブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
黒曜石B(OBB)											1							1							2
頁岩C(SHC)																	9(8)		2(1)						11(9)
頁岩E(SHE)																	3								3
凝灰岩(TU)																				1					1
合　計											1						12(11)	1	2(1)	1					17(15)



第159図　S26-Cブロック出土遺物

27　ブロック外（第160・161図，カラー図版10）

ここでは第３文化層のブロックを形成していないグリッド単独（原則として２点以下）の出土遺物について記述する。ナイフ形石器１点，楔形石器１点，使用痕ある剥片１点，石刃１点，敲石１点，剥片19点，砕片２点，礫１点の合計27点が出土した。

１は自然面が平滑で褐色（10YR4/4），内部は黄灰色（2.5Y4/1）の地にオリーブ黒色（7.5Y3/1）が部分的に混じる嶺岡産頁岩による部分加工のナイフ形石器である。縦長剥片の打面側を基部として，左側縁上部と右側縁下部に調整加工を行っている。

２は透明な地に黒灰色のモヤが入り，φ１㎜ほどの灰色の夾雑物を含む信州麦草峠産と考えられる黒曜石による楔形石器で，上下両端に対向する剥離痕が見られる。

３は自然面が平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような信州和田峠周辺産と考えられる黒曜石による使用痕ある剥片で，右側縁下部に微細な剥離痕が見られる。

４は透明な地に黒色の筋状のモヤが入る信州和田峠周辺産と考えられる黒曜石による石刃で，正面左側縁と裏面両側縁に微細な剥離痕が見られる。

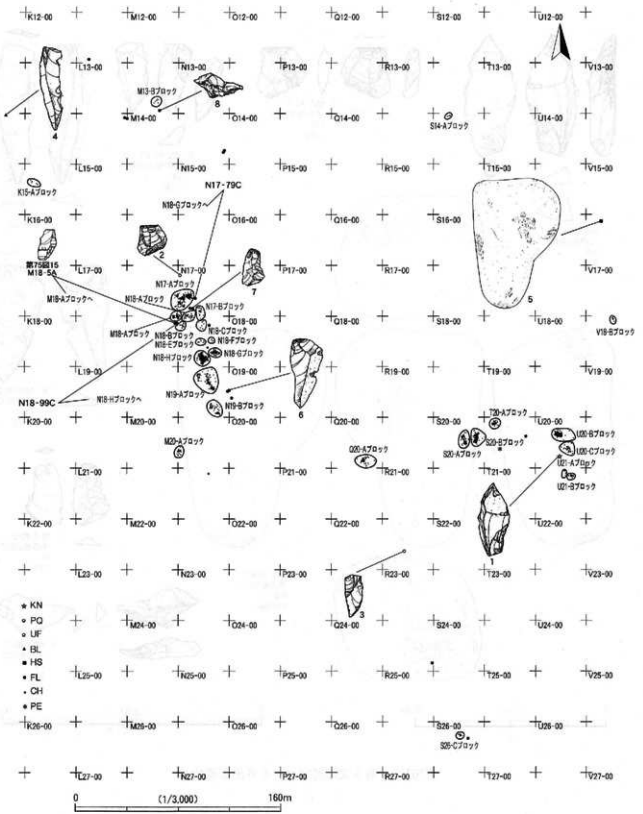
５は自然面が比較的平滑で灰色（7.5Y4/1），敲打面はにぶい黄色（2.5Y6/3）の砂岩による敲石で，ほぼ全面に爪で引っ掻いたような浅い敲打痕が見られるが，上下両端の敲打痕は顕著である。

６は自然面が平滑で，自然面及び内部は黒色のモヤが入り，φ２㎜ほどの灰白色の夾雑物を含む信州和田峠周辺産と考えられる黒曜石，７は黒褐色（10YR3/2）の地に黒色（5Y2/1）が部分的に混じる嶺岡産頁岩による縦長剥片，８はにぶい黄色（2.5Y6/3）で半透明な瑪瑙・玉髄による横長剥片である。

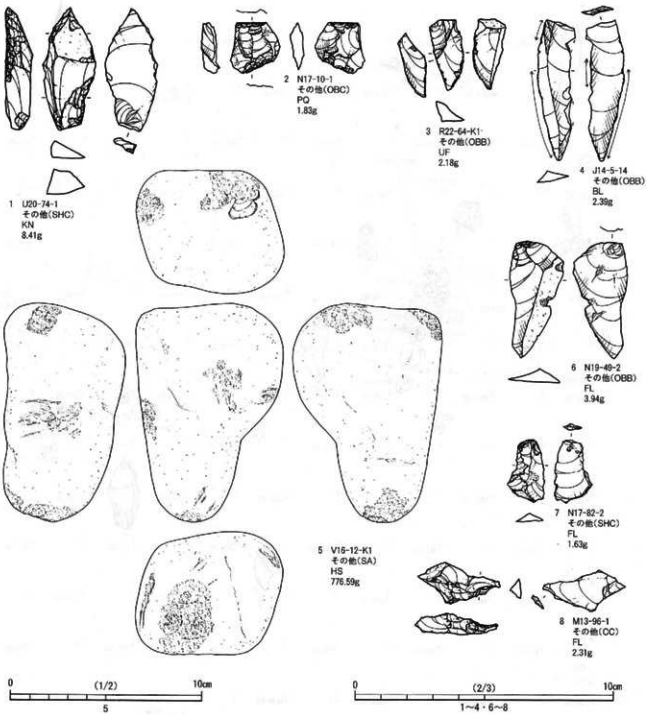
28　炭化物集中地点（第162図，図版８）

本遺跡では，Ⅵ層～Ⅶ層（C-２・３）とⅨ層（C-１）を中心に，M13-55～57・64～67・74～78・84～88・94～97，M14-04～06，N13-20・21・30・31グリッドで炭化物が集中して３か所発見された。人為的か自然的要因か未だに確定していないという成因の問題や標本抽出における偏向の問題などが考えられるが，これらの炭化物の集中分布に対して，炭化物集中地点（C-１～C-３）と呼称し，記載した。

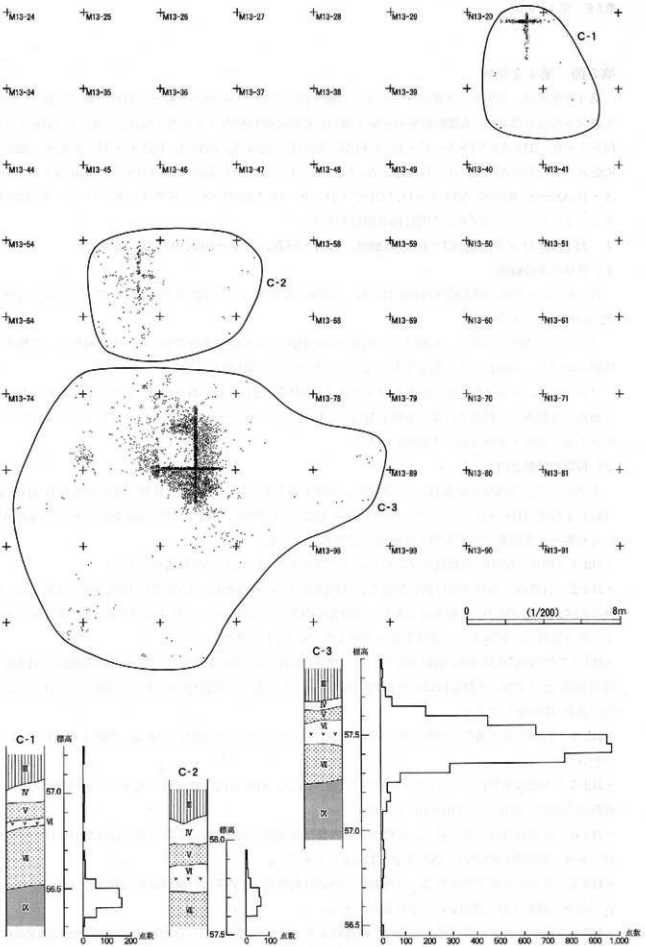
その分布状況について，①単独出土の石器も含めた石器群との関係では，全体が重複するものが１か所（C-３），近接するものが１か所（C-２），20m以上離れるものが１か所（C-１）で，C-１を除いて概ね同一文化層のM13-Bブロックの分布と重なる。また，C-１は，別文化層の可能性がある。②個々の分布状況は，C-１は長軸７m，短軸６m，深さは0.9mで，概ねⅨ層に収まる。C-２・３は長軸９m～19m，短軸７m～16m，深さは0.3m～1.5mとばらつきがあるが，概ねⅥ層～Ⅶ層を中心として0.7mほどに収まる。③分布密度は，A；全体的に散漫に広がるもの１か所（C-２），B；全体的に密度の高いまとまりを示すもの１か所（C-１），C；散漫な広がりの中に密度の高いまとまりを示すもの１か所（C-３）の３種類に分けられる。



第160図　第３文化層ブロック外出土遺物分布



第161図　第3文化層ブロック外出土遺物



第162図　炭化物集中地点

第5節　第4文化層

第4文化層は，立川ローム層のソフトローム層下部（Ⅳ層）からハードローム層最上部（Ⅴ層）にかけて包含される石器群で，武蔵野台地のⅣ層下部の石器群に概ね相当すると考えられる。J13-A，M16-A～C，P14-A・B，R14-A，V13-A～C・E，U14-B，V17-B，V18-A，U20-A，U21-C～H，N21-A，N22-A，R22-A・B，S23-A，R25-A～D，Q25-A，M25-A～Cブロックの34か所が該当する。M16-A・B，P14-A・B，Q25-A，R22-B，R25-A～D，U21-C・D・F・G，V13-B・C・Eブロック，ブロック外（R24-81グリッド）についてはブロック間に接合関係がある。

1　J13-Aブロック（第163～166・399図，第84・85表，カラー図版10・22，図版8）

1）ブロックの概要

J13-Aブロックは，調査範囲西側のJ13-96，J14-06・07グリッドに位置する。ブロックの立地は，北側台地上の縁辺部である。

ブロックの規模と形状は，長軸3m，短軸2mの範囲に19点の石器が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅦ層にかけて，50cmほどの高低差をもって包含されている（第163・164図）。

ブロックは，削器2点，加工痕ある剥片2点（1個体），敲石1点，剥片10点，砕片3点，石核1点の合計19点（18個体）で構成される。石器石材は，安山岩14点，軟質の安山岩1点，頁岩C1点，ホルンフェルス1点，瑪瑙・玉髄2点（1個体）である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは10母岩を識別した。内訳は，安山岩6母岩（J13-2～7），軟質の安山岩1母岩（J13-1），頁岩C1母岩（J13-8），ホルンフェルス1母岩（J13-9），瑪瑙・玉髄1母岩（J13-10）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は89%（17/19点）である。

・**J13-1**：灰色（N5/0）の軟質の安山岩である。砕片1点（0.2g）の単独資料である。

・**J13-2**：自然面は爪形の浅い裂痕が粗で，自然面及び内部は黄褐色（2.5Y5/3）・暗灰黄色（2.5Y4/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片3点，石核1点の合計4点（87.0g）である。接合資料は，剥片3点，石核1点の合計4点（87.0g）である。

・**J13-3**：自然面は爪形の浅い裂痕が粗でオリーブ褐色(2.5Y4/4)・暗灰黄色(2.5Y5/2)，内部は黄褐色(2.5Y5/4)・暗灰黄色（2.5Y4/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，削器1点，剥片1点の合計2点（38.9g）である。

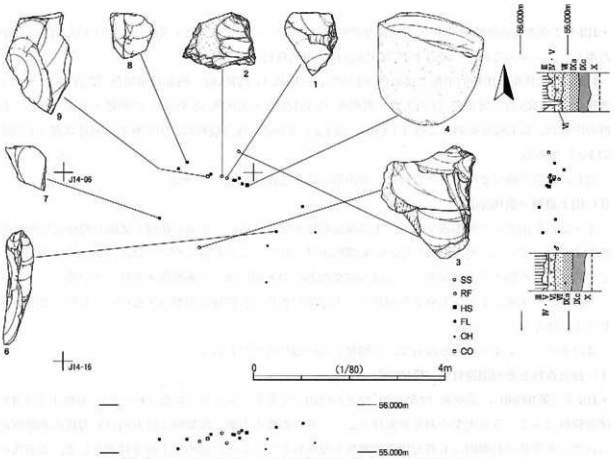
・**J13-4**：内部は暗灰黄色（2.5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。削器1点（12.0g）の単独資料である。

・**J13-5**：内部は黄褐色（2.5Y5/3）・暗灰黄色（2.5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片2点（10.9g）である。

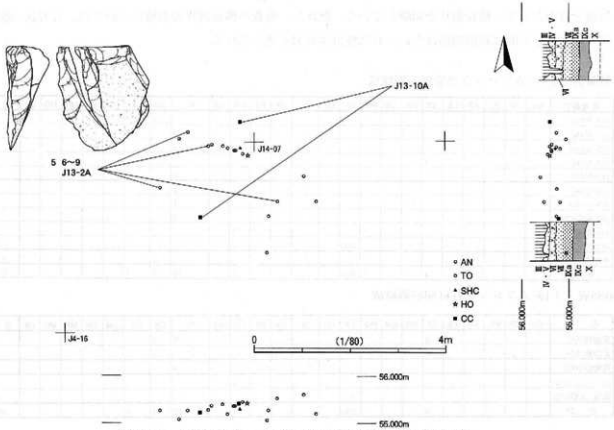
・**J13-6**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は黄褐色（2.5Y5/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片2点（11.8g）である。

・**J13-7**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は黄褐色（2.5Y5/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片1点（20.0g）の単独資料である。

・**J13-8**：自然面はで暗灰黄色(2.5Y4/2)，内部はオリーブ黒色(7.5Y3/2)，節理はにぶい黄褐色(10YR4/3)・暗灰黄色（2.5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（8.7g）の単独資料である。



第163図　J 13-Aブロック出土遺物分布（１）－器種別分布－



第164図　J 13-Aブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

・J13-9：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色(5Y5/2)・灰色(10Y5/1)・灰黄色(2.5Y7/2)のホルンフェルスである。敲石１点（601.8ｇ）の単独資料である。

・J13-10：自然面は比較的平滑で浅黄色（2.5Y7/4）・褐色（7.5YR4/6），内部は暗褐色（7.5YR3/4）・にぶい黄褐色（10YR5/4）・灰黄色（2.5Y7/2）・明褐色（7.5YR5/6）・黄灰色（2.5Y4/1）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片２点（１個体；53.1ｇ）である。接合資料は，加工痕ある剥片２点（１個体；53.1ｇ）である。

なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の砕片２点（0.9ｇ）がある。

３）出土遺物（第165図）

１・２は安山岩による削器である。１は横長剥片を横位に用い，正面右側縁と裏面右側縁に錯向する調整加工を行っており，裏面上部に細かい剥離痕が見られる。この石器については，出土層位も若干低いことから，台形石器の可能性がある。２は不定型な剥片の末端に細かい調整加工を行っている。

３は瑪瑙・玉髄による加工痕ある剥片で，不定型な剥片の右側縁に調整加工を行っており，２点が接合して１個体となる。

４はホルンフェルスによる敲石で，下端部に浅い敲打痕が見られる。

４）接合資料とその関連資料（第166図）

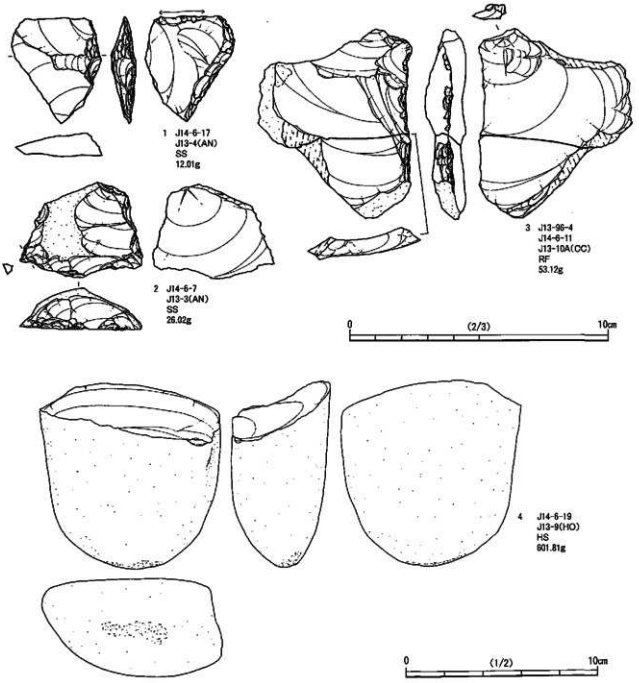
・J13-2（第166図）　黄褐色（2.5Y5/3）などの安山岩である。５は剥片３点（６～８），石核１点（９）の接合資料である。５は大型の剥片を素材として，６の器体の右側に加撃軸と同方向の石刃状の剥離痕が見られることや９の右側面にも石刃状の剥離痕が見られることから，始めに上面を打面として，石刃状の縦長剥片を剥離し，その後，打面と作業面を90度入れ替えながら，不定型な剥片を剥離したり，裏面側の自然面を打面として，横長剥片を剥離している。ただし，後者の横長剥片の剥離については，石刃状の縦長剥片の剥離との間に新旧関係はない。６は稜付き石刃と考えられる。

第84表　Ｊ13-Ａブロック母岩別石器組成

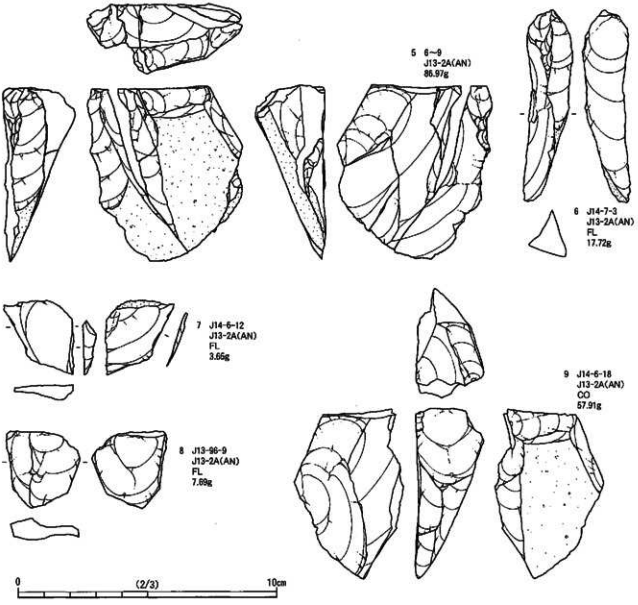
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
J13-1(TO)																		1							1
J13-2(AN)																	3		1						4
J13-3(AN)						1											1								2
J13-4(AN)						1																			1
J13-5(AN)																	2								2
J13-6(AN)																	2								2
J13-7(AN)																	1								1
J13-8(SHC)																	1								1
J13-9(HO)															1										1
J13-10(CC)										2(1)															2(1)
その他(AN)																		2							2
合　計						2				2(1)					1		10	3	1						19(18)

第85表　Ｊ13-Ａブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
安山岩(AN)						2											9	2	1						14
安山岩(TO)																		1							1
頁岩C(SHC)																	1								1
ホルンフェルス(HO)															1										1
瑪瑙・玉髄(CC)										2(1)															2(1)
合　計						2				2(1)					1		10	3	1						19(18)



第165図　J13-Aブロック出土遺物(1)



第166図　J13-Aブロック出土遺物(2)

2　M16-Aブロック（第167・168・399図，第86～88表，カラー図版10，図版9）

1）ブロックの概要

M16-Aブロックは，調査範囲西側のM16-71グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側台地上の縁辺部である。

ブロックの規模と形状は，直径1mの範囲に4点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅳ層からⅤ層にかけて，20cmほどの高低差をもって包含されている（第167図）。

ブロックは，剥片2点と礫2点で構成される。石器石材は，安山岩2点である。礫石材は，砂岩2点（1母岩；113.9g）で，識別率は100%である。なお，M16R-1についてはM16-Bブロックと接合関係がある。

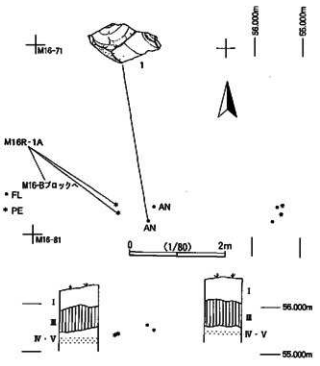
2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは１母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（M16-７）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（２/２点）である。

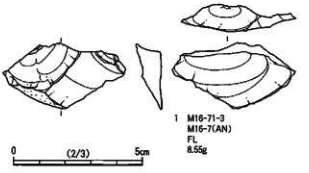
・M16-７：自然面は爪形の浅い裂痕が密で，自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）・暗灰黄色（2.5Y4/2）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点（14.6ｇ）である。

3）出土遺物（第168図）

１は安山岩による剥片である。



第167図　M16-Aブロック出土遺物分布
－器種・石材別分布－



第168図　M16-Aブロック出土遺物

第86表　M16-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PG	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
M16-7(AN)																	2								2
合　計																	2								2

第87表　M16-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PG	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
安山岩(AN)																	2								2
合　計																	2								2

第88表　M16-Aブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
M16R-1	SA	2	113.86

石　材	個数	重量
砂岩(SA)	2	113.86
合　計	2	113.86

3　M16-Bブロック（第169～172・399図，第89～91表，カラー図版10，図版9）

1）ブロックの概要

M16-Bブロックは，調査範囲西側のM16-72・73グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は10mである。

ブロックの規模と形状は，長軸6m，短軸2mの範囲に25点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層を中心に30cmほどの高低差をもって包含されている（第169～171図）。

ブロックは，剥片10点と礫15点で構成される。石器石材は，安山岩5点，軟質の安山岩1点，チャート2点，ホルンフェルス2点である。礫石材は，流紋岩2点（1母岩；321.5g），凝灰岩3点（3母岩；662.2g），砂岩10点（3母岩；878.9g）で，識別率は100％である。なお，M16R-1についてはM16-Aブロックと接合関係がある。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは6母岩を識別した。内訳は，安山岩2母岩（M16-2・3），軟質の安山岩1母岩（M16-1），チャート2母岩（M16-5・6），ホルンフェルス1母岩（M16-4）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（10/10点）である。

・**M16-1**：自然面は比較的平滑で淺黄色（5Y7/3），内部は淺黄色（2.5Y7/4），新鮮な面は灰色（N6/0）の軟質の安山岩である。剥片1点（9.5g）の単独資料である。

・**M16-2**：自然面は爪形の浅い裂痕が密で，自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）・暗灰黄色（2.5Y4/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片4点（28.4g）である。

・**M16-3**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y4/2）の安山岩である。剥片1点（1.4g）の単独資料である。

第89表　M16-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
M16-1(TO)																	1								1
M16-2(AN)																	4								4
M16-3(AN)																	1								1
M16-4(HO)																	2								2
M16-5(CH)																	1								1
M16-6(CH)																	1								1
合　計																	10								10

第90表　M16-Bブロック石材別石器組成

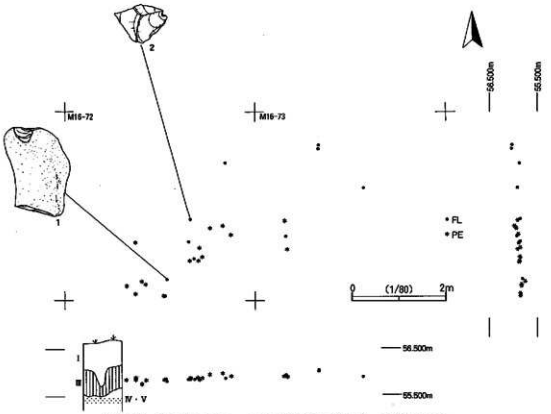
石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
安山岩(AN)																	5								5
安山岩(TO)																	1								1
チャート(CH)																	2								2
ホルンフェルス(HO)																	2								2
合　計																	10								10

第91表　M16-Bブロック礫組成

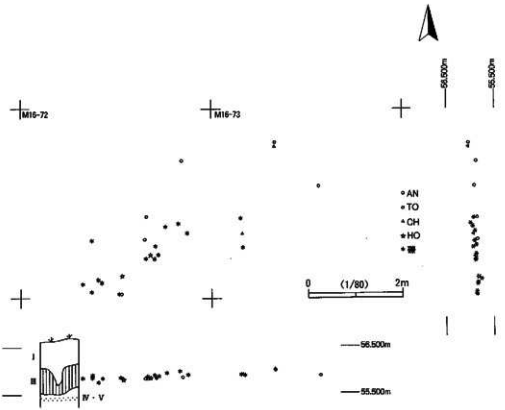
母　岩	石 材	個数	重量
M16R-1	SA	4	278.04
M16R-2	RH	2	321.51
M16R-3	TU	1	247.74
M16R-4	TU	1	197.97

母　岩	石 材	個数	重量
M16R-5	TU	1	216.45
M16R-6	SA	5	275.53
M16R-7	SA	1	325.36

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	2	321.51
凝灰岩(TU)	3	662.16
砂岩(SA)	10	878.93
合　計	15	1,862.60



第169図　M16-Bブロック出土遺物分布(１)－器種別分布－



第170図　M16-Bブロック出土遺物分布(２)－石材別分布－

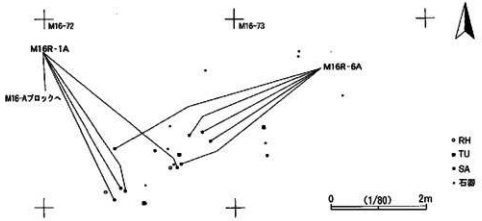
・M16-4：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（7.5Y5/1）で灰白色（7.5Y7/1）が部分的に混じるホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片2点（109.1g）である。

・M16-5：自然面は比較的平滑で灰黄色（2.5Y6/2）・灰白色（5Y8/2），内部は黄灰色（2.5Y6/1），節理は浅黄色（2.5Y7/4）・褐色（7.5YR4/6）・黄灰色（2.5Y6/1）のチャートである。剥片1点（15.7g）の単独資料である。

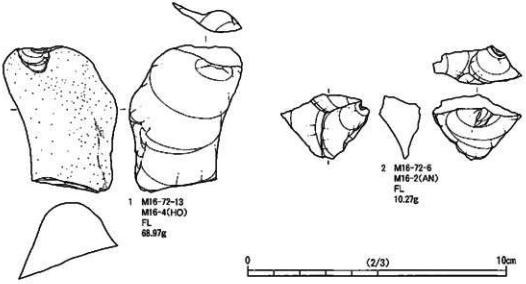
・M16-6：自然面は比較的平滑でにぶい赤褐色(5YR4/3)，内部はにぶい赤褐色(2.5YR4/3)・黄褐色(2.5Y5/3)のチャートである。剥片1点（14.3g）の単独資料である。

3）出土遺物（第172図）

1はホルンフェルス，2は安山岩による縦長や不定型な剥片である。



第171図　M16-Bブロック出土遺物分布(3)ー礫石材別分布ー



第172図　M16-Bブロック出土遺物

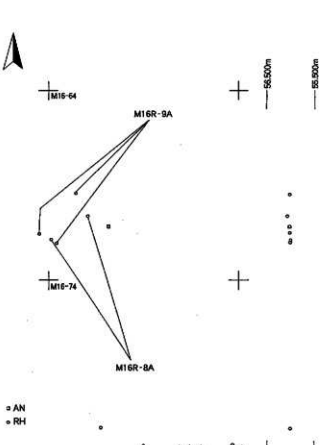
4　M16-Cブロック（第173・399図，第92表，図版９）

ブロックの概要

M16-Cブロックは，調査範囲西側のM16-63・64・74グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は15mである。

ブロックの規模と形状は，長軸２m，短軸１mの範囲に６点の礫と南に４mほど離れて１点の礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層下部を中心に10cmほどの高低差をもって包含されている（第173図）。

ブロックは，礫７点で構成される。礫石材は，安山岩１点（１母岩；115.1ｇ），流紋岩６点（３母岩；557.9ｇ）で，識別率は100％である。本ブロックは，礫のみで，石器は出土していない。



第173図　M16-Cブロック出土遺物分布
－礫石材別分布－

第92表　M16-Cブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
M16R-8	RH	2	341.31
M16R-9	RH	3	98.76
M16R-10	RH	1	117.85
M16R-11	AN	1	115.07

石　材	個数	重量
安山岩(AN)	1	115.07
流紋岩(RH)	6	557.92
合　計	7	672.99

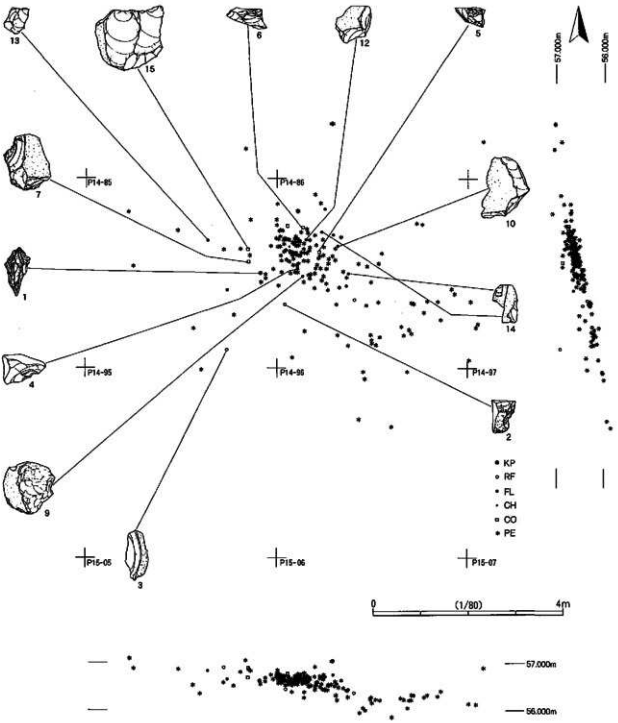
5　P14-Aブロック（第174～178・399図，第93～95表，カラー図版10・22，図版９）

1）ブロックの概要

P14-Aブロックは，調査範囲東側のP14-75～77・85～87・95・96グリッドに位置する。ブロックの立地は，北側台地上の縁辺部である。

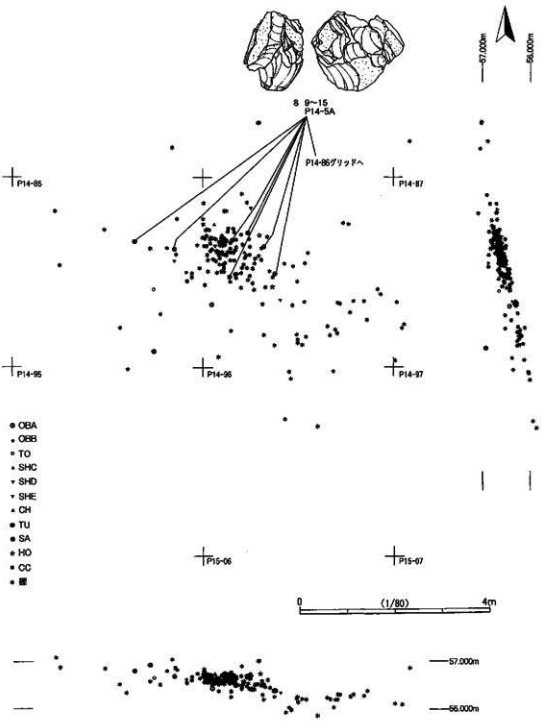
ブロックの規模と形状は，長軸８m，短軸７mの範囲に178点の石器・礫が分布する。その内，原位置不明の遺物が１点あり，その他に垂直分布のない遺物が13点ある。出土層位は，調査時の所見によれば，Ⅲ層上面からⅣ層上面にかけて，100cmほどの高低差をもっているが，中心はⅢ層で，50cmほどである（第174～177図）。

ブロックは，角錐状石器１点，加工痕ある剥片３点，剥片13点（12個体），砕片１点，石核５点の合計23点（22個体）と礫155点で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ１点，黒曜石Ｂ１点，軟質の安山岩２点，頁岩Ｃ１点，頁岩Ｄ１点，頁岩Ｅ３点，チャート１点，凝灰岩８点（７個体），砂岩２点，ホルンフェルス２点，瑪瑙・玉髄１点である。礫石材は，安山岩28点（10母岩；1,172.5ｇ），流紋岩29点（11母岩；789.6ｇ），

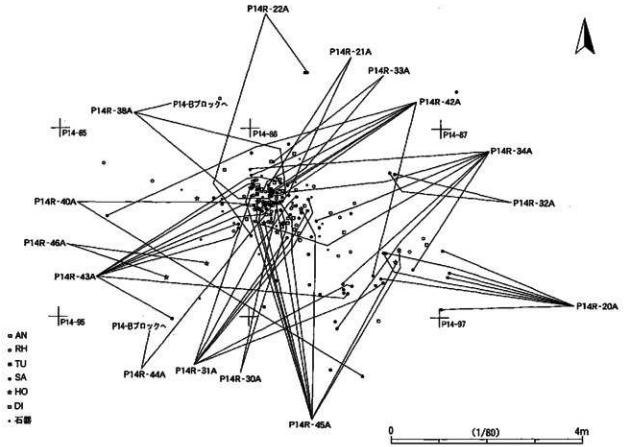


第174図　Ｐ14-Ａブロック出土遺物分布（１）－器種別分布－

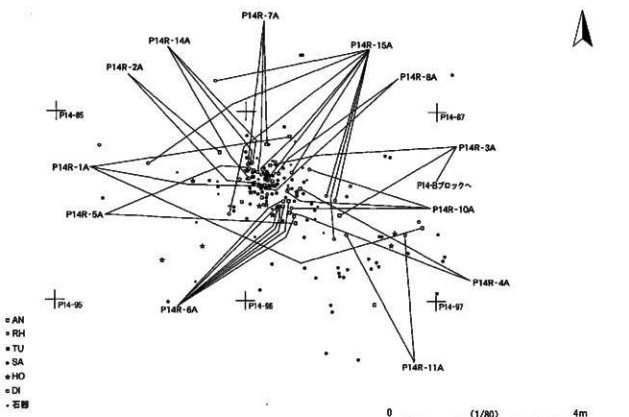
凝灰岩２点（１母岩；143.4ｇ），砂岩76点（26母岩；1,962.7ｇ），ホルンフェルス15点（２母岩；232.9ｇ），閃緑岩１点（１母岩；118.8ｇ），識別できなかった砂岩４点（8.5ｇ）で，識別率は97％である。なお，P14R-３・38・44についてはP14-Ｂブロックと接合関係がある。その他にP14R-39・57についてはP14-Ｂブロックと共有関係がある。



第175図　P14-Aブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



第176図　Ｐ14-Ａブロック出土遺物分布（３）－礫石材別分布（１）－



第177図　Ｐ14-Ａブロック出土遺物分布（４）－礫石材別分布（２）－

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは15母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ１母岩（P14-２），黒曜石Ｂ１母岩（P14-１），軟質の安山岩２母岩（P14-３・４），頁岩Ｃ１母岩（P14-８），頁岩Ｄ１母岩（P14-９），頁岩Ｅ２母岩（P14-10・11），チャート１母岩（P14-12），凝灰岩１母岩（P14-５），砂岩２母岩（P14-６・７），ホルンフェルス２母岩（P14-14・15），瑪瑙・玉髄１母岩（P14-13）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（23/23点）である。

・P14-１：黒色不透明な黒曜石である。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産としたが，栃木県高原山産の可能性が高い。角錐状石器１点（3.6ｇ）の単独資料である。

・P14-２：若干灰色がかった黒色で不透明な黒曜石である。φ１㎜～５㎜の黄灰色・灰白色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。加工痕ある剥片１点（3.9ｇ）の単独資料である。

・P14-３：内部はにぶい黄色（2.5Y6/3），新鮮な面は灰色（5Y5/1）の軟質の安山岩である。剥片１点（4.2ｇ）の単独資料である。

・P14-４：内部は明黄褐色（10YR6/6），新鮮な面は灰色（5Y5/1）の軟質の安山岩である。剥片１点（14.8ｇ）の単独資料である。

第93表　P14-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
P14-1(OBB)				1																					1
P14-2(OBA)										1															1
P14-3(TO)																	1								1
P14-4(TO)																	1								1
P14-5(TU)																	7(6)		1						8(7)
P14-6(SA)										1															1
P14-7(SA)																	1								1
P14-8(SHC)																			1						1
P14-9(SHD)										1															1
P14-10(SHE)																		1	1						2
P14-11(SHE)																	1								1
P14-12(CH)																			1						1
P14-13(CC)																			1						1
P14-14(HO)																	1								1
P14-15(HO)																	1								1
合計				1						3							13(12)	1	5						23(22)

第94表　P14-Aブロック石材別石器組成

石材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
黒曜石A(OBA)										1															1
黒曜石B(OBB)				1																					1
安山岩(TO)																	2								2
頁岩C(SHC)																			1						1
頁岩D(SHD)										1															1
頁岩E(SHE)																	1	1	1						3
チャート(CH)																			1						1
凝灰岩(TU)																	7(6)		1						8(7)
砂岩(SA)										1							1								2
ホルンフェルス(HO)																	2								2
瑪瑙・玉髄(CC)																			1						1
合計				1						3							13(12)	1	5						23(22)

・P14-5：自然面は比較的平滑でオリーブ褐色（2.5Y4/4）・褐灰色（10YR4/1）の地に青黒色（5PB2/1）の筋が入り，内部は灰白色（7.5Y8/1）の地にオリーブ灰色（10Y6/2）の筋が入る凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片7点（6個体），石核1点の合計8点（7個体；108.6g）である。接合資料は，剥片7点（6個体），石核1点の合計8点（7個体；108.6g）である。

・P14-6：自然面は平滑で灰色（5Y5/1）・暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は灰色（5Y6/1），節理は褐色（7.5YR4/3）の砂岩である。加工痕ある剥片1点（5.0g）の単独資料である。

・P14-7：自然面は平滑でにぶい黄橙色（10YR6/4），内部は灰オリーブ色（5Y6/2）・灰白色（5Y7/2）・にぶい黄色（2.5Y6/3）の砂岩である。剥片1点（8.7g）の単独資料である。

・P14-8：内部は灰黄色（2.5Y6/2）・暗灰黄色（2.5Y5/2），節理はにぶい赤褐色（5YR4/3）・黒褐色（5YR3/1）の嶺岡産頁岩である。石核1点（6.4g）の単独資料である。

・P14-9：灰オリーブ色（5Y6/2）の硬質緻密な頁岩である。加工痕ある剥片1点（2.6g）の単独資料である。

・P14-10：自然面は比較的平滑で暗灰黄色（2.5Y4/2）・にぶい橙色（7.5YR6/4）・にぶい黄橙（10YR6/4），内部は黒色（2.5Y2/1）・浅黄色（2.5Y7/4）・黄灰色（2.5Y4/1）・灰黄色（2.5Y6/2）の頁岩である。石器群の内訳は，砕片1点，石核1点の合計2点（17.0g）である。

・P14-11：自然面は平滑で淡黄色（2.5Y8/3），内部はオリーブ灰色（5GY6/1），節理は黄褐色（2.5Y5/3）の頁岩である。剥片1点（3.5g）の単独資料である。

・P14-12：自然面は爪形の浅い裂痕が粗でにぶい赤褐色（2.5YR4/3），内部は暗赤褐色（2.5YR3/3），節理は灰褐色（5YR5/2）のチャートである。石核1点（5.3g）の単独資料である。

・P14-13：自然面は爪形の浅い裂痕が密で明褐色（7.5YR5/6），内部はにぶい赤褐色（5YR4/4）・にぶい黄橙色（10YR6/4）で半透明な瑪瑙・玉髄である。石核1点（6.3g）の単独資料である。

・P14-14：内部及び新鮮な面は灰色（5Y6/1）のホルンフェルスである。剥片1点（4.1g）の単独資料である。

・P14-15：自然面は比較的平滑で灰色（5Y6/1），内部はにぶい黄色（2.5Y6/3），新鮮な面は黄灰色（2.5Y4/1）のホルンフェルスである。剥片1点（0.9g）の単独資料である。

3）出土遺物（第178図1～7）

1は信州和田峠周辺産の黒曜石による角錐状石器である。剥片の打面側を先端部として，左側縁と右側縁上半部に鋸歯状の調整加工を行っている。

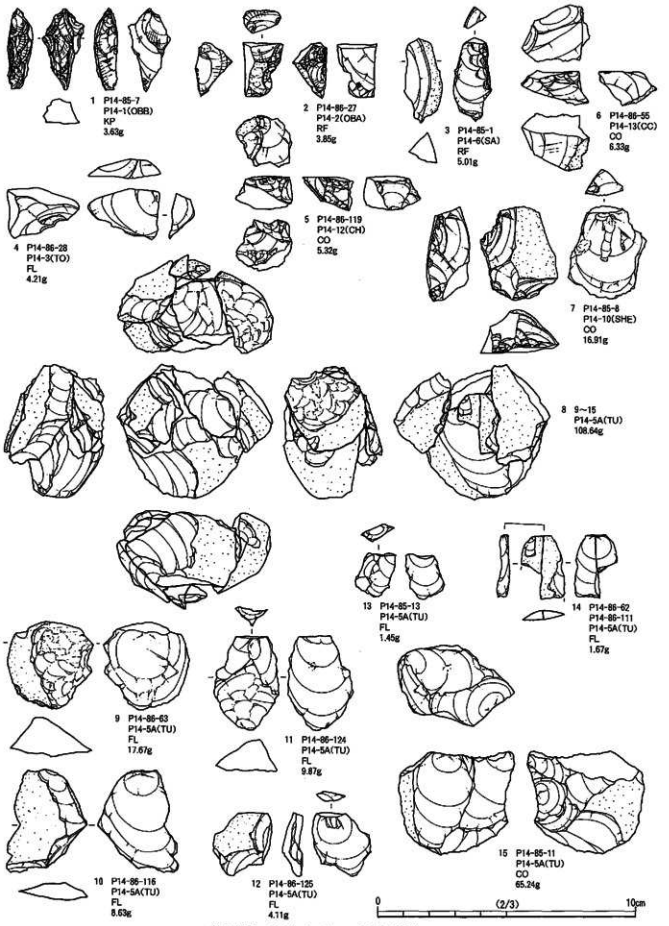
2は栃木県高原山産の黒曜石，3は砂岩による加工痕ある剥片である。2は剥片の右側縁に鋸歯状の調整加工を行っている。3は縦長剥片の裏面右側縁に調整加工を行っている。

4は軟質の安山岩による不定型な剥片である。

5はチャート，6は瑪瑙・玉髄，7は頁岩による石核である。5は素材の平坦な面，6は主要剥離面を打面として，小型で不定型な剥片を剥離している。7は求心的な剥離作業を行っている。

4）接合資料とその関連資料（第178図8～15）

・P14-5（第178図8～15）　灰白色（7.5Y8/1）などの凝灰岩である。8は剥片7点（6個体；9～14），石核1点（15）の接合資料である。その内，14は剥片2点が接合して1個体となる。比較的小振りな礫を素材として，打面と作業面を入れ替えながら，縦長剥片や不定型な剥片を剥離している。



第178図　P14-Aブロック出土遺物

第95表　Ｐ14-Ａブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
P14R-1	AN	4	192.78
P14R-2	AN	2	78.44
P14R-3	AN	2	151.15
P14R-4	AN	2	18.84
P14R-5	AN	2	87.97
P14R-6	AN	7	297.80
P14R-7	AN	4	248.61
P14R-8	AN	2	52.47
P14R-9	AN	2	30.11
P14R-10	RH	3	221.23
P14R-11	RH	2	42.83
P14R-12	RH	4	121.00
P14R-13	RH	1	101.05
P14R-14	RH	5	63.22
P14R-15	RH	9	157.36
P14R-16	RH	1	18.13
P14R-17	RH	1	19.52
P14R-18	RH	1	12.04
P14R-19	RH	1	25.09
P14R-20	SA	8	278.83

母　岩	石 材	個数	重量
P14R-21	SA	2	36.51
P14R-22	SA	2	43.38
P14R-23	SA	1	78.81
P14R-24	SA	2	47.62
P14R-25	SA	1	58.92
P14R-26	SA	1	29.49
P14R-27	SA	1	9.99
P14R-28	SA	1	26.28
P14R-29	SA	1	3.08
P14R-30	SA	2	49.23
P14R-31	SA	9	161.56
P14R-32	SA	4	75.34
P14R-33	SA	3	198.16
P14R-34	SA	9	155.30
P14R-35	SA	1	66.22
P14R-36	SA	1	8.74
P14R-37	SA	1	11.83
P14R-38	SA	2	102.90
P14R-39	SA	1	9.52
P14R-40	SA	2	75.74

母　岩	石 材	個数	重量
P14R-41	SA	1	8.29
P14R-42	SA	7	181.66
P14R-43	SA	11	226.70
P14R-44	DI	1	118.83
P14R-45	HO	13	108.24
P14R-46	HO	2	124.70
P14R-47	TU	2	143.36
P14R-55	RH	1	8.11
P14R-57	SA	1	9.87
P14R-68	SA	1	8.70
P14R-77	AN	1	14.32
その他	SA	4	8.51

石　材	個数	重量
安山岩(AN)	28	1,172.49
流紋岩(RH)	29	789.58
凝灰岩(TU)	2	143.36
砂岩(SA)	80	1,971.18
ホルンフェルス(HO)	15	232.94
閃緑岩(DI)	1	118.83
合　計	155	4,428.38

6　P14-Bブロック（第179～182・400図，第96～98表，カラー図版10・22，図版９）

１）ブロックの概要

P14-Bブロックは，調査範囲東側のP14-46・48・57～59・68・69，Q14-40・50・51グリッドに位置する。ブロックの立地は，北側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸18m，短軸６ｍの範囲に89点の石器・礫が分布するが，そのほとんどが直径４ｍの範囲に集中している。その内，原位置不明の遺物が１点ある。出土層位は，Ⅱc層下部からⅢ層上面にかけて，50cmほどの高低差をもって包含されており（第179～181図），調査時の所見によれば，Ⅲ層上面が主体である。

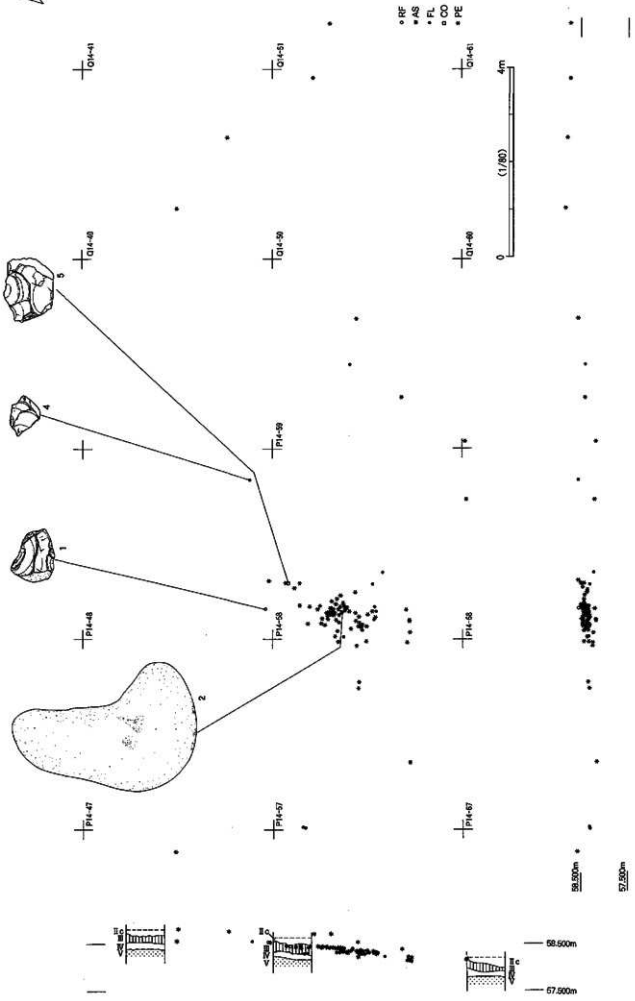
ブロックは，加工痕ある剥片１点，台石１点，剥片12点（11個体），石核１点の合計15点（14個体）と礫74点で構成される。石器石材は，安山岩１点，軟質の安山岩１点，頁岩Ｅ２点，凝灰岩１点，砂岩７点（６個体），ホルンフェルス１点，瑪瑙・玉髄２点である。礫石材は，安山岩５点（５母岩；235.5ｇ），流紋岩９点（５母岩；218.7ｇ），砂岩46点（19母岩；1,453.5ｇ），ホルンフェルス６点（４母岩；173.5ｇ），閃緑岩１点（１母岩；128.2ｇ），識別できなかった砂岩７点（5.2ｇ）で，識別率は91％である。

なお，P14R-３・38・44についてはP14-Aブロックと接合関係がある。その他に，P14R-39・57についてはP14-Aブロックと共有関係がある。

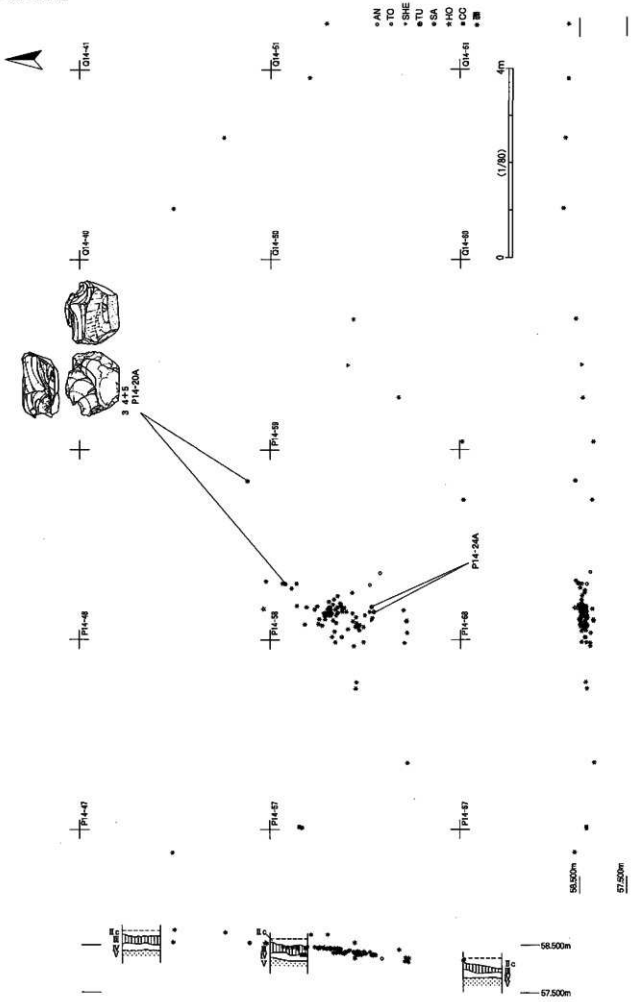
２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは10母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（P14-16），軟質の安山岩１母岩（P14-17），頁岩Ｅ１母岩（P14-21），凝灰岩１母岩（P14-18），砂岩４母岩（P14-19・20・24・25），ホルンフェルス１母岩（P14-22），瑪瑙・玉髄１母岩（P14-23）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（15/15点）である。

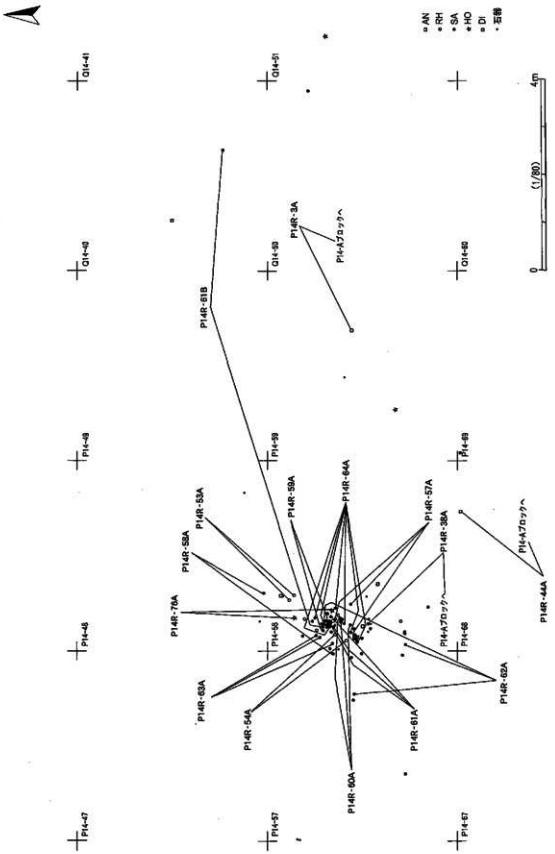
・**P14-16**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部はオリーブ褐色（2.5Y4/4），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片１点（5.0ｇ）の単独資料である。



第179図　P14-Bブロック出土遺物分布（1）－器種別分布－



第180図　P14-Bブロック出土遺物分布(2)－石材別分布－



第181図　P14-Bブロック出土遺物分布(3)－礫石材別分布－

・P14-17：内部は明黄褐色（10YR6/6），新鮮な面は灰色（5Y5/1）の軟質の安山岩である。剥片1点（1.4g）の単独資料である。

・P14-18：にぶい黄色（2.5Y6/3）・灰白色（7.5Y7/2）の凝灰岩である。剥片1点（2.1g）の単独資料である。

・P14-19：自然面は平滑でにぶい黄色（2.5Y6/3），内部は灰オリーブ色（5Y6/2）の砂岩である。剥片1点（0.8g）の単独資料である。

・P14-20：自然面は平滑で褐色（7.5Y4/4），内部は灰黄色（2.5Y6/2），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）・灰色（N4/0）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片2点，石核1点の合計3点（53.3g）である。接合資料は，剥片1点，石核1点の合計2点（42.9g）である。

・P14-21：自然面は爪形の浅い裂痕が粗でにぶい黄色（2.5Y6/3）・にぶい黄橙色（10YR6/4），内部はオリーブ灰色（5GY6/1）・明オリーブ灰色（5GY7/1）・暗オリーブ灰色（2.5GY4/1），節理はにぶい黄色（2.5Y6/4）・

第96表　P14-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
P14-16(AN)																	1								1
P14-17(TO)																	1								1
P14-18(TU)																	1								1
P14-19(SA)																	1								1
P14-20(SA)																	2		1						3
P14-21(SHE)																	2								2
P14-22(HO)										1															1
P14-23(CC)																	2								2
P14-24(SA)																	2(1)								2(1)
P14-25(SA)																1									1
合計										1						1	12(11)		1						15(14)

第97表　P14-Bブロック石材別石器組成

石材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
安山岩(AN)																	1								1
安山岩(TO)																	1								1
頁岩(C)(SHE)																	2								2
凝灰岩(TU)																	1								1
砂岩(SA)																1	5(4)		1						7(6)
ホルンフェルス(HO)										1															1
珪瑪・玉髄(CC)																	2								2
合計										1						1	12(11)		1						15(14)

第98表　P14-Bブロック礫組成

母岩	石材	個数	重量
P14R-3	AN	1	61.08
P14R-38	SA	1	53.80
P14R-39	SA	1	10.18
P14R-44	DI	1	128.20
P14R-48	SA	1	5.26
P14R-49	RH	1	15.81
P14R-50	AN	1	55.08
P14R-51	AN	1	62.96
P14R-52	RH	1	14.23
P14R-53	RH	2	61.24
P14R-54	RH	4	97.86
P14R-56	RH	1	29.57
P14R-57	SA	3	115.64
P14R-58	SA	2	62.68
P14R-59	SA	2	37.82

母岩	石材	個数	重量
P14R-60	SA	3	116.10
P14R-61	SA	7	83.06
P14R-62	SA	3	144.23
P14R-63	SA	5	217.35
P14R-64	SA	9	221.75
P14R-65	SA	1	198.27
P14R-66	SA	1	1.82
P14R-67	SA	1	8.66
P14R-68	SA	1	31.98
P14R-70	SA	2	41.00
P14R-71	SA	1	29.92
P14R-72	SA	1	0.83
P14R-73	HO	1	32.53
P14R-74	HO	1	12.00
P14R-75	HO	1	39.81

母岩	石材	個数	重量
P14R-76	HO	3	89.14
P14R-78	SA	1	73.16
P14R-79	AN	1	27.59
P14R-80	AN	1	28.79
その他	SA	7	5.18

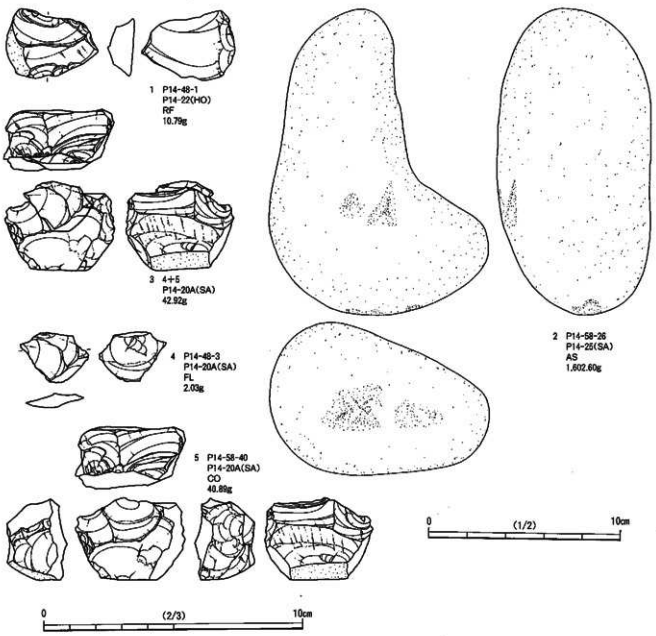
石材	個数	重量
安山岩(AN)	5	235.50
流紋岩(RH)	9	218.71
砂岩(SA)	53	1,456.69
ホルンフェルス(HO)	6	173.48
閃緑岩(DI)	1	128.20
合計	74	2,214.58

明黄褐色（10YR6/6）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（25.7ｇ）である。

・P14-22：自然面は比較的平滑でにぶい褐色(7.5YR6/3)，内部はにぶい黄橙色(10YR6/4)・黄灰色(2.5Y5/1)，新鮮な面は灰色（N4/0）のホルンフェルスである。加工痕ある剥片１点（10.8ｇ）の単独資料である。

・P14-23：にぶい黄橙色（10YR6/4）・灰オリーブ色（5Y5/3）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片２点（5.6ｇ）である。

・P14-24：自然面は平滑でオリーブ黄色（5Y6/3）・にぶい黄褐色（10YR5/4），内部は浅黄色（2.5Y7/3）・灰白色（5Y7/1），節理は褐色（7.5YR4/4），新鮮な面はオリーブ黒色（5Y3/1）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片２点（１個体；45.6ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；45.6ｇ）である。



第182図　P14-Bブロック出土遺物

・P14-25：自然面は比較的平滑で褐色（7.5YR4/3）・暗赤褐色（5YR3/4）・黒褐色（10YR3/2），内部はにぶい褐色（7.5YR6/3）・にぶい黄褐色（10YR5/3）の砂岩である。被熱による変色の可能性がある。台石１点（1,602.6ｇ）の単独資料である。

3）出土遺物（第182図１・２）

１はホルンフェルスによる加工痕ある剥片で，剥片の正面上下両端と裏面右側縁に調整加工を行っている。

２は砂岩による台石で，正面と下面に敲打痕が見られるが，下面は正面に比べ，浅くその周辺と同様に磨耗していることから，自然面の可能性がある。なお，全面が赤化しているが，敲打痕も赤化していることから，台石からの転用が考えられる。

4）接合資料とその関連資料（第182図３～５）

・P14-20（第182図３～５）　灰黄色（2.5Y6/2）などの砂岩である。３は剥片１点（４），石核１点（５）の接合資料である。打面と作業面を転移しながら，不定型な剥片を剥離している。

7　R14-Aブロック（第183～185・400図，第99～101表，カラー図版10，図版９）

1）ブロックの概要

R14-Aブロックは，調査範囲東側のR14-70・71・81・82グリッドに位置する。ブロックの立地は，北側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は15mである。

ブロックの規模と形状は，長軸８ｍ，短軸４ｍの範囲に31点の石器・礫が分布する。その内，原位置不明の遺物が１点ある。出土層位は，Ⅱc層からⅢ層にかけて，60cmほどの高低差をもって包含されている（第183・184図）。

ブロックは，楔形石器１点，加工痕ある剥片４点，剥片16点，砕片２点，石核２点の合計25点と礫６点で構成される。石器石材は，安山岩１点，頁岩Ｅ１点，凝灰岩２点，砂岩１点，ホルンフェルス20点である。礫石材は，安山岩５点（１母岩；397.0ｇ），砂岩１点（１母岩；33.5ｇ）で，識別率は100％である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは15母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（R14-１），頁岩Ｅ１母岩（R14-５），凝灰岩２母岩（R14-２・３），砂岩１母岩（R14-４），ホルンフェルス10母岩（R14-６～14・16）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（25/25点）である。

・R14-１：にぶい黄褐色（10YR4/3）・暗灰黄色（2.5Y4/2）・暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片１点（6.5ｇ）の単独資料である。

・R14-２：内部は緑灰色（7.5GY6/1），新鮮な面は暗緑灰色（7.5GY3/1）の凝灰岩である。楔形石器１点（2.4ｇ）の単独資料である。

・R14-３：内部は明オリーブ灰色（2.5GY7/1）・明緑灰色（7.5GY7/1），新鮮な面は緑灰色（7.5GY5/1）の凝灰岩である。加工痕ある剥片１点（27.5ｇ）の単独資料である。

・R14-４：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色(5Y5/1)・にぶい黄色(2.5Y6/3)，節理は褐色(10YR4/4)，新鮮な面は灰色（5Y5/1）の砂岩である。剥片１点（19.1ｇ）の単独資料である。

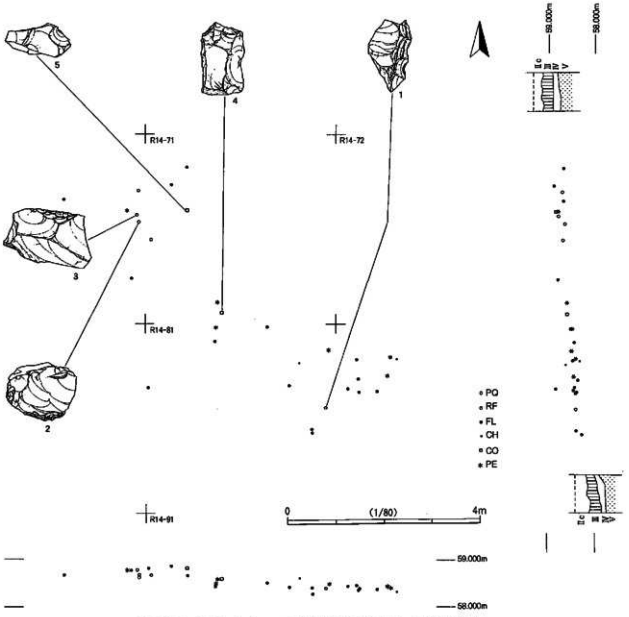
・R14-５：灰白色（2.5Y8/2）・灰色（10Y4/1）・灰色（10Y6/1）が縞状に入る頁岩である。石核１点（12.2ｇ）の単独資料である。

・R14-6：内部は灰白色（2.5Y8/2）・灰色（5Y5/1），節理は暗灰黄色（2.5Y5/2）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（26.6ｇ）である。

・R14-7：自然面は比較的平滑で灰黄色(2.5Y6/2)，内部は灰黄色(2.5Y7/2)，節理はオリーブ褐色(2.5Y4/3)のホルンフェルスである。剥片１点（24.1ｇ）の単独資料である。

・R14-8：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰色（10Y6/1）・灰色（10Y5/1）・灰黄色（2.5Y7/2），節理はにぶい褐色（7.5YR5/4）・明黄褐色（10YR6/6）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片３点（47.7ｇ）である。

・R14-9：自然面は紙ヤスリ状で灰黄色（2.5Y7/2），内部は灰色（5Y5/1）・灰黄色（2.5Y7/2），新鮮な面は灰色（N4/0）のホルンフェルスである。剥片１点（10.0ｇ）の単独資料である。



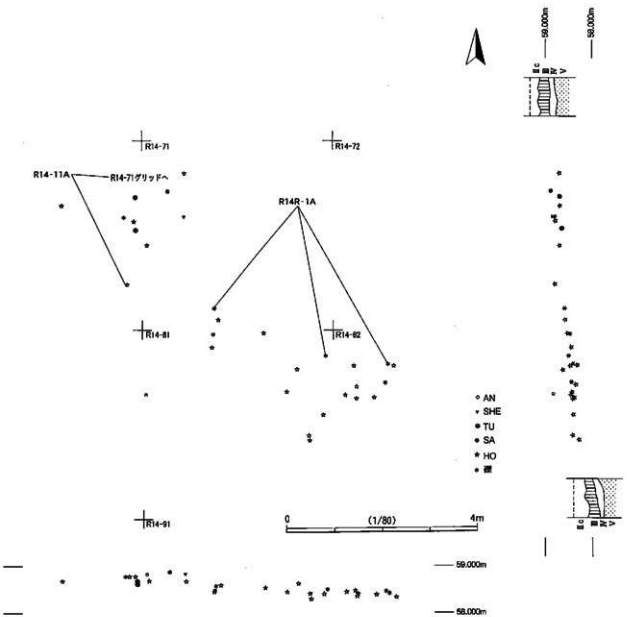
第183図　R14-Aブロック出土遺物分布(１)－器種別分布－

・R14-10：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y5/1），新鮮な面は灰色（N4/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片2点，砕片1点の合計3点（11.2g）である。

・R14-11：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（10Y4/1）・灰黄色（2.5Y7/2）・灰色（10Y5/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，剥片4点の合計5点（28.4g）である。接合資料は，剥片2点（6.8g）である。

・R14-12：内部は灰色（5Y5/1），新鮮な面は灰色（5Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，砕片1点の合計2点（24.7g）である。

・R14-13：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（10Y5/1）・灰黄色（2.5Y7/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。剥片1点（2.7g）の単独資料である。



第184図　R14-Aブロック出土遺物分布（2）－石材別分布－

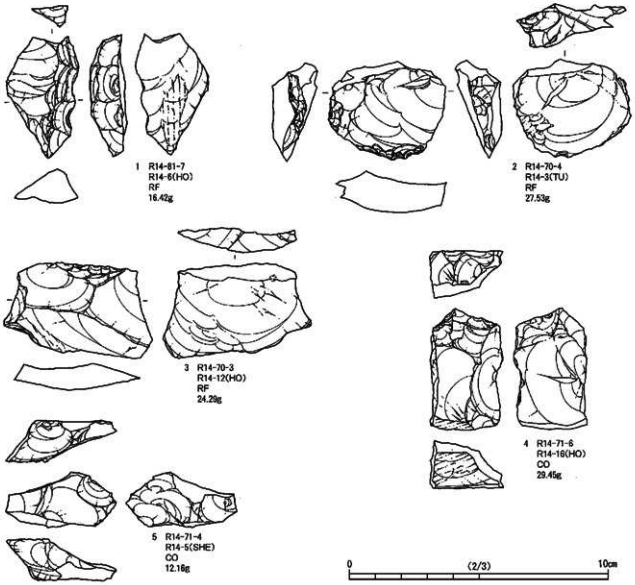
・R14-14：灰色（10Y4/1）のホルンフェルスである。剥片１点（2.1ｇ）の単独資料である。

・R14-16：灰色（10Y5/1）・灰黄色（2.5Y7/2）のホルンフェルスである。石核１点（29.5ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第185図）

１・３はホルンフェルス，２は凝灰岩による加工痕ある剥片である。１は縦長剥片の右側縁に鋸歯状の調整加工を行っている。２は不定型な剥片の両側縁と末端に細かい調整加工を行っている。３は横長剥片の末端左側に細かい調整加工を行っている。

４はホルンフェルス，５は頁岩による石核で，両者とも横長剥片の主要剥離面を打面として，横長剥片あるいは不定型な剥片を剥離している。



第185図　R14-Aブロック出土遺物

第99表　R14-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
R14-1(AN)																	1								1
R14-2(TU)									1																1
R14-3(TU)										1															1
R14-4(SA)																	1								1
R14-5(SHE)																			1						1
R14-6(HO)										1							1								2
R14-7(HO)																	1								1
R14-8(HO)																	3								3
R14-9(HO)																	1								1
R14-10(HO)																	2	1							3
R14-11(HO)										1							4								5
R14-12(HO)										1								1							2
R14-13(HO)																	1								1
R14-14(HO)																	1								1
R14-16(HO)																			1						1
合計									1	4							16	2	2						25

第100表　R14-Aブロック石材別石器組成

石材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
堂山岩(AN)																	1								1
真岩E(SHE)																			1						1
凝灰岩(TU)									1	1															2
砂岩(SA)																	1								1
ホルンフェルス(HO)										3							14	2	1						20
合計									1	4							16	2	2						25

第101表　R14-Aブロック礫組成

母岩	石材	個数	重量
R14R-1	AN	5	397.04
R14R-2	SA	1	33.47

石材	個数	重量
堂山岩(AN)	5	397.04
砂岩(SA)	1	33.47
合計	6	430.51

8　V13-Aブロック（第186～188・400図，第102～104表，カラー図版11・22，図版9）

1）ブロックの概要

V13-Aブロックは，調査範囲東側のV13-50・60・70グリッドに位置する。ブロックの立地は，北側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

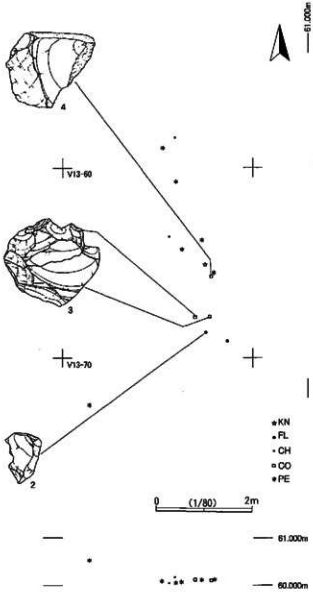
ブロックの規模と形状は，長軸4m，短軸1mの範囲に13点の石器・礫と西に3mほど離れて1点の礫が分布する。その内，垂直分布のない遺物が4点ある。出土層位は，Ⅲ層で，50cmほどの高低差をもって包含されているが，中心はⅢ層下部で，10cmほどである（第186・187図）。なお，調査時の所見によれば，Ⅳ層上面からⅤ層上面が出土層位の主体である。

ブロックは，ナイフ形石器1点，剥片2点，砕片2点，石核3点（2個体）の合計8点（7個体）と礫6点で構成される。石器石材は，チャート1点，凝灰岩1点，ホルンフェルス6点（5個体）である。礫石材は，凝灰岩1点（1母岩；30.6g），砂岩3点（2母岩；76.3g），ホルンフェルス2点（2母岩；99.7g）で，識別率は100%である。

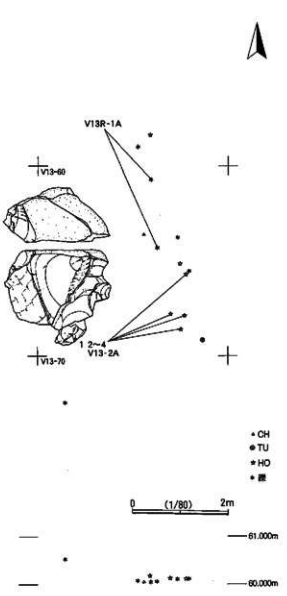
2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは3母岩を識別した。内訳は，凝灰岩1母岩（V13-1），ホルンフェルス2母岩（V13-2・3）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は88%（7/8点）である。

・V13-1：オリーブ灰色（10Y6/2）の珪化度の高い凝灰岩である。剥片1点（0.6g）の単独資料である。
・V13-2：自然面は比較的平滑で灰色（10Y4/1）・灰白色（5Y7/2），内部は灰色（5Y5/1）・灰白色（5Y7/2），節理は褐色（7.5Y4/4）・にぶい黄橙色（10YR6/4），新鮮な面は灰色（N4/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片1点，砕片1点，石核3点（2個体）の合計5点（4個体；148.9g）である。接合資料は，剥片1点，石核3点（2個体）の合計4点（3個体；148.5g）である。
・V13-3：灰色（5Y5/1）のホルンフェルスである。ナイフ形石器1点（6.6g）の単独資料である。
なお，母岩分類できなかった資料に，チャートの砕片1点（0.1g）がある。



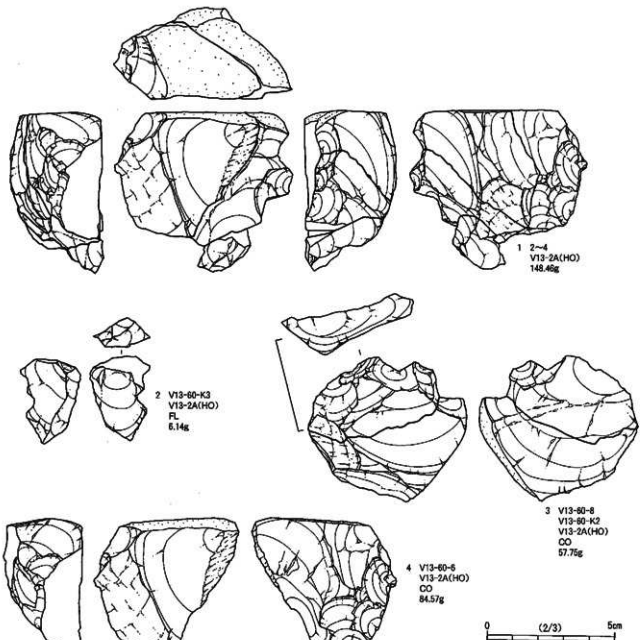
第186図　V13-Aブロック出土遺物分布（1）
－器種別分布－



第187図　V13-Aブロック出土遺物分布（2）
－石材別分布－

３）接合資料とその関連資料（第188図）

・V13-2（第188図）　灰色（5Y5/1）などのホルンフェルスである。１は剥片１点（２），石核３点（２個体；３・４）の接合資料である。その内，３は石核２点が接合して１個体となる。２・３を剥離した後，３は主要剥離面を打面として，小型で不定型な剥片を剥離している。４は図上，裏面側で小型で不定型な剥片を剥離している。



第188図　V13-Aブロック出土遺物

第102表　V13-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
V13-1(TU)																	1								1
V13-2(HO)																	1	1	3(2)						5(4)
V13-3(HO)	1																								1
その他(CH)																		1							1
合　計	1																2	2	3(2)						8(7)

第103表　V13-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
チャート(CH)																		1							1
凝灰岩(TU)																	1								1
ホルンフェルス(HO)	1																1	1	3(2)						6(5)
合　計	1																2	2	3(2)						8(7)

第104表　V13-Aブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
V13R-1	SA	2	73.25
V13R-2	SA	1	3.07
V13R-3	HO	1	64.76
V13R-4	HO	1	34.89
V13R-5	TU	1	30.61

石　材	個数	重量
凝灰岩(TU)	1	30.61
砂岩(SA)	3	76.32
ホルンフェルス(HO)	2	99.65
合　計	6	206.58

9　V13-Bブロック（第189～194・400図，第105～107表，カラー図版11・22，図版9）

1）ブロックの概要

V13-Bブロックは，調査範囲東側のV13-44～46・54～56グリッドに位置する。ブロックの立地は，北側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は30mである。

ブロックの規模と形状は，直径6mの範囲に94点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅥ層にかけて，70cmほどの高低差をもって包含されているが，中心はⅢ層からⅤ層で，30cmほどである（第189・190図）。

ブロックは，ナイフ形石器1点，剥片65点（57個体），砕片18点，石核3点（2個体）の合計87点（78個体）と礫7点で構成される。石器石材は，黒曜石A3点，黒曜石B1点，頁岩D5点，頁岩E1点，凝灰岩1点，砂岩45点（37個体），ホルンフェルス26点（25個体），瑪瑙・玉髄5点である。礫石材は，ホルンフェルス7点（1母岩；176.7g）で，識別率は100%である。

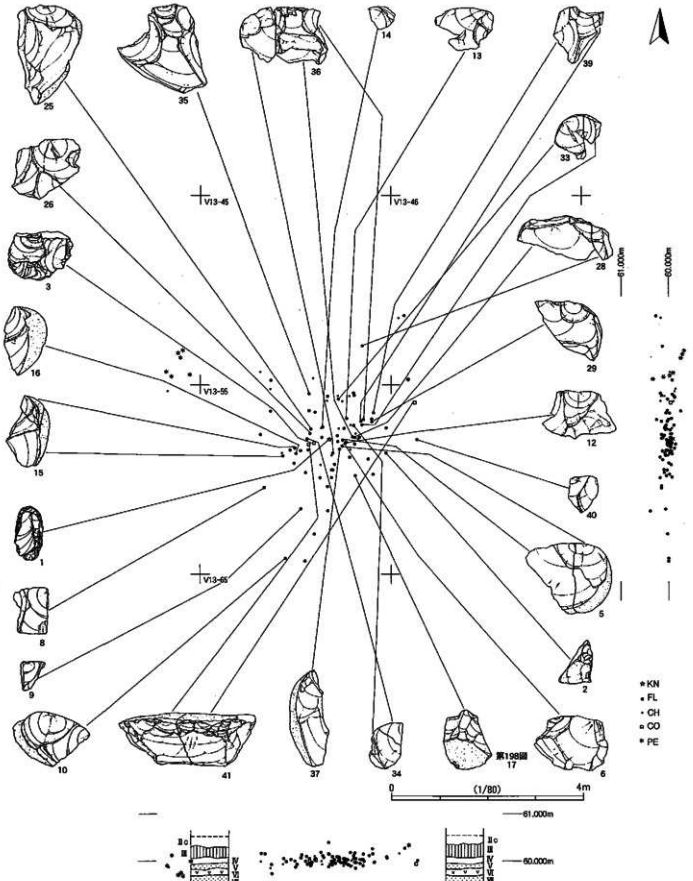
2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは20母岩を識別した。内訳は，黒曜石A2母岩（V13-4・5），黒曜石B1母岩（V13-6），頁岩D2母岩（V13-8・9），頁岩E1母岩（V13-36），凝灰岩1母岩（V13-7），砂岩4母岩（V13-10・11・20・21），ホルンフェルス4母岩（V13-12～14・26），瑪瑙・玉髄5母岩（V13-15～19）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は93%（81/87点）である。

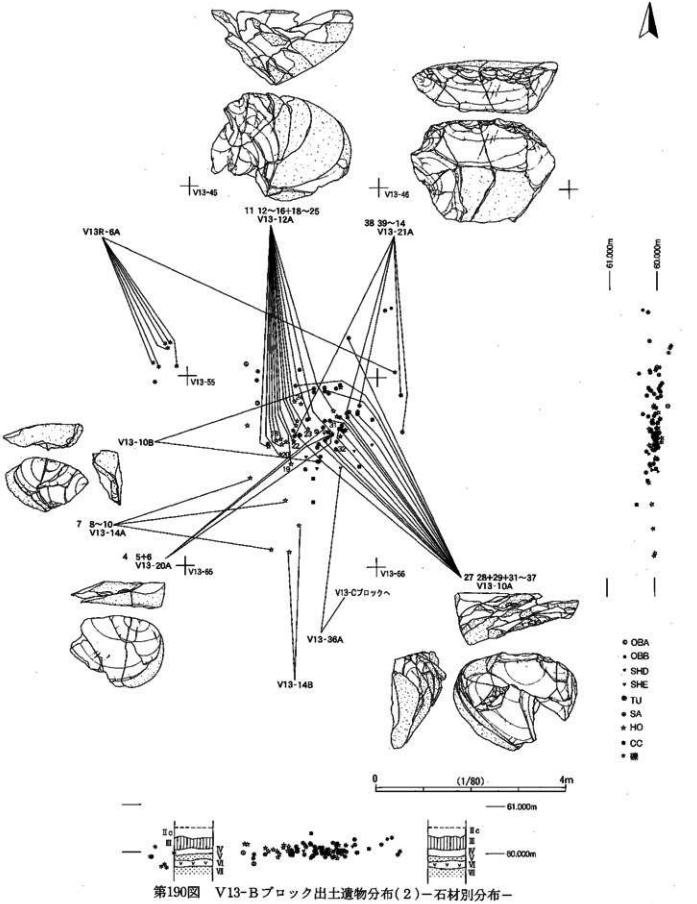
・V13-4：黒色で半透明な黒曜石である。φ1mmほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，砕片1点の合計2点（4.8g）である。

・V13-5：自然面は黒色な黒曜石である。φ1mmほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。剥片1点（1.1g）の単独資料である。

・V13-6：黒灰色で半透明な黒曜石である。φ1mmほどの黄灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産とした



第189図　V13-Bブロック出土遺物分布(１)－器種別分布－



第190図　V13-Bブロック出土遺物分布(２)－石材別分布－

第105表　V13-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
V13-4(OBA)	1																	1							2
V13-5(OBA)																	1								1
V13-6(OBB)																	1								1
V13-7(TU)																			1						1
V13-8(SHD)																	3	1							4
V13-9(SHD)																	1								1
V13-10(SA)																	21(16)	8							29(24)
V13-11(SA)																	1								1
V13-12(HO)																	15(14)	1							16(15)
V13-13(HO)																	4								4
V13-14(HO)																	5								5
V13-15(CC)																	1								1
V13-16(CC)																	1								1
V13-17(CC)																	1								1
V13-18(CC)																	1								1
V13-19(CC)																	1								1
V13-20(SA)																	3(2)								3(2)
V13-21(SA)																	3(2)	1	2(1)						6(4)
V13-28(HO)																	1								1
V13-36(SHE)																	1								1
その他(SA)																		6							6
合　計	1																65(57)	18	3(2)						87(78)

第106表　V13-Bブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
黒曜石A(OBA)	1																1	1							3
黒曜石B(OBB)																	1								1
頁岩D(SHD)																	4	1							5
頁岩E(SHE)																	1								1
凝灰岩(TU)																			1						1
砂岩(SA)																	28(21)	15	2(1)						45(37)
ホルンフェルス(HO)																	25(24)	1							26(25)
珪質・玉髄(CC)																	5								5
合　計	1																65(57)	18	3(2)						87(78)

第107表　V13-Bブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
V13R-6	HO	7	176.66

石　材	個数	重量
ホルンフェルス(HO)	7	176.66
合　計	7	176.66

が，栃木県高原山産の可能性が高く，剥片１点（0.5ｇ）の単独資料であるが，V13-４の一部の可能性がある。

・V13-７：自然面は平滑でにぶい黄色（2.5Y6/3）・明緑灰色（7.5GY7/1），内部は明緑灰色（10GY7/1），節理はにぶい黄色（2.5Y6/3）の凝灰岩である。石核１点（49.9ｇ）の単独資料である。

・V13-８：自然面は平滑で，自然面及び内部は褐色（10YR4/4）・にぶい黄褐色（10YR5/4），節理は明黄褐色（10YR6/6）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片３点，砕片１点の合計４点（6.8ｇ）である。

・V13-９：内部は淡黄色（2.5Y8/3）・灰色（5Y6/1）・灰白色（5Y8/1），新鮮な面は灰白色（5Y8/1）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（1.1ｇ）の単独資料である。

・V13-10：自然面は平滑で灰色（10Y6/1）・灰黄褐色（10YR5/2）・灰色（10Y5/1），内部は灰色（10Y6/1）・

褐灰色（10YR5/1）・灰白色（5Y7/2），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片21点（16個体），砕片８点の合計29点（24個体；139.5ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片14点（９個体；107.7ｇ），Ｂは剥片２点（15.0ｇ）である。

・V13-11：灰オリーブ色（5Y5/2）の地に灰黄色（2.5Y7/2）の筋が入る砂岩である。剥片１点（7.1ｇ）の単独資料である。

・V13-12：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y4/1），節理はにぶい黄褐色（10YR4/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片15点（14個体），砕片１点の合計16点（15個体；214.3ｇ）である。接合資料は，剥片14点（13個体；212.0ｇ）である。

・V13-13：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片４点（8.9ｇ）である。

・V13-14：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（10Y4/1），節理はにぶい黄褐色（10YR4/3）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片５点（38.4ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片３点（26.3ｇ），Ｂは剥片２点（12.1ｇ）である。

・V13-15：灰白色（5Y7/1）で半透明な瑪瑙・玉髄である。剥片１点（2.8ｇ）の単独資料である。

・V13-16：にぶい黄橙色（10YR6/4）の瑪瑙・玉髄である。剥片１点（6.1ｇ）の単独資料である。

・V13-17：灰白色（2.5Y7/1）で半透明な瑪瑙・玉髄である。剥片１点（4.5ｇ）の単独資料である。

・V13-18：黄褐色（10YR5/6）で半透明な瑪瑙・玉髄である。剥片１点（1.5ｇ）の単独資料である。

・V13-19：明黄褐色（10YR6/6）・浅黄色（2.5Y7/4）で半透明な瑪瑙・玉髄である。剥片１点（1.0ｇ）の単独資料である。

・V13-20：自然面は平滑で暗灰黄色（2.5Y5/2）・灰褐色（7.5YR4/2），内部は灰色（5Y5/1）・灰黄色（2.5Y6/2）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片３点（２個体；46.5ｇ）である。接合資料は，剥片３点（２個体；46.5ｇ）である。

・V13-21：自然面は比較的平滑でにぶい黄橙色（10YR6/4）・明黄褐色（10YR6/6）・灰黄色（2.5Y6/2），内部は浅黄色（2.5Y7/3）・淡黄色（2.5Y8/3），節理は黄褐色（10YR5/6）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片３点（２個体），砕片１点，石核２点（１個体）の合計６点（４個体；591.3ｇ）である。接合資料は，剥片３点（２個体），石核２点（１個体）の合計５点（３個体；591.0ｇ）である。

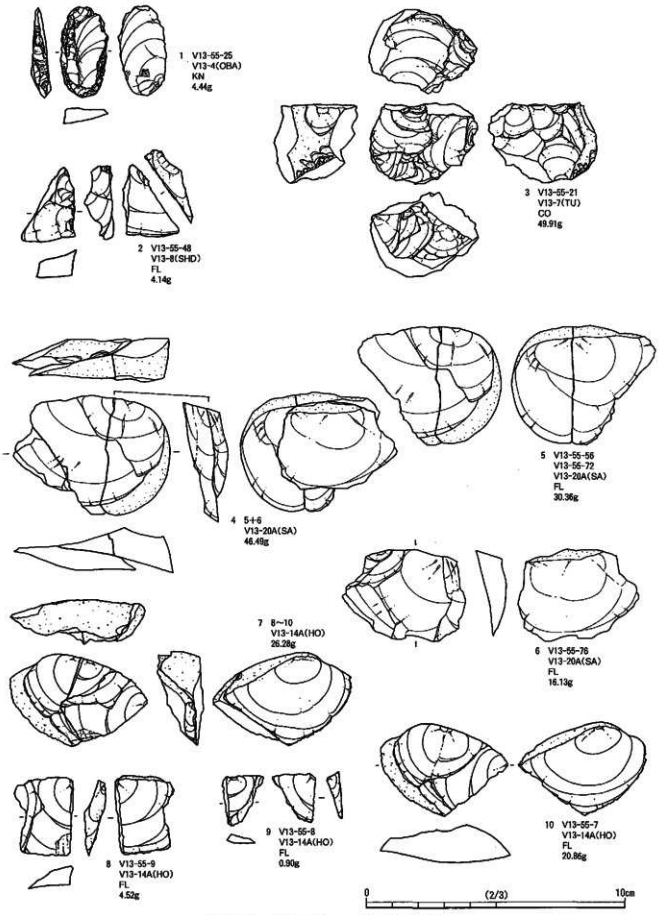
・V13-26：内部は黄灰色（2.5Y4/1），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）のホルンフェルスである。剥片１点（1.6ｇ）の単独資料である。

・V13-36：自然面は平滑で灰白色（5Y7/2），内部は灰白色（7.5Y7/1）・灰色（7.5Y5/1）・浅黄色（5Y7/3）・灰オリーブ色（5Y6/2），節理はオリーブ褐色（2.5Y4/4）の頁岩である。本ブロックでは剥片１点（11.1ｇ）の単独資料であるが，V13-Cブロックの剥片４点（３個体），石核１点の合計５点（４個体）と接合している。その他に同一母岩がV13-Cブロックに１点ある。

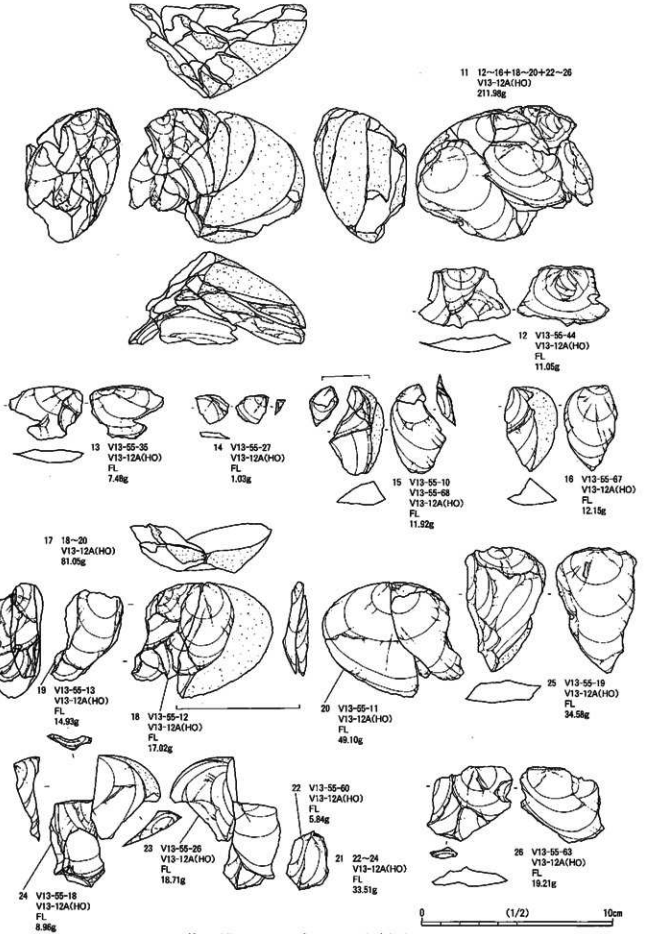
なお，母岩分類できなかった資料に，砂岩の砕片６点（1.6ｇ）がある。

３）出土遺物（第191図１～３）

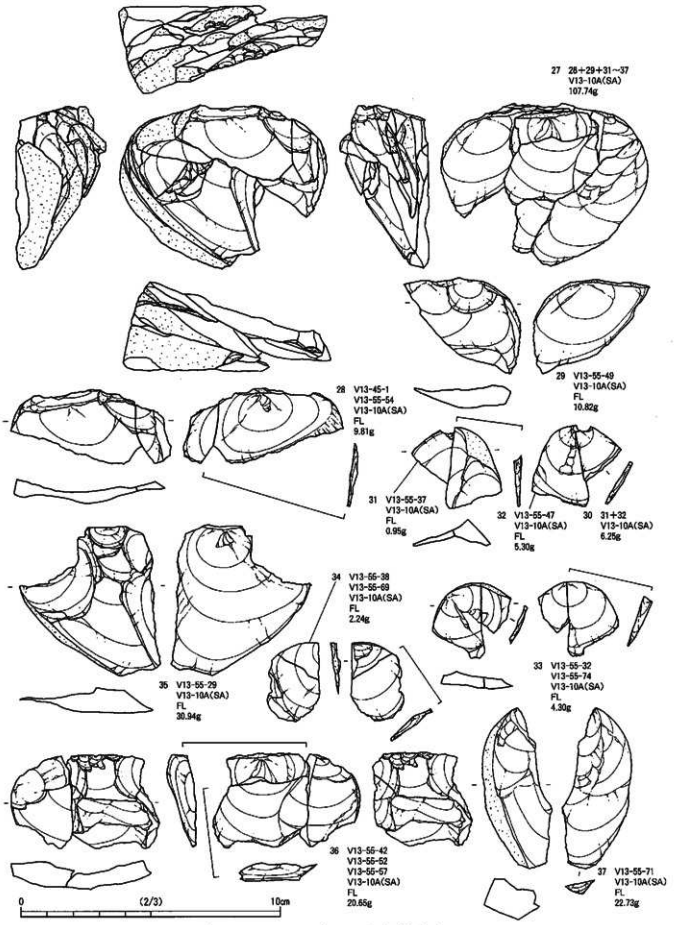
１は栃木県高原山産の黒曜石による部分加工のナイフ形石器で，縦長剥片の打面側を基部として，右側縁下部と左側縁上部に調整加工を行っている。なお，正面図上，下部左側の細長い剥離面は自然面の可能性がある。



第191図　V13-Bブロック出土遺物(1)



第192図　V13-Bブロック出土遺物(2)



第193図　V13-Bブロック出土遺物(3)

2は硬質緻密な頁岩による不定型な剥片である。

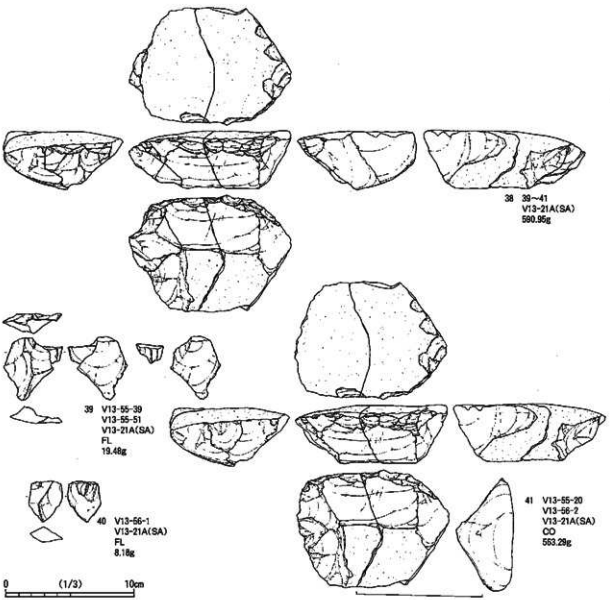
3は凝灰岩による石核で，90度の打面転移を繰り返しながら，小型で不定型な剥片を剥離している。

4）接合資料とその関連資料（第191図4～10，第192～194図）

・V13-20（第191図4～6）　灰色（5Y5/1）などの砂岩である。4は剥片3点（2個体；5・6）の接合資料である。その内，5は剥片2点が接合して1個体となる。

・V13-14（第191図7～10）　灰色（10Y4/1）などのホルンフェルスである。7は剥片3点（8～10）の接合資料である。

・V13-12（第192図）　灰色（5Y4/1）などのホルンフェルスである。11は剥片14点（13個体；12～16・18～20・22～26）の接合資料である。その内，15は剥片2点が接合して1個体となる。12～15まで比較的小型の剥片を剥離し，16から45度ほど打点をずらして，左右に打点を移動しながら，比較的小型あるいは比較



第194図　V13-Bブロック出土遺物(4)

的大型の剥片を剥離している。

・V13-10（第193図）　灰色（10Y6/1）などの砂岩である。27は剥片14点（9個体：28・29・31～37）の接合資料である。その内，28は剥片2点が接合して1個体，33は剥片2点が接合して1個体，34は剥片2点が接合して1個体，36は剥片3点が接合して1個体となる。比較的平坦な自然面を打点として，左右に打点を移動しながら，小型あるいは比較的大型の剥片を剥離している。

・V13-21（第194図）　浅黄色（2.5Y7/3）などの砂岩である。剥片3点（2個体；39・40），石核2点（1個体；41）の接合資料である。その内，39は剥片2点が接合して1個体となる。大型の礫の平坦面を打面として，求心的な剥離作業により不定型な剥片を剥離している。41は石核2点が接合して1個体となる。

10　V13-Cブロック（第195～198・400図，第108～110表，カラー図版11・22，図版9）

1）ブロックの概要

V13-Cブロックは，調査範囲東側のV13-49・57～59・65～69・75・76・79グリッドに位置する。ブロックの立地は，北側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は40mである。

ブロックの規模と形状は，長軸20m，短軸11mの範囲に79点の石器・礫が分布する。その内，原位置不明の遺物が1点ある。出土層位は，Ⅲ層からⅦ層にかけて，150cmほどの高低差をもって包含されているが，中心はⅢ層からⅤ層で，40cmほどである（第195・196図）。

ブロックは，掻器1点，彫器2点，加工痕ある剥片2点，使用痕ある剥片1点，剥片47点（45個体），砕片17点，石核3点の合計73点（71個体）と礫6点で構成される。石器石材は，黒曜石A1点，黒曜石G6点，安山岩3点，軟質の安山岩8点，流紋岩2点，頁岩A2点，頁岩C9点，頁岩D6点，頁岩E10点（9個体），チャート6点，砂岩2点，ホルンフェルス3点，瑪瑙・玉髄15点（14個体）である。礫石材は，砂岩3点（3母岩；63.3g），ホルンフェルス3点（1母岩；108.4g）で，識別率は100%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは34母岩を識別した。内訳は，黒曜石A1母岩（V13-59），黒曜石G2母岩（V13-34・35），安山岩1母岩（V13-41），軟質の安山岩3母岩（V13-22・23・33），頁岩A1母岩（V13-63），頁岩C2母岩（V13-37・62），頁岩D6母岩（V13-39・64～68），頁岩E3母岩（V13-24・25・36），チャート4母岩（V13-27・28・42・69），砂岩2母岩（V13-60・61），ホルンフェルス2母岩（V13-40・70），瑪瑙・玉髄7母岩（V13-29～32・43～45）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は82%（60/73点）である。

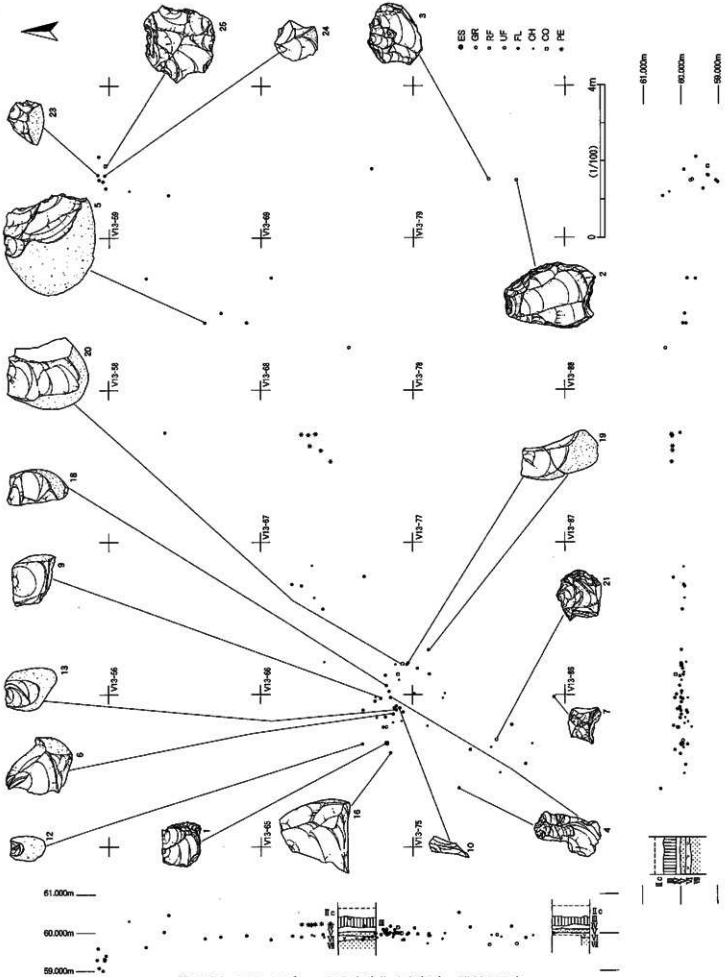
・V13-22：自然面は平滑で浅黄色（2.5Y7/4），内部は灰白色（7.5Y7/1），節理は褐色（10YR4/4），新鮮な面は灰色（N4/0）の軟質の安山岩である。剥片1点（6.2g）の単独資料である。

・V13-23：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰白色（7.5Y7/1），新鮮な面は灰色（N5/0）の軟質の安山岩である。石器群の内訳は，剥片2点（11.2g）である。接合資料は，剥片2点（11.2g）である。

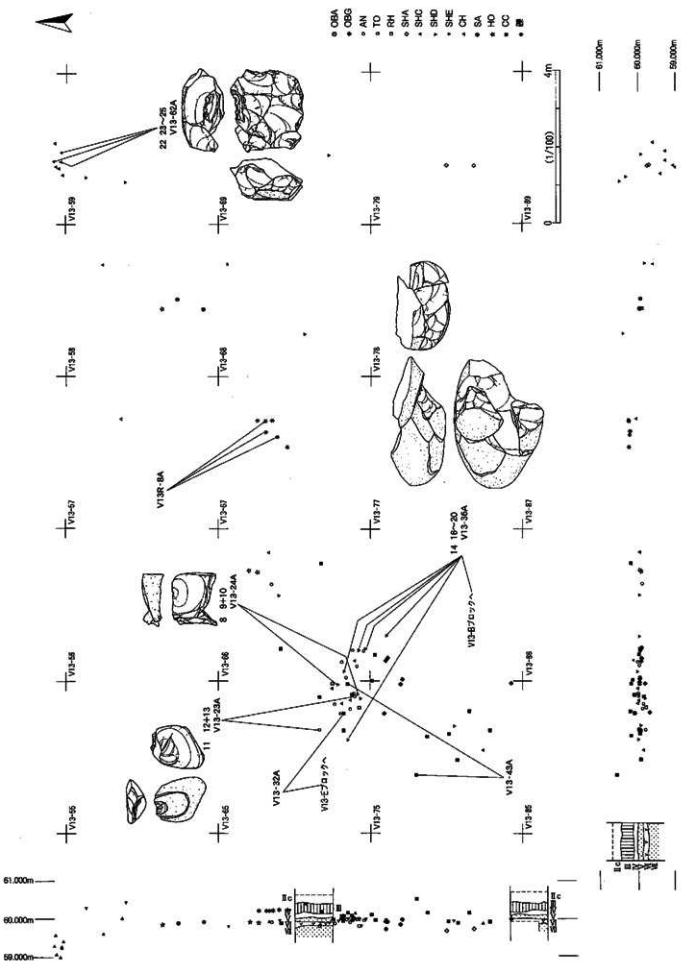
・V13-24：自然面は平滑で灰色(5Y4/1)・灰オリーブ色(5Y4/2)・オリーブ黒色(5Y3/1)，内部は灰色(5Y6/1)・灰オリーブ色（5Y6/2）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片3点（17.8g）である。接合資料は，剥片2点（15.2g）である。

・V13-25：内部は灰白色（5Y7/2），新鮮な面は灰色（5Y5/1）の頁岩である。剥片1点（0.4g）の単独資料である。

・V13-27：自然面は平滑で暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)，内部はオリーブ灰色(2.5GY4/1)・灰オリーブ色(7.5Y4/2)



第195図　V13-Cブロック出土遺物分布(1)－器種別分布－



第196図　V13-Cブロック出土遺物分布(2)－石材別分布－

のチャートである。剥片１点（17.6ｇ）の単独資料である。

・V13-28：自然面は平滑でオリーブ褐色(2.5Y4/4)，内部はオリーブ灰色(2.5GY5/1)・灰オリーブ色(5Y5/2)のチャートである。石器群の内訳は，剥片２点（8.1ｇ）である。

・V13-29：灰白色（2.5Y8/2）で半透明な地に暗赤褐色（5YR3/6）・灰白色（2.5Y8/1）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。掻器１点（8.5ｇ）の単独資料である。

・V13-30：にぶい黄色（2.5Y6/4）で半透明な瑪瑙・玉髄である。剥片１点（1.8ｇ）の単独資料である。

・V13-31：淡黄色（2.5Y8/3）で半透明な瑪瑙・玉髄である。剥片１点（0.6ｇ）の単独資料である。

・V13-32：自然面はスリガラス状で明黄褐色（10YR6/6）・黒褐色（10YR3/1）・褐色（7.5YR4/6）・明黄褐色（10YR7/6），内部は半透明な地に褐色（7.5YR4/6）・黄褐色（10YR5/6）・にぶい黄色（2.5Y6/4）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（12.6ｇ）である。接合資料は，加工痕ある剥片１点（4.6ｇ）がV13-Eブロックの剥片１点と接合している。

・V13-33：内部は灰白色（5Y7/1），新鮮な面は灰色（N5/0）の軟質の安山岩である。石器群の内訳は，剥片３点（10.8ｇ）である。

・V13-34：黒色の黒曜石である。φ１㎜ほどの灰白色の夾雑物を含むが，部分的に帯状に密集する。産地は不明である。剥片１点（3.5ｇ）の単独資料である。

・V13-35：黒色で半透明な黒曜石である。φ１㎜ほどの灰白色の夾雑物を含む。産地は不明である。剥片１点（0.8ｇ）の単独資料である。

・V13-36：灰白色（7.5Y7/1）などの頁岩である。母岩の特徴はV13-Bブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片４点（３個体），石核１点の合計６点（５個体；139.8ｇ）である。接合資料は，剥片４点（３個体），石核１点の合計５点（４個体；131.5ｇ）がV13-Bブロックの剥片１点と接合している。

・V13-37：自然面は爪形の裂痕が粗でオリーブ褐色(2.5Y4/3)，内部は灰オリーブ色(5Y5/2)・灰色(5Y5/1)，節理は黄褐色（2.5Y5/3）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（10.1ｇ）である。

・V13-39：自然面は平滑で，自然面及び内部は褐色（7.5YR4/3）・褐色（10YR4/4）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（20.7ｇ）の単独資料である。

・V13-40：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は黄灰色（2.5Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点（2.2ｇ）である。

・V13-41：自然面は爪形の裂痕が粗で黄褐色（2.5Y5/3），内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）の安山岩である。砕片１点（0.5ｇ）の単独資料である。

・V13-42：自然面は平滑で，自然面及び内部は暗オリーブ灰色（5GY4/1）のチャートである。砕片１点（0.2ｇ）の単独資料である。

・V13-43：自然面は比較的平滑で淡黄色(5Y8/3)，内部は灰黄色(2.5Y7/2)で半透明な地に淡黄色(2.5Y8/4)・褐色（7.5YR4/6）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片３点（２個体；12.5ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；10.1ｇ）である。

・V13-44：明黄褐色（10YR6/6）の地ににぶい赤褐色（5YR4/4）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片２点，砕片１点の合計３点（7.3ｇ）である。

・V13-45：にぶい黄褐色（10YR5/3）の瑪瑙・玉髄である。剥片1点（2.0g）の単独資料である。

・V13-59：黒色で半透明な黒曜石である。φ1mmほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。剥片1点（1.3g）の単独資料である。

・V13-60：灰色（7.5Y5/1）の砂岩である。剥片1点（9.0g）の単独資料である。

・V13-61：内部は灰色（5Y6/1）・灰白色（5Y7/2）・暗灰黄色（2.5Y5/2）が縞状に入り，新鮮な面は灰白色（5Y7/1）の砂岩である。剥片1点（5.2g）の単独資料である。

・V13-62：自然面は平滑で黄褐色（2.5Y5/3），内部は黄褐色（2.5Y5/3）・オリーブ褐色（2.5Y4/4）・灰オリーブ色（5Y4/2）・オリーブ黒色（5Y3/1）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片6点，石核1点の合計7点（97.1g）である。接合資料は，剥片2点，石核1点の合計3点（73.0g）である。

・V13-63：灰黄褐色（10YR4/2）・黒褐色（10YR3/2）の地に黒褐色（10YR3/1）が表面に付着する東北産頁岩である。石器群の内訳は，彫器1点，使用痕ある剥片1点の合計2点（47.6g）である。

・V13-64：内部は黄灰色（2.5Y5/1）・灰色（N4/0）・オリーブ灰色（10Y5/2），節理は灰オリーブ色（5Y5/3）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（7.2g）の単独資料である。

・V13-65：暗灰黄色（2.5Y5/2）の地に灰白色（2.5Y8/2）の細かい点紋が入る硬質緻密な頁岩である。彫器1点（3.4g）の単独資料である。

・V13-66：内部は灰色（5Y4/1）・灰オリーブ色（5Y4/2），節理は灰オリーブ色（5Y5/3）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（2.9g）の単独資料である。

・V13-67：暗灰黄色（2.5Y4/2）の硬質緻密な頁岩である。砕片1点（0.3g）の単独資料である。

・V13-68：にぶい黄褐色（10YR4/3）・灰黄褐色（10YR5/2）の地に黄色（2.5Y8/6）が部分的に混じる硬質緻密な頁岩である。剥片1点（1.4g）の単独資料である。

・V13-69：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰白色（10Y7/1）・暗灰色（N3/0）・灰色（10Y5/1），節理は暗灰黄色（2.5Y5/2）のチャートである。石器群の内訳は，剥片2点（3.8g）である。

・V13-70：自然面は平滑で暗褐色（10YR3/3）・にぶい黄褐色（10YR4/3）・灰色（5Y5/1），内部は灰オリーブ色（5Y6/2）・灰色（5Y5/1）・浅黄色（2.5Y7/4）のホルンフェルスである。剥片1点（78.5g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Gの砕片4点（0.4g），安山岩の砕片2点（0.3g），軟質の安山岩の砕片2点（0.4g），流紋岩の砕片2点（0.3g），瑪瑙・玉髄の砕片3点（0.8g）がある。

3）出土遺物（第197図1～7）

1は瑪瑙・玉髄による掻器で，不定型な剥片の末端から右側縁にかけて直角に近い調整加工を行っている。

2は東北産頁岩による彫器としたが，様々な調整加工が行われており，掻器・削器等の機能を持った複合石器と考えられる。縦長剥片を素材として，左側では打面側，右側では末端側から樋状の調整加工を行っている。また，これらの樋状の剥離痕に切られるが，上下両端・右側縁上部・左側縁下部に調整加工を行っており，これらの加工による稜線は全体的に磨耗している。

3は東北産頁岩による使用痕ある剥片で，不定型な剥片の末端の折断面を除く正面末端と裏面右側縁に微細な剥離痕が見られる。

4は瑪瑙・玉髄，5はホルンフェルス，6はチャート，7は産地不明の黒曜石による不定型な剥片であ

る。4は2点が接合して1個体となる。

4）接合資料とその関連資料（第197図8～13，第198図）

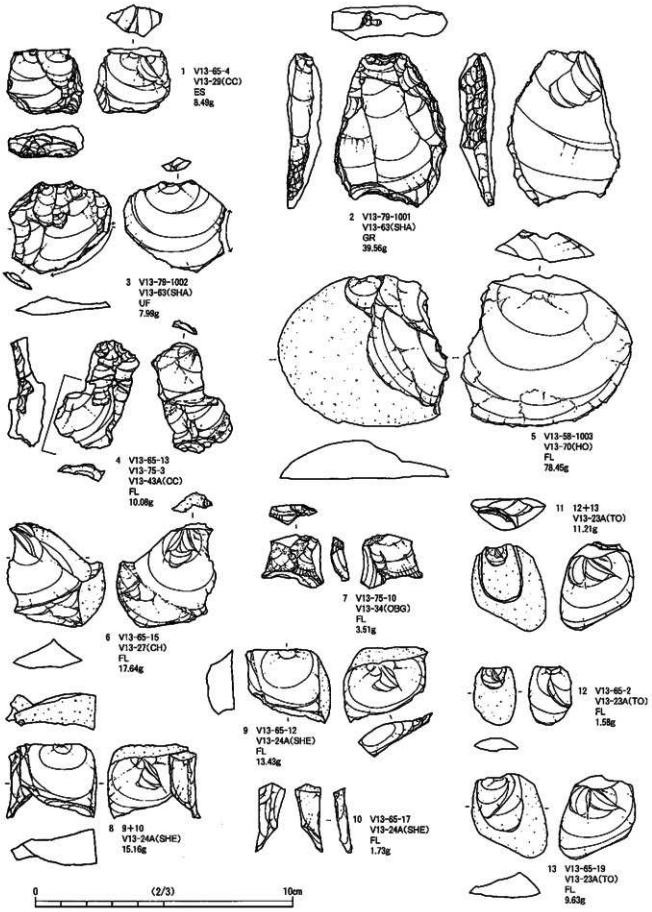
・V13-24（第197図8～10）　灰色（5Y6/1）などの頁岩である。8は剥片2点（9・10）の接合資料である。

・V13-23（第197図11～13）　灰白色（7.5Y7/1）などの軟質の安山岩である。11は剥片2点（12・13）の接合資料である。

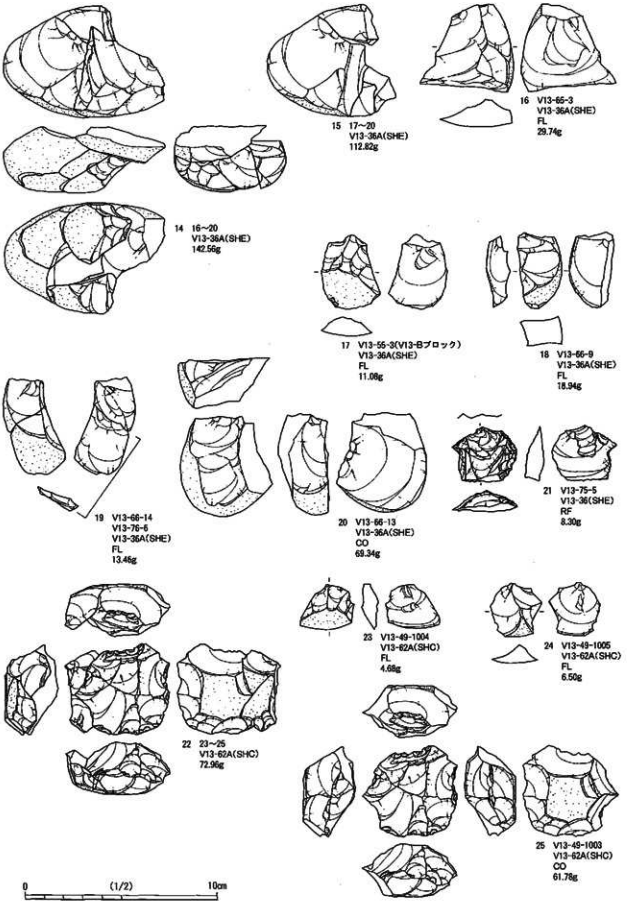
・V13-36（第198図14～21）　灰白色（7.5Y7/1）などの頁岩である。剥片4点（3個体；16・18・19），石核1点（20），V13-Bブロックの剥片1点（17）の接合資料である。その内，19は剥片2点が接合して1個体となる。16を剥離した面を打面として，17～19を剥離し，最終的に18を剥離した面を打面として，比較

第108表　V13-Cブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PO	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合 計
V13-22(TO)																	1								1
V13-23(TO)																	2								2
V13-24(SHE)																	3								3
V13-25(SHE)																	1								1
V13-27(CH)																	1								1
V13-28(CH)																	2								2
V13-29(CC)					1																				1
V13-30(CC)																	1								1
V13-31(CC)																	1								1
V13-32(CC)										1							1								2
V13-33(TO)																	3								3
V13-34(OBG)																	1								1
V13-35(OBG)																	1								1
V13-36(SHE)											1						4(3)		1						6(5)
V13-37(SHC)																	1		1						2
V13-39(SHD)																	1								1
V13-40(HO)																	2								2
V13-41(AN)																		1							1
V13-42(CH)																		1							1
V13-43(CC)																	3(2)								3(2)
V13-44(CC)																	2	1							3
V13-45(CC)																	1								1
V13-59(OBA)																	1								1
V13-60(SA)																	1								1
V13-61(SA)																	1								1
V13-62(SHC)																	6		1						7
V13-63(SHA)							1				1														2
V13-64(SHD)																	1								1
V13-65(SHD)							1																		1
V13-66(SHD)																	1								1
V13-67(SHD)																		1							1
V13-68(SHD)																	1								1
V13-69(CH)																	2								2
V13-70(HO)																	1								1
その他(OBG)																		4							4
その他(AN)																		2							2
その他(TO)																		2							2
その他(RH)																		2							2
その他(OC)																		3							3
合　計					1		2			2	1						47(45)	17	3						73(71)



第197図　V13-Cブロック出土遺物(1)



第198図　V13-Cブロック出土遺物(2)

的大型の剥片を剥離している。

21は接合しなかった同一母岩の加工痕ある剥片で，不定型な剥片の右側縁に調整加工を行っている。

・V13-62（第198図22～25）　黄褐色（2.5Y5/3）などの嶺岡産頁岩である。剥片2点（23・24），石核1点（25）の接合資料である。始めに裏面側で，次に表面側で，求心的な剥離作業により不定型な剥片を剥離している。

第109表　V13-Cブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
黒曜石A(OBA)																	1								1
黒曜石G(OBG)																	2	4							6
安山岩(AN)																		3							3
安山岩(TO)																	6	2							8
流紋岩(RH)																		2							2
頁岩A(SHA)							1				1														2
頁岩C(SHC)																	7		2						9
頁岩D(SHD)							1										4	1							6
頁岩E(SHE)										1							8(7)		1						10(9)
チャート(CH)																	5	1							6
砂岩(SA)																	2								2
ホルンフェルス(HO)																	3								3
瑪瑙・玉髄(CC)					1					1							9(8)	4							15(14)
合　計					1		2			2	1						47(45)	17	3						73(71)

第110表　V13-Cブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
V13R-8	HO	3	108.38
V13R-9	SA	1	2.02
V13R-10	SA	1	37.77
V13R-11	SA	1	23.52

石　材	個数	重量
砂岩(SA)	3	63.31
ホルンフェルス(HO)	3	108.38
合　計	6	171.69

11　V13-Eブロック（第199～202・400図，第111～113表，カラー図版11，図版10）

1）ブロックの概要

V13-Eブロックは，調査範囲東側のV13-74・83～85・94グリッドに位置する。ブロックの立地は，北側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は40mである。

ブロックの規模と形状は，長軸9m，短軸5mの範囲に45点の石器・礫が分布する。その内，垂直分布のない遺物が2点ある。出土層位は，Ⅲ層からⅤ層にかけて，50cmほどの高低差をもって包含されている（第199～201図）。

ブロックは，加工痕ある剥片1点，石刃1点，剥片20点（19個体），砕片4点。原石1点の合計27点（26個体）と礫18点で構成される。石器石材は，頁岩C16点（14個体），チャート6点，砂岩1点，ホルンフェルス1点，瑪瑙・玉髄3点である。礫石材は，安山岩1点（1母岩；19.0g），チャート1点（1母岩；25.3g），砂岩11点（3母岩；171.9g），ホルンフェルス5点（1母岩；197.4g）で，識別率は100%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは12母岩を識別した。内訳は，頁岩C6母岩（V13-46～51），チャート3母岩（V13-52～54），砂岩1母岩（V13-55），ホルンフェルス1母岩（V13-56），瑪瑙・玉髄1母岩（V13-32）である。母岩識別

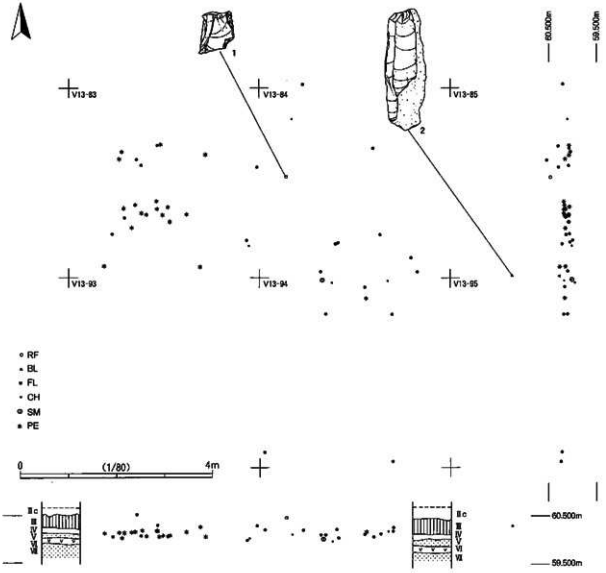
した石器の石器総数に対する割合は93%（25/27点）である。

・V13-32：半透明な地に褐色（7.5YR4/6）などの瑪瑙・玉髄である。母岩の特徴はV13-Cブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（6.1ｇ）の単独資料であるが，V13-Cブロックの加工痕ある剥片１点と接合している。その他に同一母岩がV13-Cブロックに１点ある。

・V13-46：内部は暗オリーブ色（5Y4/4）・灰オリーブ色（5Y5/3），節理は褐色（7.5YR4/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（12.7ｇ）である。

・V13-47：灰オリーブ色（5Y6/2）・灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y4/1）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片８点（７個体），砕片２点の合計10点（９個体；9.0ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；1.4ｇ）である。

・V13-48：自然面は平滑で暗灰黄色（2.5Y4/2），内部は灰オリーブ色（5Y4/2），節理は灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（8.1ｇ）の単独資料である。



第199図　V13-Eブロック出土遺物分布（１）－器種別分布－

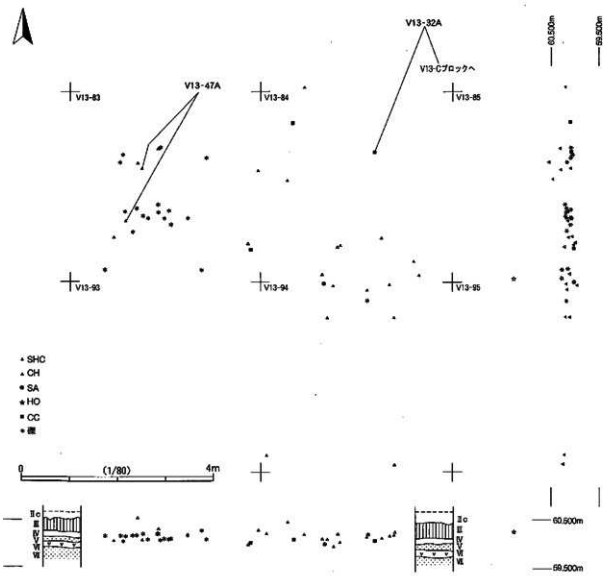
・**V13-49**：自然面は平滑で褐色（10YR4/6），内部は灰オリーブ色（5Y5/3）の地に灰色（5Y5/1）の筋が入る嶺岡産頁岩である。剥片１点（3.2ｇ）の単独資料である。

・**V13-50**：自然面は爪形の浅い裂痕が粗で褐色（10YR4/4），内部は灰オリーブ色（5Y6/2）・灰色（5Y6/1）・褐色（10YR4/4）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（9.7ｇ）の単独資料である。

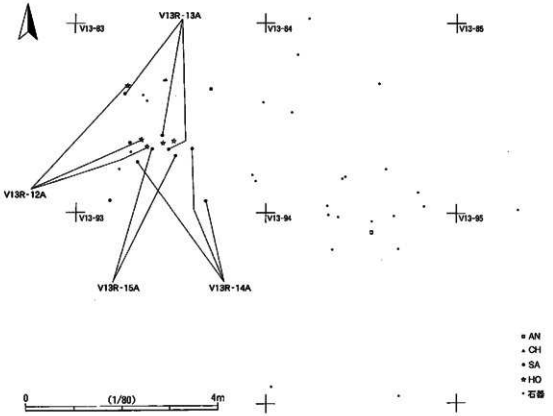
・**V13-51**：灰オリーブ色（5Y4/2）・灰色（5Y4/1）・オリーブ褐色（2.5Y4/4）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（6.3ｇ）の単独資料である。

・**V13-52**：黄灰色（2.5Y4/1）・灰白色（5Y8/1）・明黄褐色（10YR7/6）の地に暗灰色（N3/0）の筋が入るチャートである。石器群の内訳は，剥片２点（4.9ｇ）である。

・**V13-53**：黄灰色（2.5Y4/1）・黒褐色（2.5Y3/1）のチャートである。剥片１点（9.0ｇ）の単独資料である。



第200図　Ｖ13-Ｅブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



第201図　V13-Eブロック出土遺物分布（3）－礫石材別分布－

・V13-54：自然面は比較的平滑で褐色（7.5YR4/3）・黒色（7.5YR2/1），内部は灰オリーブ色（5Y4/2）・灰色（5Y4/1）・暗灰黄色（2.5Y4/1）・にぶい黄色（2.5Y6/4）・褐色（7.5YR4/4）のチャートである。石器群の内訳は，剥片3点（25.5g）である。

・V13-55：自然面は比較的平滑で青黒色（10BG2/1）の砂岩である。原石1点（50.4g）の単独資料である。

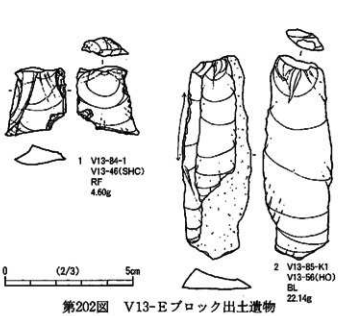
・V13-56：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色(5Y6/2)・灰色(5Y6/1)・灰白色(5Y7/1)・灰白色（5Y7/2），新鮮な面はオリーブ黒色（5Y3/2）のホルンフェルスである。石刃1点（22.1g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，瑪瑙・玉髄の砕片2点（0.5g）がある。

3）出土遺物（第202図）

1は嶺岡産頁岩による加工痕ある剥片で，不定型な剥片の正面右側縁に調整加工を行っている。また，裏面両側縁の一部にも細かい剥離痕が見られる。

2はホルンフェルスによる石刃で，左側縁の一部に細かい剥離痕が見られる。



第202図　V13-Eブロック出土遺物

第111表　V13-Eブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
V13-32(CC)																	1								1
V13-46(SHC)										1							1								2
V13-47(SHC)																	8(7)	2							10(9)
V13-48(SHC)																	1								1
V13-49(SHC)																	1								1
V13-50(SHC)																	1								1
V13-51(SHC)																	1								1
V13-52(CH)																	2								2
V13-53(CH)																	1								1
V13-54(CH)																	3								3
V13-55(SA)																				1					1
V13-56(HO)												1													1
その他(CC)																		2							2
合　計										1		1					20(19)	4		1					27(26)

第112表　V13-Eブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
頁岩C(SHC)										1							13(12)	2							16(14)
チャート(CH)																	6								6
砂岩(SA)																				1					1
ホルンフェルス(HO)												1													1
珪質・玉髄(CC)																	1	2							3
合　計										1		1					20(19)	4		1					27(26)

第113表　V13-Eブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
V13R-7	AN	1	18.99
V13R-12	HO	5	197.44
V13R-13	SA	4	88.35
V13R-14	SA	3	25.78
V13R-15	SA	4	57.75

母　岩	石　材	個数	重量
V13R-16	CH	1	25.33

石　材	個数	重量
安山岩(AN)	1	18.99
チャート(CH)	1	25.33
砂岩(SA)	11	171.88
ホルンフェルス(HO)	5	197.44
合　計	18	413.64

12　U14-Bブロック（第203～205・400図，第114～116表，カラー図版12・22，図版10）

1）ブロックの概要

U14-Bブロックは，調査範囲東側のU13-98・99，U14-07・08・17・18グリッドに位置する。ブロックの立地は，北側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は30mである。

ブロックの規模と形状は，長軸8m，短軸3mの範囲に27点の石器・礫と東に3mほど離れて2点の石器が分布する。その内，垂直分布のない遺物が3点ある。出土層位は，Ⅲ層からⅥ層にかけて，50cmほどの高低差をもって包含されている（第203・204図）。

ブロックは，削器1点，敲石1点，剥片16点，砕片2点，石核3点の合計23点と礫6点で構成される。石器石材は，頁岩E5点，チャート1点，ホルンフェルス17点である。礫石材は，流紋岩1点（1母岩；8.3g），砂岩5点（2母岩；280.4g）で，識別率は100%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは13母岩を識別した。内訳は，頁岩E4母岩（U14-44～47），チャート1母岩（U14-56），ホルンフェルス8母岩（U14-48～55）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は91%（21/23点）である。

・U14-44：内部は灰色（5Y6/1）・灰白色（5Y7/2），節理は黄褐色（2.5Y5/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の

頁岩である。削器１点（32.4ｇ）の単独資料である。

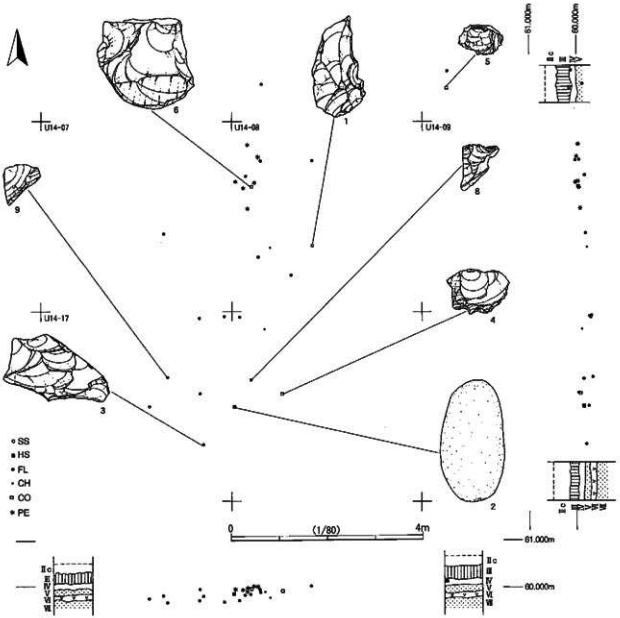
・U14-45：自然面は平滑で灰オリーブ色(5Y5/3)，内部は明オリーブ灰色(5GY7/1)，節理は暗褐色(7.5YR3/3)の頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（6.9ｇ）である。

・U14-46：灰オリーブ色（7.5Y5/2）の頁岩である。剥片１点（0.6ｇ）の単独資料である。

・U14-47：自然面は平滑で灰白色（5Y7/2）・オリーブ灰色（2.5GY6/1）・淡黄色（2.5Y8/3）の頁岩である。敲石１点（131.2ｇ）の単独資料である。

・U14-48：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y5/1）・灰白色（5Y7/2）・灰色（10Y6/1），節理は灰色（N5/0）・暗褐色（7.5YR3/3），新鮮な面は灰色（10Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片４点，石核１点の合計５点（164.0ｇ）である。

・U14-49：内部は灰色（5Y5/1）・灰オリーブ色（5Y6/2）・灰色（5Y6/1），節理は黄褐色（2.5Y5/3）のホル



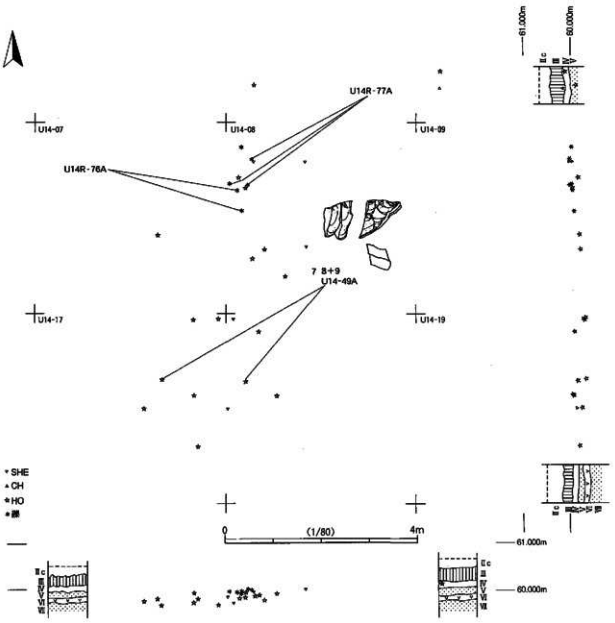
第203図　U14-Bブロック出土遺物分布(１)－器種別分布－

ンフェルスである。石器群の内訳は，剥片3点（9.9g）である。接合資料は，剥片2点（9.0g）である。

・U14-50：自然面は比較的平滑で灰色（5Y6/1）・暗灰黄色（2.5Y4/2），内部は灰色（5Y6/1）・オリーブ黄色（5Y6/3）のホルンフェルスである。石核1点（22.0g）の単独資料である。

・U14-51：自然面は比較的平滑で黄灰色（2.5Y5/1）・灰白色（5Y7/1），内部は灰オリーブ色（5Y6/2）・灰白色（5Y7/1）の地に灰色（5Y4/1）が部分的に混じるホルンフェルスである。剥片1点（9.0g）の単独資料である。

・U14-52：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y6/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片2点（33.6g）である。



第204図　U14-Bブロック出土遺物分布（2）－石材別分布－

・U14-53：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y5/2）のホルンフェルスである。剥片１点（30.0ｇ）の単独資料である。

・U14-54：灰オリーブ色（5Y6/2）のホルンフェルスである。剥片１点（0.8ｇ）の単独資料である。

・U14-55：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y4/1）のホルンフェルスである。剥片１点（1.1ｇ）の単独資料である。

・U14-56：自然面は平滑でにぶい黄褐色(10YR5/4)・灰黄褐色(10YR4/2),内部はにぶい黄褐色(10YR5/4)・灰色（5Y4/1)・灰オリーブ色（5Y6/2）のチャートである。石核１点（12.9ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，ホルンフェルスの砕片２点（0.3ｇ）がある。

3）出土遺物（第205図１～６）

１は頁岩による削器で，縦長剥片の右側縁に調整加工を行っている。

２は頁岩による敲石で，比較的扁平な棒状の礫の末端に敲打痕が見られる。

３はホルンフェルスによる横長剥片で，末端に微細な剥離痕が見られるが，偶発的なものと考えた。

４・６はホルンフェルス，５はチャートによる石核で，打面と作業面を入れ替えたり，求心的な剥離作業によって不定型な剥片を剥離している。

4）接合資料とその関連資料（第205図７～９）

・U14-49（第205図７～９）　灰色（5Y5/1）などのホルンフェルスである。７は剥片２点（８・９）の接合資料である。

第114表　U14-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
U14-44(SHE)						1																			1
U14-45(SHE)																	2								2
U14-46(SHE)																	1								1
U14-47(SHE)															1										1
U14-48(HO)																	4		1						5
U14-49(HO)																	3								3
U14-50(HO)																			1						1
U14-51(HO)																	1								1
U14-52(HO)																	2								2
U14-53(HO)																	1								1
U14-54(HO)																	1								1
U14-55(HO)																	1								1
U14-56(CH)																			1						1
その他(HO)																		2							2
合　計						1									1		16	2	3						23

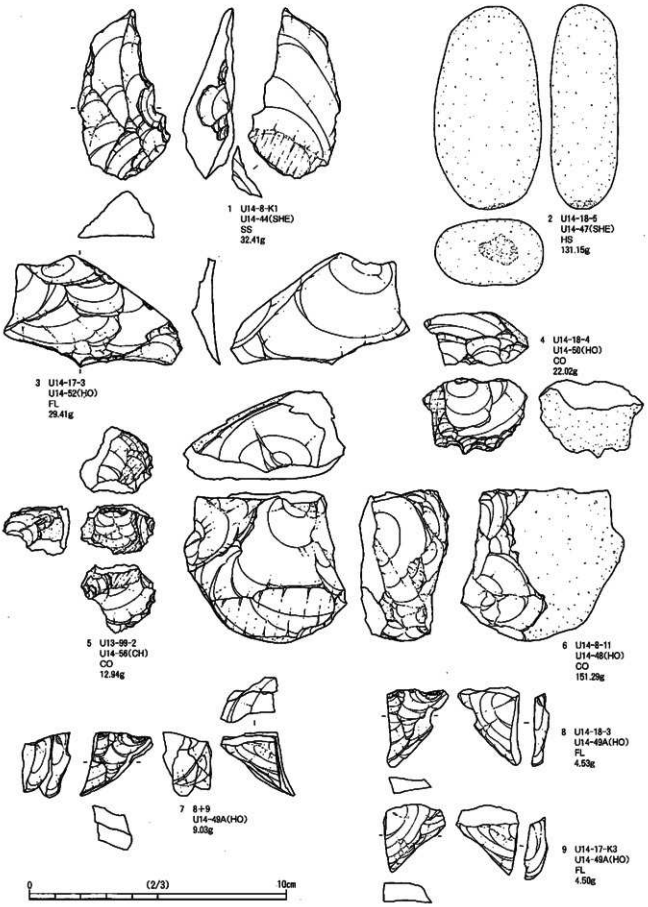
第115表　U14-Bブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
頁岩E(SHE)						1									1		3								5
チャート(CH)																			1						1
ホルンフェルス(HO)																	13	2	2						17
合　計						1									1		16	2	3						23

第116表　U14-Bブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
U14R-76	SA	2	200.37
U14R-77	SA	3	80.05
U14R-78	RH	1	8.26

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	1	8.26
砂岩(SA)	5	280.42
合　計	6	288.68



第205図　U14-Bブロック出土遺物

13　V17-Bブロック（第206～209・400図，第117～119表，カラー図版12・22，図版10）

1）ブロックの概要

V17-Bブロックは，調査範囲東側のV17-85・86・95・96グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側北台地上の縁辺部である。

ブロックの規模と形状は，長軸２m，短軸１mの範囲に37点の石器・礫が分布する。その内，原位置不明の遺物が３点ある。出土層位は，Ⅲ層からⅣ層にかけて，40cmほどの高低差をもって包含されているが，中心はⅢ層下部で，20cmほどである（第206～208図）。

ブロックは，加工痕ある剥片１点，剥片５点の合計６点と礫31点で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ１点，安山岩３点，頁岩Ｃ１点，チャート１点である。礫石材は，流紋岩７点（４母岩；331.9ｇ），頁岩２点（１母岩；1.1ｇ），チャート16点（７母岩；200.5ｇ），砂岩２点（２母岩；45.7ｇ），ホルンフェルス４点（１母岩；143.0ｇ）で，識別率は100％である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ１母岩（V17-30），安山岩１母岩（V17-29），頁岩Ｃ１母岩（V17-31），チャート１母岩（V17-32）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（6/6点）である。

・V17-29：自然面は爪形の浅い裂痕が密で黄灰色(2.5Y5/1)，内部は灰色(5Y5/1)，新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。石器群の内訳は，剥片３点（19.7ｇ）である。接合資料は，剥片２点（16.7ｇ）である。

・V17-30：黒色で半透明な黒曜石である。φ１mmほどの灰白色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられ

第117表　V17－Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PO	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
V17-29(AN)																	3								3
V17-30(OBA)										1															1
V17-31(SHC)																	1								1
V17-32(CH)																	1								1
合　計										1							5								6

第118表　V17－Bブロック石材別石器組成

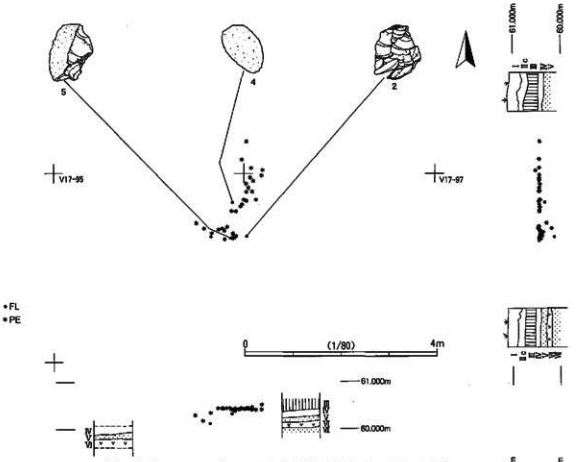
石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PO	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
黒曜石A(OBA)										1															1
安山岩(AN)																	3								3
頁岩C(SHC)																	1								1
チャート(CH)																	1								1
合　計										1							5								6

第119表　V17－Bブロック礫組成

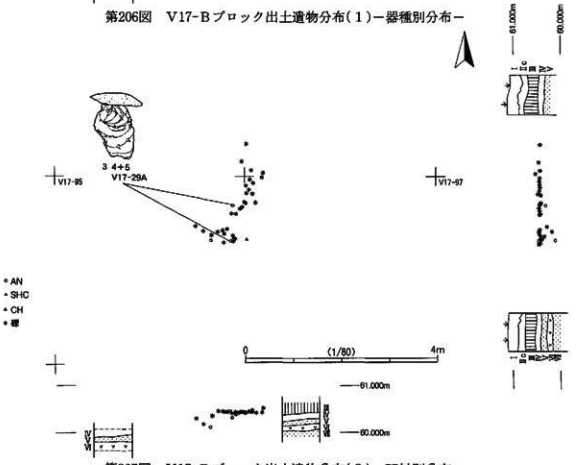
母　岩	石　材	個数	重量
V17R-5	RH	2	42.84
V17R-6	RH	3	49.35
V17R-7	RH	1	52.53
V17R-8	RH	1	187.13
V17R-9	HO	4	142.99
V17R-10	SA	1	24.03
V17R-11	SA	1	21.68
V17R-12	CH	5	38.25
V17R-13	CH	3	25.80
V17R-14	CH	4	113.12

母　岩	石　材	個数	重量
V17R-15	CH	1	9.98
V17R-16	CH	1	2.88
V17R-17	CH	1	9.16
V17R-18	CH	1	1.28
V17R-19	SH	2	1.07

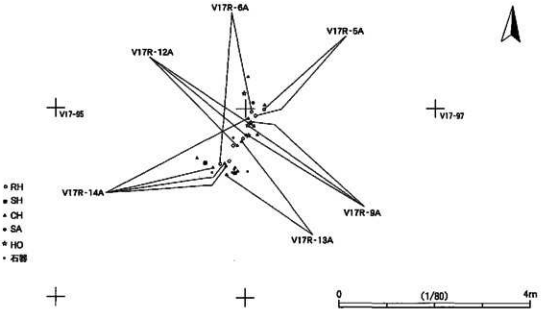
石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	7	331.85
頁岩(SH)	2	1.07
チャート(CH)	16	200.47
砂岩(SA)	2	45.71
ホルンフェルス(HO)	4	142.99
合　計	31	722.09



第206図　V17-Bブロック出土遺物分布（１）－器種別分布－



第207図　V17-Bブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

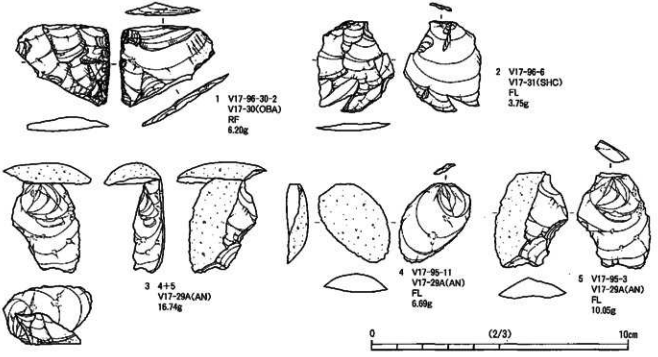


第208図　V17-Bブロック出土遺物分布(３)－礫石材別分布－

る。加工痕ある剥片１点（6.2ｇ）の単独資料である。

・V17-31：灰オリーブ色（5Y6/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（3.8ｇ）の単独資料である。

・V17-32：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y4/1）・灰オリーブ色（5Y5/2）のチャートである。剥片１点（13.4ｇ）の単独資料である。



第209図　V17-Bブロック出土遺物

３）出土遺物（第209図１・２）

１は栃木県高原山産の黒曜石による加工痕ある剥片で，不定型な剥片の右側縁に調整加工を行っている。

２は嶺岡産頁岩による不定型な剥片である。

４）接合資料とその関連資料（第209図３～５）

・V17-29（第209図３～５）　灰色（5Y5/1）などの安山岩である。３は剥片２点（４・５）の接合資料である。４を剥離した後，90度打面転移して５を剥離している。

14　V18-Aブロック（第210～214・400図，第120～122表，カラー図版12・22，図版10）

１）ブロックの概要

V18-Aブロックは，調査範囲東側のV18-24・25・34・35・44・45グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側北台地上の縁辺部である。

ブロックの規模と形状は，長軸９m，短軸４mの範囲に95点の石器・礫が分布する。その内，垂直分布のない遺物が３点ある。出土層位は，Ⅲ層からⅦ層にかけて，60cmほどの高低差をもって包含されているが，中心はⅢ層からⅤ層で，30cmほどである（第210～212図）。

ブロックは，ナイフ形石器３点，角錐状石器１点，加工痕ある剥片１点，敲石１点，剥片41点（39個体），砕片１点，石核10点（９個体）の合計58点（55個体）と礫37点で構成される。石器石材は，安山岩11点，軟質の安山岩24点（23個体），頁岩Ａ４点，頁岩Ｄ13点（11個体），頁岩Ｅ１点，ホルンフェルス５点である。礫石材は，安山岩１点（１母岩；36.0ｇ），流紋岩１点（１母岩；154.1ｇ），凝灰岩２点（２母岩；491.3ｇ），砂岩31点（７母岩；1,072.0ｇ），ホルンフェルス２点（１母岩；314.4ｇ）で，識別率は100％である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは17母岩を識別した。内訳は，安山岩６母岩（V18-１～６），軟質の安山岩２母岩（V18-７・８），頁岩Ａ１母岩（V18-11），頁岩Ｄ３母岩（V18-９・10・12），頁岩Ｅ１母岩（V18-17），ホルンフェルス４母岩（V18-13～16）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（58/58点）である。

・**V18-１**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y4/2），節理はにぶい黄色（2.5Y6/4），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石核１点（35.1ｇ）の単独資料である。

・**V18-２**：自然面は爪形の深い裂痕が密で暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は暗灰黄色（2.5Y4/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石核１点（17.4ｇ）の単独資料である。

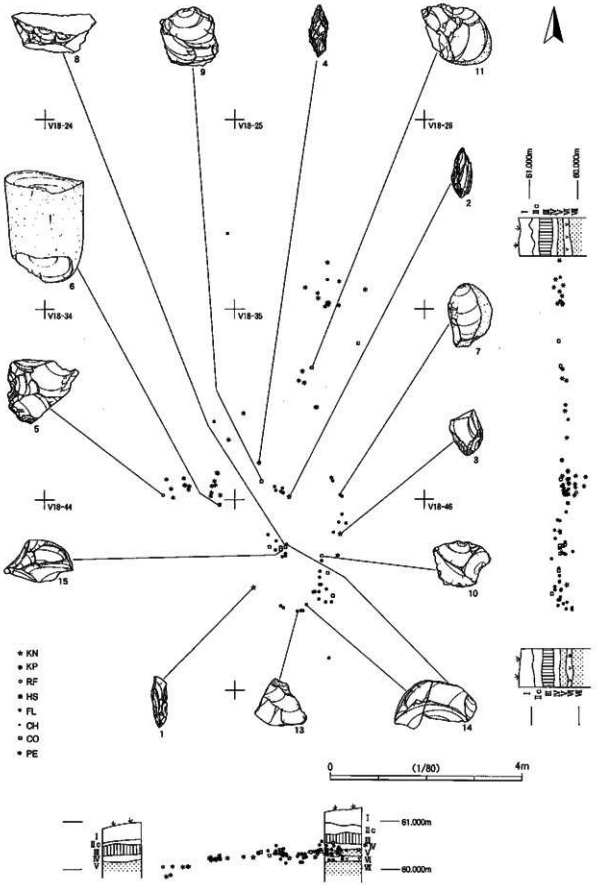
・**V18-３**：自然面は紙ヤスリ状で浅黄色（2.5Y7/4）・灰黄色（2.5Y6/2），内部は灰色（10Y5/1）・灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石核１点（43.3ｇ）の単独資料である。

・**V18-４**：内部はオリーブ褐色（2.5Y4/3），節理は黄褐色（10YR5/6）の安山岩である。剥片１点（1.0ｇ）の単独資料である。

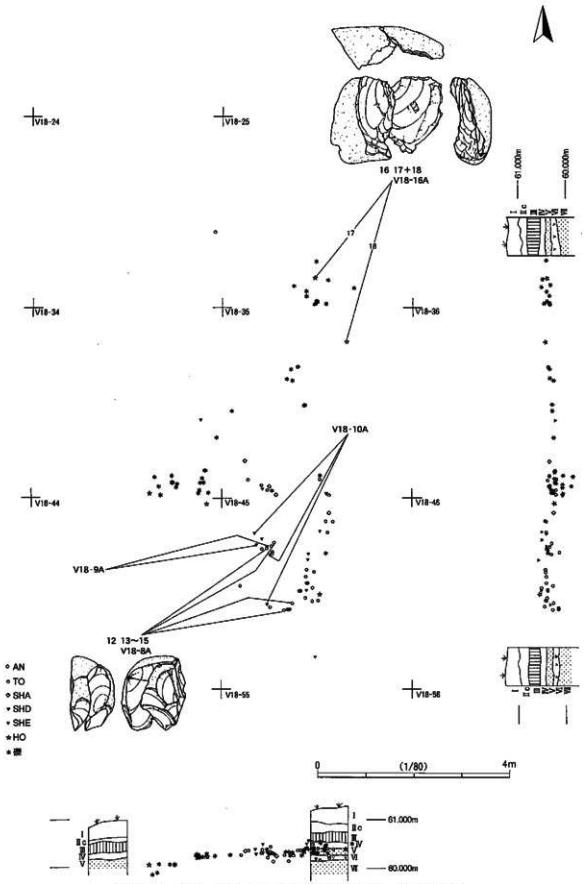
・**V18-５**：内部は灰色（7.5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片１点（4.2ｇ）の単独資料である。

・**V18-６**：内部は灰オリーブ色（5Y4/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片５点，砕片１点の合計６点（6.0ｇ）である。

・**V18-７**：灰オリーブ色（5Y5/2）・灰オリーブ色（5Y6/2）・灰色（5Y4/1）の軟質の安山岩である。石核１点（82.1ｇ）の単独資料である。



第210図　V18-Aブロック出土遺物分布(1)－器種別分布－

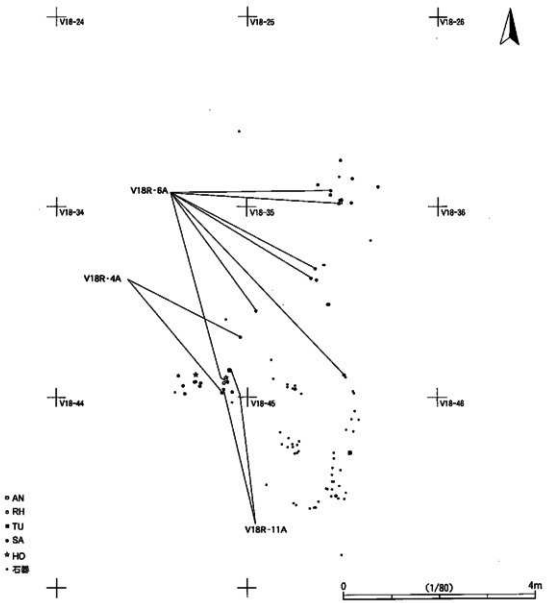


第211図　V18-Aブロック出土遺物分布(2)－石材別分布－

・V18-8：自然面は平滑でにぶい黄色（2.5Y6/4），内部は灰白色（5Y7/1）の地に灰白色（5Y8/1）が部分的に混じり，節理は灰黄色（2.5Y7/2），新鮮な面は灰色（5Y5/1）の軟質の安山岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器２点，剥片20点（19個体），石核１点の合計23点（22個体；107.2ｇ）である。接合資料は，剥片３点（２個体），石核１点の合計４点（３個体；51.0ｇ）である。

・V18-9：自然面は平滑で，自然面及び内部は浅黄色（2.5Y7/3），新鮮な面は灰黄色（2.5Y6/2）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，石核２点（１個体；33.6ｇ）である。接合資料は，石核２点（１個体；33.6ｇ）である。

・V18-10：自然面は凹凸があり褐色（10YR4/4），内部は黄褐色（2.5Y5/4）・灰オリーブ色（5Y5/2）・にぶい



第212図　V18-Aブロック出土遺物分布（３）－礫石材別分布－

黄褐色(10YR5/4)の地に黄灰色(2.5Y5/1)が部分的に混じり，節理は暗赤褐色(5YR3/3)・褐色(7.5YR4/4)・黄褐色(10YR5/6)の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片8点（7個体），石核1点の合計9点（8個体；61.8g）である。接合資料は，剥片3点（2個体；12.9g）である。

・V18-11：灰黄褐色（10YR4/2）・にぶい黄褐色（10YR5/3）の東北産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，角錐状石器1点，剥片2点の合計4点（9.2g）である。

・V18-12：内部はにぶい黄色（2.5Y6/3）・暗灰黄色（2.5Y5/2）・黄灰色（2.5Y5/1）・灰白色（2.5Y7/1），節理はにぶい黄色（2.5Y6/3）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（6.6g）である。

・V18-13：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y4/1）のホルンフェルスである。加工痕ある剥片1点（14.6g）の単独資料である。

・V18-14：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は黄灰色(2.5Y5/1)・灰色(5Y6/1)，新鮮な面は灰色(N4/0)のホルンフェルスである。敲石1点（459.0g）の単独資料である。

・V18-15：自然面は平滑で灰色（7.5Y6/1），内部は灰色（7.5Y6/1）・灰白色（5Y7/2）のホルンフェルスである。石核1点（45.3g）の単独資料である。

・V18-16：自然面は比較的平滑で暗灰黄色(2.5Y5/2)・にぶい黄橙色(10YR6/3)・にぶい黄橙色(10YR7/3)・灰白色(10YR8/2)・黒色(10YR2/1)，内部は暗灰黄色(2.5Y5/2)・灰白色(2.5Y8/2)・にぶい黄橙色(10YR7/3)・灰色（5Y5/1），節理は暗褐色（7.5YR3/4）・黒色（7.5YR2/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片1点，石核1点の合計2点（86.3g）である。接合資料は，剥片1点，石核1点の合計2点（86.3g）である。

・V18-17：自然面は比較的平滑で浅黄色(2.5Y7/3)・灰白色(5Y7/2)の地に黄褐色(10YR5/6)・黄灰色(2.5Y5/1)が部分的に混じり，内部は灰白色（5Y7/2）の地に褐色（10YR4/6）・黄灰色（2.5Y5/1）が部分的に混じる頁岩である。剥片1点（13.4g）の単独資料である。

3）出土遺物（第213図）

1は軟質の安山岩による二側縁加工のナイフ形石器で，比較的厚みのある横長剥片を横位に用い，左側縁と右側縁の下半部に調整加工を行っている。2は東北産頁岩による一側縁加工のナイフ形石器で，横長剥片を横位に用い，左側縁に調整加工を行っている。3は軟質の安山岩による基部加工のナイフ形石器で，不定型な剥片の打面側を基部として，両側縁の基部に調整加工を行っている。

4は東北産頁岩による角錐状石器で，比較的厚みのある横長剥片を横位に用い，左側縁と右側縁の下半部に調整加工を行っている。

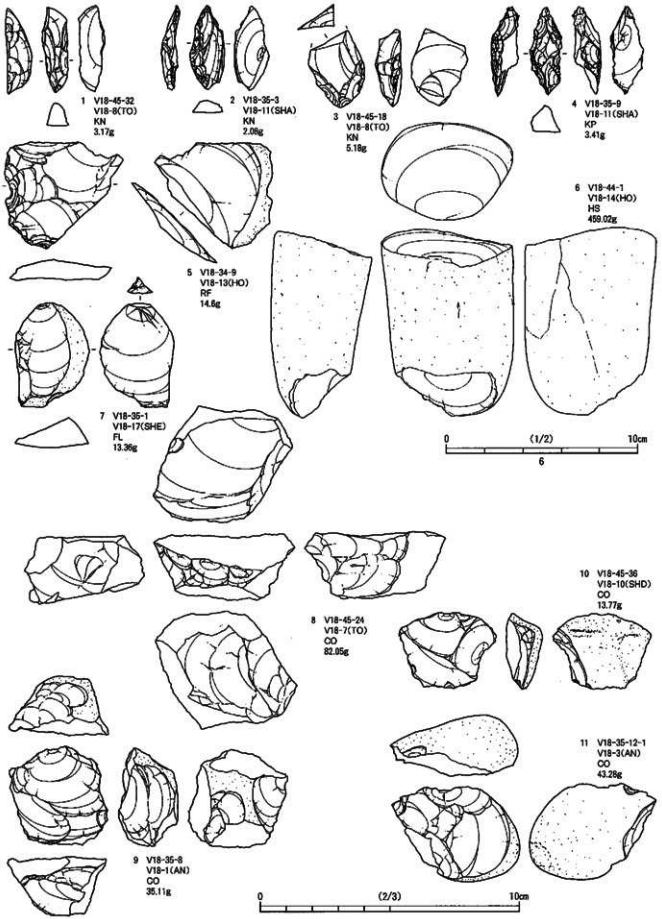
なお，右側縁上部の細かい剥離痕は，素材の主要剥離面等と新旧関係がないため，角錐状石器の製作に伴う調整加工か不明だが，可能性が高い。

5はホルンフェルスによる加工痕ある剥片で，削器の可能性もある。不定型な剥片の末端（正面図上，左側縁）に調整加工を行っている。

6はホルンフェルスによる敲石である。下部の剥離痕を敲打による欠損と考え敲石とした。

7は頁岩による縦長剥片である。

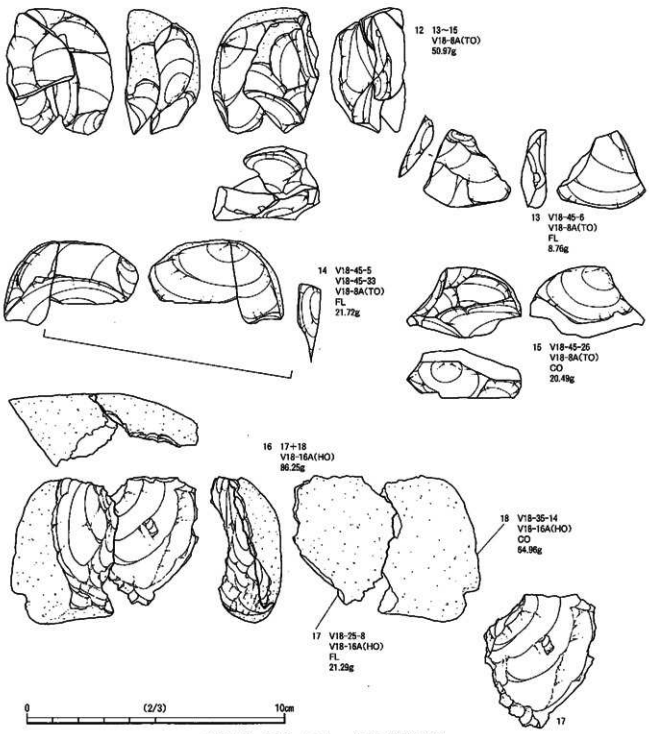
8は軟質の安山岩，9・11は安山岩，10は硬質緻密な頁岩による石核である。8は打面転移を繰り返し，最終的に小型で不定型な剥片を剥離している。9は打面と作業面を入れ替えたもの，10・11は自然面を打面として，求心的な剥離作業を行ったものである。



第213図　V18-Aブロック出土遺物(1)

4）接合資料とその関連資料（第214図）

・V18-8（第214図12～15）　灰白色（5Y7/1）などの軟質の安山岩である。12は剥片3点（2個体；13・14），石核1点（15）の接合資料である。その内，14は剥片2点が接合して1個体となる。13を剥離した後，180度打点を移動して，14を剥離している。15は打面と作業面を入れ替えながら，小型で不定型な剥片を剥離している。



第214図　V18-Aブロック出土遺物（2）

・V18-16（第214図16～18）　暗灰黄色（2.5Y5/2）などのホルンフェルスである。16は剥片１点（17），石核１点（18）の接合資料である。自然面を打面として，打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。

第120表　V18-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
V18-1(AN)																			1						1
V18-2(AN)																			1						1
V18-3(AN)																			1						1
V18-4(AN)																	1								1
V18-5(AN)																	1								1
V18-6(AN)																	5	1							6
V18-7(TO)																			1						1
V18-8(TO)	2																20(19)		1						23(22)
V18-9(SHD)																			2(1)						2(1)
V18-10(SHD)																	8(7)		1						9(8)
V18-11(SHA)	1			1													2								4
V18-12(SHD)																	2								2
V18-13(HO)										1															1
V18-14(HO)															1										1
V18-15(HO)																			1						1
V18-16(HO)																	1		1						2
V18-17(SHE)																	1								1
合計	3			1						1					1		41(39)	1	10(9)						58(55)

第121表　V18-Aブロック石材別石器組成

石材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MO	UK	合計
安山岩(AN)																	7	1	3						11
安山岩(TO)	2																20(19)		2						24(23)
頁岩A(SHA)	1			1													2								4
頁岩D(SHD)																	10(9)		3(2)						13(11)
頁岩E(SHE)																	1								1
ホルンフェルス(HO)											1				1		1		2						5
合計	3			1							1				1		41(39)	1	10(9)						58(55)

第122表　V18-Aブロック礫組成

母岩	石材	個数	重量
V18R-1	RH	1	154.13
V18R-2	TU	1	246.69
V18R-3	TU	1	244.62
V18R-4	SA	2	184.12
V18R-5	SA	1	329.03

母岩	石材	個数	重量
V18R-6	SA	8	190.29
V18R-7	SA	15	127.02
V18R-8	SA	1	24.24
V18R-9	HO	2	314.42
V18R-10	AN	1	35.95
V18R-11	SA	3	175.53
V18R-12	SA	1	41.80

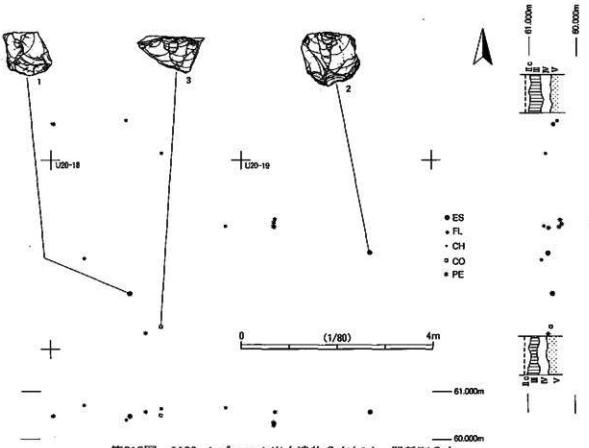
石材	個数	重量
安山岩(AN)	1	35.95
流紋岩(RH)	1	154.13
凝灰岩(TU)	2	491.31
砂岩(SA)	31	1,072.03
ホルンフェルス(HO)	2	314.42
合計	37	2,067.84

15　U20-Aブロック（第215～217・400図，第123～125表，カラー図版12，図版10）

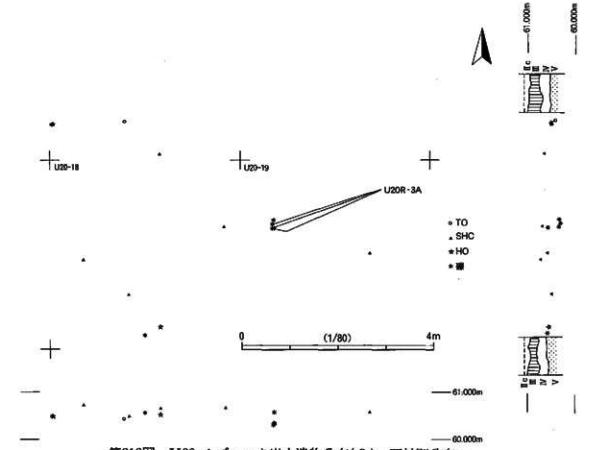
1）ブロックの概要

U20-Aブロックは，調査範囲東側のU20-08・18・19グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側中央台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は40mである。

ブロックの規模と形状は，長軸７m，短軸４mの範囲に14点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅳ層からⅤ層にかけて，40cmほどの高低差をもって包含されている（第215・216図）。



第215図　U20-Aブロック出土遺物分布(1)－器種別分布－



第216図　U20-Aブロック出土遺物分布(2)－石材別分布－

ブロックは，掻器２点，剥片４点，砕片１点，石核１点の合計８点と礫６点で構成される。石器石材は，軟質の安山岩１点，頁岩Ｃ５点，ホルンフェルス２点である。礫石材は，流紋岩１点（１母岩；131.0ｇ），凝灰岩４点（２母岩；297.0ｇ），ホルンフェルス１点（１母岩；1.0ｇ）で，識別率は100％である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは７母岩を識別した。内訳は，軟質の安山岩１母岩（U20-１），頁岩Ｃ４母岩（U20-２～５），ホルンフェルス２母岩（U20-６・７）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（８/８点）である。

・U20-１：灰白色（5Y7/1）・浅黄色（2.5Y7/4）の軟質の安山岩である。剥片１点（1.0ｇ）の単独資料である。

・U20-２：灰オリーブ色（5Y6/2）の地に灰色（5Y5/1）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。掻器１点（14.9ｇ）の単独資料である。

・U20-３：灰オリーブ色（5Y5/2）・オリーブ黄色（5Y6/3）・褐色（7.5YR4/6）の嶺岡産頁岩である。掻器１点（19.6ｇ）の単独資料である。

・U20-４：灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y5/1）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（6.3ｇ）である。

・U20-５：灰オリーブ色（5Y5/2）・にぶい黄色（2.5Y6/3）・明黄褐色（2.5Y7/6）の地に黒褐色（10YR3/2）の付着物のある嶺岡産頁岩である。剥片１点（4.0ｇ）の単独資料である。

・U20-６：自然面は比較的平滑で灰色（5Y5/1）・灰白色（5Y7/1）・灰オリーブ色（5Y5/2），内部は灰オリーブ色（5Y6/2）・灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y5/1），節理はにぶい黄色（2.5Y6/4）・灰色（5Y5/1），新鮮な面は灰色（N4/0）のホルンフェルスである。石核１点（44.5ｇ）の単独資料である。

第123表　U20-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
U20-1(TO)																	1								1
U20-2(SHO)					1																				1
U20-3(SHO)					1																				1
U20-4(SHO)																	2								2
U20-5(SHO)																	1								1
U20-6(HO)																			1						1
U20-7(HO)																		1							1
合　計					2												4	1	1						8

第124表　U20-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
安山岩(TO)																	1								1
頁岩C(SHO)					2												3								5
ホルンフェルス(HO)																		1	1						2
合　計					2												4	1	1						8

第125表　U20-Aブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
U20R-1	RH	1	130.97
U20R-2	TU	1	58.11
U20R-3	TU	3	238.85
U20R-4	HO	1	1.04

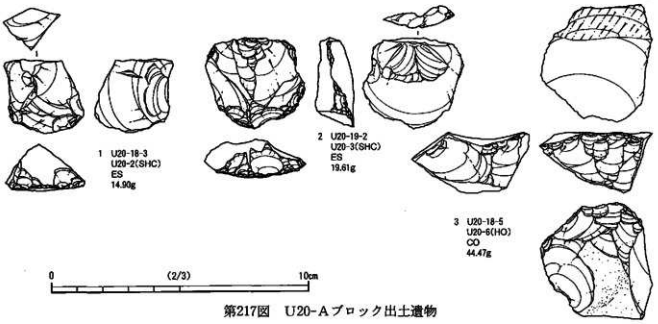
石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	1	130.97
凝灰岩(TU)	4	296.96
ホルンフェルス(HO)	1	1.04
合　計	6	428.97

・U20-7：灰オリーブ色（5Y6/2）のホルンフェルスである。砕片1点（0.2g）の単独資料である。

3）出土遺物（第217図）

1・2は嶺岡産頁岩による掻器で，厚めで不定型な剥片の末端に急角度の調整加工を行っている。

3はホルンフェルスによる石核で，厚めで不定型な剥片の主要剥離面を打面として，求心的な剥離作業を行っている。



第217図　U20-Aブロック出土遺物

16　U21-Cブロック（第218～223・401図，第126～128表，カラー図版12・23）

1）ブロックの概要

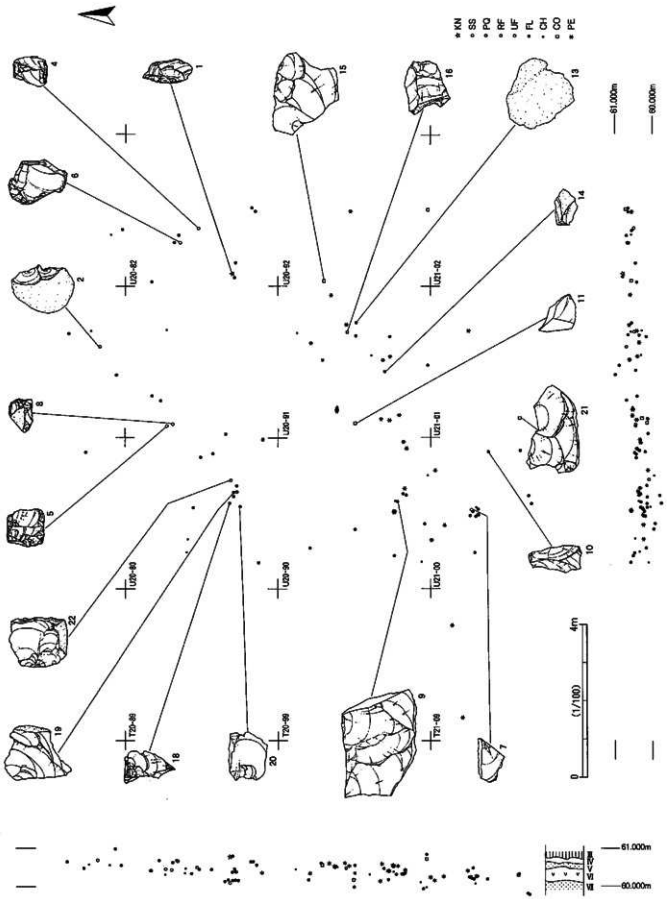
U21-Cブロックは，調査範囲東側のT21-09，U20-70～72・80～82・90～92，U21-00・01グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側中央台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸16m，短軸11mの範囲に98点の石器・礫が分布する。その内，原位置不明の遺物が1点あり，その他に垂直分布のない遺物が2点ある。出土層位は，Ⅲ層からⅦ層にかけて，120cmほどの高低差をもって包含されている（第218～220図）。

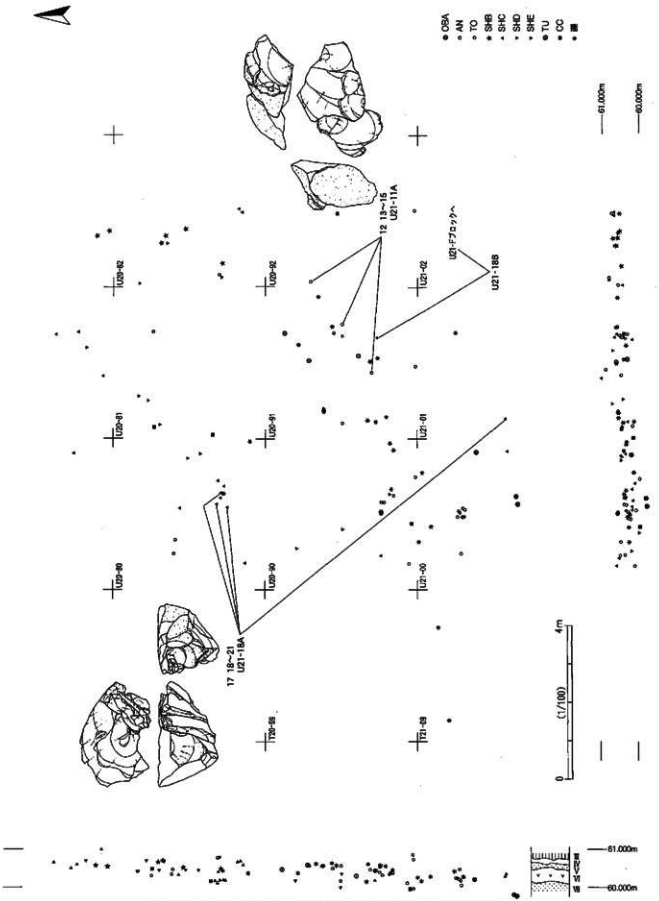
ブロックは，ナイフ形石器1点，削器2点，楔形石器3点，加工痕ある剥片3点，使用痕ある剥片1点，剥片46点，砕片12点，石核4点の合計72点と礫26点で構成される。石器石材は，黒曜石A3点，安山岩22点，軟質の安山岩2点，頁岩B7点，頁岩C18点，頁岩D8点，頁岩E6点，凝灰岩3点，瑪瑙・玉髄3点である。礫石材は，安山岩4点（2母岩；70.0g），流紋岩3点（3母岩；2,165.5g），凝灰岩2点（2母岩；752.9g），砂岩11点（5母岩；577.6g），ホルンフェルス4点（2母岩；140.7g），識別できなかった砂岩2点（0.2g）で，識別率は92%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは23母岩を識別した。内訳は，黒曜石A1母岩（U21-13），安山岩3母岩（U21-10～12），軟質の安山岩1母岩（U21-9），頁岩B2母岩（U21-15・16），頁岩C4母岩（U21-17～20），頁岩D4母岩



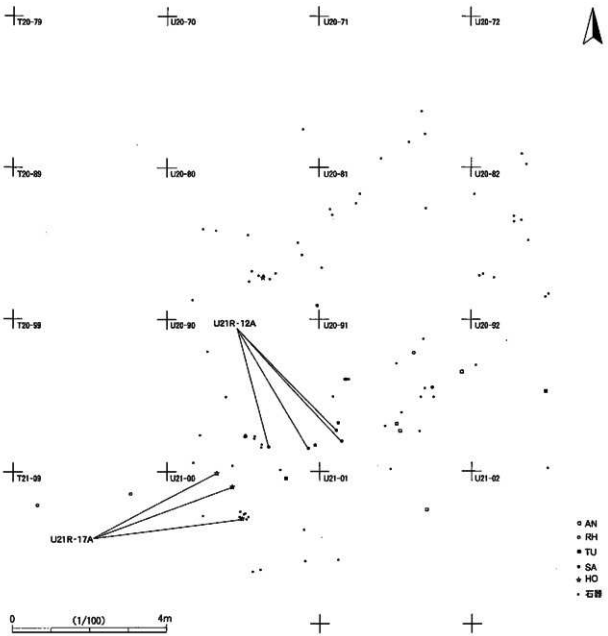
第218図　U21-Cブロック出土遺物分布(1)－器種別分布－



第219図　U21-Cブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

（U21-21～24），頁岩Ｅ４母岩（U21-25～28），凝灰岩１母岩（U21-14），瑪瑙・玉髄３母岩（U21-29～31）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は92%（66/72点）である。

・U21-9：灰白色（7.5Y7/1）の資料と黄褐色（2.5Y5/4）・灰色（5Y5/1）の資料がある軟質の安山岩である。後者はイモ石の可能性もある。石器群の内訳は，砕片１点，石核１点の合計２点（7.0ｇ）である。



第220図　U21-Cブロック出土遺物分布（３）－礫石材別分布－

第126表　U21-Cブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
U21-9(TO)																		1	1						2
U21-10(AN)										1							8	3							12
U21-11(AN)										1							2		2						5
U21-12(AN)	1																								1
U21-13(OBA)																	1								1
U21-14(TU)																	3								3
U21-15(SHB)									2								2	1							5
U21-16(SHB)																	2								2
U21-17(SHC)																	3	1							4
U21-18(SHC)						1											10		1						12
U21-19(SHC)																	1								1
U21-20(SHC)																	1								1
U21-21(SHD)																	1								1
U21-22(SHD)											1						2								3
U21-23(SHD)						1											1								2
U21-24(SHD)																	2								2
U21-25(SHE)																	2								2
U21-26(SHE)																	1								1
U21-27(SHE)										1							1								2
U21-28(SHE)																	1								1
U21-29(CC)																	1								1
U21-30(CC)																	1								1
U21-31(CC)									1																1
その他(AN)																		4							4
その他(OBA)																		2							2
合　計	1					2			3	3	1						46	12	4						72

第127表　U21-Cブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
黒曜石A(OBA)																	1	2							3
安山岩(AN)	1									2							10	7	2						22
安山岩(TO)																		1	1						2
頁岩B(SHB)									2								4	1							7
頁岩C(SHC)						1											15	1	1						18
頁岩D(SHD)						1					1						6								8
頁岩E(SHE)										1							5								6
凝灰岩(TU)																	3								3
珪質・玉髄(CC)									1								2								3
合　計	1					2			3	3	1						46	12	4						72

第128表　U21-Cブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
U21R-5	AN	3	44.01
U21R-6	AN	1	28.00
U21R-7	RH	1	2136.60
U21R-8	RH	1	15.79
U21R-9	RH	1	13.10
U21R-10	TU	1	438.14
U21R-11	TU	1	314.78
U21R-12	SA	4	428.99
U21R-13	SA	1	145.03
U21R-14	SA	2	2.04

母　岩	石　材	個数	重量
U21R-15	SA	1	0.89
U21R-16	SA	3	0.69
U21R-17	HO	3	140.57
U21R-18	HO	1	0.09
その他	SA	2	0.20

石　材	個数	重量
安山岩(AN)	4	70.01
流紋岩(RH)	3	2,165.49
凝灰岩(TU)	2	752.92
砂岩(SA)	13	577.84
ホルンフェルス(HO)	4	140.66
合　計	26	3,706.92

・U21-10：内部は灰色（10Y4/1）の地に暗灰黄色（2.5Y5/2）が部分的に混じり，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片８点，砕片３点の合計12点（80.0ｇ）である。
・U21-11：自然面は紙ヤスリ状でオリーブ褐色（2.5Y4/4），内部は暗灰黄色（2.5Y4/2），節理はにぶい黄色（2.5Y6/4），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片２点，石核２点の合計５点（111.1ｇ）である。接合資料は，剥片２点，石核１点の合計３点（91.9ｇ）である。
・U21-12：灰色（N4/0）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の安山岩である。ナイフ形石器１点（3.1ｇ）の単独資料である。
・U21-13：黒灰色の黒曜石である。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。剥片１点（1.4ｇ）の単独資料である。
・U21-14：自然面は平滑で灰オリーブ色（5Y5/3），内部はオリーブ灰色（10Y6/2），節理はにぶい黄色（2.5Y6/4），新鮮な面は灰色（N4/0）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片３点（16.5ｇ）である。
・U21-15：自然面は平滑で浅黄色（2.5Y7/3），内部は黄褐色（2.5Y5/3）・暗灰黄色（2.5Y4/2），新鮮な面は暗灰黄色（2.5Y4/2）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器２点，剥片２点，砕片１点の合計５点（13.7ｇ）である。
・U21-16：自然面は凹凸があり灰白色（5Y7/2），内部は黒褐色（2.5Y3/2），節理はにぶい黄色（2.5Y6/3）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（2.5ｇ）である。
・U21-17：内部は灰オリーブ色（5Y6/2）・灰色（5Y5/1），節理は黄褐色（2.5Y5/3）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片３点，砕片１点の合計４点（5.2ｇ）である。
・U21-18：自然面は比較的平滑で褐色（10YR4/4）・黒褐色（10YR3/1），内部はにぶい黄褐色（10YR5/4）・にぶい黄色（2.5Y6/3）・灰色（5Y6/1），節理はにぶい褐色（7.5YR5/4）・褐色（10YR4/4），新鮮な面は褐灰色（10YR4/1）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，削器１点，剥片10点，石核１点の合計12点（187.6ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片３点，石核１点の合計４点（101.3ｇ）である。Ｂは剥片１点（6.9ｇ）が，U21-Ｆブロックの剥片１点と接合している。
・U21-19：灰色（5Y6/1）・灰白色（10Y7/1）の地に，表面に近い部分がにぶい黄褐色（10YR5/4）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（1.6ｇ）の単独資料である。
・U21-20：内部は灰オリーブ色（5Y6/2），節理は明褐色（7.5YR5/6）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（1.9ｇ）の単独資料である。
・U21-21：オリーブ灰色（2.5GY5/1）・黒褐色（2.5Y3/2）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（3.4ｇ）の単独資料である。
・U21-22：自然面は比較的平滑で灰黄褐色（10YR4/2），内部は黒褐色（7.5YR3/2）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片２点の合計３点（6.9ｇ）である。
・U21-23：自然面は爪形の浅い裂痕が粗でオリーブ黒色（5Y3/2），内部はオリーブ黒色（7.5Y3/2）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，削器１点，剥片１点の合計２点（21.8ｇ）である。
・U21-24：自然面は比較的平滑で黒褐色（10YR3/2），内部は黒褐色（2.5Y3/1）の地に暗灰黄色（2.5Y5/2）が部分的に混じる硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（11.7ｇ）である。
・U21-25：自然面は比較的平滑で黒褐色（2.5Y3/1），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y4/1），節理は暗褐色（7.5YR3/4）の資料，自然面は比較的平滑で黒褐色（2.5Y3/2），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色

（5Y4/1）の資料など母岩内に変異がある頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（4.5g）である。

・U21-26：灰白色（5Y7/1）・灰白色（5Y7/2）の頁岩である。剥片1点（3.6g）の単独資料である。

・U21-27：自然面は比較的平滑で灰白色（2.5Y8/2），内部はにぶい黄色（2.5Y6/3）・灰黄色（2.5Y7/2）・黄灰色（2.5Y6/1）の頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，剥片1点の合計2点（5.2g）である。

・U21-28：自然面は平滑でにぶい赤褐色（2.5YR4/3），内部はにぶい赤褐色（5YR4/3）・黄灰色（2.5Y5/1）・灰褐色（7.5Y5/2）の頁岩である。剥片1点（6.2g）の単独資料である。

・U21-29：自然面は紙ヤスリ状の部分と平滑な部分があり明黄褐色(2.5Y7/6)・赤褐色(5YR4/6)・褐色(7.5YR4/6)・黒褐色（7.5YR3/2），内部は灰白色（2.5Y8/2）・明黄褐色（10YR6/6）・褐色（7.5YR4/6）で半透明な瑪瑙・玉髄である。剥片1点（17.1g）の単独資料である。

・U21-30：自然面は平滑で，自然面及び内部は明赤褐色（2.5YR5/8）・灰白色（2.5Y8/2）で半透明な瑪瑙・玉髄である。剥片1点（2.3g）の単独資料である。

・U21-31：淡黄色（2.5YR8/4）・灰白色（2.5Y8/2）で半透明な瑪瑙・玉髄である。楔形石器1点（6.3g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の砕片4点（1.5g），黒曜石Aの砕片2点（0.7g）がある。

3）出土遺物（第221図）

1は安山岩による一側縁加工のナイフ形石器で，横長剥片を横位に用い，左側縁に調整加工を行っている。

2は硬質緻密な頁岩による削器である。縦長剥片の裏面の右側縁から末端にかけて調整加工を行っており，末端には微細な剥離痕が見られる。なお，正面右側には横長の剥離痕が見られるが，主要剥離面を打面として剥離した剥離痕と考えられ，このことから本石器については石核からの転用が考えられる。

3・4は北関東産頁岩，5は瑪瑙・玉髄による楔形石器で，上下両端に対向する剥離痕が見られる。

6は頁岩，7は安山岩による加工痕ある剥片である。6は左側縁に調整加工を行っており，両面の左側縁上部に微細な剥離痕が見られる。7は上部の折断面に細かい調整加工を行っている。

8は硬質緻密な頁岩による使用痕ある剥片で，右側縁と末端に微細な剥離痕が見られる。

9は安山岩，10は凝灰岩による横長や縦長の剥片である。

11は軟質の安山岩による石核で，厚めで不定型な剥片の主要剥離面を打面として，小型で不定型な剥片を剥離している。なお，正面の剥離面も作業面の可能性が高い。

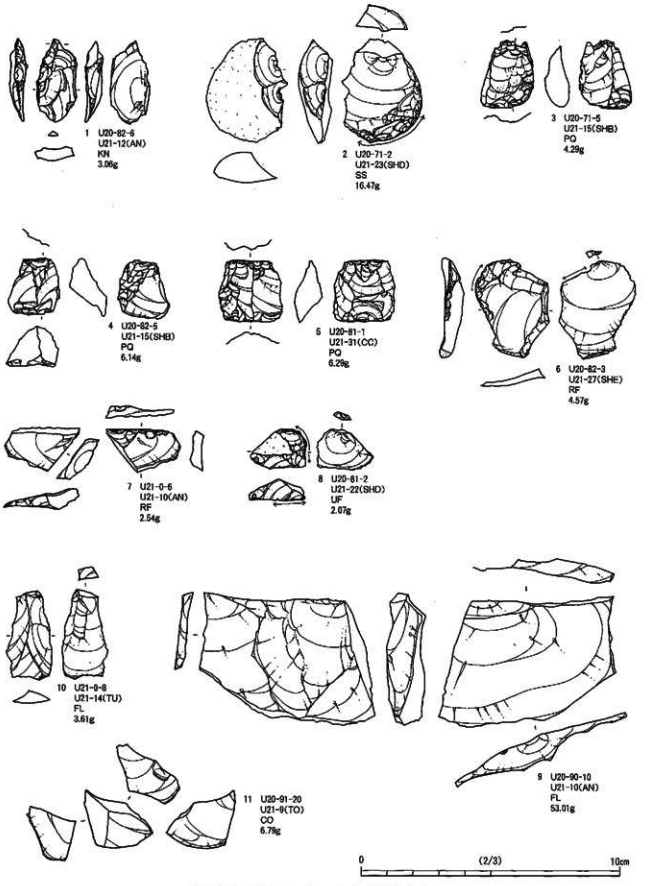
4）接合資料とその関連資料（第222・223図）

・U21-11（第222図）　暗灰黄色（2.5Y4/2）などの安山岩である。12は剥片2点（13・14），石核1点（15）の接合資料である。13を剥離し，90度打面転移して剥離した個体（14・15）から打面と作業面を入れ替えたり，求心的な剥離作業によって不定型な剥片を剥離している。

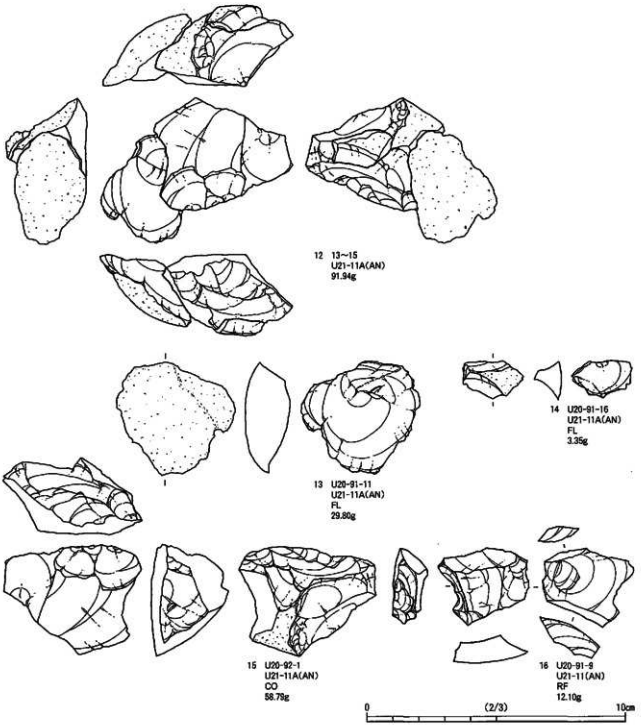
16は接合しなかった同一母岩の加工痕ある剥片で，左側縁に鋸歯状の調整加工を行っている。

・U21-18（第223図）　にぶい黄褐色（10YR5/4）などの横岡産頁岩である。17は剥片3点（18～20），石核1点（21）の接合資料である。18～20を剥離した後，21は打面と作業面を入れ替えながら不定型な剥片を剥離している。

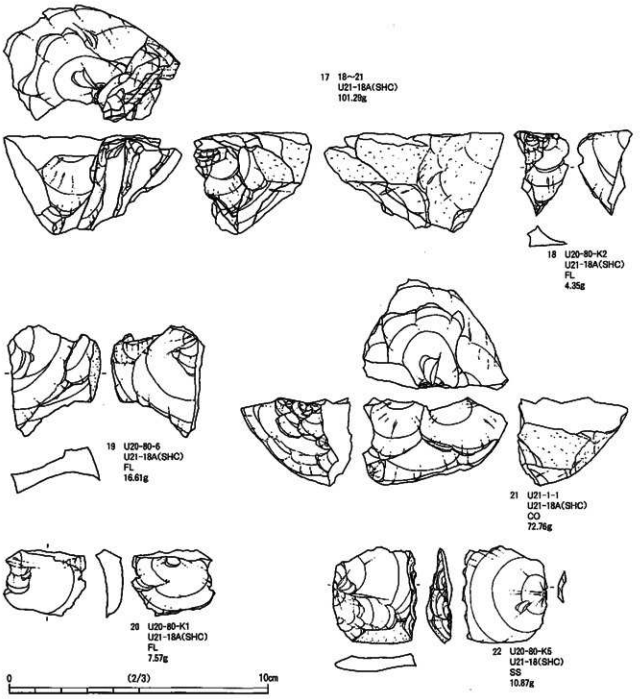
22は接合しなかった同一母岩の削器で，不定型な剥片を用い，右側縁に調整加工を行っている。



第221図　U21-Cブロック出土遺物(1)



第222図　U21-Cブロック出土遺物(2)



第223図　U21-Cブロック出土遺物(3)

17　U21-Dブロック（第224～227・400図，第129～131表，カラー図版12，図版10）

1）ブロックの概要

U21-Dブロックは，調査範囲東側のU21-11・20・21・31グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側中央台地上の縁辺部である。

ブロックの規模と形状は，長軸８ｍ，短軸４ｍの範囲に23点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅱc層からⅤ層にかけて，50cmほどの高低差をもって包含されている（第224～226図）。

ブロックは，ナイフ形石器1点，剥片4点の合計5点と礫18点で構成される。石器石材は，軟質の安山岩1点，頁岩B1点，頁岩C1点，頁岩D1点，チャート1点である。礫石材は，安山岩1点（1母岩；87.7g），流紋岩6点（2母岩；510.4g），凝灰岩1点（1母岩；32.6g），砂岩8点（3母岩；393.6g），花崗岩2点（1母岩；169.0g）で，識別率は100%である。なお，U21R-54についてはU21-Fブロックと接合関係がある。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは5母岩を識別した。内訳は，軟質の安山岩1母岩（U21-1），頁岩B1母岩（U21-2），頁岩C1母岩（U21-3），頁岩D1母岩（U21-4），チャート1母岩（U21-5）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（5/5点）である。

・U21-1：内部は灰白色（5Y7/1），節理はオリーブ黄色（5Y6/3），新鮮な面は灰色（5Y5/1）の軟質の安山岩である。剥片1点（0.8g）の単独資料である。

・U21-2：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色(10YR5/4)，内部は黄褐色(2.5Y5/4)，節理は黄褐色(10YR5/6)・褐色（7.5YR4/4），北関東産頁岩である。剥片1点（11.0g）の単独資料である。

・U21-3：内部は灰色（5Y6/1）・褐色（10YR4/6）・灰オリーブ色（5Y5/2），節理は褐色（10YR4/6）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（5.2g）の単独資料である。

・U21-4：暗灰黄色（2.5Y4/2）の硬質緻密な頁岩である。ナイフ形石器1点（4.9g）の単独資料である。

・U21-5：内部は灰白色（N7/0）・灰色（N6/0），節理は浅黄色（2.5Y7/3）のチャートである。剥片1点（29.2g）の単独資料である。

3）出土遺物（第227図）

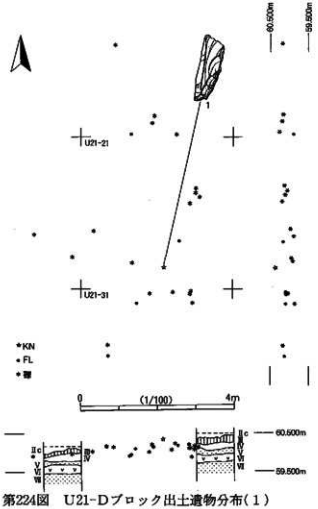
1は硬質緻密な頁岩による一側縁あるいは二側縁加工のナイフ形石器で，横長剥片を横位に用い，右側縁と末端に調整加工を行っており，裏面の先端部には微細な剥離痕が見られる。なお，裏面右側縁の下部と末端の一部に細かい剥離痕が見られるが，これを調整加工と考えれば，二側縁加工となる。

第129表　U21-Dブロック母岩別石器組成

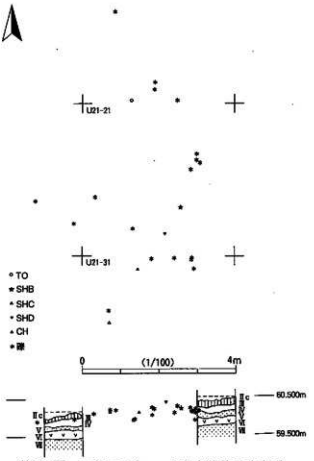
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
U21-1(TO)																	1								1
U21-2(SHB)																	1								1
U21-3(SHC)																	1								1
U21-4(SHD)	1																								1
U21-5(CH)																	1								1
合計	1																4								5

第130表　U21-Dブロック石材別石器組成

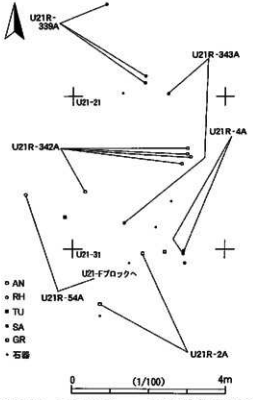
石材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
安山岩(TO)																	1								1
頁岩B(SHB)																	1								1
頁岩C(SHC)																	1								1
頁岩D(SHD)	1																								1
チャート(CH)																	1								1
合計	1																4								5



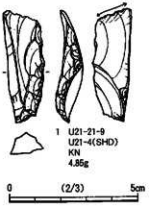
第224図　U21-Dブロック出土遺物分布（１）
－器種別分布－



第225図　U21-Dブロック出土遺物分布（２）
－石材別分布－



第226図　U21-Dブロック出土遺物分布（３）
－礫石材別分布－



第227図　U21-Dブロック
出土遺物

第131表　U21-Dブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
U21R-1	AN	1	87.66
U21R-2	QR	2	168.99
U21R-3	TU	1	32.55
U21R-4	SA	3	128.48
U21R-54	RH	1	141.05

母　岩	石　材	個数	重量
U21R-339	SA	3	174.04
U21R-342	RH	5	369.35
U21R-343	SA	2	91.04

石　材	個数	重量
安山岩(AN)	1	87.66
流紋岩(RH)	6	510.40
凝灰岩(TU)	1	32.55
砂岩(SA)	8	393.56
花崗岩(QR)	2	168.99
合　計	18	1,193.16

18　U21-Eブロック（第228～232・401図，第132～134表，カラー図版12・23，図版10）

1）ブロックの概要

U21-Eブロックは，調査範囲東側のU21-03・12・13・22・23グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側中央台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離15mである。

ブロックの規模と形状は，長軸10m，短軸４mの範囲に101点の石器・礫が分布する。その内，垂直分布のない遺物が１点ある。出土層位は，Ⅲ層からⅤ層にかけて，70cmほどの高低差をもって包含されている（第228～230図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，削器１点，加工痕ある剥片２点，使用痕ある剥片３点，剥片32点，砕片３点，石核３点の合計45点と礫56点で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ１点，黒曜石Ｇ１点，安山岩９点，流紋岩１点，頁岩Ｂ２点，頁岩Ｃ13点，頁岩Ｄ10点，頁岩Ｅ２点，砂岩１点，瑪瑙・玉髄５点である。礫石材は，安山岩11点（４母岩；637.6ｇ），流紋岩７点（５母岩；210.7ｇ），凝灰岩４点（３母岩；566.0ｇ），砂岩32点（14母岩；1,661.9ｇ），花崗岩２点（１母岩；228.8ｇ）で，識別率は100％である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは27母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ１母岩（U21-39），黒曜石Ｇ１母岩（U21-40），安山岩６母岩（U21-32～37），流紋岩１母岩（U21-38），頁岩Ｂ１母岩（U21-41），頁岩Ｃ７母岩（U21-42～48），頁岩Ｄ５母岩（U21-49～53），頁岩Ｅ２母岩（U21-54・55），砂岩１母岩（U21-56），瑪瑙・玉髄２母岩（U21-57・58）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は98％（44/45点）である。

・U21-32：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部はにぶい黄色（2.5Y6/3）・灰黄色（2.5Y6/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石核１点（44.3ｇ）の単独資料である。なお，自然面は剥離面の可能性がある。

・U21-33：オリーブ褐色（2.5Y4/4）の安山岩である。剥片１点（2.6ｇ）の単独資料である。

・U21-34：灰色（5Y4/1）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点（8.9ｇ）である。

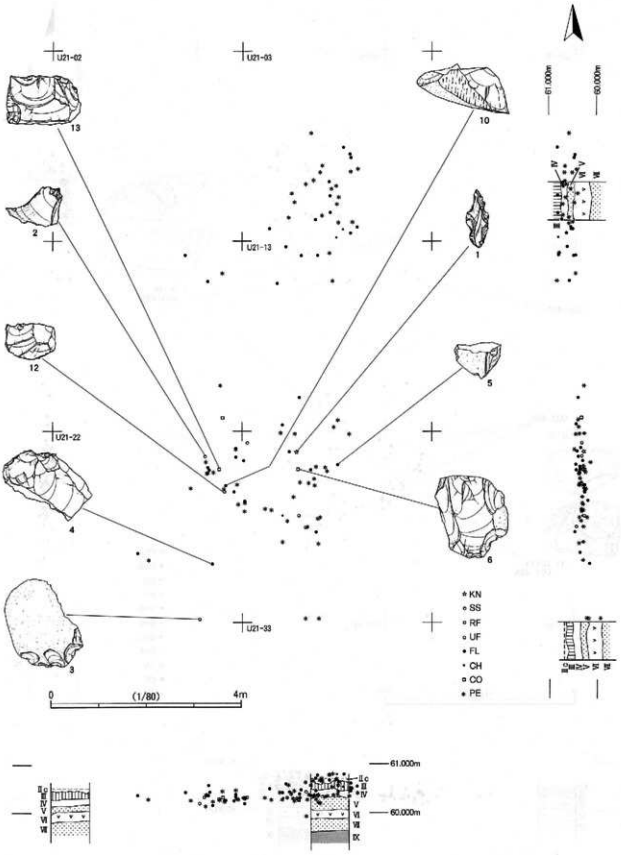
・U21-35：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y4/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片１点（9.9ｇ）の単独資料である。

・U21-36：灰オリーブ色（5Y4/2）の安山岩である。剥片１点（2.9ｇ）の単独資料である。

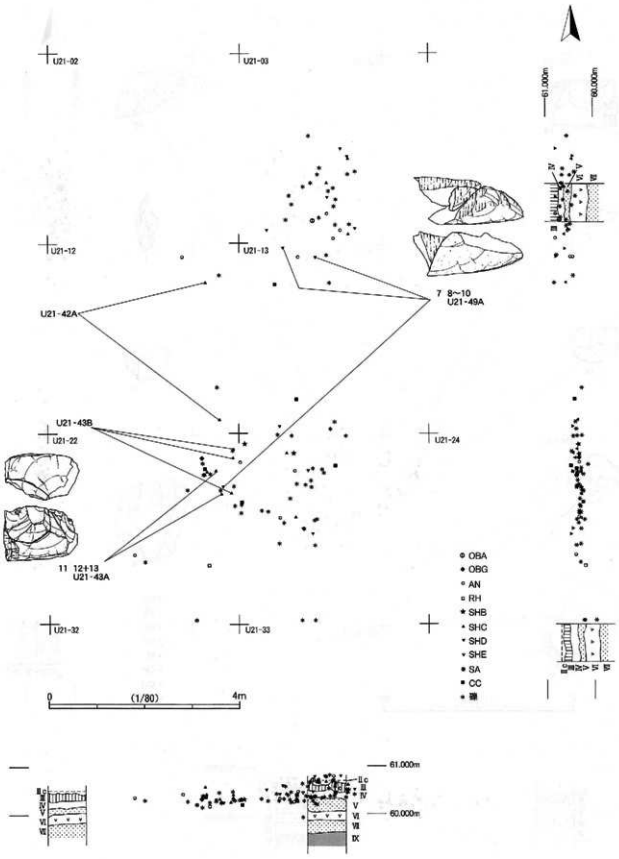
・U21-37：黒褐色（2.5Y3/2）の資料，黒褐色（2.5Y3/1）の資料など母岩内に変異のある安山岩である。あるいは別母岩の可能性もある。石器群の内訳は，砕片２点（1.5ｇ）である。

・U21-38：灰色（10Y4/1）・灰色（10Y6/1）・灰白色（10Y8/1）の地に灰色（N4/0）・灰白色（10Y8/2）・灰白色（10Y8/1）が部分的に混じる流紋岩である。剥片１点（23.4ｇ）の単独資料である。

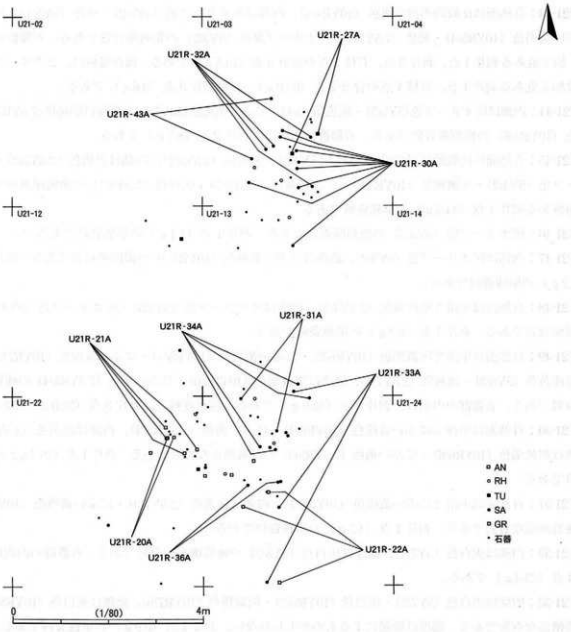
・U21-39：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は黒灰色の地に黒色の縞が入る黒曜石である。φ１mm～２mmほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。剥片１点（29.4ｇ）の単独資料である。



第228図　U21-Eブロック出土遺物分布(1)－器種別分布－



第229図　U21-Eブロック出土遺物分布(2)－石材別分布－



第230図　U21－Eブロック出土遺物分布（３）－礫石材別分布－

・**U21-40**：自然面は爪形の浅い裂痕が密で，自然面及び内部は淡黒灰色で半透明な黒曜石である。産地は不明である。加工痕ある剥片１点（5.5ｇ）の単独資料である。

・**U21-41**：自然面は平滑でにぶい黄色（2.5Y6/3），内部は灰黄褐色（10YR4/2）・にぶい黄褐色（10YR5/3）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，使用痕ある剥片１点の合計２点（8.6ｇ）である。

・**U21-42**：自然面は爪形の浅い裂痕が粗でオリーブ褐色(2.5Y4/6)，内部は灰色(5Y5/1)・灰オリーブ色(5Y6/2)・灰オリーブ色（5Y5/3），節理は褐色（7.5YR4/4）・褐色（10YR4/6）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（28.2ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（28.2ｇ）である。

・**U21-43**：自然面は比較的平滑で褐色（10YR4/4），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y5/1），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）・褐色（7.5YR4/6）・オリーブ黒色（5Y3/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片３点，石核１点の合計５点（74.5ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは加工痕ある剥片１点，石核１点の合計２点（64.9ｇ），Ｂは剥片３点（9.6ｇ）である。

・**U21-44**：内部は灰オリーブ色(5Y5/3)・灰色(5Y5/1)・にぶい黄褐色(10YR5/4),節理は明褐色(7.5YR5/6)・褐色（10YR4/6）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（8.7ｇ）である。

・**U21-45**：自然面は比較的平滑で暗灰黄色（2.5Y4/2）・黒褐色（2.5Y3/2），内部は黒褐色（2.5Y3/2）・灰オリーブ色（5Y4/2）・灰黄褐色（10YR4/2）・にぶい黄色（2.5Y6/3）・灰白色（2.5Y8/1）の嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片１点（44.5ｇ）の単独資料である。

・**U21-46**：灰オリーブ色（5Y5/3）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（1.1ｇ）の単独資料である。

・**U21-47**：内部は灰オリーブ色（5Y5/2），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（1.2ｇ）の単独資料である。

・**U21-48**：自然面は平滑で暗灰黄色（2.5Y4/2），内部は灰オリーブ色（5Y5/3）・灰オリーブ色（5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（8.2ｇ）の単独資料である。

・**U21-49**：自然面は平滑で灰黄褐色（10YR5/2）・にぶい黄褐色（10YR5/4）・にぶい黄橙色（10YR7/4），内部は淡黄色（5Y8/3）・浅黄色（2.5Y7/4），節理は明黄褐色（10YR6/6）・にぶい褐色（7.5YR5/4）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片３点（52.0ｇ）である。接合資料は，剥片３点（52.0ｇ）である。

・**U21-50**：自然面は平滑でにぶい黄橙色（10YR6/4）・にぶい褐色（7.5YR5/4），内部は淡黄色（2.5Y8/4），節理は明黄褐色（10YR6/6）・にぶい褐色（7.5YR5/4）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（29.4ｇ）の単独資料である。

・**U21-51**：自然面は平滑でにぶい黄橙色（10YR6/4），内部は浅黄色（2.5Y7/3）・にぶい黄橙色（10YR6/4）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（1.5ｇ）の単独資料である。

・**U21-52**：内部は灰白色（5Y7/2），節理は灰白色（5Y8/2）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片４点（23.4ｇ）である。

・**U21-53**：内部は灰白色（5Y7/2）・灰白色（10YR8/2）・明黄褐色（10YR7/6），節理は灰白色（10YR8/1）の硬質緻密な頁岩である。節理は被熱によるものかもしれない。剥片１点（0.9ｇ）の単独資料である。

・**U21-54**：灰白色（2.5Y8/2）の地に暗灰黄色（2.5Y5/2）が部分的に混じる頁岩である。使用痕ある剥片１点（1.8ｇ）の単独資料である。

・**U21-55**：褐灰色（10YR5/1）・黄褐色（2.5Y5/3）・黄灰色（2.5Y5/1）・灰黄色（2.5Y6/2）の頁岩である。剥片１点（3.8ｇ）の単独資料である。

・**U21-56**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部はオリーブ灰色（10Y5/2）・灰黄色（2.5Y6/2）・緑灰色（7.5GY5/1）・灰白色（5Y7/2），節理は暗褐色（10YR3/3）の砂岩である。削器１点（136.8ｇ）の単独資料である。

・**U21-57**：自然面は平滑で明黄褐色（10YR6/6）・灰白色（10YR8/2），内部は灰黄褐色（10YR6/2）・灰黄褐色（10YR5/2）・褐色（10YR4/6）で半透明な瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片４点（16.9ｇ）である。

・**U21-58**：にぶい黄色（2.5Y6/4）で半透明な瑪瑙・玉髄である。剥片１点（4.0ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の砕片１点（0.1ｇ）がある。

第132表　U21-Eブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合 計
U21-32(AN)																			1						1
U21-33(AN)																	1								1
U21-34(AN)																	2								2
U21-35(AN)																	1								1
U21-36(AN)																	1								1
U21-37(AN)																		2							2
U21-38(RH)																	1								1
U21-39(OBA)																	1								1
U21-40(OBG)										1															1
U21-41(SHB)	1										1														2
U21-42(SHC)																	1		1						2
U21-43(SHC)										1							3		1						5
U21-44(SHC)																	2								2
U21-45(SHC)											1														1
U21-46(SHC)																	1								1
U21-47(SHC)																	1								1
U21-48(SHC)																	1								1
U21-49(SHD)																	3								3
U21-50(SHD)																	1								1
U21-51(SHD)																	1								1
U21-52(SHD)																	4								4
U21-53(SHD)																	1								1
U21-54(SHE)											1														1
U21-55(SHE)																	1								1
U21-56(SA)						1																			1
U21-57(CC)																	4								4
U21-58(CC)																	1								1
その他(AN)																		1							1
合　計	1					1				2	3						32	3	3						45

第133表　U21-Eブロック石材別石器組成

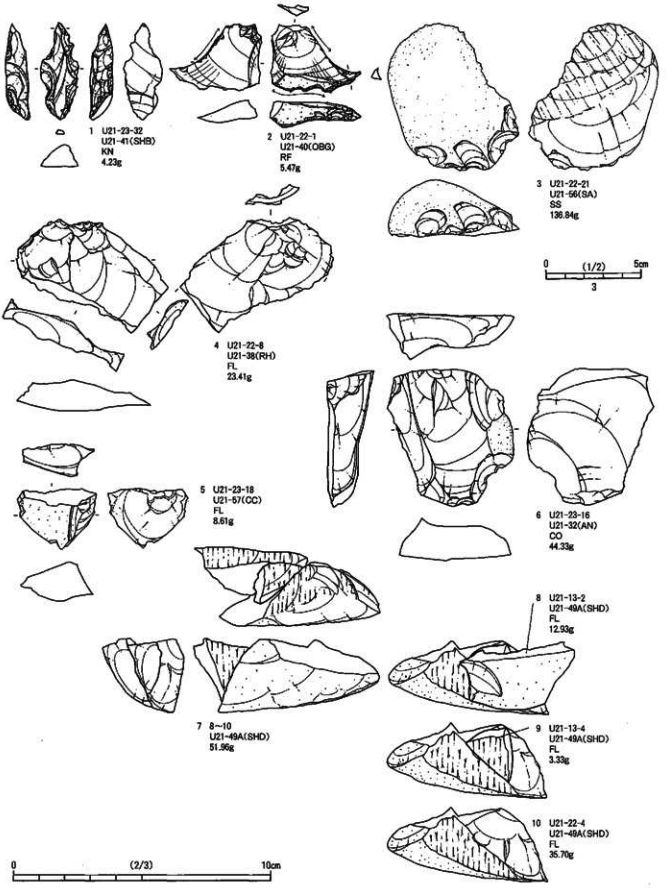
石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合 計
黒曜石A(OBA)																	1								1
黒曜石G(OBG)										1															1
安山岩(AN)																	5	3	1						9
流紋岩(RH)																	1								1
頁岩B(SHB)	1										1														2
頁岩C(SHC)										1	1						9		2						13
頁岩D(SHD)																	10								10
頁岩E(SHE)											1						1								2
砂岩(SA)						1																			1
鳴瀬・玉髄(CC)																	5								5
合　計	1					1				2	3						32	3	3						45

第134表　U21-Eブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
U21R-19	AN	1	157.32
U21R-20	AN	3	58.29
U21R-21	AN	4	76.39
U21R-22	AN	3	345.59
U21R-23	RH	1	37.57
U21R-24	RH	1	5.60
U21R-25	RH	3	24.95
U21R-26	GR	2	228.79
U21R-27	TU	2	251.27
U21R-28	TU	1	277.38
U21R-29	TU	1	37.36
U21R-30	SA	8	284.67
U21R-31	SA	2	62.58
U21R-32	SA	4	258.95
U21R-33	SA	3	87.30

母　岩	石 材	個数	重量
U21R-34	SA	4	155.03
U21R-35	SA	1	197.67
U21R-36	SA	2	299.79
U21R-37	SA	1	36.28
U21R-38	SA	1	18.06
U21R-39	SA	1	92.75
U21R-40	SA	1	137.25
U21R-41	SA	1	2.78
U21R-42	SA	1	0.79
U21R-43	SA	2	28.02
U21R-336	RH	1	19.76
U21R-337	RH	1	122.79

石　材	個数	重量
安山岩(AN)	11	637.59
流紋岩(RH)	7	210.68
凝灰岩(TU)	4	566.01
砂岩(SA)	32	1,661.92
花崗岩(GR)	2	228.79
合　計	56	3,304.99



第231図　U21-Eブロック出土遺物(1)

3）出土遺物（第231図１～６）

１は北関東産頁岩による二側縁加工のナイフ形石器で，縦長剥片の打面側を先端部として，右側縁と左側縁の一部に鋸歯状の調整加工を行っている。角錐状石器の可能性もある。

２は産地不明の黒曜石による加工痕ある剥片で，不定型な剥片の末端に細かい調整加工を行っており，正面の左側縁，裏面の末端と右側縁の一部に微細な剥離痕が見られる。

３は砂岩による削器で，両面の末端に調整加工を行っている。石核の可能性もある。

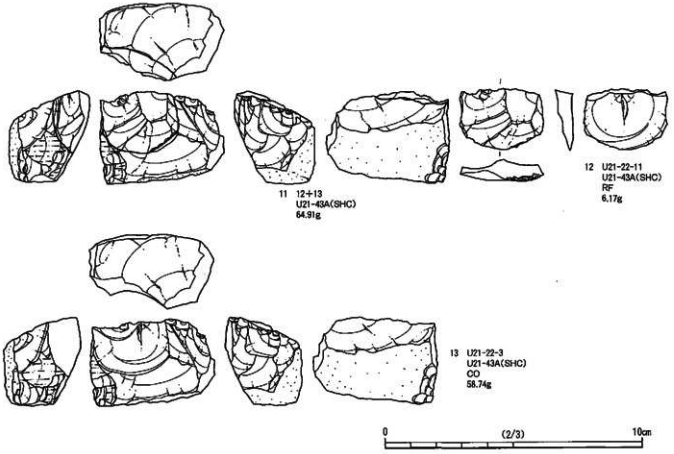
４は流紋岩，５は瑪瑙・玉髄による不定型な剥片である。

６は安山岩による石核で，求心的な剥離作業により小型で不定型な剥片を剥離している。

4）接合資料とその関連資料（第231図７～10，第232図）

・U21-49（第231図７～10）　淡黄色（5Y8/3）などの硬質緻密な頁岩である。７は剥片３点（8～10）の接合資料である。節理で剥離した個体である。

・U21-43（第232図）　灰オリーブ色（5Y5/2）などの嶺岡産頁岩である。11は加工痕ある剥片１点（12），石核１点（13）の接合資料である。多少凹凸のある節理状の剥離面を打面として，横長や不定型な剥片を剥離している。12は末端に細かい調整加工を行っているが，使用痕の可能性もある。



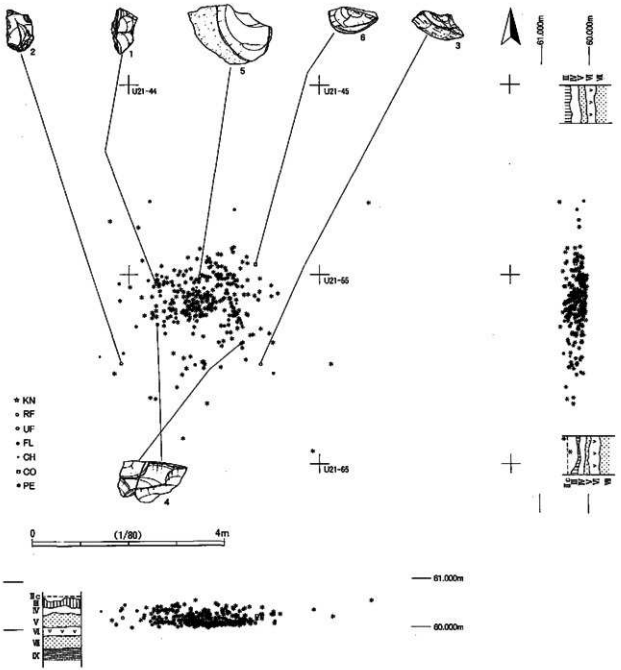
第232図　U21-Eブロック出土遺物(2)

19　U21-Fブロック（第233～239・400図，第135～137表，カラー図版12，図版10）

1）ブロックの概要

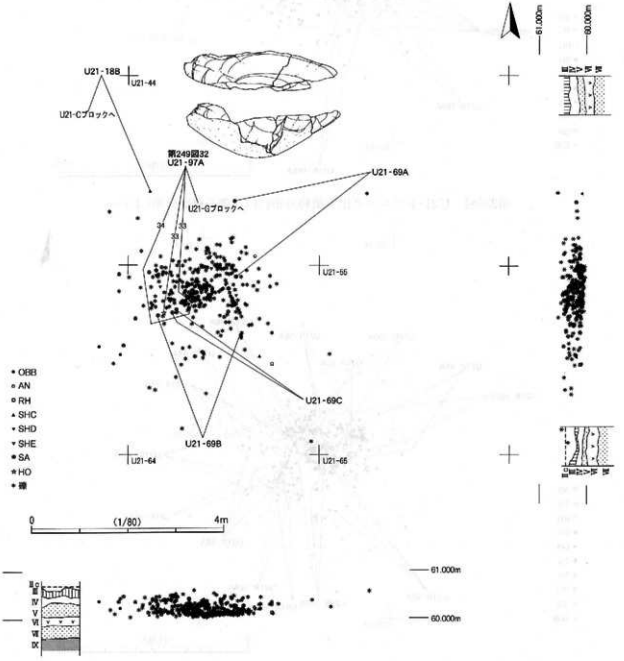
U21-Fブロックは，調査範囲東側のU21-43～45・53～55グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側中央台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は15mである。

ブロックの規模と形状は，直径６ｍの範囲に307点の石器・礫が分布する。その内，原位置不明の遺物が１点ある。出土層位は，Ⅲ層からⅤ層にかけて，60cmほどの高低差をもって包含されている（第233～238図）。

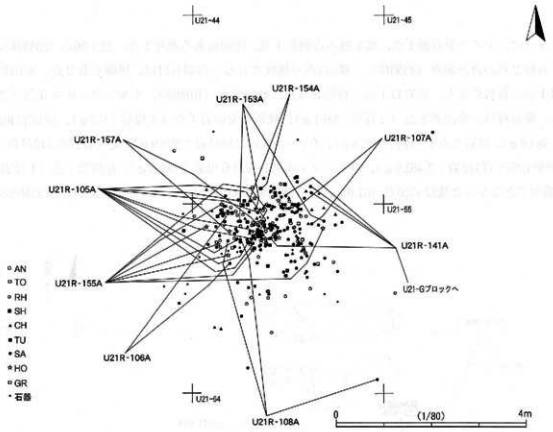


第233図　U21-Fブロック出土遺物分布（１）－器種別分布－

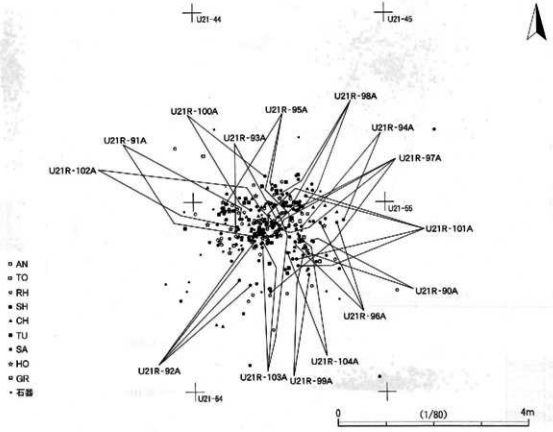
ブロックは，ナイフ形石器１点，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片１点，剥片26点（23個体），砕片５点，石核２点の合計36点（33個体）と礫271点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ２点，安山岩１点，流紋岩１点，頁岩Ｃ３点，頁岩Ｄ１点，頁岩Ｅ４点，砂岩21点（19個体），ホルンフェルス３点（２個体），である。礫石材は，安山岩８点（４母岩；99.1ｇ），軟質の安山岩１点（１母岩；0.5ｇ），流紋岩40点（19母岩；584.6ｇ），頁岩２点（１母岩；32.8ｇ），チャート33点（16母岩；303.9ｇ），凝灰岩21点（13母岩；622.7ｇ），砂岩129点（71母岩；2,462.9ｇ），ホルンフェルス16点（６母岩；289.1ｇ），花崗岩１点（１母岩；10.3ｇ），識別できなかった流紋岩20点（61.6ｇ）で，識別率は93％である。なお，R21R-141，U21R-52につい



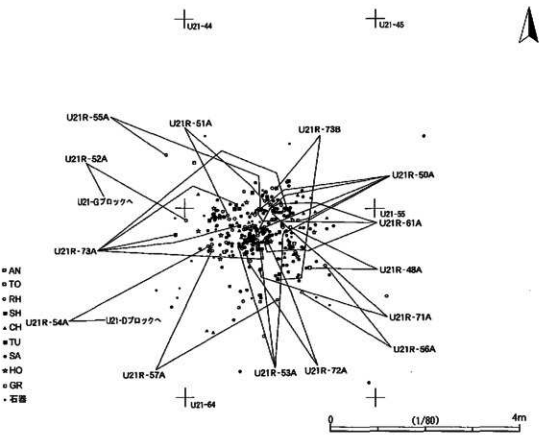
第234図　U21-Fブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



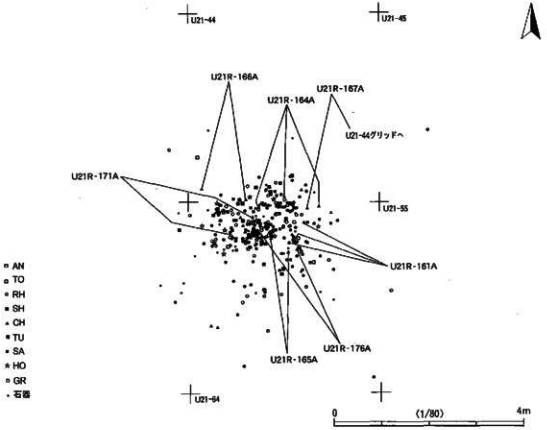
第235図　U21-Fブロック出土遺物分布(3)－礫石材別分布(1)－



第236図　U21-Fブロック出土遺物分布(4)－礫石材別分布(2)－



第237図　U21-Fブロック出土遺物分布(５)－礫石材別分布(３)－



第238図　U21-Fブロック出土遺物分布(６)－礫石材別分布(４)－

てはU21-Gブロック，U21R-54についてはU21-Dブロックと接合関係がある。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは16母岩を識別した。内訳は，黒曜石B２母岩（U21-61・62），安山岩１母岩（U21-59），流紋岩１母岩(U21-60)，頁岩Ｃ３母岩(U21-18・63・64)，頁岩Ｄ１母岩(U21-65)，頁岩Ｅ３母岩(U21-66～68)，砂岩４母岩（U21-69～72），ホルンフェルス１母岩（U21-97）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（36/36点）である。

・U21-18：にぶい黄褐色（10YR5/4）などの嶺岡産頁岩である。母岩の特徴はU21-Cブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（1.8ｇ）の単独資料であるが，U21-Cブロックの剥片１点と接合している。その他に同一母岩がU21-Cブロックに11点ある。

・U21-59：自然面は爪形の深い裂痕が密でにぶい黄褐色(10YR5/4)・褐灰色(10YR4/1)，内部は灰色(N4/0)，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石核１点（16.1ｇ）の単独資料である。

・U21-60：灰黄色（2.5Y7/2）の地に明褐色（7.5YR5/6）が入る流紋岩である。剥片１点（3.7ｇ）の単独資料である。

・U21-61：自然面はスリガラス状で，自然面及び内部は透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。加工痕ある剥片１点（2.5ｇ）の単独資料である。

第135表　U21-Fブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
U21-18(SHC)																	1								1
U21-59(AN)																			1						1
U21-60(RH)																	1								1
U21-61(OBB)										1															1
U21-62(OBB)																		1							1
U21-63(SHC)											1														1
U21-64(SHC)																	1								1
U21-65(SHD)	1																								1
U21-66(SHE)																	1	1							2
U21-67(SHE)																	1								1
U21-68(SHE)																		1							1
U21-69(SA)																	14(12)	2	1						17(15)
U21-70(SA)																	1								1
U21-71(SA)																	1								1
U21-72(SA)																	2								2
U21-97(HO)																	3(2)								3(2)
合　計	1									1	1						26(23)	5	2						36(33)

第136表　U21-Fブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
黒曜石B(OBB)										1								1							2
安山岩(AN)																			1						1
流紋岩(RH)																	1								1
頁岩C(SHC)											1						2								3
頁岩D(SHD)	1																								1
頁岩E(SHE)																	2	2							4
砂岩(SA)																	18(16)	2	1						21(19)
ホルンフェルス(HO)																	3(2)								3(2)
合　計	1									1	1						26(23)	5	2						36(33)

・U21-62：薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。砕片１点（0.3ｇ）の単独資料である。

・U21-63：内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の地に暗灰黄色（2.5Y4/2）が部分的に混じり，節理はにぶい黄褐色（10YR4/3）の嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片１点（3.5ｇ）の単独資料である。

第137表　U21-Fブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
U21R-45	TO	1	0.52
U21R-46	AN	1	32.39
U21R-47	AN	1	32.09
U21R-48	AN	2	31.84
U21R-49	AN	4	2.78
U21R-50	RH	5	81.55
U21R-51	RH	2	78.70
U21R-52	RH	1	60.26
U21R-53	RH	3	44.92
U21R-54	RH	1	6.13
U21R-55	RH	2	9.29
U21R-56	RH	3	37.81
U21R-57	RH	2	10.94
U21R-58	RH	1	57.22
U21R-59	RH	1	23.21
U21R-60	RH	1	3.03
U21R-61	RH	5	27.15
U21R-62	RH	1	71.94
U21R-63	RH	1	22.30
U21R-64	RH	1	0.59
U21R-65	RH	2	8.41
U21R-66	RH	6	37.26
U21R-67	RH	1	0.75
U21R-68	RH	1	3.18
U21R-69	GR	1	10.31
U21R-70	TU	1	59.71
U21R-71	TU	2	92.57
U21R-72	TU	2	45.59
U21R-73	TU	7	52.42
U21R-74	TU	1	18.54
U21R-75	TU	1	66.24
U21R-76	TU	1	78.27
U21R-77	TU	1	82.88
U21R-78	TU	1	4.91
U21R-79	TU	1	10.98
U21R-80	TU	1	49.76
U21R-81	TU	1	21.90
U21R-82	TU	1	38.89
U21R-83	SA	1	61.95
U21R-84	SA	1	65.89
U21R-85	SA	1	50.32
U21R-86	SA	1	44.54
U21R-87	SA	1	47.24
U21R-88	SA	1	49.98
U21R-89	SA	1	50.97
U21R-90	SA	2	100.02
U21R-91	SA	2	60.41
U21R-92	SA	4	89.37
U21R-93	SA	2	89.59
U21R-94	SA	2	63.96

母　岩	石　材	個数	重量
U21R-95	SA	4	60.06
U21R-96	SA	3	45.89
U21R-97	SA	6	71.71
U21R-98	SA	5	107.74
U21R-99	SA	2	6.42
U21R-100	SA	4	44.36
U21R-101	SA	4	36.61
U21R-102	SA	2	33.02
U21R-103	SA	6	23.44
U21R-104	SA	2	39.94
U21R-105	SA	8	106.13
U21R-106	SA	2	57.87
U21R-107	SA	2	43.99
U21R-108	SA	3	22.01
U21R-109	SA	1	6.12
U21R-110	SA	1	25.96
U21R-111	SA	1	25.54
U21R-112	SA	1	11.59
U21R-113	SA	1	14.77
U21R-114	SA	1	10.88
U21R-115	SA	1	40.15
U21R-116	SA	1	16.71
U21R-117	SA	1	3.25
U21R-118	SA	1	50.46
U21R-119	SA	1	9.55
U21R-120	SA	1	4.22
U21R-121	SA	1	4.66
U21R-122	SA	2	41.40
U21R-123	SA	2	40.70
U21R-124	SA	1	49.42
U21R-125	SA	1	47.38
U21R-126	SA	1	7.47
U21R-127	SA	1	7.62
U21R-128	SA	1	61.65
U21R-129	SA	1	35.59
U21R-130	SA	1	24.70
U21R-131	SA	1	45.69
U21R-132	SA	1	25.25
U21R-133	SA	1	46.60
U21R-134	SA	1	27.46
U21R-135	SA	1	13.17
U21R-136	SA	1	9.69
U21R-137	SA	1	0.77
U21R-138	SA	1	9.15
U21R-139	SA	1	26.93
U21R-140	SA	1	14.69
U21R-141	SA	4	62.12
U21R-142	SA	2	27.22
U21R-143	SA	1	0.80
U21R-144	SA	1	1.69

母　岩	石　材	個数	重量
U21R-145	SA	1	5.29
U21R-146	SA	1	7.90
U21R-147	SA	1	0.33
U21R-148	SA	2	16.57
U21R-149	SA	1	7.84
U21R-150	SA	1	10.04
U21R-151	SA	2	7.43
U21R-152	SA	3	70.31
U21R-153	SA	3	12.70
U21R-154	SH	2	32.76
U21R-155	HO	8	148.42
U21R-156	HO	1	16.38
U21R-157	HO	2	77.51
U21R-158	HO	3	41.24
U21R-159	HO	1	3.67
U21R-160	HO	1	1.86
U21R-161	CH	6	61.53
U21R-162	CH	2	62.63
U21R-163	CH	3	48.01
U21R-164	CH	3	23.42
U21R-165	CH	2	46.00
U21R-166	CH	2	19.34
U21R-167	CH	2	12.88
U21R-168	CH	3	4.82
U21R-169	CH	1	9.80
U21R-170	CH	1	4.42
U21R-171	CH	2	2.01
U21R-172	CH	1	0.55
U21R-173	CH	1	1.65
U21R-174	CH	1	0.46
U21R-175	CH	1	0.61
U21R-176	CH	2	5.73
その他	RH	20	61.58

石　材	個数	重量
安山岩(AN)	8	99.10
安山岩(TO)	1	0.52
流紋岩(RH)	60	646.22
頁岩(SH)	2	32.76
チャート(CH)	33	303.86
凝灰岩(TU)	21	622.66
砂岩(SA)	129	2,462.86
ホルンフェルス(HO)	16	289.08
花崗岩(GR)	1	10.31
合　計	271	4,467.37

・U21-64：内部は灰黄色(2.5Y6/2)・にぶい黄色(2.5Y6/3)・黄灰色(2.5Y6/1)，節理はにぶい褐色(7.5YR5/3)の嶺岡産頁岩である。剥片1点（2.1g）の単独資料である。

・U21-65：黒褐色（10YR3/1）の硬質緻密な頁岩である。ナイフ形石器1点（2.8g）の単独資料である。

・U21-66：自然面は平滑で褐色（7.5YR4/3），内部はにぶい褐色（7.5YR5/3）・灰オリーブ色（5Y6/2）・灰オリーブ色（5Y4/2）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点，砕片1点の合計2点（2.8g）である。

・U21-67：自然面は平滑でにぶい黄橙色（10YR6/3），内部は灰黄色（2.5Y6/2）・黄灰色（2.5Y6/1）・にぶい褐色（7.5YR5/4），節理は褐色（7.5YR4/4），新鮮な面はにぶい橙色（5YR6/4）の頁岩である。剥片1点（1.4g）の単独資料である。

・U21-68：灰色（5Y6/1）・灰黄色（5Y6/2）の頁岩である。砕片1点（0.9g）の単独資料である。

・U21-69：自然面は紙ヤスリ状で黄褐色（2.5Y5/4），内部は灰黄色（2.5Y7/2）の資料，自然面は平滑で黒褐色（10YR3/2），内部はにぶい黄褐色（10YR5/3）の資料，自然面は平滑で灰黄褐色（10YR5/2），内部はにぶい黄橙色（10YR6/4），節理は暗黄褐色（2.5YR3/6）の資料，オリーブ灰色（5GY6/1）の資料など母岩内に変異，あるいは別母岩の可能性のある砂岩である。石器群の内訳は，剥片14点（12個体），砕片2点，石核1点の合計17点（15個体；79.8g）である。接合資料は，3グループあり，Aは剥片2点（13.9g），Bは剥片2点（1個体；10.4g），Cは剥片2点（1個体；6.7g）である。

・U21-70：内部はにぶい黄橙色（10YR6/3）・にぶい橙色（7.5YR6/4），節理はにぶい赤褐色（5YR5/4）・黒褐色（5YR3/1）の砂岩である。被熱による変色の可能性がある。剥片1点（1.8g）の単独資料である。

・U21-71：灰色（7.5Y5/1）の砂岩である。剥片1点（1.0g）の単独資料である。

・U21-72：自然面は平滑で灰黄色（2.5Y7/2），内部は浅黄色（2.5Y7/3），新鮮な面はにぶい橙色（7.5YR6/4）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片2点（1.7g）である。

・U21-97：自然面は比較的平滑で黄灰色（2.5Y4/1）・暗灰黄色（2.5Y5/2）・にぶい褐色（5YR4/3）・明黄褐色（10YR6/6），内部は灰色（5Y6/1）・灰色（5Y5/1）・にぶい赤褐色（5YR4/3）・明黄褐色（10YR6/6），節理は暗赤褐色（5YR3/3）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片3点（2個体；59.7g）である。接合資料は，剥片3点（2個体；59.7g）がU21-Gブロックの剥片2点と接合している。その他に同一母岩がU21-Gブロックに3点ある。

3）出土遺物（第239図）

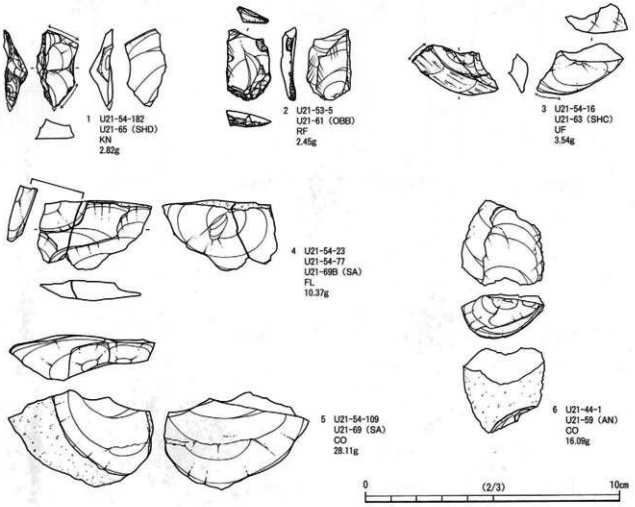
1は硬質緻密な頁岩による一側縁加工のナイフ形石器で，剥片の打面側を基部として，左側縁に調整加工を行っており，先端部と右側縁下部に微細な剥離痕が見られる。

2は信州和田峠周辺産の黒曜石による加工痕ある剥片で，両極剥片を素材として，末端に細かい調整加工を行っている。

3は嶺岡産頁岩による使用痕ある剥片で，不定型な剥片の正面左側縁と裏面末端に微細な剥離痕が見られる。

4は砂岩による不定型な剥片で，2点が接合して1個体となる。

5は砂岩，6は安山岩による石核である。5は素材の背面を打面として，6は打面と作業面を入れ替えながら，小型で不定型な剥片を剥離している。



第239図　U21-Fブロック出土遺物

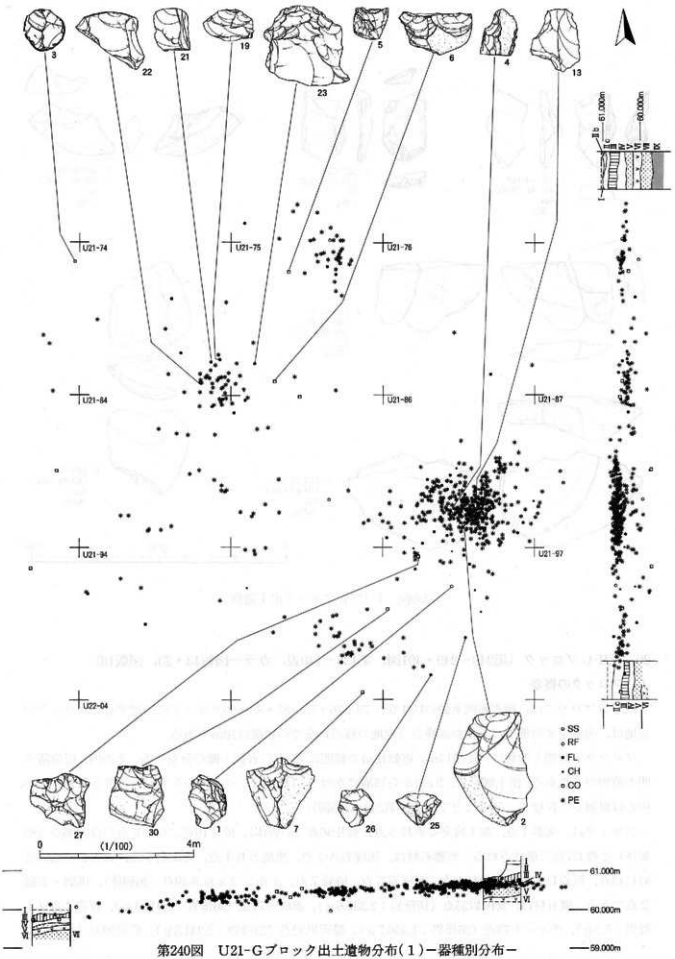
20　U21-Gブロック（第240～249・401図，第138～140表，カラー図版13・23，図版10）

1）ブロックの概要

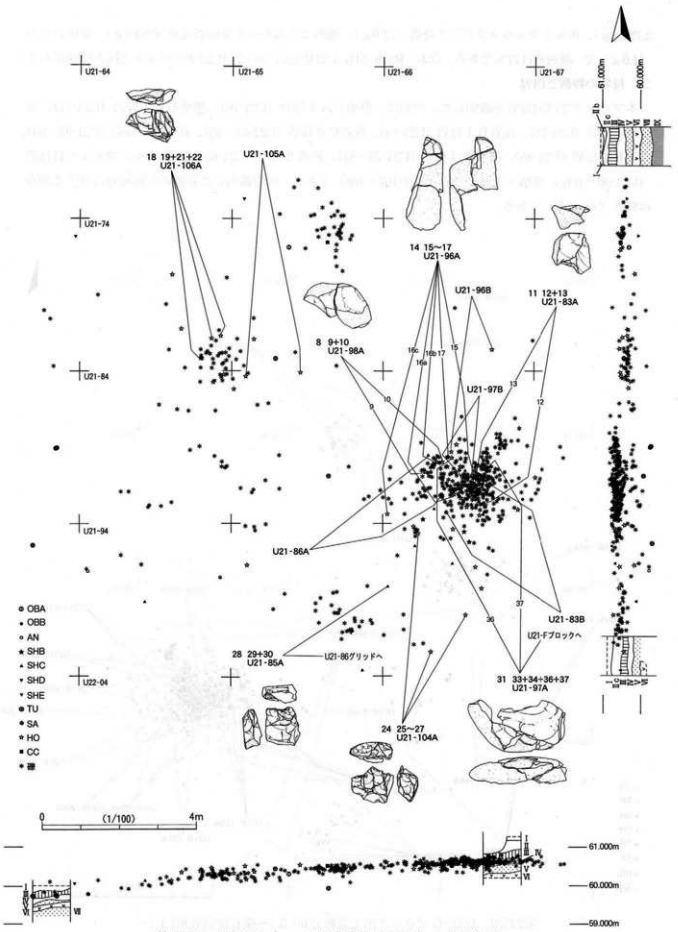
U21-Gブロックは，調査範囲東側のU21-65・73～76・83～87・93～96グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側中央台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は10mである。

ブロックの規模と形状は，長軸14m，短軸12mの範囲に523点の石器・礫が分布する。その内，原位置不明の遺物が5点ある。出土層位は，Ⅱc層からⅦ層にかけて，110cmほどの高低差をもって包含されているが，中心はⅢ層からⅣ層で，50cmほどである（第240～245図）。

ブロックは，削器1点，加工痕ある剥片5点，剥片56点（53個体），砕片16点，石核8点の合計86点（83個体）と礫437点で構成される。石器石材は，黒曜石A1点，黒曜石B1点，安山岩1点，頁岩B4点，頁岩C13点，頁岩D2点，頁岩E1点，凝灰岩5点，砂岩7点，ホルンフェルス49点（46個体），瑪瑙・玉髄2点である。礫石材は，安山岩35点（16母岩；2,335.6g），流紋岩71点（36母岩；2,018.1g），頁岩1点（1母岩；5.2g），チャート78点（36母岩；1,450.7g），凝灰岩52点（23母岩；2,341.8g），砂岩99点（47母岩；



第240図　U21-Gブロック出土遺物分布(１)－器種別分布－

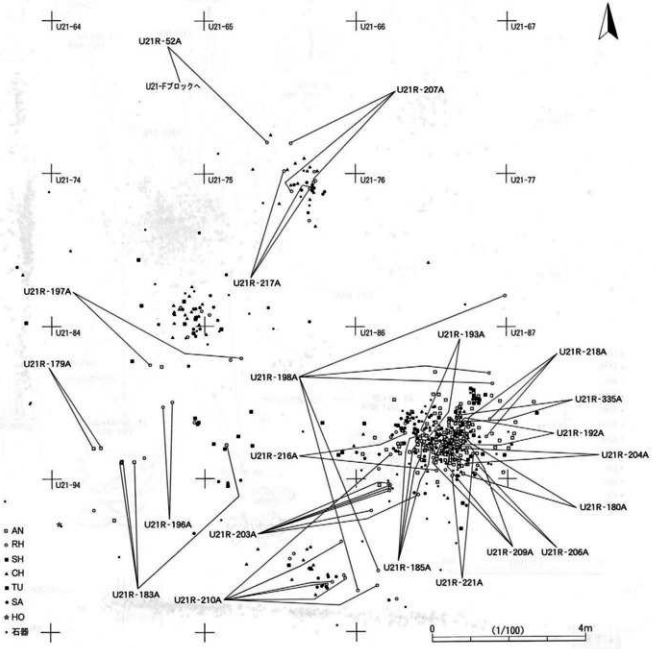


第241図　U21-Gブロック出土遺物分布(２)－石材別分布－

2,724.8ｇ），ホルンフェルス２点（２母岩；77.9ｇ），識別できなかった安山岩97点（784.6ｇ），凝灰岩２点（1.0ｇ）で，識別率は77%である。なお，R21R-141，U21R-52についてはU21-Fブロックと接合関係がある。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは34母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ１母岩（U21-76），黒曜石Ｂ１母岩（U21-77），安山岩１母岩（U21-75），頁岩Ｂ１母岩（U21-84），頁岩Ｃ８母岩（U21-85～92），頁岩Ｄ２母岩（U21-93・94），頁岩Ｅ１母岩（U21-95），凝灰岩４母岩（U21-78～81），砂岩２母岩（U21-82・83），ホルンフェルス11母岩（U21-96～106），瑪瑙・玉髄２母岩（U21-107・108）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は85%（73/86点）である。



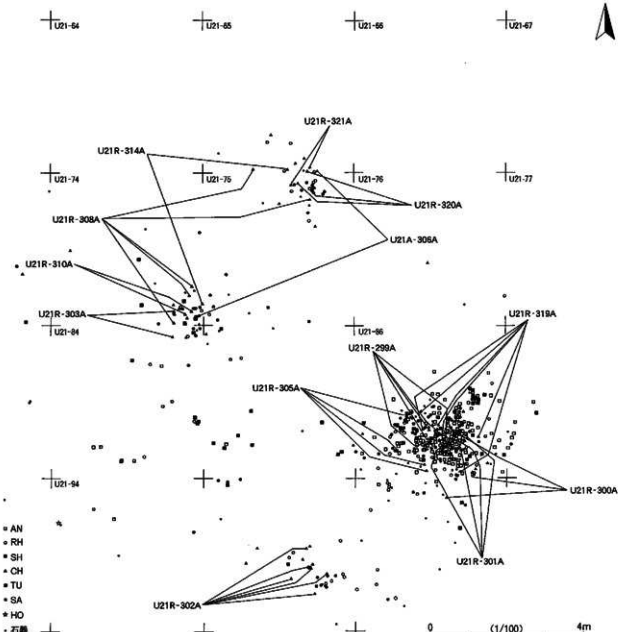
第242図　U21-Gブロック出土遺物分布（３）－礫石材別分布（１）－

・U21-75：内部は灰色（10Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片１点（0.6ｇ）の単独資料である。

・U21-76：黒灰色の黒曜石である。φ１mmほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石核１点（9.5ｇ）の単独資料である。

・U21-77：透明な地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（0.8ｇ）の単独資料である。

・U21-78：自然面は比較的平滑でにぶい黄色(2.5Y6/4)・灰オリーブ色(5Y6/2),内部は明オリーブ灰色(5GY7/1),新鮮な面は暗オリーブ灰色（5GY4/1）の凝灰岩である。石核１点（101.5ｇ）の単独資料である。



第243図　U21-Gブロック出土遺物分布（４）－礫石材別分布（２）－

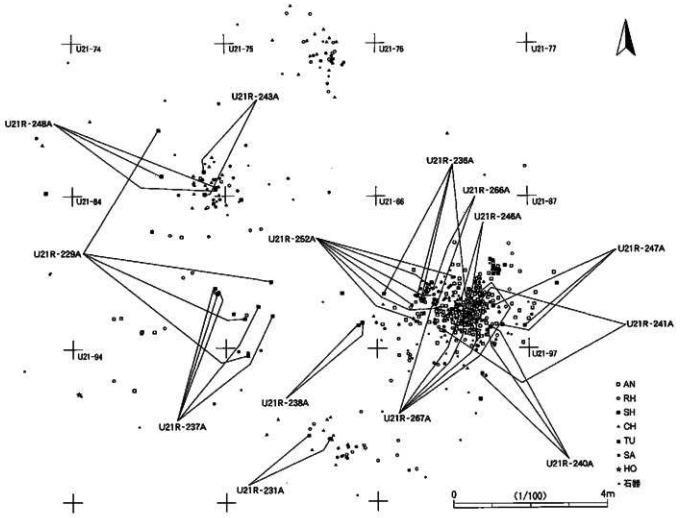
・U21-79：自然面は比較的平滑で灰白色(5Y7/2)・黄褐色(2.5Y5/3)・褐色(10YR4/4)，内部は灰白色(7.5Y7/2)の凝灰岩である。石核1点（42.9ｇ）の単独資料である。

・U21-80：内部は明緑灰色（10GY7/1）の地に灰白色（10Y7/2）が部分的に混じり，節理は褐色（10YR4/6），新鮮な面は暗緑灰色（10G4/1）の凝灰岩である。石器群の内訳は，砕片1点，石核1点の合計2点（46.4ｇ）である。

・U21-81：自然面は平滑で，自然面及び内部はオリーブ黄色（5Y6/3）・浅黄色（5Y7/3）の凝灰岩である。加工痕ある剥片1点（11.6ｇ）の単独資料である。

・U21-82：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y6/2）・灰オリーブ色（5Y5/2），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4），新鮮な面は灰色（N4/0）の砂岩である。加工痕ある剥片1点（57.8ｇ）の単独資料である。

・U21-83：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰白色（5Y7/2）・灰白色（5Y7/1）の砂岩である。



第244図　U21-Gブロック出土遺物分布(５)－礫石材別分布(３)－

石器群の内訳は，剥片６点（64.0ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片２点（29.7ｇ），Ｂは剥片２点（24.8ｇ）である。

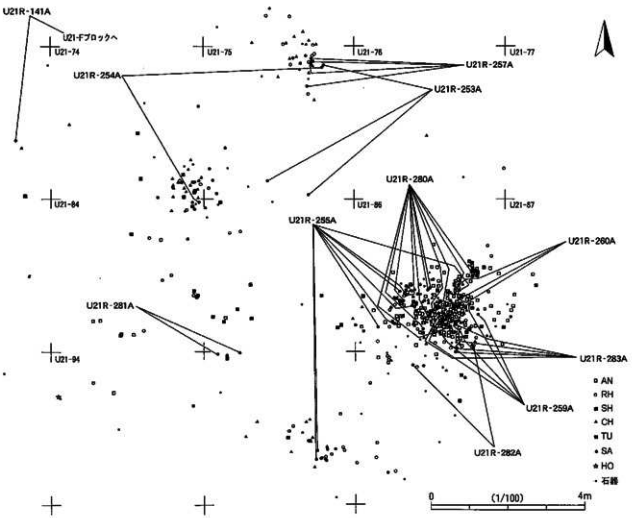
・U21-84：黒褐色（10YR3/2）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片３点，砕片１点の合計４点（4.4ｇ）である。

・U21-85：灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y4/1）・暗灰黄色（2.5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（30.9ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（30.9ｇ）である。

・U21-86：灰色（5Y4/1）・灰黄色（2.5Y6/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（6.4ｇ）である。接合資料は，剥片２点（6.4ｇ）である。

・U21-87：灰黄色（2.5Y6/2）・灰色（5Y5/1）の嶺岡産頁岩である。削器１点（9.7ｇ）の単独資料である。

・U21-88：灰色（5Y6/1）の地に灰色（5Y4/1）・暗灰色（N3/0）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。剥片１点（5.5ｇ）の単独資料である。



第245図　U21-Gブロック出土遺物分布（６）－礫石材別分布（４）－

・U21-89：灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（N4/0）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（2.6g）の単独資料である。

・U21-90：灰オリーブ色（5Y6/2）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（1.1g）の単独資料である。

・U21-91：内部は灰黄色（2.5Y6/2）・黄灰色（2.5Y4/1），節理は灰黄色（2.5Y6/2）・黄橙色（10YR8/6）の資料，内部は灰オリーブ色（5Y6/2）・黄褐色（2.5Y5/3）・灰色（5Y4/1），節理は浅黄色（2.5Y7/3）の資料など，母岩内に変異がある嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片3点，石核1点の合計4点（42.7g）である。

・U21-92：灰オリーブ色（5Y5/2）・灰オリーブ色（5Y6/2）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（7.6g）の単独資料である。

・U21-93：灰白色（2.5Y8/1）の地に灰黄色（2.5Y6/2）が部分的に混じる硬質緻密な頁岩である。加工痕ある剥片1点（3.3g）の単独資料である。

・U21-94：浅黄色（2.5Y7/3）・淡黄色（2.5Y8/4）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（4.4g）の単独資料である。

・U21-95：自然面は比較的平滑で灰白色（10Y7/2），内部は明オリーブ灰色（5GY7/1），新鮮な面は暗オリーブ灰色（5GY4/1）の頁岩である。加工痕ある剥片1点（7.3g）の単独資料である。

・U21-96：自然面は比較的平滑で灰オリーブ色(5Y5/2)・灰白色(5Y7/2)・黄灰色(2.5Y4/1)・浅黄橙色(7.5YR8/6)・褐色（7.5YR4/3）・浅黄橙色（10YR8/4），内部は灰色（5Y6/1）・浅黄橙色（10YR8/4）・暗赤褐色（5YR3/3），節理は暗赤褐色（5YR3/3）・黄灰色（2.5Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片7点（4個体；116.4g）である。接合資料は，2グループあり，Aは剥片5点（3個体；99.4g），Bは剥片2点（1個体；17.0g）である。

・U21-97：灰色（5Y6/1）などのホルンフェルスである。母岩の特徴はU21-Fブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，剥片5点（81.8g）である。接合資料は，2グループあり，Aは剥片2点（66.0g）がU21-Fブロックの剥片3点（2個体）と接合している。Bは剥片2点（8.5g）である。

・U21-98：自然面は比較的平滑でにぶい褐色（7.5YR5/3）・灰褐色（7.5YR5/2），内部は浅黄色（2.5Y7/4）・黄灰色（2.5Y6/1）・明赤褐色（5YR5/6）・灰色（5Y5/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片2点（73.0g）である。接合資料は，剥片2点（73.0g）である。

・U21-99：自然面は比較的平滑でにぶい褐色(7.5YR5/3)，内部は灰色(N4/0)，節理はにぶい赤褐色(5YR4/4)のホルンフェルスである。剥片1点（32.1g）の単独資料である。

・U21-100：自然面は比較的平滑でにぶい褐色(7.5YR5/3)，内部は灰オリーブ色(5Y6/2)・にぶい褐色(7.5YR5/3)のホルンフェルスである。剥片1点（14.2g）の単独資料である。

・U21-101：自然面は比較的平滑で灰褐色（10YR5/2）・明褐色（7.5YR5/6），内部は灰オリーブ色（5Y6/2）・にぶい赤褐色（5YR4/3）・明赤褐色（5YR5/6），節理はオリーブ灰色（2.5GY5/1）・にぶい褐色（7.5YR5/4）のホルンフェルスである。剥片1点（16.7g）の単独資料である。

・U21-102：自然面は比較的平滑で暗灰黄色(2.5Y5/2)・にぶい褐色(7.5YR5/4)，内部はにぶい褐色(7.5YR5/4)・暗灰黄色（2.5Y5/2）・黄灰色（2.5Y5/1）・にぶい赤褐色（5YR4/3）のホルンフェルスである。剥片1点（8.2g）の単独資料である。

・U21-103：自然面は比較的平滑で灰色（5Y5/1），内部は灰色（5Y5/1）・灰色（5Y6/1）・灰白色（5Y7/2）の

ホルンフェルスである。剥片１点（38.9ｇ）の単独資料である。

・U21-104：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y5/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片５点，砕片１点，石核１点の合計７点（41.0ｇ）である。接合資料は，剥片２点，石核１点の合計３点（34.2ｇ）である。

・U21-105：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（10Y6/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片５点，石核１点の合計６点（39.7ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（31.1ｇ）である。

・U21-106：自然面は比較的平滑で灰色(5Y5/1)，内部は灰色(5Y5/1)の地に灰色(5Y6/1)・灰黄色(2.5Y7/2)・暗灰黄色（2.5Y4/2）が縞状に入るホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片４点（78.8ｇ）である。接合資料は，剥片３点（25.7ｇ）である。

・U21-107：内部は灰白色（2.5Y8/2），節理は明黄褐色（10YR7/6）で半透明な瑪瑙・玉髄である。剥片１点（4.3ｇ）の単独資料である。

・U21-108：自然面は爪形の浅い裂痕が密で黄褐色（10YR5/6），内部は灰黄色（2.5Y7/2）の瑪瑙・玉髄である。加工痕ある剥片１点（7.9ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，ホルンフェルスの砕片13点（17.2ｇ）がある。

３）出土遺物（第246図１～７）

１は嶺岡産頁岩による削器である。正面の右側縁と裏面の末端に調整加工を行っており，正面の右側縁，裏面の末端と右側縁の一部端には微細な剥離痕が見られる。なお，両面の右側には横長の剥離痕が見られるが，打面と作業面を入れ替えながら剥離した剥離痕の可能性があり，その場合，本石器については石核からの転用が考えられる。

２は砂岩，３は硬質緻密な頁岩，４は瑪瑙・玉髄による加工痕ある剥片である。２は末端，３はほぼ全周，４は右側縁に調整加工を行っている。また，３の裏面右側縁の一部には微細な剥離痕が見られる。

５は栃木県高原山産の黒曜石，６は凝灰岩，７は嶺岡産頁岩による石核である。５は打面と作業面を入れ替えながら，６は厚めの剥片の主要剥離面を打面として，求心的な剥離作業により不定型な剥片を剥離している。７は石核としたが，上面図は石核の底面の可能性があり，その場合，素材の主要剥離面との新旧関係がないことから，剥片の可能性も考えられる。

４）接合資料とその関連資料（第246図８～10，247～249図）

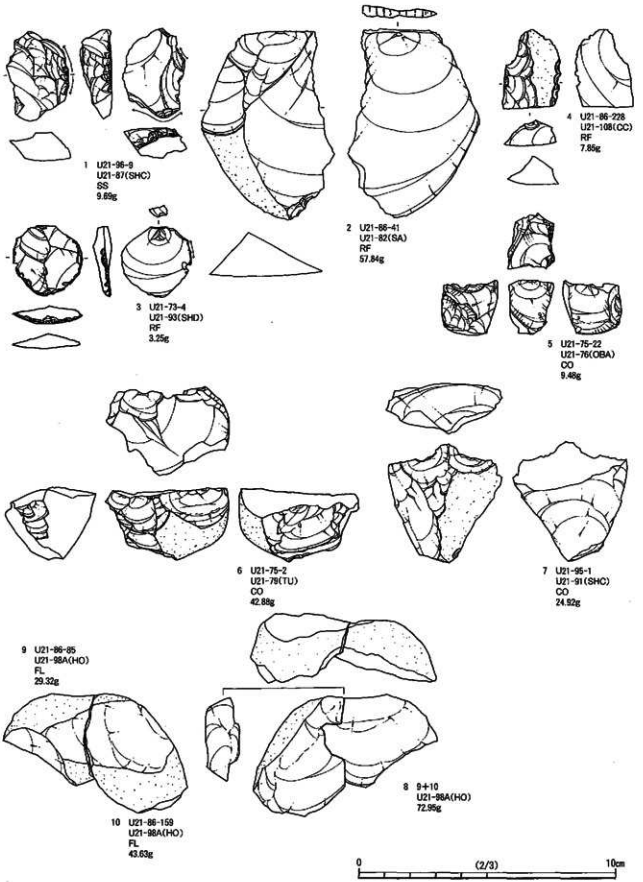
・U21-98（第246図８～10）　浅黄色（2.5Y7/4）などのホルンフェルスである。８は剥片２点（９・10）の接合資料である。

・U21-83（第247図11～13）　灰白色（5Y7/2）などの砂岩である。11は剥片２点（12・13）の接合資料である。

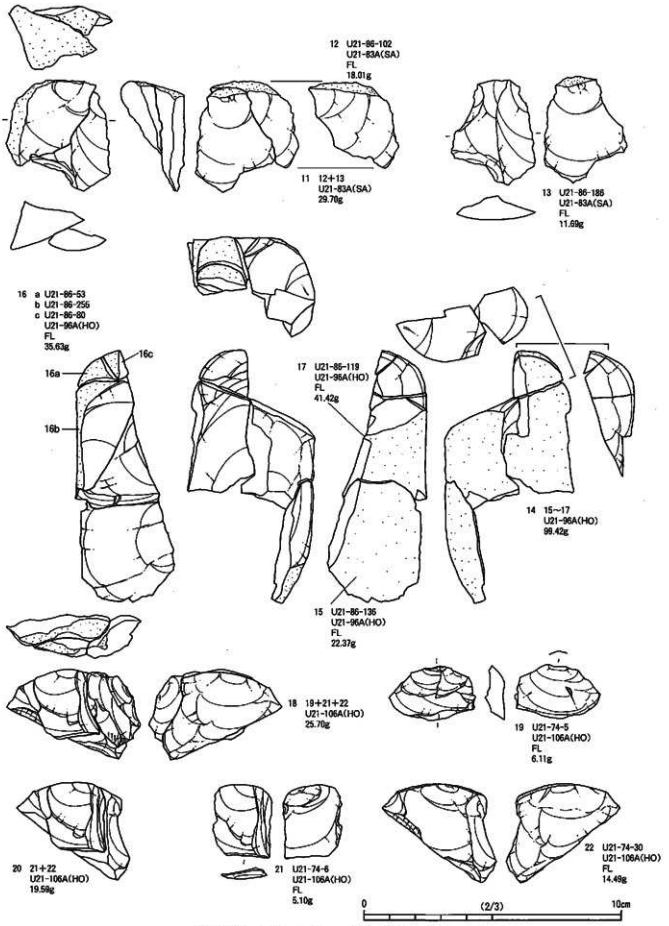
・U21-96（第247図14～17）　灰色（5Y6/1）などのホルンフェルスである。14は剥片５点（３個体；15～17）の接合資料である。その内，16は剥片が３点接合して１個体となる。節理の発達が顕著で，チャンク状に剥離している。

・U21-106（第247図18～22，第248図23）　灰色（5Y5/1）などのホルンフェルスである。18は剥片３点（19・21・22）の接合資料である。23は接合しなかった同一母岩の厚めで不定型な剥片である。

・U21-104（第248図24～27）　灰色（5Y5/1）のホルンフェルスである。24は剥片２点（25・26），石核１



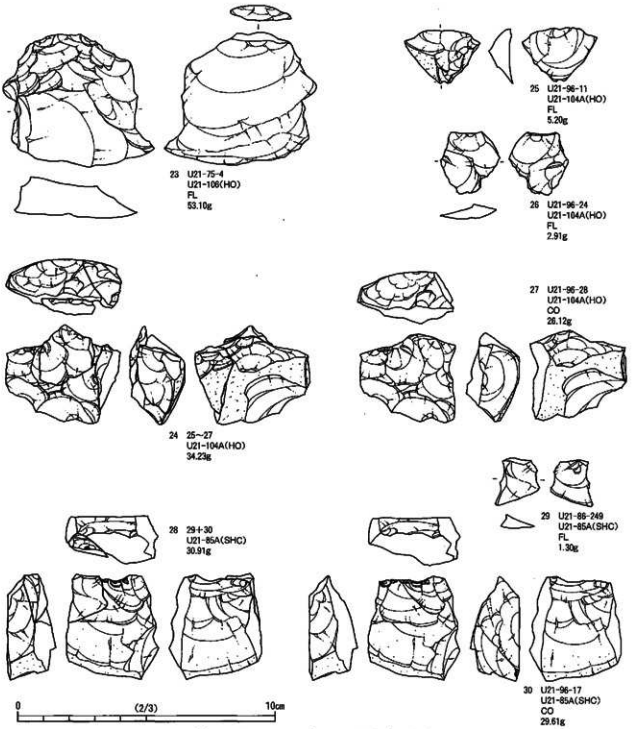
第246図　U21-Gブロック出土遺物(1)



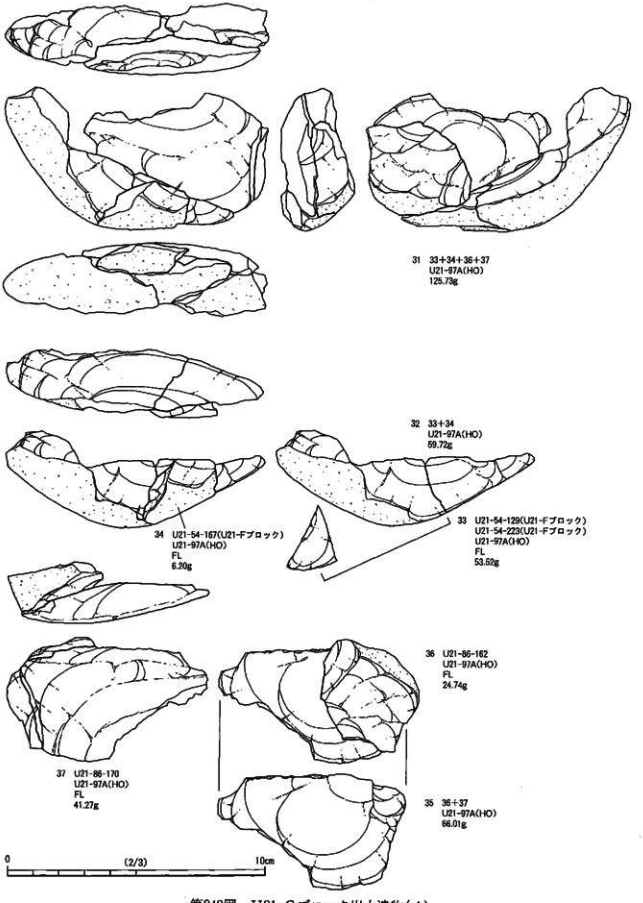
第247図　U21-Gブロック出土遺物(2)

点（27）の接合資料である。打面と作業面を入れ替えたり，求心的な剥離作業により不定型な剥片を剥離している。

・U21-85（第248図28～30）　灰オリーブ色（5Y5/2）などの嶺岡産頁岩である。28は剥片１点（29），石核１点（30）の接合資料である。比較的厚みのある剥片を素材として，打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。



第248図　U21-Gブロック出土遺物（３）



第249図　U21-Gブロック出土遺物(4)

・**U21-97（第249図）**　灰色（5Y6/1）などのホルンフェルスである。31は剥片２点（36・37），U21-Fブロックの剥片３点（２個体；33・34）の接合資料である。その内，33は剥片２点が接合して１個体となる。節理の発達が顕著で，層状に剥離している。なお，37の表面の一部は自然面の可能性がある。

第138表　U21-Gブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合 計
U21-75(AN)																	1								1
U21-76(OBA)																			1						1
U21-77(OBB)																	1								1
U21-78(TU)																			1						1
U21-79(TU)																			1						1
U21-80(TU)																		1	1						2
U21-81(TU)										1															1
U21-82(SA)										1															1
U21-83(SA)																	6								6
U21-84(SHB)																	3	1							4
U21-85(SHC)																	1		1						2
U21-86(SHC)																	2								2
U21-87(SHC)						1																			1
U21-88(SHC)																	1								1
U21-89(SHC)																	1								1
U21-90(SHC)																	1								1
U21-91(SHC)																	3		1						4
U21-92(SHC)																	1								1
U21-93(SHD)										1															1
U21-94(SHD)																	1								1
U21-95(SHE)										1															1
U21-96(HO)																	7(4)								7(4)
U21-97(HO)																	5								5
U21-98(HO)																	2								2
U21-99(HO)																	1								1
U21-100(HO)																	1								1
U21-101(HO)																	1								1
U21-102(HO)																	1								1
U21-103(HO)																	1								1
U21-104(HO)																	5	1	1						7
U21-105(HO)																	5		1						6
U21-106(HO)																	4								4
U21-107(CC)																	1								1
U21-108(CC)										1															1
その他(HO)																		13							13
合　計						1				5							56(53)	16	8						86(83)

第139表　U21-Gブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合 計
黒曜石A(OBA)																			1						1
黒曜石B(OBB)																	1								1
安山岩(AN)																	1								1
頁岩B(SHB)																	3	1							4
頁岩C(SHC)						1											10		2						13
頁岩D(SHD)										1							1								2
頁岩E(SHE)										1															1
凝灰岩(TU)										1								1	3						5
砂岩(SA)										1							6								7
ホルンフェルス(HO)																	33(30)	14	2						49(46)
瑪瑙・玉髄(CC)										1															2
合　計						1				5							56(53)	16	8						86(83)

第140表　U21-Gブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
U21R-52	RH	1	90.78
U21R-141	SA	1	6.01
U21R-178	AN	1	116.90
U21R-179	AN	2	150.32
U21R-180	AN	2	47.09
U21R-181	AN	1	24.85
U21R-182	AN	1	67.88
U21R-183	AN	4	139.74
U21R-184	AN	1	34.76
U21R-185	AN	4	213.51
U21R-186	AN	1	261.05
U21R-187	AN	8	344.01
U21R-188	AN	3	247.91
U21R-189	AN	1	124.55
U21R-190	AN	1	118.71
U21R-191	AN	1	105.59
U21R-192	AN	2	81.17
U21R-193	AN	2	257.52
U21R-194	RH	1	52.91
U21R-195	RH	3	10.15
U21R-196	RH	2	70.39
U21R-197	RH	2	156.01
U21R-198	RH	5	178.69
U21R-199	RH	1	38.92
U21R-200	RH	1	33.24
U21R-201	RH	1	20.37
U21R-202	RH	1	78.02
U21R-203	RH	6	187.11
U21R-204	RH	2	111.85
U21R-205	RH	1	76.70
U21R-206	RH	2	73.01
U21R-207	RH	3	48.14
U21R-208	RH	1	35.57
U21R-209	RH	3	56.27
U21R-210	RH	6	92.92
U21R-211	RH	1	135.76
U21R-212	RH	1	3.75
U21R-213	RH	1	31.97
U21R-214	RH	1	21.88
U21R-215	RH	1	9.03
U21R-216	RH	2	27.92
U21R-217	RH	3	56.34
U21R-218	RH	3	29.15
U21R-219	RH	1	44.04
U21R-220	RH	5	17.67
U21R-221	RH	2	7.76
U21R-222	RH	1	23.45
U21R-223	RH	1	28.70
U21R-224	RH	1	6.15
U21R-225	RH	1	5.12
U21R-226	RH	1	4.22
U21R-227	RH	1	1.82
U21R-228	TU	1	68.82
U21R-229	TU	4	91.37
U21R-230	TU	1	208.07
U21R-231	TU	2	132.53
U21R-232	TU	1	75.46
U21R-233	TU	1	173.17
U21R-234	TU	2	84.35
U21R-235	TU	1	75.20

母　岩	石　材	個数	重量
U21R-236	TU	4	101.12
U21R-237	TU	5	334.32
U21R-238	TU	2	210.41
U21R-239	TU	1	5.54
U21R-240	TU	3	52.90
U21R-241	TU	2	225.25
U21R-242	TU	8	213.34
U21R-243	TU	2	29.75
U21R-244	TU	1	10.57
U21R-245	TU	1	21.39
U21R-246	TU	2	86.13
U21R-247	TU	3	75.59
U21R-248	TU	3	33.10
U21R-249	TU	1	21.98
U21R-250	TU	1	11.45
U21R-251	SA	1	128.72
U21R-252	SA	6	259.09
U21R-253	SA	3	189.24
U21R-254	SA	2	55.89
U21R-255	SA	8	141.84
U21R-256	SA	1	29.83
U21R-257	SA	4	40.93
U21R-258	SA	1	57.57
U21R-259	SA	5	67.48
U21R-260	SA	8	86.47
U21R-261	SA	1	90.65
U21R-262	SA	1	41.76
U21R-263	SA	1	55.07
U21R-264	SA	1	162.60
U21R-265	SA	1	85.15
U21R-266	SA	2	62.13
U21R-267	SA	9	117.90
U21R-268	SA	1	138.93
U21R-269	SA	1	41.55
U21R-270	SA	1	37.77
U21R-271	SA	1	56.55
U21R-272	SA	1	54.12
U21R-273	SA	1	33.47
U21R-274	SA	1	51.01
U21R-275	SA	1	39.13
U21R-276	SA	1	44.09
U21R-277	SA	1	14.64
U21R-278	SA	1	54.91
U21R-279	SA	1	21.50
U21R-280	SA	11	139.30
U21R-281	SA	2	48.65
U21R-282	SA	2	52.77
U21R-283	SA	5	109.01
U21R-284	SA	1	12.32
U21R-285	SA	2	26.96
U21R-286	SA	1	10.40
U21R-287	SA	1	6.96
U21R-288	SA	1	8.75
U21R-289	SA	1	2.76
U21R-290	SA	1	9.87
U21R-291	SA	1	9.03
U21R-292	SA	1	4.68
U21R-293	SA	1	3.22
U21R-294	SA	2	2.58
U21R-295	SA	1	10.17

母　岩	石　材	個数	重量
U21R-296	SH	1	5.24
U21R-297	HO	1	34.01
U21R-298	HO	1	43.85
U21R-299	CH	5	49.22
U21R-300	CH	3	345.38
U21R-301	CH	4	77.98
U21R-302	CH	6	68.17
U21R-303	CH	2	47.21
U21R-304	CH	1	49.62
U21R-305	CH	4	62.02
U21R-306	CH	2	59.28
U21R-307	CH	1	26.41
U21R-308	CH	5	68.95
U21R-309	CH	1	65.74
U21R-310	CH	2	53.12
U21R-311	CH	1	24.78
U21R-312	CH	1	34.76
U21R-313	CH	1	32.10
U21R-314	CH	2	38.45
U21R-315	CH	1	27.27
U21R-316	CH	1	23.51
U21R-317	CH	1	20.07
U21R-318	CH	1	1.21
U21R-319	CH	13	56.45
U21R-320	CH	3	54.29
U21R-321	CH	2	27.13
U21R-322	CH	1	33.48
U21R-323	CH	1	33.12
U21R-324	CH	2	13.20
U21R-325	CH	1	3.63
U21R-326	CH	2	10.91
U21R-327	CH	1	2.55
U21R-328	CH	1	16.90
U21R-329	CH	1	12.27
U21R-330	CH	1	1.21
U21R-331	CH	1	3.74
U21R-332	CH	1	3.79
U21R-333	CH	1	1.04
U21R-334	CH	1	1.75
U21R-335	RH	2	152.16
U21R-336	SA	1	1.89
その他	AN	97	784.57
その他	TU	2	1.03

石　材	個数	重量
安山岩(AN)	132	3,120.13
流紋岩(RH)	71	2,018.14
頁岩(SH)	1	5.24
チャート(CH)	78	1,450.71
凝灰岩(TU)	54	2,342.84
砂岩(SA)	99	2,724.82
ホルンフェルス(HO)	2	77.86
合　計	437	11,739.74

21　U21-Hブロック（第250・251・400図，第141～143表，カラー図版13，図版10）

1）ブロックの概要

U21-Hブロックは，調査範囲東側のU21-47・57グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側中央台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は25mである。

ブロックの規模と形状は，長軸5m，短軸1mの範囲に8点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅣ層にかけて，20cmほどの高低差をもって包含されている（第250図）。

ブロックは，剥片2点，石核1点の合計3点で構成される。石器石材は，軟質の安山岩1点，頁岩C2点である。礫石材は，チャート3点（1母岩；12.5g），砂岩2点（1母岩；48.0g）で，識別率は100％である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは3母岩を識別した。内訳は，軟質の安山岩1母岩（U21-6），頁岩C2母岩（U21-7・8）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（3/3点）である。

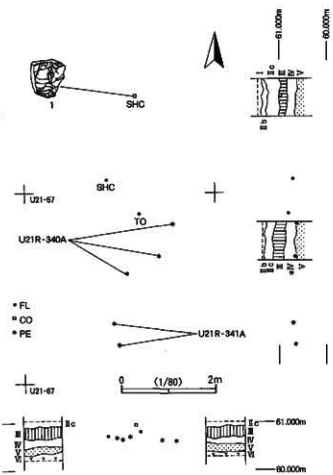
・U21-6：内部は浅黄色（2.5Y7/4）・灰白色（5Y7/2），新鮮な面は灰色（5Y6/1）の軟質の安山岩である。剥片1点（6.9g）の単独資料である。

・U21-7：灰色（5Y4/1）・灰色（N5/0）が縞状に入る嶺岡産頁岩である。石核1点（9.5g）の単独資料である。

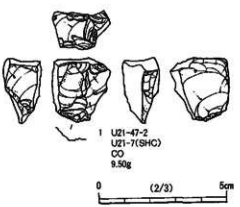
・U21-8：暗灰黄色(2.5Y5/2)・暗灰黄色(2.5Y4/2)で表面に近い部分がにぶい黄褐色（10YR5/4）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（0.9g）の単独資料である。

3）出土遺物（第251図）

1は嶺岡産頁岩による比較的厚みのある剥片を素材とした両極石核である。



第250図　U21-Hブロック出土遺物分布
－器種・石材別分布－



第251図　U21-Hブロック出土遺物

第141表 U21−Hブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合 計
U21−6(TO)																	1								1
U21−7(SHC)																			1						1
U21−8(SHC)																	1								1
合 計																	2		1						3

第142表 U21−Hブロック石材別石器組成

石 材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合 計
安山岩(TO)																	1								1
頁岩C(SHC)																	1		1						2
合 計																	2		1						3

第143表 U21−Hブロック礫組成

母 岩	石 材	個数	重量
U21R−340	CH	3	12.54
U21R−341	SA	2	48.02

石 材	個数	重量
チャート(CH)	3	12.54
砂岩(SA)	2	48.02
合 計	5	60.56

22 N21-Aブロック（第252〜255・400図，第144〜146表，カラー図版13・23，図版11）

1）ブロックの概要

N21-Aブロックは，調査範囲西側のN21-71・81・82・91・92グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸８m，短軸３mの範囲に43点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅱc層からⅢ層にかけて，50cmほどの高低差ををもって包含されている（第252〜254図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，掻器１点，加工痕ある剥片２点，剥片12点，砕片１点，石核３点の合計20点と礫23点で構成される。石器石材は，頁岩Ｃ１点，頁岩Ｄ１点，頁岩Ｅ５点，凝灰岩６点，ホルンフェルス６点，瑪瑙・玉髄１点である。礫石材は，安山岩４点（３母岩；351.0ｇ），流紋岩４点（４母岩；342.4ｇ），頁岩２点（１母岩；20.9ｇ），凝灰岩１点（１母岩；211.9ｇ），砂岩12点（６母岩；583.8ｇ）で，識別率は100％である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは10母岩を識別した。内訳は，頁岩Ｃ１母岩（N21-４），頁岩Ｄ１母岩（N21-５），頁岩Ｅ３母岩（N21-６〜８），凝灰岩３母岩（N21-１〜３），ホルンフェルス１母岩（N21-９），瑪瑙・玉髄１母岩（N21-10）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（20/20点）である。

・N21-１：自然面は平滑で明褐色（7.5YR5/6）・褐色（7.5YR4/4）・黒褐色（7.5YR2/2），内部は明オリーブ灰色（2.5GY7/1），節理は黄褐色（10YR5/6）・褐色（10YR4/4）の凝灰岩である。N21-２と同一母岩の可能性がある。石器群の内訳は，剥片２点，砕片１点の合計３点（37.4ｇ）である。

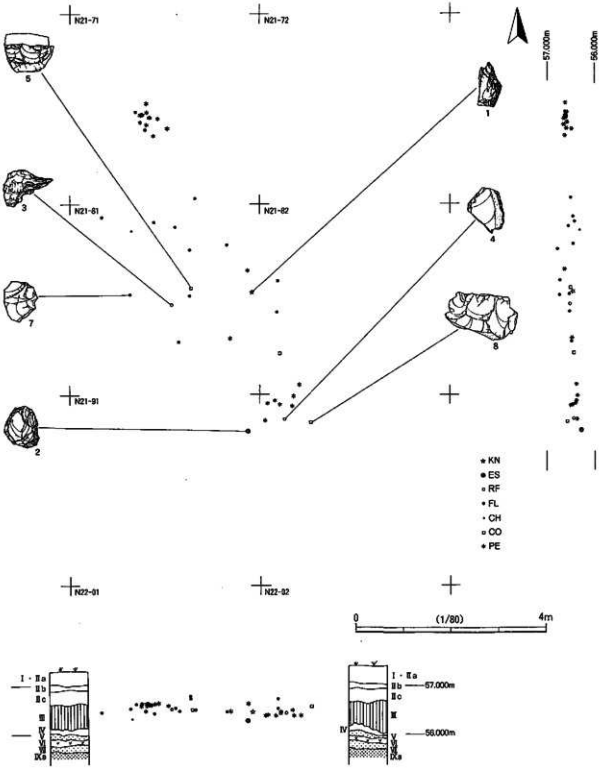
・N21-２：灰白色（10Y7/2）の資料，明オリーブ灰色（2.5GY7/1）の資料など母岩内に変異がある凝灰岩である。後者はN21-１と同一母岩の可能性がある。石器群の内訳は，剥片２点（1.8ｇ）である。

・N21-３：内部は浅黄色（5Y7/3），新鮮な面は明緑灰色（10GY8/1）の凝灰岩である。剥片１点（9.7ｇ）の単独資料である。

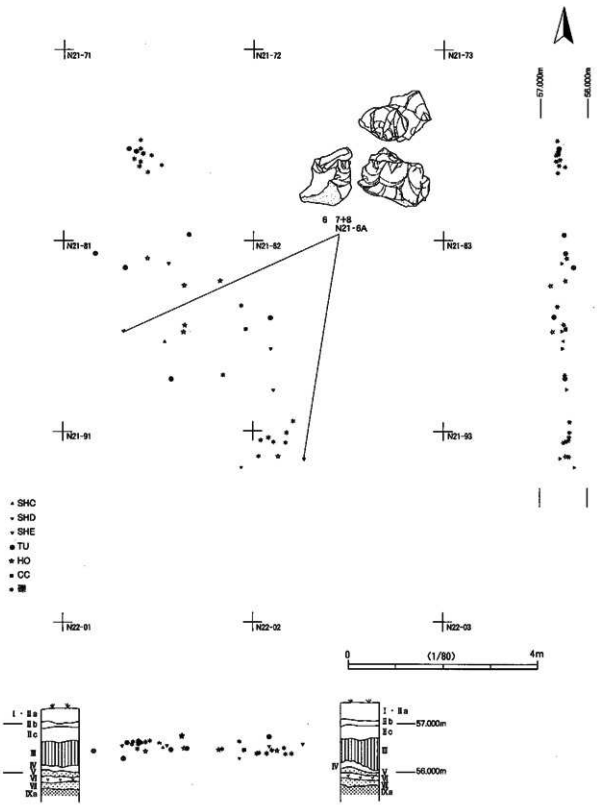
・N21-４：内部は灰オリーブ色（5Y5/2），節理は褐色（7.5YR4/4）の嶺岡産頁岩である。加工痕ある剥片１点（4.8ｇ）の単独資料である。

・N21-5：自然面は平滑で，自然面及び内部はオリーブ黒色（5Y3/2）の硬質緻密な頁岩である。掻器1点（5.1ｇ）の単独資料である。

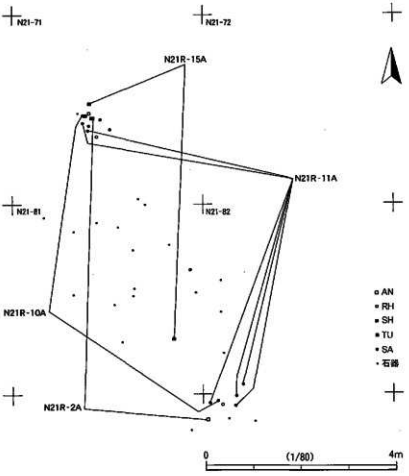
・N21-6：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部はオリーブ灰色(2.5GY6/1)・明オリーブ灰色(2.5GY7/1)，



第252図　N21-Aブロック出土遺物分布（１）－器種別分布－



第253図　N21-Aブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



第254図　N21-Aブロック出土遺物分布(3)－礫石材別分布－

第144表　N21-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
N21-1(TU)																	2	1							3
N21-2(TU)																	2								2
N21-3(TU)																	1								1
N21-4(SHC)										1															1
N21-5(SHD)					1																				1
N21-6(SHE)																	2		1						3
N21-7(SHE)																			1						1
N21-8(SHE)																	1								1
N21-9(HO)										1							4		1						6
N21-10(CC)	1																								1
合　計	1				1					2							12	1	3						20

第145表　N21-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
頁岩C(SHC)										1															1
頁岩D(SHD)					1																				1
頁岩E(SHE)																	3		2						5
凝灰岩(TU)																	5	1							6
ホルンフェルス(HO)										1							4		1						6
珪質・玉髄(CC)	1																								1
合　計	1				1					2							12	1	3						20

第146表　N21-Aブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
N21R-1	AN	1	184.28
N21R-2	AN	2	120.87
N21R-3	AN	1	45.80
N21R-4	RH	1	170.90
N21R-5	RH	1	84.55
N21R-6	RH	1	58.94
N21R-7	RH	1	28.01
N21R-8	TU	1	211.91
N21R-9	SA	1	233.12
N21R-10	SA	2	128.78

母　岩	石 材	個数	重量
N21R-11	SA	6	103.70
N21R-12	SA	1	65.11
N21R-13	SA	1	51.25
N21R-14	SA	1	1.81
N21R-15	SH	2	20.92

石　材	個数	重量
安山岩(AN)	4	350.95
流紋岩(RH)	4	342.40
頁岩(SH)	2	20.92
凝灰岩(TU)	1	211.91
砂岩(SA)	12	583.77
合　計	23	1,509.95

節理は暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)・明オリーブ灰色(2.5GY7/1)・オリーブ褐色(2.5Y4/6)・にぶい黄色(2.5Y6/3)の頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点，石核１点の合計３点（55.0ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（49.8ｇ）である。

・N21-7：自然面は平滑で，自然面及び内部は淡黄色（2.5Y8/4）・浅黄色（5Y7/3）・灰色（7.5Y6/1）の頁岩である。石核１点（106.4ｇ）の単独資料である。

・N21-8：内部は灰色（10Y6/1），新鮮な面は灰色（N5/0）の頁岩である。剥片１点（11.9ｇ）の単独資料である。

・N21-9：自然面は紙ヤスリ状でにぶい黄色（2.5Y6/3）・灰オリーブ色（5Y5/2），内部は灰色（5Y5/1）・灰黄色（2.5Y7/2），節理はオリーブ褐色（2.5Y4/4），新鮮な面は灰色（N4/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片４点，石核１点の合計６点（61.2ｇ）である。

・N21-10：灰黄褐色（10YR6/2）で半透明な瑪瑙・玉髄である。ナイフ形石器１点（2.7ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第255図１～５）

１は瑪瑙・玉髄による一側縁加工あるいは部分加工のナイフ形石器で，横長剥片を横位に用い，右側縁に調整加工を行っている。なお，右側縁全体の調整加工の新旧関係と類似性から，一側縁加工と考えたが，細かい剥離痕のみでは，上半部が下半部を切っていることが分かるだけで，下半部の剥離痕は打面付近であることから頭部調整の可能性もあり，その場合は，部分加工となる。

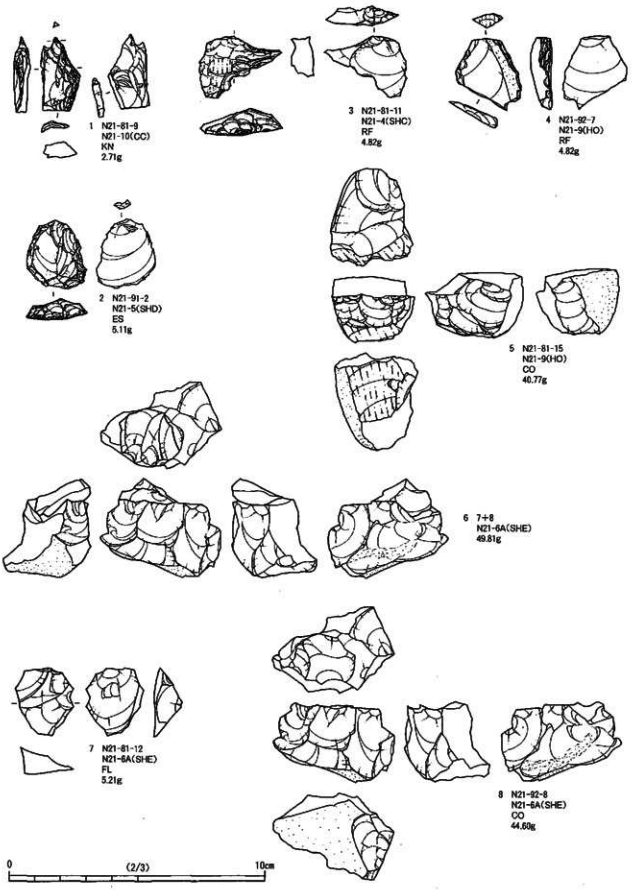
２は硬質緻密な頁岩によるいわゆる掻状掻器で，不定型な剥片の左側縁を除くほぼ全周に調整加工を行っている。

３は嶺岡産頁岩，４はホルンフェルスによる加工痕ある剥片である。それぞれ不定型な剥片を素材として，３は末端，４は右側縁に調整加工を行っている。

５はホルンフェルスによる石核である。厚めの剥片の主要剥離面側を打面として，正面側から右側面側にかけて小型で不定型な剥片を剥離している。

４）接合資料とその関連資料（第255図６～８）

・N21-6（第255図６～８）　オリーブ灰色（2.5GY6/1）などの頁岩である。６は剥片１点（７），石核１点（８）の接合資料である。打面転移を繰り返しながら，小型で不定型な剥片を剥離している。



第255図　N21-Aブロック出土遺物

23　N22-Aブロック（第256～263・401図，第147～149表，カラー図版13・23，図版11）

1）ブロックの概要

N22-Aブロックは，調査範囲西側のN22-05・15・16・24～27グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側台地上の縁辺部である。

ブロックの規模と形状は，長軸12m，短軸9mの範囲に205点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅰ層からⅢ層にかけて，70cmほどの高低差をもって包含されている（第256～259図）。

ブロックは，楔形石器1点，剥片31点（29個体），砕片3点，石核12点の合計47点（45個体）と礫158点で構成される。石器石材は，頁岩C2点，頁岩E3点，チャート14点（12個体），凝灰岩11点，砂岩3点，ホルンフェルス14点である。礫石材は，安山岩3点（2母岩；50.4g），流紋岩14点（8母岩；451.3g），チャート44点（28母岩；841.4g），凝灰岩4点（4母岩；563.9g），砂岩83点（50母岩；1,939.7g），瑪瑙・玉髄4点（4母岩；159.3），閃緑岩1点（1母岩；169.8g），花崗岩5点（2母岩；84.0g）で，識別率は100％である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは15母岩を識別した。内訳は，頁岩C2母岩（N22-9・10），頁岩E1母岩（N22-11），チャート1母岩（N22-15），凝灰岩5母岩（N22-1～5），砂岩3母岩（N22-6～8），ホルンフェルス3母岩（N22-12～14）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（47/47点）である。

・N22-1：自然面は平滑で明オリーブ灰色（2.5GY7/1），内部は明オリーブ灰色（5GY7/1）・灰オリーブ色（7.5Y6/2）の凝灰岩である。石核1点（107.1g）の単独資料である。

・N22-2：自然面は平滑で灰白色（5Y7/2）・浅黄色（2.5Y7/4），内部は灰白色（5Y7/2）・灰白色（7.5Y7/4）・明オリーブ灰色（2.5GY7/1）・灰白色（10Y7/1）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片4点，石核1点の合計5点（41.2g）である。

・N22-3：灰色（10Y5/1）・灰黄色（2.5Y6/2）の凝灰岩である。剥片1点（1.7g）の単独資料である。

・N22-4：自然面は平滑で明褐色（7.5YR5/6）・灰黄褐色（10YR4/2），内部は灰白色（7.5Y7/2），表面に近い部分は黄褐色（10YR5/6）の凝灰岩である。剥片1点（4.9g）の単独資料である。

・N22-5：内部はオリーブ灰色（5GY6/1），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）・褐色（7.5YR4/6），新鮮な面はオリーブ灰色（5GY5/1）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片3点（16.2g）である。

・N22-6：自然面は平滑でオリーブ灰色(2.5GY6/1)・灰オリーブ色(5Y6/2)，内部はオリーブ灰色(2.5GY6/1)・にぶい黄色（2.5Y6/3），節理は褐色（10YR4/4）の砂岩である。石核1点（189.4g）の単独資料である。

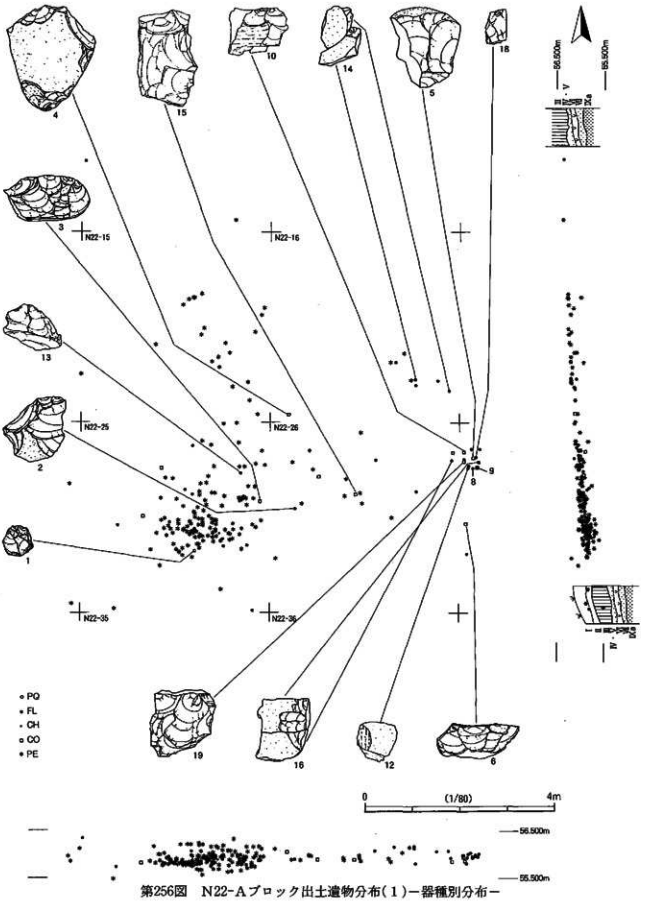
・N22-7：自然面は平滑でにぶい黄色(2.5Y6/4)・灰黄色(2.5Y6/2)・灰白色(5Y8/1)，内部は浅黄色(2.5Y7/4)・にぶい褐色（7.5YR5/4），新鮮な面は灰白色（2.5Y8/2）の砂岩である。石核1点（114.9g）の単独資料である。

・N22-8：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（10Y6/1）の砂岩である。剥片1点（7.0g）の単独資料である。

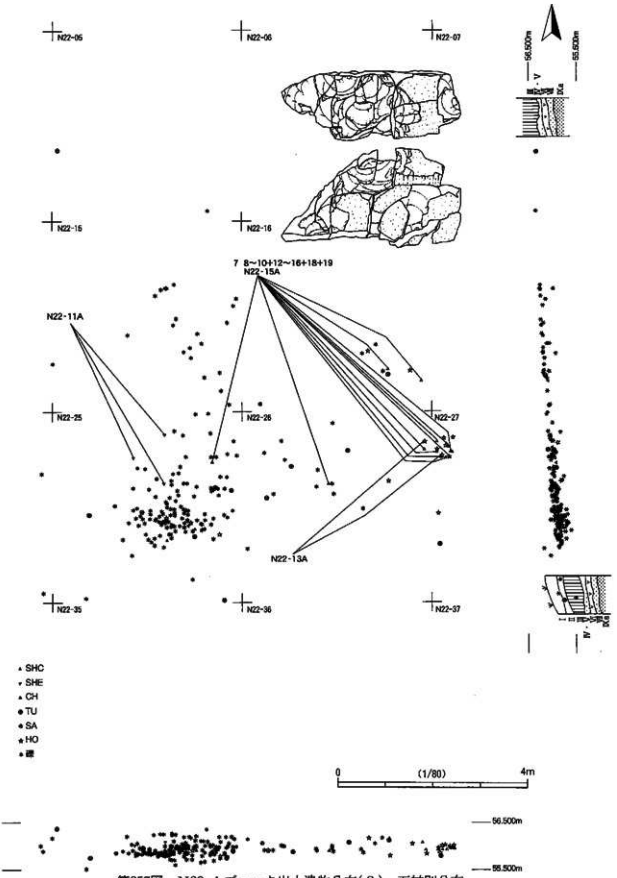
・N22-9：自然面は平滑で褐色（7.5YR4/3），内部は褐色（7.5YR4/3）・灰オリーブ色（5Y5/3）・灰色（5Y4/1）の嶺岡産頁岩である。楔形石器1点（3.8g）の単独資料である。

・N22-10：灰オリーブ色（5Y5/3）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（0.7g）の単独資料である。

・N22-11：自然面は平滑でオリーブ黄色（5Y6/3）の地に淡黄色（5Y8/3）が部分的に混じり，内部は浅黄



第256図　N22-Aブロック出土遺物分布(１)－器種別分布－



第257図　N22-Aブロック出土遺物分布(2)－石材別分布－

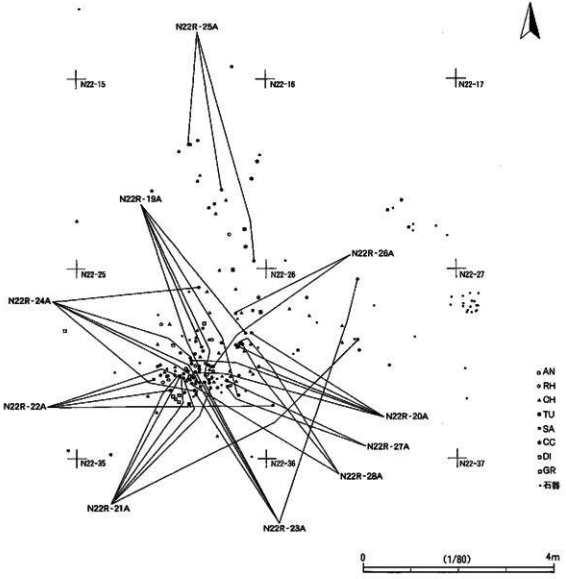
色（2.5Y7/4），節理はオリーブ黄色（5Y6/4）・黄褐色（2.5Y5/3）・明黄褐色（10YR6/6），新鮮な面は灰白色（10Y7/2）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点，石核1点の合計3点（35.2g）である。接合資料は，剥片2点，石核1点の合計3点（35.2g）である。

・**N22-12**：自然面は比較的平滑で黄褐色（2.5Y5/3），内部は灰色（5Y5/1）の地に灰白色（5Y7/2）が部分的に混じるホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片1点，砕片1点，石核1点の合計3点（43.4g）である。

・**N22-13**：自然面は紙ヤスリ状でにぶい黄褐色（10YR5/4）・浅黄色（2.5Y7/3），内部は浅黄色（2.5Y7/3），新鮮な面は黒褐色（2.5Y3/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片7点，石核3点の合計10点（227.2g）である。接合資料は，剥片1点，石核1点の合計2点（47.5g）である。

・**N22-14**：灰色（N4/0）のホルンフェルスである。剥片1点（46.1g）の単独資料である。

・**N22-15**：自然面は平滑な部分と比較的平滑な部分があり，淡黄色（5Y8/3）・黄褐色（10YR5/6）・褐灰色



第258図　N22-Aブロック出土遺物分布（3）－礫石材別分布（1）－

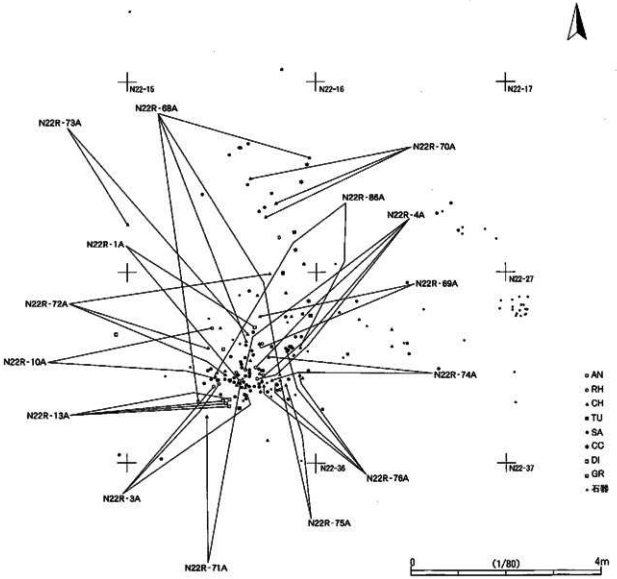
（10YR4/1），内部は灰色（10Y4/1）・淡黄色（5Y8/3）・灰オリーブ色（5Y6/2）・褐色（7.5YR4/4），節理は褐色（7.5YR4/4）・灰色（10Y4/1）のチャートである。石器群の内訳は，剥片９点（7個体），砕片２点，石核３点の合計14点（12個体；360.8ｇ）である。接合資料は，剥片９点（7個体），石核３点の合計12点（10個体；359.8ｇ）である。

３）出土遺物（第260図）

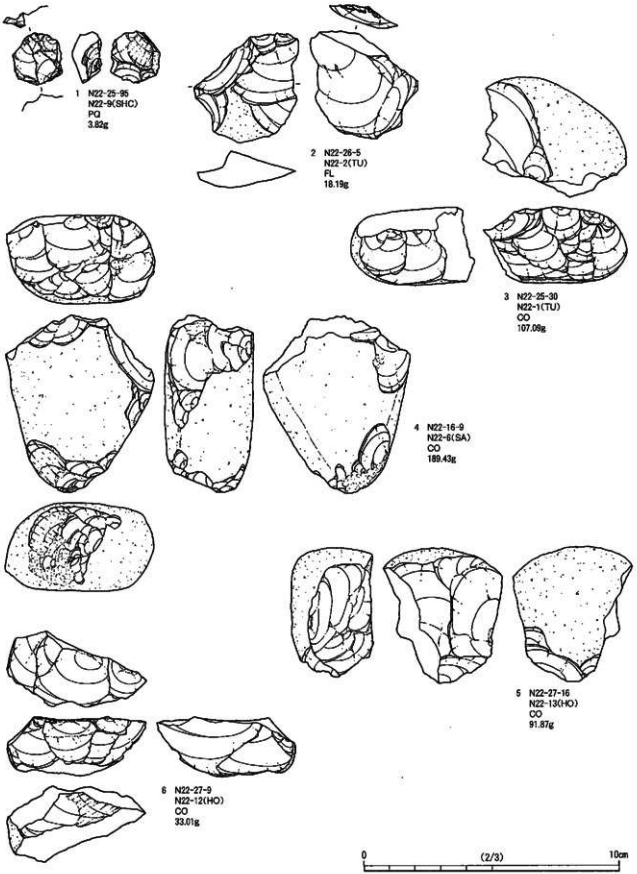
１は嶺岡産頁岩による楔形石器で，上下両端に対向する剥離痕が見られる。

２は凝灰岩による不定型な剥片である。

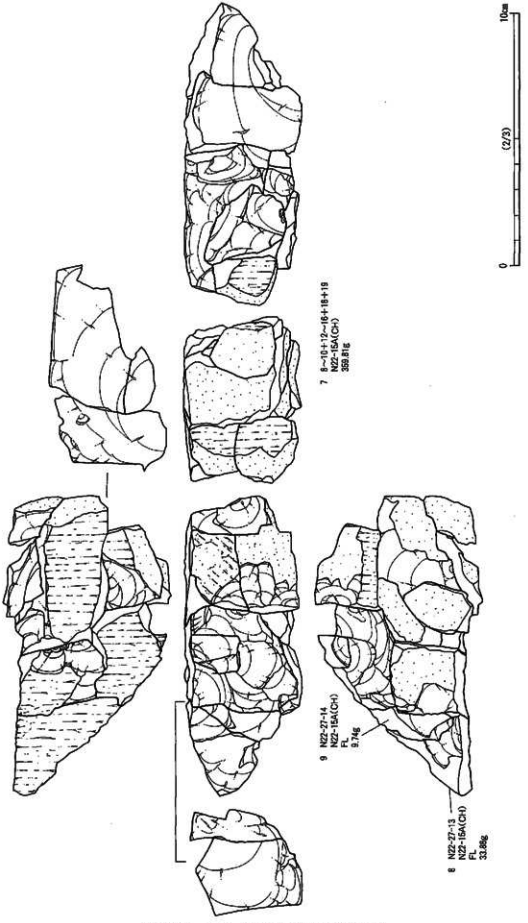
３は凝灰岩，４は砂岩，５・６はホルンフェルスによる石核である。３は自然面あるいは大きな剥離面を打面として，小型で不定型な剥片を剥離している。４は裏面側の平坦な自然面を打面として，小型で不定型な剥片を剥離している。なお，下面に剥離面を切る浅い敲打痕が見られることから敲石への転用あるいは敲石からの転用が考えられる。



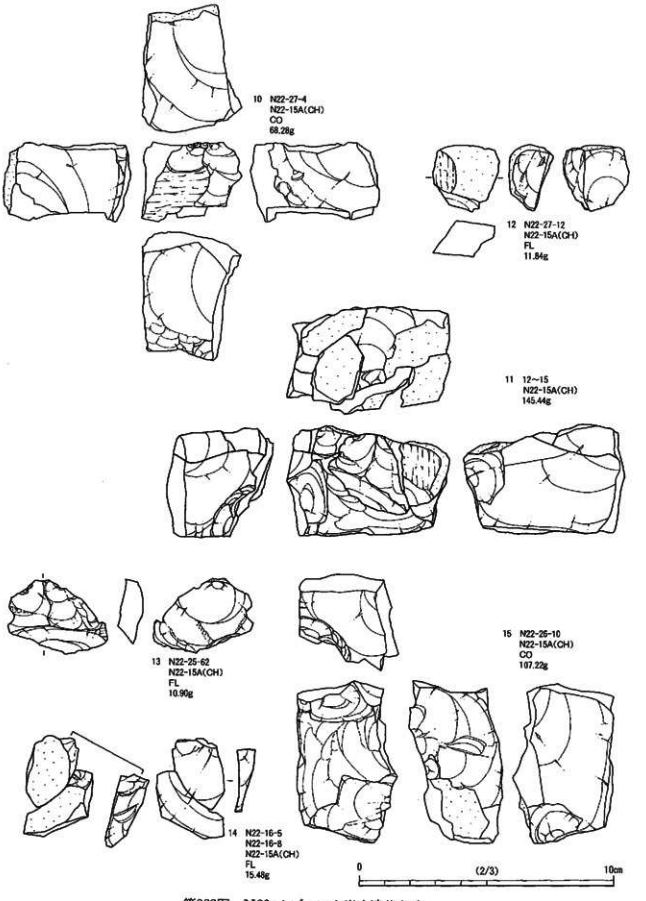
第259図　N22－Aブロック出土遺物分布（４）－礫石材別分布（２）－



第260図　N22-Aブロック出土遺物(1)



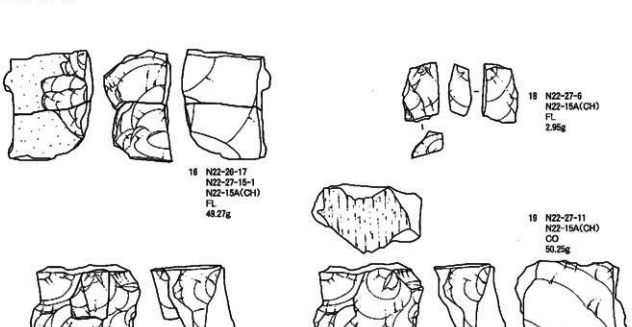
第261図　N22-Aブロック出土遺物(2)



第262図　N22-Aブロック出土遺物(3)

4）接合資料とその関連資料（第261～263図）

・N22-15（第261～263図）　灰色（10Y4/1）などのチャートである。7は剥片9点（7個体；8・9・12～14・16・18），石核3点（10・15・19）の接合資料である。その内，14は剥片2点が接合して1個体，16は剥片2点が接合して1個体となる。質の悪い節理の発達した母岩を大きく4つに剥離（分割）したもので，その内，3個体を石核としており，11の個体には12～15の5点（4個体），17の個体には18・19の2点が接合している。



第263図　N22-Aブロック出土遺物(4)

第147表　N22-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
N22-1(TU)																			1						1
N22-2(TU)																	4		1						5
N22-3(TU)																	1								1
N22-4(TU)																	1								1
N22-5(TU)																	3								3
N22-6(SA)																			1						1
N22-7(SA)																			1						1
N22-8(SA)																	1								1
N22-9(SHC)									1																1
N22-10(SHC)																	1								1
N22-11(SHE)																	2		1						3
N22-12(HO)																	1	1	1						3
N22-13(HO)																	7		3						10
N22-14(HO)																	1								1
N22-15(CH)																	9(7)	2	3						14(12)
合　計									1								31(29)	3	12						47(45)

第148表　N22-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
頁岩C(SHC)									1								1								2
頁岩E(SHE)																	2		1						3
チャート(CH)																	9(7)	2	3						14(12)
凝灰岩(TU)																	9		2						11
砂岩(SA)																	1		2						3
ホルンフェルス(HO)																	9	1	4						14
合　計									1								31(29)	3	12						47(45)

第149表　N22-Aブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
N22R-1	AN	2	41.78
N22R-2	AN	1	8.66
N22R-3	RH	3	68.69
N22R-4	RH	4	221.17
N22R-5	RH	1	33.31
N22R-6	RH	1	26.09
N22R-7	RH	1	38.28
N22R-8	RH	1	39.41
N22R-9	SA	1	62.04
N22R-10	RH	2	6.66
N22R-11	RH	1	15.65
N22R-12	DI	1	169.82
N22R-13	QR	4	63.83
N22R-14	QR	1	20.17
N22R-15	TU	1	240.43
N22R-16	TU	1	66.13
N22R-17	TU	1	33.62
N22R-18	TU	1	223.73
N22R-19	SA	5	109.93
N22R-20	SA	5	103.34
N22R-21	SA	7	89.07
N22R-22	SA	4	73.31
N22R-23	SA	5	103.77
N22R-24	SA	5	68.58
N22R-25	SA	3	21.61
N22R-26	SA	2	49.45
N22R-27	SA	2	30.74
N22R-28	SA	3	34.80
N22R-29	SA	1	37.25
N22R-30	SA	1	23.84
N22R-31	SA	1	24.15
N22R-32	SA	1	15.34
N22R-33	SA	1	43.85
N22R-34	SA	1	10.36
N22R-35	SA	1	7.75
N22R-36	SA	1	71.76
N22R-37	SA	1	70.41
N22R-38	SA	1	21.24
N22R-39	SA	1	32.76
N22R-40	SA	1	57.96
N22R-41	SA	1	8.84
N22R-42	SA	1	9.63
N22R-43	SA	1	39.47
N22R-44	SA	1	22.15
N22R-45	SA	1	41.76
N22R-46	SA	1	22.65
N22R-47	SA	1	41.53
N22R-48	SA	1	18.51
N22R-49	SA	1	8.60
N22R-50	SA	1	13.15
N22R-51	SA	1	21.01
N22R-52	SA	1	24.27
N22R-53	SA	1	9.11
N22R-54	SA	1	7.89
N22R-55	SA	1	42.84
N22R-56	SA	1	40.09
N22R-57	SA	1	28.50
N22R-58	SA	1	31.74
N22R-59	SA	1	25.65
N22R-60	SA	1	1.74
N22R-61	SA	1	0.50
N22R-62	SA	3	36.39
N22R-63	SA	1	100.11
N22R-64	SA	1	95.97
N22R-65	SA	1	51.33
N22R-66	SA	1	17.95
N22R-67	SA	1	15.01
N22R-68	CH	4	88.35
N22R-69	CH	2	39.09
N22R-70	CH	3	44.20
N22R-71	CH	2	38.55
N22R-72	CH	3	34.83
N22R-73	CH	2	10.62
N22R-74	CH	2	26.18
N22R-75	CH	2	42.70
N22R-76	CH	4	83.51
N22R-77	CH	1	28.58
N22R-78	CH	1	39.62
N22R-79	CH	1	32.61
N22R-80	CH	1	34.45
N22R-81	CH	1	77.52
N22R-82	CH	1	20.10
N22R-83	CH	1	23.70
N22R-84	CH	1	43.90
N22R-85	CH	1	30.43
N22R-86	CH	2	8.37
N22R-87	CH	1	29.60
N22R-88	CH	1	27.74
N22R-89	CH	1	8.02
N22R-90	CH	1	8.05
N22R-91	CH	1	1.48
N22R-92	CH	1	6.01
N22R-93	CH	1	7.82
N22R-94	CH	1	4.88
N22R-95	CH	1	0.66
N22R-96	CC	1	142.30
N22R-97	CC	1	10.97
N22R-98	CC	1	2.69
N22R-99	CC	1	3.34

石　材	個数	重量
安山岩(AN)	3	50.44
流紋岩(RH)	14	451.26
チャート(CH)	44	841.37
凝灰岩(TU)	4	563.91
砂岩(SA)	83	1,939.70
珪質・玉髄(QC)	4	159.30
閃緑岩(DI)	1	169.82
花崗岩(GR)	5	84.00
合　計	158	4,259.80

24　R22-Aブロック（第264・400図，第150～152表）

1）ブロックの概要

R22-Aブロックは，調査範囲東側のR22-52・53グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上の縁辺部である。

ブロックの規模と形状は，1mの直線状に3点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅳ層からⅤ層にかけて，10cmほどの高低差をもって包含されている（第264図）。

ブロックは，剥片2点と礫1点で構成される。石器石材は，チャート1点，砂岩1点である。礫石材は，流紋岩1点（1母岩；2.9g）で，識別率は100%である。

2）母岩の特徴と内容

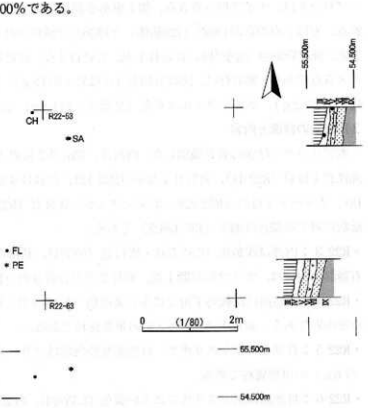
本ブロックでは2母岩を識別した。内訳は，チャート1母岩（R22-2），砂岩1母岩（R22-1）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（2/2点）である。

・R22-1：灰色（7.5Y5/1）の砂岩である。剥片1点（1.9g）の単独資料である。

・R22-2：黄褐色（2.5Y5/3）・黄灰色（2.5Y5/1）の地に黄灰色（2.5Y4/1）の線が入るチャートである。剥片1点（5.4g）の単独資料である。

3）出土遺物

図示していないが，2点の剥片は不定型なものである。



第264図　R22-Aブロック出土遺物分布
－器種・石材別分布－

第150表　R22-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
R22-1(SA)																	1								1
R22-2(CH)																	1								1
合　計																	2								2

第151表　R22-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
チャート(CH)																	1								1
砂岩(SA)																	1								1
合　計																	2								2

第152表　R22-Aブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
R22R-1	RH	1	2.93

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	1	2.93
合　計	1	2.93

25　R22･Bブロック（第265～272・401図，第153～155表，カラー図版13・14・23，図版11）

1）ブロックの概要

R22･Bブロックは，調査範囲東側のR22-86・95～97グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は15mである。

ブロックの規模と形状は，直径６ｍの範囲に172点の石器・礫が分布する。その内，原位置不明の遺物が１点あり，その他に垂直分布のない遺物が３点ある。出土層位は，Ⅲ層からⅤ層にかけて，50cmほどの高低差をもって包含されている（第265～267図）。

ブロックは，ナイフ形石器５点，加工痕ある剥片２点，使用痕ある剥片３点，剥片94点（86個体），砕片25点，石核７点の合計136点（128個体）と礫36点で構成される。石器石材は，安山岩15点，軟質の安山岩３点，流紋岩38点（35個体），頁岩Ｂ１点，頁岩Ｄ４点，頁岩Ｅ68点（63個体），チャート２点，ホルンフェルス５点である。礫石材は，流紋岩13点（５母岩；334.8ｇ），凝灰岩３点（１母岩；97.4ｇ），砂岩14点（５母岩；431.2ｇ），ホルンフェルス６点（２母岩；144.4ｇ）で，識別率は100％である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは20母岩を識別した。内訳は，安山岩７母岩（R22-４～10），軟質の安山岩１母岩（R22-３），流紋岩１母岩（R22-11），頁岩Ｂ１母岩（R22-12），頁岩Ｄ４母岩（R22-13～16），頁岩Ｅ２母岩（R22-17・18），チャート１母岩（R22-22），ホルンフェルス３母岩（R22-19～21）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は99％（135/136点）である。

・**R22-3**：内部は浅黄色（2.5Y7/4）・灰白色（5Y7/1），新鮮な面は灰色（5Y5/1）の軟質の安山岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，剥片２点の合計３点（10.3ｇ）である。

・**R22-4**：自然面は比較的平滑でにぶい黄橙色（10YR6/4）・灰黄褐色（10YR5/2），内部は灰色（7.5Y5/1）の安山岩である。剥片１点（17.6ｇ）の単独資料である。

・**R22-5**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部はオリーブ褐色（2.5Y4/4）の安山岩である。剥片１点（7.6ｇ）の単独資料である。

・**R22-6**：自然面は紙ヤスリ状でにぶい黄色（2.5Y6/4），内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）の安山岩である。ナイフ形石器１点（2.6ｇ）の単独資料である。

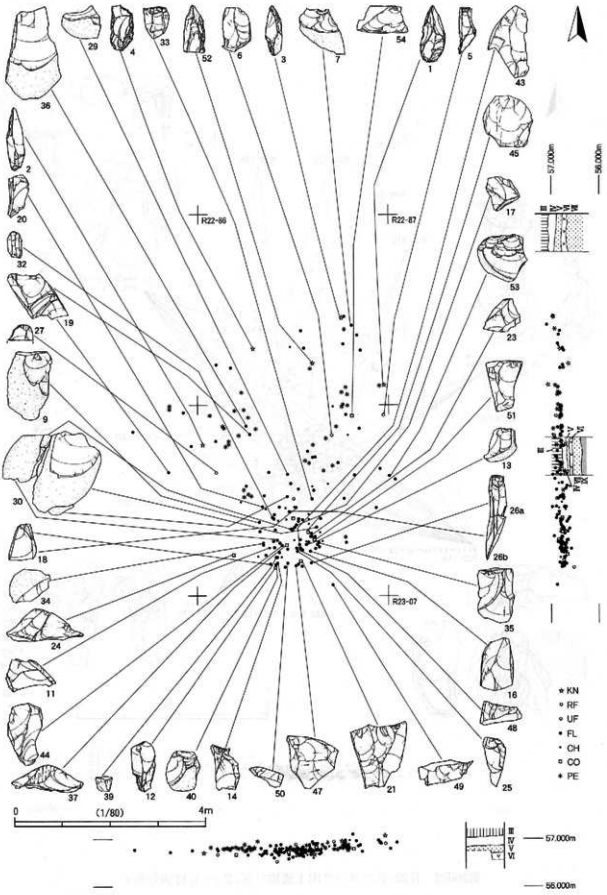
・**R22-7**：自然面は爪形の深い裂痕が密で黄灰色（2.5Y4/1），内部は暗灰黄色（2.5Y4/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片４点，砕片１点の合計５点（23.9ｇ）である。

・**R22-8**：内部は暗灰黄色（2.5Y4/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片１点，砕片２点の合計３点（7.1ｇ）である。

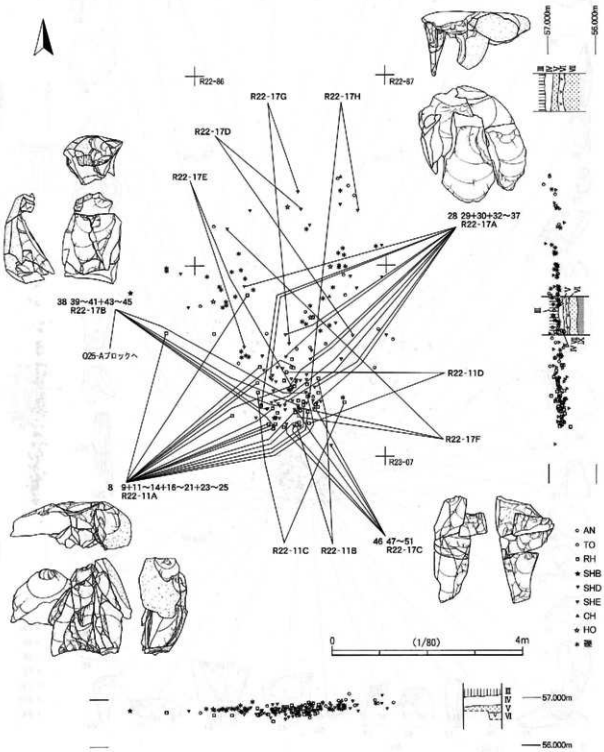
・**R22-9**：内部は黄灰色（2.5Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点（2.3ｇ）である。

・**R22-10**：内部は暗灰黄色（2.5Y4/2）・灰オリーブ色（5Y4/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，砕片２点（0.7ｇ）である。

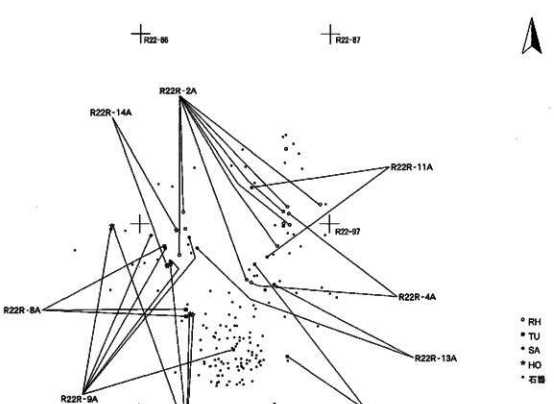
・**R22-11**：自然面は比較的平滑でにぶい褐色（7.5YR5/4），内部は淡黄色（2.5Y8/4）・暗赤色（10R3/4），節理は黄褐色（10YR5/6）の資料，自然面は比較的平滑で明黄褐色（10YR6/6）・黄橙色（10YR8/6），内部は灰白色（7.5Y7/1）の地に灰色（N6/0）が部分的に混じり，節理は褐色（10YR4/4）の資料など母岩内に変異があり，新鮮な面は灰色（7.5Y4/1）の流紋岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片２点，使用痕ある



第265図　R22-Bブロック出土遺物分布(1)－器種別分布－



第266図　R22-Bブロック出土遺物分布(２)－石材別分布－



第267図　R22－Bブロック出土遺物分布（３）－礫石材別分布－

剥片１点，剥片28点（25個体），砕片５点，石核２点の合計38点（35個体；162.7ｇ）である。接合資料は，４グループあり，Ａは加工痕ある剥片１点，剥片13点（11個体），石核２点の合計16点（14個体；109.9ｇ），Ｂは剥片２点（7.6ｇ），Ｃは剥片２点（3.9ｇ），Ｄは剥片２点（１個体；3.8ｇ）である。

・R22-12：にぶい褐色（7.5YR5/4）・暗灰黄色（2.5Y5/2）・にぶい黄色（2.5Y6/4）の北関東産頁岩である。剥片１点（4.1ｇ）の単独資料である。

・R22-13：暗灰黄色（2.5Y5/2）・黄褐色（2.5Y5/3）・灰オリーブ色（5Y5/2）・灰オリーブ色（5Y4/2）・にぶい黄橙色（10YR6/4）の硬質緻密な頁岩である。ナイフ形石器１点（2.9ｇ）の単独資料である。

・R22-14：灰黄色（2.5Y6/2）の硬質緻密な頁岩である。ナイフ形石器１点（2.9ｇ）の単独資料である。

・R22-15：灰白色（5Y7/2）の硬質緻密な頁岩である。使用痕ある剥片１点（1.8ｇ）の単独資料である。

・R22-16：浅黄色（2.5Y7/3）の地に暗灰黄色（2.5Y4/2）の付着物のある硬質緻密な頁岩である。剥片１点（1.0ｇ）の単独資料である。

・R22-17：自然面は平滑で浅黄色(5Y7/3)・灰オリーブ色(5Y6/2)・灰色(5Y5/1)，内部は灰黄色(2.5Y7/2)・黄褐色(10YR5/6)・黄灰色(2.5Y6/1)の資料，自然面は平滑でにぶい黄色(2.5Y6/3)，内部は灰白色(5Y7/2)・灰白色（5Y7/1），節理は褐色（10YR4/4）の資料など母岩内に変異があり，新鮮な面は灰色（10Y4/1）・黒褐色（2.5Y3/2）の頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，剥片48点（43個体），砕片12点，石核

5点の合計66点（61個体；344.9ｇ）である。接合資料は，8グループあり，Aは剥片10点（7個体），石核1点の合計11点（8個体；107.6ｇ）と接合している。Bは剥片3点，砕片1点，石核1点の合計5点（45.6ｇ）がQ25-Aブロックの剥片1点と接合している。Cは剥片4点，石核1点の合計5点（56.0ｇ）と接合している。Dは剥片2点（20.2ｇ），Eは剥片2点（1個体；4.7ｇ），Fは剥片3点（2個体；6.7ｇ），Gは剥片2点（5.5ｇ），Hは剥片2点（9.1ｇ）である。

・**R22-18**：内部はオリーブ灰色（5GY6/1），新鮮な面は暗オリーブ灰色（5GY4/1）の頁岩である。剥片1点（0.8ｇ）の単独資料である。

・**R22-19**：自然面は比較的平滑でにぶい褐色（7.5YR5/3）の地に，内部は灰色（7.5Y5/1）・暗赤褐色（2.5YR3/3）が部分的に混じり，節理は灰褐色（5YR5/2），新鮮な面は灰色（7.5Y4/1）のホルンフェルスである。剥片1点（20.4ｇ）の単独資料である。

・**R22-20**：自然面は比較的平滑でにぶい褐色（7.5YR5/3），内部は灰白色（5Y7/2）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片2点（33.8ｇ）である。

・**R22-21**：灰黄色（2.5Y6/2）・にぶい黄色（2.5Y6/3）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，砕片2点（1.0ｇ）である。

・**R22-22**：自然面は平滑で暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）・灰オリーブ色（7.5Y4/2），内部は暗オリーブ灰色（5GY4/1）のチャートである。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，剥片1点の合計2点（11.6ｇ）である。

なお，母岩分類できなかった資料に，頁岩Eの砕片1点（0.02ｇ）がある。

3）出土遺物（第268図1～7）

1は硬質緻密な頁岩による一側縁加工あるいは二側縁加工のナイフ形石器で，縦長剥片の打面側を基部として，左側縁に細かい調整加工を行っている。また，右側縁の下半部にも非常に細かい剥離痕が見られ，これを刃潰し加工とすると二側縁加工と考えられる。2は軟質の安山岩による部分加工のナイフ形石器で，石刃状の縦長剥片の打面側を先端部として，左側縁の上半部に調整加工を行っている。3は安山岩による部分加工あるいは二側縁加工のナイフ形石器で，横長剥片を横位に用い，左側縁の下半部と右側縁の上半部に調整加工を行っている。なお，右側縁の下半部の自然面も含め，二側縁加工と考えることも可能である。4は硬質緻密な頁岩による二側縁加工あるいは切出形のナイフ形石器で，横長剥片を横位に用い，左側縁と右側縁に調整加工を行っている。また，先端部には使用によって生じたと考えられる細かい剥離痕が見られる。

5は硬質緻密な頁岩，6はチャートによる使用痕ある剥片である。いずれも縦長剥片を素材とし，5は両側縁の下部，6は左側縁と末端の一部に微細な剥離痕が見られる。

7は安山岩による不定型な剥片である。

4）接合資料とその関連資料（第268図8～11，第269～272図）

・**R22-11（第268図8～11，第269図）**　淡黄色（2.5Y8/4）などの流紋岩である。8は加工痕ある剥片1点（12），剥片13点（11個体；9・11・13・14・16～20・23・25），石核2点（21・24）の接合資料である。その内，18・19はそれぞれ剥片2点が接合して1個体となる。全体的な工程の流れは，比較的大きめの礫から9を剥離し，10+25と22の個体に分割している。さらに，10+25は2つに分割されており，25は別の個体から剥離されている。このことから，本母岩は最低でも3個体に分割されている。10は13・11を含む

剥離によって打面を作り，180度打面を転移しながら，縦長剥片や不定型な剥片（12・14・16～20）を剥離している。一方，22は自然面を打点として，23を含む不定型な剥片を剥離している。12は縦長剥片の右側縁下部に調整加工を行っている。

26・27は接合しなかった同一母岩の資料である。26は石刃状の縦長剥片で２点が接合して１個体となる。27は加工痕ある剥片で，右側縁に細かい調整加工が行われている。

・R22-17（第270～272図）　灰白色（5Y7/2）などの頁岩である。28は剥片10点（７個体；29・30・32～36），石核１点（37）の接合資料である。その内，30は剥片４点が接合して１個体となる。28は29などを剥離した剥離面を打面として30を剥離し，その剥離面を打面として32～34を剥離し，その後，90度打面を転移して，36・37を剥離している。37は素材の正面側と裏面側からの加撃により，小型で不定型な剥片をそれぞれ１枚づつ剥離している。

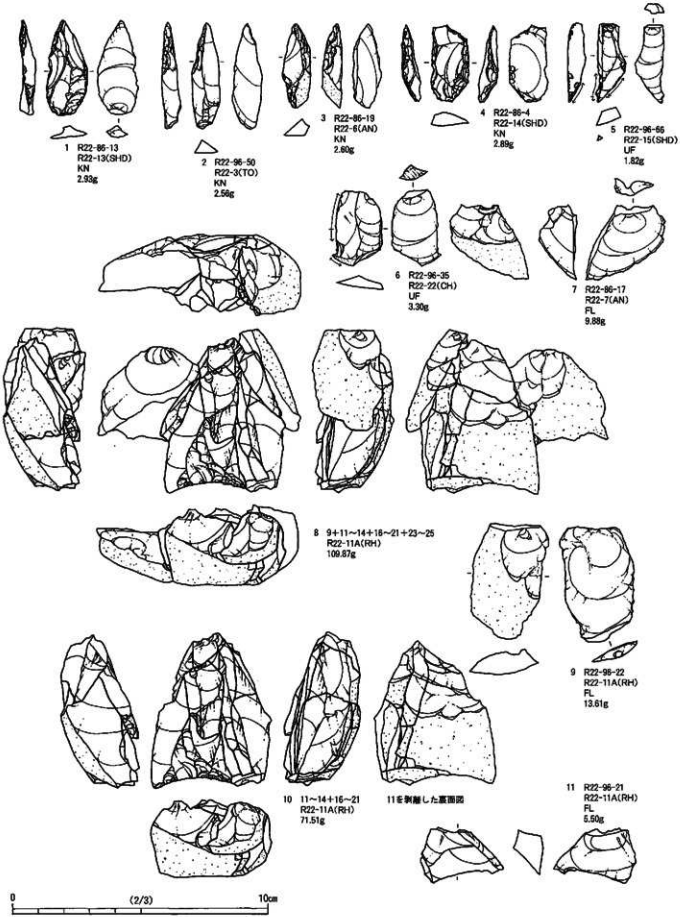
38は剥片３点（40・43・44），砕片１点（39），石核１点（45），Q25-Aブロックの剥片１点（41）の接合資料である。38は39・40などを剥離した後，数枚の縦長剥片を剥離し，41を剥離した後に，39・40などを剥離した剥離面を打面として，43・44を剥離している。あるいは43～45は同時に剥離した可能性がある。

第153表　R22-Bブロック母岩別石器組成

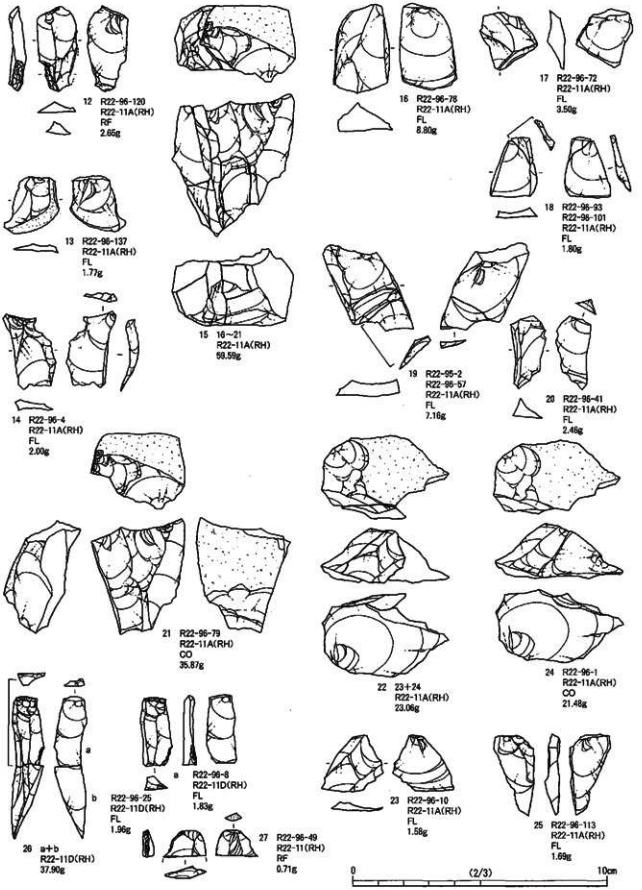
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
R22-3(TO)	1																2								3
R22-4(AN)																	1								1
R22-5(AN)																	1								1
R22-6(AN)	1																								1
R22-7(AN)																	4	1							5
R22-8(AN)																	1	2							3
R22-9(AN)																	2								2
R22-10(AN)																		2							2
R22-11(RH)										2	1						28(35)	5	2						38(35)
R22-12(SHB)																	1								1
R22-13(SHD)	1																								1
R22-14(SHD)	1																								1
R22-15(SHD)											1														1
R22-16(SHD)																	1								1
R22-17(SHE)	1																48(43)	12	5						66(61)
R22-18(SHE)																	1								1
R22-19(HO)																	1								1
R22-20(HO)																	2								2
R22-21(HO)																		2							2
R22-22(CH)											1						1								2
その他(SHE)																		1							1
合　計	5									2	3						94(86)	25	7						136(128)

第154表　R22-Bブロック石材別石器組成

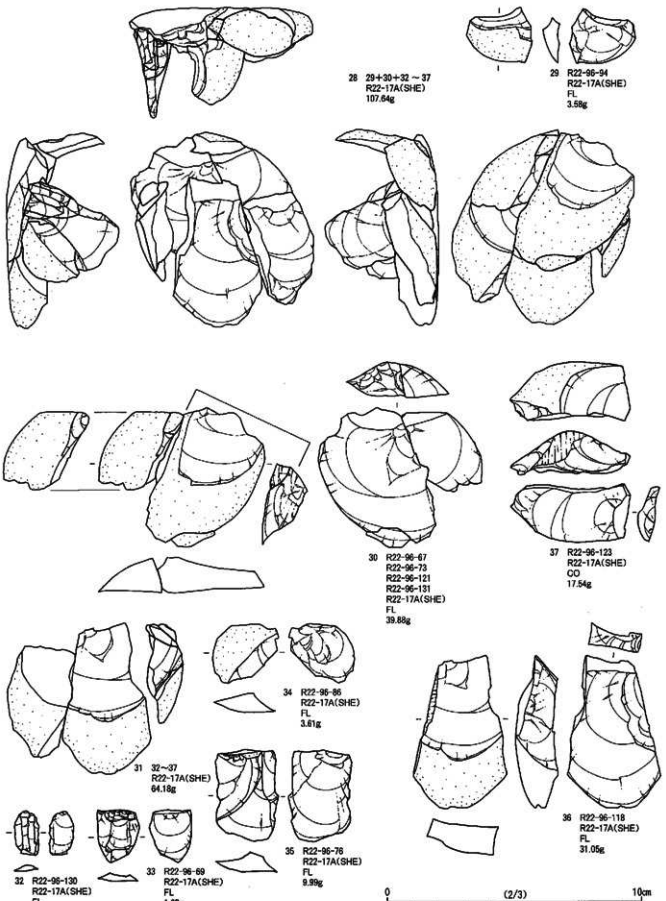
石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
安山岩(AN)	1																9	5							15
安山岩(TO)	1																2								3
頁岩(RH)										2	1						28(25)	5	2						38(35)
頁岩B(SHB)																	1								1
頁岩D(SHD)	2										1						1								4
頁岩E(SHE)	1																48(44)	13	5						66(63)
チャート(CH)											1						1								2
ホルンフェルス(HO)																	3	2							5
合　計	5									2	3						94(86)	25	7						136(128)



第268図　R22-Bブロック出土遺物(1)



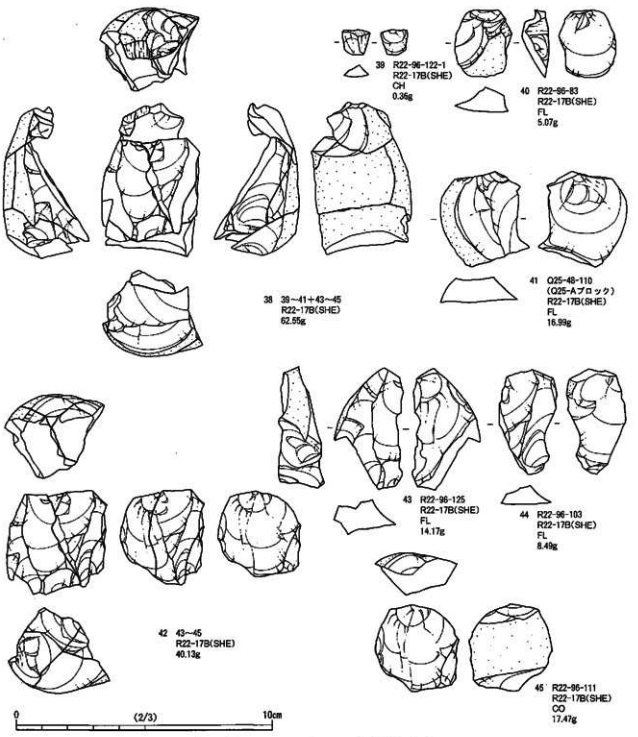
第269図　R22-Bブロック出土遺物(2)



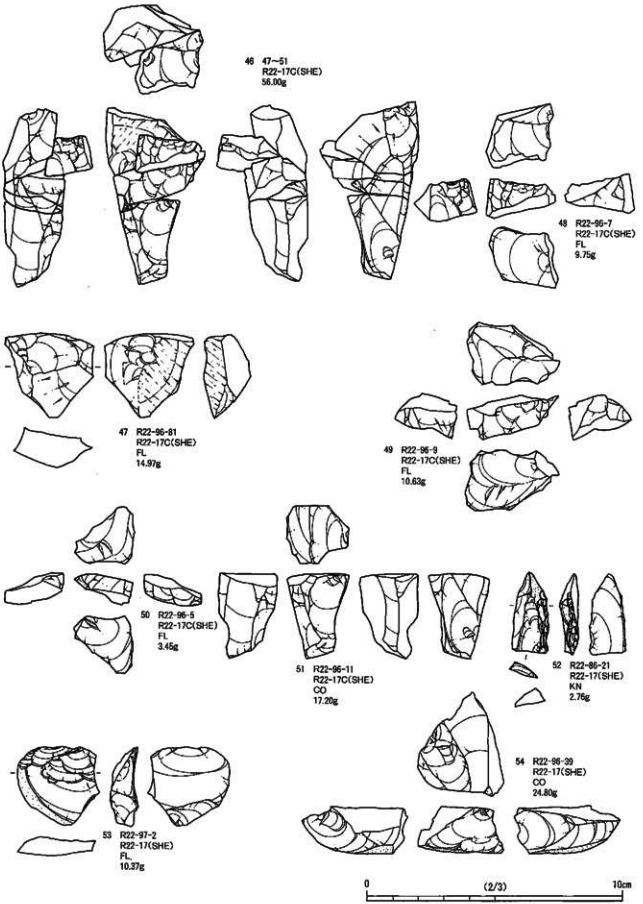
第270図　R22-Bブロック出土遺物（3）

46は剥片４点（47～50），石核１点（51）の接合資料である。47を剥離した後，90度打面を転移して数枚の縦長剥片を剥離し，48～50の打面再生を行いながら，縦長剥片などを剥離している。

52～54は接合しなかった同一母岩の資料である。52はナイフ形石器である。横長剥片を横位に用い，右側縁に調整加工を行っている。下半部を欠損するため，形態は不明である。53は不定型な剥片である。54は石核である。剥片を素材とし，打面と作業面を入れ替えながら，不定型な剥片を剥離している。



第271図　R22-Bブロック出土遺物（4）



第272図　R22-Bブロック出土遺物(５)

第155表　R22-Bブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
R22R-2	RH	8	137.32
R22R-3	RH	1	37.06
R22R-4	RH	2	69.35
R22R-5	RH	1	67.14
R22R-7	RH	1	23.91
R22R-8	TU	3	97.37
R22R-9	SA	6	172.59
R22R-10	SA	1	12.47
R22R-11	SA	2	31.16
R22R-12	SA	1	143.75
R22R-13	SA	4	71.19
R22R-14	HO	2	55.10
R22R-15	HO	4	89.25

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	13	334.78
凝灰岩(TU)	3	97.37
砂岩(SA)	14	431.16
ホルンフェルス(HO)	6	144.35
合　計	36	1,007.66

26　S23-Aブロック（第273～277・401図，第156～158表，カラー図版14，図版11）

1）ブロックの概要

S23-Aブロックは，調査範囲東側のS23-55・56・65・76グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は15mである。

ブロックの規模と形状は，長軸７m，短軸４mの範囲に215点の石器・礫と南に８mほど離れて１点の礫が分布する。その内，垂直分布のない遺物が６点ある。出土層位は，Ⅳ層からⅦ層にかけて，50cmほどの高低差をもって包含されているが，中心はⅣ層からⅤ層で，30cmほどである（第273～276図）。なお，調査時の所見によれば，出土層位はⅢ層下部からⅥ層にかけてで，Ⅳ層下部が主体である。また，Ⅵ層から下の層は粘性のある青灰色の水付きロームである。

ブロックは，ナイフ形石器１点，削器１点，楔形石器１点，使用痕ある剥片２点，剥片13点，砕片３点，石核４点（３個体）の合計25点（24個体）と礫191点で構成される。石器石材は，黒曜石A20点，流紋岩３点（２個体），頁岩E２点である。礫石材は，安山岩12点（６母岩：498.5ｇ），流紋岩23点（15母岩；828.5ｇ），チャート26点（14母岩；894.0ｇ），凝灰岩39点（27母岩；1,389.6ｇ），砂岩83点（49母岩；3,883.7ｇ），ホルンフェルス８点（５母岩；209.2ｇ）で，識別率は100％である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ１母岩（S23-１），流紋岩１母岩（S23-３），頁岩Ｅ１母岩（S23-２）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（25/25点）である。

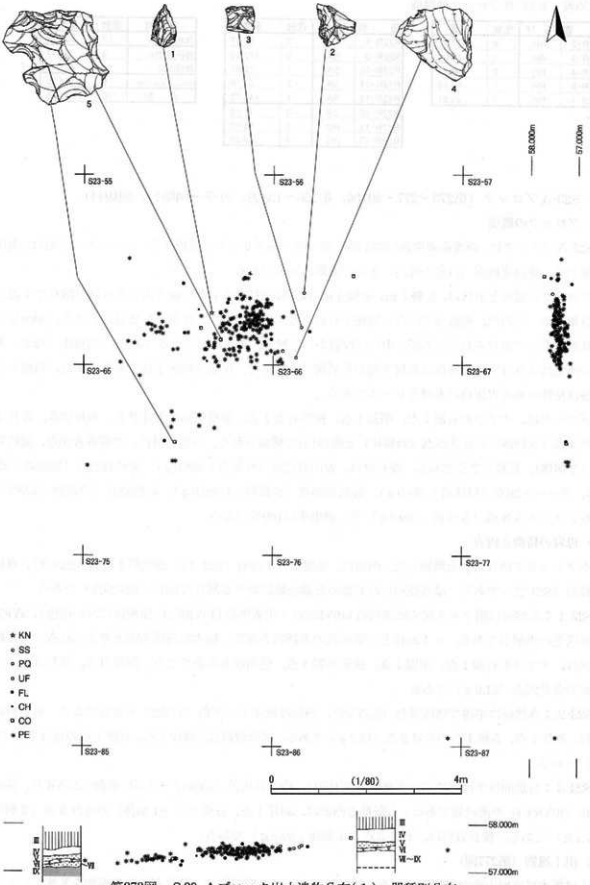
・**S23-１**：自然面は紙ヤスリ状で灰黄褐色（10YR5/2）・灰黄褐色（10YR6/2），節理はにぶい橙色（7.5YR7/3），暗黒灰色の黒曜石である。φ１mmほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，削器１点，楔形石器１点，使用痕ある剥片２点，剥片11点，砕片３点，石核１点の合計20点（61.0ｇ）である。

・**S23-２**：自然面は平滑で暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は灰オリーブ色（5Y6/2）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（14.8ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（14.8ｇ）である。

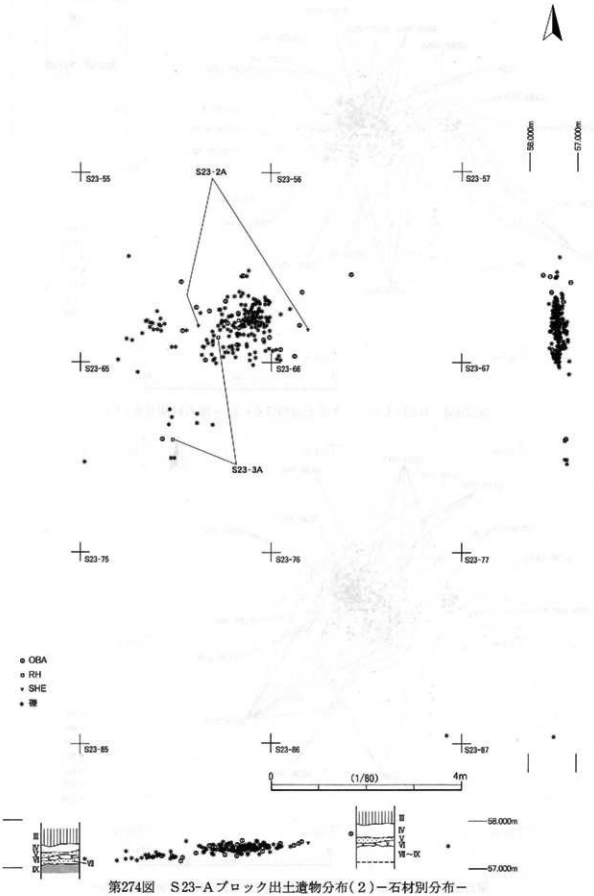
・**S23-３**：自然面は平滑でにぶい赤褐色（5YR5/4），内部は灰色（5Y6/1）・にぶい黄色（2.5Y6/4），節理は褐色（10YR4/4）の流紋岩である。石器群の内訳は，剥片１点，石核２点（１個体）の合計３点（２個体；137.7ｇ）である。接合資料は，石核２点（１個体；80.5ｇ）である。

3）出土遺物（第277図）

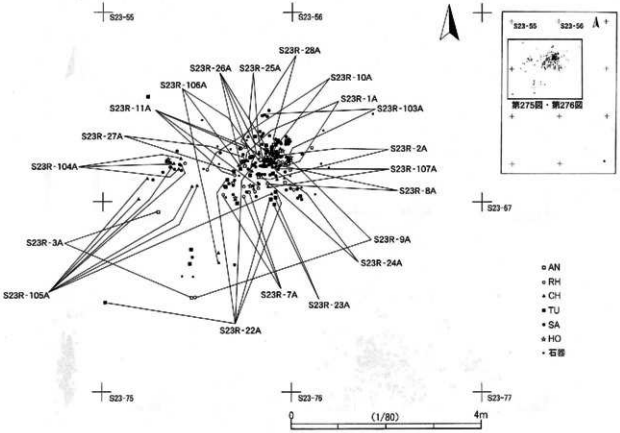
１は栃木県高原山産の黒曜石による一側縁加工のナイフ形石器で，縦長剥片の打面側を基部として，左



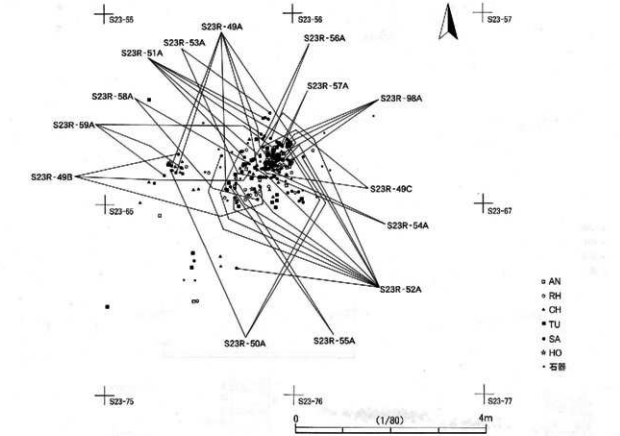
第273図　Ｓ23-Ａブロック出土遺物分布（１）－器種別分布－



第274図　S23-Aブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



第275図　S23-Aブロック出土遺物分布(3)－礫石材別分布(1)－



第276図　S23-Aブロック出土遺物分布(4)－礫石材別分布(2)－

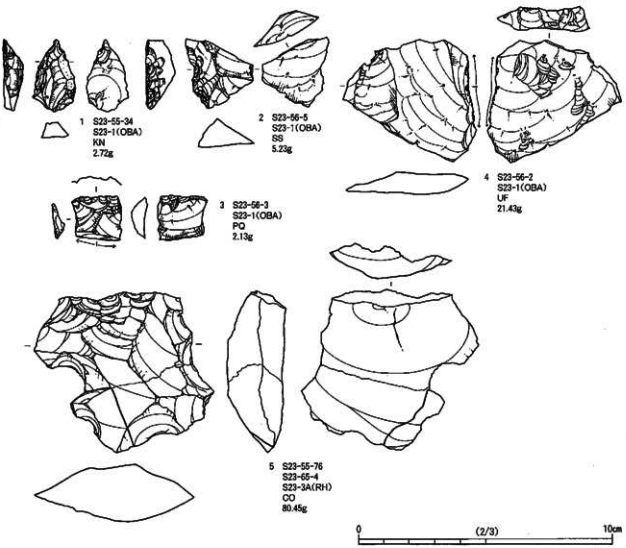
側縁に調整加工を行っている。右側縁の先端部にも調整加工が見られることから，角錐状石器の可能性もある。

2は栃木県高原山産の黒曜石による削器で，不定型な剥片の左側縁に調整加工が見られる。

3は栃木県高原山産の黒曜石による楔形石器で，上下両端に対向する剥離痕が見られるが，下端部の剥離痕は微細なものであることから，両極剥片の可能性もある。

4は栃木県高原山産の黒曜石による使用痕ある剥片で，不定型な剥片の正面右側縁と裏面左側縁に微細な剥離痕が見られる。

5は流紋岩による石核である。比較的大型で厚みのある不定型な剥片の主要剥離面を打面として小型で不定型な剥片を剥離している。石核2点が接合して1個体となる。



第277図　S23-Aブロック出土遺物

第156表　Ｓ23-Ａブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
S23-1(OBA)	1					1			1		2						11	3	1						20
S23-2(SHE)																	1		1						2
S23-3(RH)																	1		2(1)						3(2)
合　計	1					1			1		2						13	3	4(3)						25(24)

第157表　Ｓ23-Ａブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
黒曜石A(OBA)	1					1			1		2						11	3	1						20
流紋岩(RH)																	1		2(1)						3(2)
頁岩B(SHE)																	1		1						2
合　計	1					1			1		2						13	3	4(3)						25(24)

第158表　Ｓ23-Ａブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
S23R-1	AN	5	62.29
S23R-2	AN	2	145.97
S23R-3	AN	2	53.73
S23R-4	AN	1	141.55
S23R-5	AN	1	64.58
S23R-6	AN	1	30.42
S23R-7	RH	3	77.06
S23R-8	RH	2	73.85
S23R-9	RH	2	74.08
S23R-10	RH	2	37.50
S23R-11	RH	4	87.88
S23R-12	RH	1	32.91
S23R-13	RH	1	32.64
S23R-14	RH	1	178.23
S23R-15	RH	1	65.09
S23R-16	RH	1	33.79
S23R-17	RH	1	20.81
S23R-18	RH	1	3.82
S23R-19	RH	1	5.77
S23R-20	RH	1	54.81
S23R-21	RH	1	50.22
S23R-22	TU	5	62.68
S23R-23	TU	2	109.25
S23R-24	TU	2	92.77
S23R-25	TU	2	16.03
S23R-26	TU	4	91.81
S23R-27	TU	2	76.34
S23R-28	TU	2	31.77
S23R-29	TU	1	57.63
S23R-30	TU	1	45.88
S23R-31	TU	1	67.50
S23R-32	TU	1	32.01
S23R-33	TU	1	35.83
S23R-34	TU	1	19.58
S23R-35	TU	1	47.85
S23R-36	TU	1	47.72
S23R-37	TU	1	36.52
S23R-38	TU	1	5.38
S23R-39	TU	1	42.27
S23R-40	TU	1	51.36
S23R-41	TU	1	16.79
S23R-42	TU	1	19.22
S23R-43	TU	1	50.88
S23R-44	TU	1	89.38
S23R-45	TU	1	48.50

母　岩	石　材	個数	重量
S23R-46	TU	1	32.21
S23R-47	TU	1	93.97
S23R-48	TU	1	48.44
S23R-49	SA	12	189.50
S23R-50	SA	3	241.95
S23R-51	SA	5	497.40
S23R-52	SA	10	168.00
S23R-53	SA	2	104.36
S23R-54	SA	2	67.91
S23R-55	SA	2	14.12
S23R-56	SA	2	80.80
S23R-57	SA	2	47.14
S23R-58	SA	2	34.26
S23R-59	SA	3	188.66
S23R-60	SA	1	71.00
S23R-61	SA	1	56.00
S23R-62	SA	1	96.86
S23R-63	SA	1	92.08
S23R-64	SA	1	65.82
S23R-65	SA	1	154.75
S23R-66	SA	1	109.35
S23R-67	SA	1	157.74
S23R-68	SA	1	127.02
S23R-69	SA	1	89.35
S23R-70	SA	1	69.28
S23R-71	SA	1	49.73
S23R-72	SA	1	48.68
S23R-73	SA	1	50.58
S23R-74	SA	1	47.59
S23R-75	SA	1	53.54
S23R-76	SA	1	48.99
S23R-77	SA	1	77.02
S23R-78	SA	1	19.43
S23R-79	SA	1	42.10
S23R-80	SA	1	40.88
S23R-81	SA	1	55.50
S23R-82	SA	1	77.01
S23R-83	SA	1	49.55
S23R-84	SA	1	73.10
S23R-85	SA	1	48.06
S23R-86	SA	1	45.23
S23R-87	SA	1	64.88
S23R-88	SA	1	23.97
S23R-89	SA	1	31.12
S23R-90	SA	1	16.36

母　岩	石　材	個数	重量
S23R-91	SA	1	49.78
S23R-92	SA	1	44.69
S23R-93	SA	1	44.41
S23R-94	SA	1	52.68
S23R-95	SA	1	2.63
S23R-96	SA	1	2.69
S23R-97	SA	1	1.16
S23R-98	HO	4	67.22
S23R-99	HO	1	99.11
S23R-100	HO	1	11.59
S23R-101	HO	1	22.52
S23R-102	HO	1	8.72
S23R-103	CH	2	99.72
S23R-104	CH	3	50.08
S23R-105	CH	7	105.05
S23R-106	CH	3	94.42
S23R-107	CH	2	68.37
S23R-108	CH	1	76.91
S23R-109	CH	1	81.99
S23R-110	CH	1	81.66
S23R-111	CH	1	44.41
S23R-112	CH	1	26.99
S23R-113	CH	1	138.11
S23R-114	CH	1	13.62
S23R-115	CH	1	8.43
S23R-116	CH	1	4.24

石　材	個数	重量
安山岩(AN)	12	498.54
流紋岩(RH)	23	828.48
チャート(CH)	26	894.00
凝灰岩(TU)	39	1,389.57
砂岩(SA)	83	3,883.71
ホルンフェルス(HO)	8	209.16
合　計	191	7,703.44

27　R25-Aブロック（第278～281・400図，第159～161表，カラー図版14，図版11）

1）ブロックの概要

R25-Aブロックは，調査範囲東側のQ25-19，R24-92，R25-00～02・10・11グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は15mである。

ブロックの規模と形状は，長軸13m，短軸４mの範囲に106点の石器・礫が分布する。その内，原位置不明の遺物が３点ある。出土層位は，Ⅲ層からⅤ層にかけて，60cmほどの高低差をもって包含されている（第278～280図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，楔形石器１点，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片４点（３個体），剥片18点，砕片３点，石核４点（３個体），原石３点の合計35点（33個体）と礫71点で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ２点（１個体），安山岩10点，頁岩Ｂ１点，頁岩Ｃ１点，頁岩Ｄ１点，頁岩Ｅ１点，チャート１点，凝灰岩１点，瑪瑙・玉髄17点（16個体）である。礫石材は，流紋岩26点（９母岩；969.0ｇ），チャート１点（１母岩；116.7ｇ），凝灰岩６点（４母岩；1,070.0ｇ），砂岩35点（９母岩；1,388.0ｇ），識別できなかった流紋岩１点（0.9ｇ），砂岩２点（2.5ｇ）で，識別率は96％である。なお，R25R-１・29についてはR25-Dブロック，R25R-12についてはR25-Cブロック，R25R-44についてはR25-Ｂ・Dブロックと接合関係がある。その他にR25R-４についてはブロック外（R24-81グリッド）と共有関係がある。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは17母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ１母岩（R25-７），安山岩６母岩（R25-１～６），頁岩Ｂ１母岩（R25-８），頁岩Ｃ１母岩（R25-９），頁岩Ｄ１母岩（R25-10），頁岩Ｅ１母岩（R25-11），チャート１母岩（R25-12），凝灰岩１母岩（R25-26），瑪瑙・玉髄４母岩（R25-13～15・101）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は91％（32/35点）である。

・R25-１：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y4/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片５点（32.1ｇ）である。接合資料は，剥片２点（8.9ｇ）である。

・R25-２：灰黄褐色（10YR5/2）の安山岩である。楔形石器１点（9.9ｇ）の単独資料である。

・R25-３：自然面は紙ヤスリ状でオリーブ褐色（2.5Y4/3）の安山岩である。原石１点（58.0ｇ）の単独資料である。

・R25-４：自然面は紙ヤスリ状で灰オリーブ色（5Y5/2）の安山岩である。石核１点（58.2ｇ）の単独資料である。

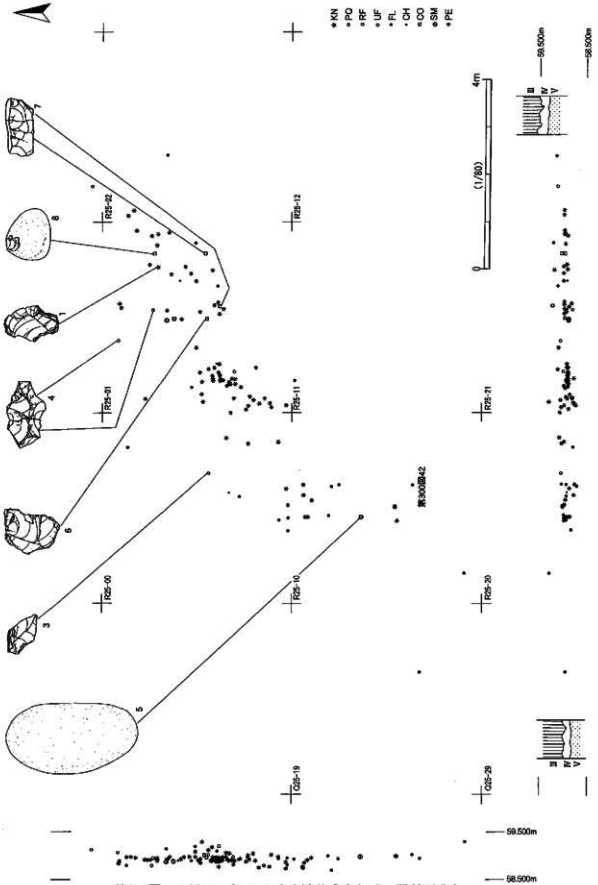
・R25-５：自然面は比較的平滑な部分があり，灰オリーブ色（5Y5/2）・黄褐色（2.5Y5/3）の安山岩である。原石１点（39.7ｇ）の単独資料である。

・R25-６：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部はにぶい黄色（2.5Y6/4）・暗灰黄色（2.5Y4/2）の安山岩である。剥片１点（17.3ｇ）の単独資料である。

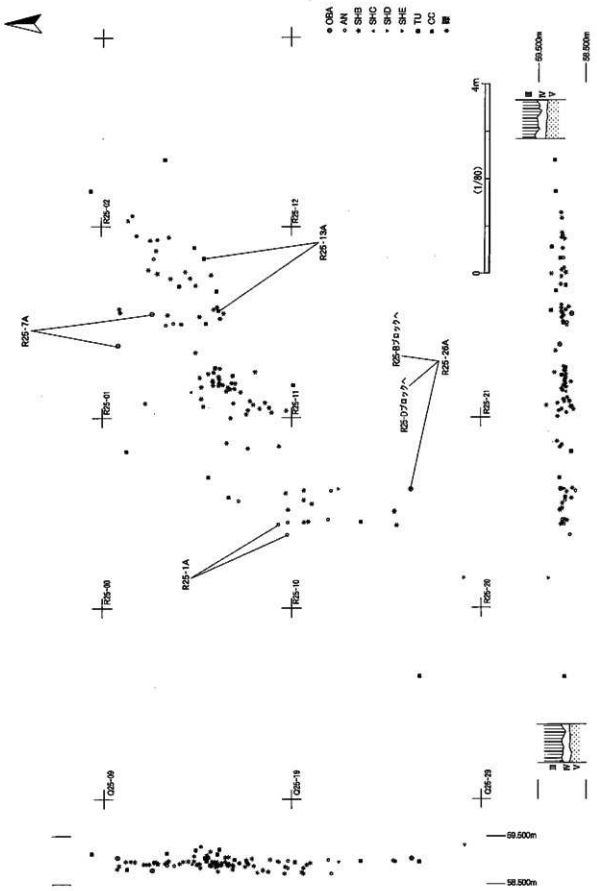
・R25-７：黒灰色で半透明な黒曜石である。φ１mmほどの灰白色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片２点（１個体；8.4ｇ）である。接合資料は，使用痕ある剥片２点（１個体；8.4ｇ）である。

・R25-８：暗灰黄色（2.5Y5/2）の北関東産頁岩である。ナイフ形石器１点（3.4ｇ）の単独資料である。

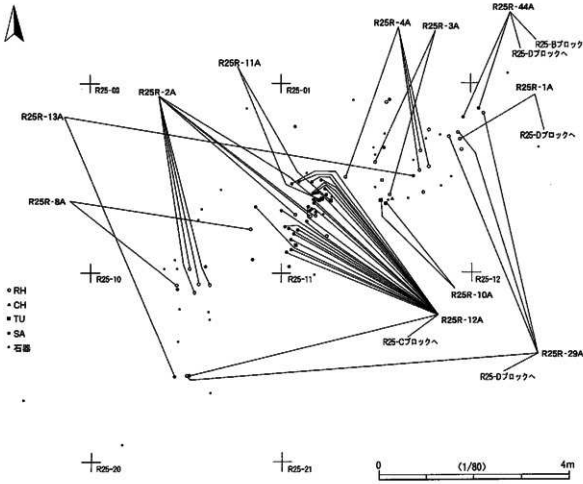
・R25-９：内部は灰オリーブ色（5Y4/2），節理は褐色（7.5YR4/4）・にぶい黄褐色（10YR5/4）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（3.2ｇ）の単独資料である。



第278図　R25-Aブロック出土遺物分布(1)－器種別分布－



第279図　R25-Aブロック出土遺物分布(２)－石材別分布－



第280図　Ｒ25-Ａブロック出土遺物分布（３）－礫石材別分布－

・R25-10：自然面は平滑で灰オリーブ色（5Y5/2）・灰オリーブ色（5Y6/2）の地に褐色（7.5YR4/4）が部分的に混じり，内部は灰色（5Y4/1）・灰オリーブ色（5Y5/2）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（18.3ｇ）の単独資料である。

・R25-11：灰オリーブ色（5Y6/2）の頁岩である。剥片１点（1.6ｇ）の単独資料である。

・R25-12：自然面は比較的平滑で暗赤灰色(2.5YR3/1)，内部は暗赤褐色(2.5YR3/2)の地に暗赤褐色(2.5YR3/4)が部分的に混じり，節理は灰褐色（7.5YR4/2）のチャートである剥片１点（14.4ｇ）の単独資料である。

・R25-13：自然面は平滑で浅黄橙色（10YR8/4）で半透明，内部は明黄褐色（10YR6/6）・灰白色（2.5Y8/2）で半透明，節理は明褐色（7.5YR5/6）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片１点，剥片６点，石核２点（１個体）の合計10点（９個体；53.4ｇ）である。接合資料は，石核２点（１個体；23.1ｇ）である。

・R25-14：灰白色（2.5Y8/2）で半透明な瑪瑙・玉髄である。使用痕ある剥片１点（2.0ｇ）の単独資料である。

・R25-15：自然面は凹凸があり黄褐色（10YR5/6）・明黄褐色（10YR6/6），内部は灰白色（2.5Y8/1）・灰白色（5Y7/2）・明黄褐色（10YR6/6）で半透明な瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合

計２点（27.8ｇ）である。

・**R25-26**：自然面は比較的平滑で黒褐色（2.5Y3/1）・暗灰黄色（2.5Y4/2）・オリーブ褐色（2.5Y4/3）・灰オリーブ色(5Y5/2)・明オリーブ灰色(5GY7/1),内部は明オリーブ灰色(5GY7/1)・明オリーブ灰色(2.5GY7/1)・灰白色（N8/0）・暗オリーブ灰色（5GY4/1）の凝灰岩である。本ブロックでは剥片１点（195.1ｇ）の単独資料であるが，R25-Bブロックの剥片１点，R25-Dブロックの剥片５点と接合している。

・**R25-101**：自然面は比較的平滑で黄褐色(10YR5/6)・にぶい黄橙色(10YR6/4),内部はにぶい黄褐色(10YR5/3)・灰黄褐色（10YR4/2）の瑪瑙・玉髄である。原石１点（484.8ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，瑪瑙・玉髄の砕片３点（1.2ｇ）がある。

３）出土遺物（第281図）

１は北関東産頁岩による基部加工のナイフ形石器で，縦長剥片の打面側を基部として，両側縁の基部に抉入状の調整加工を行っている。裏面先端に微細な剥離痕が見られるが，その部位や形状から偶発的なものの可能性が高い。

第159表　R25-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
R25-1(AN)																	5								5
R25-2(AN)									1																1
R25-3(AN)																				1					1
R25-4(AN)																			1						1
R25-5(AN)																				1					1
R25-6(AN)																	1								1
R25-7(OBA)											2(1)														2(1)
R25-8(SHB)	1																								1
R25-9(SHC)																	1								1
R25-10(SHD)																	1								1
R25-11(SHE)																	1								1
R25-12(CH)																	1								1
R25-13(CC)										1	1						8		2(1)						10(9)
R25-14(CC)											1														1
R25-15(CC)																	1		1						2
R25-26(TU)																	1								1
R25-101(CC)																				1					1
その他(CC)																		3							3
合　計	1								1	1	4(3)						18	3	4(3)	3					35(33)

第160表　R25-Aブロック石材別石器組成

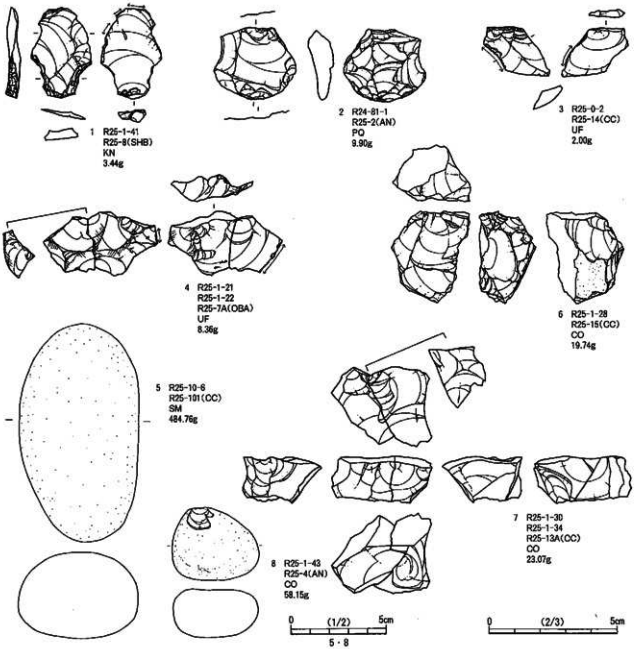
石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
黒曜石A(OBA)											2(1)														2(1)
安山岩(AN)									1								6		1	2					10
頁岩B(SHB)	1																								1
頁岩C(SHC)																	1								1
頁岩D(SHD)																	1								1
頁岩E(SHE)																	1								1
チャート(CH)																	1								1
凝灰岩(TU)																	1								1
瑪瑙・玉髄(CC)										1	2						7	3	3(2)	1					17(16)
合　計	1								1	1	4(3)						18	3	4(3)	3					35(33)

２は安山岩による楔形石器で，上下両端と両側縁に対向する剥離痕が見られる。

３は瑪瑙・玉髄，４は栃木県高原山産の黒曜石による使用痕ある剥片である。３は不定型な剥片の両面左側縁の一部，４は横長剥片の両面右側縁に微細な剥離痕が見られ，４は２点が接合して１個体となる。

５は瑪瑙・玉髄による比較的厚みのある細長い原石である。

６・７は瑪瑙・玉髄，８は安山岩による石核である。６は打面と作業面を入れ替えながら，７は比較的厚みのある不定型な剥片の主要剥離面を打面として，小型で不定型な剥片を剥離している。７は２点が接合して１個体となる。８は小型で不定型な礫の上部に剥離痕が見られる。



第281図　R25-Aブロック出土遺物

第161表　R25-Aブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
R25R-1	RH	1	179.90
R25R-2	RH	8	134.91
R25R-3	RH	3	148.30
R25R-4	RH	5	75.91
R25R-5	RH	1	58.16
R25R-6	RH	1	102.27
R25R-7	RH	1	35.01
R25R-8	RH	2	78.15
R25R-9	TU	1	553.92
R25R-10	TU	2	174.03
R25R-11	TU	2	339.61
R25R-12	SA	23	755.23
R25R-13	SA	3	310.11
R25R-14	SA	1	98.57
R25R-15	SA	2	78.09
R25R-17	SA	1	28.84
R25R-18	SA	1	82.95
R25R-19	SA	1	4.96
R25R-20	SA	1	1.11
R25R-21	CH	1	116.72
R25R-29	RH	4	156.35
R25R-44	SA	2	28.17
R25R-69	TU	1	2.48
その他	RH	1	0.88
その他	SA	2	2.52

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	27	969.84
チャート(CH)	1	116.72
凝灰岩(TU)	6	1,070.04
砂岩(SA)	37	1,390.55
合　計	71	3,547.15

28　R25-Bブロック（第282～290・401図，第162～164表，カラー図版14・23，図版11）

1）ブロックの概要

R25-Bブロックは，調査範囲東側のR25-11・12・21・22グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸８m，短軸６mの範囲に123点の石器・礫が分布する。その内，原位置不明の遺物が５点あり，その他に垂直分布のない遺物が１点ある。出土層位は，Ⅲ層からⅥ層にかけて，60cmほどの高低差をもって包含されている（第282～284図）。

ブロックは，削器１点，加工痕ある剥片３点，使用痕ある剥片３点，敲石３点，剥片52点（50個体），砕片10点，石核５点（３個体）の合計77点（73個体）と礫46点で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ１点，安山岩２点，流紋岩１点，頁岩Ｃ２点，頁岩Ｄ３点，頁岩Ｅ７点（５個体），凝灰岩１点，ホルンフェルス46点（45個体），瑪瑙・玉髄13点（12個体），閃緑岩１点である。礫石材は，安山岩８点（３母岩；759.1ｇ），流紋岩21点（５母岩；774.1ｇ），頁岩１点（１母岩；13.2ｇ），凝灰岩７点（５母岩；298.6ｇ），砂岩３点（２母岩；292.5ｇ），ホルンフェルス３点（２母岩；127.5ｇ），閃緑岩１点（１母岩；185.0ｇ），識別できなかった凝灰岩２点（2.0ｇ）で，識別率は96％である。なお，R25R-44についてはR25-Ａ・Ｄブロックと接合関係がある。

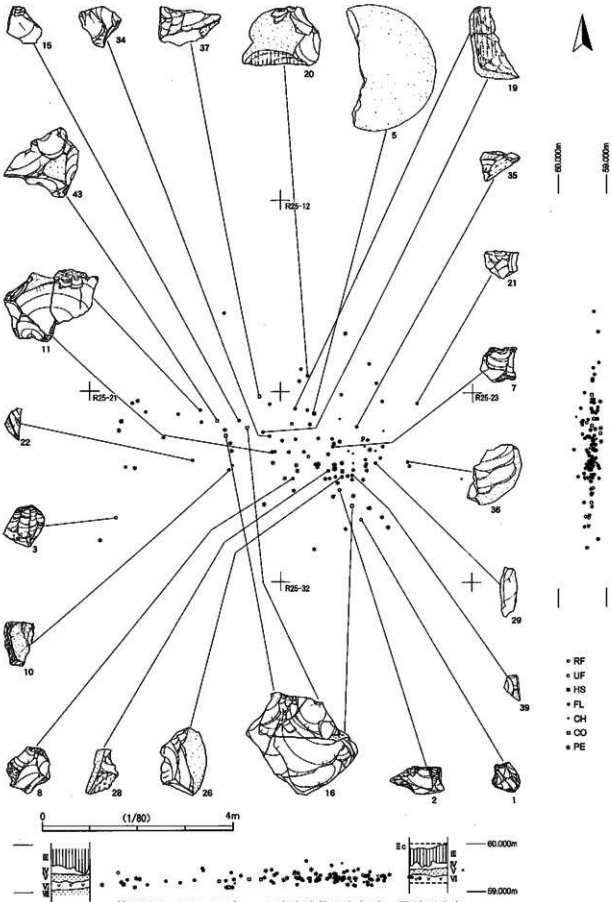
2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは18母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ１母岩（R25-105），安山岩２母岩（R25-102・103），流紋岩１母岩（R25-104），頁岩Ｃ２母岩（R25-107・108），頁岩Ｄ２母岩（R25-109・110），頁岩Ｅ１母岩（R25-111），凝灰岩１母岩（R25-26），ホルンフェルス１母岩（R25-112），閃緑岩１母岩（R25-106），瑪瑙・玉髄６母岩（R25-113～118）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（77/77点）である。

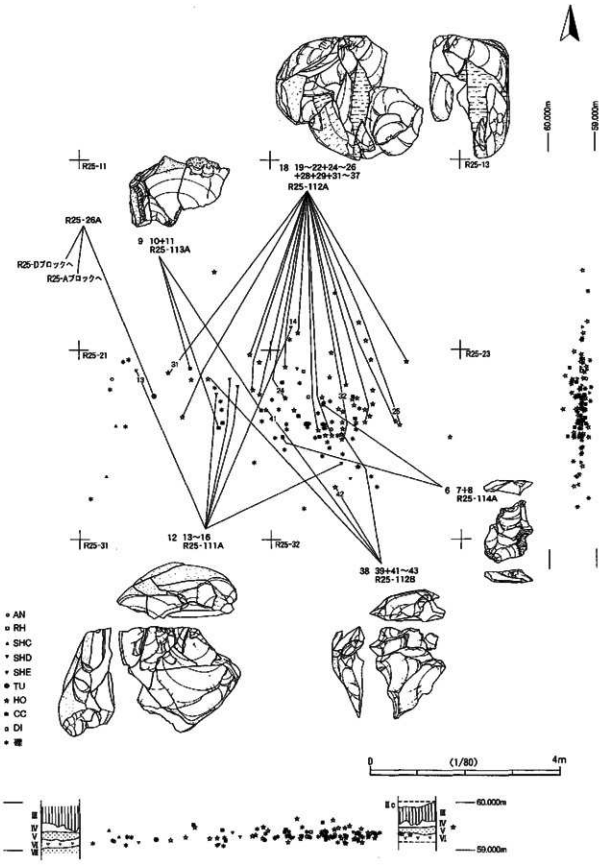
・**R25-26**：明オリーブ灰色（5GY7/1）などの凝灰岩である。母岩の特徴はR25-Aブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（315.3ｇ）の単独資料であるが，R25-Aブロックの剥片１点，R25-Dブロックの剥片５点と接合している。

・**R25-102**：自然面は紙ヤスリ状で黄灰色(2.5Y6/1)，内部は灰白色(5Y7/1)の安山岩である。敲石１点(214.8ｇ）の単独資料である。

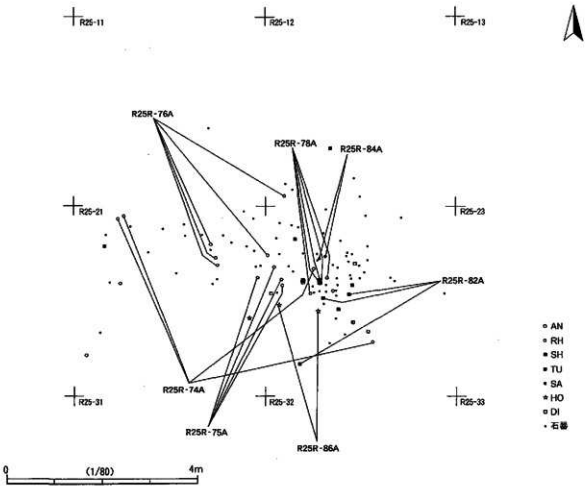
・**R25-103**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰色（N6/0）の安山岩である。敲石１点（222.4ｇ）の単独資料である。



第282図　R25-Bブロック出土遺物分布(1)－器種別分布－



第283図　R25-Bブロック出土遺物分布(2)－石材別分布－



第284図　Ｒ25-Ｂブロック出土遺物分布(３)－礫石材別分布－

・**R25-104**：自然面は平滑でにぶい褐色（7.5YR5/4）・灰黄褐色（10YR5/2），内部は浅黄色（2.5Y7/3）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の流紋岩である。剥片１点（2.9ｇ）の単独資料である。

・**R25-105**：暗黒灰色の黒曜石である。φ１㎜ほどの灰白色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。剥片１点（4.5ｇ）の単独資料である。

・**R25-106**：自然面は粗いヤスリ状で灰色(10Y5/1)・灰オリーブ色(5Y6/2)の閃緑岩である。敲石１点(300.8ｇ）の単独資料である。

・**R25-107**：自然面は比較的平滑でオリーブ褐色（2.5Y4/6），内部はオリーブ黒色（5Y3/2）・灰オリーブ色（5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（13.4ｇ）の単独資料である。

・**R25-108**：暗灰黄色（2.5Y5/2）・黄灰色（2.5Y4/1）・灰黄色（2.5Y6/2）の嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片１点（5.2ｇ）の単独資料である。

・**R25-109**：オリーブ褐色（2.5Y4/3）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（1.0ｇ）である。

・**R25-110**：オリーブ灰色（10Y5/2）の硬質緻密な頁岩である。加工痕ある剥片１点（1.7ｇ）の単独資料である。

・R25-111：自然面は平滑で黄灰色(7.5Y5/1)・灰黄色(2.5Y6/2)・灰黄褐色(10YR5/2)・にぶい黄褐色(10YR5/3)，内部は灰色（5Y4/1）・灰色（5Y5/1）・灰白色（5Y7/2）の資料，内部は灰白色（5Y7/1）の資料など母岩内に変異があり，節理は灰白色（5Y8/1）・灰褐色（7.5YR4/2）・赤褐色（2.5YR4/6），新鮮な面は暗灰色（N3/0）頁岩である。石器群の内訳は，削器１点，剥片３点，石核３点（１個体）の合計７点（５個体；204.5ｇ）である。接合資料は，剥片３点，石核３点（１個体）の合計６点（４個体；185.5ｇ）である。

・R25-112：自然面は比較的平滑で暗灰黄色(2.5Y4/2)・黄褐色(2.5Y5/3)，内部は灰色(7.5Y5/1)・灰色(7.5Y4/1)，節理はにぶい黄褐色（10YR4/3）・暗褐色（10YR3/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片35点（34個体），砕片９点，石核２点の合計46点（45個体；306.5ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片16点（15個体），石核１点の合計17点（16個体；232.8ｇ），Ｂは剥片３点，石核１点の合計４点（35.8ｇ）である。

・R25-113：内部は浅黄色（2.5Y7/3）・灰白色（5Y7/1）・浅黄橙色（10YR8/4）・明褐色（7.5YR5/6）で半透明な地に灰白色（5Y8/1）が部分的に混じり，節理は明黄褐色（10YR6/6）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片４点（３個体）の合計５点（４個体；38.9ｇ）である。接合資料は，剥片３点（２個体；34.1ｇ）である。

・R25-114：浅黄色（2.5Y7/3）で半透明な地に黄褐色（10YR5/6）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片２点の合計３点（8.1ｇ）である。接合資料は，剥片２点（6.4ｇ）である。

・R25-115：自然面は比較的平滑で黄褐色(10YR5/6)，内部は明黄褐色(10YR6/6)・にぶい黄褐色(10YR5/4)・褐色（10YR4/4）・灰黄色（2.5Y7/2）の地ににぶい褐色（7.5YR6/3）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（7.4ｇ）である。

・R25-116：灰白色（5Y7/1）の瑪瑙・玉髄である。加工痕ある剥片１点（4.1ｇ）の単独資料である。

・R25-117：灰黄色（2.5Y7/2）・明褐色（7.5YR5/6）で半透明な地に淡黄色（2.5Y8/3）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。剥片１点（6.6ｇ）の単独資料である。

・R25-118：黄褐色（10YR5/6）・明褐色（7.5YR5/6）で半透明な瑪瑙・玉髄である。砕片１点（0.4ｇ）の単独資料である。

3）出土遺物（第285図１～５）

１は硬質緻密な頁岩，２は瑪瑙・玉髄による加工痕ある剥片である。１は不定型な剥片の両面末端，２は横長剥片の末端に調整加工を行っている。さらに，２は両面末端と裏面左側縁に微細な剥離痕が見られる。

３は嶺岡産頁岩による使用痕ある剥片で，不定型な剥片の両面末端に微細な剥離痕が見られる。

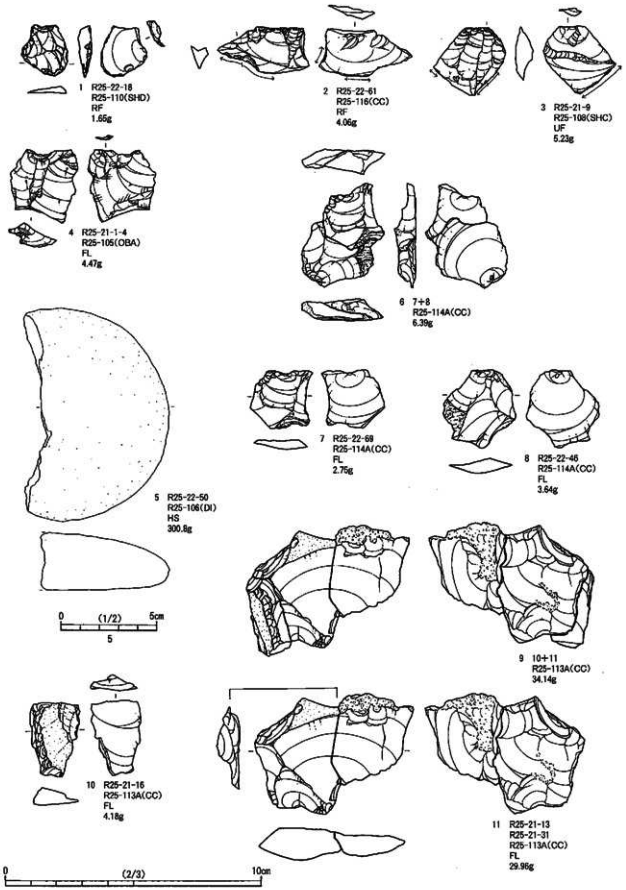
４は栃木黒高原山産の黒曜石による不定型な剥片である。

５は閃緑岩による敲石としたが，剥がれやすい石材の関係から観察は困難で，使用痕等の部位は不明である。

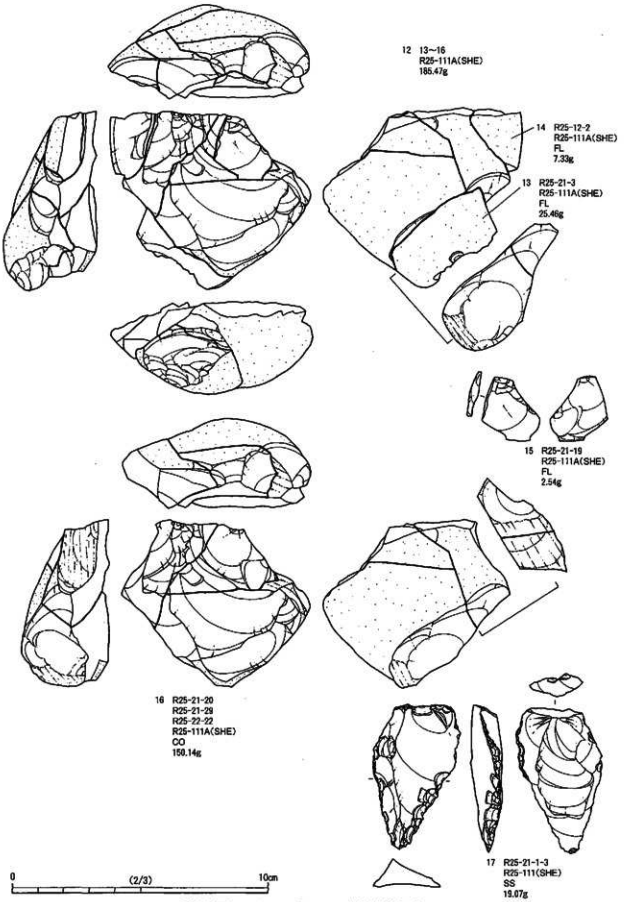
4）接合資料とその関連資料（第285図６～11，第286～290図）

・R25-114（第285図６～８）　半透明で浅黄色（2.5Y7/3）などの瑪瑙・玉髄である。６は剥片２点（７・８）の接合資料である。６の剥離後，７はほぼ90度打面を転移して剥離されている。

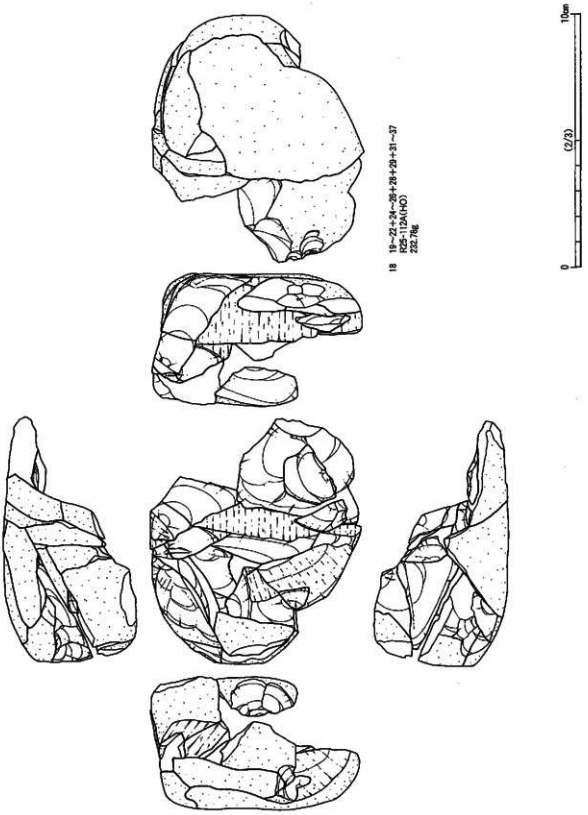
・R25-113（第285図９～11）　半透明で浅黄色（2.5Y7/3）などの瑪瑙・玉髄である。９は剥片３点（２個



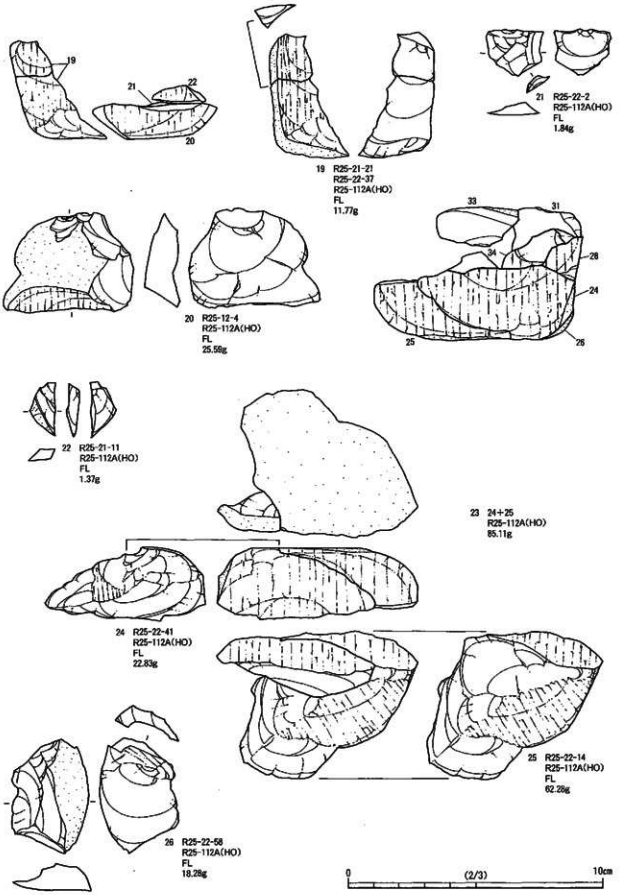
第285図　R25-Bブロック出土遺物(1)



第286図　R25-Bブロック出土遺物(2)

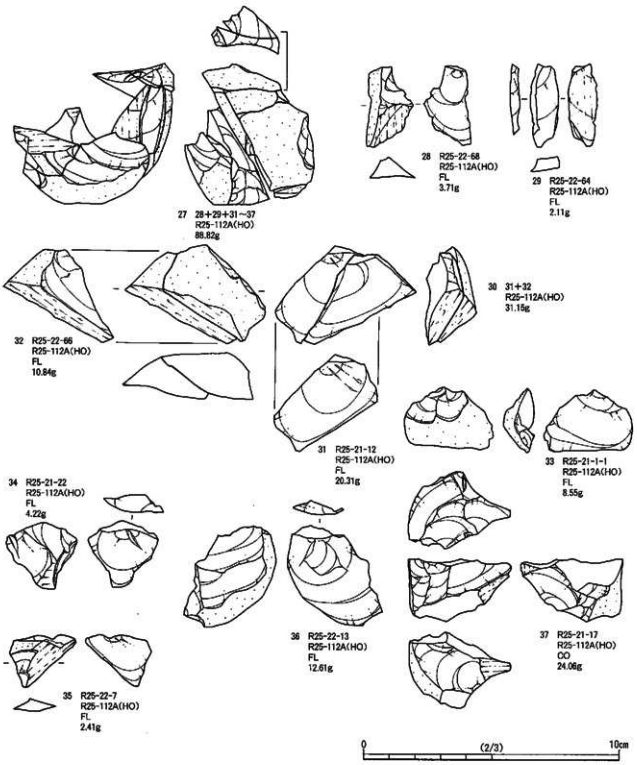


第287図　Ｒ25-Ｂブロック出土遺物(３)



第288図　R25-Bブロック出土遺物(4)

体；10・11）の接合資料である。その内，11は剥片２点が接合して１個体となる。10の剥離後，11は180度打面を転移して剥離されている。なお，10には稜上調整が見られる。また，11の両面に見られる加撃方向に対向する剥離痕は，主要剥離面を切っている可能性もあり，その場合，石核と考えられる。



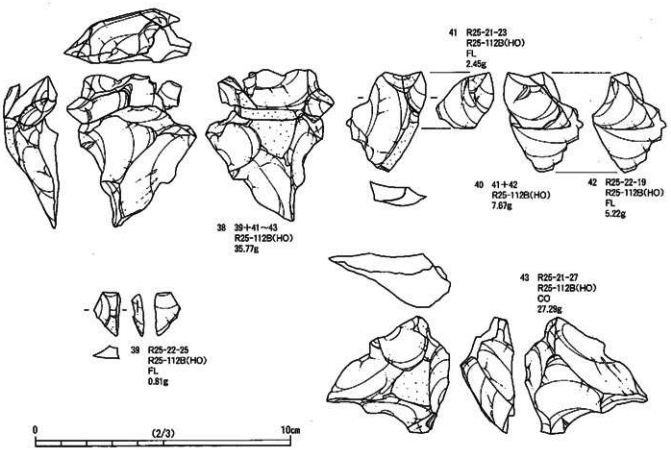
第289図　R25-Bブロック出土遺物（５）

・**R25-111（第286図）**　灰色（5Y4/1）などの頁岩である。12は剥片３点（13～15），石核３点（１個体；16）の接合資料である。節理の発達した礫の平坦な自然面を打面として，不定型な剥片を剥離しているが，13・14は節理等のため，チャンク状である。なお，16は打点を２か所持つ15の剥離時に，節理で３つに欠損しており，石核３点が接合して１個体となる。

17は接合しなかった同一母岩の削器で，縦長剥片の正面左側縁と右側縁下半部，裏面左側縁上半部に調整加工を行っている。

・**R25-112（第287～290図）**　灰色（7.5Y5/1）などのホルンフェルスである。18は剥片16点（15個体；19～22・24～26・28・29・31～36），石核１点（37）の接合資料である。その内，19は剥片２点が接合して１個体となる。全体的な工程の流れは，大きめの礫を19～22と24～26・28・29・31～37の個体に分割あるいは節理で剥落している。19～22は打面転移を行いながら，剥離されているが，これらに接合する石核はない。一方，24～26・28・29・31～37は，24・25が節理で剥落した後，打面を入れ替えながら，26・28・29・31～36などを剥離しているが，26・28・29・31～34と35～37には接合関係がないので，それぞれが別個体の可能性もある。37は打面と作業面を入れ替えながら，35・36を含む不定型な剥片を剥離している。

38は剥片３点（39・41・42），石核１点（43）の接合資料である。打面と作業面を入れ替えながら，求心的な剥離作業により，不定型な剥片を剥離している。



第290図　R25-Bブロック出土遺物（６）

第162表　R25-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
R25-28(TU)																	1								1
R25-102(AN)															1										1
R25-103(AN)															1										1
R25-104(RH)																	1								1
R25-105(OBA)																	1								1
R25-106(DI)															1										1
R25-107(SHC)																	1								1
R25-108(SHC)											1														1
R25-109(SHD)																	2								2
R25-110(SHD)										1															1
R23-111(SHE)						1											3		3(1)						7(5)
R25-112(HO)																	35(34)	9	2						46(45)
R25-113(CC)										1							4(3)								5(4)
R23-114(CC)											1						2								3
R23-115(CC)											1						1								2
R25-116(CC)										1															1
R25-117(CC)																	1								1
R23-118(CC)																		1							1
合　計						1				3	3				3		52(50)	10	5(3)						77(73)

第163表　R25-Bブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
黒曜石A(OBA)																	1								1
安山岩(AN)															2										2
流紋岩(RH)																	1								1
頁岩C(SHC)											1						1								2
頁岩D(SHD)										1							2								3
頁岩E(SHE)							1										3		3(1)						7(5)
凝灰岩(TU)																	1								1
ホルンフェルス(HO)																	35(34)	9	2						46(45)
頁岩・玉髄(CC)										2	2						8(7)	1							13(12)
閃緑岩(DI)															1										1
合　計						1				3	3				3		52(50)	10	5(3)						77(73)

第164表　R25-Bブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
R25-44	SA	1	103.15
R25-70	AN	5	224.71
R25-71	AN	1	220.40
R25-72	AN	1	314.02
R25-73	DI	1	184.96
R25-74	RH	4	145.96
R25-75	RH	4	76.89
R25-76	RH	5	83.40
R25-77	RH	1	293.02
R25-78	RH	7	172.80

母　岩	石　材	個数	重量
R25-79	TU	1	192.68
R25-80	TU	1	14.53
R25-81	TU	1	17.77
R25-82	TU	3	64.77
R25-83	TU	1	8.86
R25-84	SA	2	189.36
R25-85	SH	1	13.18
R25-86	HO	2	123.94
R25-87	HO	1	3.51
その他	TU	2	2.01

石　材	個数	重量
安山岩(AN)	8	759.13
流紋岩(RH)	21	774.07
頁岩(SH)	1	13.18
凝灰岩(TU)	9	300.62
砂岩(SA)	3	292.51
ホルンフェルス(HO)	3	127.45
閃緑岩(DI)	1	184.96
合　計	46	2,451.92

29　R25-Cブロック（第291～293・401図，第165～167表，カラー図版15，図版11）

1）ブロックの概要

R25-Cブロックは，調査範囲東側のQ25-39，R25-30グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は15mである。

ブロックの規模と形状は，長軸3m，短軸2mの範囲に11点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅳ層からⅤ層にかけて，20cmほどの高低差をもって包含されている（第291・292図）。

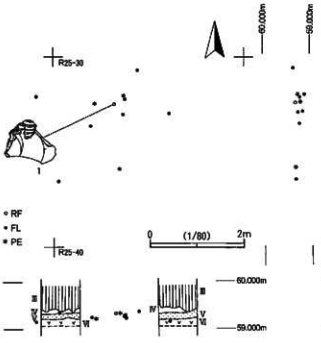
ブロックは，加工痕ある剥片１点，剥片７点の合計８点と礫３点で構成される。石器石材は，安山岩４点，頁岩Ｄ１点，瑪瑙・玉髄３点である。礫石材は，安山岩１点（１母岩；39.9ｇ），凝灰岩１点（１母岩；242.0ｇ），砂岩１点（１母岩；42.9ｇ）で，識別率は100％である。なお，R25R-12についてはR25-Aブロックと接合関係がある。

２）母岩の特徴と内容

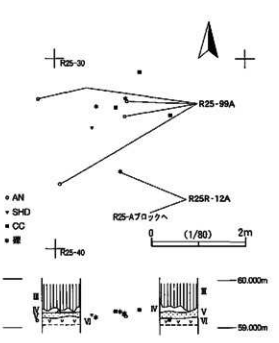
本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（R25-99），頁岩Ｄ１母岩（R25-100），瑪瑙・玉髄１母岩（R25-98）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（８/８点）である。

・**R25-98**：内部及び新鮮な面は浅黄色（2.5Y7/3）・灰白色（2.5Y8/1）で半透明な瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片２点の合計３点（7.2ｇ）である。

・**R25-99**：自然面は比較的平滑で褐色（10YR4/4）・明黄褐色（10YR7/6）・暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は灰色



第291図　R25-Cブロック出土遺物分布（１）
－器種別分布－



第292図　R25-Cブロック出土遺物分布（２）
－石材別分布－

第165表　R25-Cブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
R25-98(CC)										1							2								3
R25-99(AN)																	4								4
R25-100(SHD)																	1								1
合　計										1							7								8

第166表　R25-Cブロック石材別石器組成

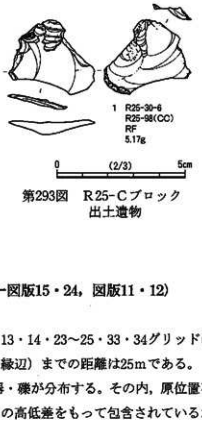
石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
安山岩(AN)																	4								4
頁岩D(SHD)																	1								1
瑪瑙・玉髄(CC)										1							2								3
合　計										1							7								8

(5Y5/1)・灰白色（5Y7/1)・にぶい黄褐色（10YR5/4)・にぶい褐色（7.5YR5/4)・灰色（10Y4/1）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片4点（105.1g）である。接合資料は，剥片4点（105.1g）である。

・R25-100：自然面は紙ヤスリ状で明黄褐色（10YR6/6)，内部は灰白色（7.5Y7/2)・灰白色（5Y7/2)，自然面及び内部に灰色(7.5Y4/1)粒が入り，節理は明黄褐色(10YR6/6)の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（6.6g）の単独資料である。

3）出土遺物（第293図）

1は瑪瑙・玉髄による加工痕ある剥片で，不定型な剥片の裏面末端の一部に細かい調整加工を行っている。



第293図　R25-Cブロック出土遺物

第167表　R25-Cブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
R25-12	SA	1	42.90
R25-67	AN	1	39.89
R25-68	TU	1	242.00

石　材	個数	重量
安山岩(AN)	1	39.89
凝灰岩(TU)	1	242.00
砂岩(SA)	1	42.90
合　計	3	324.79

30　R25-Dブロック（第294～300・402図，第168～170表，カラー図版15・24，図版11・12）

1）ブロックの概要

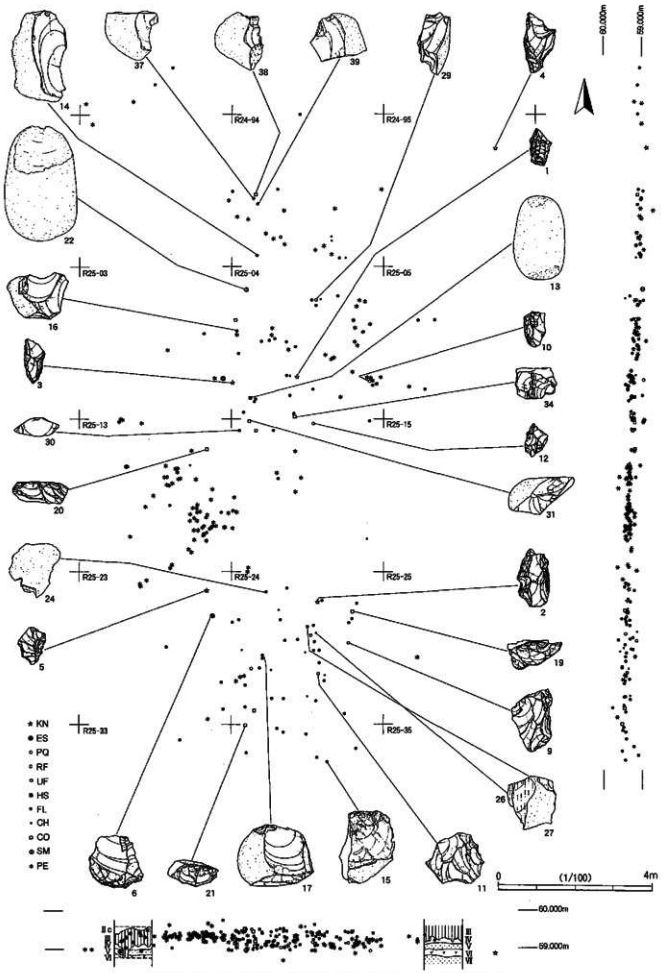
R25-Dブロックは，調査範囲東側のR24-83・93～95，R25-03～05・13・14・23～25・33・34グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は25mである。

ブロックの規模と形状は，長軸19m，短軸11mの範囲に254点の石器・礫が分布する。その内，原位置不明の遺物が22点ある。出土層位は，Ⅲ層からⅥ層にかけて，110cmほどの高低差をもって包含されているが，中心はⅢ層からⅣ層で，50cmほどである（第294～296図)。

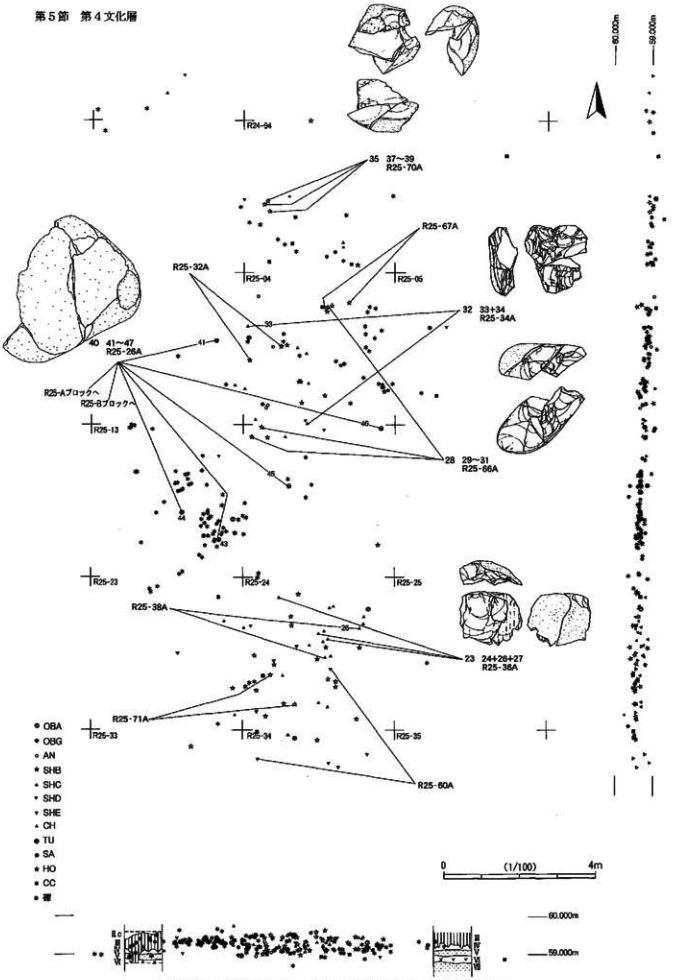
ブロックは，ナイフ形石器5点，掻器2点，楔形石器1点，加工痕ある剥片7点，使用痕ある剥片2点，敲石1点，剥片90点（89個体)，砕片16点，石核11点，原石1点の合計136点（135個体）と礫118点で構成される。石器石材は，黒曜石A9点，黒曜石F5点，黒曜石G6点，安山岩5点，頁岩B3点（2個体)，頁岩C33点，頁岩D7点，頁岩E9点，チャート2点，凝灰岩8点，砂岩2点，ホルンフェルス38点，瑪瑙・玉髄9点である。礫石材は，安山岩7点（7母岩；898.5g)，流紋岩25点（10母岩；1,404.2g)，チャート30点（9母岩；586.6g)，凝灰岩4点（3母岩；365.3g)，砂岩47点（15母岩；2,459.1g)，閃緑岩4点（1母岩；111.8g)，花崗岩1点（1母岩；2.7g）で，識別率は100%である。なお，R25R-1・29についてはR25-Aブロック，R25R-44についてはR25-A・Bブロック，R25R-59についてはQ25-Aブロックと接合関係がある。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは77母岩を識別した。内訳は，黒曜石A2母岩（R25-21・22)，黒曜石F1母岩（R25-23)，黒曜石G2母岩（R25-24・25)，安山岩5母岩（R25-16～20)，頁岩B2母岩（R25-32・33)，頁岩C19母岩（R25-34～51・53)，頁岩D6母岩（R25-54～58・61)，頁岩E5母岩（R25-59・60・62～64)，チャート2母岩(R25-88・89)，凝灰岩4母岩(R25-26～29)，砂岩2母岩(R25-30・31)，ホルンフェルス20母岩(R25-65～72・74～78・80～82・84～87)，瑪瑙・玉髄7母岩（R25-91～97）である。母岩識別した石器の石器総数に



第294図　R25-Dブロック出土遺物分布(1)－器種別分布－

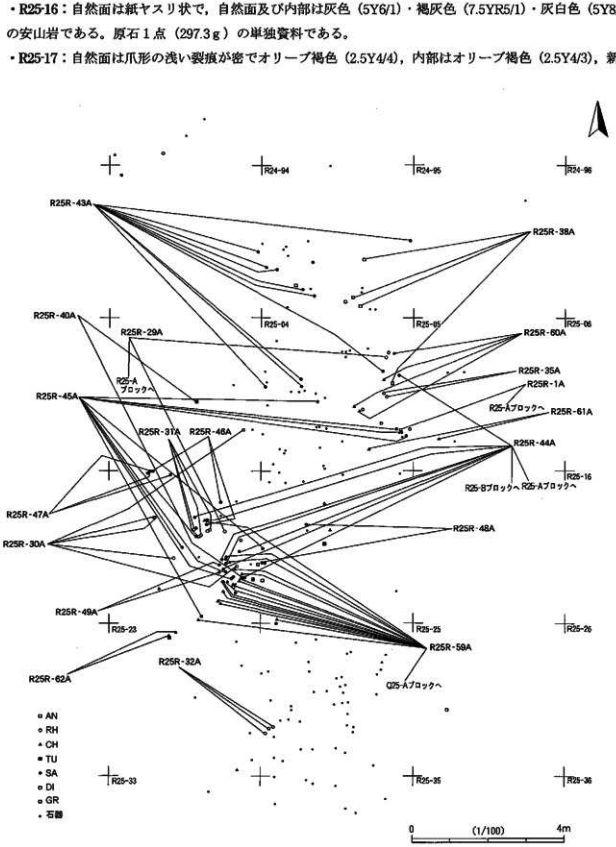


第295図　R25-Dブロック出土遺物分布(２)－石材別分布－

対する割合は93%（127/136点）である。

・**R25-16**：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰色（5Y6/1）・褐灰色（7.5YR5/1）・灰白色（5Y8/2）の安山岩である。原石１点（297.3ｇ）の単独資料である。

・**R25-17**：自然面は爪形の浅い裂痕が密でオリーブ褐色（2.5Y4/4），内部はオリーブ褐色（2.5Y4/3），新鮮



第296図　R25-Dブロック出土遺物分布（３）－礫石材別分布－

第168表　R25-Dブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	OH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
R25-16(AN)																				1					1
R25-17(AN)										1															1
R25-18(AN)																	1								1
R25-19(AN)																	1								1
R25-20(AN)																	1								1
R25-21(OBA)																	6		2						8
R25-22(OBA)																	1								1
R25-23(OBF)									1								4								5
R25-24(OBG)																	1								1
R25-25(OBG)																	3	2							5
R25-26(TU)																	5								5
R25-27(TU)																	1								1
R25-28(TU)																	1								1
R25-29(TU)																	1								1
R25-30(SA)																	1								1
R25-31(SA)															1										1
R25-32(SHB)																	2(1)								2(1)
R25-33(SHB)																		1							1
R25-34(SHC)																			2						2
R25-35(SHC)	1				2												3								6
R25-36(SHC)																	2	1							3
R25-37(SHC)	1																								1
R25-38(SHC)																	2								2
R25-39(SHC)																				1					1
R25-40(SHC)										1															1
R25-41(SHC)	1																								1
R25-42(SHC)																	1								1
R25-43(SHC)																	1								1
R25-44(SHC)																	1								1
R25-45(SHC)																	1								1
R25-46(SHC)																	1								1
R25-47(SHC)																	1								1
R25-48(SHC)																	1								1
R25-49(SHC)																	1								1
R25-50(SHC)																	1								1
R25-51(SHC)																	1								1
R25-53(SHC)																	1								1
R25-54(SHD)										1															1
R25-55(SHD)																			1						1
R25-56(SHD)																	1								1
R25-57(SHD)																	2								2
R25-58(SHD)																	1								1
R25-59(SHE)																	4								4
R25-60(SHE)																	2								2
R25-61(SHD)										1															1
R25-62(SHE)																	1								1
R25-63(SHE)																	1								1
R25-64(SHE)																	1								1
R25-65(HO)										1							2	1	1						5
R25-66(HO)										1							1		1						3
R25-67(HO)																	2								2
R25-68(HO)										1															1
R25-69(HO)																			1						1
R25-70(HO)																	2		1						3
R25-71(HO)																	3	1							4
R25-72(HO)																	1								1
R25-74(HO)																	1								1
R25-75(HO)																	1								1
R25-76(HO)																	1								1
R25-77(HO)																	1								1

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
R25-78(HO)																	1								1
R25-80(HO)																	1	1							2
R25-81(HO)																	1								1
R25-82(HO)																	1								1
R25-84(HO)																	1								1
R25-85(HO)																	2								2
R25-86(HO)																	1								1
R25-87(HO)																	1								1
R25-88(CH)																	1								1
R25-89(CH)																	1								1
R25-91(CC)																	1								1
R25-92(CC)											1														1
R25-93(CC)											1														1
R25-94(CC)																			1						1
R25-95(CC)	2																								2
R25-96(CC)																	2								2
R25-97(CC)																	1								1
その他(SHC)																		5							5
その他(HO)																		4							4
合　計	5				2				1	7	2				1		90(89)	16	11	1					136(135)

第169表　R25-Dブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
黒曜石A(OBA)																	7		2						9
黒曜石F(OBF)									1								4								5
黒曜石G(OBG)																	4	2							6
安山岩(AN)										1							3			1					5
頁岩B(SHB)																	2(1)	1							3(2)
頁岩C(SHC)	3				2					1							18	6	3						33
頁岩D(SHD)											2						4		1						7
頁岩E(SHE)																	9								9
チャート(CH)																	2								2
凝灰岩(TU)																	8								8
砂岩(SA)																1	1								2
ホルンフェルス(HO)										3							24	7	4						38
珪質・玉髄(CC)	2										2						4		1						9
合　計	5				2				1	7	2				1		90(89)	16	11	1					136(135)

第170表　R25-Dブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
R25R-1	RH	1	77.61
R25R-22	AN	1	255.76
R25R-23	AN	1	342.03
R25R-24	AN	1	115.15
R25R-25	AN	1	80.28
R25R-26	AN	1	67.34
R25R-27	AN	1	27.81
R25R-28	AN	1	10.07
R25R-29	RH	3	91.08
R25R-30	RH	5	449.21
R25R-31	RH	6	112.84
R25R-32	RH	3	211.66
R25R-33	RH	1	174.21
R25R-34	RH	1	113.81
R25R-35	RH	2	7.75
R25R-36	RH	2	75.30
R25R-37	RH	1	90.71
R25R-38	DI	4	111.76
R25R-39	GR	1	2.65
R25R-40	TU	2	296.17

母　岩	石　材	個数	重量
R25R-41	TU	1	19.25
R25R-42	TU	1	49.88
R25R-43	SA	10	394.69
R25R-44	SA	8	286.82
R25R-45	SA	10	598.32
R25R-46	SA	4	223.16
R25R-47	SA	3	234.30
R25R-48	SA	2	90.54
R25R-49	SA	2	152.66
R25R-50	SA	1	136.32
R25R-51	SA	1	186.27
R25R-52	SA	1	118.54
R25R-53	SA	1	25.83
R25R-55	SA	1	2.94
R25R-56	SA	1	1.79
R25R-57	SA	1	4.56
R25R-58	SA	1	2.40
R25R-59	CH	16	311.66
R25R-60	CH	4	153.51
R25R-61	CH	2	38.28

母　岩	石　材	個数	重量
R25R-62	CH	2	17.94
R25R-63	CH	2	17.15
R25R-64	CH	1	17.65
R25R-65	CH	1	2.15
R25R-66	CH	1	3.67
R25R-68	CH	1	24.49

石　材	個数	重量
安山岩(AN)	7	895.46
流紋岩(RH)	25	1,404.18
チャート(CH)	30	586.60
凝灰岩(TU)	4	385.30
砂岩(SA)	47	2,459.14
閃緑岩(DI)	4	111.76
花崗岩(GR)	1	2.65
合　計	118	5,828.09

な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。加工痕ある剥片１点（21.8ｇ）の単独資料である。

・R25-18：自然面は爪形の深い裂痕が密で黒褐色（2.5Y3/2），内部は黒褐色（2.5Y3/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片１点（7.5ｇ）の単独資料である。

・R25-19：灰色（7.5Y4/1）の安山岩である。剥片１点（0.6ｇ）の単独資料である。

・R25-20：自然面は爪形の深い裂痕が密で暗灰黄色(2.5Y4/2)，内部は黄灰色(2.5Y4/1)・暗灰黄色(2.5Y4/2)，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片１点（4.1ｇ）の単独資料である。

・R25-21：黒色の黒曜石である。φ１㎜ほどの灰白色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，剥片６点，石核２点の合計８点（28.0ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（7.6ｇ）である。

・R25-22：暗黒灰色で半透明な黒曜石である。φ１㎜～２㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。剥片１点（9.9ｇ）の単独資料である。

・R25-23：若干灰色がかった黒色の黒曜石である。φ１㎜ほどの灰白色の夾雑物を含む。神津島産と考えられる。石器群の内訳は，楔形石器１点，剥片４点の合計５点（9.3ｇ）である。

・R25-24：自然面は紙ヤスリ状で暗灰色（2.5Y4/2），内部は淡黒灰色の黒曜石である。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。産地は不明である。剥片１点（1.0ｇ）の単独資料である。

・R25-25：暗黒灰色で半透明な黒曜石である。産地は不明である。石器群の内訳は，剥片３点，砕片２点の合計５点（1.5ｇ）である。

・R25-26：明オリーブ灰色（5GY7/1）などの凝灰岩である。母岩の特徴はR25-Ａブロックに記したとおりである。石器群の内訳は，剥片５点（407.4ｇ）である。接合資料は，剥片５点（407.4ｇ）がR25-Ａブロックの剥片１点，R25-Ｂブロックの剥片１点と接合している。

・R25-27：自然面は平滑で，自然面及び内部は明オリーブ灰色（5GY7/1）・オリーブ灰色（5GY6/1）の地にオリーブ灰色（2.5GY5/1）が部分的に混じり，節理は褐色（10YR4/6）の凝灰岩である。剥片１点（13.7ｇ）の単独資料である。

・R25-28：自然面は平滑で灰白色(10Y7/2)，内部はオリーブ灰色(5GY6/1)の凝灰岩である。剥片１点(25.7ｇ）の単独資料である。

・R25-29：自然面は平滑でオリーブ黄色（5Y6/3），内部はオリーブ灰色（10Y6/2）・オリーブ黄色（7.5Y6/3），新鮮な面は明緑灰色（7.5GY7/1）の凝灰岩である。剥片１点（2.9ｇ）の単独資料である。

・R25-30：自然面は平滑で灰オリーブ色（5Y5/2），内部は灰色（10Y5/1），節理は黄褐色（2.5Y5/3）の砂岩である。剥片１点（11.2ｇ）の単独資料である。

・R25-31：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y4/2）・黄褐色（2.5Y5/3）で敲打痕が黒褐色（2.5Y3/1）の砂岩である。敲石１点（175.5ｇ）の単独資料である。

・R25-32：自然面は平滑で，自然面・内部・節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（１個体；14.9ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；14.9ｇ）である。

・R25-33：灰黄褐色（10YR4/2）の北関東産頁岩である。砕片１点（0.5ｇ）の単独資料である。

・R25-34：自然面は平滑で褐色（7.5YR4/4），内部及び節理は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y4/1）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，石核２点（26.7ｇ）である。接合資料は，石核２点（26.7ｇ）である。

・R25-35：灰オリーブ色（5Y5/2）・暗灰黄色（2.5Y5/2）・灰色（5Y4/1）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の嶺岡産頁岩

である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，掻器２点，剥片３点の合計６点（33.9ｇ）である。

・R25-36：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR4/3），内部は灰オリーブ色（5Y4/2）・灰色（5Y4/1），節理は褐色（10YR4/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点，砕片１点の合計３点（21.1ｇ）である。接合資料は，剥片２点，砕片１点の合計３点（21.1ｇ）である。

・R25-37：暗灰黄色（2.5Y5/2）・黄灰色（2.5Y4/1）の嶺岡産頁岩である。ナイフ形石器１点（2.6ｇ）の単独資料である。

・R25-38：内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の地に灰色（5Y5/1）・灰色（5Y4/1）が部分的に混じり，節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）・暗褐色（10YR3/3）・灰オリーブ色（5Y5/2）・暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（11.8ｇ）である。接合資料は，剥片２点（11.8ｇ）である。

・R25-39：灰黄色（2.5Y6/2）・黄灰色（2.5Y5/1）・暗灰黄色（2.5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。石核１点（16.0ｇ）の単独資料である。

・R25-40：灰黄色（2.5Y6/2）・黄灰色（2.5Y5/1）の嶺岡産頁岩である。加工痕ある剥片１点（6.3ｇ）の単独資料である。

・R25-41：黒褐色（2.5Y3/2）の嶺岡産頁岩である。ナイフ形石器１点（2.4ｇ）の単独資料である。

・R25-42：自然面は凹凸があり灰色（10Y5/1）・暗灰色（N3/0）・褐色（10YR4/6），内部は灰色（10Y5/1）・暗灰色（N3/0），節理は黄灰色（2.5Y6/1）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（15.9ｇ）の単独資料である。

・R25-43：内部は灰オリーブ色(5Y5/2)・灰オリーブ色(5Y6/2),節理は黄褐色(2.5Y5/3)・灰黄褐色(10YR4/2)・褐色（10YR4/4）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（9.7ｇ）の単独資料である。

・R25-44：内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の地に灰色（5Y4/1）の筋が入り，節理は黄褐色（10YR5/6）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（0.9ｇ）の単独資料である。

・R25-45：灰オリーブ色（5Y6/2）の地に灰色（5Y5/1）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。剥片１点（13.0ｇ）の単独資料である。

・R25-46：オリーブ黄色（5Y6/3）の地に灰色（5Y6/1）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。剥片１点（2.1ｇ）の単独資料である。

・R25-47：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR5/3）・褐色（10YR4/4），内部は灰オリーブ色（5Y6/2）の地に灰色（5Y6/1）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。剥片１点（7.4ｇ）の単独資料である。

・R25-48：自然面は比較的平滑で褐色（10YR4/4），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）地に黒褐色（2.5Y3/2）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。剥片１点（5.0ｇ）の単独資料である。

・R25-49：内部は緑灰色（10GY5/1）・暗緑灰色（10GY4/1），節理はオリーブ灰色（10Y5/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（8.5ｇ）の単独資料である。

・R25-50：自然面は凹凸があり，自然面及び節理は黄褐色（2.5Y5/3），内部は黄褐色（2.5Y5/3）・灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（5.9ｇ）の単独資料である。

・R25-51：内部は暗灰黄色（2.5Y4/2），節理は黄褐色（2.5Y5/3），新鮮な面は黒褐色（2.5Y3/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（1.5ｇ）の単独資料である。

・R25-53：黒褐色（2.5Y3/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（0.9ｇ）の単独資料である。

・R25-54：黒褐色（2.5Y3/2）・黄灰色（2.5Y5/1）の硬質緻密な頁岩である。加工痕ある剥片１点（2.1ｇ）

の単独資料である。

・R25-55：自然面は比較的平滑で暗灰黄色（2.5Y4/2），内部は黒褐色（2.5Y3/2）・暗灰黄色（2.5Y4/2）の硬質緻密な頁岩である。石核1点（11.5g）の単独資料である。

・R25-56：にぶい黄色（2.5Y6/4）の地に灰オリーブ色（5Y5/2）が縞状に入る硬質緻密な頁岩である。剥片1点（5.7g）の単独資料である。

・R25-57：内部は灰色（5Y4/1），節理は暗灰黄色（2.5Y4/2）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（6.6g）である。

・R25-58：灰黄色（2.5Y6/2）・黒褐色（2.5Y3/1）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（4.9g）の単独資料である。

・R25-59：自然面は平滑でにぶい黄色（2.5Y6/4）・にぶい黄橙色（10YR6/4）・灰白色（5Y7/2），内部は灰白色（5Y7/2）・灰白色（5Y7/1），節理はにぶい黄橙色（10YR6/4），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片4点（82.5g）である。

・R25-60：自然面は平滑で灰オリーブ色（5Y5/2），内部は灰色（5Y6/1），新鮮な面は灰色（N4/0）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（16.4g）である。接合資料は，剥片2点（16.4g）である。

・R25-61：内部は灰色（5Y6/1）・灰色（5Y5/1）・にぶい黄色（2.5Y6/4），節理はにぶい黄色（2.5Y6/4）の硬質緻密な頁岩である。加工痕ある剥片1点（2.3g）の単独資料である。

・R25-62：自然面は比較的平滑で灰オリーブ色（5Y6/2），内部は灰オリーブ色（5Y6/2）・灰色（5Y6/1）・黄褐色（10YR5/6），節理は暗オリーブ色（5Y4/4），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。剥片1点（14.7g）の単独資料である。

・R25-63：内部は灰白色（10Y7/1）・暗灰黄色（2.5Y4/2），節理は褐色（10YR4/4）・にぶい黄褐色（10YR4/3）・暗黄褐色（10YR7/6）の頁岩である。剥片1点（10.1g）の単独資料である。

・R25-64：内部は灰色（5Y4/1）・灰オリーブ色（5Y5/2），節理は暗灰黄色（2.5Y5/2）の頁岩である。剥片1点（12.1g）の単独資料である。

・R25-65：内部は灰色（5Y4/1）の地に橙色（7.5YR6/6）が筋状に入り，節理は暗灰黄色（2.5Y5/2），新鮮な面は灰色（5Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，剥片2点，砕片1点，石核1点の合計5点（76.4g）である。

・R25-66：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（10Y5/1）・灰色（10Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，剥片1点，石核1点の合計3点（48.9g）である。接合資料は，加工痕ある剥片1点，剥片1点，石核1点の合計3点（48.9g）である。

・R25-67：自然面は平滑で灰色（10Y5/1）・灰色（10Y4/1）・灰白色（5Y7/2），内部は灰色（10Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片2点（20.6g）である。接合資料は，剥片2点（20.6g）である。

・R25-68：灰色（10Y5/1）・灰オリーブ色（5Y6/2）の地に灰白色（5Y7/1）が部分的に混じるホルンフェルスである。加工痕ある剥片1点（13.8g）の単独資料である。

・R25-69：自然面はスリガラス状でオリーブ黒色（5Y3/2），内部は黄褐色（2.5Y5/3）のホルンフェルスである。石核1点（24.8g）の単独資料である。

・R25-70：自然面は比較的平滑で灰色（5Y5/1）・灰色（5Y6/1）・浅黄色（2.5Y7/3），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y5/1），節理はにぶい黄褐色（10YR4/3）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片2点，石

核１点の合計３点（107.3ｇ）である。接合資料は，剥片２点，石核１点の合計３点（107.3ｇ）である。

・R25-71：内部は灰色（5Y5/1）・灰白色（5Y7/1）・灰白色（5Y7/2），節理は灰色（N5/0）・灰色（5Y6/1）・明黄褐色（10YR6/6）・褐色（7.5YR4/6）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片３点，砕片１点の合計４点（16.1ｇ）である。接合資料は，剥片２点（14.7ｇ）である。

・R25-72：内部は灰色（10Y4/1），節理は褐色（10YR4/4），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。剥片１点（14.5ｇ）の単独資料である。

・R25-74：自然面は比較的平滑で灰色（10Y6/1）の地に黄灰色（2.5Y4/1）の粒が入り，内部は灰色（10Y5/1）のホルンフェルスである。剥片１点（3.8ｇ）の単独資料である。

・R25-75：灰色（10Y5/1）の地に灰色（N5/0）・灰黄色（2.5Y6/2）が帯状に入るホルンフェルスである。剥片１点（4.8ｇ）の単独資料である。

・R25-76：黄灰色（2.5Y6/1）・灰黄色（2.5Y7/2）のホルンフェルスである。剥片１点（8.2ｇ）の単独資料である。

・R25-77：灰黄色（2.5Y6/2）・浅黄色（2.5Y7/3）のホルンフェルスである。剥片１点（2.6ｇ）の単独資料である。

・R25-78：灰色（7.5Y5/1）・灰色（7.5Y6/1）が縞状に混じり，褐色（10YR4/6）が筋状に入るホルンフェルスである。剥片１点（7.0ｇ）の単独資料である。

・R25-80：灰色（10Y5/1）・灰色（10Y4/1）・灰色（5Y6/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片１点，砕片１点の合計２点（4.5ｇ）である。

・R25-81：内部は灰色（10Y6/1），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）のホルンフェルスである。剥片１点（1.4ｇ）の単独資料である。

・R25-82：灰色（5Y6/1）・浅黄色（2.5Y7/3）のホルンフェルスである。剥片１点（26.6ｇ）の単独資料である。

・R25-84：灰色（10Y5/1）・浅黄色（2.5Y7/3）のホルンフェルスである。剥片１点（2.2ｇ）の単独資料である。

・R25-85：内部は浅黄色（2.5Y7/4），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点（4.3ｇ）である。

・R25-86：内部は浅黄色（2.5Y7/4），新鮮な面は黒褐色（2.5Y3/1）のホルンフェルスである。剥片１点（2.6ｇ）の単独資料である。

・R25-87：にぶい黄橙色（10YR6/4）のホルンフェルスである。剥片１点（4.8ｇ）の単独資料である。

・R25-88：自然面は比較的平滑で灰オリーブ色（7.5Y5/2）・暗オリーブ灰色（2.5GY4/1），内部は灰オリーブ色(7.5Y5/2)・オリーブ灰色(5GY6/1)・暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)・暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)のチャートである。剥片１点（20.9ｇ）の単独資料である。

・R25-89：自然面は爪形の浅い裂痕があり，自然面及び内部は黒色(N2/0)のチャートである。剥片１点(7.1ｇ）の単独資料である。

・R25-91：自然面は比較的平滑で明黄褐色（10YR7/6），内部は灰白色（5Y8/1）で半透明な瑪瑙・玉髄である。剥片１点（57.8ｇ）の単独資料である。

・R25-92：自然面は凹凸があり褐色(10YR4/4)・黒色(10YR2/1)，内部は黒褐色(2.5Y3/2)・灰白色(2.5Y8/2)・

褐色（10YR4/4）・暗灰黄色（2.5Y5/2）で半透明な瑪瑙・玉髄である。使用痕ある剥片1点（16.8g）の単独資料である。

・R25-93：灰黄色（2.5Y6/2）で半透明な瑪瑙・玉髄である。使用痕ある剥片1点（2.3g）の単独資料である。

・R25-94：自然面は比較的平滑で黄褐色（10YR5/6）・にぶい黄褐色（10YR5/3），内部は灰白色（5Y8/2）・浅黄色（5Y7/3）の瑪瑙・玉髄である。石核1点（17.0g）の単独資料である。

・R25-95：灰白色（5Y7/1）・灰白色（5Y8/1）・灰白色（5Y8/2）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，ナイフ形石器2点（7.5g）である。

・R25-96：灰白色（2.5Y8/2）・灰黄色（2.5Y7/2）・灰白色（5Y8/1）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片2点（14.0g）である。

・R25-97：にぶい黄色（2.5Y6/4）で半透明な瑪瑙・玉髄である。剥片1点（1.8g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，頁岩Cの砕片5点（1.5g），ホルンフェルスの砕片4点（1.2g）がある。

3）出土遺物（第297・298図）

1～3は嶺岡産頁岩，4・5は瑪瑙・玉髄による二側縁加工のナイフ形石器である。1は不定型な剥片の打面側を基部として，2～5は横長剥片を横位に用い，1・3・4は左側縁と右側縁の下半部，2は両側縁，5は右側縁と左側縁の下半部に調整加工を行っている。

6は嶺岡産頁岩による掻器で，不定型な剥片の末端に調整加工を行っている。

7は神津島産の黒曜石による楔形石器で，上下両端と両側縁に対向する剥離痕が見られる。

8は安山岩，9・11はホルンフェルス，10・12は硬質緻密な頁岩による加工痕ある剥片である。8は縦長剥片の左側縁上半部，9は縦長剥片の右側縁，11は不定型な剥片の右側縁の一部に調整加工を行っている。なお，10は縦長剥片の左側縁，裏面の左側縁下部に細かい剥離痕が見られる。

13は砂岩による敲石で，上下両端に敲打痕が見られる。

14は瑪瑙・玉髄，15・17は頁岩，16は凝灰岩による剥片で，14・15は縦長剥片，16・17は不定型な剥片である。

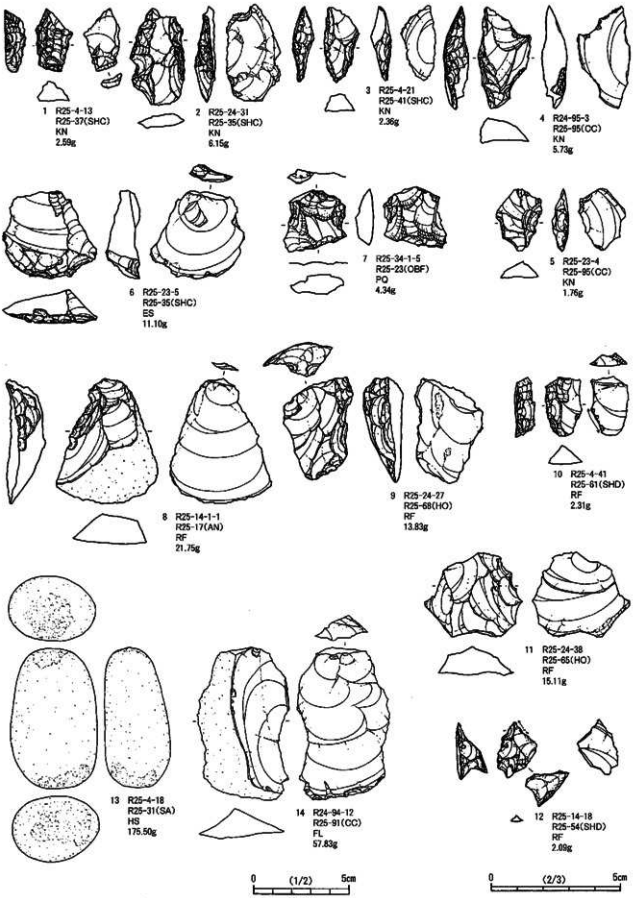
18は栃木県高原山産の黒曜石，19は嶺岡産頁岩，20は硬質緻密な頁岩，21は瑪瑙・玉髄による石核である。18・20は求心的な剥離作業，19・21は打面と作業面を入れ替えながら求心的な剥離作業を行っている。22は安山岩による原石としたが，若干，赤色化していることから，被熱が考えられ，焼礫の可能性もある。

4）接合資料とその関連資料（第299・300図）

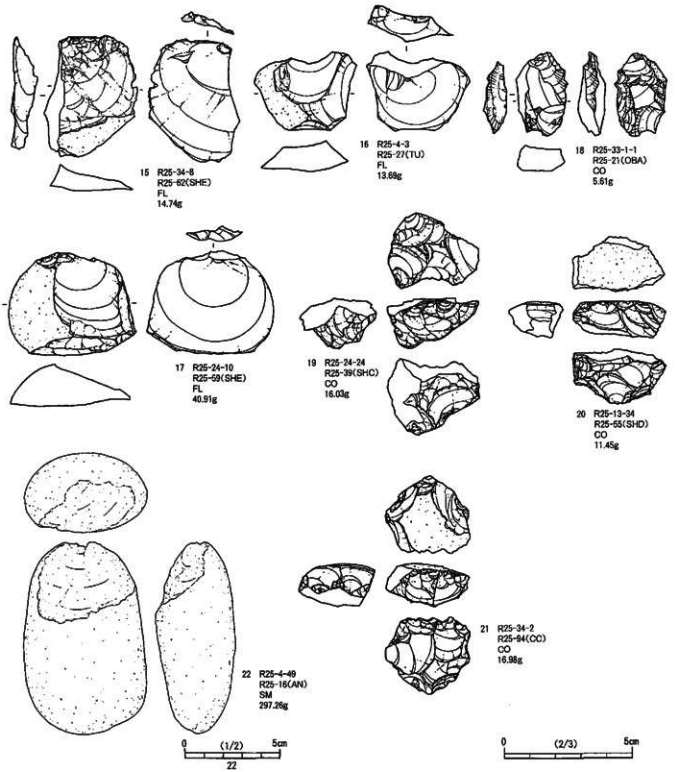
・R25-36（第299図23～27）　灰オリーブ色（5Y4/2）などの嶺岡産頁岩である。23は剥片2点（24・27），砕片1点（26）の接合資料である。

・R25-66（第299図28～31）　灰色（10Y5/1）などのホルンフェルスである。28は加工痕ある剥片1点（29），剥片1点（30），石核1点（31）の接合資料である。小型で細長い礫を素材として，求心的な剥離作業により様々な剥片を剥離している。29は左側縁に比較的小さな剥離痕が見られ，加工痕ある剥片としたが，石核の可能性もある。

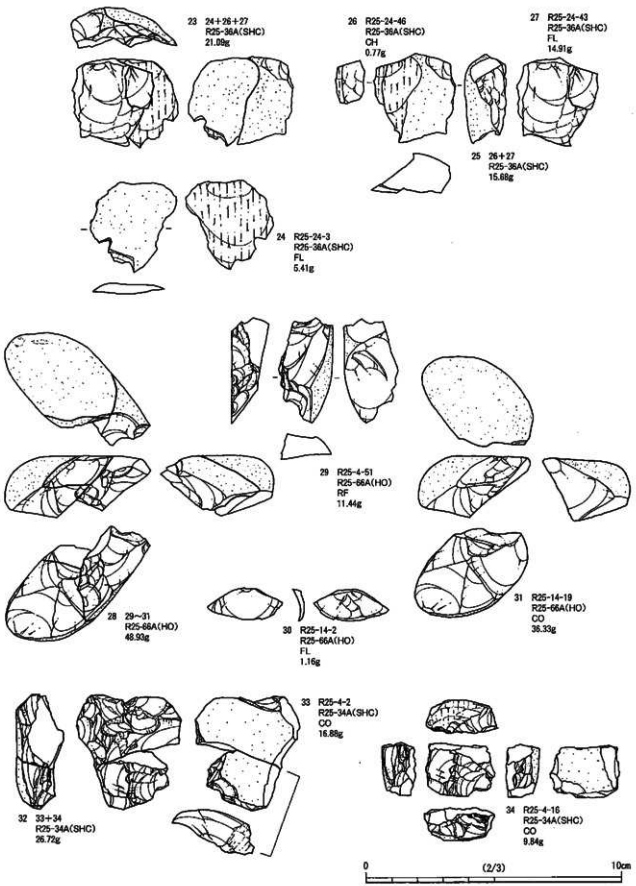
・R25-34（第299図32～34）　灰オリーブ色（5Y5/2）などの嶺岡産頁岩である。32は石核2点（33・34）の接合資料である。自然面を打面として，求心的な剥離作業により不定型な剥片を剥離した石核であるが，



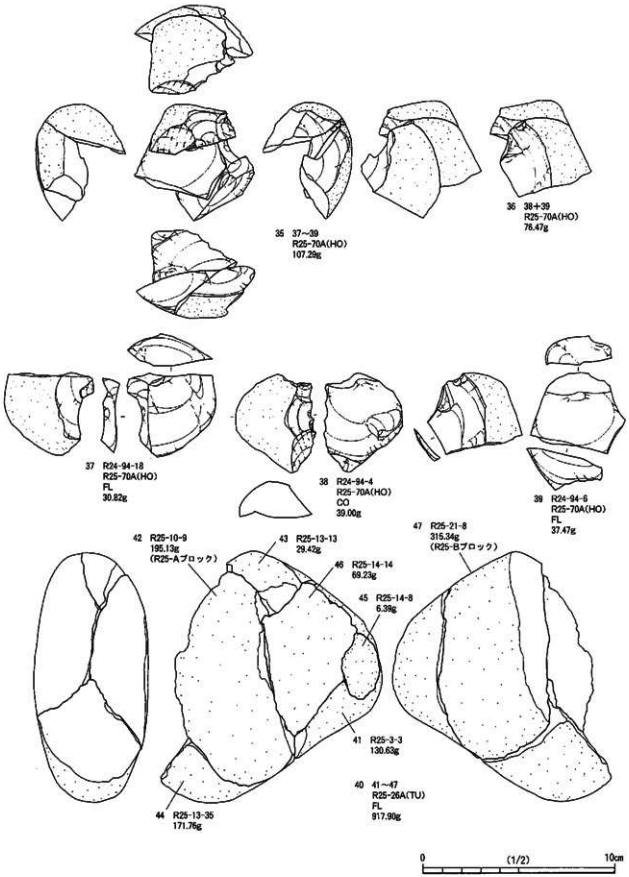
第297図　R25-Dブロック出土遺物(1)



第298図　R25-Dブロック出土遺物(2)



第299図　R25-Dブロック出土遺物(3)



第300図　R25-Dブロック出土遺物(4)

２つに欠損後も，34は小型で不定型な剥片を剥離している。あるいは削器の可能性もある。

・**R25-70（第300図35～39）**　灰オリーブ色（5Y5/2）などのホルンフェルスである。35は剥片２点（37・39），石核１点（38）の接合資料である。37を剥離した後，90度打面を転移して38を剥離し，その剥離面を打面として39を剥離している。

・**R25-26（第300図40～47）**　明オリーブ灰色（5GY7/1）などの凝灰岩である。40は剥片５点（41・43～46），R25-Aブロックの剥片１点（42），R25-Bブロックの剥片１点（47）の接合資料である。質の悪い大型の礫をチャンク状に分割したものである。

31　Q25-Aブロック（第301～311・402図，第171～173表，カラー図版15・16・24，図版11・12）

1）ブロックの概要

Q25-Aブロックは，調査範囲東側のQ25-27・38・47～49・56～59・66～69・76～78グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上の縁辺部である。

ブロックの規模と形状は，長軸16m，短軸12mの範囲に793点の石器・礫と北に４mほど離れて１点の石器が分布する。その内，原位置不明の遺物が58点あり，その他に垂直分布のない遺物が１点ある。出土層位は，Ⅱc層からⅦ層にかけて170cmほどの高低差をもって包含されているが，調査時の所見によれば，Ⅲ層上部を中心として40cmほどの高低差をもつ一群とⅣ層を中心として50cmほどの高低差をもつ一群に分かれている（第301～306図）。

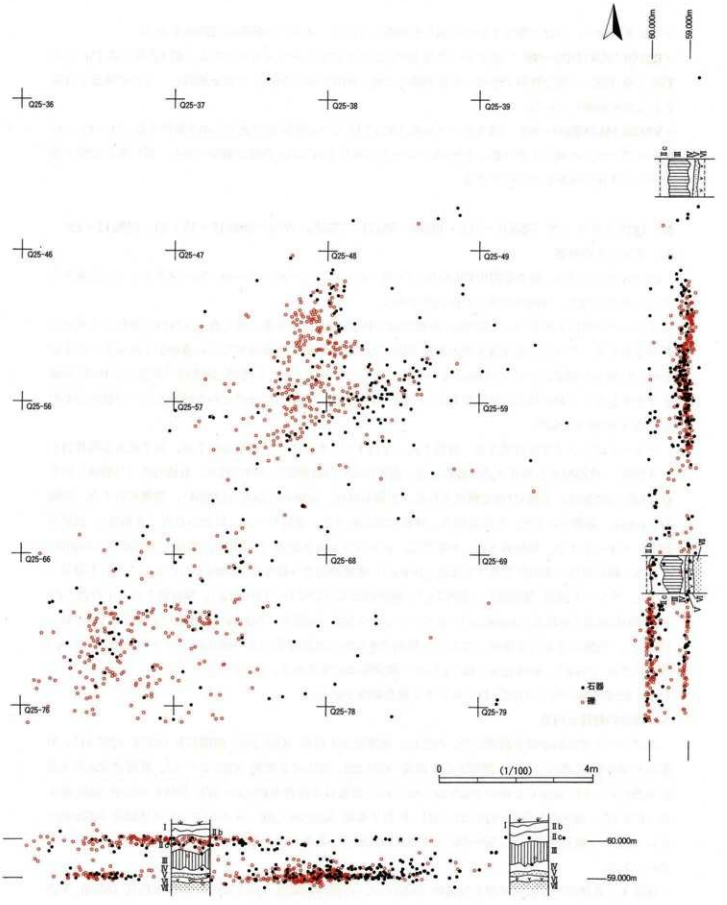
ブロックは，ナイフ形石器３点，掻器１点，削器１点，彫器１点，楔形石器７点，加工痕ある剥片11点（９個体），使用痕ある剥片９点，敲石１点，剥片159点（147個体），砕片112点，石核12点（11個体）の合計317点（302個体）と礫477点で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ28点（27個体），黒曜石Ｂ１点，黒曜石Ｆ100点，黒曜石Ｇ１点，安山岩10点，軟質の安山岩８点，頁岩Ｃ７点，頁岩Ｄ６点（４個体），頁岩Ｅ24点，チャート１点，凝灰岩３点，砂岩３点，ホルンフェルス88点（77個体），瑪瑙・玉髄37点（36個体）である。礫石材は，安山岩１点（１母岩；19.6ｇ），流紋岩99点（42母岩；3,464.8ｇ），頁岩１点（１母岩；2.9ｇ），チャート97点（66母岩；1,079.7ｇ），凝灰岩32点（17母岩；1,009.0ｇ），粘板岩１点（１母岩；7.8ｇ），砂岩165点（96母岩；5,959.7ｇ），ホルンフェルス26点（12母岩；641.9ｇ），瑪瑙・玉髄13点（10母岩；124.5ｇ），花崗岩２点（２母岩；12.5ｇ），識別できなかった流紋岩14点（16.0ｇ），チャート12点（9.9ｇ），凝灰岩２点（2.4ｇ），砂岩12点（13.9ｇ）で，識別率は92％である。

なお，R25R-59についてはR25-Dブロックと接合関係がある。

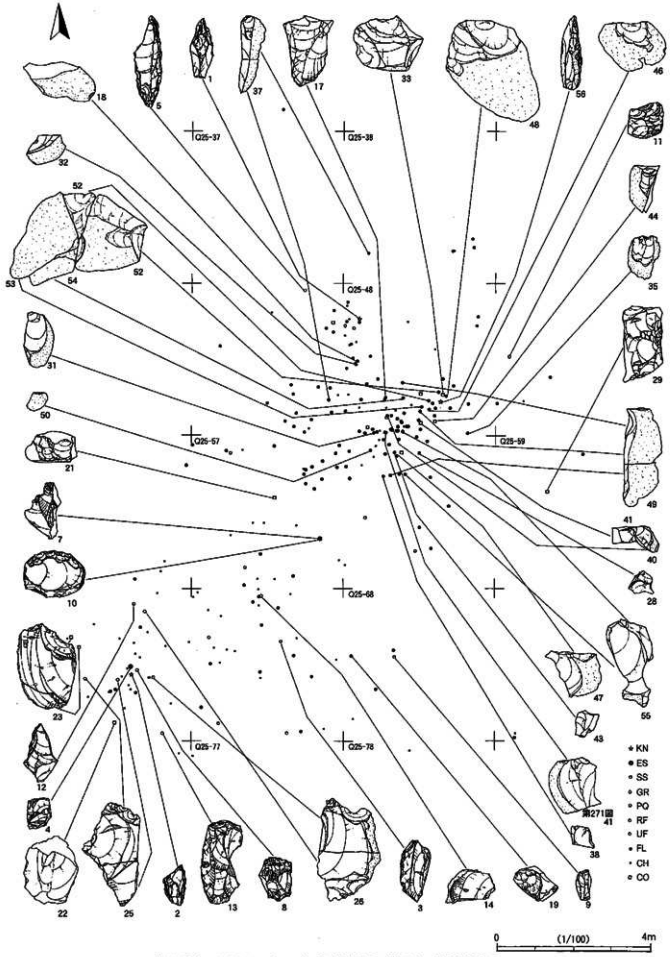
2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは64母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ａ１母岩（Q25-10），黒曜石Ｂ１母岩（Q25-11），黒曜石Ｆ10母岩（Q25-12～21），黒曜石Ｇ１母岩（Q25-22），安山岩５母岩（Q25-５～９），軟質の安山岩４母岩（Q25-１～４），頁岩Ｃ３母岩（Q25-28・32・33），頁岩Ｄ３母岩（Q25-35～37），頁岩Ｅ12母岩（Q25-38～48・R22-17），凝灰岩２母岩（Q25-23・24），砂岩２母岩（Q25-25・26），ホルンフェルス９母岩（Q25-49～57），瑪瑙・玉髄11母岩（Q25-58～68）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は70％（223/317点）である。

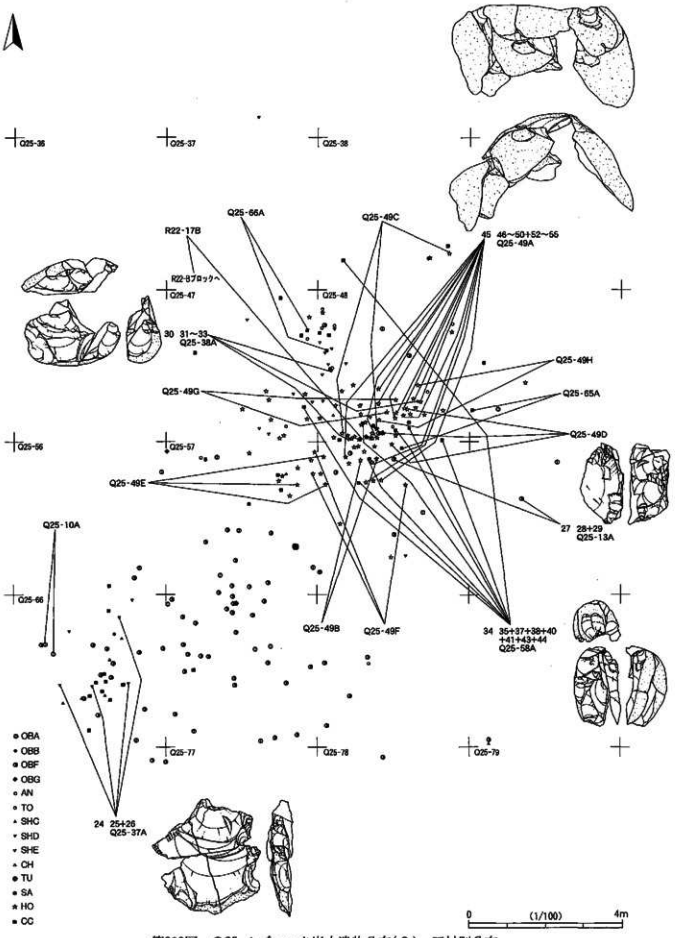
・**Q25-1**：自然面は比較的平滑で浅黄色（2.5Y7/3），内部は浅黄色（2.5Y7/3）の地に灰白色（N7/0）が部分的に混じる軟質の安山岩である。剥片１点（13.9ｇ）の単独資料である。



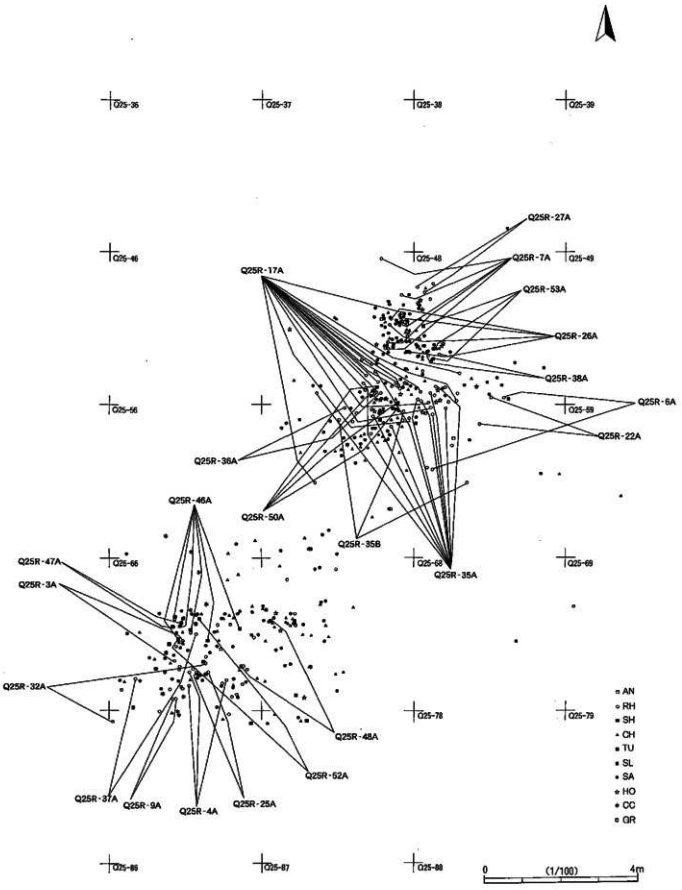
第301図　Q25-Aブロック出土遺物分布(１)－石器・礫分布－



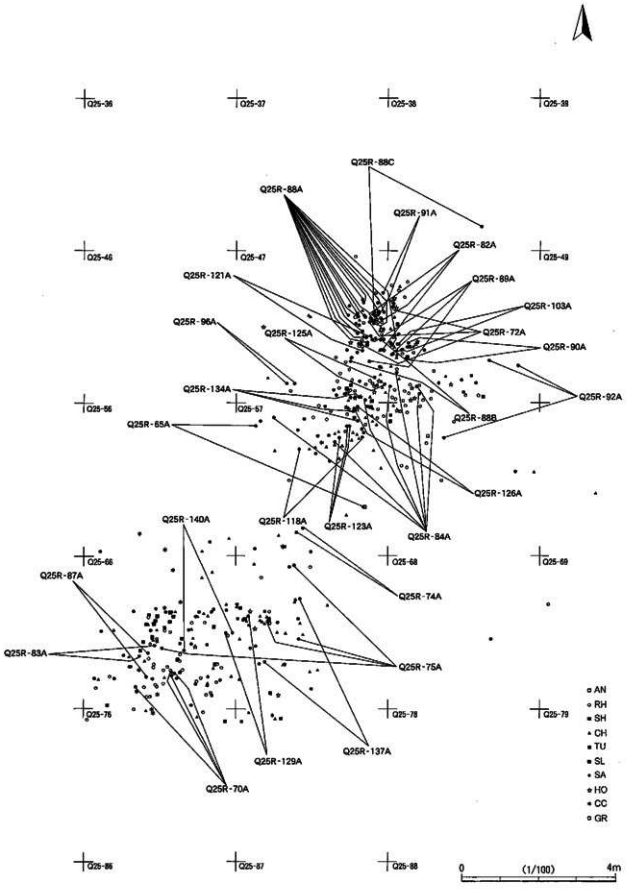
第302図　Q25-Aブロック出土遺物分布（２）－器種別分布－



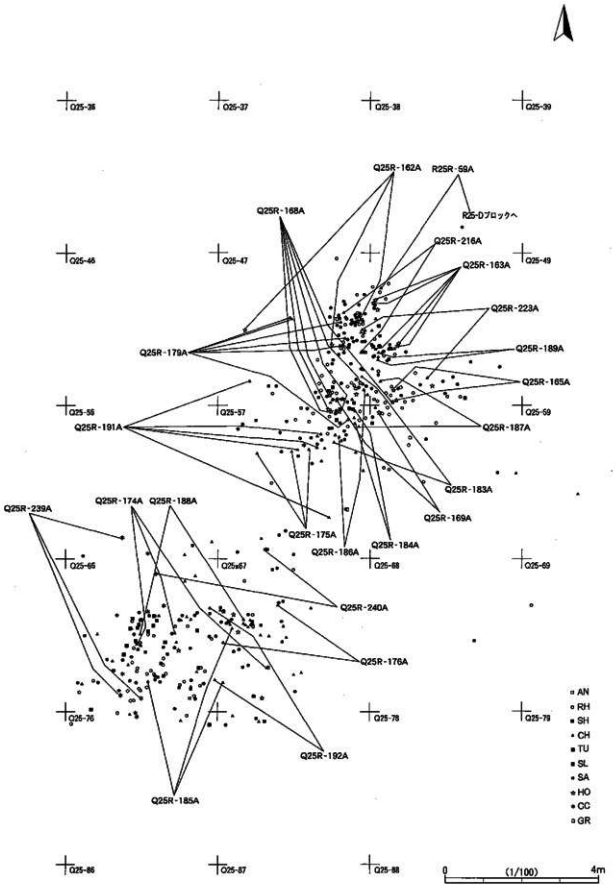
第303図　Q25-Aブロック出土遺物分布(3)－石材別分布－



第304図　Q25-Aブロック出土遺物分布(4)－礫石材別分布(1)－



第305図　Q25-Aブロック出土遺物分布(５)－礫石材別分布(２)－



第306図　Q25－Aブロック出土遺物分布（６）－礫石材別分布（３）－

第171表　Q25-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
Q25-1(TO)																	1								1
Q25-2(TO)																	1								1
Q25-3(TO)										1															1
Q25-4(TO)	1																4								5
Q25-5(AN)																	3								3
Q25-6(AN)																	2								2
Q25-7(AN)									1																1
Q25-8(AN)																			1						1
Q25-9(AN)																	1								1
Q25-10(OBA)							1				4						7		2(1)						14(13)
Q25-11(OBB)																	1								1
Q25-12(OBF)									3		4						12	3							22
Q25-13(OBF)											1						7		1						9
Q25-14(OBF)																	1								1
Q25-15(OBF)																	1								1
Q25-16(OBF)																	1								1
Q25-17(OBF)																	1								1
Q25-18(OBF)																	1								1
Q25-19(OBF)																	1								1
Q25-20(OBF)																	1								1
Q25-21(OBF)																	2								2
Q25-22(OBG)																	1								1
Q25-23(TU)										1								1							2
Q25-24(TU)																		1							1
Q25-25(SA)															1										1
Q25-26(SA)																	1								1
Q25-28(SHC)																		1							1
Q25-32(SHC)																	1								1
Q25-33(SHC)																	1								1
Q25-35(SHD)																		1							1
Q25-36(SHD)																		1							1
Q25-37(SHD)										4(2)															4(2)
Q25-38(SHE)																	2		1						3
Q25-39(SHE)																	1								1
Q25-40(SHE)																	1								1
Q25-41(SHE)																	2	1							3
Q25-42(SHE)																	2								2
Q25-43(SHE)																	1								1
Q25-44(SHE)																	1								1
Q25-45(SHE)																	1								1
Q25-46(SHE)																	1								1
Q25-47(SHE)																	1								1
Q25-48(SHE)																	1								1
Q25-49(HO)	1								1	2							63(52)	5	2						74(63)
Q25-50(HO)																	3								3
Q25-51(HO)																	1								1
Q25-52(HO)																	2								2
Q25-53(HO)																		1							1
Q25-54(HO)																		1							1
Q25-55(HO)																	2								2
Q25-56(HO)																	1	2							3
Q25-57(HO)																	1								1
Q25-58(CC)																	7(6)		2						9(8)
Q25-59(CC)																			1						1
Q25-60(CC)							1																		1
Q25-61(CC)										1							1								2
Q25-62(CC)					1					3							3								7
Q25-63(CC)																	1								1
Q25-64(CC)																	1								1
Q25-65(CC)									1								2	1							4

母岩番号	KN	TP	PQ	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
Q25-66(CC)																	3		1						4
Q25-67(CC)	1																								1
Q25-68(CC)																			1						1
R22-17(SHE)																	1								1
その他(OBA)																		14							14
その他(OBF)																	1	59							60
その他(AN)																		2							2
その他(SHD)																		4							4
その他(SHE)																		7							7
その他(CH)																		1							1
その他(SA)																		1							1
その他(CC)																		5							5
合　計	3				1	1	1		7	1(9)	9				1		159(147)	112	12(11)						317(302)

第172表　Q25-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PQ	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
黒曜石A(OBA)						1					4						7	14	2(1)						28(27)
黒曜石B(OBB)																	1								1
黒曜石F(OBF)										3	5						29	62	1						100
黒曜石G(OBG)																	1								1
安山岩(AN)										1							6	2	1						10
安山岩(TO)	1										1						6								8
頁岩C(SHC)																	2	5							7
頁岩D(SHD)										4(2)								2							6(4)
頁岩E(SHE)																	15	8	1						24
チャート(CH)																		1							1
凝灰岩(TU)										1								2							3
砂岩(SA)															1		1	1							3
ホルンフェルス(HO)	1								1	2							73(62)	9	2						88(77)
瑪瑙・玉髄(OC)	1				1		1		1	4							18(17)	6	5						37(36)
合　計	3				1	1	1		7	1(9)	9				1		159(147)	112	12(11)						317(302)

・Q25-2：内部は灰オリーブ色（5Y6/2），新鮮な面は灰色（N5/0）の軟質の安山岩である。剥片１点（1.3ｇ）の単独資料である。

・Q25-3：灰白色（5Y7/2）の軟質の安山岩である。加工痕ある剥片１点（1.5ｇ）の単独資料である。

・Q25-4：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は浅黄色（2.5Y7/3）・灰白色（N7/0），新鮮な面は灰色（N6/0）の軟質の安山岩としたが，いわゆる黒色頁岩の可能性がある。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，剥片４点の合計５点（19.7ｇ）である。

・Q25-5：自然面は紙ヤスリ状で暗灰黄色（2.5Y4/2），内部は黄灰色（2.5Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片３点（9.6ｇ）である。

・Q25-6：自然面は爪形の深い裂痕が密で黄褐色（2.5Y5/4），内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）・黄灰色（2.5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点（14.6ｇ）である。

・Q25-7：オリーブ褐色（2.5Y4/4）の安山岩である。楔形石器１点（1.4ｇ）の単独資料である。

・Q25-8：自然面は爪形の深い裂痕があり，自然面及び内部は暗灰黄色(2.5Y5/2)，新鮮な面は暗灰色(N3/0)の安山岩である。石核１点（22.1ｇ）の単独資料である。

・Q25-9：内部は暗灰黄色（2.5Y4/2），新鮮な面は灰色（N4/0）の安山岩である。剥片１点（2.3ｇ）の単独資料である。

第173表　Q25-Aブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
Q25R-1	AN	1	19.62
Q25R-2	RH	1	11.90
Q25R-3	RH	2	145.08
Q25R-4	RH	3	101.50
Q25R-5	RH	1	39.02
Q25R-6	RH	2	409.40
Q25R-7	RH	6	172.50
Q25R-8	RH	2	112.40
Q25R-9	RH	2	131.30
Q25R-10	RH	1	35.91
Q25R-11	RH	1	179.90
Q25R-12	RH	1	24.10
Q25R-13	RH	1	60.78
Q25R-14	RH	1	350.26
Q25R-15	RH	2	30.74
Q25R-16	RH	2	70.71
Q25R-17	RH	16	182.95
Q25R-18	RH	1	35.78
Q25R-19	RH	1	50.25
Q25R-20	RH	1	21.94
Q25R-21	RH	1	25.26
Q25R-22	RH	3	21.90
Q25R-23	RH	1	29.64
Q25R-24	RH	1	11.21
Q25R-25	RH	2	53.62
Q25R-26	RH	4	130.45
Q25R-27	RH	2	16.96
Q25R-28	RH	1	40.22
Q25R-29	RH	1	9.12
Q25R-30	RH	1	135.95
Q25R-31	RH	1	272.11
Q25R-32	RH	2	39.09
Q25R-33	RH	1	41.44
Q25R-34	RH	1	42.80
Q25R-35	RH	19	148.35
Q25R-36	RH	2	71.59
Q25R-37	RH	2	10.82
Q25R-38	RH	2	52.71
Q25R-39	RH	1	26.07
Q25R-40	RH	1	36.02
Q25R-41	RH	1	30.46
Q25R-42	RH	1	46.21
Q25R-43	RH	1	6.58
Q25R-44	GR	1	11.31
Q25R-45	GR	1	1.22
Q25R-46	TU	6	446.31
Q25R-47	TU	2	115.95
Q25R-48	TU	2	48.05
Q25R-49	TU	1	49.19
Q25R-50	TU	4	75.22
Q25R-51	TU	1	91.20
Q25R-52	TU	4	12.68
Q25R-53	TU	3	34.99
Q25R-54	TU	1	28.03
Q25R-55	TU	1	22.90
Q25R-56	TU	1	22.38
Q25R-57	TU	1	17.99
Q25R-58	TU	1	15.24
Q25R-59	TU	1	15.29
Q25R-60	TU	1	7.54

母　岩	石 材	個数	重量
Q25R-61	TU	1	2.92
Q25R-63	TU	1	3.16
Q25R-64	SA	1	434.91
Q25R-65	SA	3	554.46
Q25R-66	SA	1	173.55
Q25R-67	SA	1	24.70
Q25R-68	SA	1	69.37
Q25R-69	SA	2	717.46
Q25R-70	SA	4	195.84
Q25R-71	SA	1	239.86
Q25R-72	SA	3	134.02
Q25R-73	SA	1	100.00
Q25R-74	SA	2	277.66
Q25R-75	SA	4	52.30
Q25R-76	SA	1	30.32
Q25R-77	SA	1	30.00
Q25R-78	SA	1	53.99
Q25R-79	SA	1	40.78
Q25R-80	SA	1	32.73
Q25R-81	SA	1	78.38
Q25R-82	SA	3	70.15
Q25R-83	SA	2	35.03
Q25R-84	SA	7	93.70
Q25R-85	SA	1	16.39
Q25R-86	SA	1	28.18
Q25R-87	SA	2	46.18
Q25R-88	SA	20	626.36
Q25R-89	SA	3	58.85
Q25R-90	SA	4	66.57
Q25R-91	SA	5	31.95
Q25R-92	SA	3	13.81
Q25R-93	SA	2	9.36
Q25R-94	SA	2	8.99
Q25R-95	SA	1	72.76
Q25R-96	SA	2	29.02
Q25R-97	SA	2	10.49
Q25R-98	SA	1	24.21
Q25R-99	SA	1	18.80
Q25R-100	SA	1	13.10
Q25R-101	SA	1	17.77
Q25R-102	SA	1	8.70
Q25R-103	SA	2	14.69
Q25R-104	SA	1	6.68
Q25R-105	SA	1	13.63
Q25R-106	SA	1	4.91
Q25R-107	SA	1	12.12
Q25R-108	SA	1	9.07
Q25R-109	SA	1	5.91
Q25R-110	SA	1	9.72
Q25R-111	SA	1	14.56
Q25R-112	SA	1	13.02
Q25R-113	SA	1	6.56
Q25R-114	SA	1	76.22
Q25R-115	SA	1	45.98
Q25R-116	SA	1	24.17
Q25R-117	SA	1	36.99
Q25R-118	SA	3	38.77
Q25R-119	SA	1	98.67
Q25R-120	SA	1	42.89
Q25R-121	SA	2	5.35

母　岩	石 材	個数	重量
Q25R-122	SA	1	4.44
Q25R-123	SA	3	32.18
Q25R-124	SA	1	33.13
Q25R-125	SA	2	56.97
Q25R-126	SA	2	34.52
Q25R-127	SA	1	59.62
Q25R-128	SA	1	31.13
Q25R-129	SA	2	39.73
Q25R-130	SA	1	24.38
Q25R-131	SA	1	27.87
Q25R-132	SA	1	23.55
Q25R-133	SA	1	31.42
Q25R-134	SA	3	120.34
Q25R-135	SA	1	36.59
Q25R-136	SA	1	55.24
Q25R-137	SA	2	38.30
Q25R-138	SA	1	24.47
Q25R-139	SA	1	25.17
Q25R-140	SA	2	51.96
Q25R-141	SA	1	32.02
Q25R-142	SA	1	22.73
Q25R-143	SA	1	30.29
Q25R-144	SA	1	38.93
Q25R-145	SA	1	7.90
Q25R-146	SA	1	7.94
Q25R-147	SA	1	10.43
Q25R-148	SA	1	7.27
Q25R-149	SA	1	2.64
Q25R-150	SA	1	2.64
Q25R-151	SA	1	4.26
Q25R-152	SA	1	4.78
Q25R-153	SA	1	2.19
Q25R-154	SA	1	2.57
Q25R-155	SA	1	1.64
Q25R-156	SA	1	2.46
Q25R-157	SA	1	4.77
Q25R-158	SA	1	3.13
Q25R-159	SA	1	1.46
Q25R-160	SH	1	2.94
Q25R-161	SL	1	7.76
Q25R-162	HO	3	238.94
Q25R-163	HO	5	91.84
Q25R-164	HO	1	31.79
Q25R-165	HO	2	38.62
Q25R-166	HO	1	37.24
Q25R-167	HO	1	7.61
Q25R-168	HO	7	69.92
Q25R-169	HO	2	30.83
Q25R-170	HO	1	40.52
Q25R-171	HO	1	36.54
Q25R-172	HO	1	1.85
Q25R-173	HO	1	16.22
Q25R-174	CH	3	81.95
Q25R-175	CH	3	17.01
Q25R-176	CH	2	44.07
Q25R-177	CH	1	51.21
Q25R-178	CH	1	47.26
Q25R-179	CH	6	74.92
Q25R-180	CH	1	50.63
Q25R-181	CH	1	59.99

母　岩	石　材	個数	重量
Q25R-182	CH	1	61.08
Q25R-183	CH	2	45.00
Q25R-184	CH	2	16.20
Q25R-185	CH	3	36.26
Q25R-186	CH	2	12.90
Q25R-187	CH	2	8.06
Q25R-188	CH	2	24.26
Q25R-189	CH	2	14.29
Q25R-190	CH	1	18.23
Q25R-191	CH	5	25.41
Q25R-192	CH	2	31.39
Q25R-193	CH	1	19.26
Q25R-194	CH	1	14.39
Q25R-195	CH	1	25.06
Q25R-196	CH	1	8.55
Q25R-197	CH	1	11.11
Q25R-198	CH	1	11.88
Q25R-199	CH	2	16.05
Q25R-200	CH	1	1.66
Q25R-201	CH	1	2.40
Q25R-202	CH	1	2.15
Q25R-203	CH	1	11.11
Q25R-204	CH	1	4.03
Q25R-205	CH	1	7.81
Q25R-206	CH	1	3.66
Q25R-207	CH	1	2.32
Q25R-208	CH	2	4.86
Q25R-209	CH	1	16.44
Q25R-210	CH	1	4.52
Q25R-211	CH	1	8.61

母　岩	石　材	個数	重量
Q25R-212	CH	1	4.42
Q25R-213	CH	1	1.71
Q25R-214	CH	1	12.56
Q25R-215	CH	1	16.21
Q25R-216	CH	2	6.27
Q25R-217	CH	2	11.76
Q25R-218	CH	3	17.75
Q25R-219	CH	1	1.75
Q25R-220	CH	1	4.85
Q25R-221	CH	1	12.80
Q25R-222	CH	1	4.10
Q25R-223	CH	3	17.59
Q25R-224	CH	1	1.27
Q25R-225	CH	1	16.55
Q25R-226	CH	1	2.04
Q25R-227	CH	1	5.65
Q25R-228	CH	1	9.15
Q25R-229	CH	1	6.07
Q25R-230	CH	1	2.51
Q25R-231	CH	1	1.15
Q25R-232	CH	1	2.32
Q25R-233	CH	1	2.47
Q25R-234	CH	1	2.45
Q25R-235	CH	1	1.42
Q25R-236	CH	1	7.34
Q25R-237	CH	1	4.01
Q25R-238	CH	1	1.56
Q25R-239	CC	3	28.37
Q25R-240	CC	2	15.25
Q25R-241	CC	1	45.87

母　岩	石　材	個数	重量
Q25R-242	CC	1	3.48
Q25R-243	CC	1	8.95
Q25R-244	CC	1	1.73
Q25R-245	CC	1	5.79
Q25R-246	CC	1	5.91
Q25R-247	CC	1	2.66
Q25R-248	CC	1	6.51
R25R-59	CH	1	5.94
その他	RH	14	16.01
その他	CH	12	9.88
その他	SA	12	13.85
その他	TU	2	2.42

石　材	個数	重量
変山岩(AN)	1	19.62
流紋岩(RH)	113	3,480.81
頁岩(SH)	1	2.94
チャート(CH)	109	1,089.54
凝灰岩(TU)	34	1,011.46
粘板岩(SL)	1	7.76
砂岩(SA)	177	5,973.51
ホルンフェルス(HO)	26	641.92
碧玉・玉髄(CC)	13	124.52
花崗岩(GR)	2	12.53
合　計	477	12,364.61

・Q25-10：黒色で半透明な黒曜石である。φ１㎜ほどの黄灰色・灰白色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，削器１点，使用痕ある剥片４点，剥片７点，石核２点（１個体）の合計14点（13個体；69.8ｇ）である。接合資料は，石核２点（１個体；29.0ｇ）である。

・Q25-11：淡黒灰色で半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。表面の風化は被熱によるものか。剥片１点（1.6ｇ）の単独資料である。

・Q25-12：自然面は紙ヤスリ状で黄灰色（2.5Y4/1），内部は黒灰色の黒曜石である。φ１㎜ほどの灰白色の夾雑物を含む。神津島産と考えられる。石器群の内訳は，楔形石器３点，使用痕ある剥片４点，剥片12点，砕片３点の合計22点（55.5ｇ）である。

・Q25-13：黒灰色の黒曜石である。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。神津島産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片７点，石核１点の合計９点（54.5ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（36.4ｇ）である。

・Q25-14：淡黒灰色の黒曜石である。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。神津島産と考えられる。剥片１点（2.4ｇ）の単独資料である。

・Q25-15：自然面は紙ヤスリ状で暗灰黄色（2.5Y4/2），内部は淡黒灰色の地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。神津島産と考えられる。剥片１点（7.7ｇ）の単独資料である。

・Q25-16：自然面は紙ヤスリ状でオリーブ褐色（2.5Y4/3），内部は黒灰色の地にオリーブ褐色（2.5Y4/3）が部分的に混じる黒曜石である。神津島産と考えられる。剥片１点（0.8ｇ）の単独資料である。

・Q25-17：淡黒灰色の黒曜石である。φ１㎜ほどの灰白色の夾雑物を含む。神津島産と考えられる剥片１点（3.3ｇ）の単独資料である。

・Q25-18：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は黄灰色（2.5Y5/1）の黒曜石である。神津島産と考えられる。剥片１点（1.8ｇ）の単独資料である。

・Q25-19：自然面は紙ヤスリ状でオリーブ黒色（10Y3/1），内部は黒灰色の黒曜石である。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。神津島産と考えられる。剥片１点（3.5ｇ）の単独資料である。

・Q25-20：自然面は紙ヤスリ状で黄褐色（2.5Y5/3），内部は淡黒灰色・黒灰色が縞状に入る黒曜石である。神津島産と考えられる。剥片１点（1.2ｇ）の単独資料である。

・Q25-21：自然面は紙ヤスリ状で暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は淡黒灰色・黒灰色が縞状に入る黒曜石である。φ１㎜ほどの灰白色の夾雑物を含む。神津島産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（4.3ｇ）である。

・Q25-22：自然面は紙ヤスリ状で灰色（10Y4/1），内部は淡黒灰色で半透明な黒曜石である。産地は不明である。剥片１点（1.0ｇ）の単独資料である。

・Q25-23：自然面は平滑で浅黄色（2.5Y7/4），内部は灰黄色（2.5Y7/2）・浅黄色（2.5Y7/4）・灰白色（5Y7/1）の凝灰岩である。石器群の内訳は，楔形石器１点，砕片１点の合計２点（11.1ｇ）である。

・Q25-24：浅黄色（2.5Y7/3）の凝灰岩である。砕片１点（0.5ｇ）の単独資料である。

・Q25-25：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は黄褐色（2.5Y5/3）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の砂岩としたが，花崗岩の可能性が高い。敲石１点（576.6ｇ）の単独資料である。

・Q25-26：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y6/2）・灰色（5Y6/1）の砂岩である。剥片１点（2.7ｇ）の単独資料である。

・Q25-28：暗灰黄色（2.5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。砕片１点（0.5ｇ）の単独資料である。

・Q25-32：内部は黄褐色(2.5Y5/4)・灰オリーブ色(5Y6/2)・にぶい黄褐色(10YR5/4)，節理は褐色(7.5YR4/6)の嶺岡産頁岩である。剥片１点（10.1ｇ）の単独資料である。

・Q25-33：自然面は比較的平滑でオリーブ褐色（2.5Y4/6），内部は暗灰黄色（2.5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（1.4ｇ）の単独資料である。

・Q25-35：浅黄色（2.5Y7/3）・灰黄色（2.5Y6/2）が縞状の硬質緻密な頁岩である。砕片１点（0.3ｇ）の単独資料である。

・Q25-36：黒褐色（2.5Y3/2）の硬質緻密な頁岩である。砕片１点（0.6ｇ）の単独資料である。

・Q25-37：自然面は凹凸が顕著で黒褐色(10YR3/2)，内部はオリーブ灰色(10Y4/2)・オリーブ灰色(10Y5/2)・黒褐色（10YR3/2）・浅黄色（2.5Y7/3），節理はにぶい黄色（2.5Y6/4）・暗灰黄色（2.5Y4/2）・灰黄色（2.5Y7/2）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片４点（２個体；67.0ｇ）である。接合資料は，加工痕ある剥片４点（２個体；67.0ｇ）である。

・Q25-38：自然面は平滑で灰色（5Y6/1）・灰色（5Y5/1）・灰白色（5Y7/2），内部は灰オリーブ色（5Y6/2）・灰色（5Y5/1），節理は灰黄色（2.5Y7/2）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点，石核１点の合計３点（52.0ｇ）である。接合資料は，剥片２点，石核１点の合計３点（52.0ｇ）である。

・Q25-39：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y5/2），節理は暗褐色（7.5YR3/4）の頁岩である。剥片１点（7.7ｇ）の単独資料である。

・Q25-40：内部は灰黄褐色（10YR4/2）・灰色（10Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。剥片１

点（17.6ｇ）の単独資料である。

・Q25-41：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（7.5Y5/1），新鮮な面は灰色（N4/0）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点，砕片１点の合計３点（22.8ｇ）である。

・Q25-42：内部は灰色（7.5Y5/1），節理はオリーブ褐色（2.5Y4/3）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（2.5ｇ）である。

・Q25-43：内部は灰色（10Y6/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。剥片１点（1.1ｇ）の単独資料である。

・Q25-44：内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰オリーブ色（5Y6/2），新鮮な面は灰色（5Y4/1）の頁岩である。剥片１点（1.1ｇ）の単独資料である。

・Q25-45：自然面は平滑で，自然面及び内部はにぶい黄色（2.5Y6/3）の頁岩である。剥片１点（1.4ｇ）の単独資料である。

・Q25-46：灰オリーブ色（5Y6/2）の頁岩である。剥片１点（0.7ｇ）の単独資料である。

・Q25-47：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部はにぶい黄色（2.5Y6/3）の頁岩である。剥片１点（0.4ｇ）の単独資料である。

・Q25-48：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（10Y6/1），節理はにぶい黄褐色（10YR5/3），新鮮な面は灰色（10Y4/1）の頁岩である。剥片１点（10.5ｇ）の単独資料である。

・Q25-49：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y5/1）・灰オリーブ色（5Y5/2）・灰オリーブ色（5Y6/2）・灰白色（5Y7/2），節理は灰色（5Y4/1）・褐色（10YR4/4），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，楔形石器１点，加工痕ある剥片２点，剥片63点（52個体），砕片５点，石核２点の合計74点（63個体；519.3ｇ）である。接合資料は，８グループあり，Ａは剥片13点（９個体；208.3ｇ），Ｂは剥片１点，石核１点の合計２点（29.5ｇ），Ｃは剥片３点（１個体；15.5ｇ），Ｄは剥片３点（32.9ｇ），Ｅは剥片３点（１個体；20.1ｇ），Ｆは剥片３点（１個体；4.2ｇ），Ｇは砕片１点，石核１点の合計２点（18.5ｇ），Ｈは剥片２点（１個体；9.1ｇ）である。

・Q25-50：自然面は比較的平滑で，自然面は灰黄色(2.5Y6/2)，内部はにぶい黄色(2.5Y6/3)・浅黄色(2.5Y7/3)・黄灰色（2.5Y5/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片３点（8.3ｇ）である。

・Q25-51：灰オリーブ色（5Y6/2）・灰色（5Y6/1）のホルンフェルスである。剥片１点（0.9ｇ）の単独資料である。

・Q25-52：自然面は平滑で，自然面は灰オリーブ色（5Y6/2），内部は灰色（5Y6/1）・灰オリーブ色（5Y6/2），節理は暗灰黄色（2.5Y5/2），新鮮な面は灰色（N4/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点（7.0ｇ）である。

・Q25-53：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y5/2）のホルンフェルスである。砕片１点（0.6ｇ）の単独資料である。

・Q25-54：黄灰色（2.5Y5/1）・灰色（N4/0）のホルンフェルスである。いわゆるイモ石の可能性もある。砕片１点（0.9ｇ）の単独資料である。

・Q25-55：オリーブ黄色（5Y6/3）・浅黄色（2.5Y7/3）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点（4.1ｇ）である。

・Q25-56：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色(5Y6/2)，新鮮な面はオリーブ黒色(5Y3/2)

のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片1点，砕片2点の合計3点（13.9g）である。

・Q25-57：内部は灰色（5Y5/1），新鮮な面は灰色（5Y4/1）のホルンフェルスである。剥片1点（6.7g）の単独資料である。

・Q25-58：自然面は爪形の裂痕が密で赤褐色（5YR4/6），内部は明黄褐色（10YR6/6）・灰黄色（2.5Y7/2）・灰白色（2.5Y8/2），新鮮な面は明褐色（7.5YR5/6）で半透明な瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片7点（6個体），石核2点の合計9点（8個体；38.5g）である。接合資料は，剥片6点（5個体），石核2点の合計8点（7個体；35.8g）である。

・Q25-59：自然面は平滑で黄褐色（10YR5/6）・明黄褐色（10YR6/6），内部は灰白色（2.5Y8/2）で半透明な瑪瑙・玉髄である。石核1点（34.5g）の単独資料である。

・Q25-60：灰黄褐色（10YR4/2）・褐色（7.5YR4/4）・浅黄橙色（10YR8/3）で半透明な瑪瑙・玉髄である。彫器1点（9.4g）の単独資料である。

・Q25-61：自然面は凹凸があり，自然面及び内部は浅黄色（2.5Y7/4）で半透明な地に灰白色（2.5Y8/1）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，剥片1点の合計2点（26.2g）である。

・Q25-62：内部は淡黄色（2.5Y8/3）で半透明，節理は明褐色（7.5YR5/6）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，掻器1点，加工痕ある剥片3点，剥片3点の合計7点（27.7g）である。

・Q25-63：灰白色（2.5Y8/2）の瑪瑙・玉髄である。剥片1点（1.1g）の単独資料である。

・Q25-64：内部は浅黄色（2.5Y7/3）・灰白色（2.5Y8/1）・橙色（2.5YR7/6），節理は明赤褐色（5YR5/6）の瑪瑙・玉髄である。剥片1点（6.7g）の単独資料である。

・Q25-65：自然面は紙ヤスリ状でにぶい黄褐色（10YR5/4）で半透明，内部は明黄褐色（10YR6/6）で半透明な地に赤褐色（5YR4/8）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，楔形石器1点，剥片2点，砕片1点の合計4点（6.3g）である。接合資料は，剥片2点（1.0g）である。

・Q25-66：灰黄色（2.5Y7/2）・灰黄色（2.5Y6/2）の地に白色（N9/0）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。剥片3点，石核1点の合計4点（10.7g）である。接合資料は，剥片1点，石核1点の合計2点（8.6g）である。

・Q25-67：オリーブ灰色（5GY6/1）・灰オリーブ色（7.5Y6/2）・黄褐色（2.5Y5/4）の瑪瑙・玉髄である。ナイフ形石器1点の（1.7g）単独資料である。

・Q25-68：自然面は爪形の浅い裂痕があり黒褐色(2.5Y3/1)・にぶい黄褐色(10YR4/3),内部は灰黄色(2.5Y7/2)・褐灰色（10YR6/1）・褐灰色（10YR4/1）・にぶい褐色（7.5YR6/3）の瑪瑙・玉髄である。自然面の爪形の浅い裂痕は，ひび割れとも考えられ，色調の変化も含めて被熱の可能性がある。石核1点（47.4g）の単独資料である。

・R22-17：灰黄色（2.5Y7/2）などの頁岩である。母岩の特徴はR22-Bブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片1点（17.0g）の単独資料であるが，R22-Bブロックの剥片3点，砕片1点，石核1点の合計5点と接合している。その他に同一母岩がR22-Bブロックに61点（56個体）ある。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Aの砕片14点（1.8g），黒曜石Fの剥片1点，砕片59点の合計60点（21.0g），安山岩の砕片2点（0.5g），頁岩Cの砕片4点（1.2g），頁岩Eの砕片7点（3.3g），チャートの砕片1点（0.5g），砂岩の砕片1点（0.2g），瑪瑙・玉髄の砕片5点（1.8g）がある。

3）出土遺物（第307・308図）

1は軟質の安山岩によるナイフ形石器である。剥片の打面側を先端部として，右側縁上半部と左側縁の先端部のごく一部を除く上半部に鋸歯状の調整加工を行っている。形状等から角錐状石器の範疇と考えることも可能である。2は瑪瑙・玉髄による二側縁加工のナイフ形石器で，横長剥片を横位に用い，右側縁と左側縁下半部に調整加工を行っている。また，刃部には微細な剥離痕が見られる。

3は栃木県高原山産の黒曜石による削器で，左側縁に調整加工を行っている。

4は瑪瑙・玉髄による掻器で，小型で厚めの不定型な剥片の末端に調整加工が見られる。石核あるいは楔形石器の可能性もある。

5は瑪瑙・玉髄による彫器である。右側縁と左側縁下半部に調整加工を行った後，左側縁に先端部からの樋状の剥離が行われている。なお，彫器としたが，石刃あるいは石刃状の縦長剥片の打面側を先端部とした二側縁加工のナイフ形石器の可能性もある。その場合，樋状の剥離痕は衝撃剥離によるものと考えられる。また，形態から別な文化層に帰属する可能性がある。

6～8は神津島産の黒曜石，9は安山岩，10は凝灰岩，11は瑪瑙・玉髄による楔形石器で，6・7・9・11は上下両端，8・10は上下両端と両側縁に対向する剥離痕が見られる。

12は瑪瑙・玉髄による加工痕ある剥片で，縦長剥片の左側縁に鋸歯状の調整加工を行っている。

13は栃木県高原山産の黒曜石，14は神津島産の黒曜石による使用痕ある剥片である。13は縦長剥片の正面左側縁と裏面右側縁，14は不定型な剥片の正面右側縁と裏面左側縁に微細な剥離痕が見られる。

15は砂岩による敲石で，上下両端に浅い敲打痕が見られる。

16は安山岩，17は頁岩，18は軟質の安山岩，19は神津島産の黒曜石による剥片で，16・17は縦長剥片，18は横長剥片，19は不定型な剥片である。

20は安山岩，21・22は瑪瑙・玉髄，23は栃木県高原山産の黒曜石による石核である。20は厚めの剥片の主要剥離面を打面として，21は小型で不定型な礫の平坦な自然面を打面として，22は打面転移を繰り返しながら，23は比較的大型の剥片の両面の平坦な面を打面として小型で不定型な剥片を剥離している。2点が接合して1個体となる。

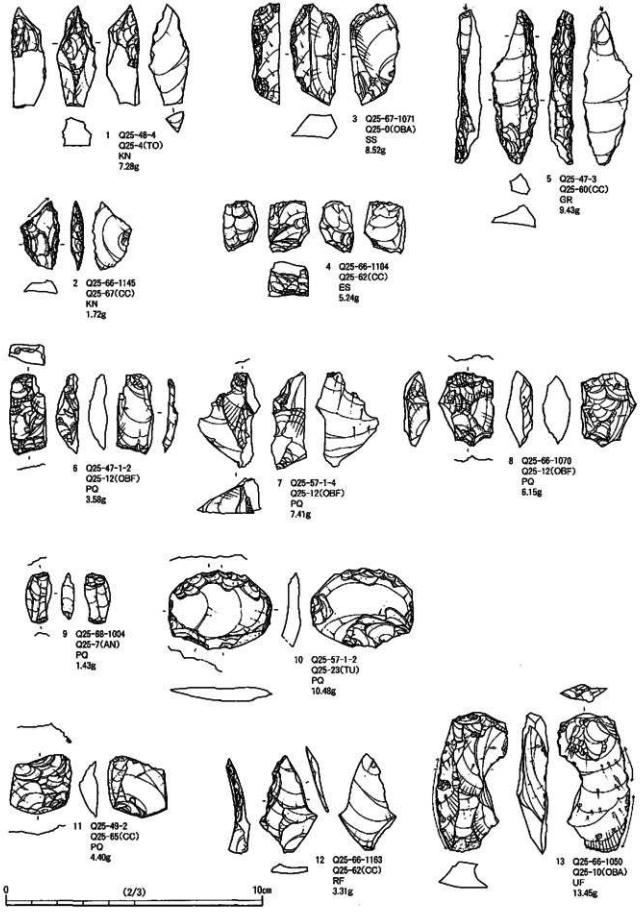
4）接合資料とその関連資料（第309～311図）

・Q25-37（第309図24～26）　オリーブ灰色（10Y4/2）などの硬質緻密な頁岩である。24は加工痕ある剥片4点（2個体；25・26）の接合資料で，それぞれ2点が接合して1個体となる。2つあるいは4つに分割された剥片を素材として，25は上部，26は上部と左側面の折断面に調整加工を行っている。

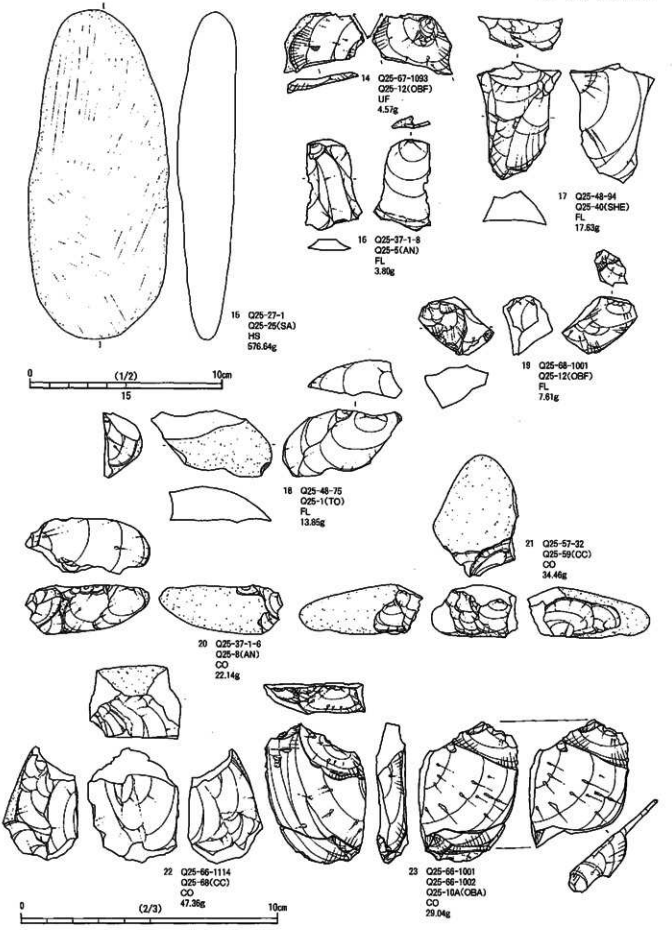
・Q25-13（第309図27～29）　黒灰色の黒曜石である。神津島産と考えられる。27は剥片1点（28），石核1点（29）の接合資料である。29は裏面上部の剥離痕から石核としたが，剥片の可能性もある。

・Q25-38（第310図30～33）　灰オリーブ色（5Y6/2）などの頁岩である。30は剥片2点（31・32），石核1点（33）の接合資料である。打面転移を繰り返しながら，求心的な剥離作業を行っている。

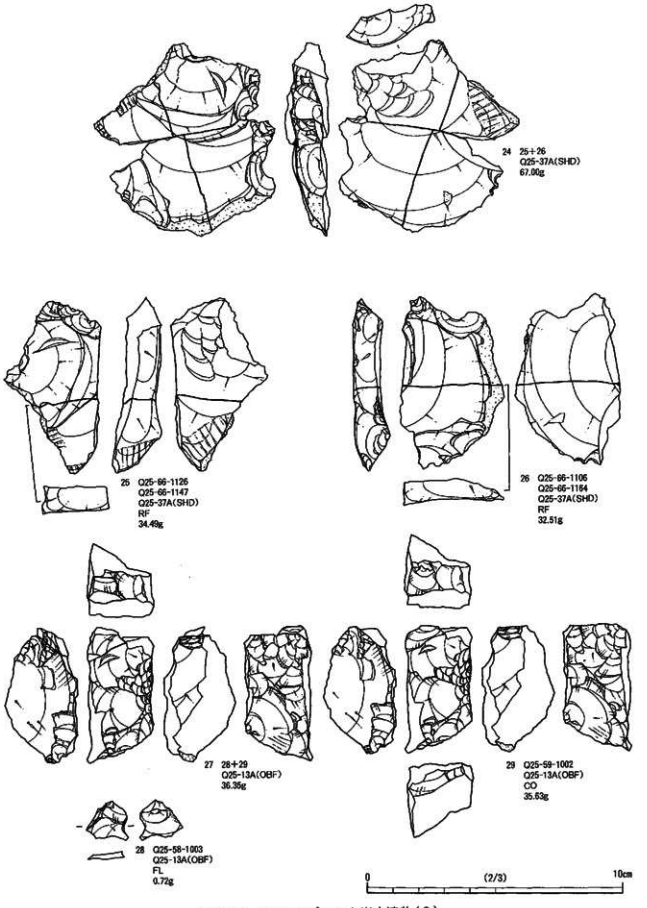
・Q25-58（第310図34～44）　半透明で明黄褐色（10YR6/6）などの瑪瑙・玉髄である。34は剥片6点（5個体；35・37・38・40・43），石核2点（41・44）の接合資料である。その内，37は剥片2点が接合して1個体となる。小型で細長い礫を素材として，35を剥離して打面を作り，37・38・40・41を打面を入れ替えながら剥離し，その後も打面と作業面を入れ替えながら，43などの剥片を剥離している。なお，40・41は同時に剥離した可能性が高い。また，41は正面の左側に残る剥離後の細かい剥離痕から石核としたが，加



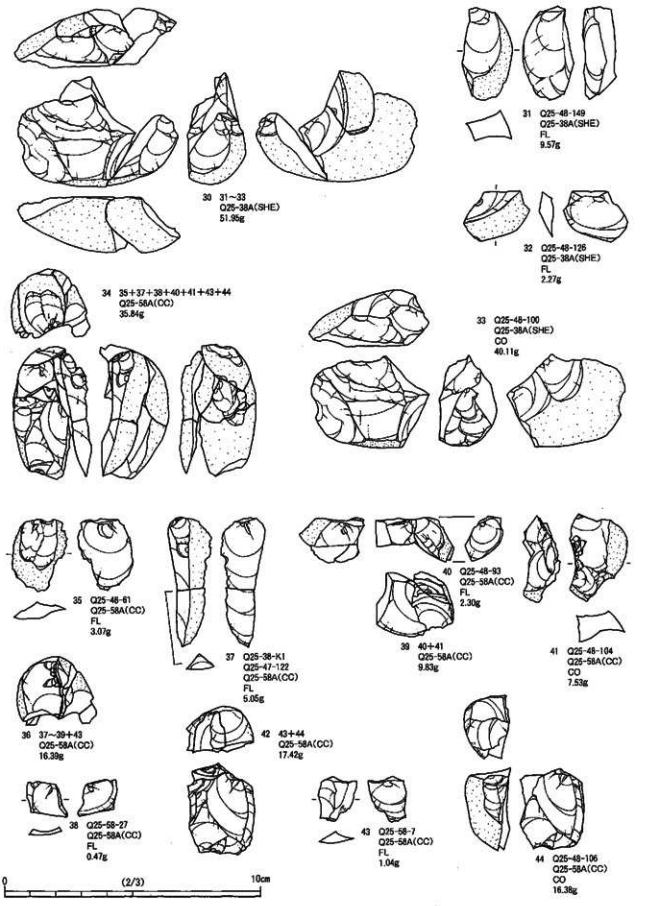
第307図　Q25-Aブロック出土遺物(1)



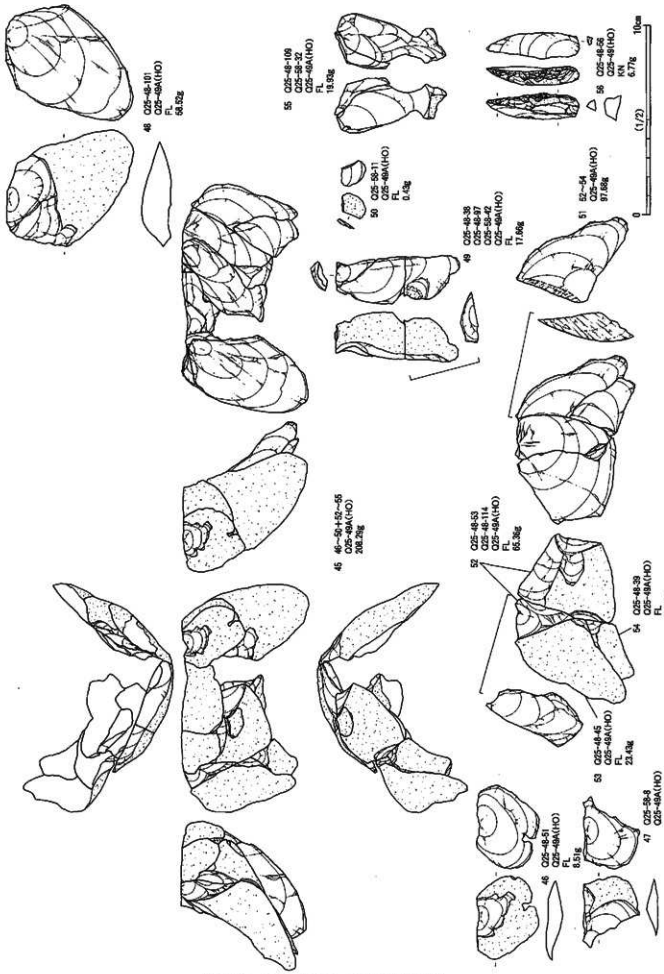
第308図　Q25-Aブロック出土遺物(2)



第309図　Q25-Aブロック出土遺物(３)



第310図　Q25-Aブロック出土遺物(4)



第311図　Q25-Aブロック出土遺物(5)

工痕ある剥片の可能性もある。

・Q25-49（第311図）　灰色（5Y5/1）などのホルンフェルスである。45は剥片13点（９個体；46～50・52～55）の接合資料である。その内，49は剥片３点が接合して１個体，52は剥片２点が接合して１個体，55は剥片２点が接合して１個体となる。46～48の剥離面を打面として，49を剥離し，その後，打面を90度転移して52～54と55を剥離しているが，52～54は同時に剥離・欠損したものと考えられる。

56は接合しなかった同一母岩の一側縁加工のナイフ形石器で，縦長剥片の打面側を基部として，右側縁に急角度の調整加工を行っている。

32　M25-Aブロック（第312・313・402図，第174・175表，カラー図版16，図版12）

1）ブロックの概要

M25-Aブロックは，調査範囲西側のM25-54グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸２m，短軸１mの範囲に３点の石器が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅥ層にかけて，40cmほどの高低差をもって包含されている（第312図）。

ブロックは，剥片３点で構成される。石器石材は，頁岩Ｂ３点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，頁岩Ｂ３母岩（M25-１～３）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（３/３点）である。

・M25-１：黄褐色（2.5Y5/3）の北関東産頁岩である。剥片１点（3.7ｇ）の単独資料である。

・M25-２：自然面は平滑で黒褐色（10YR3/2），内部は褐灰色（10YR4/1）の北関東産頁岩である。剥片１点（1.6ｇ）の単独資料である。

・M25-３：暗灰黄色（2.5Y5/2）の北関東産頁岩である。剥片１点（0.2ｇ）の単独資料である。

第174表　M25-Aブロック母岩別石器組成

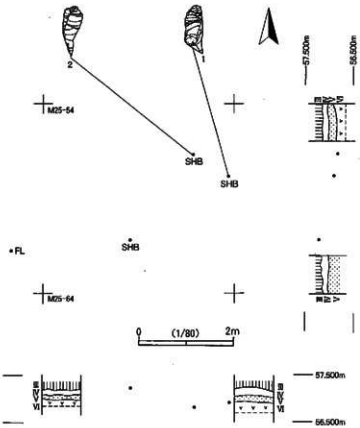
母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
M25-1(SHB)																	1								1
M25-2(SHB)																	1								1
M25-3(SHB)																	1								1
合　計																	3								3

第175表　M25-Aブロック石材別石器組成

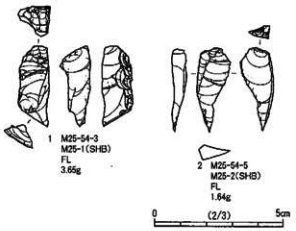
石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
頁岩B(SHB)																	3								3
合　計																	3								3

3）出土遺物（第313図）

1・2は北関東産頁岩による縦長剥片である。



第312図　M25-Aブロック出土遺物分布
－器種・石材別分布－



第313図　M25-Aブロック出土遺物

33　M25-Bブロック（第314・402図，第176表）

1）ブロックの概要

M25-Bブロックは，調査範囲西側のM25-63グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は15mである。

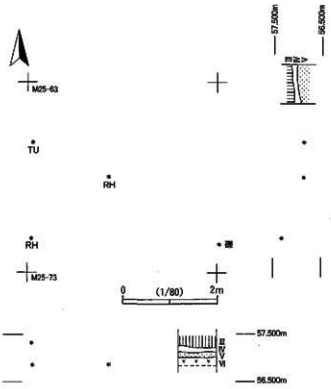
ブロックの規模と形状は，直径2mの範囲に3点の礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層からⅥ層にかけて，50cmほどの高低差をもって包含されている（第314図）。

ブロックは，礫3点で構成される。礫石材は，流紋岩2点（2母岩；46.2g），凝灰岩1点（1母岩；44.4g）で，識別率は100％である。本ブロックは，礫のみで，石器は出土していない。

34　M25-Cブロック（第315・402図，第177表）

1）ブロックの概要

M25-Cブロックは，調査範囲西側のM25-80・90グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側台地上の縁辺部である。

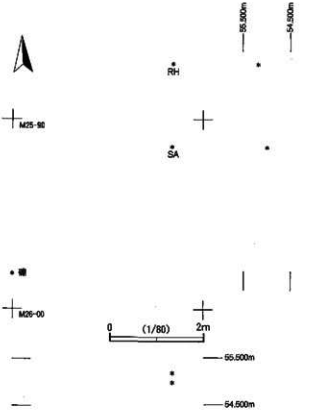


第314図　M25-Ｂブロック出土遺物分布
－礫石材分布－

第176表　M25-Ｂブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
M25R-1	RH	1	4.85
M25R-2	RH	1	41.36
M25R-3	TU	1	44.37

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	2	46.21
凝灰岩(TU)	1	44.37
合　計	3	90.58



第315図　M25-Ｃブロック出土遺物分布
－礫石材分布－

第177表　M25-Ｃブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
M25R-4	RH	1	37.39
M25R-5	DI	1	50.10
M25R-6	TU	1	30.05
M25R-7	SA	1	58.36
M25R-8	SA	1	22.15
M25R-9	SA	1	25.96
M25R-10	SA	1	6.09
M25R-11	SA	1	27.28
M25R-12	SA	1	8.79
M25R-13	SA	1	2.01
M25R-14	HO	1	3.34
M25R-15	CH	1	5.69

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	1	37.39
チャート(CH)	1	5.69
凝灰岩(TU)	1	30.05
砂岩(SA)	7	150.64
ホルンフェルス(HO)	1	3.34
閃緑岩(DI)	1	50.10
合　計	12	277.21

ブロックの規模と形状は，２ｍの直線状に12点の礫が分布する。その内，原位置不明の遺物が10点ある。出土層位は，調査時の所見によればⅡ層からⅣ層にかけて，80cmほどの高低差をもって包含されている（第315図）。

ブロックは，礫12点で構成される。礫石材は，流紋岩１点（１母岩；37.4ｇ），チャート１点（１母岩；5.7ｇ），凝灰岩１点（１母岩；30.1ｇ），砂岩７点（７母岩；150.6ｇ），ホルンフェルス１点（１母岩；3.3ｇ），閃緑岩１点（１母岩；50.1ｇ）で，識別率は100％である。本ブロックは，礫のみで，石器は出土していない。

35　ブロック外（第316・317図，カラー図版16）

ここでは第４文化層のブロックを形成していないグリッド単独（原則として２点以下）の出土遺物について記述する。ナイフ形石器２点，削器２点，使用痕ある剥片１点，石刃１点，敲石１点，剥片６点，砕片１点，礫７点の合計21点が出土した。

１は暗灰黄色(2.5Y5/2)の地にオリーブ黒色(5Y3/2)が部分的に混じる嶺岡産頁岩，２は浅黄橙色(10YR8/4)・にぶい黄褐色（10YR4/3）・にぶい黄褐色（10YR5/3）の北関東産頁岩によるそれぞれ一側縁加工のナイフ形石器である。１は横長剥片を横位に用い，２は石刃の打面側を基部として，右側縁に調整加工を行っている。

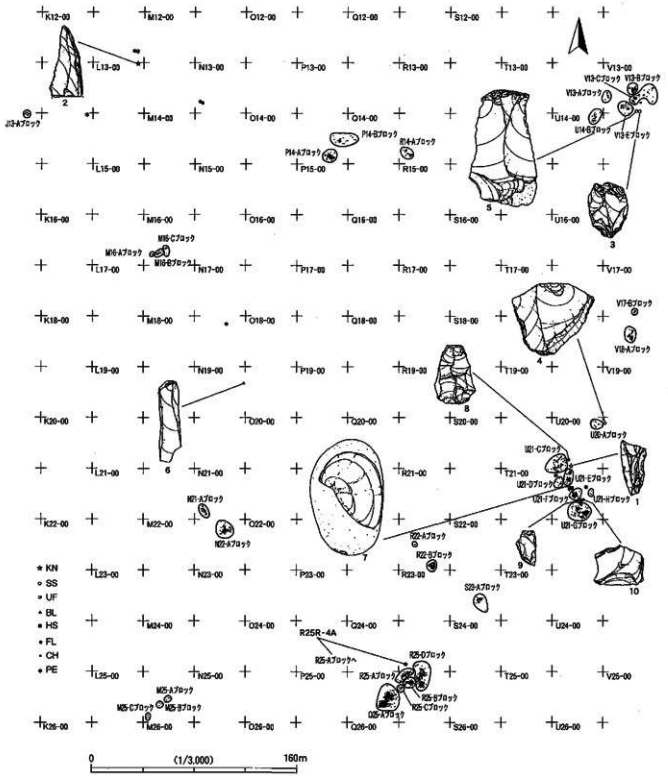
３は灰オリーブ色（5Y4/2）・灰オリーブ色（5Y5/2）の地に暗灰色（N3/0）が部分的に混じる嶺岡産頁岩による削器である。不定型な剥片の末端から両側縁の下部にかけて調整加工を行っている。４は内部がオリーブ褐色（2.5Y4/4）・褐色（10YR4/4）の地に部分的に暗灰黄色（2.5Y5/2）・にぶい黄色（2.5Y6/3）が混じり，節理は褐色（7.5YR4/3）の硬質緻密な頁岩による削器である。不定型な剥片の末端から左側縁にかけてと右側縁の上部に調整加工を行っている。

５は自然面が平滑で灰黄褐色（10YR5/2），内部は褐灰色（10YR6/1）の硬質緻密な頁岩による使用痕ある剥片である。石刃あるいは石刃状の縦長剥片の裏面両側縁に微細な剥離痕が見られる。

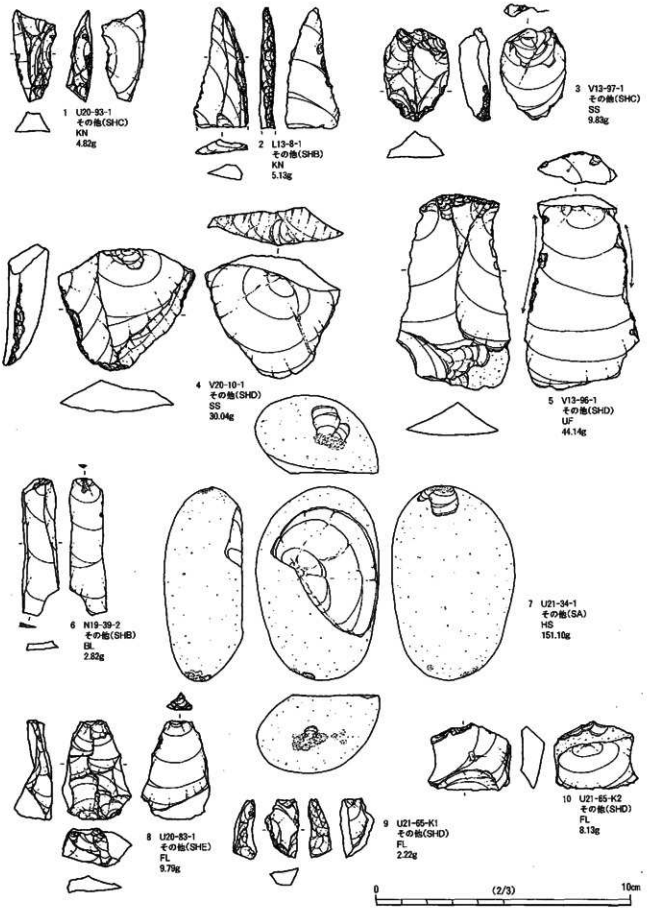
６は灰黄褐色（10YR4/2）の北関東産頁岩による石刃である。

７は自然面が平滑でオリーブ褐色（2.5Y4/4），内部は灰色（5Y5/1）の砂岩による敲石である。上下両端に浅い敲打痕，さらに上端には敲打によると考えられる剥離痕が見られる。なお，正面の大きな剥離痕は，その剥離面の一部に節理が見られることから，衝撃によって剥落したものと思われる。

８は浅黄色（2.5Y7/3）の頁岩，９は内部が褐灰色（10YR4/1），節理はにぶい褐色（7.5YR5/4）の硬質緻密な頁岩，10は自然面が平滑で灰黄褐色（10YR6/2），内部は黒褐色（10YR3/1）・灰黄褐色（10YR4/2）が縞状に入り，灰黄色（2.5Y6/2）が部分的に混じる硬質緻密な頁岩による剥片である。８は石核の底面の残る縦長剥片，９・10は不定型な剥片であるが，９は楔形石器の剥片（スポール）の可能性がある。



第316図　第４文化層ブロック外出土遺物分布



第317図　第4文化層ブロック外出土遺物

第6節　第5文化層

第5文化層は，立川ローム層のソフトローム層（Ⅲ層）を中心に包含される石器群で，石器群の内容から2枚に分けた。ナイフ形石器を主体とする第5a文化層は，L13-A，T24-A，S24-A・C・E，S25-A～D・J，S26-A・B・Dブロックの13か所が該当し，槍先形石器を主体とする第5b文化層は，U14-A，S24-B・D，S25-F・Gブロックの5か所が該当する。武蔵野台地のⅣ層上部の砂川期の石器群に概ね相当すると考えられる。なお，第5a文化層のS26-Aブロックと第5b文化層のS25-Gブロックには，類似した石器や石材などから特に親和性が感じられる。第5a文化層のS26-A・B・D・Jブロック，第5b文化層のS24-Dブロック，ブロック外（S24-48・69グリッド）についてはブロック間に接合関係がある。

第5a文化層

1　L13-Aブロック（第318・319・402図，第178・179表，カラー図版16，図版12）

1）ブロックの概要

L13-Aブロックは，調査範囲西側のL13-98・99，L14-09グリッドに位置する。ブロックの立地は，北側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は25mである。

ブロックの規模と形状は，長軸4m，短軸2mの範囲に11点の石器と南に4mほど離れて1点の石器が分布する。出土層位は，調査時の所見によればⅡ層からⅢ層にかけて，90cmほどの高低差をもって包含されている（第318図）。

ブロックは，加工痕あるR剥片1点，使用痕ある剥片2点，石刃2点，剥片7点の合計12点で構成される。石器石材は，瑪瑙・玉髄12点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは8母岩を識別した。内訳は，瑪瑙・玉髄8母岩（L13-1～8）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（12/12点）である。

・**L13-1**：灰白色（5Y8/2）・浅黄色（2.5Y8/3）・にぶい黄色（2.5Y6/4）の瑪瑙・玉髄である。使用痕ある剥片1点（12.0g）の単独資料である。

第178表　L13-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
L13-1(CC)											1														1
L13-2(CC)											1														1
L13-3(CC)																	2								2
L13-4(CC)												1					1								2
L13-5(CC)																	2								2
L13-6(CC)												1													1
L13-7(CC)										1							1								2
L13-8(CC)																	1								1
合計										1	2	2					7								12

第179表　L13-Aブロック石材別石器組成

石材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
瑪瑙・玉髄(CC)										1	2	2					7								12
合計										1	2	2					7								12

・L13-2：浅黄色（2.5Y7/3）・灰色（5Y6/1）で半透明な瑪瑙・玉髄である。使用痕ある剥片1点（24.4g）の単独資料である。

・L13-3：灰白色（5Y7/1）で半透明な瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片2点（12.2g）である。

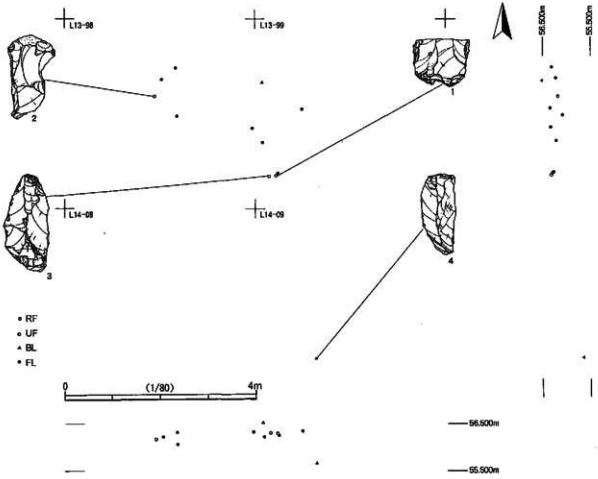
・L13-4：内部は灰白色（2.5Y7/1）・浅黄色（2.5Y7/3）で半透明，節理は淡黄色（2.5Y8/3）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，石刃1点，剥片1点の合計2点（22.5g）である。

・L13-5：内部はにぶい黄色（2.5Y6/3）・黄灰色（2.5Y6/1）で半透明な地に白色（N9/0）が部分的に混じり，節理は黄褐色（2.5Y5/3）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片2点（12.6g）である。

・L13-6：にぶい黄色（2.5Y6/3）で半透明な地に淡黄色（2.5Y8/3）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。石刃1点（3.4g）の単独資料である。

・L13-7：灰黄色（2.5Y7/2）・灰白色（5Y7/1）で半透明な地に淡黄色（2.5Y8/3）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，剥片1点の合計2点（17.0g）である。

・L13-8：にぶい黄色（2.5Y6/3）・暗灰黄色（2.5Y4/2）で半透明な地に灰白色（2.5Y8/1）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。剥片1点（6.2g）の単独資料である。



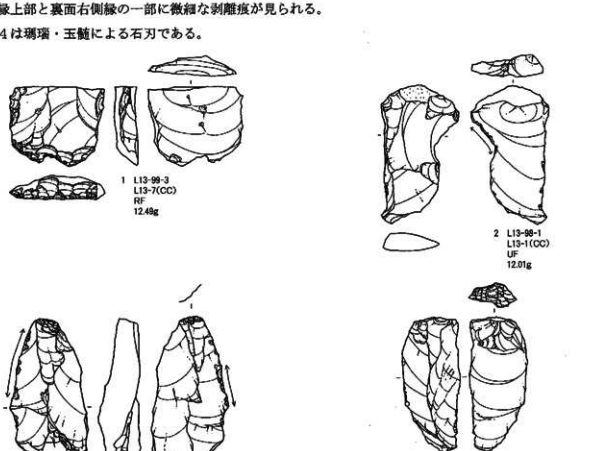
第318図　L13-Aブロック出土遺物分布－器種別分布－

3）出土遺物（第319図）

1は瑪瑙・玉髄による加工痕ある剥片で，末端と両側縁の一部に調整加工を行っている。削器とした方が良いかもしれない。

2・3は瑪瑙・玉髄による使用痕ある剥片で，それぞれ縦長剥片の2は裏面左側縁の一部，3は正面左側縁上部と裏面右側縁の一部に微細な剥離痕が見られる。

4は瑪瑙・玉髄による石刃である。



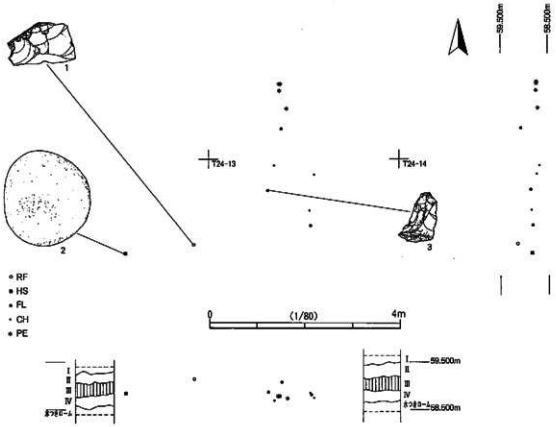
第319図　L13-Aブロック出土遺物

2　T24-Aブロック（第320～322・402図，第180～182表，カラー図版16，図版12）

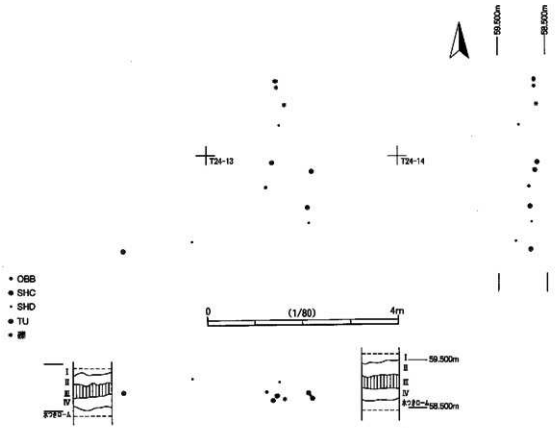
1）ブロックの概要

T24-Aブロックは，調査範囲東側のT24-03・12・13グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は，長軸5m，短軸3mの範囲に12点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅱ層からⅣ層にかけて，50cmほどの高低差をもって包含されている（第320・321図）。なお，調査時の所見によ



第320図　T24-Aブロック出土遺物分布（１）－器種別分布－



第321図　T24-Aブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

れば，Ⅴ層以下が水付きロームとなっており，ロームが変質化している。

ブロックは，加工痕ある剥片１点，敲石１点，剥片３点，砕片３点の合計８点と礫４点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｂ１点，頁岩Ｃ３点，頁岩Ｄ３点，凝灰岩１点である。礫石材は，凝灰岩４点（４母岩；34.9ｇ）で，識別率は100％である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは５母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｂ１母岩（T24-１），頁岩Ｃ１母岩（T24-３），頁岩Ｄ２母岩（T24-４・５），凝灰岩１母岩（T24-２）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は75％（６/８点）である。

・**T24-１**：自然面は平滑で，自然面及び内部は透明な地に淡黒灰色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（3.2ｇ）の単独資料である。なお，自然面は剥離面の可能性がある。

・**T24-２**：自然面は粗いヤスリ状で灰黄褐色(10YR4/2)・にぶい黄褐色(10YR5/4)，内部は浅黄色(2.5Y7/3)，節理はオリーブ黒色（5Y3/1）の凝灰岩である。敲石１点（496.1ｇ）の単独資料である。

・**T24-３**：黄褐色（2.5Y5/3）・にぶい黄色（2.5Y6/3）の横岡産頁岩である。砕片１点（0.4ｇ）の単独資料である。

・**T24-４**：灰色（5Y6/1）・灰色（5Y5/1）の硬質緻密な頁岩である。加工痕ある剥片１点（15.3ｇ）の単独資料である。

・**T24-５**：黒褐色(2.5Y3/2)・暗灰黄色(2.5Y4/2)の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点(1.1ｇ）である。

なお，母岩分類できなかった資料に，頁岩Ｃの砕片２点（0.1ｇ）がある。

第180表　T24-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
T24-1(OBB)																	1								1
T24-2(TU)															1										1
T24-3(SHC)																		1							1
T24-4(SHD)											1														1
T24-5(SHD)																	2								2
その他(SHC)																		2							2
合　計											1				1		3	3							8

第181表　T24-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
黒曜石B(OBB)																	1								1
頁岩C(SHC)																		3							3
頁岩D(SHD)										1							2								3
凝灰岩(TU)															1										1
合　計										1					1		3	3							8

第182表　T24-Aブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
T24R-1	TU	1	3.14
T24R-2	TU	1	7.33
T24R-3	TU	1	21.45
T24R-4	TU	1	2.95

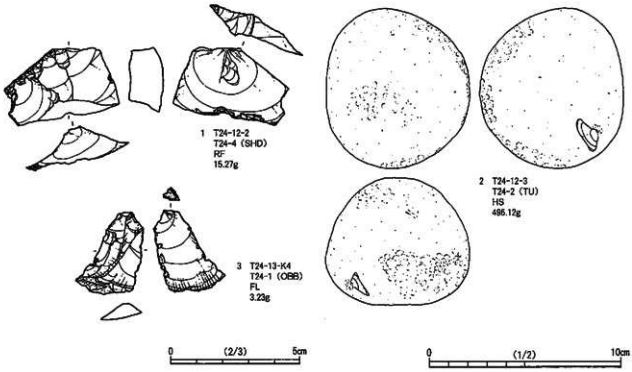
石　材	個数	重量
凝灰岩(TU)	4	34.87
合　計	4	34.87

3）出土遺物（第322図）

1は硬質緻密な頁岩による加工痕ある剥片で，裏面末端に調整加工を行っている。

2は凝灰岩による敲石で，正面と右側縁から下端部にかけて浅い敲打痕が見られる。

3は信州和田峠周辺産の黒曜石による縦長剥片である。



第322図　T24-Aブロック出土遺物

3　S24-Aブロック（第323～326・402図，第183～185表，カラー図版16・24，図版12）

1）ブロックの概要

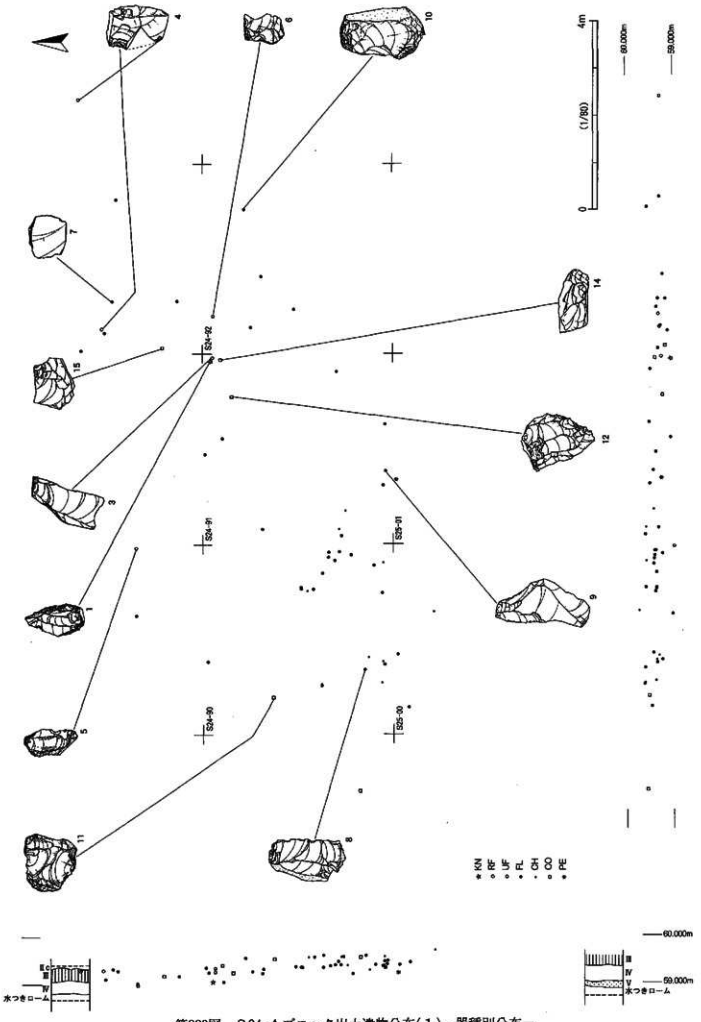
S24-Aブロックは，調査範囲東側のR24-99，S24-80・82・83・90～92，S25-00・01グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は25mである。

ブロックの規模と形状は，長軸16m，短軸7mの範囲に59点の石器・礫が分布する。その内，原位置不明の遺物が3点ある。出土層位は，Ⅱc層からⅣ層にかけて，60cmほどの高低差をもって包含されている（第323・324図）。なお，調査時の所見によれば，Ⅴ層以下が水付きロームとなっており，ロームが変質化している。

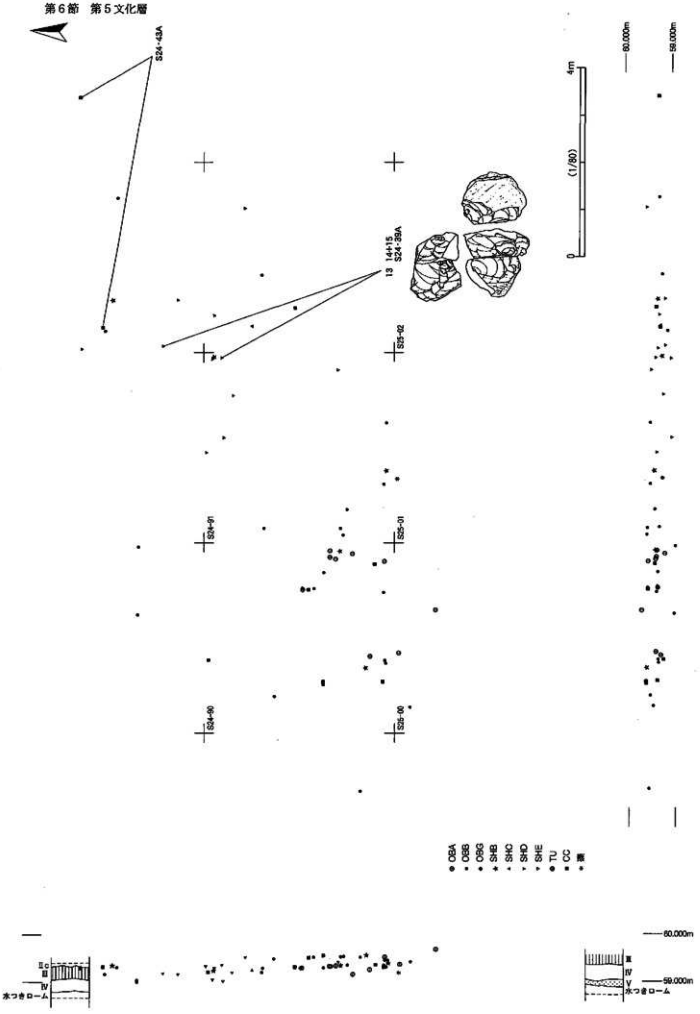
ブロックは，ナイフ形石器2点，加工痕ある剥片3点（2個体），使用痕ある剥片2点，剥片37点，砕片9点，石核5点の合計58点（57個体）と礫1点で構成される。石器石材は，黒曜石A9点，黒曜石B19点，黒曜石G1点，頁岩B5点，頁岩C1点，頁岩D10点，頁岩E2点，凝灰岩1点，瑪瑙・玉髄10点（9個体）である。礫石材は，砂岩1点（1母岩；3.1g）で，識別率は100%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは22母岩を識別した。内訳は，黒曜石A2母岩（S24-24・25），黒曜石B5母岩（S24-26～



第323図　S24-Aブロック出土遺物分布(1)－器種別分布－



第324図　S24-Aブロック出土遺物分布(2)－石材別分布－

30)，黒曜石Ｇ１母岩（S24-31)，頁岩Ｂ１母岩（S24-23)，頁岩Ｃ１母岩（S24-34)，頁岩Ｄ７母岩（S24-35～41)，頁岩Ｅ１母岩（S24-42)，凝灰岩１母岩（S24-32)，瑪瑙・玉髄３母岩（S24-43～45）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は88%（51/58点）である。

・S24-23：自然面は平滑でにぶい黄橙色（10YR6/4)，内部はにぶい黄褐色（10YR5/3)・灰黄褐色（10YR5/2)の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片４点の合計５点（25.4ｇ）である。

・S24-24：黒灰色で半透明な黒曜石である。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，剥片３点（4.3ｇ）である。

・S24-25：黒灰色で半透明な黒曜石である。S24-24に比べ若干，色調は薄い。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。表面が風化しているものは，被熱による可能性がある。石器群の内訳は，剥片３点，砕片３点の合計６点（5.5ｇ）である。

・S24-26：自然面は比較的平滑で薄墨を流したような半透明な資料と黒褐色で半透明な資料があり，別母岩としたほうが良かったかもしれない黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石核２点（26.8ｇ）である。

・S24-27：自然面は紙ヤスリ状で灰白色（2.5Y8/1）の部分と比較的平滑で黄灰色（2.5Y5/1）な部分がある淡黒灰色で半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（1.9ｇ）の単独資料である。

・S24-28：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は透明な地に淡黒灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（1.3ｇ）の単独資料である。

・S24-29：薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片４点の合計５点（6.8ｇ）である。

・S24-30：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。φ５㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片３点（8.8ｇ）である。

・S24-31：自然面はスリガラス状で黒褐色（2.5Y3/1)，内部は黒色の入る黒曜石である。φ１㎜以下の黄灰色の夾雑物を含む。産地は不明である。剥片１点（6.8ｇ）の単独資料である。

・S24-32：内部は浅黄色（5Y7/3）新鮮な面は灰色（5Y4/1）の凝灰岩である。ナイフ形石器１点（0.9ｇ）の単独資料である。

・S24-34：内部は黄褐色（2.5Y5/4)・褐色（7.5YR4/4)・黒褐色（7.5YR3/1)，新鮮な面は灰白色（2.5Y7/1）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（9.6ｇ）の単独資料である。

・S24-35：自然面は平滑で暗灰黄色（2.5Y5/2)・灰黄色（2.5Y7/2）の地に灰白色（5Y8/1）が部分的に混じり，内部は灰色（5Y5/1)・灰オリーブ色（5Y5/2)，節理は灰オリーブ色（5Y5/2）の硬質緻密な頁岩である。石核１点（25.7ｇ）の単独資料である。

・S24-36：自然面は比較的平滑で黄褐色（2.5Y5/4)・にぶい黄色（2.5Y6/3)・暗灰黄色（2.5Y4/2)，内部は暗灰黄色（2.5Y5/2)・暗灰黄色（2.5Y4/2）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（22.2ｇ）の単独資料である。

・S24-37：黄褐色（2.5Y5/3)・暗灰黄色（2.5Y5/2）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（8.1ｇ）である。

・S24-38：灰黄色（2.5Y6/2)・暗灰黄色（2.5Y5/2）の地に黄灰色（2.5Y4/1)・オリーブ褐色（2.5Y4/4）が部分的に混じる硬質緻密な頁岩である。ナイフ形石器１点（5.1ｇ）の単独資料である。

・S24-39：自然面は凹凸があり灰褐色（5YR4/2)・浅黄色（2.5Y7/4)，内部は暗赤褐色（2.5YR3/3）の地に

オリーブ灰色（2.5GY5/1）が部分的に混じる硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点，石核2点の合計3点（66.7g）である。接合資料は，石核2点（65.9g）である。

・S24-40：黒褐色（2.5Y3/2）・暗灰黄色（2.5Y5/2）・暗灰黄色（2.5Y4/2）が縞状に入る硬質緻密な頁岩である。剥片1点（0.6g）の単独資料である。

・S24-41：自然面は比較的平滑でにぶい黄色（2.5Y6/4），内部は灰白色（5Y7/2），新鮮な面は灰色（10Y5/1）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（3.8g）の単独資料である。

・S24-42：自然面は比較的平滑で灰色（5Y6/1），内部は灰色（5Y4/1）・灰オリーブ色（5Y5/2）・灰オリーブ色（5Y5/3）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（4.1g）である。

・S24-43：灰白色（2.5Y7/1）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片2点（1個体；8.6g）である。接合資料は，加工痕ある剥片2点（1個体；8.6g）である。

・S24-44：自然面は凹凸があり，明黄褐色（10YR6/6），内部は灰黄褐色（10YR4/2）・灰黄褐色（10YR6/2）・灰白色（10YR7/1）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片3点（5.6g）である。

・S24-45：灰黄褐色（10YR4/2）の地に灰黄色（2.5Y7/2）が部分的に混じる資料，黒褐色（10YR3/1）の地に明オリーブ灰色（5GY7/1）が部分的に混じる資料など母岩内に変異がある瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片2点，砕片3点の合計5点（8.1g）である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Bの剥片4点，砕片3点の合計7点（4.4g）がある。

3）出土遺物（第325図）

1は硬質緻密な頁岩，2は凝灰岩による二側縁加工のナイフ形石器である。1は石刃状の縦長剥片の打面側を基部，2は石刃あるいは石刃状の縦長剥片の打面側を先端部として，それぞれ右側縁と左側縁下部に調整加工を行っている。

3は北関東産頁岩，4は瑪瑙・玉髄による加工痕ある剥片で，それぞれ石刃状の縦長剥片を素材として，3は左側縁の一部，4は両面の左側縁に調整加工を行っている。4は2点が接合して1個体となる。

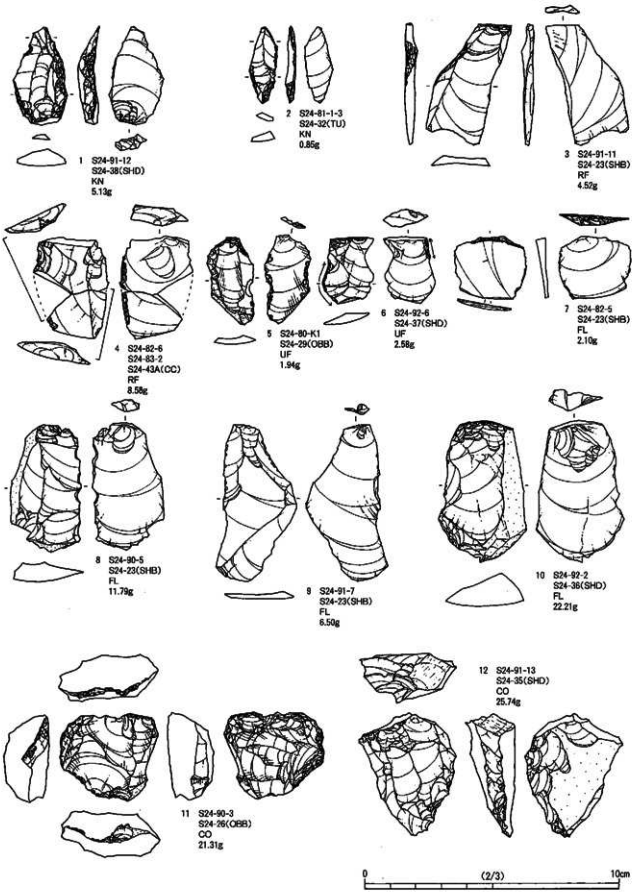
5は信州和田峠周辺産の黒曜石，6は硬質緻密な頁岩による使用痕ある剥片で，5は石刃状の縦長剥片の裏面両側縁に細かい剥離痕，6は縦長剥片の正面の左側縁下半部と裏面の右側縁上部に微細な剥離痕が見られる。

7～9は北関東産頁岩，10は硬質緻密な頁岩による剥片で，7は不定型，8～10は石刃状の縦長剥片である。

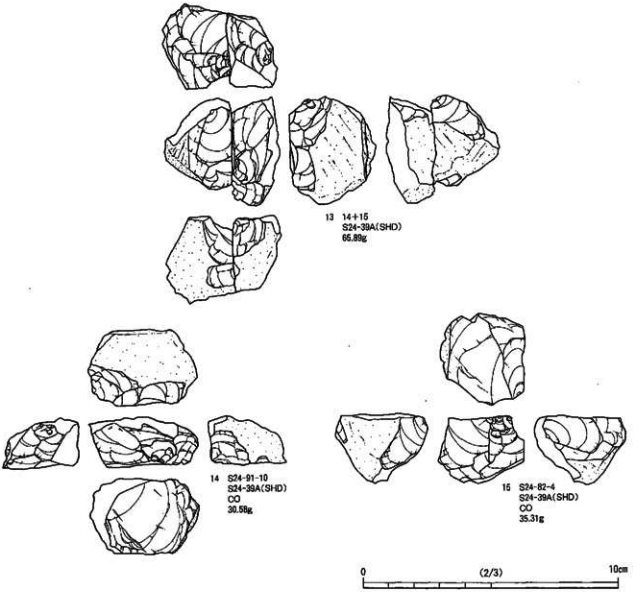
11は信州和田峠周辺産の黒曜石，12は硬質緻密な頁岩による石核である。11は対向する剥離痕が見られることから，両極石核と考えられるが，楔形石器の可能性もある。12は打面調整・頭部調整を行いながら，小型の縦長剥片を剥離しているが，最終的には正面右側縁側あるいは裏面左側縁側で打面と作業面を入れ替えながら，小型で不定型な剥片を剥離している。ただし，これらの剥離は刃部作出のための調整加工の可能性があり，削器への転用も考えられる。

4）接合資料とその関連資料（第326図）

・S24-39（第326図）　暗赤褐色（2.5YR3/3）などの硬質緻密な頁岩である。13は石核2点（14・15）の接合資料である。この母岩は，節理状の剥離面で2つに分割後，14は打面と作業面を入れ替えながら小型で不定型な剥片を剥離し，15は分割された剥離面あるいは一部作業面を打面として，不定型な剥片を剥離している。



第325図　S24-Aブロック出土遺物(1)



第326図　S24-Aブロック出土遺物(2)

第183表　S24-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	OR	PO	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
S24-23(SHB)										1							4								5
S24-24(OBA)																	3								3
S24-25(OBA)																	3	3							6
S24-26(OBB)																			2						2
S24-27(OBB)																	1								1
S24-28(OBB)																	1								1
S24-29(OBB)											1						4								5
S24-30(OBB)																	3								3
S24-31(OBG)																	1								1
S24-32(TU)	1																								1
S24-34(SHC)																	1								1
S24-35(SHD)																			1						1
S24-36(SHD)																	1								1
S24-37(SHD)											1						1								2
S24-38(SHD)	1																								1
S24-39(SHD)																	1		2						3
S24-40(SHD)																	1								1
S24-41(SHD)																	1								1
S24-42(SHE)																	2								2
S24-43(CC)										2(1)															2(1)
S24-44(CC)																	3								3
S24-45(CC)																	2	3							5
その他(OBB)																	4	3							7
合　計	2									3(2)	2						37	9	5						58(57)

第184表　S24-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	OR	PO	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
黒曜石A(OBA)																	6	3							9
黒曜石B(OBB)											1						13	3	2						19
黒曜石G(OBG)																	1								1
頁岩B(SHB)											1						4								5
頁岩C(SHC)																	1								1
頁岩D(SHD)	1										1						5		3						10
頁岩E(SHE)																	2								2
凝灰岩(TU)	1																								1
珪質・玉髄(CC)										2(1)							5	3							10(9)
合　計	2									3(2)	2						37	9	5						58(57)

第185表　S24-Aブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
S24R-16	SA	1	3.07

石　材	個数	重量
砂岩(SA)	1	3.07
合　計	1	3.07

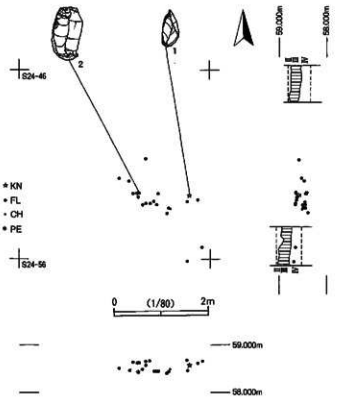
4　S24-Cブロック（第327～329・402図，第186～188表，カラー図版16，図版13）

1）ブロックの概要

S24-Cブロックは，調査範囲東側のS24-46・56グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は25mである。

ブロックの規模と形状は，長軸３m，短軸１mの範囲に21点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅳ層を中心に，30cmほどの高低差をもって包含されている（第327・328図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，剥片18点，砕片１点の合計20点と礫１点で構成される。石器石材は，安山岩２点，頁岩Ｃ３点，頁岩Ｄ１点，チャート12点，凝灰岩２点である。礫石材は，砂岩１点（１母岩



第327図　S24-Cブロック出土遺物分布（1）
－器種別分布－

；2.6ｇ）で，識別率は100％である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは6母岩を識別した。内訳は，安山岩2母岩（S24-63・64），頁岩C1母岩（S24-66），頁岩D1母岩（S24-67），チャート1母岩（S24-68），凝灰岩1母岩（S24-65）である。母岩識別した石器総数に対する割合は100％（20/20点）である。

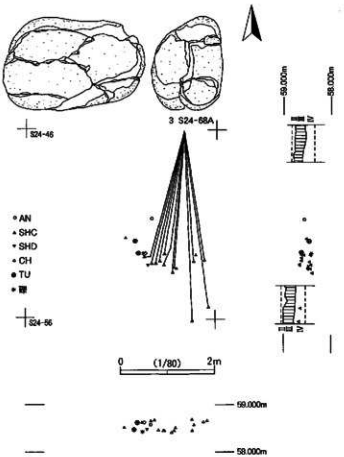
・**S24-63**：自然面は爪形の浅い裂痕が密で暗灰黄色(2.5Y5/2)，内部は黄灰色(2.5Y4/1)・暗灰黄色(2.5Y5/2)，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片1点（3.8ｇ）の単独資料である。

・**S24-64**：自然面は紙ヤスリ状でオリーブ褐色（2.5Y4/3），内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）の安山岩である。剥片1点（5.1ｇ）の単独資料である。

・**S24-65**：自然面は比較的平滑で暗赤褐色（2.5YR3/3）・暗赤灰色（2.5YR3/1）・灰色（10Y6/1）・暗灰黄色（2.5Y5/2），内部はオリーブ灰色（2.5GY6/1）・明オリーブ灰色（2.5GY7/1）・暗赤褐色（2.5YR3/3）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片2点（63.3ｇ）である。

・**S24-66**：オリーブ黒色（5Y3/2）・灰オリーブ色（5Y5/2）の横岡産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，剥片1点，砕片1点の合計3点（12.3ｇ）である。

・**S24-67**：自然面は比較的平滑でにぶい赤褐色(2.5YR4/3)，内部はにぶい赤褐色(5YR5/4)・黄灰色(2.5Y5/1)・にぶい黄褐色（10YR5/3）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（2.4ｇ）の単独資料である。



第328図　S24-Cブロック出土遺物分布(2)
－石材別分布－

第186表　S24-Cブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
S24-63(AN)																	1								1
S24-64(AN)																	1								1
S24-65(TU)																	2								2
S24-66(SHC)	1																1	1							3
S24-67(SHD)																	1								1
S24-68(CH)																	12								12
合　計	1																18	1							20

第187表　S24-Cブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
安山岩(AN)																	2								2
真岩C(SHC)	1																1	1							3
真岩D(SHD)																	1								1
チャート(CH)																	12								12
凝灰岩(TU)																	2								2
合　計	1																18	1							20

第188表　S24-Cブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
S24R-19	SA	1	2.60

・S24-68：自然面は爪形の裂痕が密で灰色（10Y4/1）・にぶい赤褐色（2.5YR4/4）・にぶい黄色（2.5Y6/3），内部は灰色（10Y4/1）・にぶい黄色（2.5Y6/3）のチャートである。石器群の内訳は，剥片12点（863.6ｇ）である。接合資料は，剥片12点（863.6ｇ）である。

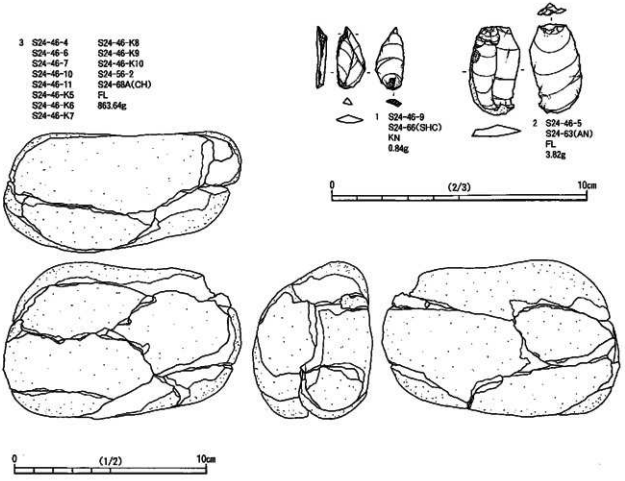
3）出土遺物（第329図1・2）

1は嶺岡産頁岩による部分加工のナイフ形石器で，石刃状の縦長剥片の打面側を基部として，左側縁の上部に細かい調整加工を行っている。

2は安山岩による石刃状の縦長剥片である。

4）接合資料とその関連資料（第329図3）

・S24-68（第329図3）　灰色（10Y4/1）などのチャートである。3は剥片12点（3）の接合資料である。大人の拳大より大きな楕円礫を素材として，大きくは上面図のほぼ中間の節理で2つに剥落しているが，全体ではチャンク状に分割されており，石核として認識できる個体はなかった。チャートとしては質の悪い母岩ではあるが，大型の剥片が剥離されている。



第329図　S24-Cブロック出土遺物

5　S24-Eブロック（第330～334・402図，第189～191表，カラー図版17・24，図版13）

1）ブロックの概要

S24-Eブロックは，調査範囲東側のS24-67・68・78グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は35mである。

ブロックの規模と形状は，長軸６m，短軸４mの範囲に41点の石器・礫が分布する。その内，垂直分布のない遺物が10点ある。出土層位は，Ⅱ層からⅢ層にかけて，30cmほどの高低差をもって包含されている（第330・331図）。なお，調査時の所見によれば，Ⅳ～Ⅴ層以下が暗灰色粘土化した水付きロームとなっており，その原因として，この層の直下に粘土層があり，不透水層となり，その結果として，ロームが変質化したものと考えられている。さらに，その時期について，Ⅵ層段階で粘土層（常総粘土層）まで浸食・開析され，その後，Ⅳ・Ⅴ層などが堆積したもので，住地環境が良好だったのが，Ⅲ層段階と推定している。なお，立地的には緩やかな傾斜地である。

ブロックは，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片１点，石刃１点，剥片29点，砕片２点，石核５点（４個体）の合計39点（38個体）と礫２点で構成される。石器石材は，安山岩１点，頁岩Ｃ34点（33個体），頁岩Ｅ４点である。礫石材は，流紋岩１点（１母岩；209.8ｇ），礫岩１点（１母岩；203.5ｇ）で，識別率は100％である。

2）母岩の特徴と内容

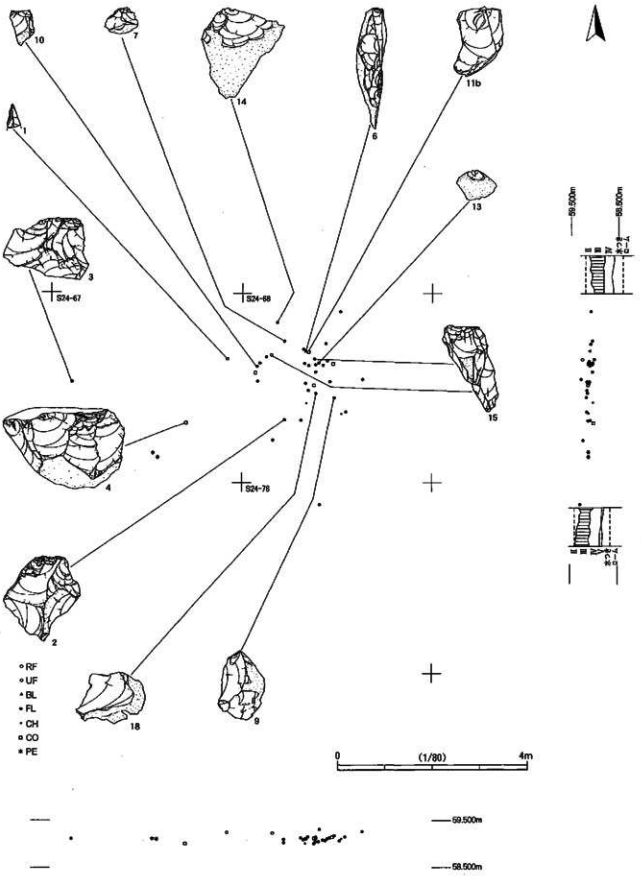
本ブロックでは17母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（S24-46），頁岩Ｃ14母岩（S24-47～60），頁岩Ｅ２母岩（S24-61・62）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は95％（37/39点）である。

・**S24-46**：自然面は紙ヤスリ状で黄褐色（2.5Y5/3），内部は暗灰黄色（2.5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片１点（23.7ｇ）の単独資料である。

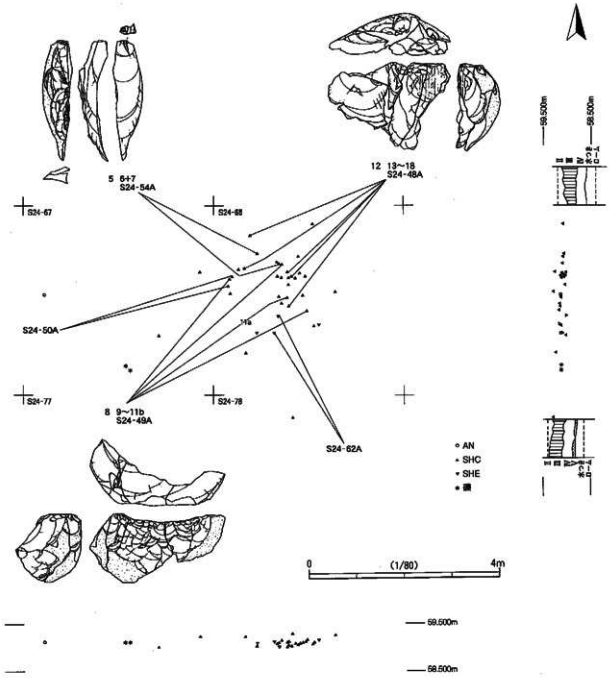
・**S24-47**：自然面は凹凸がありにぶい黄褐色(10YR5/4)・にぶい褐色(7.5YR5/4),内部はオリーブ灰色(2.5GY6/1)・オリーブ灰色（5GY6/1）・灰オリーブ色（5Y5/2）・にぶい黄色（2.5Y6/3）・にぶい黄褐色（10YR5/4）の嶺岡産頁岩である。石核１点（272.8ｇ）の単独資料である。

第189表　S24-Eブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
S24-46(AN)																	1								1
S24-47(SHC)																			1						1
S24-48(SHC)											1						4								5
S24-49(SHC)																	2		2(1)						4(3)
S24-50(SHC)																	1		1						2
S24-51(SHC)																	2								2
S24-52(SHC)																	1								1
S24-53(SHC)																	1								1
S24-54(SHC)												1					1								2
S24-55(SHC)																	2								2
S24-56(SHC)																	1								1
S24-57(SHC)																	7		1						8
S24-58(SHC)																	1								1
S24-59(SHC)																	1								1
S24-60(SHC)																	1								1
S24-61(SHE)																	2								2
S24-62(SHE)																	1	1							2
その他(SHC)										1								1							2
合計										1	1	1					29	2	5(4)						39(38)



第330図　S24-Eブロック出土遺物分布(1)－器種別分布－



第331図　S24-Eブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

・S24-48：自然面は凹凸がありにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y4/1），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片４点の合計５点（80.5ｇ）である。接合資料は，使用痕ある剥片１点，剥片４点の合計５点（80.5ｇ）である。

・S24-49：自然面は爪形の浅い裂痕が粗で褐色(10YR4/4)，内部は黄褐色(2.5Y5/4)・オリーブ褐色(2.5Y4/4)・灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点，石核２点（１個体）の合計４点（３個体；85.7ｇ）である。接合資料は，剥片２点，石核２点（１個体）の合計４点（３個体；85.7ｇ）である。

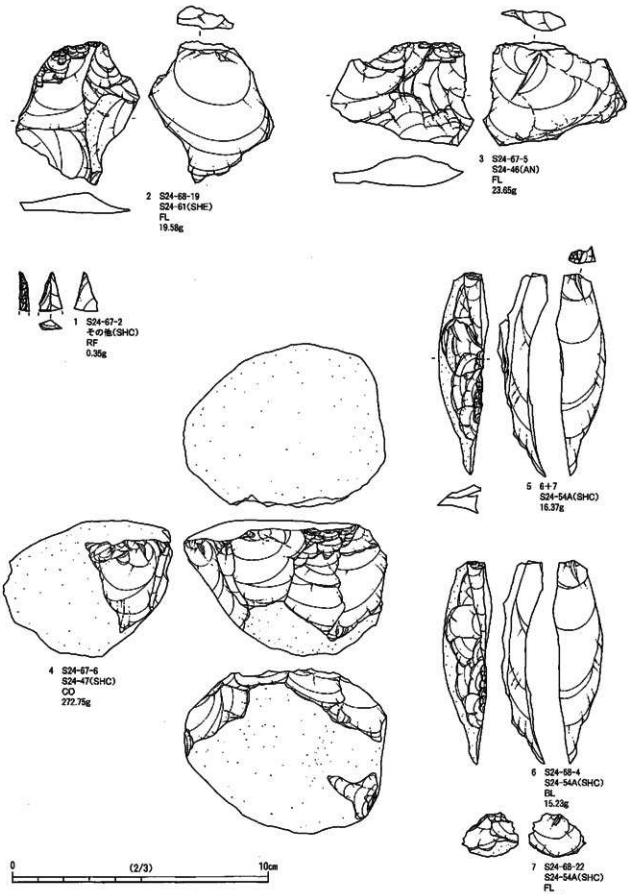
・S24-50：自然面は比較的平滑で褐色(10YR4/6)，内部は灰オリーブ色(5Y5/3)・にぶい黄褐色(10YR5/4)・浅黄色（2.5Y7/3），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（36.9ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（36.9ｇ）である。
・S24-51：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色(10YR4/3)，内部は灰オリーブ色(5Y5/2)・灰オリーブ色(7.5Y5/2)・褐色（10YR4/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（8.4ｇ）である。
・S24-52：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4）・褐色（10YR4/6），内部は灰色（5Y6/1）・灰色（5Y5/1）・灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（8.2ｇ）の単独資料である。
・S24-53：自然面は爪形の浅い裂痕が粗で褐色（10YR4/4），内部は黄褐色（2.5Y5/3）・黄灰色（2.5Y5/1）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（21.6ｇ）の単独資料である。
・S24-54：自然面は凹凸がありにぶい黄褐色(10YR5/4)・にぶい黄褐色(10YR4/3)，内部は黄褐色(2.5Y5/3)・灰オリーブ色（5Y5/3）・黒褐色（2.5Y3/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，石刃１点，剥片１点の合計２点（16.4ｇ）である。接合資料は，石刃１点，剥片１点の合計２点（16.4ｇ）である。
・S24-55：自然面は爪形の浅い裂痕が粗でオリーブ褐色（2.5Y4/6），内部はオリーブ灰色（2.5GY6/1）・灰オリーブ色（5Y5/3），節理はオリーブ褐色（2.5Y4/6）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（34.2ｇ）である。
・S24-56：自然面は比較的平滑でにぶい黄色(2.5Y6/3)，内部はにぶい黄色(2.5Y6/3)・にぶい黄褐色(10YR5/4)・にぶい褐色（7.5YR5/4）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（2.4ｇ）の単独資料である。
・S24-57：自然面は比較的平滑で褐色（10YR4/6）・にぶい黄褐色（10YR5/4），内部は黄褐色（2.5Y5/4）・にぶい黄褐色（10YR5/4）・灰オリーブ色（5Y6/2），新鮮な面は黒褐色（10YR3/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片７点，石核１点の合計８点（30.3ｇ）である。
・S24-58：自然面は比較的平滑でオリーブ褐色（2.5Y4/6），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（1.7ｇ）の単独資料である。
・S24-59：オリーブ褐色（2.5Y4/3）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（0.9ｇ）の単独資料である。
・S24-60：オリーブ褐色（2.5Y4/6）・オリーブ黄色（5Y6/3）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（1.7ｇ）の単独資料である。
・S24-61：自然面は比較的平滑で黒色（N2/0），内部は灰白色（2.5Y8/2）の地に浅黄色（2.5Y7/3）・黄灰色（2.5Y4/1）・褐色（10YR4/4）が部分的に混じる頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（24.3ｇ）である。
・S24-62：黄灰色（2.5Y4/1）・暗灰色（N3/0）・黄灰色（2.5Y6/1）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点，砕片１点の合計２点（9.0ｇ）である。接合資料は，剥片１点，砕片１点の合計２点（9.0ｇ）である。
　なお，母岩分類できなかった資料に，頁岩Ｃの加工痕ある剥片１点，砕片１点の合計２点（0.5ｇ）がある。

３）出土遺物（第332図１～４）

１は嶺岡産頁岩による加工痕ある剥片としたが，ナイフ形石器の先端部の可能性もある。左側縁に細かい調整加工を行っている。

２は頁岩，３は安山岩による比較的大型で不定型な剥片である。

４は嶺岡産頁岩による石核である。子供の拳大の不定型な礫の自然面を打面として，比較的大型で不定型な剥片を剥離している。

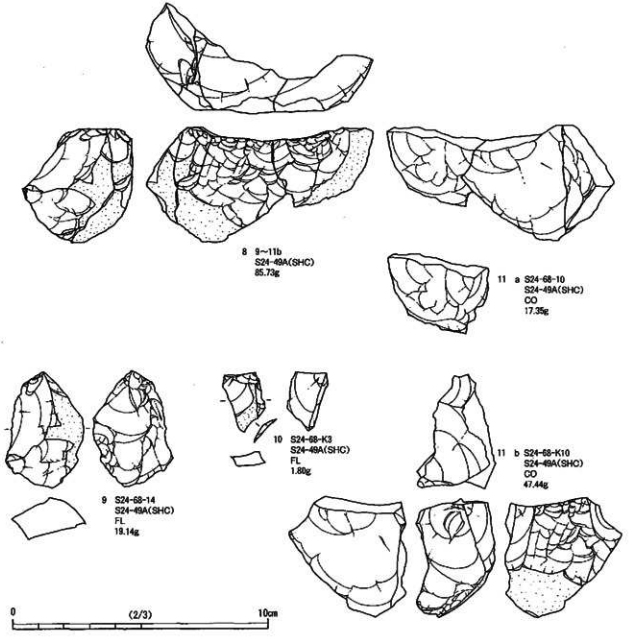


第332図　S24-Eブロック出土遺物(1)

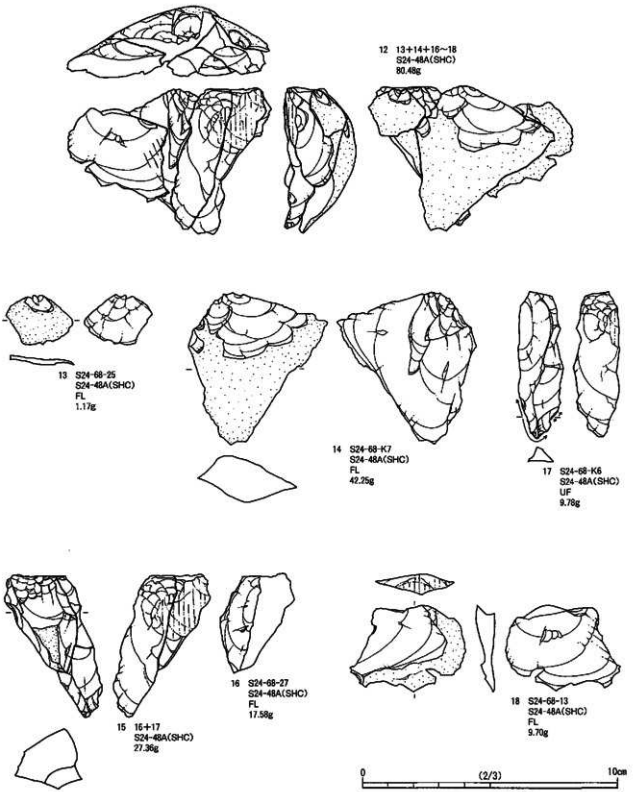
４）接合資料とその関連資料（第332図５～７，第333・334図）

・S24-54（第332図５～７）　黄褐色（2.5Y5/3）などの嶺岡産頁岩である。５は石刃１点（６），剥片１点（７）の接合資料である。６は稜付き石刃，７は稜形成のための調整剥片である。

・S24-49（第333図）　黄褐色（2.5Y5/4）などの嶺岡産頁岩である。８は剥片２点（９・10），石核２点（１個体；11）の接合資料である。厚みのある大型の不定型な剥片を素材として，９・10などの不定型な剥片を剥離している。11は石核２点が接合して１個体となる。



第333図　S24-Eブロック出土遺物（２）



第334図　S24-Eブロック出土遺物(3)

・S24-48（第334図）　灰オリーブ色（5Y5/2）などの嶺岡産頁岩である。12は使用痕ある剥片1点（17），剥片4点（13・14・16・18）の接合資料である。上方向からの加撃により縦長剥片や不定型な剥片が剥離されている。17は縦長剥片の末端に微細な剥離痕が見られる。

第190表　S24-Eブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
安山岩(AN)																	1								1
頁岩C(SHC)										1	1	1					25	1	5(4)						34(33)
頁岩E(SHE)																	3	1							4
合　計										1	1	1					29	2	5(4)						39(38)

第191表　S24-Eブロック礫組成

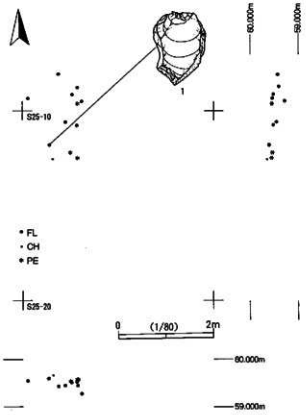
母　岩	石　材	個数	重量
S24R-17	RH	1	209.83
S24R-18	CO	1	203.51

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	1	209.83
輝岩(CO)	1	203.51
合　計	2	413.34

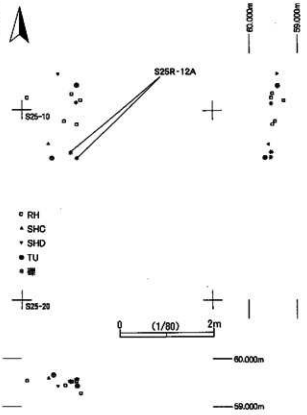
6　S25-Aブロック（第335～337・402図，第192～194表，カラー図版17）

1）ブロックの概要

S25-Aブロックは，調査範囲東側のS25-00・10グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は30mである。



第335図　S25-Aブロック出土遺物分布（1）
－器種別分布－



第336図　S25-Aブロック出土遺物分布（2）
－石材別分布－

ブロックの規模と形状は，長軸２m，短軸１mの範囲に12点の石器・礫が分布する。出土層位は，調査時の所見によればⅢ層からⅣ層にかけて，40cmほどの高低差をもって包含されている（第335・336図）。

ブロックは，剥片８点，砕片１点の合計９点と礫３点で構成される。石器石材は，流紋岩５点，頁岩Ｃ１点，頁岩Ｄ１点，凝灰岩２点である。礫石材は，流紋岩１点（１母岩；39.7ｇ），凝灰岩２点（１母岩；178.5ｇ）で，識別率は100％である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，流紋岩１母岩（S25-18），頁岩Ｃ１母岩（S25-19），頁岩Ｄ１母岩（S25-20），凝灰岩１母岩（S24-33）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（9/9点）である。

・S24-33：内部は灰白色（2.5Y8/1），節理は灰白色（2.5Y8/2）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片１点（11.4ｇ），砕片１点（0.8ｇ）の合計２点（12.2ｇ）である。

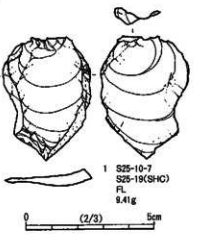
・S25-18：内部は白色（N9/0）・灰白色（2.5Y8/2），節理は黄橙色（10YR7/8）の流紋岩である。石器群の内訳は，剥片５点（49.2ｇ）である。

・S25-19：自然面は比較的平滑で灰オリーブ色（5Y5/2），内部は灰オリーブ色（5Y6/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（9.4ｇ）の単独資料である。

・S25-20：黒褐色（10YR3/1）の地に褐灰色（10YR6/1）・灰白色（10YR8/1）が部分的に混じる硬質緻密な頁岩である。剥片１点（4.6ｇ）の単独資料である。

3）出土遺物（第337図）

１は嶺岡産頁岩による縦長剥片である。



第337図　S25-Aブロック出土遺物

第192表　S25-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
S24-33(TU)																	1	1							2
S25-18(RH)																	5								5
S25-19(SHC)																	1								1
S25-20(SHD)																	1								1
合計																	8	1							9

第193表　S25-Aブロック石材別石器組成

石材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
流紋岩(RH)																	5								5
頁岩C(SHC)																	1								1
頁岩D(SHD)																	1								1
凝灰岩(TU)																	1	1							2
合計																	8	1							9

第194表　S25-Aブロック礫組成

母岩	石材	個数	重量
S25R-11	RH	1	39.70
S25R-12A	TU	2	178.54

石材	個数	重量
流紋岩(RH)	1	39.70
凝灰岩(TU)	2	178.54
合計	3	218.24

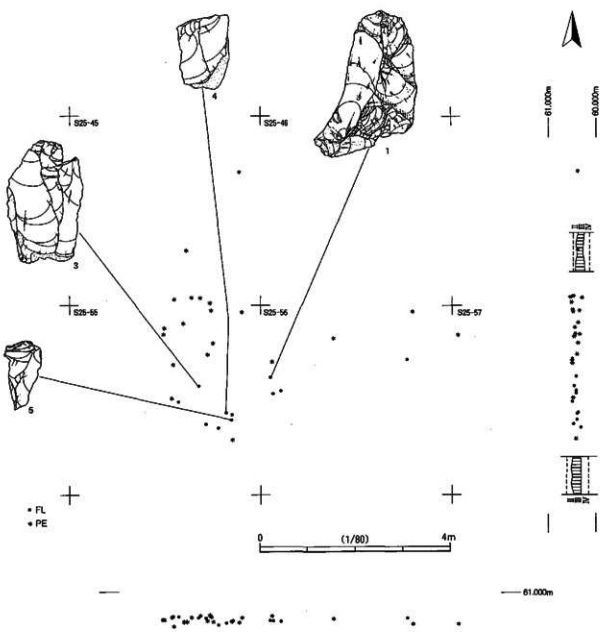
7　S25-Bブロック（第338～341・402図，第195～197表，カラー図版17・24）

1）ブロックの概要

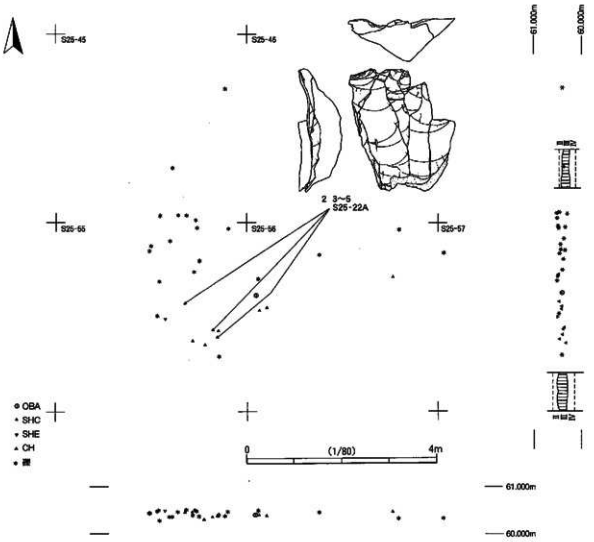
S25-Bブロックは，調査範囲東側のS25-45・55～57グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は45mである。

ブロックの規模と形状は，直径6mの範囲に32点の石器・礫が分布する。その内，原位置不明の遺物が1点ある。出土層位は，Ⅱ層からⅢ層にかけて，20cmほどの高低差をもって包含されている（第338～340図）。

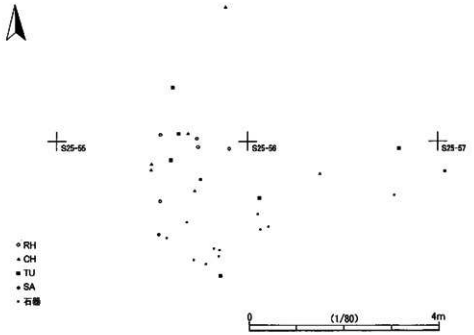
ブロックは，剥片12点と礫20点で構成される。石器石材は，黒曜石A1点，安山岩1点，頁岩C8点，頁岩E1点，チャート1点である。礫石材は，流紋岩5点（5母岩；135.6g），チャート6点（6母岩；



第338図　S25-Bブロック出土遺物分布（1）－器種別分布－



第339図　S25-Bブロック出土遺物分布(2)－石材別分布－



第340図　S25-Bブロック出土遺物分布(3)－礫石材別分布－

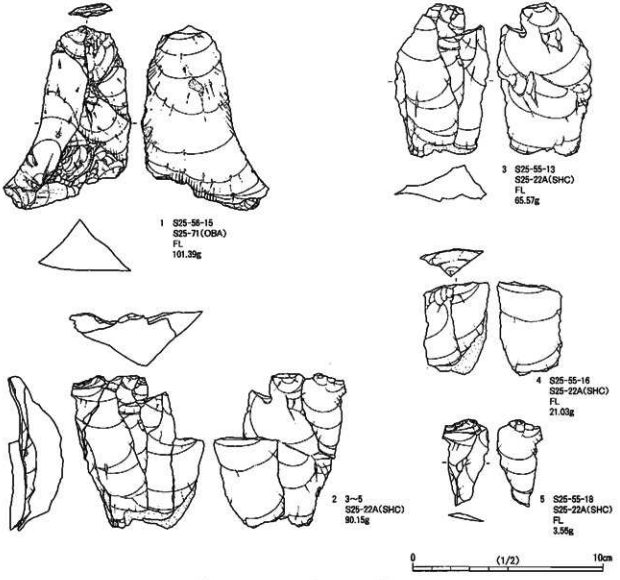
88.5g），凝灰岩6点（6母岩；122.8g），砂岩3点（3母岩；31.5g）で，識別率は100%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは7母岩を識別した。内訳は，黒曜石A1母岩（S25-71），安山岩1母岩（S25-21），頁岩C3母岩（S25-22・23・30），頁岩E1母岩（S25-24），チャート1母岩（S25-25）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（12/12点）である。

・S25-21：自然面は爪形の浅い裂痕が密で，自然面及び内部は灰黄褐色（10YR4/2）の安山岩である。剥片1点（8.1g）の単独資料である。

・S25-22：自然面は比較的平滑で光沢があり灰オリーブ色(7.5Y5/2)・灰オリーブ色(7.5Y4/2)・褐色(7.5YR4/4)，内部は灰オリーブ色(5Y6/2)・灰オリーブ色(7.5Y5/2)・褐色(7.5YR4/3)・灰色(7.5Y4/1)・黒褐色(10YR3/2)・淡黄色（2.5Y8/3）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片6点（134.6g）である。接合資料は，剥片3点（90.2g）である。



第341図　S25-Bブロック出土遺物

・S25-23：灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（0.4ｇ）の単独資料である。

・S25-24：暗灰黄色（2.5Y4/2）・黄灰色（2.5Y4/1）の頁岩である。剥片１点（2.7ｇ）の単独資料である。

・S25-25：黄灰色（2.5Y4/1）の地に灰白色（2.5Y7/1）が縞状に入るチャートである。剥片１点（2.5ｇ）の単独資料である。

・S25-30：内部は褐色（7.5YR4/4）・黒褐色（10YR3/2）・にぶい黄褐色（10YR5/4）の地に灰白色（2.5Y8/1）が部分的に混じり，新鮮な面は黄橙色（10YR8/6）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（9.0ｇ）の単独資料である。

・S25-71：黒色の黒曜石である。φ１mmほどの黄灰色の夾雑物を多く含み，φ５mm以上の黄灰色の夾雑物も部分的に含む。栃木県高原山産と考えられる。本ブロックでは剥片１点（101.4ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第341図１）

１は栃木県高原山産の黒曜石による大型の縦長剥片である。器体中央部の右側には加撃方向に直交する剥離痕が見られる。

４）接合資料とその関連資料（第341図２～５）

・S25-22（第341図２～５）　灰オリーブ色（5Y6/2）などの嶺岡産頁岩である。２は剥片３点（３～５）の接合資料である。上方向から石刃状の縦長剥片を剥離している。

第195表　S25-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
S25-21(AN)																	1								1
S25-22(SHC)																	6								6
S25-23(SHC)																	1								1
S25-24(SHE)																	1								1
S25-25(CH)																	1								1
S25-30(SHC)																	1								1
S25-71(OBA)																	1								1
合計																	12								12

第196表　S25-Bブロック石材別石器組成

石材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
黒曜石A(OBA)																	1								1
安山岩(AN)																	1								1
頁岩C(SHC)																	8								8
頁岩E(SHE)																	1								1
チャート(CH)																	1								1
合計																	12								12

第197表　S25-Bブロック礫組成

母岩	石材	個数	重量
S25R-13	RH	1	8.32
S25R-14	RH	1	14.30
S25R-15	RH	1	43.60
S25R-16	RH	1	9.05
S25R-17	RH	1	60.37
S25R-18	TU	1	24.66
S25R-19	TU	1	42.86
S25R-20	TU	1	2.56
S25R-21	TU	1	33.55
S25R-22	SA	1	6.14

母岩	石材	個数	重量
S25R-23	SA	1	10.97
S25R-24	CH	1	18.38
S25R-25	CH	1	4.87
S25R-26	CH	1	19.54
S25R-27	CH	1	10.26
S25R-28	TU	1	15.66
S25R-29	CH	1	9.83
S25R-30	CH	1	25.60
S25R-31	TU	1	3.52
S25R-40	SA	1	14.51

石材	個数	重量
流紋岩(RH)	5	135.64
チャート(CH)	6	88.48
凝灰岩(TU)	6	122.83
砂岩(SA)	3	31.52
合計	20	378.47

8　S25-Cブロック（第342～344・402図，第198～200表，カラー図版17）

1）ブロックの概要

S25-Cブロックは，調査範囲東側のS25-78・79グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は35mである。

ブロックの規模と形状は，長軸6m，短軸3mの範囲に14点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅱ層からⅣ層にかけて，40cmほどの高低差をもって包含されている（第342・343図）。

ブロックは，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片1点，剥片1点の合計3点と礫11点で構成される。石器石材は，安山岩1点，頁岩C1点，チャート1点である。礫石材は，流紋岩3点（3母岩；49.0g），チャート2点（2母岩；25.6g），砂岩6点（6母岩；99.9g）で，識別率は100％である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは3母岩を識別した。内訳は，安山岩1母岩（S25-26），頁岩C1母岩（S25-29），チャート1母岩（S25-31）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（3/3点）である。

・**S25-26**：自然面は紙ヤスリ状でにぶい黄色（2.5Y6/4），内部は暗灰黄色（2.5Y4/2）の安山岩である。使用痕ある剥片1点（0.9g）の単独資料である。

・**S25-29**：自然面は平滑で暗灰黄色（2.5Y4/2），内部は灰オリーブ色（5Y4/2）の地に灰色（5Y4/1）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。加工痕ある剥片1点（3.7g）の単独資料である。

・**S25-31**：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部はにぶい赤褐色（5YR4/4）・黄灰色（2.5Y6/1）のチャートである。剥片1点（0.7g）の単独資料である。

3）出土遺物（第344図）

1は嶺岡産頁岩による加工痕ある剥片で，不定型な剥片の右側縁に調整加工を行っている。また，左側縁の一部には微細な剥離痕が見られる。

2は安山岩による使用痕ある剥片である。横長剥片の打面側に細かい剥離痕が見られる。

第198表　S25-Cブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
S25-26(AN)											1														1
S25-29(SHC)										1															1
S25-31(CH)																	1								1
合計										1	1						1								3

第199表　S25-Cブロック石材別石器組成

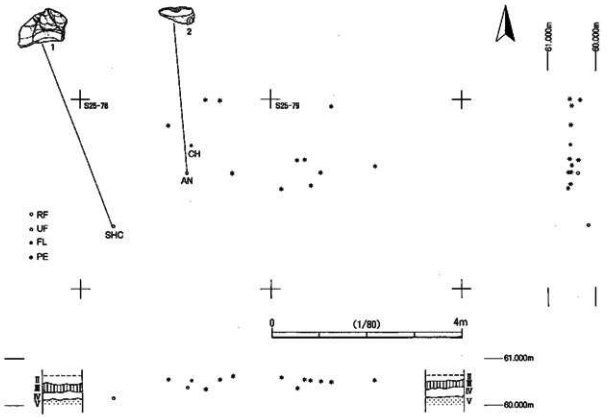
石材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
安山岩(AN)											1														1
頁岩C(SHC)										1															1
チャート(CH)																	1								1
合計										1	1						1								3

第200表　S25-Cブロック礫組成

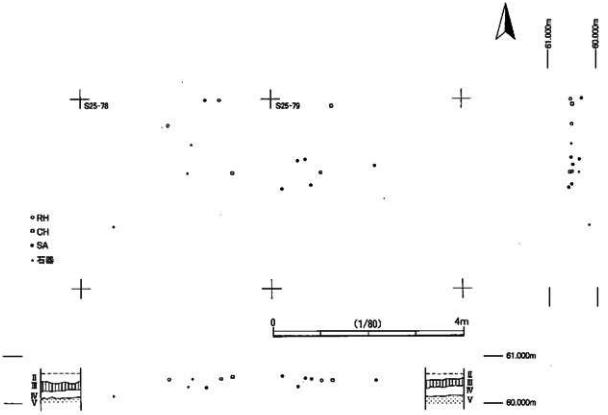
母岩	石材	個数	重量
S25R-32	RH	1	15.28
S25R-33	RH	1	22.06
S25R-34	RH	1	11.64
S25R-36	SA	1	6.56
S25R-37	SA	1	9.42

母岩	石材	個数	重量
S25R-38	SA	1	10.36
S25R-39	SA	1	28.76
S25R-41	SA	1	28.39
S25R-42	SA	1	16.43
S25R-46	CH	1	6.35
S25R-48	CH	1	19.20

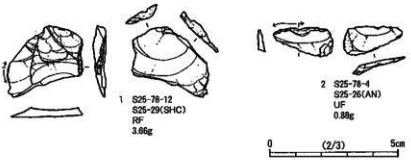
石材	個数	重量
流紋岩(RH)	3	48.98
チャート(CH)	2	25.55
砂岩(SA)	6	99.92
合計	11	174.45



第342図　S25-Cブロック出土遺物分布(1)－器種・石材別分布－



第343図　S25-Cブロック出土遺物分布(2)－礫石材別分布－



第344図　S25-Cブロック出土遺物

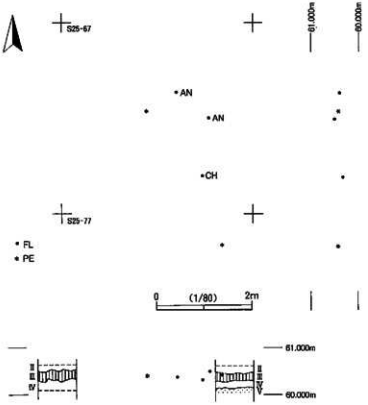
9　S25-Dブロック（第345・402図，第201～203表）

1）ブロックの概要

S25-Dブロックは，調査範囲東側のS25-67・77グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は40mである。

ブロックの規模と形状は，長軸3m，短軸1mの範囲に5点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅲ層を中心に，20cmほどの高低差をもって包含されている（第345図）。

ブロックは，剥片3点と礫2点で構成される。石器石材は，安山岩2点，チャート1点である。礫石材は，砂岩2点（2母岩；41.2g）で，識別率は100%である。



第345図　S25-Dブロック出土遺物分布
－器種・石材別分布－

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，安山岩２母岩（S25-56・57），チャート１母岩（S25-58）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（3/3点）である。

・S25-56：自然面は爪形の浅い裂痕が密で明黄褐色（10YR6/6），内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）の資料，暗灰黄色（2.5Y4/2）の資料など母岩内に変異がある安山岩である。本ブロックでは剥片１点（1.2ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がS25-Ｊブロックに１点ある。

・S25-57：内部は黄褐色（2.5Y5/3），新鮮な面は灰色（10Y6/1）の安山岩である。剥片１点（1.0ｇ）の単独資料である。

・S25-58：自然面は平滑で黒褐色（2.5Y3/2），内部は黄灰色（2.5Y4/1）のチャートである。剥片１点（1.1ｇ）の単独資料である。

3）出土遺物

図示していないが，３点の剥片は小型で不定型なものである。

第201表　S25-Dブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
S25-56(AN)																	1								1
S25-57(AN)																	1								1
S25-58(CH)																	1								1
合　計																	3								3

第202表　S25-Dブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
安山岩(AN)																	2								2
チャート(CH)																	1								1
合　計																	3								3

第203表　S25-Dブロック礫組成

母　岩	石　材	個数	重量
S25R-49	SA	1	14.08
S25R-50	SA	1	27.16

石　材	個数	重量
砂岩(SA)	2	41.24
合　計	2	41.24

10　S25-Jブロック（第346～348・402図，第204・205表，カラー図版17）

1）ブロックの概要

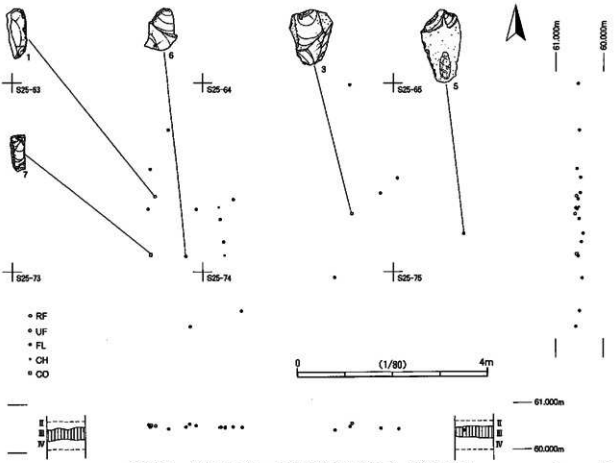
S25-Ｊブロックは，調査範囲東側のS25-63～65・73・74グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は40ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸７ｍ，短軸６ｍの範囲に29点の石器が分布する。その内，原位置不明の遺物が９点ある。出土層位は，Ⅱ層からⅢ層にかけて，20cmほどの高低差をもって包含されている（第346・347図）。

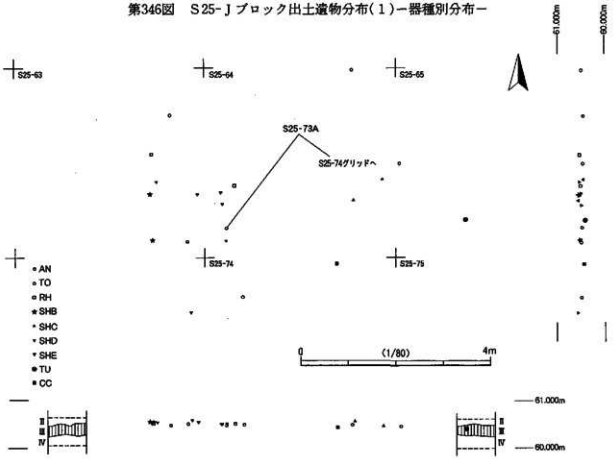
ブロックは，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片２点，剥片23点，砕片２点，石核１点の合計29点で構成される。石器石材は，安山岩６点，軟質の安山岩３点，流紋岩３点，頁岩Ｂ３点，頁岩Ｃ３点，頁岩Ｄ３点，頁岩Ｅ５点，凝灰岩１点，瑪瑙・玉髄２点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは25母岩を識別した。内訳は，安山岩４母岩（S25-35・36・56・73），軟質の安山岩２母岩



第346図　S25-Ｊブロック出土遺物分布（１）－器種別分布－



第347図　S25-Ｊブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

（S25-33・34），流紋岩３母岩（S25-37～39），頁岩Ｂ２母岩（S25-40・41），頁岩Ｃ３母岩（S25-42～44），頁岩Ｄ３母岩(25-45～47)，頁岩Ｅ５母岩(S25-48～52)，凝灰岩１母岩(S25-53)，瑪瑙・玉髄２母岩(S25-54・55）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（29/29点）である。

・S25-33：灰白色（5Y7/1）の軟質の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点（21.7ｇ）である。

・S25-34：自然面は比較的平滑で浅黄色（2.5Y7/3），内部は明黄褐色（2.5Y7/6），新鮮な面は灰白色（N7/0）の軟質の安山岩である。剥片１点（3.4ｇ）の単独資料である。

・S25-35：自然面は紙ヤスリ状でにぶい黄色(2.5Y6/3)，内部は灰黄色(2.5Y6/2)，新鮮な面は黄灰色(2.5Y4/1)の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点（5.4ｇ）である。

・S25-36：暗灰黄色（2.5Y5/2）の安山岩である。剥片１点（1.2ｇ）の単独資料である。

・S25-37：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は明オリーブ灰色(5GY7/1)，新鮮な面は暗青灰色(5B3/1)の流紋岩としたが，凝灰岩の可能性もある。剥片１点（18.3ｇ）の単独資料である。

・S25-38：黒色（10YR2/1）・黒褐色（10YR3/2）・灰白色（10YR8/2）が縞状に入る流紋岩である。剥片１点（1.6ｇ）の単独資料である。

・S25-39：自然面は平滑でにぶい赤褐色（5YR5/3），内部はにぶい赤褐色（5YR5/4），節理は赤褐色（5YR4/6）の流紋岩である。浅いクレーター状の剥離痕が見られることから，被熱による変色の可能性がある。剥片１点（2.2ｇ）の単独資料である。

・S25-40：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部はにぶい黄褐色（10YR5/4）・黄褐色（2.5Y5/4）・にぶい黄色（2.5Y6/4）・灰黄色（2.5Y6/2）の北関東産頁岩である。石核１点（5.0ｇ）の単独資料である。

・S25-41：自然面は平滑で褐色（7.5YR4/4），内部はにぶい黄褐色（10YR5/4）・浅黄色（2.5Y7/3）・黄褐色（2.5Y5/3）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（21.3ｇ）である。

・S25-42：自然面は平滑で黄褐色（10YR5/6），内部は明黄褐色（10YR6/6）の嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片１点（10.3ｇ）の単独資料である。

・S25-43：内部は灰オリーブ色（5Y5/3）・黄褐色（2.5Y5/3），節理は褐色（10YR4/6）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（13.9ｇ）の単独資料である。

・S25-44：内部は黄褐色（2.5Y5/4），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（7.6ｇ）の単独資料である。

・S25-45：自然面は平滑でにぶい黄色(2.5Y6/4)・灰白色(2.5Y7/1)，内部は黄褐色(2.5Y5/4)・灰黄色(2.5Y6/2)の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（4.5ｇ）の単独資料である。

・S25-46：灰黄色（2.5Y7/2）・明黄褐色（2.5Y6/6）の硬質緻密な頁岩である。砕片１点（0.4ｇ）の単独資料である。

・S25-47：浅黄色（2.5Y7/3）の硬質緻密な頁岩である。加工痕ある剥片１点（2.7ｇ）の単独資料である。

・S25-48：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰褐色（7.5YR4/2）の頁岩である。剥片１点（1.4ｇ）の単独資料である。

・S25-49：灰黄褐色（10YR4/2）の頁岩である。剥片１点（2.0ｇ）の単独資料である。

・S25-50：黒褐色（7.5YR3/2）・黒色（7.5YR2/1）の頁岩である。砕片１点（0.5ｇ）の単独資料である。

・S25-51：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は黒褐色（10YR3/2）の頁岩である。剥片１点（1.4ｇ）

の単独資料である。

・S25-52：自然面は平滑で，にぶい黄褐色（10YR5/4）の地に暗赤褐色（2.5YR3/4）が部分的に混じり，内部は灰黄褐色（10YR4/2）・黒褐色（10YR3/1）・にぶい黄褐色（10YR5/4）が縞状に入り，暗赤褐色（2.5YR3/4）が部分的に混じる頁岩である。剥片１点（2.9ｇ）の単独資料である。

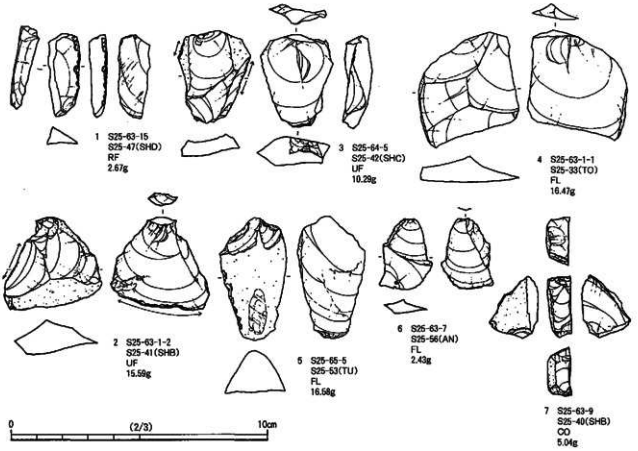
・S25-53：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部はにぶい黄橙色（10YR6/4）の地に褐色（7.5YR4/3）が部分的に混じり，節理は褐色（7.5YR4/3）の凝灰岩である。剥片１点（16.6ｇ）の単独資料である。

・S25-54：自然面は爪形の浅い裂痕が密で，自然面及び内部は明褐色（7.5YR5/6），節理は灰白色（10YR8/1）で半透明な瑪瑙・玉髄である。剥片１点（25.5ｇ）の単独資料である。

・S25-55：自然面は爪形の浅い裂痕が密で褐色（7.5YR4/6）・橙色（7.5YR6/6），内部は褐色（7.5YR4/6）・明黄褐色（10YR6/6）で半透明な瑪瑙・玉髄である。剥片１点（9.3ｇ）の単独資料である。

・S25-56：暗灰黄色（2.5Y5/2）などの安山岩である。母岩の特徴はS25-Dブロックに記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（2.4ｇ）の単独資料であるが，その他に同一母岩がS25-Dブロックに１点ある。

・S25-73：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰黄褐色（10YR4/2），節理は明黄褐色（10YR6/6）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点（１個体；33.5ｇ）である。



第348図　S25-Ｊブロック出土遺物

3）出土遺物（第348図）

1は硬質緻密な頁岩による加工痕ある剥片で，縦長剥片の右側縁に調整加工を行っている。

2は北関東産頁岩，3は嶺岡産頁岩による使用痕ある剥片である。それぞれ不定型な剥片の2は正面左側縁と裏面末端，3は両側縁の一部に微細な剥離痕が見られる。

4は軟質の安山岩，5は凝灰岩，6は安山岩による縦長剥片である。7は北関東産頁岩による石核で，小型で不定型な剥片の折断面を打面として，極めて小型の剥片を剥離している。

第204表　S25－Ｊブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PO	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
S25-33(TO)																	2								2
S25-34(TO)																	1								1
S25-35(AN)																	2								2
S25-36(AN)																	1								1
S25-37(RH)																	1								1
S25-38(RH)																	1								1
S25-39(RH)																	1								1
S25-40(SHB)																			1						1
S25-41(SHB)											1						1								2
S25-42(SHC)											1														1
S25-43(SHC)																	1								1
S25-44(SHC)																	1								1
S25-45(SHD)																	1								1
S25-46(SHD)																		1							1
S25-47(SHD)										1															1
S25-48(SHE)																	1								1
S25-49(SHE)																	1								1
S25-50(SHE)																		1							1
S25-51(SHE)																	1								1
S25-52(SHE)																	1								1
S25-53(TU)																	1								1
S25-54(CC)																	1								1
S25-55(CC)																	1								1
S25-56(AN)																	1								1
S25-73(AN)																	2(1)								2(1)
合　計										1	2						23(22)	2	1						29(28)

第205表　S25－Ｊブロック石材別石器組成

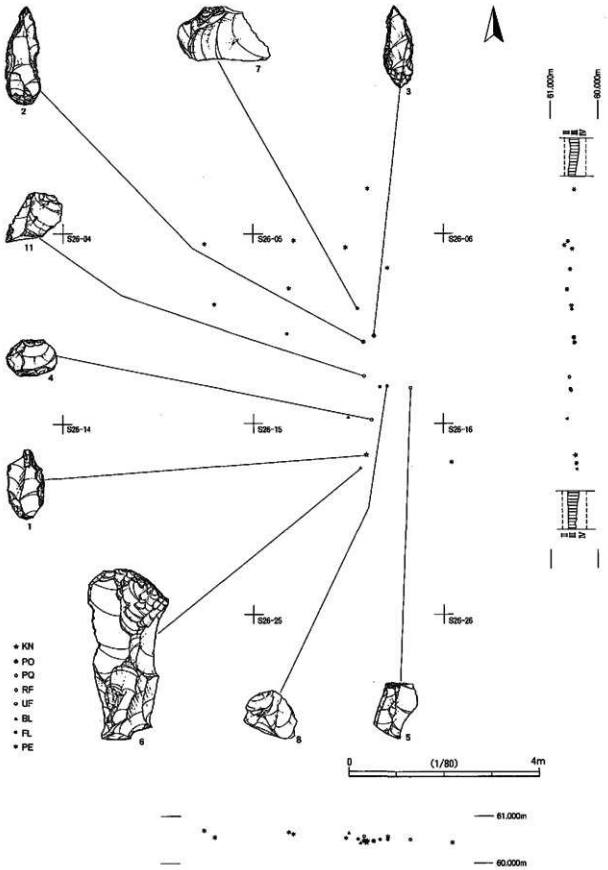
石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PO	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
安山岩(AN)																	6(5)								6(5)
安山岩(TO)																	3								3
流紋岩(RH)																	3								3
頁岩B(SHB)											1						1		1						3
頁岩C(SHC)											1						2								3
頁岩D(SHD)										1							1	1							3
頁岩E(SHE)																	4	1							5
凝灰岩(TU)																	1								1
珪質・玉髄(CC)																	2								2
合　計										1	2						23(22)	2	1						29(28)

11　S26-Aブロック（第349～352・403図，第206～208表，カラー図版17・24）

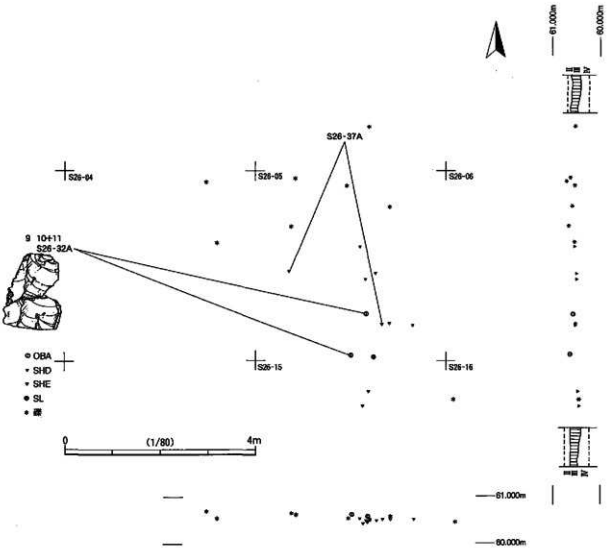
1）ブロックの概要

S26-Aブロックは，調査範囲東側のS25-95，S26-04・05・15・16グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は30mである。

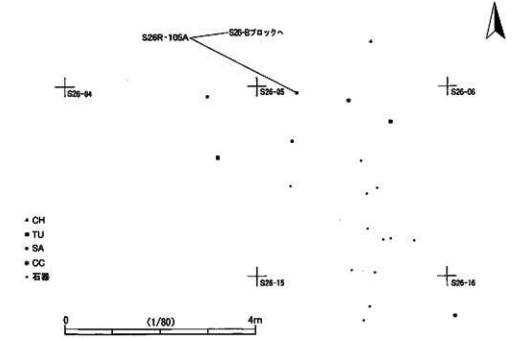
ブロックの規模と形状は，長軸7m，短軸4mの範囲に21点の石器・礫が分布する。その内，原位置不



第349図　Ｓ26-Ａブロック出土遺物分布(１)－器種別分布－



第350図　S26-Aブロック出土遺物分布(2)－石材別分布－



第351図　S26-Aブロック出土遺物分布(3)－礫石材別分布－

明の遺物が1点あり，その他に垂直分布のない遺物が2点ある。出土層位は，Ⅱ層からⅢ層にかけて，20cmほどの高低差をもって包含されている（第349～351図）。

ブロックは，ナイフ形石器2点，槍先形石器2点，楔形石器1点，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片1点，石刃2点，剥片4点（3個体）の合計13点（12個体）と礫8点で構成される。石器石材は，黒曜石A2点，頁岩D7点，頁岩E3点（2個体），粘板岩1点である。礫石材は，チャート1点（1母岩；18.5g），凝灰岩2点（2母岩；119.7g），砂岩3点（3母岩；257.5g），瑪瑙・玉髄2点（2母岩；77.2g）で，識別率は100％である。なお，S26R-105についてはS26-Bブロックと接合関係がある。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは7母岩を識別した。内訳は，黒曜石A1母岩（S26-32），頁岩D4母岩（S26-33～36），頁岩E1母岩（S26-37），粘板岩1母岩（S26-38）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（13/13点）である。

・S26-32：黒色の黒曜石である。φ1mmほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，石刃1点の合計2点（13.0g）である。接合資料は，加工痕ある剥片1点，石刃1点の合計2点（13.0g）である。

・S26-33：自然面は平滑で黄褐色（10YR5/6），内部はにぶい黄褐色（10YR5/3），節理は明黄褐色（10YR6/6）・褐色（10YR4/6）の硬質緻密な頁岩である。石刃1点（60.6g）の単独資料である。

・S26-34：灰黄褐色（10YR5/2）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，槍先形石器1点の合計2点（17.4g）である。

・S26-35：灰黄褐色（10YR5/2）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，槍先形石器1点の合計2点（9.5g）である。

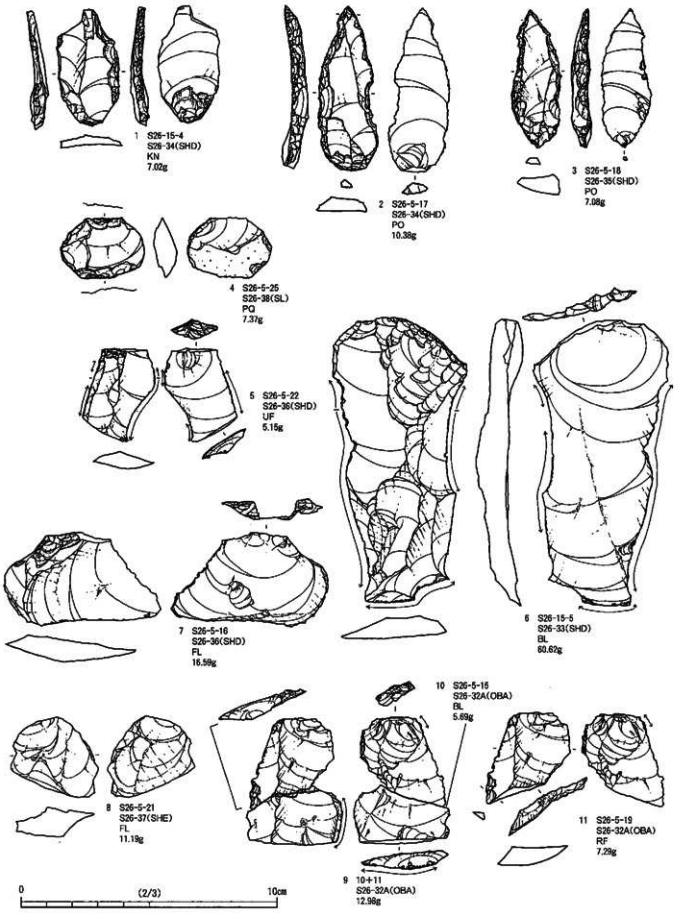
・S26-36：内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）・灰黄色（2.5Y7/2），節理は灰白色（2.5Y8/2）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，剥片1点の合計2点（21.7g）である。

・S26-37：暗灰黄色（2.5Y5/2）・灰オリーブ色（5Y5/3）・灰白色（5Y8/2）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片3点（2個体；22.9g）である。接合資料は，剥片2点（1個体；11.7g）である。

・S26-38：自然面は比較的平滑で，自然面・内部・新鮮な面は暗灰色（N3/0）の粘板岩である。楔形石器1点（7.4g）の単独資料である。

3）出土遺物（第352図1～8）

1は硬質緻密な頁岩による二側縁加工のナイフ形石器で，石刃あるいは石刃状の縦長剥片の打面側を基部として，正面右側縁と左側縁下部，裏面右側縁下部に調整加工を行っている。削器の可能性もある。類似した資料（第360図2）は近接したブロック外からも出土している。2・3は硬質緻密な頁岩による槍先形石器としたが，ナイフ形石器の範疇で捉えた方が良いと考え，本文化層に帰属するものとした石器である。両者とも，石刃あるいは石刃状の縦長剥片の打面側を基部として，ほぼ全周に調整加工を行っている。特に先端部の加工は顕著で特徴があり，錐状を呈している。一応，この先端部への両側縁からの加工から槍先形石器（尖頭器）としたが，2の右側縁の調整加工は，左側縁に比べ細かいことから，使用等によって生じた剥離痕の可能性がある。また，3の左側縁の中間部の調整加工ついても，右側縁に比べ細かいことから，槍先形石器のための調整加工としての連続性が感じられらない。なお，3については，第5b文化層のS25-Gブロックにも類似した周辺加工の槍先形石器（第378図2）が出土しているが，ほぼ同じような



第352図　S26-Aブロック出土遺物

調整加工が連続して行われており，若干異なる。ただし，第5b文化層の他の槍先形石器は，面的な加工によるもので，S25-Gブロックの資料とは異なり，その点では，第5a文化層のS26-Aブロックと第5b文化層のS25-Gブロックには，石材等も含め親和性が感じられる。

4は粘板岩による楔形石器で，上下両端と両側縁に対向する剥離痕が見られる。

5は硬質緻密な頁岩による使用痕ある剥片で，石刃状の縦長剥片の両面両側縁に微細な剥離痕が見られる。

6は硬質緻密な頁岩による石刃で，両面両側縁・末端に微細な剥離痕が見られる。

7は硬質緻密な頁岩，8は頁岩による横長や不定型な剥片である。

4）接合資料とその関連資料（第352図9～11）

・**S26-32（第352図9～11）**　黒色の黒曜石である。栃木県高原山産と考えられる。9は，加工痕ある剥片1点（11），石刃1点（10）の接合資料である。正面右側縁下部などに微細な剥離痕が見られる石刃（10）が欠損後，11は左側縁下部に調整加工を行っている。なお，11の裏面右側縁上部の微細な剥離痕は，折断面等との新旧関係がないことから，生じた時期は不明である。

第206表　S26-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
S26-32(OBA)										1		1													2
S26-33(SHD)												1													1
S26-34(SHD)	1		1																						2
S26-35(SHD)	1		1																						2
S26-36(SHD)											1						1								2
S26-37(SHE)																	3(2)								3(2)
S26-38(SL)									1																1
合計	2		2						1	1	1	2					4(3)								13(12)

第207表　S26-Aブロック石材別石器組成

石材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
黒曜石A(OBA)										1		1													2
頁岩D(SHD)	2		2								1	1					1								7
頁岩E(SHE)																	3(2)								3(2)
粘板岩(SL)									1																1
合計	2		2						1	1	1	2					4(3)								13(12)

第208表　S26-Aブロック礫組成

母岩	石材	個数	重量
S26R-102	TU	1	72.65
S26R-103	TU	1	47.02
S26R-104	SA	1	226.16
S26R-105	SA	1	26.80
S26R-106	SA	1	4.50

母岩	石材	個数	重量
S26R-107	CH	1	18.48
S26R-108	CC	1	3.26
S26R-109	CC	1	73.92

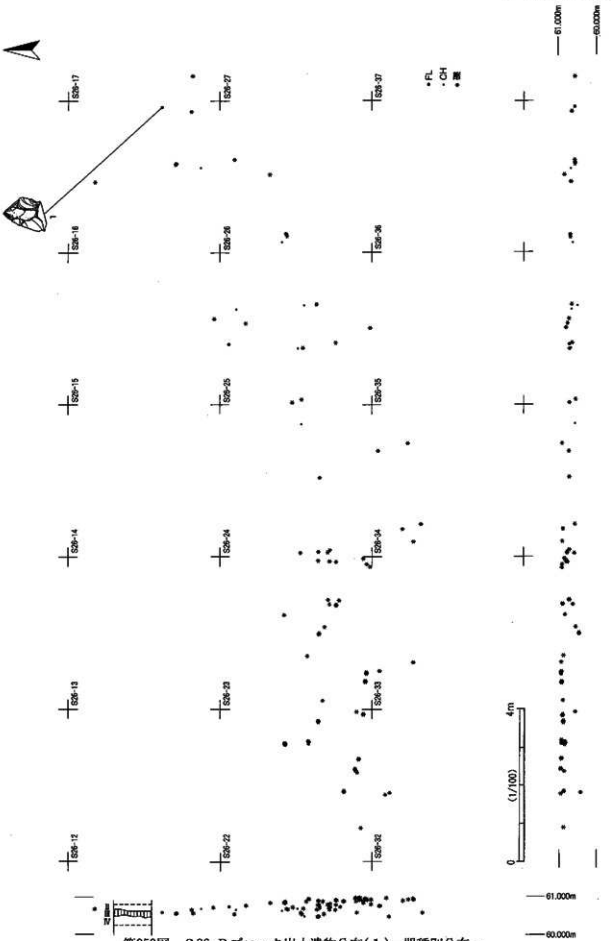
石材	個数	重量
チャート(CH)	1	18.48
凝灰岩(TU)	2	119.67
砂岩(SA)	3	257.46
瑪瑙・玉髄(CC)	2	77.18
合計	8	472.79

12　S26-Bブロック（第353～356・403図，第209～211表，カラー図版17）

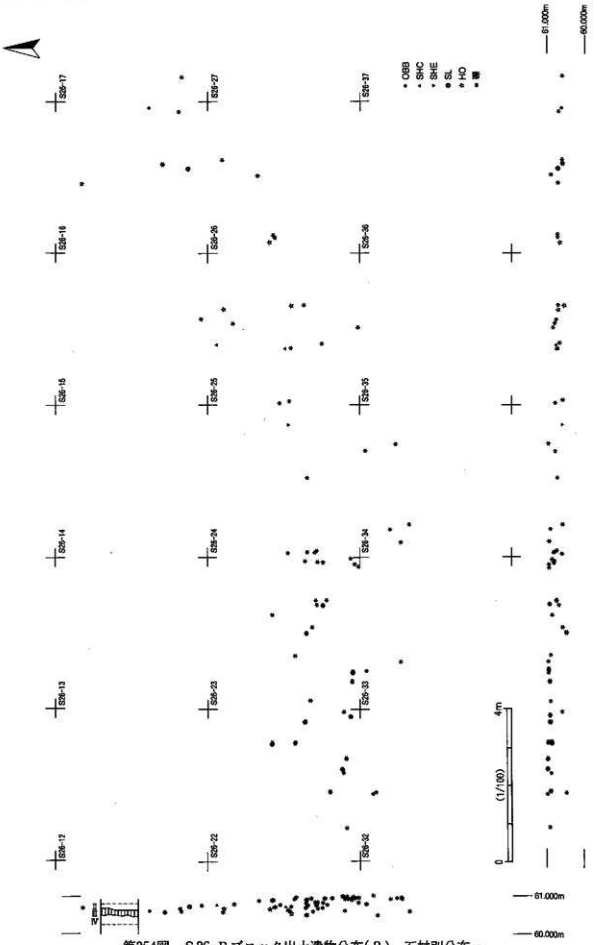
1）ブロックの概要

S26-Bブロックは，調査範囲東側のS26-15～17・22～26・32～34グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は20mである。

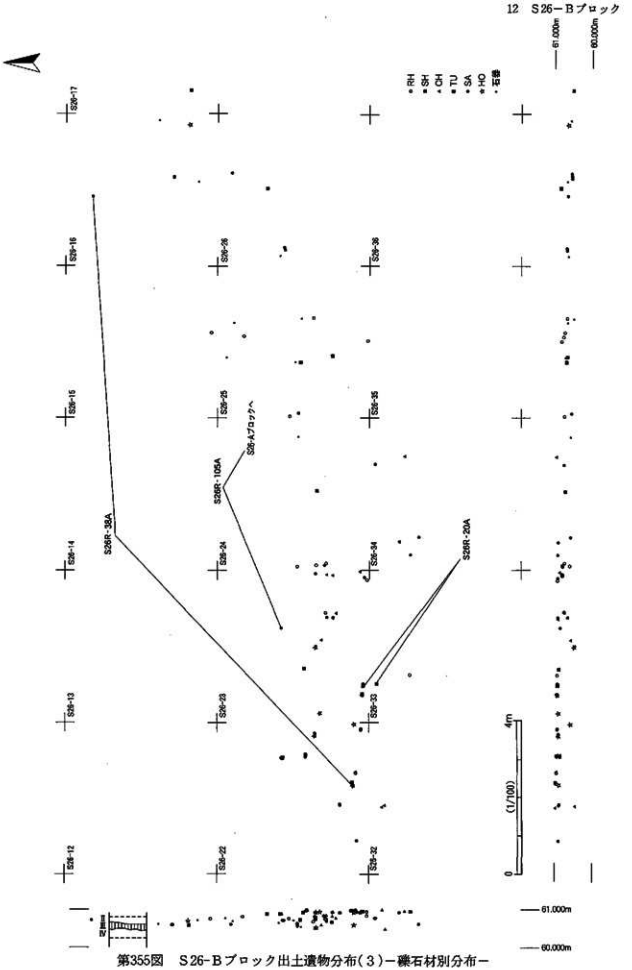
ブロックの規模と形状は，長軸21m，短軸6mの範囲に85点の石器・礫が分布する。その内，垂直分布のない遺物が2点ある。出土層位は，Ⅱ層からⅣ層にかけて，50cmほどの高低差をもって包含されている（第353～355図）。



第353図　S26-Bブロック出土遺物分布（１）－器種別分布－



第354図　Ｓ26-Ｂブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－



第355図　S26-Bブロック出土遺物分布(3)－礫石材別分布－

ブロックは，剥片3点，砕片6点の合計9点と礫76点で構成される。石器石材は，黒曜石B1点，頁岩C2点，頁岩E2点，粘板岩1点，ホルンフェルス3点である。礫石材は，流紋岩13点（13母岩；1,241.6g），頁岩2点（2母岩；274.6g），チャート13点（13母岩；279.5g），凝灰岩13点（12母岩；663.8g），砂岩24点（23母岩；936.5g），ホルンフェルス6点（6母岩；230.8g），識別できなかった流紋岩2点（2.7g），砂岩3点（4.2g）で，識別率は93%である。なお，S26R-105についてはS25-Aブロックと接合関係がある。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは9母岩を識別した。内訳は，黒曜石B1母岩（S26-15），頁岩C2母岩（S26-16・46），頁岩E2母岩（S26-17・18），粘板岩1母岩（S26-19），ホルンフェルス3母岩（S26-20～22）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（9/9点）である。

・S26-15：透明な地に淡黒灰色の縞状のモヤがある黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点（4.3g）の単独資料である。

・S26-16：自然面は平滑で黒褐色（10YR3/1），内部はにぶい黄褐色（10YR5/3）・灰黄褐色（10YR4/2）・褐灰色（10YR4/1）の嶺岡産頁岩である。砕片1点（0.7g）の単独資料である。

・S26-17：内部はにぶい黄褐色（10YR5/3）・暗灰黄色（2.5Y5/2），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）・淡黄橙色（10YR8/3）の頁岩である。剥片1点（5.1g）の単独資料である。

・S26-18：黄褐色（2.5Y5/4）の頁岩である。砕片1点（0.7g）の単独資料である。

・S26-19：内部は灰色（7.5Y4/1），新鮮な面は灰色（7.5Y4/1）の粘板岩である。砕片1点（0.4g）の単独資料である。

・S26-20：灰色（7.5Y4/1）のホルンフェルスである。砕片1点（1.7g）の単独資料である。

・S26-21：灰色（7.5Y5/1）のホルンフェルスである。砕片1点（0.4g）の単独資料である。

第209表　S26-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
S26-15(OBB)																	1								1
S26-16(SHC)																		1							1
S26-17(SHE)																	1								1
S26-18(SHE)																		1							1
S26-19(SL)																		1							1
S26-20(HO)																		1							1
S26-21(HO)																		1							1
S26-22(HO)																		1							1
S26-46(SHC)																	1								1
合計																	3	6							9

第210表　S26-Bブロック石材別石器組成

石材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
黒曜石B(OBB)																	1								1
頁岩C(SHC)																	1	1							2
頁岩E(SHE)																	1	1							2
粘板岩(SL)																		1							1
ホルンフェルス(HO)																		3							3
合計																	3	6							9

・S26-22：オリーブ黒色（7.5Y3/1）のホルンフェルスである。砕片１点（0.3ｇ）の単独資料である。

・S26-46：自然面は凹凸があり褐色（10YR4/6），内部は褐色(10YR4/6)・灰オリーブ色(5Y5/2)・灰白色(5Y7/2)，節理は黄褐色（10YR5/6）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（8.4ｇ）の単独資料である。

3）出土遺物（第356図）

１は信州和田峠周辺産の黒曜石による不定型な剥片である。

第356図　S26-Bブロック
出土遺物

第211表　S26-Bブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
S26R-7	RH	1	388.43
S26R-8	RH	1	115.04
S26R-9	RH	1	61.42
S26R-10	RH	1	129.37
S26R-11	RH	1	118.06
S26R-12	RH	1	9.57
S26R-13	RH	1	174.88
S26R-14	RH	1	56.54
S26R-15	RH	1	67.82
S26R-16	RH	1	103.76
S26R-17	RH	1	4.40
S26R-18	RH	1	5.62
S26R-19	RH	1	6.73
S26R-20	TU	2	112.04
S26R-21	TU	1	121.06
S26R-22	TU	1	69.07
S26R-23	TU	1	91.62
S26R-24	TU	1	48.01
S26R-25	TU	1	22.09
S26R-26	TU	1	46.45
S26R-27	TU	1	32.96
S26R-28	TU	1	26.33
S26R-29	TU	1	43.54
S26R-30	TU	1	24.65
S26R-31	TU	1	25.95
S26R-32	SA	1	86.74
S26R-33	SA	1	114.55
S26R-34	SA	1	93.95
S26R-35	SA	1	39.68
S26R-36	SA	1	26.66
S26R-37	SA	1	108.32
S26R-38	SA	2	122.71
S26R-39	SA	1	66.03
S26R-40	SA	1	33.41
S26R-41	SA	1	36.39
S26R-42	SA	1	34.90
S26R-43	SA	1	43.12
S26R-44	SA	1	17.73
S26R-45	SA	1	18.83
S26R-46	SA	1	10.57
S26R-47	SA	1	11.27
S26R-48	SA	1	9.66
S26R-49	SA	1	3.73
S26R-50	SA	1	4.40
S26R-51	SA	1	5.69
S26R-52	SA	1	6.33
S26R-53	SA	1	0.66
S26R-54	SH	1	117.30
S26R-55	SH	1	157.29
S26R-56	HO	1	124.15
S26R-57	HO	1	66.35
S26R-58	HO	1	26.24
S26R-59	HO	1	10.08
S26R-60	HO	1	1.94
S26R-61	HO	1	2.02
S26R-62	CH	1	67.43
S26R-63	CH	1	65.64
S26R-64	CH	1	33.72
S26R-65	CH	1	44.57
S26R-66	CH	1	20.64
S26R-67	CH	1	5.09
S26R-68	CH	1	2.51
S26R-69	CH	1	8.21
S26R-70	CH	1	5.22
S26R-71	CH	1	7.30
S26R-72	CH	1	5.30
S26R-73	CH	1	5.09
S26R-74	CH	1	6.75
S26R-105	SA	1	39.20
その他	RH	2	2.67
その他	SA	3	4.20

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	15	1,244.31
頁岩(SH)	2	274.59
チャート(CH)	13	279.47
凝灰岩(TU)	13	663.77
砂岩(SA)	27	940.73
ホルンフェルス(HO)	6	230.78
合　計	76	3,633.65

13　S26-Dブロック（第357～359・403図，第212～214表，カラー図版17，図版13）

1）ブロックの概要

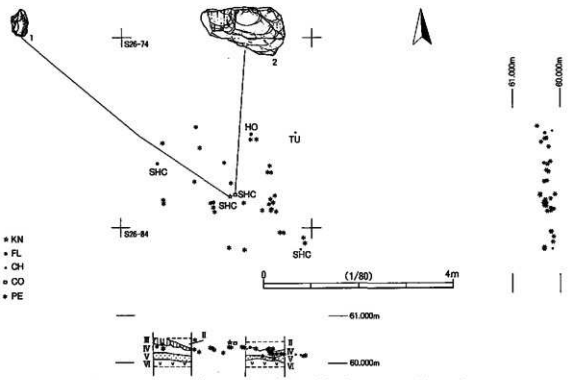
S26-Dブロックは，調査範囲東側のS26-74・84グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は10mである。

ブロックの規模と形状は，長軸４m，短軸２mの範囲に38点の石器・礫が分布する。出土層位は，Ⅱ層からⅣ層にかけて，40cmほどの高低差をもって包含されている（第357・358図）。

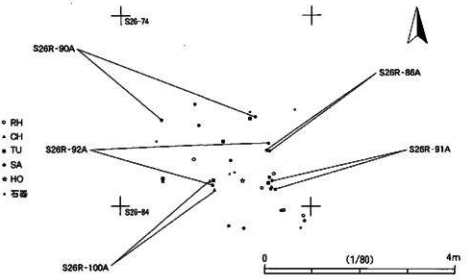
ブロックは，ナイフ形石器1点，剥片2点，砕片2点，石核1点の合計6点と礫32点で構成される。石器石材は，頁岩C4点，凝灰岩1点，ホルンフェルス1点である。礫石材は，流紋岩5点（5母岩；360.6g），チャート4点（3母岩；354.6g），凝灰岩5点（5母岩；415.0g），砂岩17点（13母岩；1,215.8g），ホルンフェルス1点（1母岩；12.7g）で，識別率は100％である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは5母岩を識別した。内訳は，頁岩C3母岩（S26-24～26），凝灰岩1母岩（S26-23），ホル



第357図　S26-Dブロック出土遺物分布（1）－器種・石材別分布－



第358図　S26-Dブロック出土遺物分布（2）－礫石材別分布－

ンフェルス１母岩（S26-27）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（6/6点）である。

・S26-23：オリーブ黄色（5Y6/3）・黄褐色（2.5Y5/4）の凝灰岩である。砕片１点（0.4ｇ）の単独資料である。

・S26-24：灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y6/1）・黄褐色（2.5Y5/3）の資料，灰オリーブ色（5Y6/2）・黄灰色（2.5Y5/1）の資料など母岩内に変異がある嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点，石核１の合計２点（79.7ｇ）である。

・S26-25：灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。ナイフ形石器１点（0.7ｇ）の単独資料である。

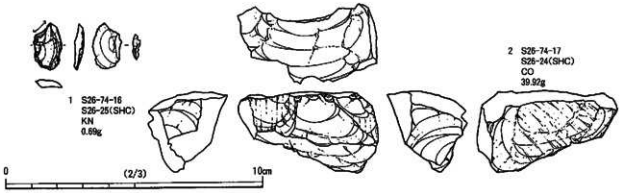
・S26-26：灰オリーブ色（5Y6/2）の地に暗灰黄色（2.5Y5/2）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。砕片１点（0.4ｇ）の単独資料である。

・S26-27：自然面は比較的平滑で灰オリーブ色（5Y5/2），内部は灰色（5Y5/1）・灰白色（5Y7/2），新鮮な面は灰色（10Y4/1）のホルンフェルスである。剥片１点（46.6ｇ）の単独資料である。

3）出土遺物（第359図）

１は嶺岡産頁岩による二側縁加工のナイフ形石器で，小型で不定型な剥片を横位に用い，右側縁と左側縁下半部に極めて細かい調整加工を行っている。また，刃部の左側縁上部に微細な剥離痕が見られる。

２は嶺岡産頁岩による石核である。厚めの横長剥片の剥離面を打面として，横長剥片を剥離している。



第359図　S26-Dブロック出土遺物

第212表　S26-Dブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
S26-23(TU)																		1							1
S26-24(SHC)																	1		1						2
S26-25(SHC)	1																								1
S26-26(SHC)																		1							1
S26-27(HO)																	1								1
合計	1																2	2	1						6

第213表　S26-Dブロック石材別石器組成

石材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
頁岩(C(SHC)	1																1	1	1						4
凝灰岩(TU)																		1							1
ホルンフェルス(HO)																	1								1
合計	1																2	2	1						6

第214表　S26-Dブロック礫組成

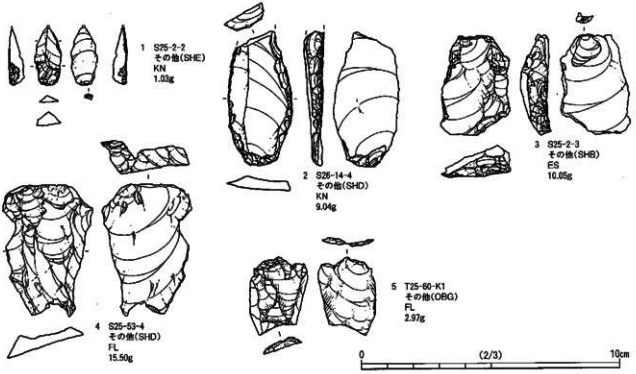
母　岩	石 材	個数	重量
S26R-75	CH	1	13.34
S26R-76	RH	1	249.83
S26R-77	RH	1	32.52
S26R-78	RH	1	13.47
S26R-79	RH	1	17.22
S26R-80	RH	1	47.57
S26R-81	TU	1	253.34
S26R-82	TU	1	80.75
S26R-83	TU	1	50.29
S26R-84	TU	1	22.44
S26R-85	TU	1	8.18
S26R-86	SA	2	50.38
S26R-87	SA	1	370.30
S26R-88	SA	1	130.84
S26R-89	SA	1	74.78
S26R-90	SA	2	208.98
S26R-91	SA	2	47.77
S26R-92	SA	2	109.59
S26R-93	SA	1	88.63
S26R-94	SA	1	29.28
S26R-95	SA	1	52.23
S26R-96	SA	1	16.55
S26R-97	SA	1	35.26
S26R-98	SA	1	21.24
S26R-99	HO	1	12.65
S26R-100	CH	2	96.72
S26R-101	CH	1	244.49

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	5	360.61
チャート(CH)	4	354.55
凝灰岩(TU)	5	415.00
砂岩(SA)	17	1,215.83
ホルンフェルス(HO)	1	12.65
合　計	32	2,358.64

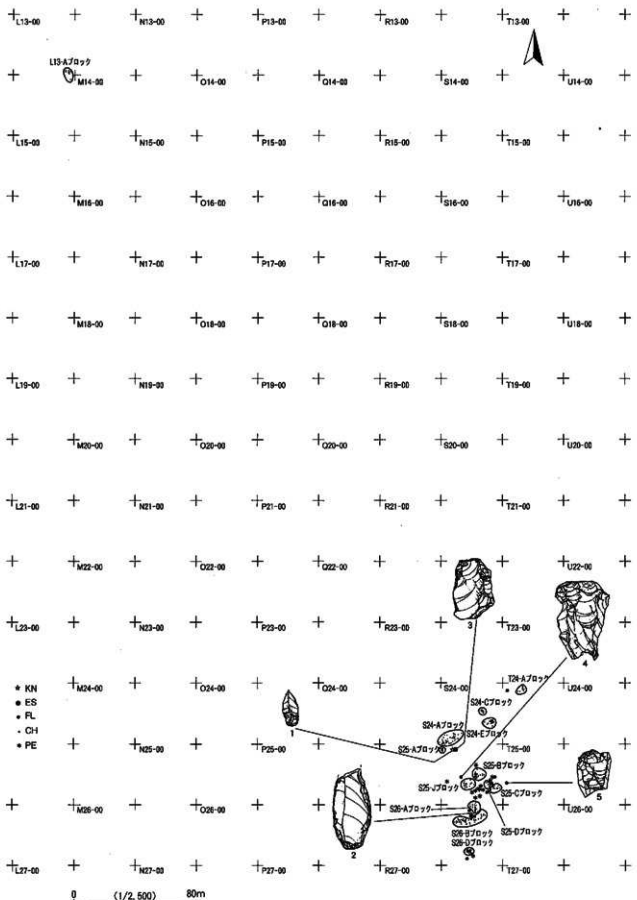
14　ブロック外（第360・361図，カラー図版17）

ここでは第５a文化層のブロックを形成していないグリッド単独（原則として２点以下）の出土遺物について記述する。ナイフ形石器２点，掻器１点，剥片８点，砕片１点，礫18点の合計30点が出土した。

１はにぶい黄色（2.5Y6/3）の頁岩による基部加工のナイフ形石器で，石刃状の縦長剥片の打面側を基部



第360図　第５a文化層ブロック外出土遺物



第361図　第５a文化層ブロック外出土遺物分布

として，両側縁の基部に調整加工を行っている。また，刃部の右側縁上部に微細な剥離痕が見られる。2は灰黄褐色（10YR6/2）の硬質緻密な頁岩による二側縁加工のナイフ形石器で，石刃あるいは石刃状の縦長剥片の打面側を基部として，正面右側縁と左側縁下部，裏面基部に調整加工を行っている。削器の可能性もある。類似した資料（第352図1）は近接したS26-Aブロックからも出土している。なお，左側縁の剥離痕は，右側縁に比べ細かいことから，使用等によって生じた剥離痕と考えた。

3は自然面が平滑で明黄褐色（10YR6/6），内部は灰黄褐色（10YR6/2）の地に，にぶい黄橙色（10YR7/3）が部分的に混じる北関東産頁岩による掻器で，石刃状の縦長剥片の末端から右側縁下半部に急角度の調整加工を行っている。また，左側縁には使用等によって生じた考えられる細かい剥離痕が見られる。

4は暗灰色（N3/0）の地に淡黄色（2.5Y8/3）が部分的に混じる硬質緻密な頁岩，5は黒色不透明で，φ1㎜ほどの灰色の夾雑物を含む産地不明の黒曜石による縦長あるいは不定型な剥片である。

第5b文化層

15　U14-Aブロック（第362～366・403図，第215～217表，カラー図版17，図版13・14）

1）ブロックの概要

U14-Aブロックは，調査範囲東側のU14-46～48・57・58・67～69・77～79グリッドに位置する。ブロックの立地は，北側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は45mである。

ブロックの規模と形状は，長軸15m，短軸7mの範囲に1,004点の石器・礫が分布する。その内，原位置不明の遺物が3点あり，その他に垂直分布のない遺物が3点ある。出土層位は，Ⅱc層からⅣ層にかけて，70cmほどの高低差を持って包含されているが，中心はⅢ層で，40cmほどである（第362～364図）。

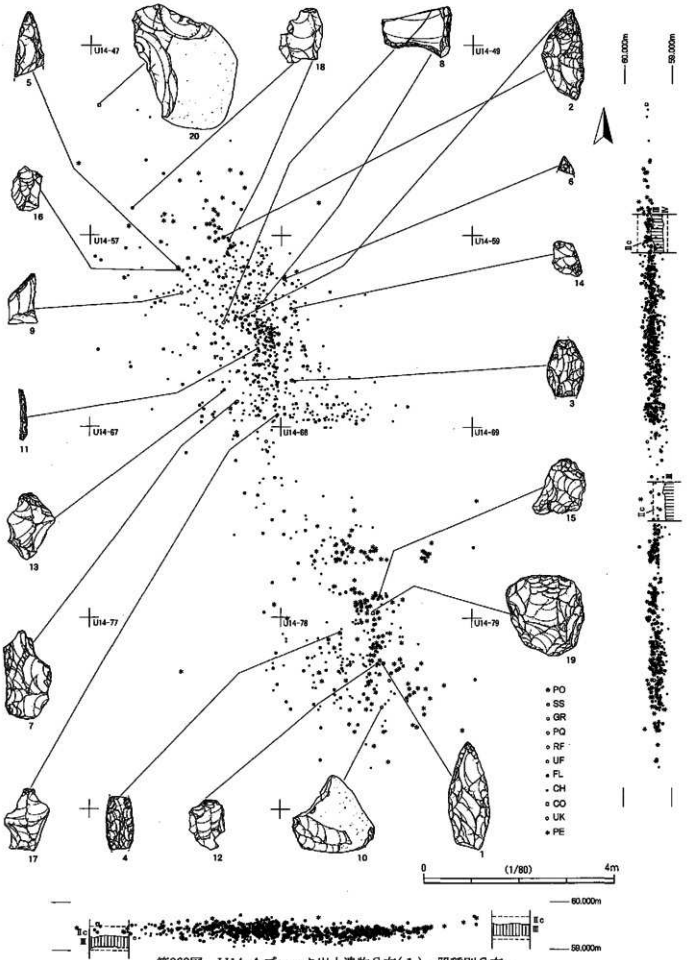
ブロックは，槍先形石器8点（7個体），削器3点（2個体），彫器1点，楔形石器1点，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片3点（2個体），剥片175点（172個体），砕片631点，石核2点，不明3点の合計828点（822個体）と礫176点で構成される。石器石材は，黒曜石G1点，安山岩27点，軟質の安山岩1点，流紋岩2点，頁岩A126点（125個体），頁岩C1点，頁岩D425点（423個体），頁岩E4点，凝灰岩8点，砂岩3点，ホルンフェルス53点（51個体），瑪瑙・玉髄174点（173個体），不明3点である。礫石材は，流紋岩8点（6母岩；139.7g），チャート15点（9母岩；319.2g），砂岩130点（53母岩；4,137.6g），ホルンフェルス8点（7母岩；436.8g），識別できなかった砂岩11点（39.4g），ホルンフェルス4点（1.4g）で，識別率は91%である。

2）母岩の特徴と内容

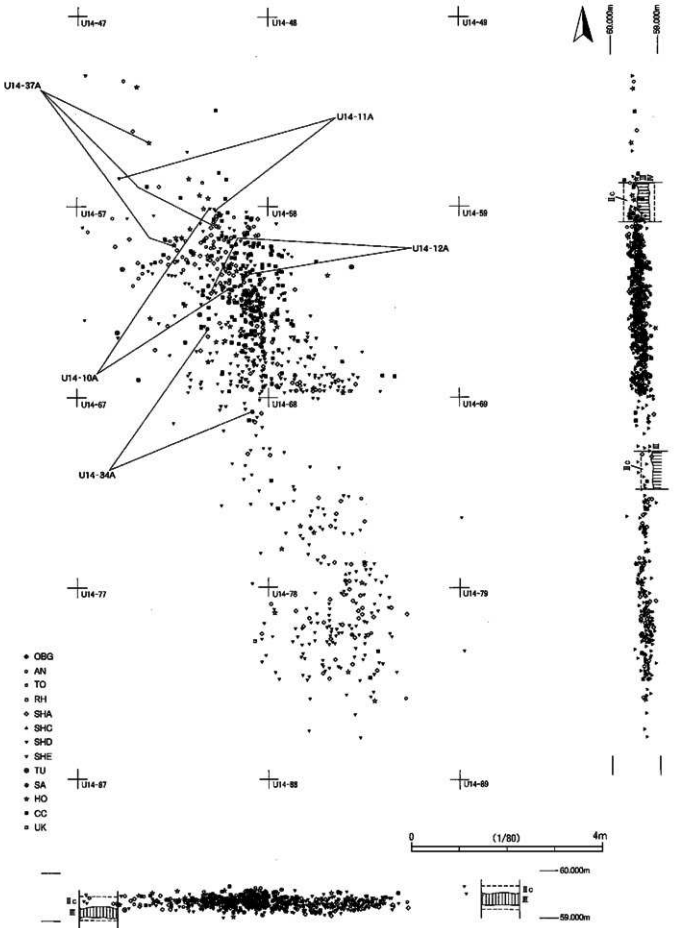
本ブロックでは42母岩を識別した。内訳は，黒曜石G1母岩（U14-29），安山岩5母岩（U14-1～4・6），軟質の安山岩1母岩（U14-5），流紋岩1母岩（U14-28），頁岩A1母岩（U14-12），頁岩C1母岩（U14-27），頁岩D15母岩（U14-10・11・13～25），頁岩E1母岩（U14-26），凝灰岩3母岩（U14-7～9），砂岩2母岩（U14-41・42），ホルンフェルス4母岩（U14-37～40），瑪瑙・玉髄7母岩（U14-30～36）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は57%（469/828点）である。

・**U14-1**：内部はオリーブ褐色（2.5Y4/4），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，槍先形石器1点，剥片1点の合計2点（7.4g）である。

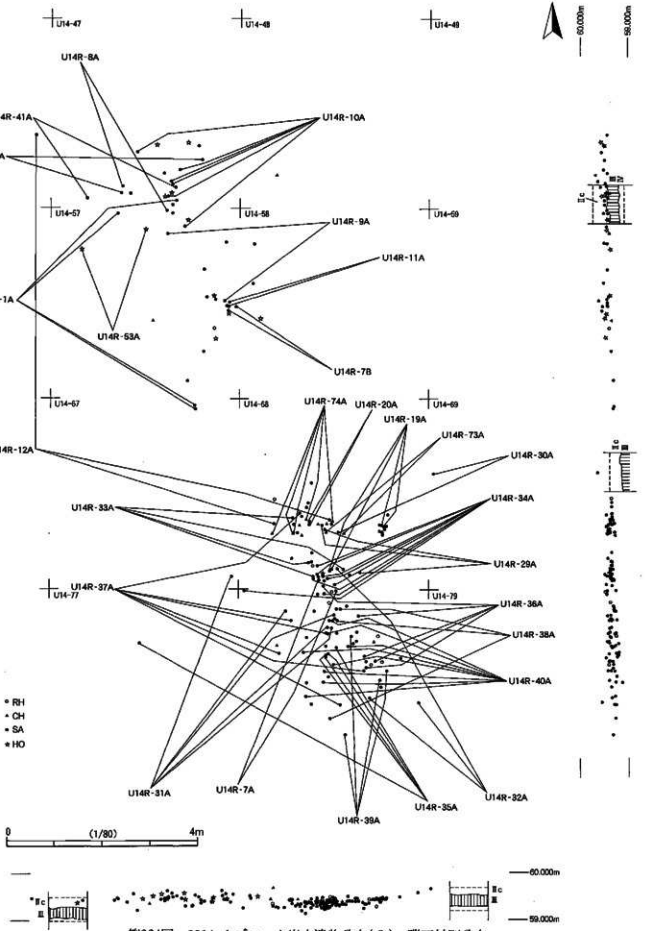
・**U14-2**：暗灰黄色（2.5Y4/2）・黄褐色（2.5Y5/3）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片4点（3.1g）である。



第362図　U14-Aブロック出土遺物分布(1)－器種別分布－



第363図　U14-Aブロック出土遺物分布(２)－石材別分布－



第364図　U14-Aブロック出土遺物分布(３)－礫石材別分布－

・U14-3：暗灰黄色（2.5Y4/2）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片2点（1.0g）である。
・U14-4：黄褐色（2.5Y5/4）の安山岩である。剥片1点（0.4g）の単独資料である。
・U14-5：灰白色（5Y7/1）の地に浅黄色（2.5Y7/3）が部分的に混じる軟質の安山岩である。槍先形石器1点（17.4g）の単独資料である。
・U14-6：浅黄色（2.5Y7/4）の安山岩としたが，軟質の安山岩の可能性が高い。槍先形石器1点（3.3g）の単独資料である。
・U14-7：灰白色（10Y7/1）の凝灰岩である。石器群の内訳は，楔形石器1点，砕片1点の合計2点（0.9g）である。
・U14-8：灰オリーブ色（5Y6/2）の凝灰岩である。砕片1点（0.3g）の単独資料である。
・U14-9：暗灰黄色（2.5Y5/2）・にぶい黄褐色（10YR5/3）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片2点，砕片1点の合計3点（2.5g）である。
・U14-10：内部は浅黄色（2.5Y7/3）の地に褐色（7.5YR4/6）・黒色（7.5YR2/1）が部分的に混じり，節理は浅黄色（2.5Y7/3），新鮮な面は灰白色（2.5Y7/1）の個体と灰黄色（2.5Y6/2）の個体が接合した硬質緻密な頁岩である。U14-24に若干類似した母岩である。石器群の内訳は，槍先形石器2点（1個体），剥片9点，砕片3点の合計14点（13個体；23.6g）である。接合資料は，槍先形石器2点（1個体；10.7g）である。
・U14-11：暗灰黄色（2.5Y5/2）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片3点（2個体），砕片4点の合計7点（6個体；3.2g）である。接合資料は，剥片2点（1個体；2.1g）である。
・U14-12：①にぶい黄色（2.5Y6/3）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の資料，②黒褐色（2.5Y3/2）の資料，③黒褐色（2.5Y3/2）・黒色（2.5Y2/1）の資料など母岩内に変異がある東北産頁岩である。この内，③は色調に極端な差がある黒褐色（2.5Y3/2）の部分と黒色（2.5Y2/1）の部分が接合したもので，後者の黒色（2.5Y2/1）の部分については，クレーター状の剥落が見られることから被熱による変色の可能性が高い。石器群の内訳は，削器2点（1個体），彫器1点，剥片18点，砕片90点の合計111点（110個体；32.3g）である。接合資料は，削器2点（1個体；12.1g）である。
・U14-13：内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）・黄灰色（2.5Y4/1），新鮮な面は黄灰色（2.5Y4/1）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片20点，砕片25点の合計45点（16.5g）である。
・U14-14：暗灰黄色（2.5Y5/2）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点，砕片1点の合計2点（0.6g）である。
・U14-15：暗灰黄色（2.5Y5/2）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片11点（5.7g）である。
・U14-16：灰黄褐色（10YR5/2）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（1.0g）の単独資料である。
・U14-17：灰黄色（2.5Y7/2）の地に黄灰色（2.5Y5/1）が部分的に混じる硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（3.4g）である。
・U14-18：灰オリーブ色（5Y6/2）の硬質緻密な頁岩である。砕片1点（0.2g）の単独資料である。
・U14-19：灰白色（5Y7/2）の硬質緻密な頁岩である。砕片1点（0.3g）の単独資料である。
・U14-20：灰黄色（2.5Y6/2）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，砕片2点（0.4g）である。
・U14-21：灰色（10Y6/1）・灰色（10Y5/1）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，砕片4点（0.3g）である。
・U14-22：灰色（10Y5/1）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，砕片2点（0.2g）である。

・U14-23：暗灰黄色（2.5Y5/2）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（0.4ｇ）の単独資料である。

・U14-24：灰黄色（2.5Y6/3）・にぶい赤褐色（5YR4/4）の硬質緻密な頁岩である。U14-10に若干類似した母岩である。石器群の内訳は，槍先形石器１点，剥片４点の合計５点（11.2ｇ）である。

・U14-25：灰オリーブ色（5Y6/2）・にぶい黄色（2.5Y6/3）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の地に褐色（7.5YR4/4）が部分的に混じる硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片39点，砕片57点の合計96点（34.7ｇ）である。

・U14-26：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は灰色（5Y5/1）の地に灰黄色（2.5Y7/2）が縞状に入り，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石核１点（127.0ｇ）の単独資料である。

・U14-27：オリーブ黒色（5Y3/2）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（1.4ｇ）の単独資料である。

・U14-28：淡黄色（2.5Y8/3）の流紋岩である。砕片１点（0.2ｇ）の単独資料である。

・U14-29：透明な黒曜石である。産地は不明である。砕片１点（0.01ｇ）の単独資料である。

・U14-30：自然面は凹凸の部分，比較的平滑な部分があり，明褐色（7.5YR5/6）・明黄褐色（10YR6/6）・褐色（10YR4/4），内部は黄灰色（2.5Y6/1）・灰白色（2.5Y7/1）・灰黄色（2.5Y7/2）・淡黄色（2.5Y8/4）・赤褐色（5YR4/6）・灰白色（2.5Y8/1）・浅黄色（2.5Y7/4）で半透明な瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，槍先形石器１点，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片１点，剥片13点，砕片13点の合計29点（122.9ｇ）である。

・U14-31：黄灰色（2.5Y6/1）の地ににぶい黄褐色（10YR5/3）・黒褐色（10YR3/2）・暗赤灰色（2.5R3/1）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，削器１点，剥片７点，砕片４点の合計12点（24.6ｇ）である。

・U14-32：内部は灰黄色（2.5Y7/2）で半透明な資料，オリーブ褐色（2.5Y4/3）の資料など母岩内に変異があり，新鮮な面は灰白色（2.5Y8/1）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片２点（1.1ｇ）である。

・U14-33：内部は淡黄色（2.5Y8/3）・灰黄色（2.5Y6/2）・黒褐色（2.5Y3/2），新鮮な面は灰白色（5Y8/1）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片３点，砕片18点の合計21点（4.0ｇ）である。

・U14-34：明黄褐色（10YR6/6）で半透明な資料，にぶい黄褐色（10YR5/4）の資料など母岩内に変異がある瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片２点（１個体；2.9ｇ）である。接合資料は，使用痕ある剥片２点（１個体；2.9ｇ）である。

・U14-35：自然面は平滑で赤褐色（5YR4/8），内部は浅黄色（2.5Y7/4）の瑪瑙・玉髄である。剥片１点（3.2ｇ）の単独資料である。

・U14-36：内部は灰白色（2.5Y8/2）・灰黄色（2.5Y6/2），新鮮な面は灰白色（5Y8/1）の瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，剥片８点，砕片26点の合計34点（9.2ｇ）である。

・U14-37：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）の部分，灰色（5Y5/1）の部分があり，節理は灰黄色（2.5Y7/2）のホルンフェルスである。被熱による変色の可能性がある。石器群の内訳は，剥片５点（３個体），砕片４点の合計９点（７個体；14.7ｇ）である。接合資料は，剥片３点（１個体；11.7ｇ）である。

・U14-38：内部は浅黄色(2.5Y7/3)の地ににぶい黄色(2.5Y6/3)が部分的に混じり，新鮮な面は黄灰色(2.5Y4/1)のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片７点，石核１点の合計８点（79.6ｇ）である。

・U14-39：内部は灰色（5Y5/1）・灰黄色（2.5Y7/2），新鮮な面は灰色（5Y4/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，槍先形石器１点，剥片６点，砕片12点の合計19点（8.7ｇ）である。

・U14-40：灰色（7.5Y6/1）・灰白色（5Y8/2）・灰色（10Y4/1）・灰色（10Y5/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片2点，砕片2点の合計4点（25.9g）である。
・U14-41：暗灰黄色（2.5Y5/2）の砂岩である。砕片1点（0.2g）の単独資料である。
・U14-42：にぶい黄褐色（10YR5/3）の砂岩である。剥片1点（2.8g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の砕片17点（2.4g），流紋岩の砕片1点（0.2g），頁岩Aの砕片15点（1.1g），頁岩Dの砕片231点（11,5g），頁岩Eの砕片3点（0.5g），凝灰岩の砕片2点（0.6g），砂岩の砕片1点（0.02g），ホルンフェルスの砕片13点（3.0g），瑪瑙・玉髄の砕片73点（6.0g），石材不明の器種不明3点（0.01g）がある。

3）出土遺物（第365・366図）

1は軟質の安山岩，2・4は硬質緻密な頁岩，3は瑪瑙・玉髄，5は安山岩，6はホルンフェルスによる両面加工の槍先形石器である。1は両面に器体中央を超える調整加工を行った後，正面のほぼ全周と裏面の両側縁の上半部に細かい調整加工を行って木葉形に仕上げている。2は正面の左側縁側が幅広で器体中央に及ぶ調整加工，裏面の左側縁側が幅広の周辺加工を行い，両面の右側縁側は斜並行剥離状の細長い剥離を行って，最終的に左右非対称の半月形に仕上げている。また，下端部の折断面には裏面側で細かい調整加工が行われている。なお，2点が接合して1個体となるが，先端部と下半部では色調に明確な差がある。3は両面ともほぼ器体中央に及ぶ調整加工と周辺への最終的な細かい調整加工を行って，やや幅広の木葉形に仕上げている。4は両面とも器体中央に及ぶ調整加工を行った後，裏面側で周辺に調整加工を行い，最終的に正面側で周辺への細かい調整加工を行って，柳葉形に仕上げている。なお，裏面の上部と下部に見られる舌状の剥離痕は，衝撃によるものと思われる。5は両面とも器体中央に及ぶ調整加工を行った後，周辺に細かい調整加工を行って，柳葉形あるいは細身の木葉形に仕上げている。6は両面とも器体中央部に及ぶ調整加工を行った後，周辺に細かい調整加工を行っている。先端部のみで，形態は不明である。なお，本ブロックの石器群は，出土層位が若干高めであることなどから，2・4・5といった形態の槍先形石器を中心として，帰属時期が異なる可能性がないとは言えないが，縄文時代草創期の土器などは発見されていない。

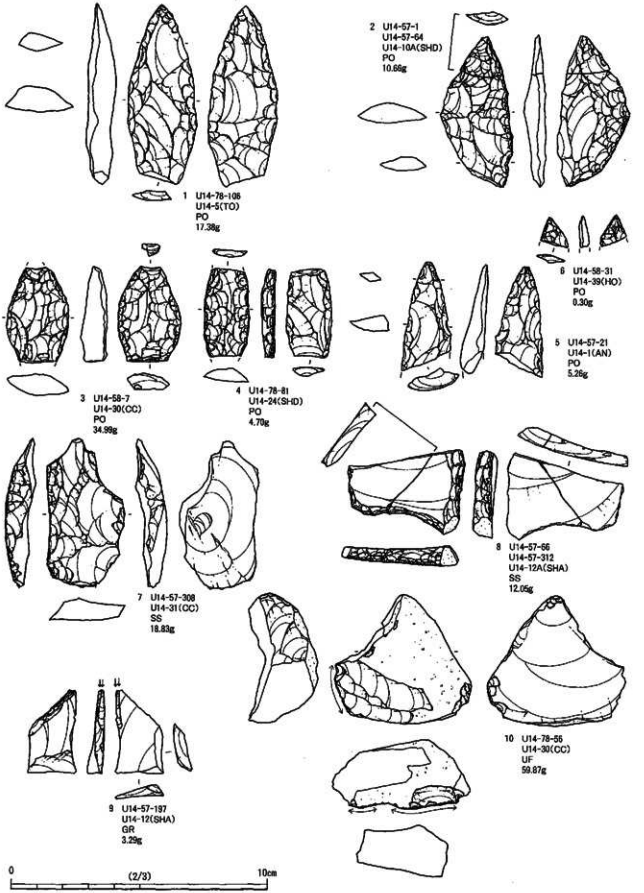
7は瑪瑙・玉髄による削器で，横長剥片を横位に用い，左側縁（素材の末端）に調整加工を行っている。8は東北産頁岩による削器で，末端から両側縁にかけて調整加工を行っている。なお，2点が接合して1個体となるが，左右の色調には極端な差がある。

9は東北産頁岩による彫器で，左側縁上部に細かい調整加工を行い，右側面の折断面に2回樋状の調整加工を行っている。

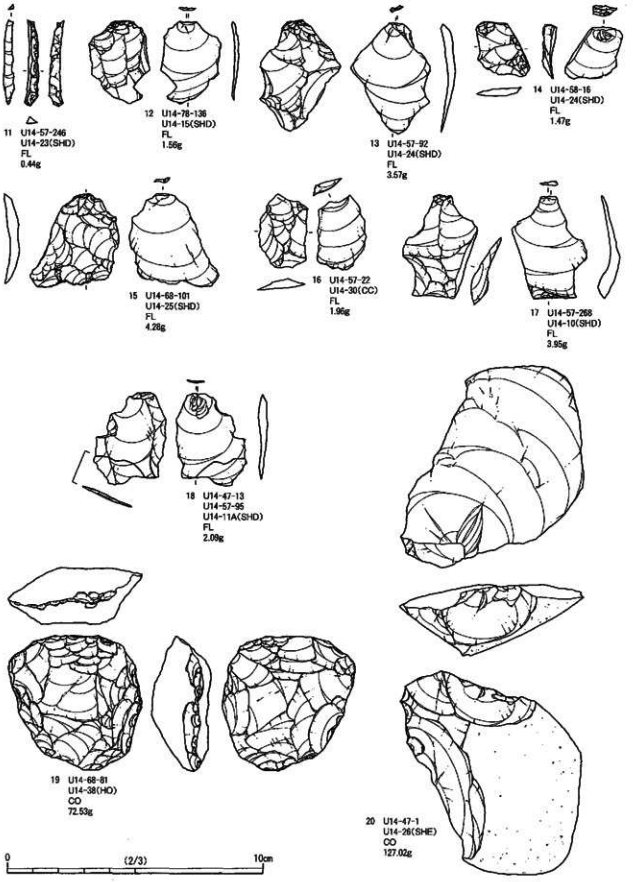
10は瑪瑙・玉髄による使用痕ある剥片としたが，細かい剥離痕が見られることから，加工痕ある剥片とした方が良いかもしれない。大型で厚みのある不定型な剥片の末端と左側縁下部に微細な剥離痕が見られる。

11～15・17・18は硬質緻密な頁岩，16は瑪瑙・玉髄による剥片である。11は小型の稜付き石刃あるいは削片，12～18は不定型な剥片で，槍先形石器等の調整剥片の可能性がある。なお，18は2点が接合して1個体となる。

19はホルンフェルス，20は頁岩による石核である。19は両面で求心的な剥離作業を行っている。20は大型で厚みのある縦長剥片の主要剥離面を打面として，横長剥片を剥離している。



第365図　U14-Aブロック出土遺物(1)



第366図　U14-Aブロック出土遺物(2)

第215表 U14-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MQ	UK	合 計
U14-1(AN)			1														1								2
U14-2(AN)																	4								4
U14-3(AN)																	2								2
U14-4(AN)																	1								1
U14-5(TO)			1																						1
U14-6(AN)			1																						1
U14-7(TU)									1									1							2
U14-8(TU)																		1							1
U14-9(TU)																	2	1							3
U14-10(SHD)			2(1)														9	3							14(13)
U14-11(SHD)																	3(2)	4							7(6)
U14-12(SHA)						2(1)	1										18	90							111(110)
U14-13(SHD)																	20	25							45
U14-14(SHD)																	1	1							2
U14-15(SHD)																	11								11
U14-16(SHD)																	1								1
U14-17(SHD)																	2								2
U14-18(SHD)																		1							1
U14-19(SHD)																		1							1
U14-20(SHD)																		2							2
U14-21(SHD)																		4							4
U14-22(SHD)																		2							2
U14-23(SHD)																	1								1
U14-24(SHD)			1														4								5
U14-25(SHD)																	39	57							96
U14-26(SHE)																			1						1
U14-27(SHC)																	1								1
U14-28(RH)																		1							1
U14-29(OBG)																		1							1
U14-30(CC)			1							1	1						13	13							29
U14-31(CC)						1											7	4							12
U14-32(CC)																	2								2
U14-33(CC)																	3	18							21
U14-34(CC)											2(1)														2(1)
U14-35(CC)																	1								1
U14-36(CC)																	8	26							34
U14-37(HO)																	5(3)	4							9(7)
U14-38(HO)																	7		1						8
U14-39(HO)			1														6	12							19
U14-40(HO)																	2	2							4
U14-41(SA)																		1							1
U14-42(SA)																	1								1
その他(AN)																		17							17
その他(RH)																		1							1
その他(SHA)																		15							15
その他(SHD)																		231							231
その他(SHE)																		3							3
その他(TU)																		2							2
その他(SA)																		1							1
その他(HO)																		13							13
その他(CC)																		73							73
その他(UK)																								3	3
合 計			8(7)			3(2)	1		1	1	3(2)						175(172)	631	2					3	828(822)

第216表　U14-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
黒曜石G(OBG)																		1							1
安山岩(AN)			2														8	17							27
安山岩(TO)			1																						1
流紋岩(RH)																		2							2
頁岩A(SHA)						2(1)	1										18	105							126(125)
頁岩C(SHC)																		1							1
頁岩D(SHD)			3(2)														91(90)	331							425(423)
頁岩E(SHE)																		3	1						4
凝灰岩(TU)									1								2	5							8
砂岩(SA)																	1	2							3
ホルンフェルス(HO)			1														20(18)	31	1						53(51)
碧玉・玉髄(CC)			1			1				1	3(2)						34	134							174(173)
その他(UK)																								3	3
合　計			8(7)			3(2)	1		1	1	3(2)						175(172)	831	2					3	828(822)

第217表　U14-Aブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
U14R-1	SA	4	176.70
U14R-2	SA	1	122.69
U14R-3	SA	1	20.68
U14R-4	SA	3	51.32
U14R-5	SA	3	8.91
U14R-6	SA	2	45.83
U14R-7	SA	4	47.09
U14R-8	SA	2	155.13
U14R-9	SA	2	22.13
U14R-10	SA	6	140.99
U14R-11	SA	2	43.33
U14R-12	SA	3	57.56
U14R-13	SA	1	9.18
U14R-14	SA	1	242.13
U14R-15	SA	1	50.11
U14R-16	SA	2	99.10
U14R-17	SA	1	145.43
U14R-18	SA	1	209.20
U14R-19	SA	4	138.70
U14R-20	SA	2	81.83
U14R-21	SA	1	120.14
U14R-22	SA	1	95.29
U14R-23	SA	1	20.80
U14R-24	SA	1	39.07
U14R-25	SA	1	50.77
U14R-26	SA	1	64.31
U14R-27	SA	2	38.28
U14R-28	SA	1	6.29
U14R-29	SA	3	38.61
U14R-30	SA	2	186.48

母　岩	石 材	個数	重量
U14R-31	SA	6	41.28
U14R-32	SA	3	62.05
U14R-33	SA	4	56.12
U14R-34	SA	8	142.16
U14R-35	SA	7	216.94
U14R-36	SA	5	102.11
U14R-37	SA	6	75.50
U14R-38	SA	3	193.18
U14R-39	SA	4	90.07
U14R-40	SA	8	165.98
U14R-41	SA	3	63.75
U14R-42	SA	1	51.31
U14R-43	SA	2	117.37
U14R-44	SA	1	17.26
U14R-45	SA	1	12.05
U14R-46	SA	1	19.85
U14R-47	SA	1	11.33
U14R-48	SA	1	3.17
U14R-49	SA	1	8.75
U14R-50	SA	1	8.33
U14R-51	SA	1	20.84
U14R-52	HO	1	132.84
U14R-53	HO	2	31.88
U14R-54	HO	1	27.73
U14R-55	HO	1	33.35
U14R-56	HO	1	35.41
U14R-57	HO	1	155.98
U14R-58	HO	1	19.61
U14R-59	RH	1	71.99
U14R-60	RH	1	54.97

母　岩	石 材	個数	重量
U14R-61	SA	1	25.99
U14R-62	RH	2	7.62
U14R-63	RH	1	2.13
U14R-64	RH	2	2.64
U14R-65	RH	1	0.31
U14R-66	CH	1	190.64
U14R-67	CH	1	41.73
U14R-68	CH	1	7.67
U14R-69	CH	1	2.13
U14R-70	CH	1	2.92
U14R-71	CH	1	8.41
U14R-72	CH	1	5.32
U14R-73	CH	2	10.59
U14R-74	CH	6	49.82
U14R-75	SA	1	64.12
その他	SA	11	39.41
その他	HO	4	1.35

石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	8	139.66
チャート(CH)	15	319.23
砂岩(SA)	141	4,177.00
ホルンフェルス(HO)	12	438.15
合　計	176	5,074.04

16　S24-Bブロック（第367・368・403図，第218・219表，カラー図版18，図版14）

1）ブロックの概要

S24-Bブロックは，調査範囲東側のS24-28・29・39，T24-20グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は30mである。

ブロックの規模と形状は，長軸7m，短軸4mの範囲に8点の石器が分布する。その内，垂直分布のない遺物が1点ある。出土層位は，Ⅱ層からⅢ層にかけて，30cmほどの高低差をもって包含されている（第367図）。

ブロックは，槍先形石器２点，削器１点，加工痕ある剥片１点，剥片４点の合計８点で構成される。石器石材は，頁岩Ｃ８点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは５母岩を識別した。内訳は，頁岩Ｃ５母岩（S24-18～22）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（８/８点）である。

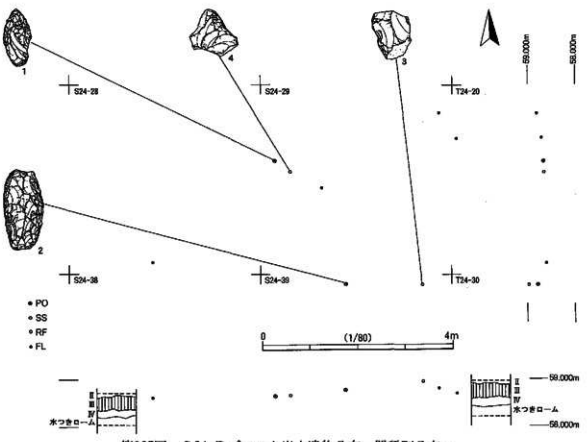
・S24-18：灰オリーブ色（5Y4/2）・オリーブ褐色（2.5Y4/4）・オリーブ灰色（5GY6/1）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（3.2ｇ）である。

・S24-19：自然面は爪形の浅い裂痕が粗でオリーブ褐色（2.5Y4/6），内部は灰オリーブ色（5Y5/2），節理は黄褐色（2.5Y5/4）・褐色（7.5YR4/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（13.2ｇ）である。

・S24-20：暗灰黄色（2.5Y5/2）・褐色（7.5YR4/4）の嶺岡産頁岩である。槍先形石器１点（4.9ｇ）の単独資料である。

・S24-21：灰オリーブ色（5Y6/2）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の地に黄灰色（2.5Y4/1）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。槍先形石器１点（16.9ｇ）の単独資料である。

・S24-22：黒褐色（10YR3/1）・灰黄褐色（10YR4/2）・黒褐色（10YR3/2）・暗褐色（7.5YR3/4）・黄褐色



第367図　S24-Bブロック出土遺物分布－器種別分布－

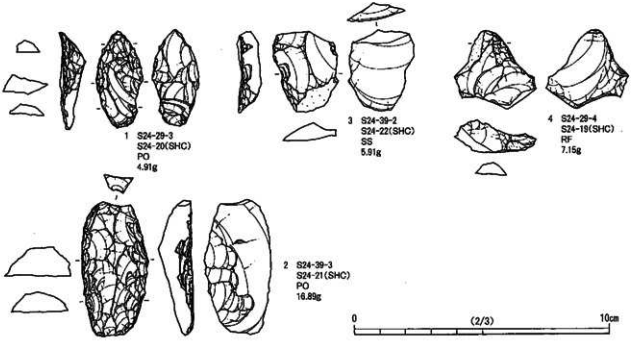
(10YR5/6) の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，削器1点，剥片1点の合計2点（10.3g）である。

3）出土遺物（第368図）

1・2は嶺岡産頁岩による槍先形石器である。両者とも横長剥片を横位に用い，1は裏面側でほぼ器体中央に及ぶ調整加工を行い，最終的に周辺に調整加工を行って，木葉形に仕上げている。2は裏面の左側縁側と正面側でほぼ器体中央に及ぶ調整加工を行い，最終的に正面側の周辺に細かい調整加工を行って，木葉形に仕上げている。

3は嶺岡産頁岩による削器で，縦長剥片の左側縁に調整加工を行っている。

4は嶺岡産頁岩による加工痕ある剥片で，不定型な剥片の右側縁に調整加工を行っている。



第368図　S24-Bブロック出土遺物

第218表　S24-Bブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
S24-18(SHC)																	2								2
S24-19(SHC)										1							1								2
S24-20(SHC)			1																						1
S24-21(SHC)			1																						1
S24-22(SHC)						1											1								2
合計			2			1				1							4								8

第219表　S24-Bブロック石材別石器組成

石材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
頁岩C(SHC)			2			1				1							4								8
合計			2			1				1							4								8

17　S24-Dブロック（第369～373・403図，第220～222表，カラー図版18・24，図版14）

1）ブロックの概要

S24-Dブロックは，調査範囲東側のS24-76・77・85～87・95～98グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は40mである。

ブロックの規模と形状は，長軸９m，短軸７mの範囲に30点の石器と南に５mほど離れて２点の石器が分布する。出土層位は，Ⅱ層からⅣ層にかけて，70cmほどの高低差をもって包含されているが，中心はⅢ層で，40cmほどである（第369～371図）。

ブロックは，槍先形石器１点，使用痕ある剥片１点，剥片18点（17個体），砕片10点，石核２点の合計32点（31個体）と礫85点で構成される。石器石材は，軟質の安山岩８点，流紋岩１点，頁岩Ｃ４点，頁岩Ｅ２点，チャート３点，砂岩11点（10個体），ホルンフェルス３点である。礫石材は，流紋岩２点（１母岩；106.3ｇ），チャート39点（３母岩；304.6ｇ），砂岩33点（７母岩；1,593.8ｇ），ホルンフェルス11点（４母岩；336.6ｇ）で，識別率は100％である。なお，S24R-３についてはブロック外（S24-69グリッド），S24R-５についてはブロック外（S24-48グリッド）と接合関係がある。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは17母岩を識別した。内訳は，軟質の安山岩２母岩（S24-１・３），流紋岩１母岩（S24-４），頁岩Ｃ３母岩（S24-７～９），頁岩Ｅ２母岩（S24-10・11），チャート３母岩（S24-15～17），砂岩３母岩（S24-２・５・６），ホルンフェルス３母岩（S24-12～14）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は97％（31/32点）である。

・S24-１：自然面は比較的平滑で浅黄色（2.5Y7/4），内部は浅黄色（2.5Y7/4）・灰白色（5Y7/1），新鮮な面は灰色（N6/0）の軟質の安山岩である。石器群の内訳は，剥片３点（51.4ｇ）である。

・S24-２：自然面は平滑で浅黄色（2.5Y7/3）・灰色（5Y5/1）・灰褐色（7.5YR4/2），内部は浅黄色（2.5Y7/3）・灰色（5Y5/1）・にぶい褐色（7.5YR6/3）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片４点（３個体），石核１点の合計５点（４個体；618.5ｇ）である。なお，S25-17母岩に類似した資料がある。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片２点，石核１点の合計３点（614.0ｇ），Ｂは剥片２点（１個体；4.5ｇ）である。

・S24-３：内部は灰白色（7.5Y7/1），新鮮な面は灰色（10Y5/1）の軟質の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点，砕片３点の合計５点（9.4ｇ）である

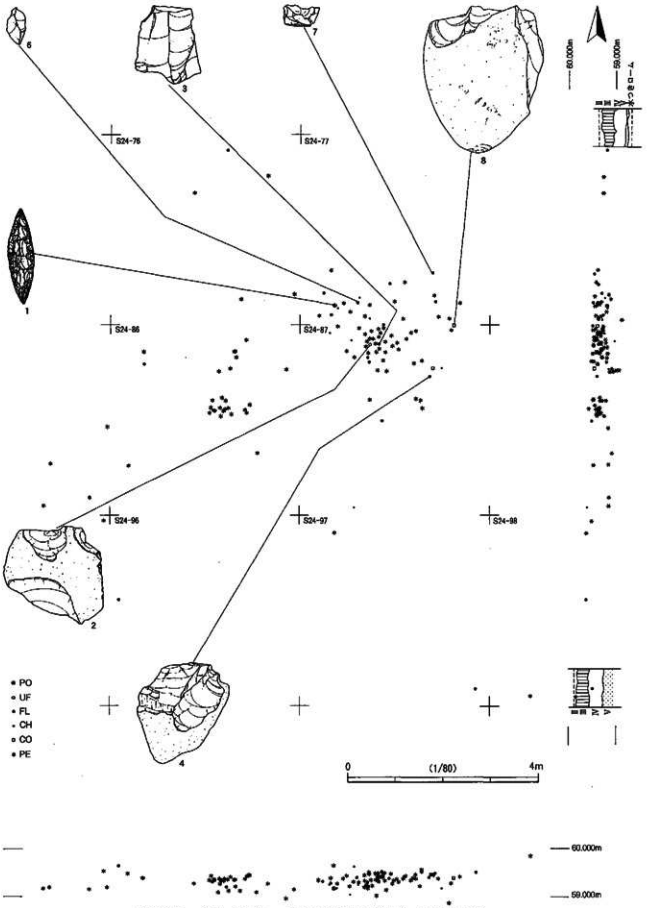
・S24-４：内部は明赤褐色(5YR5/6)・にぶい橙色(7.5YR6/4)・黒褐色(7.5YR3/1)，新鮮な面は橙色(5YR6/6)の流紋岩である。剥片１点（2.0ｇ）の単独資料である。

・S24-５：灰白色（7.5Y7/1）・灰色（7.5Y6/1）の砂岩である。剥片１点（0.5ｇ）の単独資料である。

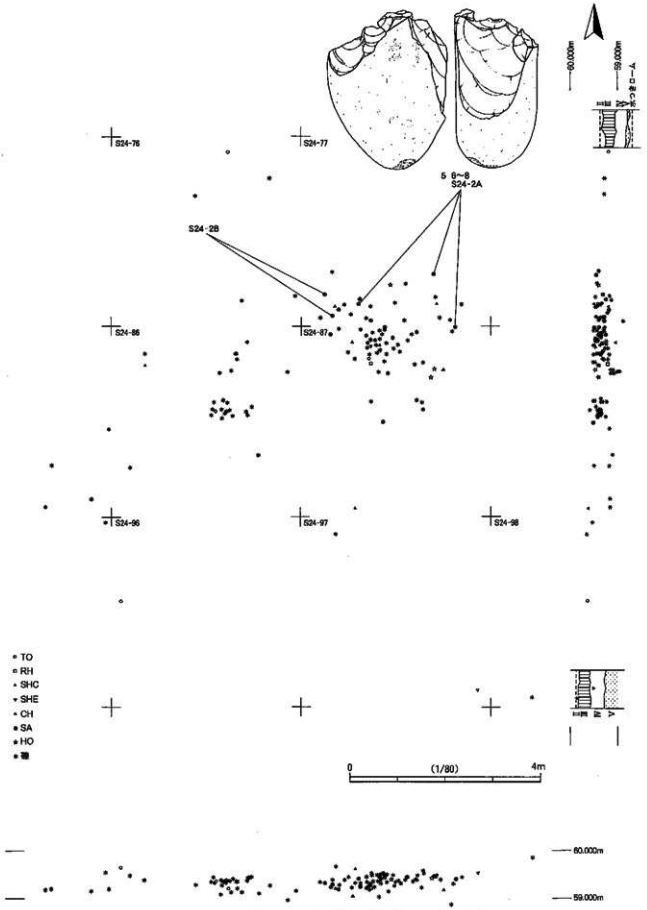
・S24-６：自然面は比較的平滑で黄褐色（2.5Y5/3），内部は灰色（5Y5/1）・灰オリーブ色（5Y6/2），節理は黄褐色（2.5Y5/3）の資料，内部は灰色（5Y5/1）・灰オリーブ色（5Y6/2）の地に灰色（N4/0）が部分的に混じる資料など母岩内に変異がある砂岩である。石器群の内訳は，剥片１点，砕片４点の合計５点（6.9ｇ）である。

・S24-７：灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y5/1）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（19.3ｇ）の単独資料である。

・S24-８：にぶい黄色（2.5Y6/4）・オリーブ黄色（5Y6/3）の地に明オリーブ灰色（5GY7/1）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。剥片１点（5.3ｇ）の単独資料である。



第369図　S24-Dブロック出土遺物分布(1)－器種別分布－

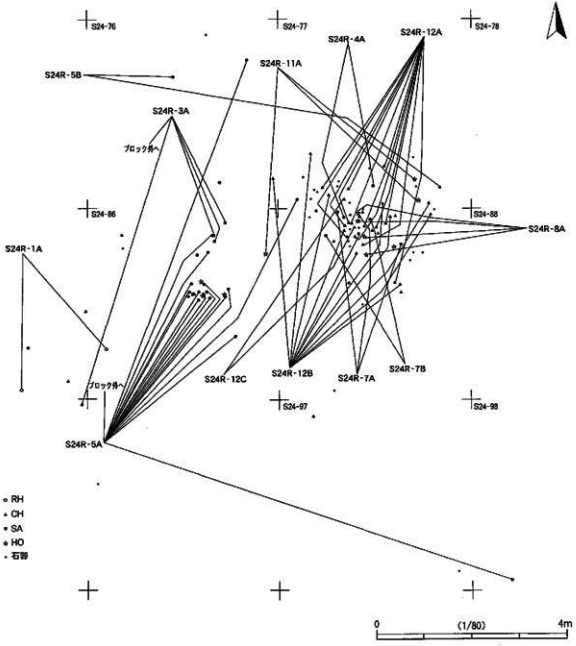


第370図　S24-Dブロック出土遺物分布（２）－石材別分布－

・S24-9：にぶい黄褐色（10YR5/4）・黄褐色（2.5Y5/4）・灰白色（5Y7/2）・灰色（5Y4/1）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（7.0g）の単独資料である。

・S24-10：内部は灰白色（5Y7/2），新鮮な面は灰色（N5/0）の頁岩である。剥片1点（1.0g）の単独資料である。

・S24-11：自然面は比較的平滑でオリーブ灰色（2.5GY6/1）・にぶい褐色（7.5YR5/4），内部はオリーブ灰色（2.5GY6/1）・明オリーブ灰色（2.5GY7/1），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4），新鮮な面は暗オリーブ灰色（5GY4/1）・暗オリーブ灰色（5GY3/1）の頁岩である。使用痕ある剥片1点（90.6g）の単独資料である。



第371図　S24-Dブロック出土遺物分布(3)－礫石材別分布－

・S24-12：浅黄色（2.5Y7/4）・灰色（5Y5/1）のホルンフェルスである。剥片１点（3.4ｇ）の単独資料である。

・S24-13：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色(5Y6/1)・灰オリーブ色(5Y6/2)，節理は灰色(5Y5/1)・浅黄色（2.5Y7/3）のホルンフェルスである。剥片１点（79.9ｇ）の単独資料である。

・S24-14：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y6/1），節理は灰色（5Y5/1）・褐色（7.5YR4/4）のホルンフェルスである。石核１点（149.6ｇ）の単独資料である。

・S24-15：灰色（5Y4/1）のチャートとしたが，嶺岡産頁岩の可能性がある。槍先形石器１点（6.3ｇ）の単独資料である。

・S24-16：オリーブ黒色（10Y3/1）・灰白色（10Y7/1）のチャートである。砕片１点（0.8ｇ）の単独資料である。

・S24-17：内部は黒褐色（2.5Y3/2），節理はにぶい黄褐色（10YR4/3）のチャートである。砕片１点（0.2ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，頁岩Ｃの砕片１点（0.1ｇ）がある。

３）出土遺物（第372図）

１はチャートによる槍先形石器で，両面に器体中央を超える調整加工を行った後，正面のほぼ全周と裏面の右側縁に細かい調整加工を行って細身の木葉形に仕上げている。

第220表　S24-Dブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合 計
S24-1(TO)																	3								3
S24-2(SA)																	4(3)		1						5(4)
S24-3(TO)																	2	3							5
S24-4(RH)																	1								1
S24-5(SA)																	1								1
S24-6(SA)																	1	4							5
S24-7(SHC)																	1								1
S24-8(SHC)																	1								1
S24-9(SHC)																	1								1
S24-10(SHE)																	1								1
S24-11(SHE)											1														1
S24-12(HO)																	1								1
S24-13(HO)																	1								1
S24-14(HO)																			1						1
S24-15(CH)			1																						1
S24-16(CH)																		1							1
S24-17(CH)																		1							1
その他(SHC)																		1							1
合　計			1								1						18(17)	10	2						32(31)

第221表　S24-Dブロック石材別石器組成

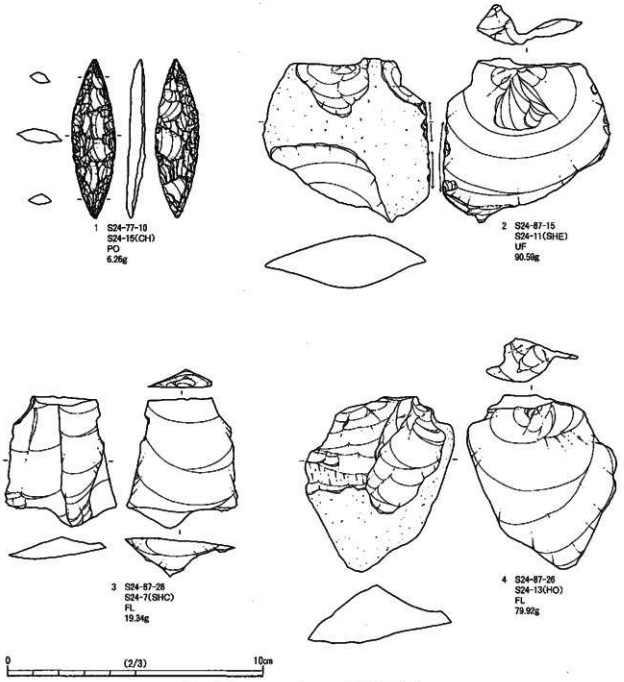
石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合 計
安山岩(TO)																	5	3							8
流紋岩(RH)																	1								1
頁岩C(SHC)																	3	1							4
頁岩E(SHE)											1						1								2
チャート(CH)			1															2							3
砂岩(SA)																	6(5)	4	1						11(10)
ホルンフェルス(HO)																	2		1						3
合　計			1								1						18(17)	10	2						32(31)

２は頁岩による使用痕ある剥片で，大型で厚みのある不定型な剥片の正面右側縁と裏面左側縁に微細な剥離痕が見られる。

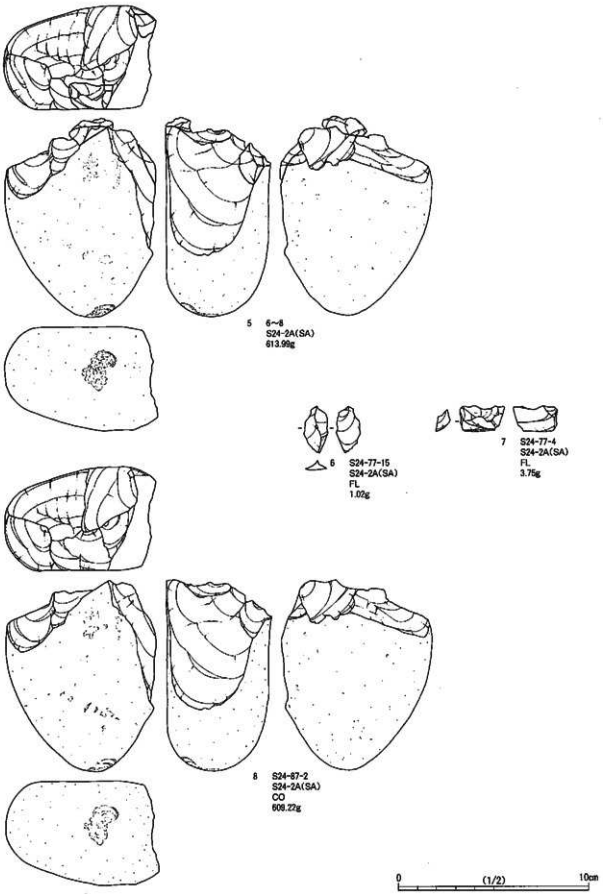
３は嶺岡産頁岩による石刃状の縦長剥片，４はホルンフェルスによる不定型な剥片である。

４）接合資料とその関連資料（第373図）

・S24-2（第373図）　浅黄色（2.5Y7/3）などの砂岩である。５は剥片２点（６・７），石核１点（８）の接合資料である。大型で不定型な礫の打面と作業面を入れ替えながら，６・７を含む不定型な剥片を剥離している。



第372図　Ｓ24-Ｄブロック出土遺物（１）



第373図　S24-Dブロック出土遺物(2)

第222表　S24-Dブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
S24R-1	RH	2	106.31
S24R-2	SA	1	309.41
S24R-3	SA	4	364.79
S24R-4	SA	2	301.94
S24R-5	SA	19	440.46
S24R-6	SA	1	94.66
S24R-7	SA	5	73.55
S24R-8	HO	4	169.98
S24R-9	HO	1	12.98
S24R-10	HO	1	24.84

母　岩	石 材	個数	重量
S24R-11	HO	5	128.85
S24R-12	CH	36	282.85
S24R-13	CH	1	4.88
S24R-14	CH	2	16.89
S24R-15	SA	1	9.01

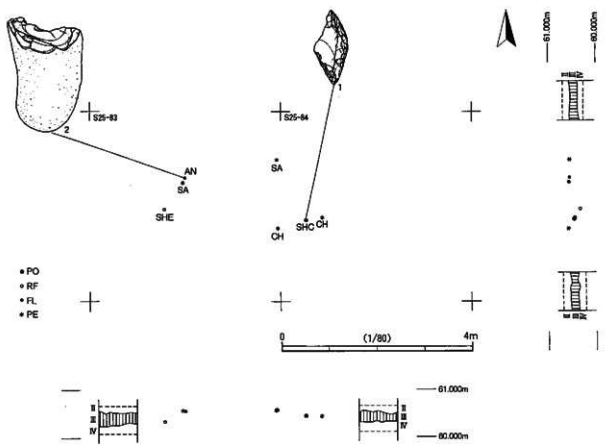
石　材	個数	重量
流紋岩(RH)	2	106.31
チャート(CH)	39	304.62
砂岩(SA)	33	1,593.82
ホルンフェルス(HO)	11	336.63
合　計	85	2,341.38

18　S25-Fブロック（第374・375・403図，第223～225表，カラー図版18）

1）ブロックの概要

S25-Fブロックは，調査範囲東側のS25-83・84グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は25mである。

ブロックの規模と形状は，長軸4m，短軸2mの範囲に8点の石器・礫が分布する。その内，原位置不明の遺物が1点ある。出土層位は，Ⅱ層からⅢ層にかけて，30cmほどの高低差をもって包含されている（第374図）。



第374図　S25-Fブロック出土遺物分布ー器種・石材別分布ー

ブロックは，槍先形石器１点，加工痕ある剥片１点，剥片１点の合計３点と礫５点で構成される。石器石材は，安山岩１点，頁岩Ｃ１点，頁岩Ｅ１点である。礫石材は，チャート３点（３母岩；42.0ｇ），砂岩２点（２母岩；26.0ｇ）で，識別率は100％である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（S25-15），頁岩Ｃ１母岩（S25-16），頁岩Ｅ１母岩（S25-17）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（３/３点）である。

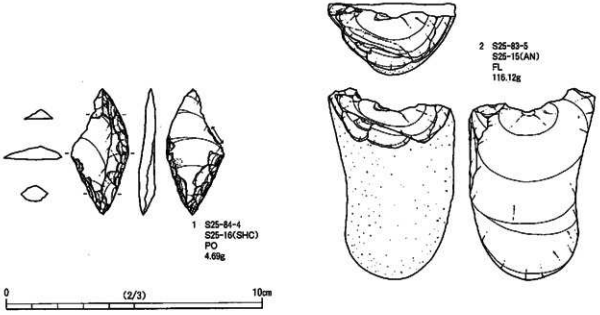
・**S25-15**：自然面は爪形の浅い裂痕が密で黄褐色（2.5Y5/4）・にぶい黄色（2.5Y6/4）・灰色（N4/0），内部は黄褐色（2.5Y5/3）の安山岩である。剥片１点（116.1ｇ）の単独資料である。

・**S25-16**：灰色（7.5Y6/1）・黄灰色（2.5Y5/1）の嶺岡産頁岩である。槍先形石器１点（4.7ｇ）の単独資料である。

・**S25-17**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（5Y5/1）・浅黄色（2.5Y7/4）・灰色（5Y6/1），新鮮な面は灰色（5Y4/1）の頁岩である。加工痕ある剥片１点（86.7ｇ）の単独資料である。なお，S24-２母岩に類似している。

３）出土遺物（第375図）

１は嶺岡産頁岩による槍先形石器であるが，左側縁上部に見られる樋状の剥離痕，形態，調整加工のあり方などから東内野型有樋尖頭器と考え，槍先形石器としたが，ナイフ形石器の可能性もある。剥片の打面側を基部として，正面の右側縁と左側縁下半部，裏面の両側縁の下半部に細かい調整加工を行っている。また，裏面右側縁の一部に微細な剥離痕が見られる。２は安山岩による大型で厚みのある縦長剥片である。



第375図　S25-Fブロック出土遺物

第223表　S25-Fブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
S25-15(AN)																	1								1
S25-16(SHC)			1																						1
S25-17(SHE)										1															1
合計			1							1							1								3

第224表　S25-Fブロック石材別石器組成

石材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
安山岩(AN)																	1								1
頁岩C(SHC)			1																						1
頁岩E(SHE)										1															1
合計			1							1							1								3

第225表　S25-Fブロック礫組成

母岩	石材	個数	重量
S25R-3	SA	1	12.56
S25R-4	SA	1	13.40
S25R-6	CH	1	8.79
S25R-9	CH	1	9.09
S25R-10	CH	1	24.16

石材	個数	重量
チャート(CH)	3	42.04
砂岩(SA)	2	25.96
合計	5	68.00

19　S25-Gブロック（第376～378・403図，第226～228表，カラー図版18・24）

1）ブロックの概要

S25-Gブロックは，調査範囲東側のS25-84・94グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は30mである。

ブロックの規模と形状は，長軸4m，短軸2mの範囲に12点の石器・礫が分布する。その内，原位置不明の遺物が2点ある。出土層位は，Ⅱ層からⅢ層にかけて，10cmほどの高低差をもって包含されている（第376・377図）。

ブロックは，槍先形石器2点，剥片4点の合計6点と礫6点で構成される。石器石材は，黒曜石B1点，頁岩D4点，ホルンフェルス1点である。礫石材は，安山岩1点（1母岩；51.2g），砂岩5点（4母岩；263.0g）で，識別率は100%である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは5母岩を識別した。内訳は，黒曜石B1母岩（S25-60），頁岩D3母岩（S25-61～63），ホルンフェルス1母岩（S25-64）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（6/6点）である。

・**S25-60**：自然面は紙ヤスリ状，自然面及び内部は透明な地に暗黒赤褐色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片1点（3.0g）の単独資料である。

・**S25-61**：灰黄褐色（10YR5/2）の部分と灰黄褐色（10YR6/2）の部分がある硬質緻密な頁岩である。クレーター状の剥離痕が見られることから，被熱による変色の可能性が高い。石器群の内訳は，槍先形石器2点（19.4g）である。接合資料は，槍先形石器2点（19.4g）である。

・**S25-62**：灰黄褐色（10YR4/2）・灰白色（2.5Y8/1）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（2.6g）の単独資料である。

・**S25-63**：暗灰黄色（2.5Y5/2）・浅黄色（2.5Y7/4）・灰白色（2.5Y8/2）・褐色（10YR4/4）が縞状あるいは渦

巻き状に混じる硬質緻密な頁岩である。剥片１点（17.8ｇ）の単独資料である。

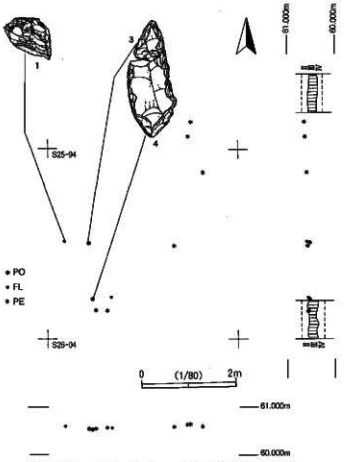
・S25-64：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）のホルンフェルスである。剥片１点（2.6ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第378図１）

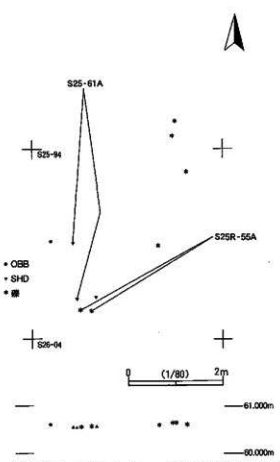
１は信州和田峠周辺産の黒曜石による不定型な剥片である。

４）接合資料とその関連資料（第378図２～４）

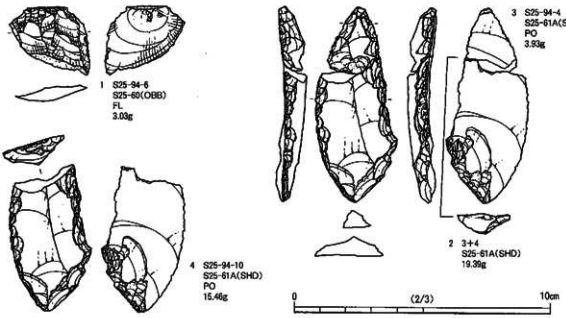
・S25-61（第378図２～４）　灰黄褐色（10YR5/2）などの硬質緻密な頁岩である。２は槍先形石器２点（３・４）の接合資料である。石刃あるいは石刃状の縦長剥片の打面側を基部として，正面の全周と裏面の左側縁下部に調整加工を行っている。３の下部はクレーター状の剥離（剥落）痕が見られ，被熱の可能性がある。４は破損後，折れ面に挟入状の調整加工を行っている。なお，第５a文化層のS26-Aブロックにも類似した周辺加工の槍先形石器（第378図２）が出土しており，調整加工などが若干異なるが，第５b文化層のS25-Gブロックと第５a文化層のS26-Aブロックには，石材等も含め親和性が感じられる。



第376図　S25-Gブロック出土遺物分布（１）
－器種別分布－



第377図　S25-Gブロック出土遺物分布（２）
－石材別分布－



第378図　S25-Gブロック出土遺物

第226表　S25-Gブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
S25-60(OBB)																	1								1
S25-61(SHD)			2																						2
S25-62(SHD)																	1								1
S25-63(SHD)																	1								1
S25-64(HO)																	1								1
合　計			2														4								6

第227表　S25-Gブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
黒曜石B(OBB)																	1								1
頁岩D(SHD)			2														2								4
ホルンフェルスH(HO)																	1								1
合　計			2														4								6

第228表　S25-G ブロック礫組成

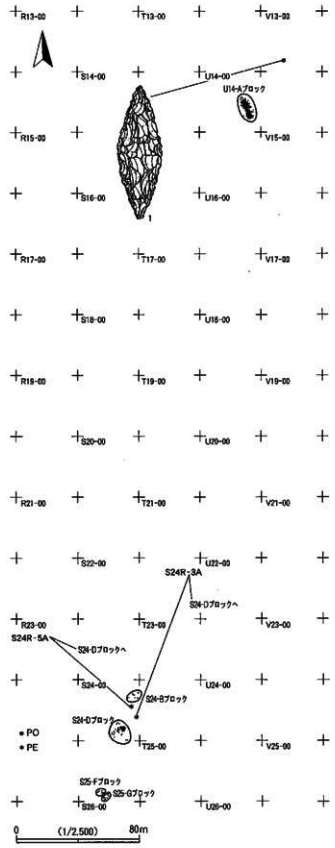
母　岩	石　材	個数	重量
S25R-51	AN	1	51.15
S25R-52	SA	1	85.15
S25R-53	SA	1	40.37
S25R-54	SA	1	5.92
S25R-55	SA	2	131.59

石　材	個数	重量
安山岩(AN)	1	51.15
砂岩(SA)	5	263.03
合　計	6	314.18

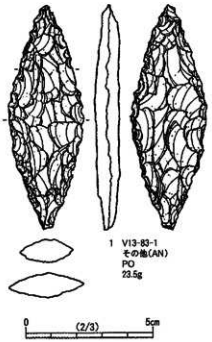
20 ブロック外（第379・380図，カラー図版18）

ここでは第5b文化層のブロックを形成していないグリッド単独（原則として2点以下）の出土遺物について記述する。槍先形石器1点，礫2点の合計3点が出土した。

1は内部が暗灰黄色（2.5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩による槍先形石器である。両面に器体中央に及ぶ調整加工を行った後，最終的に両面の左側縁に細かい調整加工を入念に行って木葉形に仕上げており，周縁は鋸歯状を呈している。



第379図　第5b文化層ブロック外出土遺物分布



第380図　第5b文化層ブロック外出土遺物

第7節　第6文化層

第6文化層は，立川ローム層のソフトローム層（Ⅲ層）上部を中心に包含される細石刃石器群である。M13-A，S25-E・Ⅰブロックの3か所が該当する。

1　M13-Aブロック（第381～387・403図，第229～232表，カラー図版18・24，図版14）

1）ブロックの概要

M13-Aブロックは，調査範囲西側のM13-21～23・32～34・41～43・52～54グリッドに位置する。ブロックの立地は，北側台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は25mである。

ブロックの規模と形状は，長軸15m，短軸8mの範囲に452点の石器・礫と西に3mほど離れて1点の石器が分布する。その内，原位置不明の遺物が7点あり，その他に垂直分布のない遺物が2点ある。出土層位は，Ⅱc層からⅣ層にかけて，60cmほどの高低差をもって包含されているが，中心はⅡc層からⅢ層で，30cmほどである（第381～383図）。

ブロックは，削器1点，楔形石器2点，使用痕ある剥片6点，剥片82点（80個体），砕片270点，細石刃78点，細石刃核2点，不明3点の合計444点（442個体）と礫9点で構成される。石器石材は，黒曜石A58点（57個体），黒曜石B9点，黒曜石G295点，安山岩21点（20個体），軟質の安山岩2点，頁岩D12点，頁岩E13点，チャート7点，凝灰岩17点，粘板岩3点，砂岩2点，石英2点，瑪瑙・玉髄1点，不明2点である。礫石材は，砂岩8点（6母岩；92.1g），識別できなかった砂岩1点（0.2g）で，識別率は89%である。なお，本ブロックでは，細石刃が出土したことから，小グリッドを4分割して各区画毎にフルイを行っている（第232表）。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは24母岩を識別した。内訳は，黒曜石A7母岩（M13-6～12），黒曜石B1母岩（M13-14），黒曜石G4母岩（M13-13・15～17），安山岩5母岩（M13-1～5），頁岩D1母岩（M13-20），頁岩E1母岩（M13-18），チャート1母岩（M13-21），凝灰岩2母岩（M13-19・24），石英1母岩（M13-23），瑪瑙・玉髄1母岩（M13-22）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は32%（140/444点）である。

・M13-1：自然面は爪形の浅い裂痕が粗で黄褐色（2.5Y5/3），内部は暗灰黄色（2.5Y4/2），新鮮な面は灰色（N4/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片12点（49.8g）である。

・M13-2：自然面は爪形の浅い裂痕が密で黄褐色（2.5Y5/3），内部は暗灰褐色（2.5Y4/2）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片3点（2個体；26.6g）である。接合資料は，剥片2点（1個体；23.9g）である。

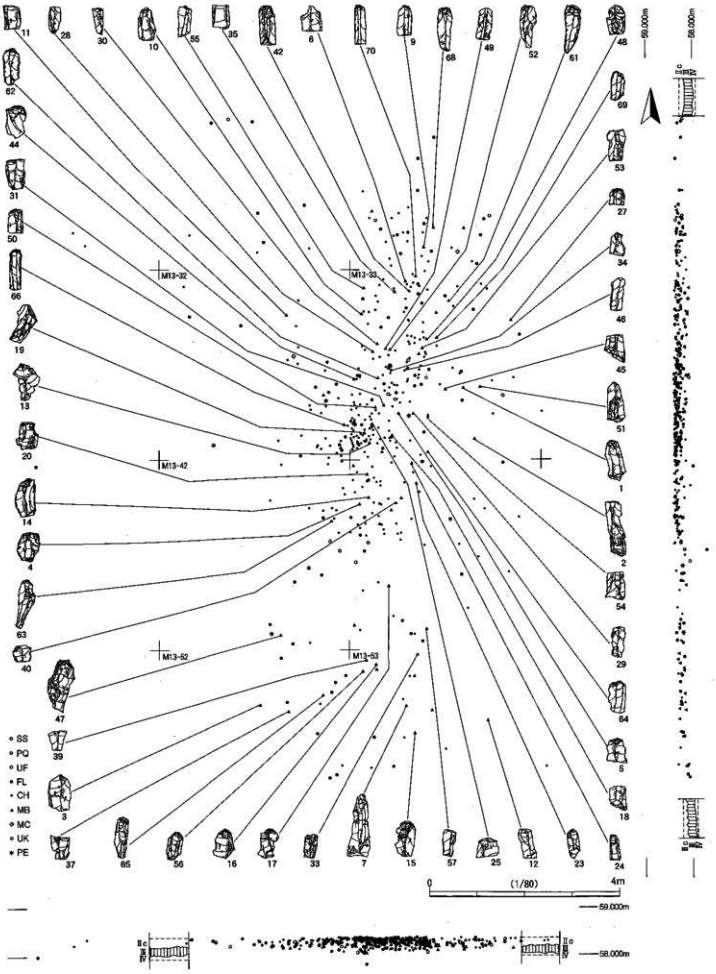
・M13-3：自然面は爪形の浅い裂痕が密でにぶい黄色（2.5Y6/4），内部は暗灰褐色（2.5Y5/2）の安山岩である。剥片1点（1.5g）の単独資料である。

・M13-4：自然面は紙ヤスリ状でにぶい黄褐色（10YR5/4）・明黄褐色（10YR7/6），内部は暗灰黄色（2.5Y4/2），新鮮な面は灰色（N4/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片2点（13.1g）である。

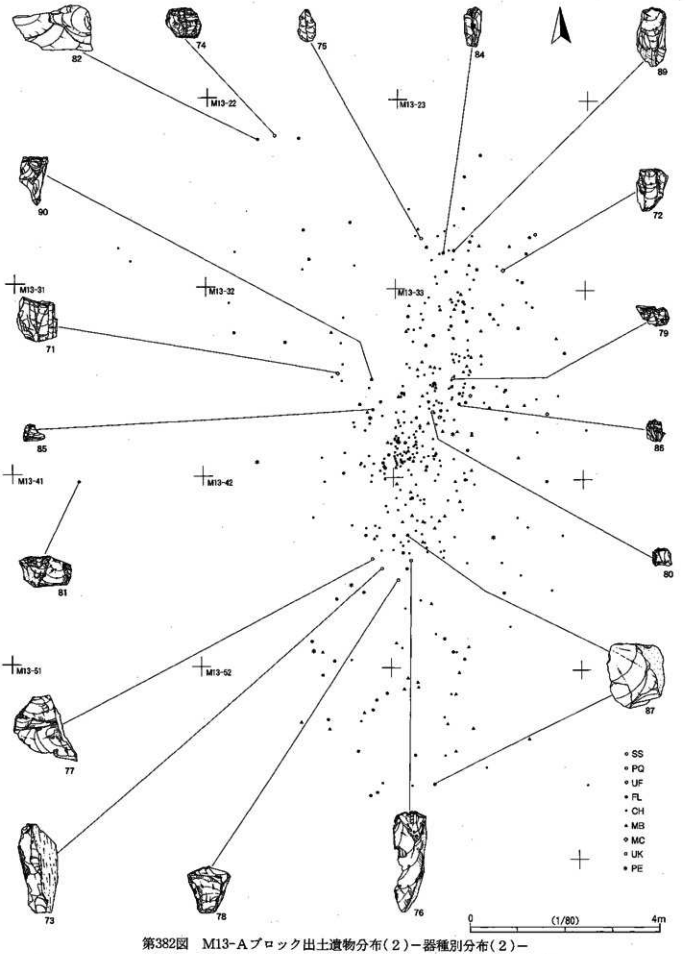
・M13-5：自然面は爪形の浅い裂痕が密で褐色（7.5YR4/6），内部は暗灰黄色（2.5Y4/2），新鮮な面は灰色（N3/0）の安山岩である。剥片1点（14.5g）の単独資料である。

・M13-6：自然面は比較的平滑で黒灰色，内部は黒色の黒曜石である。φ2mmほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片4点，剥片9点（8個体），砕片1点の合計14点（13個体；46.5g）である。接合資料は，剥片2点（1個体；4.3g）である。

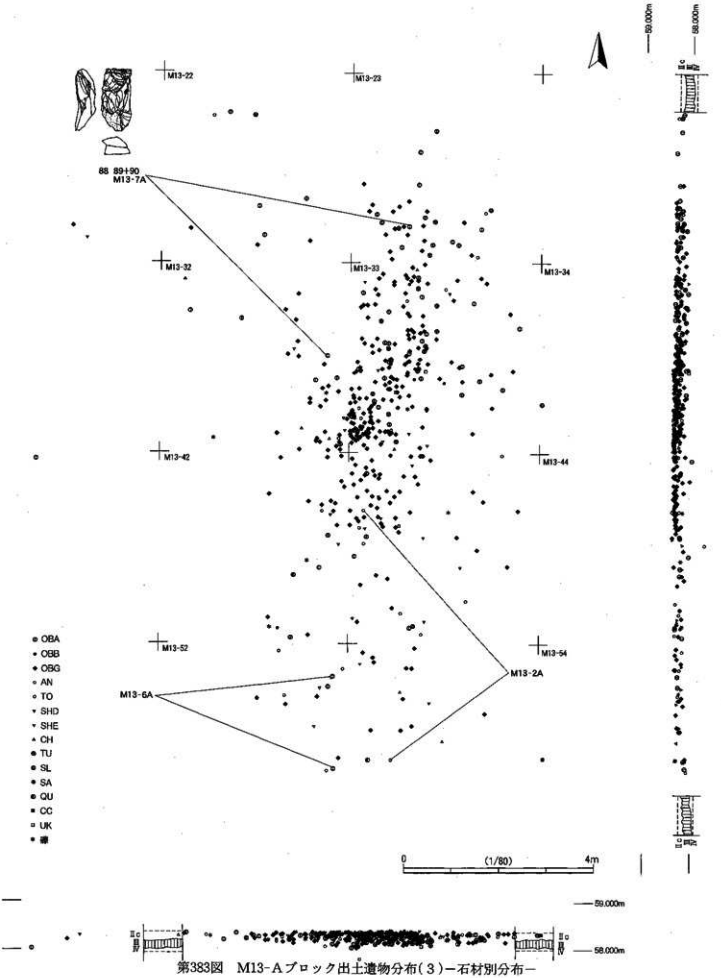
・M13-7：自然面は比較的平滑で灰黄褐色（10YR4/2），内部は黒色の黒曜石である。φ1mm～2mmほどの



第381図　M13-Aブロック出土遺物分布（1）－器種別分布（1）－



第382図　M13-Aブロック出土遺物分布（２）－器種別分布（２）－



第383図　M13-Aブロック出土遺物分布(3)ー石材別分布ー

黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，楔形石器２点，剥片21点，砕片２点，細石刃５点，細石刃核１点の合計31点（51.3ｇ）である。接合資料は，剥片２点（9.2ｇ）である。

・M13-8：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は暗黒灰色で半透明な黒曜石である。φ２㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，剥片４点（1.6ｇ）である。

・M13-9：黒色で半透明な黒曜石である。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。剥片１点（0.6ｇ）の単独資料である。

・M13-10：自然面はスリガラス状，自然面及び内部は半透明な地に黒灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，剥片３点（1.9ｇ）である。

・M13-11：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は黒色の黒曜石である。φ１㎜～３㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。使用痕ある剥片１点（17.1ｇ）の単独資料である。

第229表　M13-Aブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
M13-1(AN)																	12								12
M13-2(AN)																	3(2)								3(2)
M13-3(AN)																	1								1
M13-4(AN)																	2								2
M13-5(AN)																	1								1
M13-6(OBA)											4						9(8)	1							14(13)
M13-7(OBA)										2							21	2				5	1		31
M13-8(OBA)																	4								4
M13-9(OBA)																	1								1
M13-10(OBA)																	3								3
M13-11(OBA)											1														1
M13-12(OBA)																	2					2			4
M13-13(OBG)																	3					2			5
M13-14(OBB)																	2					7			9
M13-15(OBG)																	1					5			6
M13-16(OBG)																						4			4
M13-17(OBG)											1						6					8			15
M13-18(SHE)						1											4					7	1		13
M13-19(TU)																	5					1			6
M13-20(SHD)																	1								1
M13-21(CH)																		1							1
M13-22(CC)																		1							1
M13-23(GU)																	1								1
M13-24(TU)																		1							1
その他(OBG)																		236				29			265
その他(AN)																		2							2
その他(TO)																		2							2
その他(SHD)																		6				5			11
その他(CH)																		5				1			6
その他(TU)																		8				2			10
その他(SL)																		2						1	3
その他(SA)																		2							2
その他(QU)																		1							1
その他(UK)																								2	2
合計						1			2		6						82(80)	270				78	2	3	444(442)

第230表　M13-Aブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
黒曜石A(OBA)									2		5						40(39)	3				7	1		58(57)
黒曜石B(OBB)																	2					7			9
黒曜石G(OBG)											1						10	236				48			295
安山岩(AN)																	19(18)	2							21(20)
安山岩(TO)																		2							2
頁岩D(SHD)																	1	6				5			12
頁岩E(SHE)						1											4					7	1		13
チャート(CH)																		6				1			7
凝灰岩(TU)																	5	9				3			17
粘板岩(SL)																		2						1	3
砂岩(SA)																		2							2
石英(QU)																	1	1							2
瑪瑙・玉髄(CC)																		1							1
その他(UK)																								2	2
合　計						1			2		6						82(80)	270				78	2	3	444(442)

第231表　M13-Aブロック礫組成

母　岩	石 材	個数	重量
M13R-1	SA	1	59.96
M13R-2	SA	1	20.17
M13R-3	SA	2	7.46
M13R-4	SA	2	2.03
M13R-5	SA	1	0.82

母　岩	石 材	個数	重量
M13R-6	SA	1	1.63
その他	SA	1	0.15

石　材	個数	重量
砂岩(SA)	9	92.22
合　計	9	92.22

・**M13-12**：黒灰色で半透明な黒曜石である。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点，細石刃２点の合計４点（1.8ｇ）である。

・**M13-13**：黒灰色で半透明な黒曜石である。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む，被熱により白濁した部分が見られる。産地は不明である。石器群の内訳は，剥片３点，細石刃２点の合計５点（3.4ｇ）である。

・**M13-14**：薄墨を流したような半透明，黒灰色のモヤを若干含む黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点，細石刃７点の合計９点（2.1ｇ）である。

・**M13-15**：薄墨を流したような透明な地に黒灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。産地は不明である。M13-17と同一母岩の可能性がある。石器群の内訳は，剥片１点，細石刃５点の合計６点（2.3ｇ）である。

・**M13-16**：黒灰色で半透明な黒曜石である。産地は不明である。石器群の内訳は，細石刃４点（0.6ｇ）である。

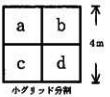
・**M13-17**：薄墨を流したような半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。産地は不明である。M13-15と同一母岩の可能性がある。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片６点，細石刃８点の合計15点（3.7ｇ）である。

・**M13-18**：内部は灰黄色(2.5Y7/2)の地ににぶい黄褐色(10YR5/4)・にぶい赤褐色(5YR4/4)・黒褐色(5YR3/1)が部分的に混じり，節理はにぶい黄褐色(10YR5/4)・にぶい黄褐色(10YR4/3)，新鮮な面は灰黄褐色(10YR5/2)の頁岩である。石器群の内訳は，削器１点，剥片４点，細石刃７点，細石刃核１点の合計13点（70.0ｇ）である。

・**M13-19**：内部は灰白色（2.5GY8/1）・明オリーブ灰色（2.5GY7/1），節理は淡黄色（2.5Y8/4），新鮮な面は暗オリーブ灰色（5GY4/1）の凝灰岩である。石器群の内訳は，剥片５点，細石刃１点の合計６点（4.9ｇ）である。

第232表　M13-Aブロック遺物属性（フルイ分）

グリッド	遺物番号	器種	石材	母岩番号	ブロック	総重量	備考
M13-21d	3	CH	SHE	その他	M13-A	0.02	フルイ－括d.1ヶ
M13-22b	19	CH	UK	その他	M13-A	>0.01	フルイ－括b.同一個体2ヶ
M13-23c	36	MB	OBG	M13-16	M13-A	0.20	フルイ－括c.1ヶ
M13-32d	46-1	MB	OBG	その他	M13-A	0.14	フルイ－括d.1ヶ
M13-32d	46-2	MB	OBG	その他	M13-A	0.09	フルイ－括d.1ヶ
M13-32d	46-3	CH	OBG	その他	M13-A	0.80	フルイ－括d.12ヶ
M13-32d	46-4	MB	SHD	その他	M13-A	0.05	フルイ－括d.1ヶ
M13-32d	46-5	CH	SHD	その他	M13-A	>0.01	フルイ－括d.1ヶ
M13-33a	228-1	MB	OBB	M13-14	M13-A	0.11	フルイ－括a.1ヶ
M13-33a	228-2	CH	OBB	M13-14	M13-A	0.07	フルイ－括a.3ヶ
M13-33a	228-3	CH	OBG	その他	M13-A	0.77	フルイ－括a.10ヶ
M13-33a	228-4	CH	TU	その他	M13-A	0.19	フルイ－括a.6ヶ
M13-33a	228-5	CH	CC	その他	M13-A	0.02	フルイ－括a.1ヶ
M13-33b	229	CH	OBG	その他	M13-A	0.06	フルイ－括b.2ヶ
M13-33c	230-1	CH	OBB	M13-14	M13-A	0.09	フルイ－括c.2ヶ
M13-33c	230-2	MB	OBG	その他	M13-A	0.08	フルイ－括c.1ヶ
M13-33c	230-3	MB	OBG	その他	M13-A	0.11	フルイ－括c.1ヶ
M13-33c	230-4	CH	OBG	その他	M13-A	1.37	フルイ－括c.37ヶ
M13-33c	230-5	CH	TU	その他	M13-A	0.07	フルイ－括c.3ヶ
M13-33c	230-6	UK	SA	その他	M13-A	0.14	フルイ－括c.1ヶ
M13-33c	230-7	MB	SHD	その他	M13-A	0.05	フルイ－括c.1ヶ
M13-33c	230-8	CH	SHD	その他	M13-A	0.04	フルイ－括c.3ヶ
M13-33d	231	CH	OBG	その他	M13-A	0.22	フルイ－括d.1ヶ
M13-42b	29	CH	OBG	その他	M13-A	0.14	フルイ－括b.3ヶ
M13-42d	30	CH	OBG	その他	M13-A	>0.01	フルイ－括d.1ヶ
M13-43a	83-1	MB	SHD	その他	M13-A	0.07	フルイ－括a.1ヶ
M13-43a	83-2	MB	SHD	その他	M13-A	0.02	フルイ－括a.1ヶ
M13-43a	83-3	CH	SHD	その他	M13-A	0.25	フルイ－括a.4ヶ
M13-43a	83-4	CH	OBG	その他	M13-A	0.17	フルイ－括a.3ヶ
M13-43a	83-5	CH	TU	その他	M13-A	0.07	フルイ－括a.1ヶ
M13-43a	83-6	CH	AN	その他	M13-A	0.01	フルイ－括a.1ヶ
M13-43a	83-7	CH	CC	その他	M13-A	0.03	フルイ－括a.1ヶ
M13-43b	84-1	MB	OBG	その他	M13-A	0.24	フルイ－括b.1ヶ
M13-43b	84-2	CH	OBG	その他	M13-A	0.44	フルイ－括b.4ヶ
M13-43b	84-3	CH	CC	その他	M13-A	0.06	フルイ－括b.1ヶ
M13-43b	84-4	CH	TU	その他	M13-A	0.03	フルイ－括b.1ヶ
M13-43c	85-1	MB	OBG	その他	M13-A	0.09	フルイ－括c.1ヶ
M13-43c	85-2	CH	OBG	その他	M13-A	0.18	フルイ－括c.7ヶ
M13-43c	85-3	CH	AN	その他	M13-A	0.12	フルイ－括c.2ヶ
M13-43c	85-4	MB	SHD	その他	M13-A	0.04	フルイ－括c.1ヶ
M13-43c	85-5	CH	SHD	その他	M13-A	0.02	フルイ－括c.1ヶ
M13-43c	85-6	CH	SHE	その他	M13-A	0.15	フルイ－括c.2ヶ
M13-43d	86-1	MB	OBG	その他	M13-A	0.06	フルイ－括d.1ヶ
M13-43d	86-2	CH	OBG	その他	M13-A	0.17	フルイ－括d.3ヶ
M13-52b	16	CH	OBG	その他	M13-A	0.31	フルイ－括b.5ヶ
M13-53a	21-1	MB	SHE	その他	M13-A	0.09	フルイ－括a.1ヶ
M13-53a	21-2	CH	OBG	その他	M13-A	0.54	フルイ－括a.6ヶ
M13-53a	21-3	CH	AN	その他	M13-A	0.03	フルイ－括a.1ヶ
M13-53b	22-1	MB	OBG	その他	M13-A	0.09	フルイ－括b.1ヶ
M13-53b	22-2	CH	OBG	その他	M13-A	0.03	フルイ－括b.1ヶ
M13-不明	不明-1	MB	OBG	M13-14	M13-A	0.02	フルイ－括.1ヶ
M13-不明	不明-2	MB	OBG	その他	M13-A	0.10	フルイ－括.1ヶ
M13-不明	不明-3	CH	OBG	その他	M13-A	1.46	フルイ－括.44ヶ
M13-不明	不明-4	CH	TU	その他	M13-A	1.51	フルイ－括.2ヶ
M13-不明	不明-5	CH	AN	その他	M13-A	0.14	フルイ－括.2ヶ



小グリッド分割

フルイの方法：4mの小グリッドをa～dと4分割し
各区画毎にフルイを行った。

・**M13-20**：内部は暗灰黄色（2.5Y5/2），節理はにぶい黄橙色（10YR7/2）・にぶい褐色（7.5YR5/4）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（1.3ｇ）の単独資料である。

・**M13-21**：オリーブ黒色（5Y3/1）のチャートである。砕片１点（0.2ｇ）の単独資料である。

・**M13-22**：暗褐色（7.5YR3/4）の瑪瑙・玉髄である。砕片１点（0.5ｇ）の単独資料である。

・**M13-23**：自然面は平滑で灰白色（5Y8/2），内部は灰白色（5Y8/1）の石英である。剥片１点（8.5ｇ）の単独資料である。

・**M13-24**：灰白色（7.5Y7/2）の凝灰岩である。砕片１点（0.1ｇ）の単独資料である。

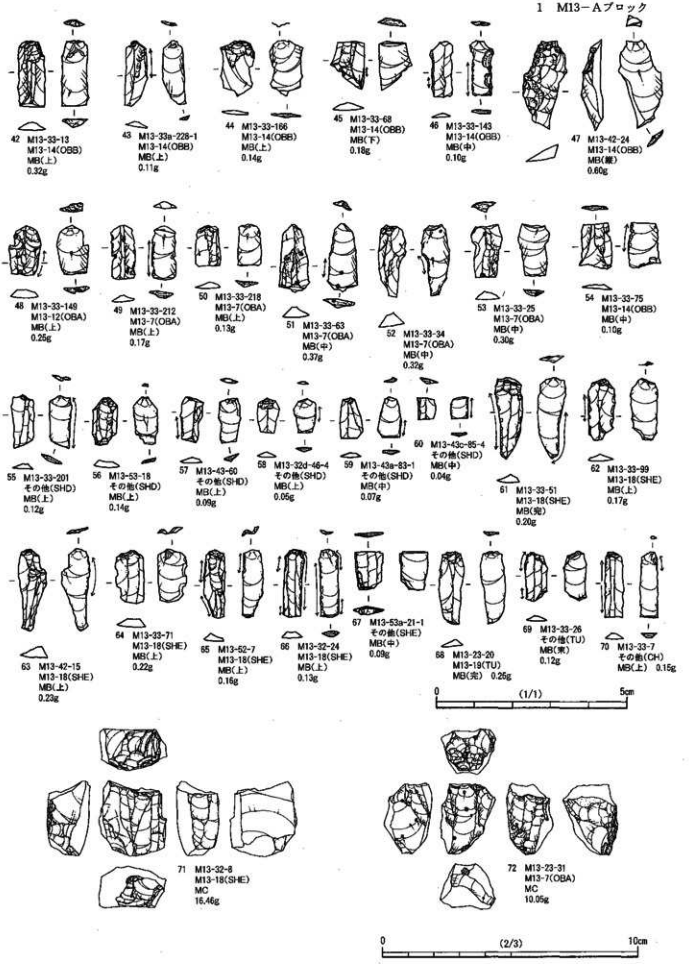
なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Ｇの砕片236点，細石刃29点の合計265点（13.3ｇ）その内0.01ｇ以下の資料が72点ある。安山岩の砕片２点（0.3ｇ），軟質の安山岩の砕片２点（0.2ｇ），頁岩Ｄの砕片６点，細石刃５点の合計11点（1.0ｇ），チャートの砕片５点，細石刃１点の合計６点（0.4ｇ），凝灰岩の砕片８点，細石刃２点の合計10点（1.0ｇ），粘板岩の砕片２点，器種不明１点の合計３点(0.4ｇ)，砂岩の砕片２点（0.2ｇ），石英の砕片１点（0.1ｇ），石材不明の器種不明２点（0.01ｇ以下）がある。

3）出土遺物（第384～386図）

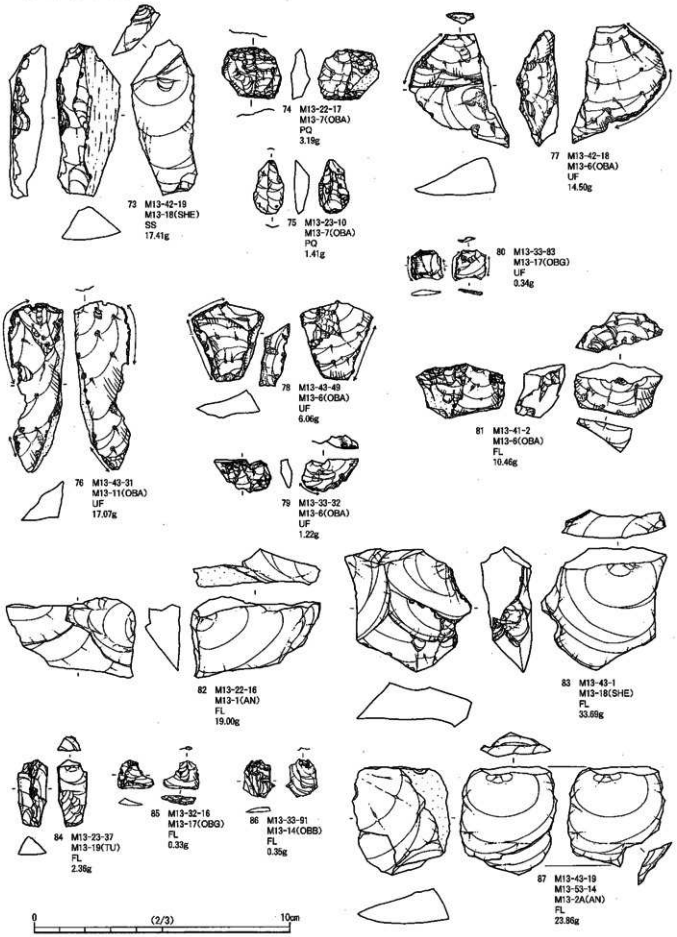
１～41は産地不明の黒曜石，42～47・54は信州和田峠周辺産の黒曜石，48～53は栃木県高原山産の黒曜石，55～60は硬質緻密な頁岩，61～67は頁岩，68・69は凝灰岩，70はチャートによる細石刃である。この内，図示したのは総数94点の内70点である。細石刃の帰属する母岩と点数は，M13-17が８点（９％），M13-14が８点（９％），M13-18が７点（８％），M13-15が５点（５％），M13-７が５点（５％），M13-16が５点（５％），M13-12が２点（２％），M13-13が２点（２％），M13-19が１点（１％），その他が51点（54％）の合計94点（９母岩）である。黒曜石の母岩識別は困難な場合が多く，特に細石刃のような小型の製品の識別には問題があるかもしれない。細石刃の遺存部位は，完形品４点（４％），頭部及び上半部44点（47％），中間部34点（34％），末端部及び下半部10点（11％），縦折れ２点（２％）である。細石刃の最大幅の２㎜ごとの分布は，6.1㎜～8.0㎜の26点（35％）が最も多いが，周辺の4.1㎜～6.0㎜の27点（29％），8.1㎜～10.0㎜の23点（24％）で約90％を占め，以下，2.1㎜～4.0㎜の８点（９％），10.0㎜～の３点（３％）となっている。微細な剥離痕や極めて微細な剥離痕が見られるもの（２・５・８～10・13・14・21・23・26・31・33・35～38・40・41・43・45・46・48・49・51・52・54・55・57～63・65・66・69・70）は，43点（46％）で約半数に観察される。打面調整が見られるもの（３～５・10・42・43・48・68）は８点（９％）と少ないが，頭部調整が見られるもの（１・５・13～15・17・23・24・27・42・43・50・56・58・61・63～66・68・70）は23点（25％）である。また，11は裏面右側縁に細かい調整加工を行っている。なお，（ ）内は図示した挿図番号で，それぞれの総数とは異なる。

71は頁岩，72は栃木県高原山産の黒曜石による野岳ー休場型の細石刃核である。両者とも厚みのある剥片を素材としている。71は打面は３か所ほどある。打面の新旧順に古いものから追ってみると，①主体となる上面の打面は10枚ほどの剥離面で打面を作り，細かい打面調整や頭部調整を行いながら，細石刃を剥離している。作業面は正面から右側面にかけてのほぼ半周である。②下面の打面は４枚ほどの剥離面で打面を作り，打面調整を行いながら，不定型な細石刃状の縦長剥片を剥離しているが，意図した細石刃が剥離できなかったため，剥離作業を停止している。そのため，作業面は正面の１面である。次に，打点を90度転移し，③裏面側の素材の主要剥離面を打面として，頭部調整を行いながら，２枚ほど細石刃状の縦長剥片を剥離している。作業面は左側面の１面である。打面と作業面とのなす角度はそれぞれ，①正面で90

第384図　M13-Aブロック出土遺物(1)



第385図　M13－Aブロック出土遺物(2)



第386図　M13-Aブロック出土遺物(3)

度前後，右側面で107度，②107度，③90度前後で，作業面長は①正面と右側面で25㎜前後，②20㎜前後，③10㎜前後である。72は打面は２か所ほどある。打面の新旧順に古いものから追ってみると，①主体となる上面の打面は細かい調整加工により打面を作り，多少頭部調整を行いながら，細石刃を剥離している。作業面は正面から右側面にかけてのほぼ半周である。次に，打点を90度転移し，②左側面の打面は素材の主要剥離面を打面として，頭部調整を行いながら，２枚ほど不定型な細石刃状の縦長剥片を剥離している。作業面は裏面の１面である。打面と作業面とのなす角度はそれぞれ，①80度～90度，②90度前後で，作業面長は①25㎜前後，②20㎜前後である。

73は頁岩による削器で，縦長剥片の右側縁に調整加工を行っている。

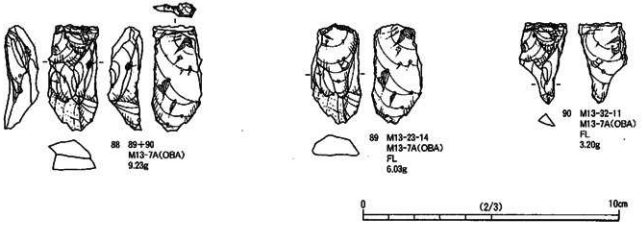
74・75は栃木県高原山産の黒曜石による楔形石器で，上下両端に対向する剥離痕が見られる。

76～79は栃木県高原山産の黒曜石，80は産地不明の黒曜石による使用痕ある剥片である。76は縦長剥片の正面打面からの左側縁にかけてと裏面の左側縁下部と右側縁上半部，77～80は不定型な剥片で，77は正面左側縁上半部と裏面右側縁，78は正面の打面と左側縁，裏面の右側縁，79は裏面末端の一部，80は両面の両側縁に微細な剥離痕が見られる。

81は栃木県高原山産の黒曜石，82・87は安山岩，83は頁岩，84は凝灰岩，85は産地不明の黒曜石，86は信州和田峠周辺産の黒曜石による縦長や不定型な剥片である。なお，87は２点が接合して１個体となる。

４）接合資料とその関連資料（第387図）

・M13-7（第387図）　黒色の黒曜石である。栃木県高原山産と考えられる。88は剥片２点（89・90）の接合資料である。90は稜上調整剥片である。



第387図　M13-Aブロック出土遺物（４）

2　S25-Eブロック（第388～390・403図，第233・234表，カラー図版18）

1）ブロックの概要

S25-Eブロックは，調査範囲東側のS25-65・75グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は35mである。

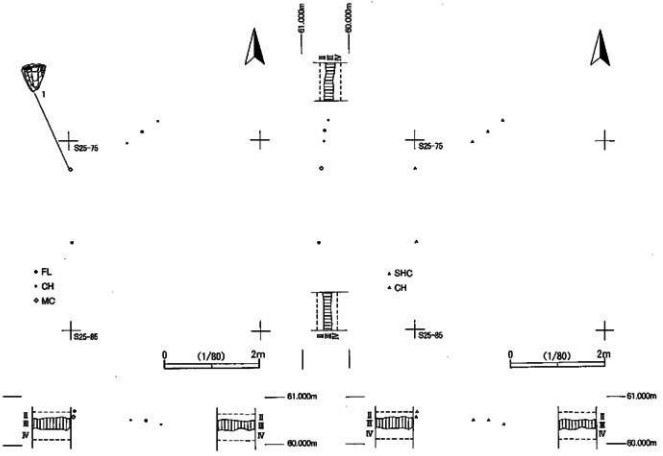
ブロックの規模と形状は，長軸3m，短軸1mの範囲に6点の石器が分布する。その内，原位置不明の遺物が1点ある。出土層位は，Ⅱ層からⅢ層にかけて，30cmほどの高低差をもって包含されている（第388・389図）。

ブロックは，剥片3点，砕片2点，細石刃核1点の合計6点で構成される。石器石材は，頁岩C3点，頁岩E1点，チャート2点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは5母岩を識別した。内訳は，頁岩C3母岩（S25-10～12），頁岩E1母岩（S25-13），チャート1母岩（S25-14）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（6/6点）である。

・S25-10：暗灰黄色（2.5Y4/2）の嶺岡産頁岩としたが，硬質緻密な頁岩の可能性がある。細石刃核1点（3.5g）の単独資料である。



第388図　S25-Eブロック出土遺物分布（1）
－器種別分布－

第389図　S25-Eブロック出土遺物分布（2）
－石材別分布－

・S25-11：黄褐色（2.5Y5/3）の嶺岡産頁岩である。砕片１点（0.1ｇ）の単独資料である。

・S25-12：自然面は比較的平滑でにぶい褐色(7.5YR5/3)，内部は灰黄褐色(10YR5/2)・にぶい赤褐色(2.5YR4/3)の嶺岡産頁岩である。剥片１点（0.7ｇ）の単独資料である。

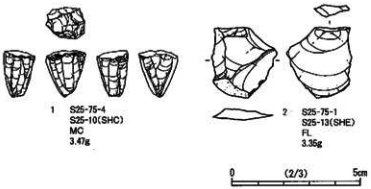
・S25-13：自然面は平滑でにぶい黄橙色（10YR6/4），内部は灰黄褐色（10YR4/2）・にぶい黄橙色（10YR6/4）・黒色（10YR2/1）が縞状に入る頁岩である。剥片１点（3.4ｇ）の単独資料である。

・S25-14：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は黄褐色（2.5YR5/4）の資料，内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰オリーブ色（5Y6/2）の資料など母岩内に変異があるチャートである。石器群の内訳は，剥片１点，砕片１点の合計２点（3.8ｇ）である。

3）出土遺物（第390図）

１は嶺岡産頁岩による野岳－休場型の細石刃核である。６枚ほどの剥離面で打面を作り，打面調整や頭部調整を行いながら，細石刃を剥離している。作業面は全周である。打面と作業面とのなす角度は90度前後で，作業面長は18mm前後である。

２は頁岩による不定型な剥片である。



第390図　S25-Eブロック出土遺物

第233表　S25-Eブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
S25-10(SHC)																							1		1
S25-11(SHC)																		1							1
S25-12(SHC)																	1								1
S25-13(SHE)																	1								1
S25-14(CH)																	1	1							2
合　計																	3	2					1		6

第234表　S25-Eブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合　計
頁岩C(SHC)																	1	1					1		3
頁岩E(SHE)																	1								1
チャートH(CH)																	1	1							2
合　計																	3	2					1		6

3　S25-Ⅰブロック（第391～393・403図，第235・236表，カラー図版18）

1）ブロックの概要

S25-Ⅰブロックは，調査範囲東側のS25-62・72グリッドに位置する。ブロックの立地は，南側南台地上で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は30mである。

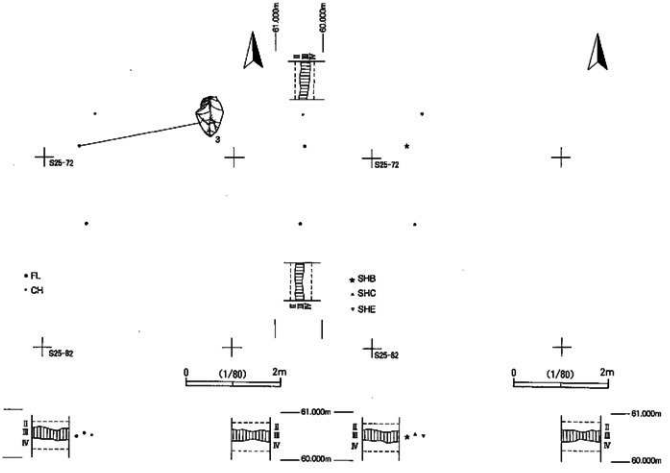
ブロックの規模と形状は，２mの直線状に７点の石器が分布する。その内，原位置不明の遺物が４点ある。出土層位は，Ⅲ層を中心に，10cmほどの高低差をもって包含されている（第391・392図）。

ブロックは，加工痕ある剥片１点，剥片４点，砕片１点，細石刃核１点の合計７点で構成される。石器石材は，黒曜石Ｆ１点，軟質の安山岩１点，頁岩Ｂ１点，頁岩Ｃ１点，頁岩Ｅ２点，チャート１点である。る。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは７母岩を識別した。内訳は，黒曜石Ｆ１母岩（S25-65），軟質の安山岩１母岩（S25-72），頁岩Ｂ１母岩（S25-66），頁岩Ｃ１母岩（S25-67），頁岩Ｅ２母岩（S25-68・69），チャート１母岩（S25-70）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（7/7点）である。

・S25-65：黒色の黒曜石である。φ１mmほどの灰白色・黄灰色の夾雑物を含む。神津島産と考えられる。加



第391図　S25-Ⅰブロック出土遺物分布（１）
－器種別分布－

第392図　S25-Ⅰブロック出土遺物分布（２）
－石材別分布－

工痕ある剥片１点（4.5ｇ）の単独資料である。

・S25-66：にぶい黄褐色（10YR4/3）の北関東産頁岩である。剥片１点（1.8ｇ）の単独資料である。

・S25-67：黄褐色（2.5Y5/3）・灰色（5Y5/1）・明褐色（7.5YR5/8）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（0.8ｇ）の単独資料である。

・S25-68：灰白色（2.5Y8/2）の地に浅黄色（2.5Y7/4）が部分的に混じる頁岩である。細石刃核１点（7.1ｇ）の単独資料である。

・S25-69：灰黄色（2.5Y6/2）の頁岩である。砕片１点（0.4ｇ）の単独資料である。

・S25-70：自然面は平滑で灰オリーブ色(5Y4/2)・オリーブ黒色(5Y3/1)，内部は暗オリーブ灰色(5GY4/1)・灰オリーブ色（5Y6/2），新鮮な面はにぶい黄橙色（10YR6/4）のチャートである。剥片１点（6.0ｇ）の単独資料である。

・S25-72：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰白色（5Y7/1）の地に浅黄色（2.5Y7/4）が部分的に混じり，新鮮な面は灰色（N6/1）の軟質の安山岩である。剥片１点（8.7ｇ）の単独資料である。

3）出土遺物（第393図）

１は頁岩による野岳－休場型の細石刃核である。打面は２か所ほどあり，両設打面と考えられる。なお，これらを打面とする作業面等に新旧関係がないので順に追うことはできないが，①主体となる上面の打面は３枚ほどの剥離面で打面を作り，打面調整や頭部調整を行いながら，細石刃を剥離している。なお，この打面に残る剥離痕は細石刃状の細長いものであることから，細石刃を剥離した作業面の可能性がないとは言えない。作業面は正面のほぼ半周と思われる。ただし，正面左端には最小幅が５㎜，最大幅が10㎜の末広がりの剥離痕が見られ，右側の作業面に切られていることを考えると，細石刃の作業面としてはやや広すぎるかもしれない。②下面の打面は５枚ほどの剥離面で打面を作り，打面調整や頭部調整を行いながら，細石刃状を剥離している。打面と作業面とのなす角度はそれぞれ，①75度前後，②85度前後で，作業面長は①23㎜前後，②19㎜前後である。また，裏面の右側には頭部調整を伴う幅広の剥離痕が見られるが，

第235表　S25-Ⅰブロック母岩別石器組成

母岩番号	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
S25-65(OBF)										1															1
S25-66(SHB)																	1								1
S25-67(SHC)																	1								1
S25-68(SHE)																							1		1
S25-69(SHE)																		1							1
S25-70(CH)																	1								1
S25-72(TO)																	1								1
合　計										1							4	1					1		7

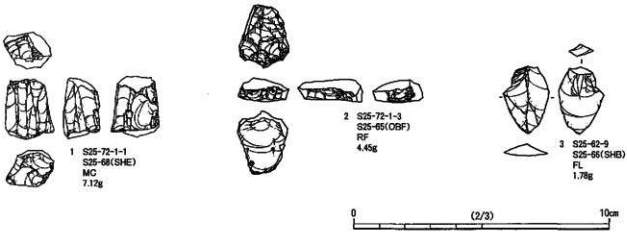
第236表　S25-Ⅰブロック石材別石器組成

石　材	KN	TP	PO	KP	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	PT	HS	AS	FL	CH	CO	SM	SP	MB	MC	UK	合計
黒曜石F(OBF)										1															1
安山岩(TO)																	1								1
頁岩B(SHB)																	1								1
頁岩C(SHC)																	1								1
頁岩E(SHE)																		1					1		2
チャート(CH)																	1								1
合　計										1							4	1					1		7

この面は②の作業面に切られている。

2は神津島産の黒曜石による加工痕ある剥片で，素材の末端に細かい調整加工を行っている。なお，素材は細石刃核の打面再生剥片と思われる。その場合，作業面は左側面を除くほぼ半周と思われ，打面と作業面とのなす角度は，①正面が90度前後，②右側面が100度前後，③裏面が110度前後である。

3は北関東産頁岩による縦長剥片である。

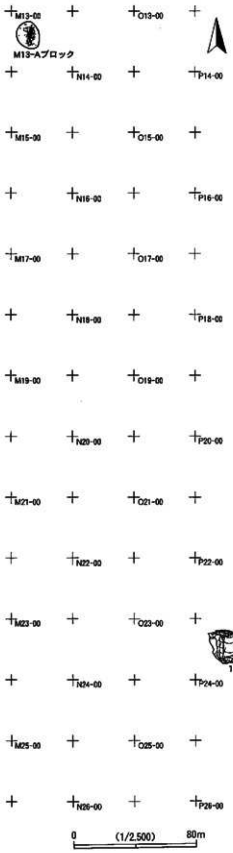


第393図　S25-Ⅰブロック出土遺物

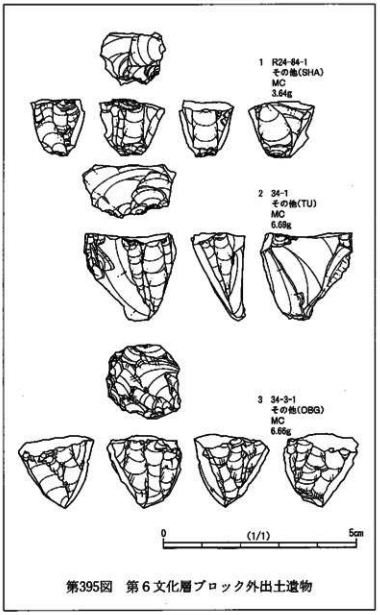
4　ブロック外（第394・395図，カラー図版18）

ここでは第6文化層のブロックを形成していないグリッド単独（原則として2点以下）の出土遺物について記述する。細石刃核3点が出土した。

1は黒褐色（10YR3/2）の東北産頁岩，2は明オリーブ灰色（2.5GY7/1）の凝灰岩，3は若干褐色がかった暗黒灰色で，φ1㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む産地不明の黒曜石による野岳－休場型の細石刃核である。1は4枚ほどの剥離面で打面を作り，打面調整や頭部調整を行いながら，細石刃を剥離している。作業面は全周である。打面と作業面とのなす角度は80度前後で，作業面長は14㎜前後である。また，下端部には作業面の剥離方向に対向する剥離痕が見られるが，両極打法等によるものと思われる。2は多少厚みのある剥片を素材として，3枚ほどの剥離面で打面を作り，打面調整を行いながら，細石刃を剥離している。作業面は正面から右側面にかけての1面と考えられる。なお，図示していないが，左側面には長さ5㎜，幅1㎜の細長い剥離痕が4枚ほど残っている。打面と作業面とのなす角度は85度前後で，作業面長は22㎜前後である。なお，M13-AブロックのM13-19母岩に類似した石材である。3は厚みのある剥片を素材として，5枚ほどの剥離面で打面を作り，打面調整を行いながら，細石刃を剥離している。作業面は全周である。打面と作業面とのなす角度は66度～85度で，作業面長は20㎜前後である。なお，左側面の左側には，作業面の剥離方向に対向する剥離痕が見られるが，素材の剥離面である。



第394図　第６文化層ブロック外出土遺物分布

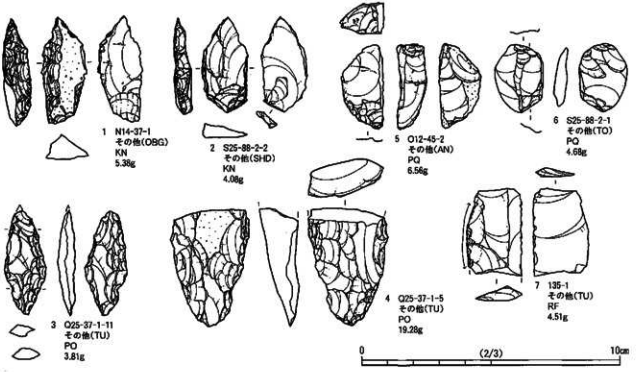


第395図　第６文化層ブロック外出土遺物

第８節　時期不明（第396図，カラー図版18）

ここでは帰属時期が不明でブロックを形成していないグリッド単独（原則として２点以下）の出土遺物について記述する。ナイフ形石器２点，槍先形石器２点，楔形石器３点，加工痕ある剥片５点，使用痕ある剥片１点，剥片18点，砕片２点，石核１点，礫10点の合計44点が出土した。

１は自然面が比較的平滑，自然面及び内部は黒色でφ１mmほどの夾雑物を含む産地不明の黒曜石による二側縁加工のナイフ形石器である。横長剥片を横位に用い，左側縁はほぼ垂直，右側縁の下半部は細かい調整加工を行っており，左側縁には稜上調整も見られる。素材の用い方，調整加工のあり方などから，第４文化層に帰属する可能性がある。２はにぶい黄橙色（10YR6/3）の硬質緻密な頁岩による二側縁加工のナイフ形石器である。縦長剥片の打面側を基部として，左側縁はほぼ垂直，右側縁の下半部は細かい調整加工を行っている。３は暗灰黄色（2.5Y5/2）の凝灰岩，４は自然面が平滑でにぶい橙色（7.5YR6/4），内部はにぶい黄色（2.5Y6/3）の凝灰岩による槍先形石器である。旧石器時代最終末から縄文時代草創期に属する可能性もあると考え，時期不明としたが，第６文化層に帰属する可能性がある。３は両面の右側と正面の左側の基部，裏面の左側の先端部で器体中央に及ぶ調整加工を行った後，正面側で周辺への細かい調整加工を行って，木葉形に仕上げている。４は両面とも器体中央に及ぶ調整加工を行った後，両面の右側縁側に細かい調整加工を行って，木葉形に仕上げている。５は自然面が若干凹凸があり暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は灰色（N4/0）の安山岩，６は灰色（7.5Y6/1）の軟質の安山岩による楔形石器で，５は正面の下部と右側面の上部，６は両面の上下両端に対向する剥離痕が見られる。７はにぶい黄褐色（10YR5/3）の凝灰岩による加工痕ある剥片である。石刃状の縦長剥片の左側縁に細かい調整加工を行っており，微細な剥離痕も見られる。なお，裏面左側縁に見られる細かい剥離痕は，ガジリの可能性が高い。



第396図　時期不明出土遺物

第3章　まとめ

押沼第２遺跡では，91か所のブロックから約8,900点の石器が出土した。これらは，立川ローム層第２黒色帯下半部から立川ローム層最上部にかけての各層準から出土しており，石器群の内容とその出土層準から帰属時期不明の１枚を含み７枚の文化層に区分した。第１文化層は４か所，第２文化層は６か所，第３文化層は26か所，第４文化層は34か所，第５文化層は，２枚に細分され，第５a文化層は13か所，第５b文化層は５か所，第６文化層は３か所のブロックが検出されている。

第１文化層

第１文化層は，立川ローム層第２黒色帯下半部（Ⅸ層下部）を中心に包含される石器群で，ナイフ形石器，削器，楔形石器，加工痕ある剥片，使用痕ある剥片，石刃，局部磨製石斧，敲石，剥片，砕片，石核，礫が出土している。S15-A，V16-A，V17-A，N18-Dブロックの４か所が該当する。

第２文化層

第２文化層は，立川ローム層第２黒色帯下半部（Ⅶ層～Ⅸ層）に包含される石器群で，ナイフ形石器，楔形石器，加工痕ある剥片，使用痕ある剥片，石刃，局部磨製石斧，剥片，砕片，石核，礫が出土している。S24-F，R24-A，Q25-B，S25-K，S26-E・Fブロックの６か所が該当する。本文化層は出土層位に幅があることなどから，細分される可能性もある。

第３文化層

第３文化層は，立川ローム層のハードローム層から第２黒色帯上半部(Ⅵ層～Ⅶ層)にかけて包含される石器群で，ナイフ形石器，掻器，削器，彫器，錐状石器，楔形石器，加工痕ある剥片，使用痕ある剥片，石刃，礫器，敲石，剥片，砕片，石核，原石，礫が出土している。M13-B，K15-A，S14-A，V18-B，N17-A・B，M18-A，N18-A～C・E～H，N19-A・B，M20-A，Q20-A，S20-A・B，T20-A，U20-B・C，U21-A・B，S26-Cブロックの26か所が該当する。M18-A，M20-A，N17-A，N18-A・E～H，N19-A・B，S20-A・B，T20-A，U20-B・Cブロック，ブロック外（N17-63，M18-19グリッド）にはブロック間に接合関係，これら及びN18-Bブロックにはブロック間に母岩の共有関係がある。

これらの石器群は，県内では八千代市権現後遺跡第４文化層や印西市木刈峠遺跡１・７・24ユニット，県外では神奈川県寺尾遺跡や東京都鈴木遺跡などと共通し，武蔵野台地のⅥ層石器群に相当するものとされようが，近年，木更津市下野洞遺跡第２～５集中部のⅤ層上部からⅥ層下部にかけて信州産の良質な黒曜石による石刃状の縦長剥片を素材とする多数のナイフ形石器，掻器などを伴う石器群が報告され，今後，その出土層位も含め，Ⅵ層上部～Ⅴ層下部出土の信州産の良質な黒曜石あるいは高原山産黒曜石による石器群やⅦ層上部出土の珪化度の高い頁岩類による石器群などと併せて，いわゆるＡＴ降灰前後の石器群の詳細な再検討が必要と思われる。

また，J6-59・69，K6-50・60グリッドのⅦ層では比較的大型の炭化材や焼土を伴った炭化物集中地点が検出されている。

なお，草刈遺跡（東部地区及び西部地区旧石器時代）の報告書で，押沼第１遺跡の旧Ｇ地点の石器群について，周辺の草刈遺跡との関連で，以下のようにふれられている。草刈遺跡東部地区第５文化層では，①；草刈遺跡Ｃ区C16-Aブロックの石器群に代表されるような東北産頁岩によるナイフ形石器と石刃（搬

入された製品)，大型石刃に由来する石核とその剥片類で構成される石器群と高原山産黒曜石によるナイフ形石器，剥片類（遺跡内で製作）で構成される石器群の２者が複合するもの。②；草刈遺跡Ｃ区C58B-Ａブロックの石器群に代表されるような東北産の可能性もある産地不明の頁岩を用いた石器群と信州産の良質な黒曜石による石器群の２者で構成されるもの。③；草刈遺跡Ｃ区C61-Ｅブロックや草刈遺跡Ｄ区C57-Ａブロックの石器群に代表されるような横岡産頁岩や頁岩，凝灰岩，チャート，砂岩，ホルンフェルス，安山岩など東関東一帯で採取可能な各種石材で，その多くは房総半島南部で採取されたと考えられる石材を用いた石器群。また，草刈遺跡では良好な資料が検出されていないが，同一事業地内で本遺跡から2.5kmほど離れた位置の押沼第１遺跡には，④：押沼第１遺跡Ｇ地点の石器群に代表されるような上記①～③とは異なる，信州産の良質な黒曜石を主体として，東北産頁岩，東関東～房総半島産各種石材が複合する中・小型石刃石器群が検出されており，以上の４グループは，出土層位に若干の違いはあっても概ね同時期に帰属する石器群で，相互に連続する編年的差異を持つものではないと考えられている。草刈遺跡西部地区の各ブロックの石器群は，小規模ではあるが，東部地区に比べると，石器組成と石材の構成がまとまっており，②ないし④と類似点が多い。

第４文化層

第４文化層は，立川ローム層のソフトローム層下部（Ⅳ層）からハードローム層最上部（Ⅴ層）にかけて包含される石器群で，ナイフ形石器，角錐状石器，掻器，削器，彫器，楔形石器，加工痕ある剥片，使用痕ある剥片，石刃，敲石，台石，剥片，砕片，石核，原石，礫が出土している。J13-Ａ，M16-Ａ～Ｃ，Ｐ14-Ａ・Ｂ，R14-Ａ，V13-Ａ～Ｃ・Ｅ，U14-Ｂ，V17-Ｂ，V18-Ａ，U20-Ａ，U21-Ｃ～Ｈ，N21-Ａ，N22-Ａ，R22-Ａ・Ｂ，S23-Ａ，R25-Ａ～Ｄ，Q25-Ａ，M25-Ａ～Ｃブロックの34か所が該当する。武蔵野台地のⅣ層下部の石器群に概ね相当すると考えられる。M16-Ａ・Ｂ，P14-Ａ・Ｂ，Q25-Ａ，R22-Ｂ，R25-Ａ～Ｄ，U21-Ｃ・Ｄ・Ｆ・Ｇ，V13-Ｂ・Ｃ・Ｅブロック，ブロック外（R24-81グリッド）についてはブロック間に接合関係がある。最も多くのブロック及び石器が発見された文化層である。

第５文化層

第５文化層は，立川ローム層のソフトローム層（Ⅲ層）を中心に包含される石器群で，石器群の内容から２枚に分けた。ナイフ形石器を主体とする第５a文化層は，ナイフ形石器，槍先形石器，掻器，楔形石器，加工痕ある剥片，使用痕ある剥片，石刃，敲石，剥片，砕片，石核，礫が出土している。L13-Ａ，T24-Ａ，S24-Ａ・Ｃ・Ｅ，S25-Ａ～Ｄ・Ｊ，S26-Ａ・Ｂ・Ｄブロックの13か所が該当する。槍先形石器を主体とする第５b文化層は，槍先形石器，削器，彫器，楔形石器，加工痕ある剥片，使用痕ある剥片，剥片，砕片，石核，礫が出土している。U14-Ａ，S24-Ｂ・Ｄ，S25-Ｆ・Ｇブロックの５か所が該当する。武蔵野台地のⅣ層上部の砂川期の石器群に概ね相当すると考えられる。第５a文化層のS26-Ａ・Ｂ・Ｄ・Ｊブロック，第５b文化層のS24-Ｄブロック，ブロック外（S24-48・69グリッド）についてはブロック間に接合関係がある。

第６文化層

第６文化層は，立川ローム層のソフトローム層（Ⅲ層）上部を中心に包含される石器群で，削器，楔形石器，加工痕ある剥片，使用痕ある剥片，剥片，砕片，細石刃，細石刃核，礫が出土した。M13-Ａ，S25-Ｅ・Ｉブロックの３か所が該当する。野岳－休場型の細石刃核や細石刃などが出土しており，ちはら台地区では最も多くの細石刃石器群が発見された。

時期不明

この他，R14-73グリッドの１か所の単独出土地点から石器１点が出土しているが，出土層準が不明なため，帰属文化層を決定することができなかった。

ブロック別石器垂直分布グラフについて（第397～403図）

ブロック別に石材による遺物の出土レベルを10cm刻みに区切り，出土点数をグラフ化した。

石器石材について

本遺跡では，既報告の草刈遺跡，押沼大六天遺跡，ナキノ台遺跡，押沼第１遺跡と同様に，東北産頁岩・北関東・東関東方面と考えられている頁岩，県南嶺岡産と考えられている頁岩，上総丘陵砂礫層ほかと考えられているチャート・砂岩・凝灰岩・瑪瑙・玉髄，信州産・栃木県高原山産などと考えられる黒曜石，産地の特定できない安山岩などが用いられている。頁岩類については，田村　隆氏を中心に精力的な産地探索が継続されており，その実態も判明しつつあるようである。なお，本報告では，珪化度の高いものも頁岩に区分し，「珪質頁岩」を用いていない。また，土色計及び標準土色帖のマンセル表色系による色調の表示は，遺跡内で出土した石器の母岩をまとめる上などで有効であった。

遺物データ管理システムについて

押沼第２遺跡のデータ管理については，株式会社パスコの遺物データ管理システムPADRAS-T3Diにより，グリッド・遺物番号・器種・石材・母岩番号・ブロック・重量・Ｘ座標・Ｙ座標・標高の10項目についてExel形式で保存されており，今後の活用に備えている。

参考文献

（財）千葉県文化財センター　1987　『千葉県文化財センター研究紀要』11号

（財）千葉県文化財センター　2001　『千葉県文化財センター研究紀要』22号

加納　実ほか　2003　「房総の石器石材２　－白滝層の珪質頁岩－」『千葉県史料研究財団だより』第14号

田村　隆ほか　2003　「下野－北総回廊外縁部の石器石材（第１報）　－特に珪質頁岩の分布と産状について－」『千葉県史研究』第11号

田村　隆ほか　2004　「下野－北総回廊外縁部の石器石材（第２報）」『千葉県史研究』第12号

（財）千葉県文化財センター　2004　『千原台ニュータウンＸ　－市原市草刈遺跡（東部地区旧石器時代）－』

（財）千葉県文化財センター　2005　『千原台ニュータウンXII　－市原市草刈遺跡（西部地区旧石器時代）－』

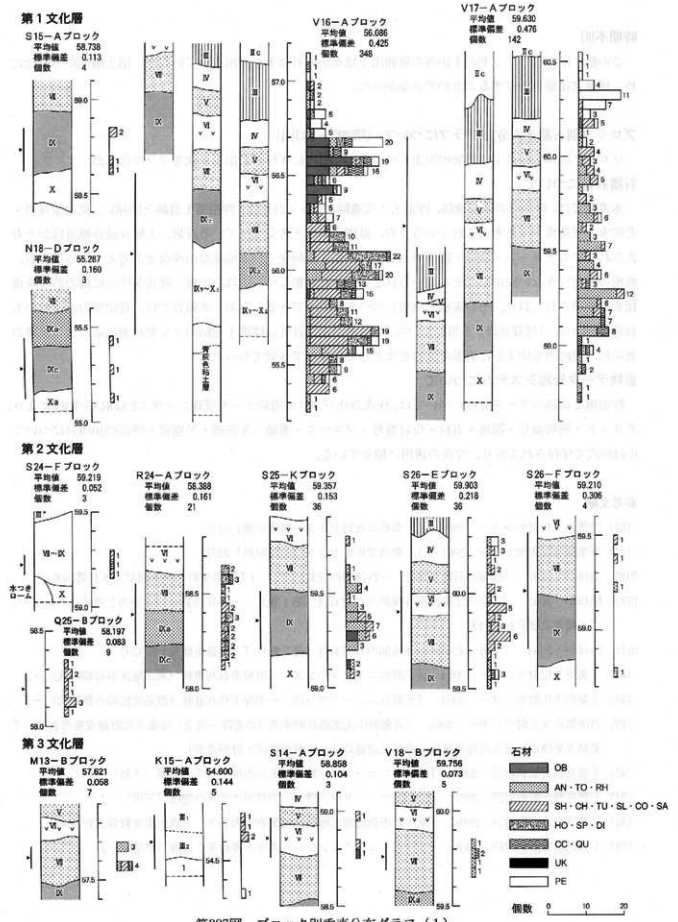
（財）君津郡市文化財センター　2005　『首都圏中央連絡自動車道（木更津～東金）埋蔵文化財調査報告書２　千葉県木更津市　巡礼街道遺跡１・巡礼街道遺跡２・下野洞遺跡・野洞遺跡』

（財）千葉県教育振興財団　2006　『千原台ニュータウンXV　－市原市押沼大六天遺跡（下層）－』

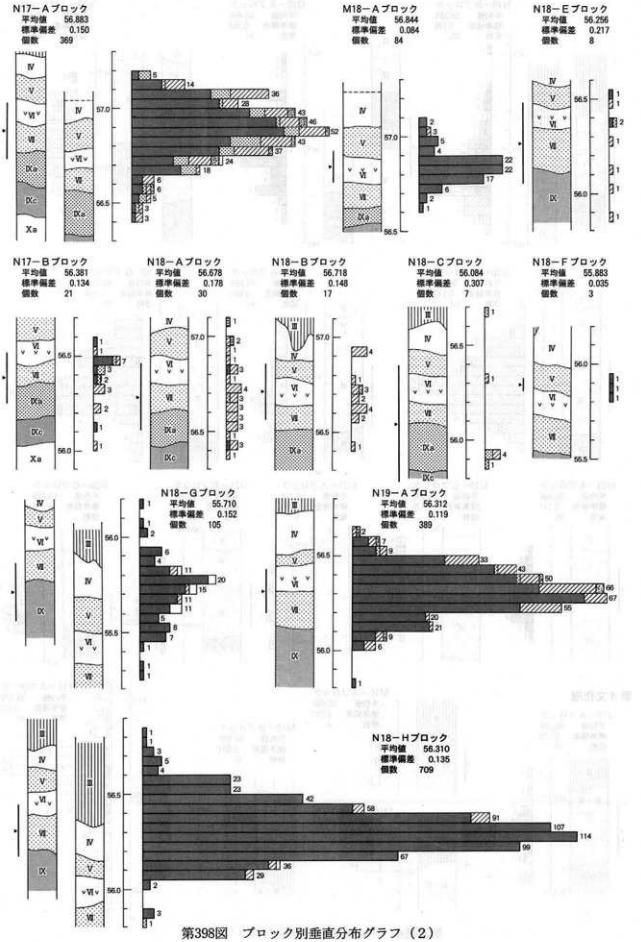
（財）千葉県教育振興財団　2007　『千原台ニュータウンXVI　－市原市ナキノ台遺跡（下層）－』

（財）千葉県教育振興財団　2008　『流山新市街地地区埋蔵文化調査報告書３　－流山市市野谷人台遺跡－』

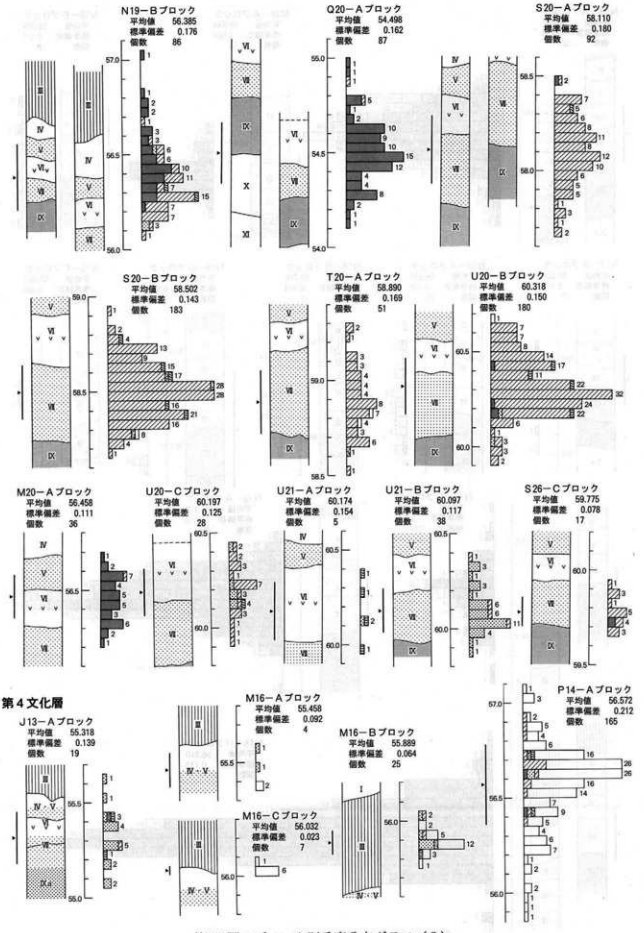
（財）千葉県教育振興財団　2008　『千原台ニュータウンXX　－市原市押沼第１遺跡（下層）－』



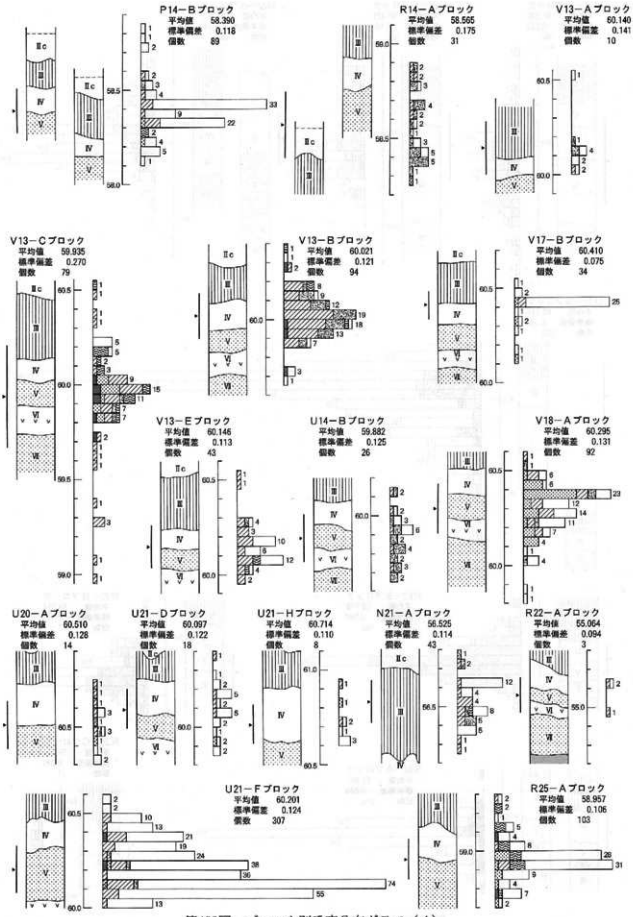
第397図　ブロック別垂直分布グラフ（1）



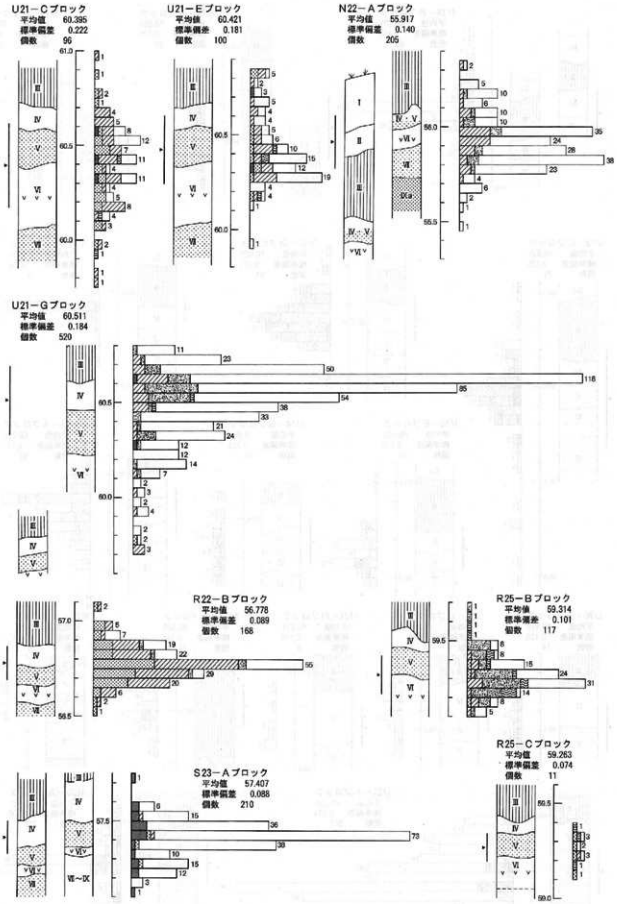
第398図　ブロック別垂直分布グラフ（2）



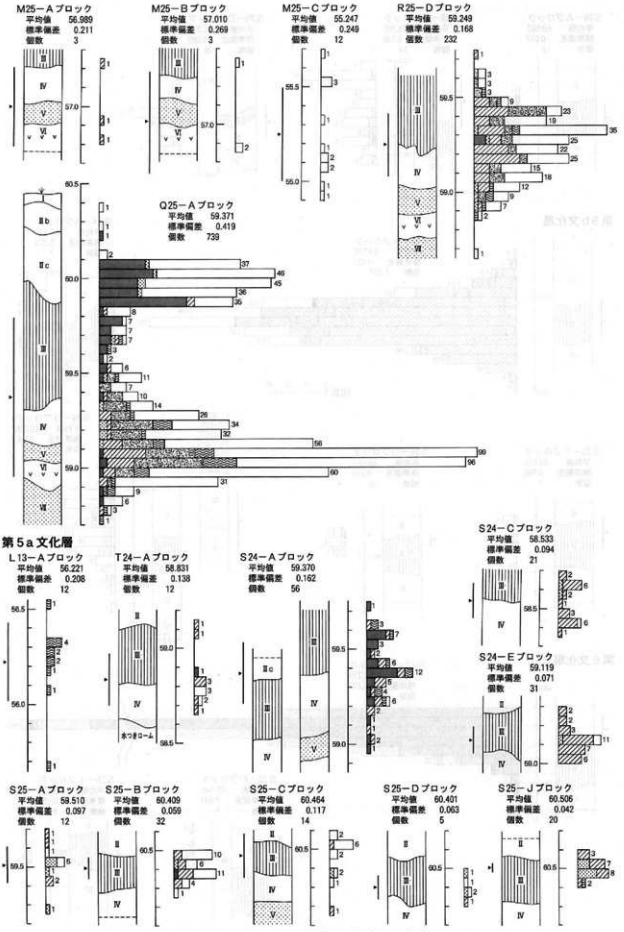
第399図　ブロック別垂直分布グラフ（３）



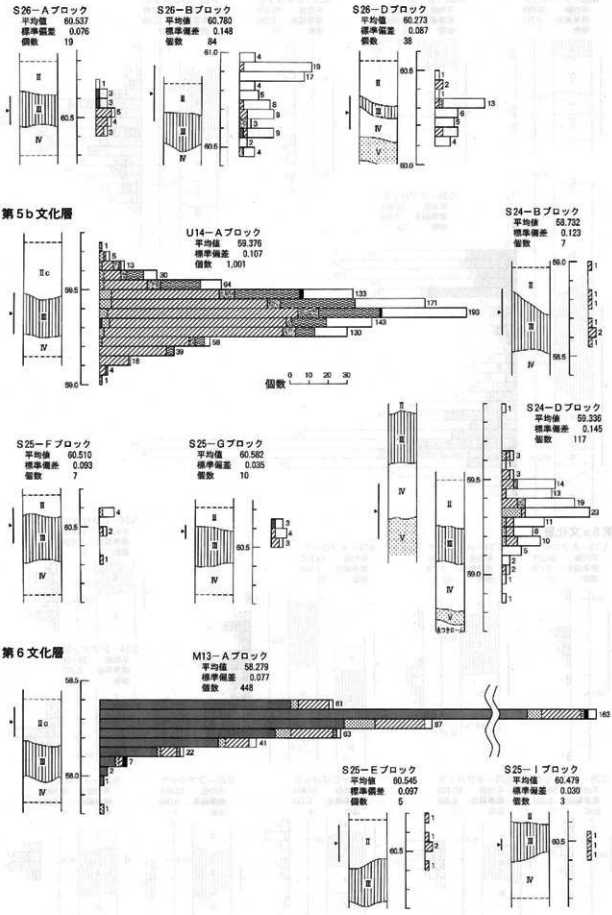
第400図　ブロック別垂直分布グラフ（4）



第401図　ブロック別垂直分布グラフ（5）



第402図　ブロック別垂直分布グラフ（6）



第403図　ブロック別垂直分布グラフ（7）

千葉県教育振興財団調査報告第632集

千原台ニュータウンXXⅡ

ー市原市押沼第２遺跡（下層）・川焼台遺跡（下層）ー

第１分冊

平成22年１月29日発行

編　　集　財団法人 千葉県教育振興財団
文化財センター

発　　行　独立行政法人 都市再生機構千葉地域支社
千葉市美浜区中瀬1-31

財団法人 千葉県教育振興財団
四街道市鹿渡809番地の2

印　　刷　三陽工業株式会社
市原市五井5510番地1

千原台ニュータウンXXⅡ

－市原市押沼第２遺跡（下層）・川焼台遺跡（下層）－
第２分冊

平成22年１月

独立行政法人　都市再生機構

財団法人　千葉県教育振興財団

千原台ニュータウンXXⅡ

－市原市押沼第２遺跡（下層）・川焼台遺跡（下層）－
第２分冊

本文目次

（第２分冊）
第２篇　川焼台遺跡
第１章　はじめに …… 545
第１節　調査の概要 …… 545
１　発掘調査の経緯 …… 545
２　調査の方法 …… 545
第２節　遺跡の位置と環境 …… 545
第３節　基本土層 …… 547
第２章　旧石器時代 …… 549
第１節　調査の概要 …… 549
第２節　第１文化層 …… 549
第３節　第２文化層 …… 601
第４節　第３文化層・第４文化層・時期不明 …… 620
第３章　まとめ …… 629
報告書抄録 …… 巻末

挿図目次

（第２分冊）
川焼台遺跡
第404図　川焼台遺跡調査概要 …… 546
第405図　基本土層及びグリッド別土層断面 …… 548
第406図　川焼台遺跡文化層別出土遺物分布状況 550

第１文化層
第407図　第１文化層出土遺物分布(1) …… 551
第408図　第１文化層出土遺物分布(2) …… 552
第409図　第１文化層出土遺物分布(3) …… 553
第410図　第１文化層出土遺物（1） …… 581
第411図　第１文化層出土遺物（2） …… 583
第412図　第１文化層出土遺物（3） …… 584
第413図　第１文化層出土遺物（4） …… 585
第414図　第１文化層出土遺物（5） …… 586
第415図　第１文化層出土遺物（6） …… 587
第416図　第１文化層出土遺物（7） …… 588
第417図　第１文化層出土遺物（8） …… 589
第418図　第１文化層出土遺物（9） …… 591
第419図　第１文化層出土遺物（10） …… 592
第420図　第１文化層出土遺物（11） …… 593
第421図　第１文化層出土遺物（12） …… 594
第422図　第１文化層出土遺物（13） …… 596
第423図　第１文化層出土遺物（14） …… 597
第424図　第１文化層出土遺物（15） …… 598
第425図　第１文化層出土遺物（16） …… 599
第426図　第１文化層出土遺物（17） …… 600

第２文化層
第427図　第２文化層出土遺物分布(1) …… 602

第428図　第２文化層出土遺物分布(２)……602
第429図　第２文化層出土遺物分布(３)……603
第430図　第２文化層出土遺物（１）……613
第431図　第２文化層出土遺物（２）……614
第432図　第２文化層出土遺物（３）……615
第433図　第２文化層出土遺物（４）……616
第434図　第２文化層出土遺物（５）……617
第435図　第２文化層出土遺物（６）……618
第436図　第２文化層出土遺物（７）……619

第３文化層・第４文化層・時期不明
第437図　第３文化層出土遺物……620
第438図　第４文化層出土遺物……621
第439図　時期不明出土遺物（１）……623
第440図　時期不明出土遺物（２）……625
第441図　時期不明出土遺物（３）……626
第442図　時期不明出土遺物（４）……627

表　目　次

（第２分冊）
川焼台遺跡
第１文化層
第237表　第１文化層グリッド別器種組成……554
第238表　第１文化層グリッド別石材組成……555
第239表　第１文化層母岩別石器組成……556
第240表　第１文化層石材別石器組成……560
第241表　第１文化層グリッド別礫石材組成……561
第242表　第１文化層母岩別礫組成……562
第243表　第１文化層石材別礫母岩復元率……562

第２文化層
第244表　第２文化層グリッド別器種組成……601
第245表　第２文化層グリッド別石材組成……601
第246表　第２文化層母岩別石器組成……604
第247表　第２文化層石材別石器組成……605
第248表　第２文化層グリッド別礫石材組成……605
第249表　第２文化層母岩別礫組成……606
第250表　第２文化層石材別礫母岩復元率……607

第３文化層
第251表　第３文化層遺物属性……621

第４文化層
第252表　第４文化層遺物属性……621

時期不明
第253表　時期不明遺物属性……628

図　版　目　次

（第２分冊）
押沼第２遺跡
図版１　押沼第２遺跡周辺航空写真
（約1:10,000　昭和42年撮影）
図版２　遺物出土状況
図版３　土層断面
図版４　第１文化層遺物出土状況，
第２文化層遺物出土状況１
図版５　第２文化層遺物出土状況２，
第３文化層遺物出土状況１
図版６　第３文化層遺物出土状況２
図版７　第３文化層遺物出土状況３

図版８　第３文化層遺物出土状況４，
第４文化層遺物出土状況１
図版９　第４文化層遺物出土状況２
図版10　第４文化層遺物出土状況３
図版11　第４文化層遺物出土状況４
図版12　第４文化層遺物出土状況５，
第５a文化層遺物出土状況１
図版13　第５a文化層遺物出土状況２，
第５b文化層遺物出土状況１
図版14　第５b文化層遺物出土状況２，
第６文化層遺物出土状況

（第２分冊）
川焼台遺跡
図版15　川焼台遺跡周辺航空写真
（約1:10,000　昭和45年撮影）
図版16　土層断面，第１文化層遺物出土状況１
図版17　第１文化層遺物出土状況２
図版18　第１文化層遺物出土状況３
図版19　第１文化層遺物出土状況４，
第１・２文化層遺物出土状況１
図版20　第１・２文化層遺物出土状況２，
第２文化層遺物出土状況

カラー図版目次

（第２分冊）
押沼第２遺跡
1．第１文化層出土遺物１
2．第１文化層出土遺物２，第２文化層出土遺物
3．第３文化層出土遺物１
4．第３文化層出土遺物２
5．第３文化層出土遺物３
6．第３文化層出土遺物４
7．第３文化層出土遺物５
8．第３文化層出土遺物６
9．第３文化層出土遺物７
10．第３文化層出土遺物８，第４文化層出土遺物１
11．第４文化層出土遺物２
12．第４文化層出土遺物３
13．第４文化層出土遺物４
14．第４文化層出土遺物５
15．第４文化層出土遺物６
16．第４文化層出土遺物７，
第５a文化層出土遺物１
17．第５a文化層出土遺物２，
第５b文化層出土遺物１
18．第５b文化層出土遺物２，第６文化層出土遺物，
時期不明出土遺物
19．接合資料１
20．接合資料２
21．接合資料３
22．接合資料４
23．接合資料５
24．接合資料６

（第２分冊）
川焼台遺跡
25．第１文化層出土遺物１
26．第１文化層出土遺物２
27．第１文化層出土遺物３，第２文化層出土遺物１
28．第２文化層出土遺物２，第３文化層出土遺物，
第４文化層出土遺物，時期不明出土遺物
29．接合資料

第1章　はじめに

第1節　調査の概要

1　発掘調査の経緯

市原市と千葉市にまたがる台地上に，住宅・都市整備公団（現独立行政法人都市再生機構）による千原台地区土地区画整理事業が計画された。このため，千葉県教育委員会は，事業地内の用地内の埋蔵文化財の取扱いについて関係諸機関と協議した結果，現状保存が困難な部分については，やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなり，記録保存については，財団法人千葉県教育振興財団が委託を受けて発掘調査を実施することとなった。

今回報告する川焼台遺跡の調査は，昭和58年度から平成13年度まで断続的に行われた（第404図）。また，川焼台遺跡（上層）については，すでに報告書を刊行している。

本書は川焼台遺跡から出土した旧石器時代（下層調査）を対象としたもので，発掘調査及び整理事業に関わる各年度の実施内容・担当者は以下のとおりである。

昭和61年度

組　織　調査部長　鈴木道之助，班長　阪田正一

担当者　主任調査研究員　相京邦彦・西口　徹・川島利道・金丸　誠，調査研究員　加納　実

内　容　下層調査対象面積　30,000㎡

平成20年度

組　織　調査研究部長　大原正義，所長　折原　繁

担当者　上席研究員　田島　新

内　容　水洗・注記から原稿の一部まで

平成21年度

組　織　調査研究部長　及川淨一，所長　折原　繁

担当者　上席研究員　田島　新

内　容　原稿の一部から報告書刊行まで

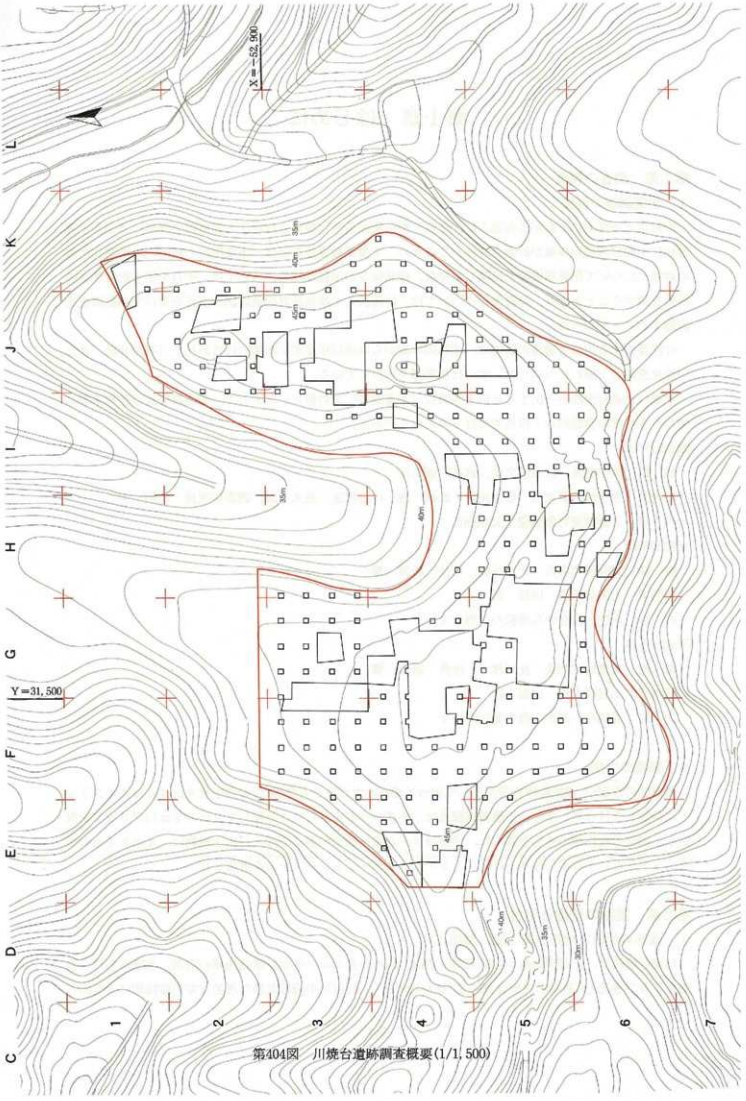
2　調査の方法

発掘区の設定は，国家座標を基準として40m×40mの大グリッドを設け，この中を4m×4mの小グリッドに分割して行った。また，下層確認調査は，小グリッドをさらに4分割して2m×2mのグリッドを設定し，調査対象面積の4％を基本に，武蔵野ローム層上面まで掘り下げた。出土遺物は，4m×4mの小グリッドごとに1点ずつ取り上げたが，トータルステーションシステムを併用した。

第2節　遺跡の位置と環境

1　遺跡の位置と地形（第1図，図版15）

川焼台遺跡は，千葉市街地からは東南へ12km，ちはら台ニュータウン造成地域の南端，市原市ちはら台南2丁目7番地（旧草刈字川焼台1695-2）ほかに所在し，村田川中流域北岸の茂呂支谷が樹枝状に入り組ん



第404図　川焼台遺跡調査概要(1/1,500)

だ最奥部の台地に位置する。遺跡が立地する台地は，広大な面積を擁する草刈遺跡の東側に位置し，やせ尾根でわずかに繋がるもののほぼ独立した台地を形成している。台地南側の眼下には，下総台地南部を西に向かって村田川が流れており，河口からは７kmほど上流の右岸台地上で，現河川からは0.5kmほど離れている。台地の標高は最も高い部分で45m前後，村田川両岸が標高11m前後を呈し，その比高差は約34mにもなっている。総じて南面する台地の斜面は急峻な地形を形成している。また，北側は，茂呂支谷に接しており，台地と谷部の比高差は大きく，南側斜面と同様に急峻な斜面となっている。台地の形態は東西方向に延びる平坦地の部分と南北方向に延びる２つの小台地が「凹」字状に連なった形状を呈し，遺跡の中心を成している。台地の東側には鶴牧遺跡が立地する台地があり，やせ尾根によって僅かに繋がっている。

第３節　基本土層

本遺跡における立川ローム層の堆積状況は，下総台地で広く観察される基本層序と共通する（第405図）。千葉市から市原市にかけての東京湾岸地域では不明瞭なことが多い第２黒色帯下部中の間層（Ⅸb層）が確認されており，当地域の中では比較的良好な堆積状況を示している。立川ローム層の厚さは，薄いところで1.4m，厚いところで2.2mあり，概ね1.8mである。

Ⅲ層：暗黄色の軟質ロームで，厚さは30cm～70cmである。

Ⅳ層：硬質ロームである。武蔵野台地のⅣ層上部に相当する層は軟質化してⅢ層に取り込まれており，本層は武蔵野台地Ⅳ層下部に対応すると考えられる。厚さは40cmである。

Ⅴ層：暗黄褐色の硬質ロームで，第１黒色帯に相当する。厚さは40cmである。

Ⅵ層：暗黄色の硬質ロームで，ＡＴ（姶良丹沢火山灰層）を含む。厚さは15cm～30cmである。

Ⅶ層：暗黄褐色の硬質ロームで，第２黒色帯上半部に相当する。あまり暗い色調ではない。厚さは15cm～20cmである。

Ⅸ層：暗黄褐色の硬質ロームで，第２黒色帯下半部である。調査当時は単一の土層として認識されていたり，Ⅶa層（現在のⅦ層下部とⅨa層），Ⅶb層（現在のⅨb層），Ⅶc層（現在のⅨc層）に区分されたりしている。整理作業の中で細分可能な場合は，以下のとおりとした。

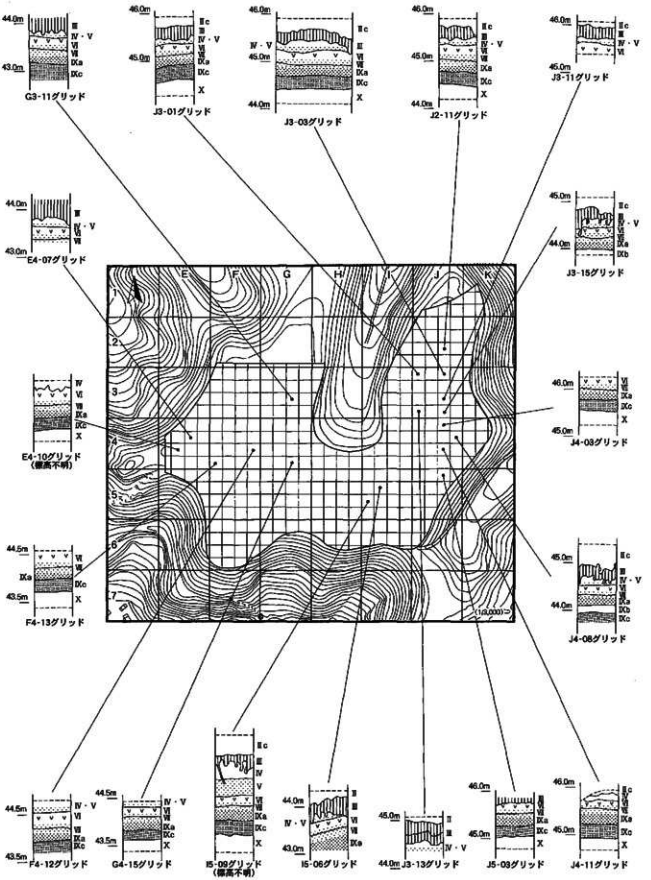
Ⅸa層：やや黄みを帯びた暗黄褐色の硬質ローム層で，第２黒色帯下半部の上層にあたる。厚さは15cm～30cmである。

Ⅸb層：やや黒みが強い暗黄褐色の硬質ローム層で，第２黒色帯下半部中の間層である。安定した土層ではないが，一部の調査区で確認できた。厚さは20cmである。

Ⅸc層：やや青みがかった暗黄褐色の硬質ローム層で，第２黒色帯下半部の下層にあたる。立川ローム層の中では最も暗く，やや粘性があり，比較的やわらかい。厚さは15cm～30cmである。

Ⅹ層：硬質ローム層である。厚さは30cm～40cmである。

Ⅺ層：硬質ローム層で，武蔵野ローム層最上部と考えられる。



第405図　基本土層及びグリッド別土層断面

第２章　旧石器時代

第１節　調査の概要

川焼台遺跡では，旧石器時代（下層）調査を昭和61年度に実施した。調査区の位置は，草刈遺跡群の東側にあたり，南側は村田川，北側は千葉市と市原市とを画する茂呂谷津に面した台地上である。

遺跡の30,000㎡を調査対象として，４％を基本に確認調査を行い，その結果に基づいて6,600㎡の本調査を行った。

調査の結果，確認調査では大別して４枚の出土層が確認されたが，本調査時の所見も勘案して２枚の文化層に区分した。遺跡の西半分（Ｅ～Ｋグリッド）は上層の遺構が密で，その掘り込みはⅤ層～Ⅵ層にまで及んでおり，第２文化層の遺物はほとんど発見されなかった。また，遺跡の東半分（Ｉ～Ｋグリッド）は住居跡などの遺構が検出されたグリッドを除き，ほぼ全面で遺物が発見されており，遺跡全体では，約2,100点の石器・礫を発見した（第406図）。

第１文化層は，立川ローム層第２黒色帯上半部（Ⅶ層）を中心に包含されている石器群である。石器904点，礫126点が出土した。武蔵野台地のⅥ層下部～Ⅶ層の石器群に概ね相当すると考えられるが，細分される可能性もある。

第２文化層は，立川ローム層ソフトローム層（Ⅲ層下部）を中心に包含されている石器群である。石器186点，礫854点が出土した。概ね武蔵野台地のⅣ層下部の石器群に相当すると考えられる。

第３文化層・第４文化層・時期不明は，上層遺構等から出土した遺物である。第３文化層は，槍先形石器を指標とする石器群，第４文化層は，細石刃石器群，時期不明は，帰属文化層を決定することができなかった石器群で，概ね第１文化層あるいは第２文化層に帰属するものと考えられる。

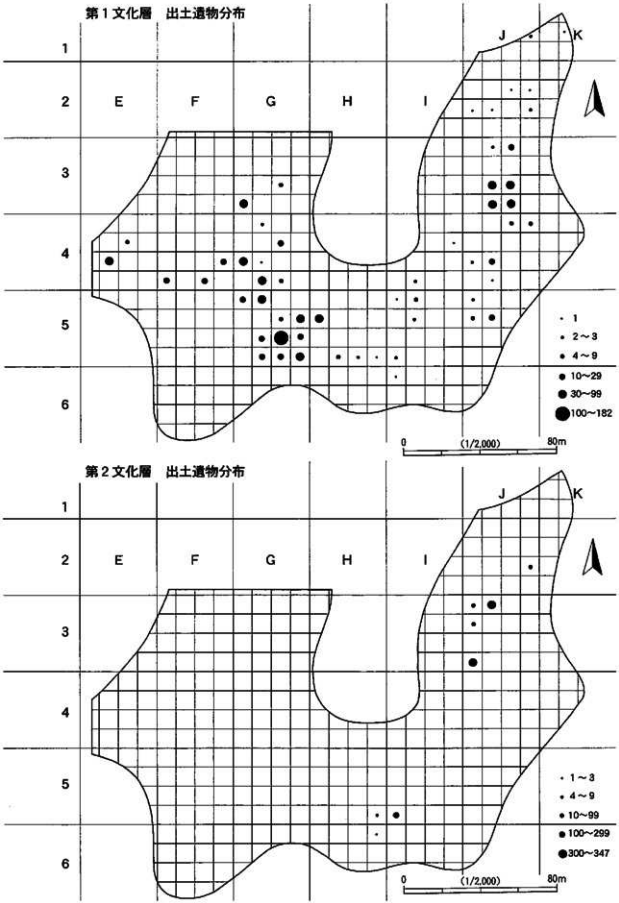
第２節　第１文化層

第１文化層は，立川ローム層第２黒色帯上半部（Ⅶ層）を中心に包含されている石器群である。

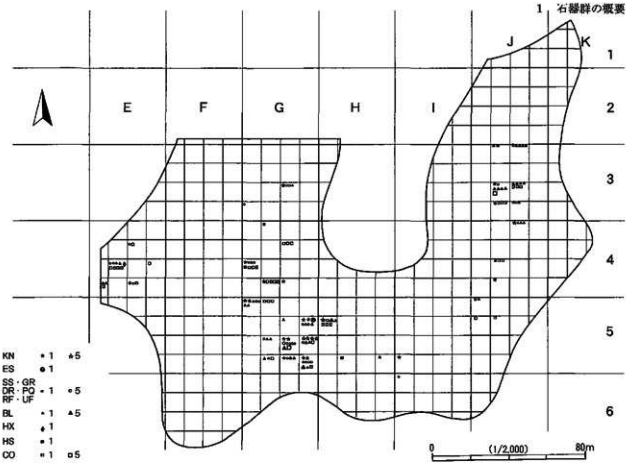
１　石器群の概要（第407～426図，第237～243表，カラー図版25～27・29，図版16～20）

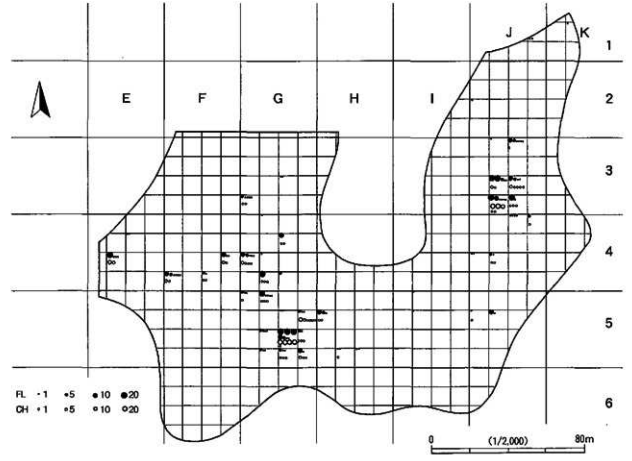
第１文化層の遺物は，調査範囲ほぼ全体のE4-07・10，F4-12・13・15，G3-11・13，G4-02・07・09・10・14・15，G5-01・02・07・08・10～12・14～16，H5-05・14～16，I4-08・14，I5-01・02・06・13，I6-01，J1-12，J2-07～10・12，J3-02・03・10・11・14・15，J4-03・04・09・10・14，J5-01・05・06，K1-10グリッド，台地全体に分布する（第407～409図）。

石器群は，ナイフ形石器31点，掻器１点，削器２点，彫器２点，錐状石器１点，楔形石器５点，加工痕ある剥片16点（15個体），使用痕ある剥片16点，石刃56点（53個体），局部磨製石斧１点，敲石２点，剥片484点（464個体），砕片241点，石核46点（41個体）の合計904点（875個体）と礫126点で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ13点，黒曜石Ｂ287点，黒曜石Ｇ14点，安山岩75点，軟質の安山岩35点，流紋岩16点，頁岩Ａ１点，頁岩Ｂ70点，頁岩Ｃ43点，頁岩Ｄ181点，頁岩Ｅ39点，チャート29点，凝灰岩７点，粘板岩30点，砂岩４点，ホルンフェルス32点，瑪瑙・玉髄28点である。礫石材は，安山岩９点（３母岩；４～６），軟質の安山岩１点（１母岩；１），流紋岩14点（14母岩；47～60），頁岩１点（１母岩；１），チャート13点（11母岩；６・20～29），凝灰岩12点（12母岩；34～45），砂岩35点（29母岩；174～202），ホルンフェルス11点

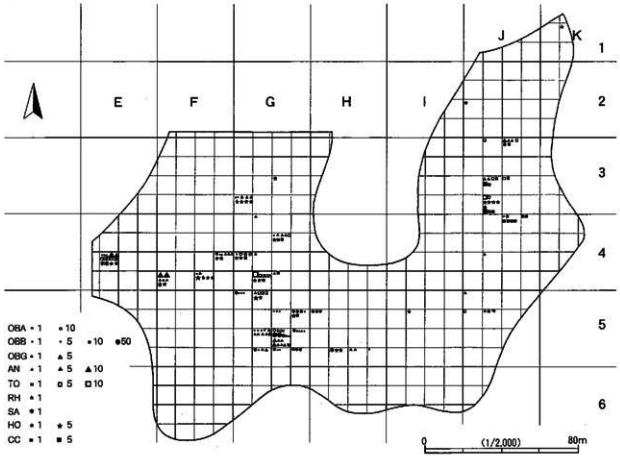


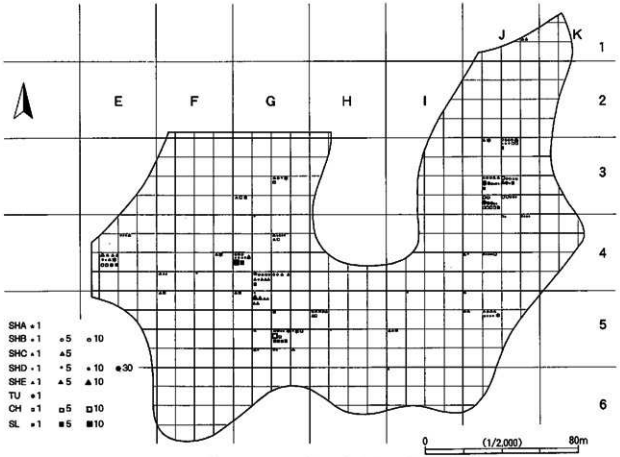
第406図　川焼台遺跡文化層別出土遺物分布状況



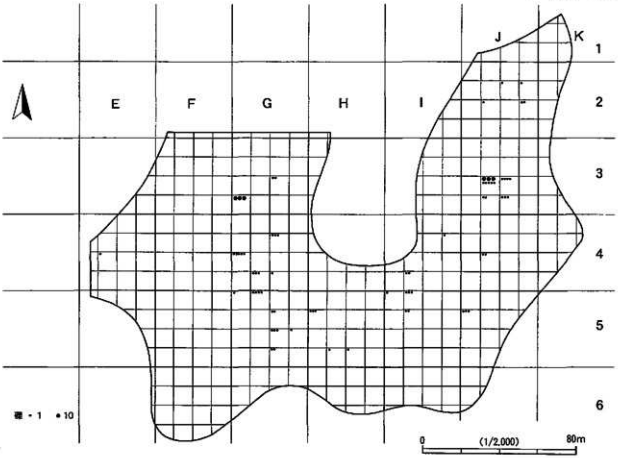


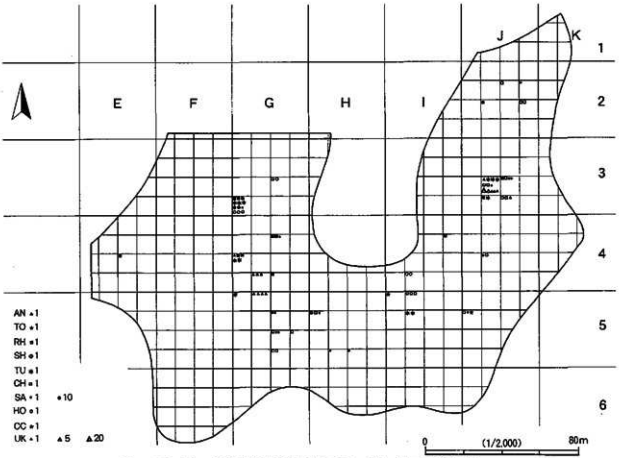
第407図　第１文化層出土遺物分布(１)－器種別分布－





第408図　第１文化層出土遺物分布（２）－石材別分布－





第409図　第１文化層出土遺物分布（３）－礫・礫石材別分布－

第237表　第１文化層グリッド別器種組成

グリッド	KN	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	HS	FL	CH	CO	PE	合計
E4-07							1					2		1		4
E4-10								2	2	1		23	15	4	1	48
F4-12												12	6	1		19
F4-13									2			19	6	1		28
F4-15	1						1					6	2	1		11
G3-11	1					1		1	1			2			2	8
G3-13							1					9	2		30	42
G4-02	1											1				2
G4-07												10	2	3	3	18
G4-09	1					1	2				1	18	8	3	5	39
G4-10												1				1
G4-14	1											20	3	4	3	31
G4-15	1											5			1	7
G5-01	2						2	1	2			7	1		1	16
G5-02												24	3	3	4	34
G5-07									1			3			2	6
G5-08	2	1				1	1	1	1			7	19			33
G5-10							1		2			8				11
G5-11	2					1	4	4	5			77	81	5	3	182
G5-12	4			1					2			6	3	1	1	18
G5-14									2			7		1		10
G5-15	1							1	2			7	3		2	16
G5-16	2		1				1	2	6			11	7	1		31
H5-05	5		1	1			1	2	6			16	2	3	3	40
H5-14											1	2	1		1	5
H5-15												2			1	3
H5-16									1							1
I4-08															1	1
I4-14															2	2
I5-01															1	1
I5-02												1			3	4
I5-06												1			2	3
I5-13	1											2				3
I6-01						1										1
J1-12												2				2
J2-07															1	1
J2-08															1	1
J2-09												1				1
J2-10															1	1
J2-12															2	2
J3-02									2			1				3
J3-03	1								4			19	1			25
J3-10	1							1	4			47	6	5	35	99
J3-11									4			17	9	3	4	37
J3-14	1						1					34	52	2	2	92
J3-15					1			1	1			21	3		3	30
J4-03	1								3			4				8
J4-04												5	1			6
J4-09												2				2
J4-10									1			5	2	2	2	13
J4-14	1															1
J5-01	1								1							2
J5-05												1	1	1	3	6
J5-06												11		1		12
K1-10												1				1
合計	31	1	2	2	1	5	16	16	55	1	2	481	239	46	126	1,024

上層等出土の遺物（上記は含まれない）

グリッド	KN	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	HS	FL	CH	CO	PE	合計
G5-14												1				1
G5-15									1							1
G5-16												1				1
不明												1	2			3
合計									1			3	2			6

第238表　第１文化層グリッド別石材組成

グリッド	OBA	OBB	OBG	AN	TO	RH	SHA	SHB	SHC	SHD	SHE	CH	TU	SL	SA	HO	CC	合計
E4-07										3	1							4
E4-10		2	1	15	4	1			8	6	1	2	1	2	2	2		47
F4-12		12	3						1				1			2		19
F4-13				23					1	2					1	1		28
F4-15		1		1						1						8		11
G3-11									2	1		1	1			1		5
G3-13		2		3		2					1	1		1		2		12
G4-02				1						1								2
G4-07		1		3	1	1			1	4	1	1					2	15
G4-08		1			1	2		3		4	5			15		2	1	34
G4-10				1														1
G4-14					14	1	1	4	1	1	3			1		2		28
G4-15				1				2	1		1						1	6
G5-01		13							1					1				15
G5-02				1	3					1	19					6		30
G5-07		3												1				4
G5-08		31			1												1	33
G5-10		4	1	4					1							1		11
G5-11	13	117	7	8					1	12		15	1	4			1	179
G5-12		14								1		1	1					17
G5-14		6	1	1					1	1								10
G5-15		12						1		1								14
G5-16		30									1							31
H5-05		30						1	4		1	1						37
H5-14										1					1	2		4
H5-15				2														2
H5-16		1																1
I5-02										1								1
I5-06						1												1
I5-13									1		1			1				3
I6-01										1								1
J1-12									2									2
J2-09																1		1
J3-02					1						1		1					3
J3-03				7	1			4	5	3		2		1			2	25
J3-10				2	1	1		3	2	48				1			6	64
J3-11					1			14	5	11				1			1	33
J3-14					6	4		15		52		4		1		1	7	90
J3-15								21		6								27
J4-03		1				1		1		1							4	8
J4-04								1		3							2	6
J4-09									1	1								2
J4-10			1							9		1						11
J4-14										1								1
J5-01				1							1							2
J5-05					1						2							3
J5-06				1		1			4	4			1			1		12
K1-10						1												1
合計	13	281	14	75	35	16	1	70	43	181	39	28	7	30	4	32	28	898

上層等出土の遺物（上記は含まれない）

グリッド	OBA	OBB	OBG	AN	TO	RH	SHA	SHB	SHC	SHD	SHE	CH	TU	SL	SA	HO	CC	合計
G5-14		1																1
G5-15		1																1
G5-16		1																1
不明		3																3
合計		6																6

第239表　第１文化層母岩別石器組成

母岩 番号	KN	ES	SS	GR	DR	PO	RF	UF	BL	HX	HS	FL	CH	CO	合計
OBA 2												5	1		6
OBA 3												5	2		7
OBB 1												5(4)			5(4)
OBB 2				1					2(1)						3(2)
OBB 3												2		1	3
OBB 4												3(1)			3(1)
OBB 5									2(1)						2(1)
OBB 6												2(1)			2(1)
OBB 7									2(1)						2(1)
OBB 8							1	1	1			4(3)	1		6(7)
OBB 9												5(3)			5(3)
OBB 10												3(2)			3(2)
OBB 11												2(1)			2(1)
OBB 12												2(1)			2(1)
OBB 13												2(1)			2(1)
OBB 14							2(1)						1		3(2)
OBB 15			1						2			1	3		7
OBB 16								1				3			4
OBB 17	1		1				1					1			4
OBB 18									2			2			4
OBB 19	4														4
OBB 20								2				2(1)			4(3)
OBB 21								1	1			1			3
OBB 22	1												3		4
OBB 23	1						1								2
OBB 24									1			1			2
OBB 25	1											1			2
OBB 26												1	1		2
OBB 27									1			1			2
OBB 28							2								2
OBB 29	2														2
OBB 30	1														1
OBB 31	1														1
OBB 32	1														1
OBB 33	1														1
OBB 34		1													1
OBB 35						1									1
OBB 36							1								1
OBB 37								1							1
OBB 38								1							1
OBB 39								1							1
OBB 40								1							1
OBB 41								1							1
OBB 42												5	4		9
OBB 43												2			2
OBB 44												3			3
OBB 45												1	2		3
OBB 46												3			3
OBB 47												2			2
OBB 48												1			1
OBB 49								1							1
OBB 50												1			1
OBB 51												2			2
OBB 52												1			1
OBB 53												1			1
OBB 54												1			1
OBB 55												1			1
OBB 56												1			1
OBB 57												1			1
OBB 58												1			1

母岩 番号	KN	ES	SS	GR	DR	PO	RF	UF	BL	HX	HS	FL	CH	CO	合計
OBB 59														1	1
OBB 60									1						1
OBB 61									1						1
OBB 62									1						1
OBB 63									1						1
OBB 64									1						1
OBB 65									1						1
OBB 66									1						1
OBB 67									1						1
OBB 68									1						1
OBB 69									1						1
OBB 70									1						1
OBB その他	1					1	1		1			39	93		136
OBG 1									2						2
OBG 2												1		1	2
OBG 3							1								1
OBG 4														1	1
OBG 5												1			1
OBG 6												1			1
OBG 7													1		1
OBG 8													1		1
OBG その他													4		4
AN 8												6		1	7
AN 9												8(7)			8(7)
AN 11	1											1			2
AN 12												1		1	2
AN 13												1		1	2
AN 14	1														1
AN 15									1						1
AN 16												6			6
AN 17												4			4
AN 18												3			3
AN 19												3			3
AN 20												2			2
AN 21												2			2
AN 22												2			2
AN 23												2			2
AN 24												1			1
AN 25												1			1
AN 26												1			1
AN 27												1			1
AN 28												1			1
AN 29												1			1
AN 30												1			1
AN 31												1			1
AN 32												1			1
AN 33												1			1
AN その他												2	16		18
TO 3									1			14(13)	2	4	21(20)
TO 4									1						1
TO 5												1			1
TO 6													1		1
TO 7													1		1
TO 8													1		1
TO その他													9		9
RH 2												2(1)			2(1)
RH 3												2			2
RH 4												1			1
RH 5												1			1
RH 6												1			1

母岩 番号	KN	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	HS	FL	CH	CO	合計
RH 7												1			1
RH 8												1			1
RH 9												1			1
RH その他													6		6
SHA 2												1			1
SHB 2					1			1				15(14)	1		18(17)
SHB 3												11	1		12
SHB 4												5	8		13
SHB 5							1					1			2
SHB 6														2(1)	2(1)
SHB 7												4	2		6
SHB 8												2	2		4
SHB 9												2			2
SHB 10									2						2
SHB 11	1														1
SHB 12												1			1
SHB 13								1							1
SHB 14														1	1
SHB 15									1						1
SHB その他													4		4
SHC 10								1							1
SHC 12												1			1
SHC 22								1				1	1	2(1)	5(4)
SHC 23												2		1	3
SHC 24									1			1		1	3
SHC 25												2		1	3
SHC 26												3			3
SHC 27								1	1						2
SHC 28	1											1			2
SHC 29												2			2
SHC 30	1														1
SHC 31												1			1
SHC 32												1			1
SHC 33												1			1
SHC 34												1			1
SHC 35												1			1
SHC 36												1			1
SHC 37												1			1
SHC 38												1			1
SHC 39												1			1
SHC 40												1			1
SHC 41												1			1
SHC 42												1			1
SHC 43												1			1
SHC 44												1			1
SHC その他												2	1		3
SHD 8												13		4(3)	17(16)
SHD 9	1						1					15(14)	5	2	24(23)
SHD 10												3(2)		1	4(3)
SHD 11												3	1	2(1)	6(5)
SHD 12												3(2)	3		6(5)
SHD 13												1		1	2
SHD 14												9		1	10
SHD 15	1											7			8
SHD 16						1						4	1		6
SHD 17												4		1	5
SHD 18						1						3			4
SHD 19												6	2		8
SHD 20												4	1		5
SHD 21												2	1		3

母岩 番号	KN	ES	SS	GR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	HS	FL	CH	CO	合計
SHD 22												3			3
SHD 23												2		1	3
SHD 24	1											2			3
SHD 25												2		1	3
SHD 26									1			2			3
SHD 27												2			2
SHD 28												1	1		2
SHD 29												2			2
SHD 30												2			2
SHD 31												2			2
SHD 32												1			1
SHD 33												1			1
SHD 34												1			1
SHD 35												1			1
SHD 36												1			1
SHD 37												1			1
SHD 38												1			1
SHD 39												1			1
SHD 40												1			1
SHD 41												1			1
SHD 42												1			1
SHD 43												1			1
SHD 44												2			2
SHD 45												1			1
SHD 46													3		3
SHD 47													1		1
SHD 48									1						1
SHD 49									1						1
SHD 50									1						1
SHD 51									1						1
SHD 52									1						1
SHD その他													24		24
SHE 1												11	1	1	13
SHE 2												5		1	6
SHE 3									2			1			3
SHE 4												1		2	3
SHE 5	1														1
SHE 6							1								1
SHE 7												1			1
SHE 8												1			1
SHE 9												1			1
SHE 10														1	1
SHE その他												3	5		8
CH 1	1														1
CH 4												5	2	3	10
CH 5												8	1	1	10
CH 6												2	1		3
CH 7												2			2
CH 8							1								1
CH 9												1			1
CH その他													1		1
TU 6	1														1
TU 7				1											1
TU 8												1			1
TU 9												1			1
TU 10									1						1
TU 11									1						1
TU 12										1					1
SL 3							1					4	4	1	10
SL 4									2			2			4

母岩 番号	KN	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	HS	FL	CH	CO	合計
SL 5												4			4
SL 6	1								1			1			3
SL 7												2			2
SL 8	1														1
SL 9												1			1
SL その他												3	2		5
SA 4														2(1)	2(1)
SA 5												1			1
SA 7											1				1
HO 3												1			1
HO 13												3		1	4
HO 14												2(1)			2(1)
HO 15	1						1					7			9
HO 16												2	2		4
HO 17												2			2
HO 18	1														1
HO 19												1			1
HO 20												1			1
HO 21												1			1
HO 22												1			1
HO 23												1			1
HO 24											1				1
HO その他												2	1		3
CC 3									2			10	3		15
CC 4	1											3			4
CC 5									2			1	2		5
CC 6									2						2
CC 7						1									1
CC 8									1						1
合計	31	1	2	2	1	5	16(15)	16	56(53)	1	2	484(464)	241	46(41)	904(875)

第240表 第１文化層石材別石器組成

石材	KN	ES	SS	QR	DR	PQ	RF	UF	BL	HX	HS	FL	CH	CO	合計
OBA												10	3		13
OBB	15	1	2	1		2	9(8)	11	28(23)			110(98)	108	2	287(271)
OBG							1		2			3	6	2	14
AN	2								1			53(52)	16	3	75(74)
TO									2			15(14)	14	4	35(34)
RH												10(9)	6		16(15)
SHA												1			1
SHB	1				1		1	2	3			41(40)	18	3(2)	70(66)
SHC	2							3	2			29	2	5(4)	43(42)
SHD	3					2	1		6			112(109)	43	14	181(176)
SHE	1						1		2			24	6	5	39
CH	1						1					18	5	4	29
TU	1			1					2	1		2			7
SL	2						1		3			17	6	1	30
SA											1	1		2(1)	4(3)
HO	2						1				1	24(23)	3	1	32(31)
CC	1					1			7			14	5		28
合計	31	1	2	2	1	5	16(15)	16	56(53)	1	2	484(464)	241	46(41)	904(875)

（7母岩；32～38），瑪瑙・玉髄1点（1母岩；1），不明29点（1母岩；1）で，識別率は98％である。

2　母岩の特徴と内容

本文化層では257母岩を識別した。内訳は，黒曜石A2母岩（2・3），黒曜石B70母岩（1～70），黒曜石G8母岩（1～8），安山岩25母岩（8・9・11～33），軟質の安山岩6母岩（3～8），流紋岩8母岩（2～9），頁岩A1母岩（2），頁岩B14母岩（2～15），頁岩C25母岩（10・12・22～44），頁岩D45母岩（8～52），頁岩E10母岩（1～10），チャート7母岩（1・4～9），凝灰岩7母岩（6～12），粘板岩7母岩（3～9），砂岩3母岩（4・5・7），ホルンフェルス13母岩（3・13～24），瑪瑙・玉髄6母岩（3～8）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は76％（683/904点）である。

・黒曜石A2：黒色の黒曜石である。栃木県高原山産と考えられる。φ1mmほどの黄灰色の夾雑物を含む。石器群の内訳は，剥片5点，砕片1点の合計6点（8.1g）である。

・黒曜石A3：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は黒色の黒曜石である。栃木県高原山産と考えられる。φ1mmほどの灰色の夾雑物を含む。石器群の内訳は，剥片5点，砕片2点の合計7点(10.5g)である。

第241表　第1文化層グリッド別礫石材組成

グリッド	AN	TO	RH	SH	CH	TU	SA	HO	CC	UK	総数	総重量
E4-10			1								1	4.03
G3-11					1			1			2	13.60
G3-13			3			3	21	3			30	2,189.88
G4-07			2				1				3	91.52
G4-09	1		2			2					5	167.45
G4-14	3										3	940.84
G4-15			1								1	149.00
G5-01						1					1	5.10
G5-02	4										4	287.12
G5-07							2				2	28.45
G5-11					1		2				3	55.09
G5-12								1			1	16.80
G5-15					2						2	64.60
H5-05			1	1			1				3	33.70
H5-14							1				1	9.44
H5-15							1				1	222.39
I4-08			1								1	4.90
I4-14								2			2	24.62
I5-01		1									1	4.21
I5-02								3			3	101.78
I5-06						2					2	152.72
J2-07					1						1	13.53
J2-08							1				1	10.81
J2-10			1								1	9.91
J2-12					2						2	56.33
J3-10	1				2	3	1			28	35	716.59
J3-11			1		1		2				4	121.17
J3-14			1			1					2	21.08
J3-15					2					1	3	82.21
J4-10							1	1			2	26.53
J5-05					1		1		1		3	88.27
総数	9	1	14	1	13	12	35	11	1	29	126	5,713.67
総重量	1,334.59	4.21	554.92	4.13	783.59	217.76	1,937.35	185.47	29.44	662.21	5,713.67	

第242表　第１文化層母岩別礫組成

母岩番号	個数	重量
R-AN 4	1	63.59
R-AN 5	1	43.04
R-AN 6	7	1,227.98
R-TO 1	1	4.21
R-RH 47	1	113.12
R-RH 48	1	56.43
R-RH 49	1	149.00
R-RH 50	1	9.91
R-RH 51	1	56.98
R-RH 52	1	4.03
R-RH 53	1	37.34
R-RH 54	1	25.71
R-RH 55	1	27.99
R-RH 56	1	16.59
R-RH 57	1	20.24
R-RH 58	1	20.03
R-RH 59	1	4.90
R-RH 60	1	12.85
R-SH 1	1	4.13
R-CH 6	1	13.25
R-CH 20	1	13.53
R-CH 21	1	12.49
R-CH 22	1	3.88
R-CH 23	1	6.76
R-CH 24	1	13.02
R-CH 25	1	7.26
R-CH 26	1	16.61
R-CH 27	2	64.60
R-CH 28	2	56.33
R-CH 29	1	10.03

母岩番号	個数	重量
R-TU 34	1	5.84
R-TU 35	1	144.38
R-TU 36	1	5.10
R-TU 37	1	175.27
R-TU 38	1	357.44
R-TU 39	1	6.29
R-TU 40	1	24.55
R-TU 41	1	8.34
R-TU 42	1	33.90
R-TU 43	1	9.15
R-TU 44	1	4.90
R-TU 45	1	8.43
R-SA 174	1	708.25
R-SA 175	1	85.64
R-SA 176	1	10.81
R-SA 177	1	42.22
R-SA 178	1	14.13
R-SA 179	1	9.33
R-SA 180	1	8.54
R-SA 181	1	8.95
R-SA 182	1	6.55
R-SA 183	2	265.33
R-SA 184	1	23.94
R-SA 185	1	9.44
R-SA 186	1	222.39
R-SA 187	3	58.72
R-SA 188	2	36.79
R-SA 189	1	37.89
R-SA 190	1	48.45
R-SA 191	1	9.88

母岩番号	個数	重量
R-SA 192	1	12.17
R-SA 193	1	11.80
R-SA 194	1	15.69
R-SA 195	1	16.70
R-SA 196	1	21.61
R-SA 197	1	8.94
R-SA 198	1	15.96
R-SA 199	1	4.51
R-SA 200	1	36.67
R-SA 201	1	8.39
R-SA 202	1	170.98
R-SA その他	2	7.50
R-HO 32	3	101.78
R-HO 33	1	15.30
R-HO 34	2	14.22
R-HO 35	1	16.80
R-HO 36	1	8.42
R-HO 37	1	16.20
R-HO 38	1	12.40
R-HO その他	1	0.35
R-CC 1	1	29.44
R-UK 1	29	662.21

第243表　第１文化層石材別礫母岩復元率

母岩復元率	a		b		c		d		合　計	
石材	母岩数	母岩数比	母岩数	母岩数比	母岩数	母岩数比	母岩数	母岩数比	母岩数	母岩数比
AN	1	33.3%	1	33.3%	1	33.3%			3	100.0%
TO					1	100.0%			1	100.0%
RH	4	28.6%	1	7.1%	9	64.3%			14	100.0%
SH					1	100.0%			1	100.0%
CH	8	72.7%	1	9.1%	2	18.2%			11	100.0%
TU	2	16.7%	1	8.3%	9	75.0%			12	100.0%
SA	9	31.0%	4	13.8%	16	55.2%			29	100.0%
HO					7	100.0%			7	100.0%
CC					1	100.0%			1	100.0%
UK					1	100.0%			1	100.0%
合　計	24	30.0%	8	10.0%	48	60.0%			80	100.0%

・黒曜石Ｂ１：自然面は平滑で，自然面及び節理は薄墨を流したような透明な地に黒色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。φ３㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。石器群の内訳は，剥片５点（４個体；73.2ｇ）である。接合資料は，剥片３点（２個体；71.7ｇ）である。

・黒曜石Ｂ２：内部・節理・新鮮な面は薄墨を流したような透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。φ５㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。石器群の内訳は，彫器１点，石刃２点（１個体）の合計３点（２個体；53.7ｇ）である。接合資料は，彫器１点，石刃２点（１個体）の合計３点（２個体；53.7ｇ）である。

・黒曜石Ｂ３：内部及び新鮮な面は黒灰色で半透明，節理は黄灰色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。被熱のためか光沢がない。石器群の内訳は，剥片２点，石核１点の合計３点（21.9ｇ）である。接合資料は，剥片２点，石核１点の合計３点（21.9ｇ）である。

・黒曜石Ｂ４：自然面は平滑で，自然面・内部・新鮮な面は黒灰色の半透明，節理は黒灰色でスリガラス状の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片３点（１個体；31.4ｇ）である。接合資料は，剥片３点（１個体；31.4ｇ）である。

・黒曜石Ｂ５：自然面は平滑で，自然面及び内部は黒灰色の半透明な地に灰色の縞が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃２点（１個体；29.9ｇ）である。接合資料は石刃２点（１個体；29.9ｇ）である。

・黒曜石Ｂ６：薄墨を流したような半透明な地に黒灰色・灰色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。φ５㎜ほどの灰色・黄灰色の夾雑物を含む。石器群の内訳は，剥片２点（１個体；19.2ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；19.2ｇ）である。

・黒曜石Ｂ７：薄墨を流したような半透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。被熱のためか光沢がない。石器群の内訳は，石刃２点（１個体；10.3ｇ）である。接合資料は，石刃２点（１個体；10.3ｇ）である。

・黒曜石Ｂ８：自然面は平滑で，自然面・内部・新鮮な面は薄墨を流したような透明な地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片１点，石刃１点，剥片４点（３個体），砕片１点の合計８点（７個体；20.4ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片１点，砕片１点の合計２点（2.0ｇ），Ｂは剥片２点（１個体；3.6ｇ）である。

・黒曜石Ｂ９：薄墨を流したような透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。φ１㎜～３㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。石器群の内訳は，剥片５点（３個体；14.5ｇ）である。接合資料は，剥片３点（１個体；11.1ｇ）である。

・黒曜石Ｂ10：自然面は紙ヤスリ状で凹凸があり，自然面及び内部は黒灰色・黒色の地に黄灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片３点（２個体；36.3ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；26.0ｇ）である。

・黒曜石Ｂ11：薄墨を流したような透明な地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（１個体；7.7ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；7.7ｇ）である。

・黒曜石Ｂ12：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な地に黒灰色の筋状のモヤが

入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。φ5㎜ほどの灰白色の夾雑物を含む。石器群の内訳は，剥片2点（1個体；4.2g）である。接合資料は，剥片2点（1個体；4.2g）である。

・黒曜石B13：薄墨を流したような透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片2点（1個体；2.5g）である。接合資料は，剥片2点（1個体；2.5g）である。

・黒曜石B14：自然面はスリガラス状で，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な地に黒灰色の縞が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片2点（1個体），砕片1点の合計3点（2個体；2.8g）である。接合資料は，加工痕ある剥片2点（1個体），砕片1点の合計3点（2個体；2.8g）である。

・黒曜石B15：内部及び新鮮な面は薄墨を流したような透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。φ5㎜ほどの灰白色の夾雑物を含む。石器群の内訳は，削器1点，石刃2点，剥片1点，砕片3点の合計7点（26.4g）である。

・黒曜石B16：自然面は平滑で，自然面・内部・新鮮な面は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，剥片3点の合計4点（13.8g）である。

・黒曜石B17：自然面は平滑で，自然面・内部・新鮮な面は黒色で半透明な部分と薄墨を流したような透明な地に黒灰色のモヤが入る部分がある黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，削器1点，加工痕ある剥片1点，剥片1点の合計4点（23.6g）である。

・黒曜石B18：自然面は紙ヤスリ状で凹凸があり，自然面・内部・新鮮な面は黒灰色で半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。黒曜石B17より灰色がかっている。石器群の内訳は，石刃2点，剥片2点の合計4点（17.4g）である。

・黒曜石B19：内部及び新鮮な面は若干赤褐色がかった黒色半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器4点（13.1g）である。

・黒曜石B20：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。φ3㎜ほどの灰白色の夾雑物を含む。石器群の内訳は，使用痕ある剥片2点，剥片2点（1個体）の合計4点（3個体；23.1g）である。接合資料は，剥片2点（1個体；3.8g）である。

・黒曜石B21：自然面は平滑で若干凹凸があり，自然面・内部・新鮮な面は薄墨を流したような透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，石刃1点，剥片1点の合計3点（10.0g）である。

・黒曜石B22：透明な地に灰白色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，砕片3点の合計4点（2.1g）である。

・黒曜石B23：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような透明な地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。φ1㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，加工痕ある剥片1点の合計2点（8.5g）である。

・黒曜石B24：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は透明な地に縞状の黒色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃1点，剥片1点の合計2点（2.4g）である。

・黒曜石B25：自然面は平滑で，自然面及び内部は透明な地に灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠

周辺産と考えられる。被熱のためか光沢がない。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，剥片１点の合計２点（6.3ｇ）である。

・黒曜石B26：半透明な地に若干褐色がかった黒灰色の縞が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。被熱のためか光沢がない。石器群の内訳は，剥片１点，砕片１点の合計２点（3.5ｇ）である。

・黒曜石B27：自然面は紙ヤスリ状で，自然面・内部・新鮮な面は透明な地に黒灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，石刃１点，剥片1点の合計２点（7.3ｇ）である。

・黒曜石B28：内部及び新鮮な面は透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片２点（4.3ｇ）である。

・黒曜石B29：自然面は紙ヤスリ状で，自然面・内部・新鮮な面は褐色がかった黒色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器２点（4.8ｇ）である。

・黒曜石B30：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。φ３㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。ナイフ形石器１点（1.6ｇ）の単独資料である。

・黒曜石B31：薄墨を流したような透明な地に灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器１点（1.6ｇ）の単独資料である。

・黒曜石B32：薄墨を流したような透明な地に灰色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器１点（2.5ｇ）の単独資料である。

・黒曜石B33：透明な地に黒色・黒灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。ナイフ形石器１点（2.2ｇ）の単独資料である。

・黒曜石B34：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。掻器１点（16.9ｇ）の単独資料である。

・黒曜石B35：内部及び新鮮な面は半透明な地に灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。楔形石器１点（4.5ｇ）の単独資料である。

・黒曜石B36：自然面は平滑で，自然面・内部・新鮮な面は透明な地に灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。加工痕ある剥片１点（2.6ｇ）の単独資料である。

・黒曜石B37：薄墨を流したような透明な地に灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。使用痕ある剥片１点（3.5ｇ）の単独資料である。

・黒曜石B38：薄墨を流したような透明な地に黒灰色・灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。使用痕ある剥片１点（4.3ｇ）の単独資料である。

・黒曜石B39：薄墨を流したような透明な地に黒灰色のモヤが入り，節理は黄灰色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。使用痕ある剥片１点（3.6ｇ）の単独資料である。

・黒曜石B40：薄墨を流したような半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。使用痕ある剥片１点（11.4ｇ）の単独資料である。

・黒曜石B41：内部及び新鮮な面は透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。使用痕ある剥片１点（32.6ｇ）の単独資料である。

・黒曜石B42：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は透明な地に黒灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片５点，砕片４点の合計９点（18.4ｇ）である。

・黒曜石B43：透明な地に黒色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（4.5ｇ）である。
・黒曜石B44：黒色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片３点（5.9ｇ）である。
・黒曜石B45：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は半透明な黒灰色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片１点、砕片２点の合計３点（2.5ｇ）である。
・黒曜石B46：透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片３点（4.8ｇ）である。
・黒曜石B47：自然面は平滑で，自然面及び内部は半透明な黒灰色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（2.6ｇ）である。
・黒曜石B48：自然面は平滑で，自然面及び内部は透明な地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。被熱のためか光沢がない。剥片１点（4.9ｇ）の単独資料である。
・黒曜石B49：透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。φ１㎜以下の灰色の夾雑物を含む。使用痕ある剥片１点（5.4ｇ）の単独資料である。
・黒曜石B50：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（4.3ｇ）の単独資料である。
・黒曜石B51：透明な地に灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（1.2ｇ）である。
・黒曜石B52：自然面は平滑で，自然面及び内部は半透明な地に黒灰色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（16.6ｇ）の単独資料である。
・黒曜石B53：透明な地に若干褐色がかった黒灰色の線が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（1.5ｇ）の単独資料である。
・黒曜石B54：淡黒灰色半透明な黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（0.9ｇ）の単独資料である。
・黒曜石B55：半透明な地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（2.1ｇ）の単独資料である。
・黒曜石B56：黒灰色半透明な黒曜石である。φ１㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（15.6ｇ）の単独資料である。
・黒曜石B57：透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（0.4ｇ）の単独資料である。
・黒曜石B58：透明な地に淡黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。剥片１点（0.4ｇ）の単独資料である。
・黒曜石B59：自然面・内部・新鮮な面は半透明な地に黒灰色・灰白色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石核１点（27.4ｇ）の単独資料である。
・黒曜石B60：透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点（3.3ｇ）の単独資料である。
・黒曜石B61：内部及び新鮮な面は透明な地に黒灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺

産と考えられる。石刃１点（6.1ｇ）の単独資料である。

・黒曜石Ｂ62：自然面は平滑で，自然面及び内部は半透明な地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。被熱のためか光沢がない。石刃１点（2.6ｇ）の単独資料である。

・黒曜石Ｂ63：自然面は平滑で，自然面及び内部は薄墨を流したような半透明な地に黒灰色の筋が入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点（7.9ｇ）の単独資料である。

・黒曜石Ｂ64：透明な地に若干褐色がかった黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点（4.0ｇ）の単独資料である。

・黒曜石Ｂ65：透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点（9.5ｇ）の単独資料である。

・黒曜石Ｂ66：半透明な地に黒灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。長さ５㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。石刃１点（7.9ｇ）の単独資料である。

・黒曜石Ｂ67：内部及び新鮮な面は半透明な地に黒灰色・灰色の筋状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。φ１㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。石刃１点（5.2ｇ）の単独資料である。

・黒曜石Ｂ68：半透明な地に若干褐色がかった黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点（3.0ｇ）の単独資料である。

・黒曜石Ｂ69：内部及び新鮮な面は透明な地に灰白色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点（1.7ｇ）の単独資料である。

・黒曜石Ｂ70：若干褐色がかった黒色の黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。石刃１点（4.0ｇ）の単独資料である。

・黒曜石Ｇ１：自然面は紙ヤスリ状で凹凸があり，自然面・内部・新鮮な面は若干褐色がかった黒灰色の半透明な黒曜石である。産地は不明である。石器群の内訳は，石刃２点（32.3ｇ）である。

・黒曜石Ｇ２：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は暗褐灰色不透明，節理は黄灰色の黒曜石である。産地は不明である。石器群の内訳は，剥片１点、石核１点の合計２点（11.8ｇ）である。

・黒曜石Ｇ３：自然面は平滑で，自然面及び内部は黒灰色半透明な黒曜石である。φ１㎜以下の黄灰色の夾雑物を含む。産地は不明である。加工痕ある剥片１点（3.5ｇ）の単独資料である。

・黒曜石Ｇ４：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰白色半透明な部分と黒灰色半透明な部分がある黒曜石である。産地は不明である。石核１点（8.7ｇ）の単独資料である。

・黒曜石Ｇ５：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は黒灰色半透明な黒曜石である。産地は不明である。φ２㎜～３㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。剥片１点（3.7ｇ）の単独資料である。

・黒曜石Ｇ６：自然面は平滑で，自然面及び内部は黒灰色半透明な黒曜石である。産地は不明である。剥片１点（3.6ｇ）の単独資料である。

・黒曜石Ｇ７：黒灰色半透明な黒曜石である。産地は不明である。φ１㎜ほどの灰色の夾雑物を含む。砕片１点（1.1ｇ）の単独資料である。

・黒曜石Ｇ８：淡黒灰色半透明な黒曜石である。産地は不明である。φ１㎜ほどの灰白色の夾雑物を含む。砕片１点（0.4ｇ）の単独資料である。

・安山岩８：自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の資料，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（10Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の資料など変異のある安山岩であ

る。石器群の内訳は，剥片６点、石核１点の合計７点（138.1ｇ）である。接合資料は，剥片１点、石核１点の合計２点（107.1ｇ）である。

・安山岩９：内部は黄灰色（2.5Y5/1）・にぶい黄色（2.5Y6/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の資料，内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰オリーブ色（5Y6/2）の資料，内部は灰オリーブ色（5Y4/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）資料など変異のある安山岩である。石器群の内訳は，剥片８点（７個体；82.8ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；26.6ｇ）である。

・安山岩11：自然面は紙ヤスリ状で，自然面は灰オリーブ色（5Y5/2），内部は灰色（5Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点、剥片１点の合計２点（9.9ｇ）である。

・安山岩12：自然面は紙ヤスリ状で，一部は爪形の浅い裂痕がある。自然面及び内部は灰オリーブ色(5Y4/2)・灰オリーブ色（5Y5/2），節理は黄褐色（2.5Y5/4），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片１点、石核１点の合計２点（689.3ｇ）である。

・安山岩13：自然面は紙ヤスリ状で黄褐色（2.5Y5/4）・黄褐色（2.5Y5/3），内部は暗灰黄色（2.5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片１点、石核１点の合計２点（57.8ｇ）である。

・安山岩14：内部は暗灰黄色（2.5Y5/2），節理は灰白色（5Y7/2）の安山岩である。ナイフ形石器１点（8.3ｇ）の単独資料である。

・安山岩15：内部は灰色（5Y5/1）・灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石刃１点（4.4ｇ）の単独資料である。

・安山岩16：内部は灰色（5Y5/1）・灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片６点（4.0ｇ）である。

・安山岩17：自然面は若干凹凸がある明黄褐色（10YR7/6）・黄灰色（2.5Y6/1）で，内部は灰色（5Y5/1）の地に黄灰色（2.5Y6/1）がごま塩状に入り，節理はにぶい黄褐色（10YR5/4），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片４点（34.2ｇ）である。

・安山岩18：内部は灰色（5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片３点（9.4ｇ）である。

・安山岩19：自然面は紙ヤスリ状で灰色（5Y5/1）・灰オリーブ色（5Y6/2），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片３点（3.3ｇ）である。

・安山岩20：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点（23.3ｇ）である。

・安山岩21：自然面は紙ヤスリ状でにぶい黄色（2.5Y6/3），内部は灰色（5Y4/1）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点（18.3ｇ）である。

・安山岩22：内部は灰オリーブ色（5Y4/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点（17.4ｇ）である。

・安山岩23：内部は灰オリーブ色（5Y5/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点（5.0ｇ）である。

・安山岩24：自然面は爪形の浅い裂痕がある灰オリーブ色（5Y5/2），内部は灰オリーブ色（5Y4/2），節理はにぶい黄色（2.5Y6/3）・にぶい褐色（7.5YR5/4），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片１点（16.4ｇ）の単独資料である。

・**安山岩25**：内部は暗灰黄色（2.5Y4/2），新鮮な面は灰色（N4/0）の安山岩である。剥片１点（3.9ｇ）の単独資料である。

・**安山岩26**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y4/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片１点（2.6ｇ）の単独資料である。

・**安山岩27**：自然面は紙ヤスリ状で灰オリーブ色（5Y6/2），内部は灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片１点（3.2ｇ）の単独資料である。

・**安山岩28**：自然面は凹凸があるにぶい黄色（2.5Y6/4），内部は黄褐色（2.5Y5/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片１点（14.3ｇ）の単独資料である。

・**安山岩29**：灰色（5Y4/1）・にぶい黄色（2.5Y6/4）の地に黄灰色のごま塩状の粒が混じり，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片１点（5.1ｇ）の単独資料である。

・**安山岩30**：自然面は紙ヤスリ状の部分と凹凸の部分があり，自然面及び内部は灰色（5Y6/1），灰オリーブ色（5Y6/2），新鮮な面は灰色（N4/0）の安山岩である。剥片１点（8.0ｇ）の単独資料である。

・**安山岩31**：内部は灰色（N5/0）・灰色（10Y5/1）・オリーブ褐色（2.5Y4/6），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片１点（2.6ｇ）の単独資料である。

・**安山岩32**：自然面は紙ヤスリ状で灰白色（5Y7/1），内部は灰色（5Y5/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片１点（12.7ｇ）の単独資料である。

・**安山岩33**：自然面は紙ヤスリ状で灰色（5Y6/1），内部は灰色（10Y4/1）・灰色（5Y6/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片１点（13.9ｇ）の単独資料である。

・**軟質の安山岩３**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰白色（10Y7/1），新鮮な面は灰色（10Y3/1）・灰色（10Y4/1）の軟質の安山岩である。石器群の内訳は，石刃１点、剥片14点（13個体）、砕片２点、石核４点の合計21点（20個体；129.4ｇ）である。接合資料は，４グループあり，Ａは剥片２点、石核２点の合計４点（52.9ｇ），Ｂは剥片２点、石核１点の合計３点（25.7ｇ），Ｃは剥片１点、石核１点の合計２点（10.6ｇ），Ｄは剥片２点（１個体；2.9ｇ）である。

・**軟質の安山岩４**：灰白色（10Y7/1）の軟質の安山岩である。軟質の安山岩３より若干白っぽい。石刃１点（4.2ｇ）の単独資料である。

・**軟質の安山岩５**：自然面は平滑で浅黄色（2.5Y7/4）・にぶい赤褐色（5YR4/3），内部は灰白色（10Y7/1），節理は灰黄褐色（10YR5/2），新鮮な面は灰白色（10Y7/1）の軟質の安山岩である。剥片１点（5.0ｇ）の単独資料である。

・**軟質の安山岩６**：灰色（10Y6/1）の軟質の安山岩である。砕片１点（1.4ｇ）の単独資料である。

・**軟質の安山岩７**：灰色（10Y5/1）の軟質の安山岩である。砕片１点（0.7ｇ）の単独資料である。

・**軟質の安山岩８**：内部は青灰色（5B6/1），新鮮な面は灰色（N5/0）の軟質の安山岩である。砕片１点（0.4ｇ）の単独資料である。

・**流紋岩２**：自然面は平滑で，自然面及び内部はにぶい黄色（2.5Y6/4），節理は淡黄色（2.5Y8/3），新鮮な面は黄灰色（2.5Y4/1）の流紋岩である。石器群の内訳は，剥片２点（１個体；82.5ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；82.5ｇ）である。

・**流紋岩３**：自然面及び内部は灰白色（2.5Y8/2），節理は明黄褐色（10YR6/6）の流紋岩である。石器群の内訳は，剥片２点（51.0ｇ）である。

・流紋岩４：内部は灰白色（2.5Y8/2）の地に，にぶい黄色（2.5Y6/4）・黄褐色（2.5Y5/3）・明褐色（7.5YR5/6）が混じり，新鮮な面は灰白色（7.5Y8/1）の流紋岩である。剥片１点（18.1ｇ）の単独資料である。

・流紋岩５：内部は灰白色（10Y7/1），節理は黄褐色（2.5Y5/4），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の流紋岩である。剥片１点（12.5ｇ）の単独資料である。

・流紋岩６：自然面は紙ヤスリ状で，自然面及び内部はにぶい黄色（2.5Y6/4），新鮮な面は暗緑灰色（10GY4/1）の流紋岩である。剥片１点（8.5ｇ）の単独資料である。

・流紋岩７：内部は浅黄色（2.5Y7/4），新鮮な面は灰色（10Y6/1）の流紋岩である。剥片１点（3.6ｇ）の単独資料である。

・流紋岩８：緑灰色（7.5GY5/1）の地に灰色（10Y4/1）・にぶい黄色（2.5Y6/4）が混じる流紋岩である。流紋岩としたが，流紋岩質凝灰岩の可能性もある。剥片１点（6.4ｇ）の単独資料である。

・流紋岩９：内部はにぶい黄色（2.5Y6/4），新鮮な面は灰色（10Y4/1）の流紋岩である。剥片１点（2.3ｇ）の単独資料である。

・頁岩Ａ２：灰黄褐色（10YR4/2）の東北産頁岩である。剥片１点（5.0ｇ）の単独資料である。

・頁岩Ｂ２：自然面は平滑で黄褐色（10YR5/6），内部は浅黄色（2.5Y7/4）・褐色（7.5YR4/6）・灰黄色（2.5Y7/2），新鮮な面は灰黄色（2.5Y7/2）の資料，自然面は浅黄色（2.5Y7/4），内部は浅黄色（2.5Y7/4）・褐色（7.5YR4/6）の資料，自然面はにぶい黄橙色（10YR6/4），内部はにぶい黄色（2.5Y6/4）・褐色（7.5YR4/6）の資料など変異のある北関東産頁岩である。石器群の内訳は，錐状石器１点、使用痕ある剥片１点、剥片15点（14個体），砕片１点の合計18点（17個体；92.1ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片２点（１個体；34.6ｇ），Ｂは剥片２点（4.1ｇ）である。

・頁岩Ｂ３：内部及び新鮮な面はにぶい黄褐色（10YR5/4）・明黄褐色（10YR7/6），節理はにぶい黄色（2.5Y6/4）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片11点，砕片１点の合計12点（82.0ｇ）である。接合資料は，剥片２点（16.1ｇ）である。

・頁岩Ｂ４：自然面・内部・節理は黄褐色（10YR5/6）の地に明黄褐色（10YR7/6）・黒褐色（10YR3/1）が部分的に入る北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片５点，砕片８点の合計13点（19.8ｇ）である。接合資料は，剥片３点（14.5ｇ）である。

・頁岩Ｂ５：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は黄褐色（2.5Y5/4）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（11.2ｇ）である。接合資料は，加工痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（11.2ｇ）である。

・頁岩Ｂ６：内部は灰白色（2.5Y8/2）・黄灰色（2.5Y6/1）・暗灰黄色（2.5Y5/2）・黄橙色（10YR8/6），節理は橙色（7.5YR6/6）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，石核２点（１個体；13.8ｇ）である。接合資料は，石核２点（１個体；13.8ｇ）である。

・頁岩Ｂ７：自然面は平滑で褐色（10YR4/4），内部はにぶい黄褐色（10YR5/3）の地に灰白色（2.5Y7/1）が部分的に入り，新鮮な面は暗褐色（7.5YR3/4）・灰白色（2.5Y7/1）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片４点，砕片２点の合計６点（10.9ｇ）である。

・頁岩Ｂ８：自然面は平滑で黄褐色（2.5Y5/4），内部は浅黄色（2.5Y7/4）・にぶい黄色（2.5Y6/4）・灰黄色（2.5Y6/2）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点，砕片２点の合計４点（8.0ｇ）である。

・頁岩Ｂ９：自然面は比較的平滑で褐色（7.5YR4/6），内部はにぶい褐色（7.5YR5/4）・にぶい黄褐色（10YR5/4）

に灰黄色（2.5Y6/2）が縞状に混じる北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（22.0ｇ）である。

・頁岩B10：内部は浅黄色（2.5Y7/3）・浅黄色（2.5Y7/4），節理は明黄褐色（10YR6/6），新鮮な面は淡黄色（2.5Y8/3）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，石刃２点（18.4ｇ）である。

・頁岩B11：内部及び新鮮な面は黄褐色（2.5Y5/3）の北関東産頁岩である。ナイフ形石器１点（2.2ｇ）の単独資料である。

・頁岩B12：自然面は平滑で黄褐色（10YR5/8），内部は黄褐色（10YR5/6）・黄褐色（2.5Y5/4）の北関東産頁岩である。剥片１点（17.0ｇ）の単独資料である。

・頁岩B13：内部及び新鮮な面はにぶい黄色（2.5Y6/3）の地に明黄褐色（10YR6/6）が部分的に入る北関東産頁岩である。使用痕ある剥片１点（44.4ｇ）の単独資料である。

・頁岩B14：自然面は比較的平滑でオリーブ褐色(2.5Y4/3)・灰オリーブ色(5Y4/2)，内部は黄褐色(2.5Y5/4)，節理は褐色（7.5YR4/3）の北関東産頁岩である。石核１点（95.6ｇ）の単独資料である。

・頁岩B15：内部はにぶい黄色（2.5Y6/4），新鮮な面は浅黄色（2.5Y7/4）の北関東産頁岩である。石刃１点（3.6ｇ）の単独資料である。

・頁岩C10：暗灰黄色（2.5Y5/2）・暗灰黄色（2.5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片１点（3.7ｇ）の単独資料である。

・頁岩C12：自然面は比較的平滑で黄褐色（10YR5/6），内部は黄褐色（10YR5/6）・灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y5/1）・オリーブ黒色（5Y3/1）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（5.8ｇ）の単独資料である。

・頁岩C22：自然面は比較的平滑で灰オリーブ色(5Y4/2)，内部は灰オリーブ色(5Y4/2)の地に灰色(5Y5/1)が一部混じる資料，自然面は比較的平滑で灰黄褐色（10YR4/2），内部は灰オリーブ色（5Y4/2）・一部灰オリーブ色（5Y6/2）・オリーブ褐色（2.5Y4/4）の資料など変異のある嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片１点，砕片１点，石核２点（１個体）の合計５点（４個体；44.4ｇ）である。接合資料は，使用痕ある剥片１点，石核２点（１個体）の合計３点（２個体；23.5ｇ）である。

・頁岩C23：自然面は比較的平滑で暗灰黄色（2.5Y4/2）・にぶい黄橙色（10YR6/4），内部及び新鮮な面はオリーブ灰色（2.5GY5/1）・オリーブ灰色（2.5G6/1），節理は褐色（10YR4/4）・黒褐色（10YR3/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点，石核１点の合計３点（191.6ｇ）である。接合資料は，剥片２点，石核１点の合計３点（191.6ｇ）である。

・頁岩C24：自然面は比較的平滑でオリーブ褐色（2.5Y4/6），内部は灰オリーブ色（5Y5/3），節理はオリーブ褐色（2.5Y4/6）・褐色（7.5YR4/4）・にぶい黄褐色（10YR5/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，石刃１点，剥片１点，石核１点の合計３点（31.0ｇ）である。

・頁岩C25：自然面は比較的平滑で一部に爪形の浅い裂痕のある黄褐色(2.5Y5/3)，内部は灰オリーブ色(5Y5/2)・黄褐色（2.5Y5/3）の資料，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y5/2），節理は暗灰黄色（2.5Y4/2）・暗褐色（7.5YR3/4）の資料など変異のある嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点，石核１点の合計３点(63.8ｇ）である。

・頁岩C26：暗灰黄色（5Y5/2）・黄灰色（2.5Y4/1）の資料，暗灰黄色（2.5Y4/2）・黄灰色（2.5Y4/1）の資料など変異のある嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片３点（8.0ｇ）である。

・頁岩C27：自然面は平滑でにぶい黄褐色(10YR5/4)，内部は暗灰黄色(2.5Y5/2)・オリーブ褐色(2.5Y4/4)・にぶい黄色（2.5Y6/3）・黄灰色（2.5Y4/1）の資料，自然面は平滑で，自然面・内部・新鮮な面は灰黄褐色

（10YR4/2）の資料など変異のある嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，石刃1点の合計2点（29.1g）である。

・頁岩C28：灰色（5Y4/1）・にぶい黄褐色（10YR5/4）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，剥片1点の合計2点（20.9g）である。

・頁岩C29：自然面は平滑で暗灰黄色（2.5Y4/2），内部は灰オリーブ色（5Y4/2）・オリーブ灰色（2.5GY5/1），節理は暗褐色（7.5YR3/3）の資料，内部は灰オリーブ色（5Y5/2），節理はにぶい黄褐色（10YR4/3），新鮮な面は暗緑灰色（7.5GY4/1）の資料など変異のある嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（3.4g）である。

・頁岩C30：灰オリーブ色（5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。ナイフ形石器1点（3.1g）の単独資料である。

・頁岩C31：黄褐色（2.5Y5/3）の地にオリーブ褐色（2.5Y4/6）・黄灰色（2.5Y5/1）・褐色（7.5YR4/6）・黄灰色（2.5Y4/1）が部分的に混じり，節理は褐色（10YR4/6）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（5.6g）の単独資料である。

・頁岩C32：自然面は爪形の浅い裂痕がありオリーブ褐色（2.5Y4/6）・褐色（10YR4/4），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の地に灰色（5Y4/1）が筋状に入る嶺岡産頁岩である。剥片1点（23.4g）の単独資料である。

・頁岩C33：自然面は爪形の裂痕がありオリーブ褐色（2.5Y4/6），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・オリーブ色（5Y5/4）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（13.6g）の単独資料である。

・頁岩C34：オリーブ褐色（2.5Y4/6）・灰オリーブ色（5Y5/2）・灰オリーブ色（5Y6/2）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（14.0g）の単独資料である。

・頁岩C35：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR4/3）・褐色（10YR4/6）・褐色（7.5YR4/4），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰オリーブ色（5Y5/3），節理は褐色（7.5YR4/4）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（23.3g）の単独資料である。

・頁岩C36：自然面は比較的平滑で褐色（10YR4/6），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・黄褐色（2.5Y5/3）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（2.9g）の単独資料である。

・頁岩C37：内部は灰色（5Y5/1）・灰オリーブ色（5Y5/2），節理は褐色（10YR4/6）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（5.8g）の単独資料である。

・頁岩C38：自然面は平滑でオリーブ褐色（2.5Y4/3），内部は灰オリーブ色（5Y4/2），節理はオリーブ褐色（2.5Y4/3）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（2.3g）の単独資料である。

・頁岩C39：自然面は比較的平滑で灰オリーブ色（5Y6/2），内部はオリーブ黄色（5Y6/3）・灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y4/1）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（47.0g）の単独資料である。

・頁岩C40：灰オリーブ色（5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（2.9g）の単独資料である。

・頁岩C41：灰オリーブ色（5Y4/2）・灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（3.3g）の単独資料である。

・頁岩C42：灰オリーブ色（5Y4/2）・灰オリーブ色（5Y5/2）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（2.2g）の単独資料である。

・頁岩C43：黄灰色（2.5Y5/1）・暗褐色（10YR3/3）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（1.4g）の単独資料である。

・頁岩C44：自然面は比較的平滑で黄褐色（2.5Y5/4），内部は灰色（5Y5/1）・灰色（5Y6/1）・にぶい黄褐色

（10YR4/3）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（14.4ｇ）の単独資料である。

・頁岩Ｄ８：自然面は凹凸があり黄褐色（10YR5/3）・にぶい黄橙色（10YR6/3），内部は浅黄色（5Y7/3）・灰黄褐色（10YR6/2）・褐色（10YR4/6），節理は褐色（10YR4/4）・にぶい赤褐色（5YR4/4）の資料，自然面は平滑でにぶい黄褐色(10YR5/4)，内部は浅黄色(5Y7/3)・にぶい黄褐色(10YR5/3)・にぶい黄橙色(10YR7/4)の資料，自然面は比較的平滑で，自然面及び内部はにぶい黄橙色（10YR6/4）・にぶい黄色（2.5Y6/3），節理は黄褐色（10YR5/6）の資料など変異のある硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片13点，石核４点（３個体）の合計17点（16個体；158.3ｇ）である。接合資料は，３グループあり，Ａは石核３点（２個体；102.9ｇ），Ｂは剥片３点（10.5ｇ），Ｃは剥片１点，石核１点の合計２点（27.7ｇ）である。

・頁岩Ｄ９：内部は灰白色（5Y8/2）・浅黄色（2.5Y7/4），節理はにぶい黄色（2.5Y6/4）の資料，内部は灰白色（5Y8/2）で明黄褐色（2.5Y7/6）と灰色（5Y6/1）が細い線状に入る資料，内部は灰白色（5Y7/2）の資料，内部は灰色（5Y6/1）・にぶい黄色（2.5Y6/4）の資料，内部は浅黄色（5Y7/4）・灰色（5Y6/1），節理は浅黄色（2.5Y7/4），新鮮な面は灰白色（5Y7/1）の資料など変異のある硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，加工痕ある剥片１点，剥片15点（14個体），砕片５点，石核２点の合計24点（23個体；76.6ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは石核２点（30.2ｇ），Ｂは剥片２点（１個体；2.0ｇ）である。

・頁岩D10：内部は浅黄色（2.5Y7/4），新鮮な面は灰白色（5Y8/1）の資料，内部は淡黄色（2.5Y8/4）・明オリーブ灰色（2.5GY7/1），節理は浅黄色（2.5Y7/4）の資料，内部は淡黄色（2.5Y8/4）・浅黄色（2.5Y7/4）・淡黄色（5Y8/3），新鮮な面は灰白色（5Y8/1）の資料など変異のある硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片３点（２個体），石核１点の合計４点（３個体；66.1ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；13.3ｇ）である。

・頁岩D11：内部は黄灰色（2.5Y5/1）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の資料，内部は褐色（7.5YR4/4），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）の資料など変異のある硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片３点，砕片１点，石核２点（１個体）の合計６点（５個体；33.7ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核２点（１個体）の合計３点（２個体；30.4ｇ）である。

・頁岩D12：黒褐色（2.5Y3/2）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片３点（２個体），砕片３点の合計６点（５個体；1.9ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；0.7ｇ）である。

・頁岩D13：オリーブ黒色（10Y3/1）・灰白色（5Y7/2）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（13.4ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（13.4ｇ）である。

・頁岩D14：内部は淡黄色（2.5Y8/3）・にぶい黄色（2.5Y6/4），節理はにぶい黄橙色（10YR7/4）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片９点，石核１点の合計10点（145.2ｇ）である。

・頁岩D15：にぶい黄色（2.5Y6/4）・淡黄色（2.5Y8/3）の資料，浅黄色（2.5Y7/3）の資料など変異のある硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，剥片７点の合計８点（16.7ｇ）である。

・頁岩D16：内部は暗オリーブ灰色（5GY4/1）・灰オリーブ色（5Y4/2），節理はオリーブ黄色（5Y6/3）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器１点，剥片４点，砕片１点の合計６点（11.9ｇ）である。

・頁岩D17：内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰白色（10Y7/1）の地に灰色（5Y5/1）の筋が入る資料，内部は灰オリーブ色（5Y4/2）・オリーブ灰色（5GY6/1），節理は灰オリーブ色（5Y4/2）の資料，灰白色（7.5Y8/1）

の資料など変異のある硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片4点，石核1点の合計5点（25.7g）である。

・頁岩D18：自然面は平滑で暗赤褐色（5YR3/3），内部は暗赤褐色（5YR3/3）・暗灰黄色（2.5Y5/2）・灰白色（5Y7/1）の資料，内部は灰黄褐色（10YR4/2）・黒色（10YR2/1）の資料，自然面は比較的平滑でオリーブ黒色（5Y3/2），内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）・黄灰色（2.5Y4/1）・暗赤褐色（5YR3/3）の資料など変異のある硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器1点，剥片3点の合計4点（37.0g）である。

・頁岩D19：自然面は比較的平滑で暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片6点，砕片2点の合計8点（11.7g）である。

・頁岩D20：にぶい黄褐色（10YR4/3）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片4点，砕片1点の合計5点（2.6g）である。

・頁岩D21：内部は淡黄色（5Y8/3），新鮮な面は灰白色（5Y7/1）・灰白色（5Y8/1）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点，砕片1点の合計3点（4.9g）である。

・頁岩D22：オリーブ黄色（5Y6/4）・にぶい黄色（2.5Y6/4）・オリーブ灰色（5GY6/1）灰オリーブ色（5Y5/3）の資料，内部は浅黄色（2.5Y7/4）・オリーブ黄色（5Y6/3），新鮮な面は灰白色（5Y7/2）の資料，節理はにぶい黄色（2.5Y6/3）・淡黄色（2.5Y8/4）の資料など変異のある硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片3点（33.6g）である。

・頁岩D23：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y4/1）・オリーブ黄色（5Y6/3）の資料，内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・黄灰色（2.5Y4/1）・灰色（5Y5/1）・灰白色（5Y7/2）の資料など変異のある硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点，石核1点の合計3点（31.7g）である。

・頁岩D24：灰色（5Y4/1）・灰オリーブ色（5Y6/2）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の資料，灰オリーブ色（5Y5/2）の資料など変異のある硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，剥片2点の合計3点（9.0g）である。

・頁岩D25：自然面は爪形の裂痕があり，自然面及び内部は灰色（10Y4/1），節理はにぶい黄色（2.5Y6/4）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点，石核1点の合計3点（34.1g）である。

・頁岩D26：自然面は平滑で灰白色（5Y8/1）・灰黄色（2.5Y7/2）・オリーブ黒色（10Y3/1），内部はオリーブ黒色（10Y3/1）・灰黄色（2.5Y7/2）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の資料，自然面は平滑でオリーブ黒色（10Y3/1），内部はオリーブ黒色（10Y3/1）・灰黄色（2.5Y7/2）・にぶい黄色（2.5Y6/4），新鮮な面は灰白色（2.5Y8/1）・オリーブ黒色（10Y3/1）の資料など変異のある硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，石刃1点，剥片2点の合計3点（63.5g）である。

・頁岩D27：浅黄色（2.5Y7/4）・淡黄色（2.5Y8/4）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（16.6g）である。

・頁岩D28：にぶい黄色（2.5Y6/3）・淡黄色（2Y8/3）・にぶい黄褐色（10YR5/4）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片1点，砕片1点の合計2点（43.9g）である。

・頁岩D29：内部は灰オリーブ色（7.5Y5/2），節理は灰色（10Y4/1）・灰オリーブ色（7.5Y5/2）の資料，内部は灰オリーブ色（7.5Y5/2）・灰色（7.5Y4/1）・灰オリーブ色（7.5Y6/2），節理は灰オリーブ色（5Y5/3）・褐色（10YR4/4）の資料など変異のある硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（20.1g）である。

・頁岩D30：自然面は平滑で灰白色（5Y8/2）・にぶい黄橙色（10YR7/4），内部は灰黄色（2.5Y7/2）・黄灰色（2.5Y5/1）の資料，自然面は平滑で灰黄色（2.5Y7/2），内部は灰黄色（2.5Y7/2）・黄灰色（2.5Y6/1）・黄灰色（2.5Y4/1）の資料など変異のある硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（6.6ｇ）である。

・頁岩D31：自然面は平滑で黄褐色（2.5Y5/4），内部は灰色（10Y6/1），新鮮な面は灰色（10Y5/1）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（10.0ｇ）である。

・頁岩D32：内部及び新鮮な面は浅黄色（2.5Y7/4）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（8.7ｇ）の単独資料である。

・頁岩D33：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR4/3），内部は浅黄色（7.5Y7/3）・灰オリーブ色（7.5Y5/3）・にぶい黄色（2.5Y6/4）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（20.1ｇ）の単独資料である。

・頁岩D34：内部はオリーブ灰色（10Y6/2）・にぶい橙色（7.5YR6/4）・灰黄色（2.5Y7/2），新鮮な面は青灰色（10BG6/1）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（1.6ｇ）の単独資料である。

・頁岩D35：淡黄色（5Y8/3），明黄褐色（2.5Y7/6）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（1.8ｇ）の単独資料である。

・頁岩D36：内部は灰白色（5Y7/1）・灰白色（5Y7/2），節理は褐色（7.5YR4/4）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（8.2ｇ）の単独資料である。

・頁岩D37：自然面は比較的平滑で灰白色（5Y8/1），内部は褐色（10YR4/4）・明黄褐色（10YR6/6）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（24.2ｇ）の単独資料である。

・頁岩D38：自然面は比較的平滑で褐色（10YR4/6）・にぶい黄橙色（10YR6/4），内部はオリーブ灰色（10Y5/2）・暗緑灰色（10GY4/1）・にぶい黄色（2.5Y6/3）・褐色（7.5YR4/6）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（14.5ｇ）の単独資料である。

・頁岩D39：にぶい赤褐色（5YR4/4）・褐色（7.5YR4/3）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（11.4ｇ）の単独資料である。

・頁岩D40：内部は灰オリーブ色（7.5Y4/2），新鮮な面は灰色（10Y4/1）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（5.3ｇ）の単独資料である。

・頁岩D41：オリーブ灰色（10Y4/2）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（4.6ｇ）の単独資料である。

・頁岩D42：自然面は爪形の裂痕がありオリーブ褐色（2.5Y4/6），内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）・灰色（10Y4/1）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（13.6ｇ）の単独資料である。

・頁岩D43：内部は黒褐色（2.5Y3/1），節理は灰オリーブ色（5Y4/2）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（15.0ｇ）の単独資料である。

・頁岩D44：灰色（10Y4/1）の硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（1.5ｇ）である。

・頁岩D45：灰色（10Y4/1）・灰色（10Y6/1）・淡黄色（2.5Y8/4）の硬質緻密な頁岩である。剥片１点（3.4ｇ）の単独資料である。

・頁岩D46：灰色（5Y4/1）・灰白色（5Y7/2）の資料，灰色（5Y4/1）の資料，オリーブ灰色（5GY6/1）の資料など変異のある硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，砕片３点（1.0ｇ）である。

・頁岩D47：淡黄色（5Y8/3）・灰色（5Y6/1）の地に灰色（5Y5/1）の筋が入る硬質緻密な頁岩である。砕片１点（0.2ｇ）の単独資料である。

・頁岩D48：自然面は平滑で黄褐色（2.5Y5/4），内部は淡黄色（2.5Y8/3）・黄灰色（2.5Y5/1）・黄褐色（2.5Y5/4）・

浅黄色（2.5Y7/3）・黒褐色（10YR3/1），新鮮な面は灰白色（2.5Y7/1）の硬質緻密な頁岩である。石刃１点（23.4ｇ）の単独資料である。

・頁岩D49：オリーブ黄色（5Y6/3）の地に橙色（7.5Y6/6）部分的に混じる硬質緻密な頁岩である。石刃１点（10.2ｇ）の単独資料である。

・頁岩D50：内部は灰色（5Y6/1）・灰オリーブ色（5Y6/2），節理は褐色（7.5YR4/4）の硬質緻密な頁岩である。石刃１点（9.2ｇ）の単独資料である。

・頁岩D51：内部・節理・新鮮な面は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰オリーブ色（5Y6/2）の硬質緻密な頁岩である。石刃１点（12.7ｇ）の単独資料である。

・頁岩D52：自然面は比較的平滑で明オリーブ灰色（5GY7/1）・褐色（7.5YR4/6），内部は明オリーブ灰色（5GY7/1）・暗オリーブ灰色（5GY4/1）・にぶい黄褐色（10YR5/4）・ごく一部に褐色（7.5YR4/6）が入る硬質緻密な頁岩である。石刃１点（3.8ｇ）の単独資料である。

・頁岩Ｅ１：自然面は平滑で灰オリーブ色（5Y4/2），内部は灰白色（5Y8/2）・浅黄色（2.5Y7/4），新鮮な面は暗青灰色（10BG4/1）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片11点，砕片１点，石核１点の合計13点（90.3ｇ）である。接合資料は，剥片９点，石核１点の合計10点（82.4ｇ）である。

・頁岩Ｅ２：自然面は平滑でオリーブ黒色（5Y3/1）・灰色（5Y5/1），内部は灰色（5Y5/1），節理は灰色（5Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片５点，石核１点の合計６点（56.0ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片３点（25.4ｇ），Ｂは剥片２点，石核１点の合計３点（30.5ｇ）である。

・頁岩Ｅ３：自然面は平滑で灰オリーブ色（5Y6/2），内部は灰色（5Y5/1）・灰オリーブ色（5Y6/2），新鮮な面は灰色（N4/0）・暗灰色（N3/0）の頁岩である。石器群の内訳は，石刃２点，剥片１点の合計３点（34.4ｇ）である。

・頁岩Ｅ４：自然面は平滑でオリーブ黒色（10Y3/1），内部は灰色（10Y6/1），節理はにぶい黄褐色（10YR5/3），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。石器群の内訳は，剥片１点，石核２点の合計３点（55.2ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（36.3ｇ）である。

・頁岩Ｅ５：内部は灰色（10Y5/1）・灰オリーブ色（5Y5/2），節理は黄褐色（10YR5/6）の頁岩である。ナイフ形石器１点（11.4ｇ）の単独資料である。

・頁岩Ｅ６：内部はオリーブ黄色（5Y6/3）・灰色（5Y6/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。加工痕ある剥片１点（42.3ｇ）の単独資料である。

・頁岩Ｅ７：内部は灰色（5Y6/1），節理は褐色（10YR4/4）・灰白色（5Y7/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の頁岩である。剥片１点（36.4ｇ）の単独資料である。

・頁岩Ｅ８：自然面は比較的平滑で灰白色（5Y7/2），内部は灰白色（5Y7/2）・灰色（5Y6/1），新鮮な面は灰色（5Y4/1）ににぶい褐色（7.5YR5/3）が混じる頁岩である。剥片１点（22.6ｇ）の単独資料である。

・頁岩Ｅ９：内部及び節理は灰色（5Y6/1），新鮮な面は灰色（N5/0）の頁岩である。剥片１点（7.2ｇ）の単独資料である。

・頁岩E10：自然面は平滑で凹凸がある灰色（5Y5/1）・灰黄色（2.5Y6/2）・灰黄色（2.5Y7/2）・にぶい橙色（7.5YR6/4），内部は灰色（5Y5/1）・灰オリーブ色（5Y6/2）・浅黄色（2.5Y7/3）・一部が暗赤褐色（5YR3/6），節理は灰色（5Y5/1）・にぶい黄褐色（10YR5/3）の頁岩である。石核１点（77.6ｇ）の単独資料である。

・チャート１：オリーブ黒色（7.5Y3/2）のチャートである。ナイフ形石器１点（1.3ｇ）の単独資料である。
・チャート４：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部はオリーブ黒色(10Y3/2)，節理は灰白色(2.5Y8/1)・にぶい黄色（2.5Y6/3）の資料，自然面は比較的平滑で，自然面・内部・新鮮な面はオリーブ黒色（10Y3/2）に一部青黒色（5B2/1）が混じり，節理はにぶい黄色（2.5Y6/3）の資料，自然面は比較的平滑で爪形の裂痕があり，自然面及び内部はオリーブ黒色（10Y3/2），自然面の一部に黄褐色（2.5Y5/4）の混じる資料，自然面は比較的平滑でオリーブ灰色（10Y5/2），内部は灰色（10Y4/1）の資料など変異のあるチャートである。石器群の内訳は，剥片５点，砕片２点，石核３点の合計10点（243.8ｇ）である。接合資料は，剥片２点（31.8ｇ）である。
・チャート５：内部は灰色（10Y4/1）・暗オリーブ灰色（5GY4/1）の地に青黒色（10BG2/1）の筋が入り，節理はオリーブ黄色（5Y6/3）の資料，内部はオリーブ灰色（2.5GY5/1）の地に青黒色（10BG2/1）の筋が入り，節理はにぶい黄褐色（10YR4/3）の資料，内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・青黒色（10BG2/1）の資料，自然面に敲打痕状の裂痕があり灰黄褐色（10YR5/2），内部は灰色（10Y4/1）・青黒色（10BG2/1），節理は黄褐色（2.5Y5/3）の資料など変異のあるチャートである。石器群の内訳は，剥片８点，砕片１点，石核１点の合計10点（69.4ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点の合計２点（42.6ｇ）である。
・チャート６：オリーブ灰色（5GY5/1）・灰色（10Y4/1）・青黒色（10BG2/1）のチャートである。石器群の内訳は，剥片２点，砕片１点の合計３点（11.8ｇ）である。
・チャート７：自然面は比較的平滑で黒褐色（10YR3/2），内部は灰黄褐色（10YR4/2）・褐色（7.5YR4/3），節理はにぶい褐色（7.5YR5/3）・黒褐色（10YR3/2），新鮮な面は黒褐色（10YR3/2）のチャートである。石器群の内訳は，剥片２点（35.8ｇ）である。
・チャート８：自然面は平滑で，自然面及び内部はオリーブ黒色（5Y3/1）・にぶい黄橙色（10YR6/4），節理は黄褐色（2.5Y5/3）のチャートである。加工痕ある剥片１点（4.3ｇ）の単独資料である。
・チャート９：自然面は敲打痕状の裂痕があり黄褐色(2.5Y5/3)・にぶい黄色(2.5Y6/3)，内部は緑灰色(10GY5/1)・灰色（10Y4/1）・青黒色（10BG2/1）のチャートである。剥片１点（26.4ｇ）の単独資料である。
・凝灰岩６：内部及び新鮮な面は暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）の凝灰岩である。珪化度が高い。ナイフ形石器１点（7.1ｇ）の単独資料である。
・凝灰岩７：内部及び新鮮な面は暗オリーブ灰色(5GY4/1)の地に灰白色(5GY8/1)・明オリーブ灰色(5GY7/1)が部分的に混じる凝灰岩である。珪化度が高い。彫器１点（54.7ｇ）の単独資料である。
・凝灰岩８：内部はオリーブ灰色（2.5GY5/1）・オリーブ灰色（2.5GY6/1）・灰白色（7.5Y8/2），節理は暗緑灰色（7.5GY4/1），新鮮な面は暗緑灰色（7.5GY3/1）の凝灰岩である。剥片１点（10.8ｇ）の単独資料である。
・凝灰岩９：内部はにぶい黄色（2.5Y6/4）・明黄褐色（10YR6/6）に一部灰オリーブ色（5Y5/3）が入り，新鮮な面は明緑灰色（10GY7/1）の凝灰岩である。剥片１点（3.8ｇ）の単独資料である。
・凝灰岩10：自然面は浅黄色(2.5Y7/3)，内部はオリーブ灰色(5GY7/1)・浅黄色(5Y7/3)の地に灰白色(5Y8/1)の線が入り，節理はオリーブ黄色（5Y6/3）・褐色（10YR4/4），新鮮な面は暗緑灰色（10GY4/1）の凝灰岩である。石刃１点（14.9ｇ）の単独資料である。
・凝灰岩11：自然面は平滑で，自然面及び内部は緑灰色（10GY6/1），新鮮な面は暗緑灰色（10GY3/1）の凝灰岩である。石刃１点（4.5ｇ）の単独資料である。

・**凝灰岩12**：自然面は平滑で暗灰黄色（2.5Y4/2），内部は灰オリーブ色（7.5Y5/2）・灰オリーブ色（5Y5/2）の地に暗褐色（10YR3/3）が混じる凝灰岩である。珪化度が高い。局部磨製石斧１点（166.5ｇ）の単独資料である。

・**粘板岩３**：オリーブ黒色（5Y3/1）・オリーブ黒色（5Y3/2）の粘板岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片４点，砕片４点，石核１点の合計10点（24.1ｇ）である。

・**粘板岩４**：自然面及び内部はオリーブ灰色（2.5GY5/1）・灰色（10Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の資料，自然面は灰オリーブ色(5Y6/2)，内部は灰色(10Y4/1)の資料，自然面及び内部は暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)，節理はオリーブ灰色（2.5GY5/1）・灰白色（2.5GY8/1）の資料など変異のある粘板岩である。石器群の内訳は，石刃２点，剥片２点の合計４点（51.0ｇ）である。

・**粘板岩５**：内部及び新鮮な面はオリーブ黒色（5Y3/1）の粘板岩である。石器群の内訳は，剥片４点（23.8ｇ）である。

・**粘板岩６**：内部はオリーブ黒色（5Y3/2），節理は灰白色（5Y7/1）の資料，自然面は平滑で，自然面及び内部はオリーブ黒色（10Y3/1）の資料など変異のある粘板岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，石刃１点，剥片１点の合計３点（18.8ｇ）である。

・**粘板岩７**：灰色(10Y4/1)の資料，自然面は平滑で暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)，内部は暗オリーブ色(2.5GY4/1)の資料など変異のある粘板岩である。石器群の内訳は，剥片２点（8.3ｇ）である。

・**粘板岩８**：灰色（10Y5/1）の粘板岩である。ナイフ形石器１点（1.4ｇ）の単独資料である。

・**粘板岩９**：自然面は比較的平滑でオリーブ黒色(5Y3/2)・オリーブ黒色(10Y3/1)，内部は灰色(10Y4/1)・オリーブ灰色（10Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の粘板岩である。剥片１点（22.3ｇ）の単独資料である。

・**砂岩４**：自然面は平滑で暗灰黄色(2.5Y4/2)・黒褐色(2.5Y3/2)・灰オリーブ色(5Y4/2)，内部は灰色(10Y5/1)・灰色（10Y4/1）の砂岩である。石器群の内訳は石核２点（１個体；185.4ｇ）である。接合資料は，石核２点（１個体；185.4ｇ）である。

・**砂岩５**：内部は灰色（7.5Y5/1）・黄褐色（2.5Y5/3）・灰白色（2.5Y8/1），節理は黒褐色（10YR3/1）・暗灰黄色（2.5Y5/2），新鮮な面は灰色（7.5Y5/1）の砂岩である。剥片１点（58.8ｇ）の単独資料である。

・**砂岩７**：自然面は平滑で，自然面及び内部は黄褐色（2.5Y5/3）の砂岩である。敲石１点（125.5ｇ）の単独資料である。

・**ホルンフェルス３**：自然面は平滑で灰色（10Y5/1），内部は灰色（5Y6/1）・灰白色（5Y7/2）のホルンフェルスである。剥片１点（5.2ｇ）の単独資料である。

・**ホルンフェルス13**：自然面は比較的平滑で灰オリーブ色（5Y5/2），内部は灰色（10Y4/1）・灰オリーブ色（5Y5/2），節理は灰褐色（7.5YR4/2）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片３点，石核１点の合計４点（73.4ｇ）である。接合資料は，剥片３点，石核１点の合計４点（73.4ｇ）である。

・**ホルンフェルス14**：灰色（10Y5/1）・灰オリーブ色（5Y5/2）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点（１個体；10.0ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；10.0ｇ）である。

・**ホルンフェルス15**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（10Y4/1）・灰色（10Y5/1）・灰黄色（2.5Y7/2），節理は黄褐色（2.5Y5/4），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，加工痕ある剥片１点，剥片７点の合計９点（97.7ｇ）である。

・ホルンフェルス16：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（10Y4/1），新鮮な面は暗灰色（N3/0）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点，砕片２点の合計４点（22.1ｇ）である。
・ホルンフェルス17：内部は灰色(10Y4/1)・灰オリーブ色(5Y5/3)，新鮮な面は暗灰色(N3/0)・灰色(N6/0)のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片２点（3.8ｇ）である。
・ホルンフェルス18：自然面は平滑で，自然面・内部・新鮮な面は青黒色（10BG2/1）のホルンフェルスである。ナイフ形石器１点（11.6ｇ）の単独資料である。
・ホルンフェルス19：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色(7.5Y5/2)，新鮮な面は暗灰色(N3/0)のホルンフェルスである。剥片１点（28.4ｇ）の単独資料である。
・ホルンフェルス20：自然面は平滑で暗灰黄色（2.5Y4/2），内部は灰オリーブ色（7.5Y4/2），新鮮な面は灰色（N4/0）のホルンフェルスである。剥片１点（5.3ｇ）の単独資料である。
・ホルンフェルス21：灰色（5Y5/1）・明黄褐色（10YR6/6）のホルンフェルスである。剥片１点（2.1ｇ）の単独資料である。
・ホルンフェルス22：灰色（5Y6/1）・灰オリーブ色（5Y5/2）のホルンフェルスである。剥片１点（1.5ｇ）の単独資料である。
・ホルンフェルス23：黄灰色（2.5Y5/1）のホルンフェルスである。剥片１点（0.5ｇ）の単独資料である。
・ホルンフェルス24：自然面は平滑で灰オリーブ色（5Y5/2）・にぶい黄褐色（10YR4/3），内部は灰色（10Y4/1）・暗灰黄色（2.5Y4/2）のホルンフェルスである。敲石１点（80.0ｇ）の単独資料である。
・瑪瑙・玉髄３：内部はにぶい黄橙色（10YR6/4）・にぶい黄橙色（10YR7/4）・灰色（10Y4/1），新鮮な面は暗青灰色（10BG4/1）の資料，自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）の資料，内部は灰色（5Y4/1）・灰黄色（2.5Y7/2）・灰オリーブ色（5Y5/2）・明黄褐色（10YR6/6），新鮮な面は暗青灰色(10BG4/1)の資料，自然面は平滑で明褐色(7.5YR5/6)，内部は褐色(10YR4/4)・にぶい黄褐色(10YR5/4)・灰色(5Y4/1)の資料，自然面は灰白色(5Y7/2)，内部及び新鮮な面はにぶい黄褐色(10YR5/4)・灰色(10Y4/1)の資料など変異のある瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，石刃２点，剥片10点，砕片３点の合計15点（56.5ｇ）である。接合資料は，剥片３点（26.6ｇ）である。
・瑪瑙・玉髄４：内部・節理・新鮮な面は浅黄色（2.5Y7/4）・灰白色（5Y8/2）で半透明な瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，剥片３点の合計４点（40.4ｇ）である。接合資料は，ナイフ形石器１点，剥片１点の合計２点（29.6ｇ）である。
・瑪瑙・玉髄５：自然面は比較的平滑で明黄褐色（10YR6/6），内部は浅黄色（2.5Y7/4）・褐色（10YR4/6）で半透明な資料，内部は灰黄色（2.5Y7/2）・灰白色（2.5Y8/1）・黄色（2.5Y8/6）・にぶい赤褐色（5YR4/3）で半透明な資料など変異のある瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，石刃２点，剥片１点，砕片２点の合計５点（24.6ｇ）である。
・瑪瑙・玉髄６：自然面は平滑で淡黄色（5Y8/3），内部は灰白色（5Y8/1）・灰白色（5Y8/2）で半透明な資料，自然面は平滑で淡黄色（2.5Y8/3）の地に灰白色（5Y7/1）の縞，内部は灰白色（5Y8/2）の地に灰白色（5Y7/1）の縞で半透明な資料など変異のある瑪瑙・玉髄である。石器群の内訳は，石刃２点（20.0ｇ）である。
・瑪瑙・玉髄７：内部は黒褐色(2.5Y3/2)の地に灰白色(2.5Y7/1)が部分的に入り，節理は褐色(10YR4/4)の瑪瑙・玉髄である。楔形石器１点（3.3ｇ）の単独資料である。

・瑪瑙・玉髄８：内部はオリーブ黒色（5Y3/2）・灰オリーブ色（5Y4/2）・褐色（10YR4/4），節理は黄褐色（2.5Y5/4）の瑪瑙・玉髄である。石刃１点（12.5ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Ｂのナイフ形石器１点，楔形石器１点，加工痕ある剥片１点，石刃１点，剥片39点，砕片93点，の合計136点（64.4ｇ），黒曜石Ｇの砕片４点（0.3ｇ），安山岩の剥片２点，砕片16点の合計18点（7.2ｇ），軟質の安山岩の砕片９点（1.1ｇ），流紋岩の砕片６点（1.1ｇ），頁岩Ｂの砕片４点（0.2ｇ），頁岩Ｃの剥片２点，砕片１点の合計３点（1.7ｇ），頁岩Ｄの砕片24点（2.5ｇ），頁岩Ｅの剥片３点，砕片５点の合計８点（4.2ｇ），チャートの砕片１点（0.1ｇ），粘板岩の剥片３点，砕片２点の合計５点（2.3ｇ），ホルンフェルスの剥片２点，砕片１点の合計３点（2.6ｇ）がある。

３　出土遺物（第410～418図93・94）

１・２・６～８・10・11・14・16・20・21・24・25・27・28は信州和田峠周辺産と考えられる黒曜石，３は凝灰岩，４は頁岩，５・13はホルンフェルス，９は北関東産頁岩，12・29は硬質緻密な頁岩，15・18は嶺岡産頁岩，17はチャート，19・26は粘板岩，22・23は安山岩によるナイフ形石器で，１～17は二側縁加工，18～20・24は一側縁加工，21・22は部分加工，23・25～29は欠損等により形態不明である。１・４・６・10・11・14は石刃あるいは石刃状の縦長剥片の打面側を基部として，右側縁と左側縁下部に，３・７～９・12・13は石刃あるいは石刃状の縦長剥片の打面側を基部として，左側縁と右側縁下部に調整加工を行っている。２・16は石刃あるいは石刃状の縦長剥片の打面側を先端部として，２は左側縁と右側縁下部に，16は右側縁と左側縁下部に調整加工を行っている。５・15・17は横長剥片を横位に用い，５・17は左側縁と右側縁下部に，15は右側縁と左側縁下部に調整加工を行っている。18～20・24は石刃あるいは石刃状の縦長剥片を基部として，18・19は左側縁，20・24は右側縁に調整加工を行っている。21は石刃の打面側を先端部として，左側縁下部と右側縁上部に，22は横長剥片を横位に用い，左側縁下部に調整加工を行っている。23・25～29は剥片の打面側を基部として，様々な部位に調整加工を行っている。また，１・２・７・10・14～18・20・21には微細な剥離痕が見られる。

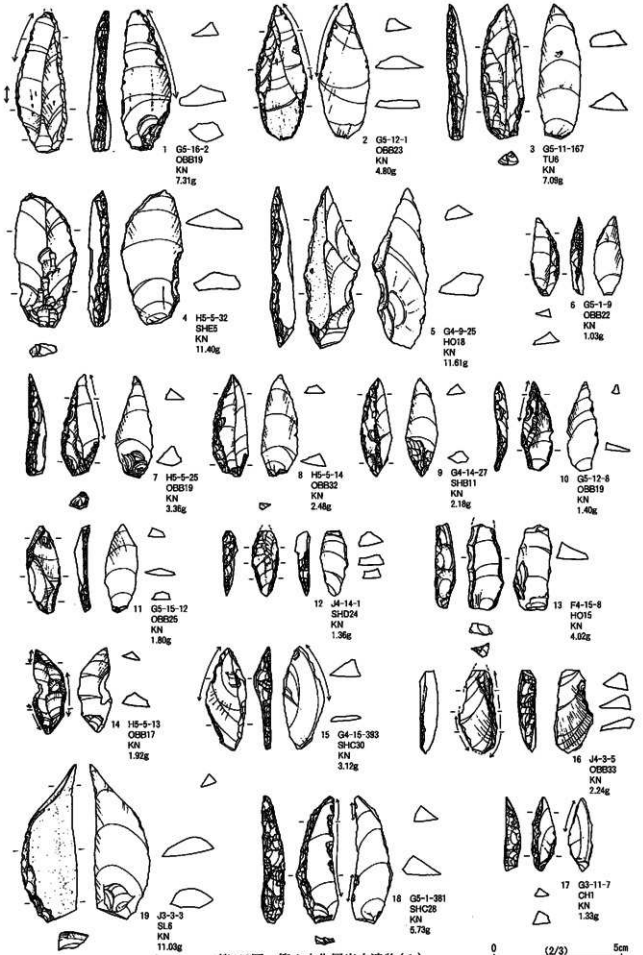
30は信州和田峠周辺産と考えられる黒曜石による掻器である。不定型な剥片の末端に急角度の調整加工を行っているが，石核の可能性もある。

31・32は信州和田峠周辺産と考えられる黒曜石による削器である。31は石刃状の縦長剥片の両面左側縁に細かい調整加工を行っている。32は不定型な剥片の右側縁に鋸歯状の調整加工を行っている。なお，裏面の打面側に剥離痕が見られるが，若干光沢が異なることからガジリの可能性もある。

33は凝灰岩による彫器であるが，石刃を素材として，正面左側縁の一部と裏面両側縁に細かい調整加工，両面の上部に大きな剥離，正面左側縁に上部から樋状の剥離を行っており，削器としての機能も考えられる複合石器である。なお，上部の大きな剥離と樋状の剥離は一連のものである。

34は北関東産頁岩による錐状石器である。不定型な剥片の打面側に細かい調整加工を行って先端部を作出している。先端部の稜線が多少磨耗していることから，錐状石器と判断した。

35は硬質緻密な頁岩，36は瑪瑙・玉髄，37は信州和田峠周辺産と考えられる黒曜石による楔形石器である。35は両面の上下両端と両側縁の一部，36・37は上下両端に対向する剥離痕が見られる。また，35・36には微細な剥離痕が見られる。



第410図　第１文化層出土遺物（１）

38・39・41は信州和田峠周辺産と考えられる黒曜石，40は産地不明の黒曜石，42は頁岩による加工痕ある剥片である。38は石刃状の縦長剥片の左側縁下部に，39～42は不定型な剥片を素材として，39は左側縁下部，40・42は末端，41は末端と右側縁に調整加工を行っている。また，39・41には微細な剥離痕が見られる。なお，42は右側面に加撃軸に直交する剥離痕が見られることから，打面再生剥片を素材とした可能性がある。

43～47は信州和田峠周辺産と考えられる黒曜石，48は北関東産頁岩による使用痕ある剥片である。43・44は石刃状の縦長剥片，45～48は不定型な剥片を素材として，43は両面右側縁と裏面末端，44・45は右側縁，46は正面左側縁と裏面右側縁，47は正面の左側縁と裏面右側縁を除くほぼ全周，48は裏面右側縁に微細な剥離痕が見られる。

49・51は産地不明の黒曜石，50・52・53・56・57・59～62・72～74は信州和田峠周辺産と考えられる黒曜石，54・58・63・64は硬質緻密な頁岩，55は嶺岡産頁岩，65は頁岩，66・75は北関東産頁岩，67は粘板岩，68は安山岩，69・71は瑪瑙・玉髄，70は凝灰岩による石刃で，この内，74・75は稜付き石刃である。49～59・72～75には細かい剥離痕や微細な剥離痕が見られる。また，59・60は2点が接合して1個体となる。

76は凝灰岩による局部磨製石斧である。大型の横長剥片を素材として，正面での器体中央に及ぶ剥離と両面周辺での比較的細かい調整加工により整形している。使用による磨耗あるいは剥離痕もあると思われるが，両面に残る研磨痕は，概ね調整加工後のものと考えられる。

77は砂岩による敲石である。不定型で隅丸三角形状の扁平な礫の各頂点などに，剥離痕や浅い敲打痕が見られる。

78～81は硬質緻密な頁岩，82は信州和田峠周辺産と考えられる黒曜石，83は北関東産頁岩，84は流紋岩による剥片である。78・79は石刃状の縦長剥片，80～82は縦長剥片，83・84は不定型な剥片である。なお，80・83は左側面や右側面に加撃軸に直交する剥離痕が見られることやその形態から，打面再生剥片の可能性がある。また，79・83はそれぞれ2点，82は3点が接合して1個体となる。

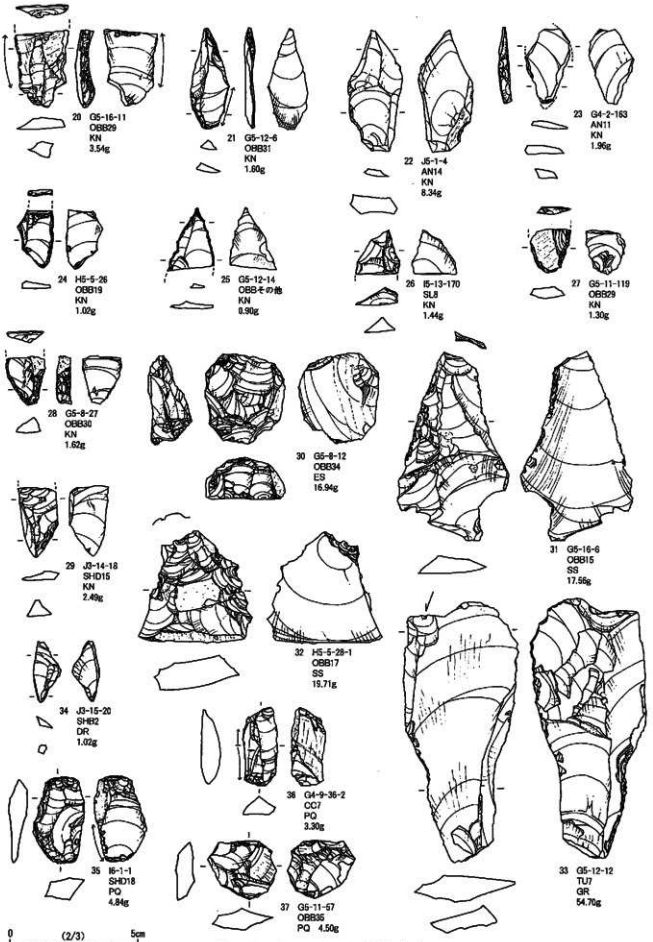
85・86・91・92は硬質緻密な頁岩，87は北関東産頁岩，88・89は安山岩，90は信州和田峠周辺産と考えられる黒曜石，93は頁岩，94は砂岩による石核である。85は両設打面，86～92は打面と作業面を入れ替えながら，93・94は石刃を素材として，不定型な剥片を剥離している。また，94は2点が接合して1個体となる。

4　接合資料とその関連資料（第418図95～100，第419～426図）

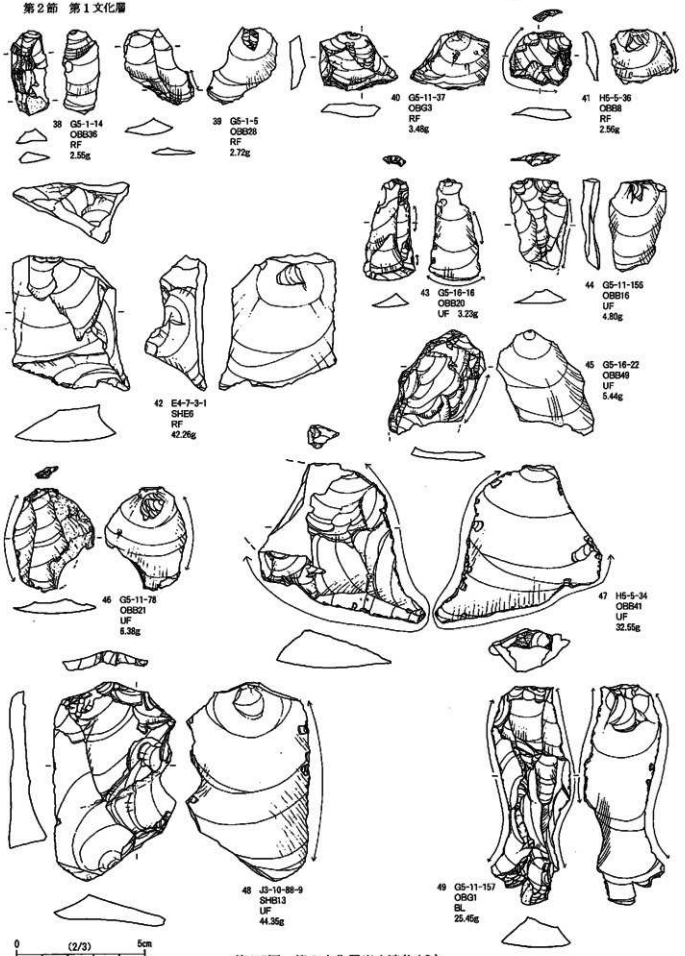
・**黒曜石B2（第418図95～97）**　薄墨を流したような透明な地に黒灰色のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。95は彫器1点（96），石刃2点（1個体；97）の接合資料である。96は1個体であった石刃の折断面を打面として，右側面に樋状の剥離を行っており，同部位に極めて微細な剥離痕が見られる。97は2点が接合して1個体となる。

・**瑪瑙・玉髄4（第418図98～100）**　半透明で浅黄色（2.5Y7/4）などの瑪瑙・玉髄である。98はナイフ形石器1点（99），剥片1点（100）の接合資料である。99は縦長剥片の打面側を基部として，左側縁の先端部の一部と基部側を除いてほぼ全周に細かい調整加工を行っている。

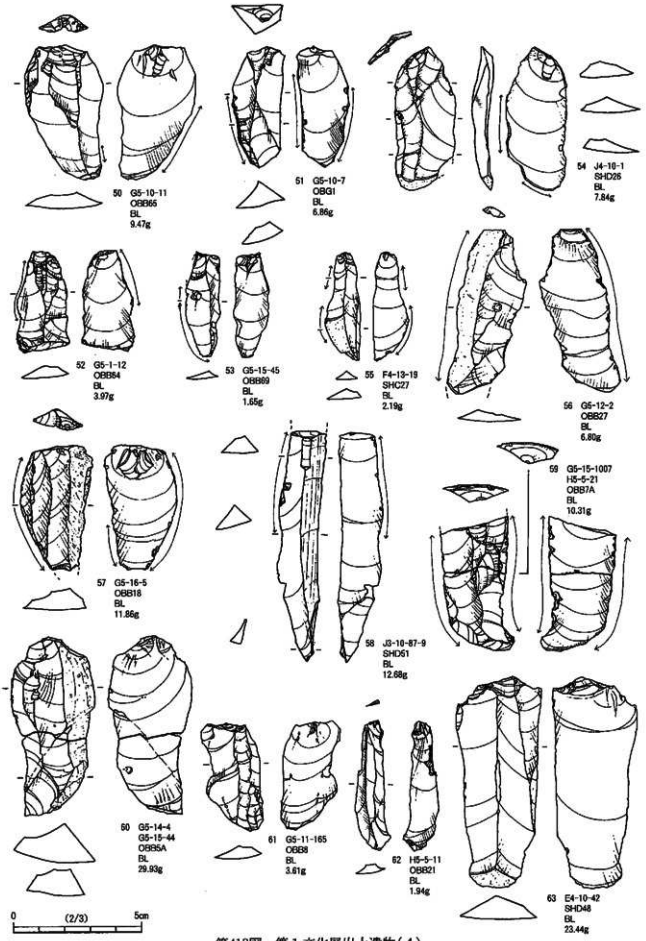
・**頁岩B3（第419図101～103）**　にぶい黄褐色（10YR5/4）などの北関東産頁岩である。101は不定型な剥



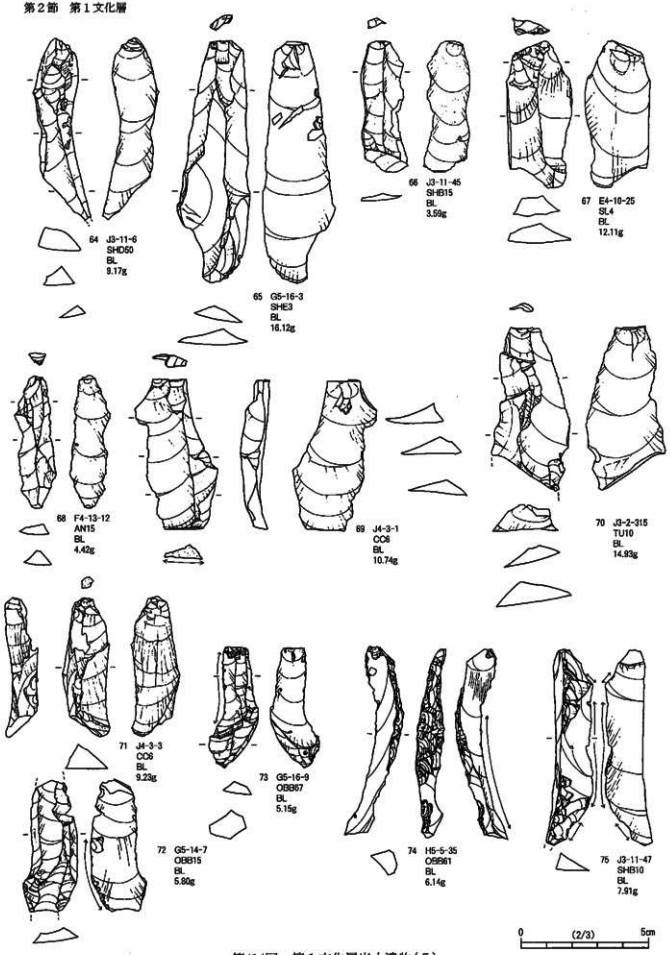
第411図　第１文化層出土遺物（２）



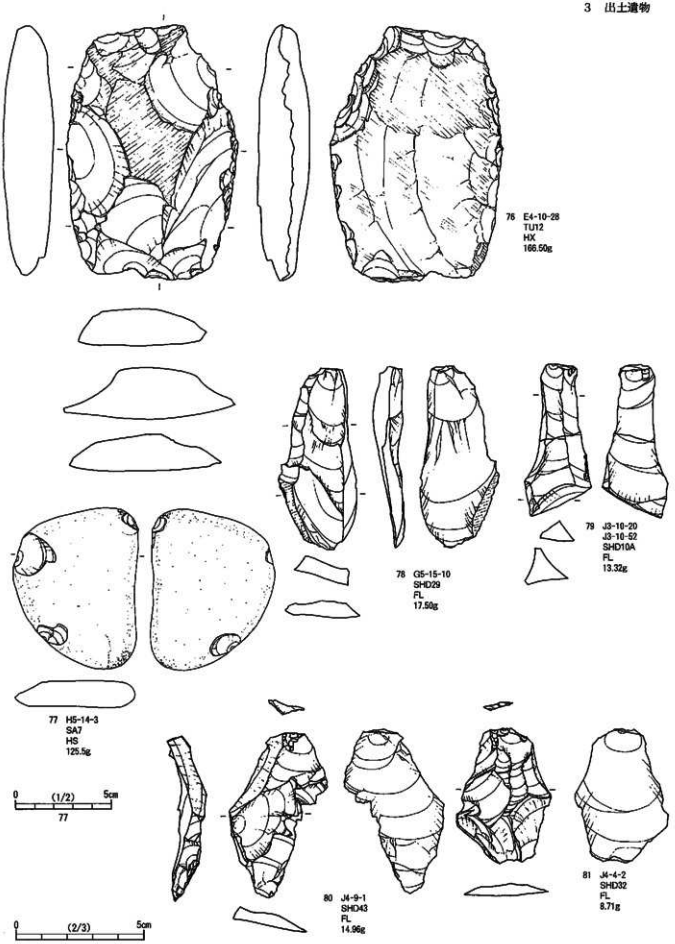
第412図　第1文化層出土遺物(3)



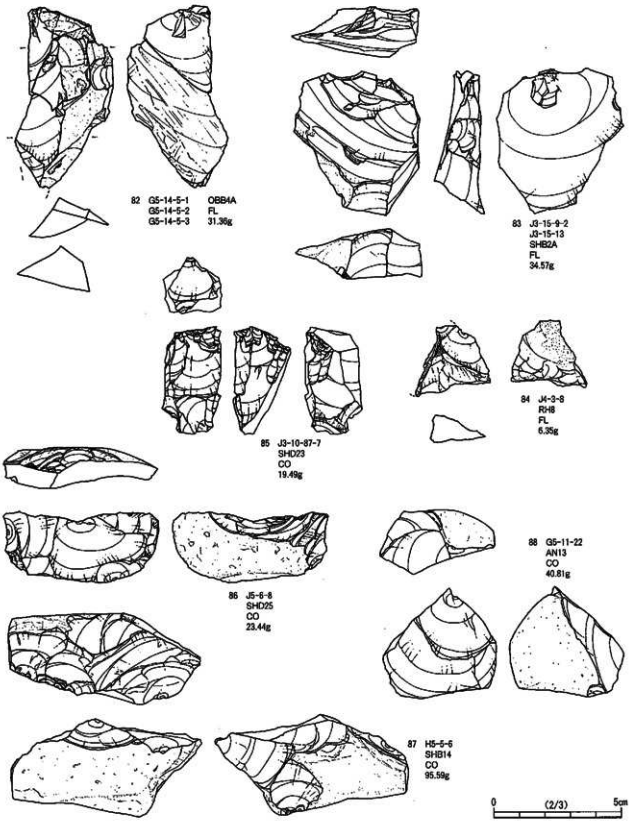
第413図　第１文化層出土遺物（４）



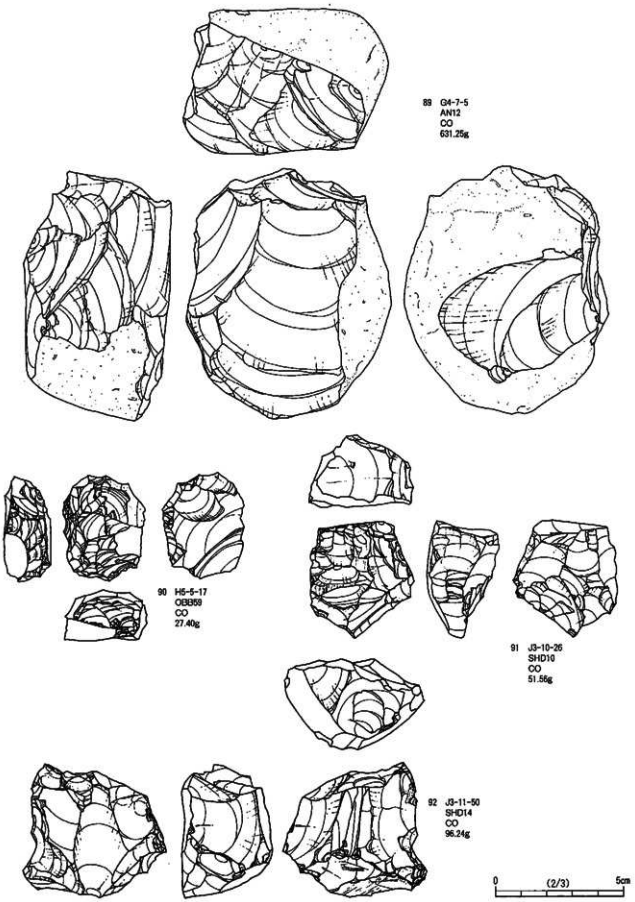
第414図　第１文化層出土遺物（５）



第415図　第１文化層出土遺物（６）



第416図　第1文化層出土遺物(7)



第417図　第１文化層出土遺物(８)

片２点（102・103）の接合資料である。

・チャート４（第419図104～108）　オリーブ黒色（10Y3/2）などのチャートである。104は不定型な剥片２点（105・106）の接合資料である。

107・108は接合しなかった同一母岩の石核で，頻繁に打面転移を行いながら，不定型な剥片を剥離している。

・頁岩Ｂ４（第419図109～112）　黄褐色（10YR5/6）などの北関東産頁岩である。109は不定型な剥片３点（110～112）の接合資料である。

・黒曜石Ｂ１（第420図113～115）　薄墨を流したような透明な地に黒色の縞状のモヤが入る黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。113は不定型な剥片３点（２個体；114・115）の接合資料である。115は２点が接合して１個体となる。

・瑪瑙・玉髄３（第420図116～119）　にぶい黄橙色（10YR6/4）などの瑪瑙・玉髄である。116は剥片３点（117～119）の接合資料である。117を剥離した後，90度打面転移して，118・119を剥離している。

・頁岩Ｅ２（第420図120～123，第421図124～127）　灰色（5Y5/1）などの頁岩である。120は剥片３点（121～123）の接合資料である。121を剥離した後，90度打面転移して，122・123を剥離している。

124は剥片２点（125・126），石核１点（127）の接合資料である。124は125を剥離した後，90度打面転移して，126を剥離している。126を剥離した後も，127は，同じ打面から同様の剥片を剥離している。

・頁岩Ｄ８（第421図128～137）　浅黄色（5Y7/3）などの硬質緻密な頁岩である。128は剥片３点（129～131）の接合資料である。若干，打面をずらしながら，不定型な剥片を剥離している。

132は剥片１点（133），石核１点（134）の接合資料である。133を剥離した後，90度打面転移して134を剥離している。また，134は小型で不定型な剥片を剥離した石核としたが，裏面下部に見られる素材の主要剥離面が上面左側の剥離面を切っているとすると，剥片の可能性もある。

135は石核３点（２個体；136・137）の接合資料である。節理の発達の顕著な不定型な礫を素材とした石核で，分割あるいは欠損後も不定型な剥片を剥離している。136は２点が接合して１個体となる。

・安山岩８（第422図138～140）　灰オリーブ色（5Y5/2）などの安山岩である。138は剥片１点（139），石核１点（140）の接合資料である。140は厚みのある大型の剥片を素材として，139を含む不定型な剥片を剥離している。

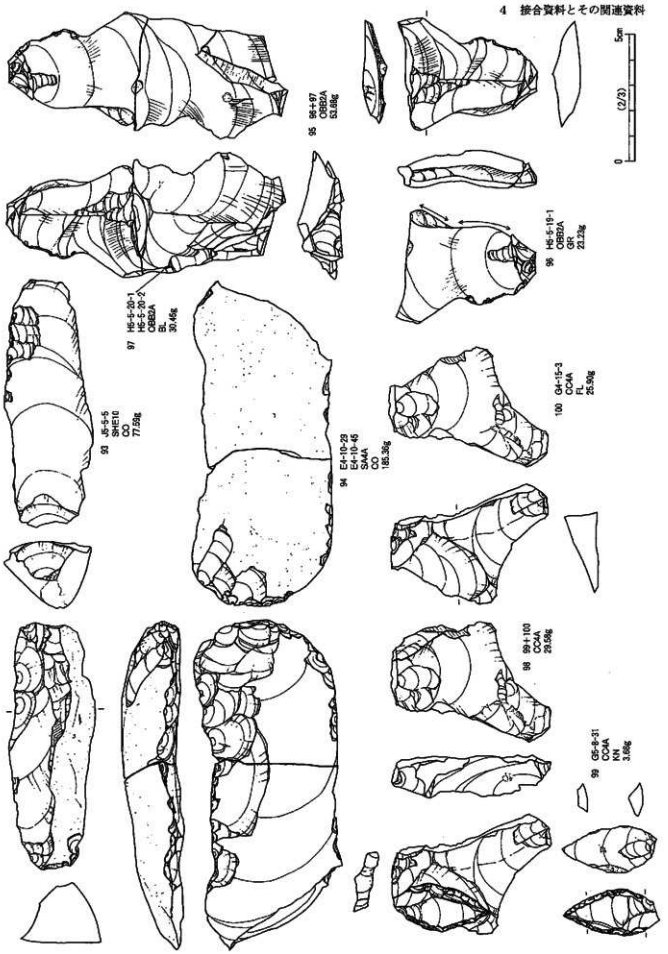
・頁岩Ｄ13（第422図141～143）　オリーブ黒色（10Y3/1）などの硬質緻密な頁岩である。141は剥片１点（142），石核１点（143）の接合資料である。90度の打面転移を頻繁に行いながら，142を含む縦長剥片や不定型な剥片を剥離している。

・チャート５（第422図144～146）　灰色（10Y4/1）などのチャートである。144は剥片１点（145），石核１点（146）の接合資料である。146は打面転移を繰り返しながら，145を含む不定型な剥片を剥離している。

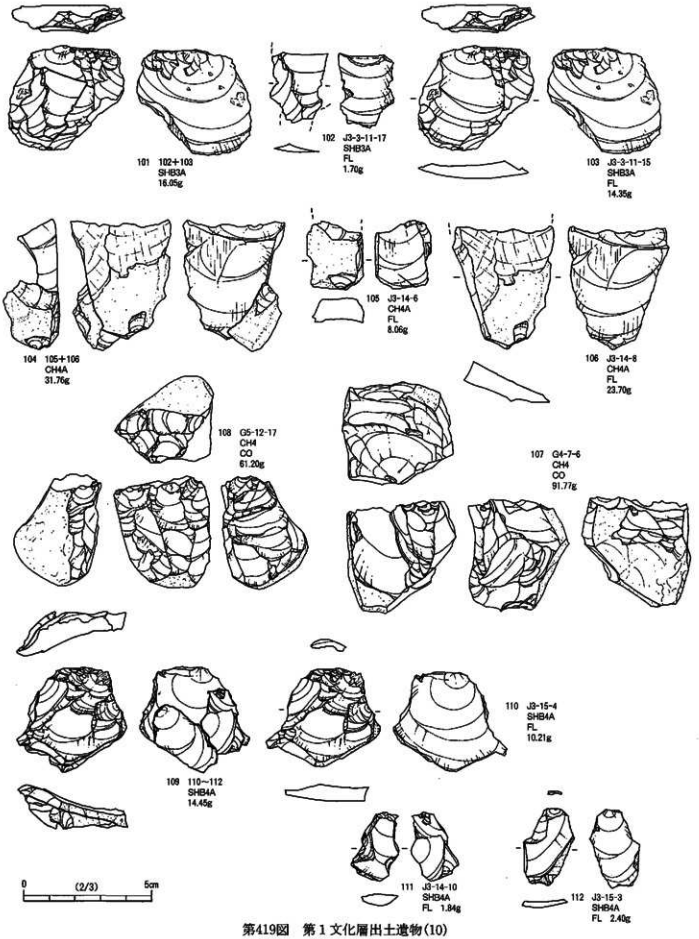
・頁岩Ｅ４（第423図147～150）　灰色（10Y6/1）などの頁岩である。147は剥片１点（148），石核１点（149）の接合資料である。149は厚めの剥片を素材として，打面と作業面を入れ替えながら，148を含む不定型な剥片を剥離している。

150は接合しなかった同一母岩の石核である。厚めの剥片を素材として，不定型な剥片を剥離している。

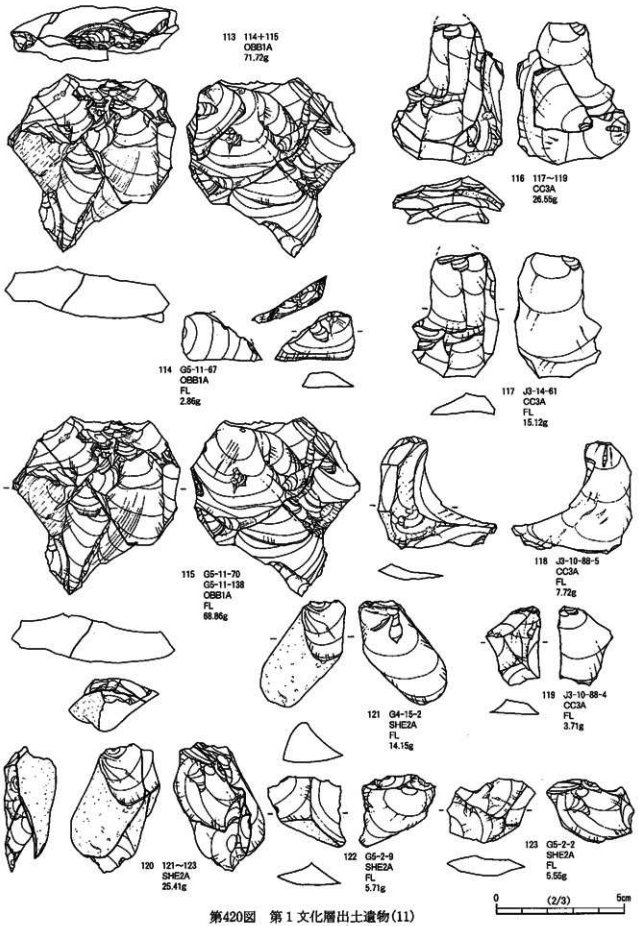
・頁岩Ｄ９（第423図151～154）　灰白色（5Y8/2）などの硬質緻密な頁岩である。151は石核２点（152・153）の接合資料である。152・153は分割あるいは欠損した剥片を素材として，小型で不定型な剥片を剥離



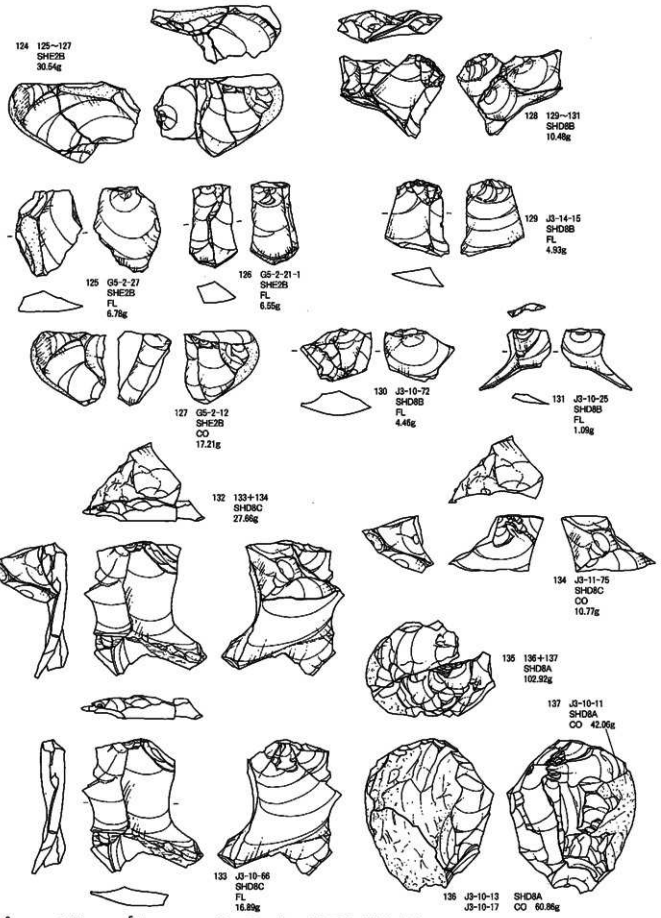
第418図　第１文化層出土遺物(９)



第419図　第1文化層出土遺物(10)



第420図　第１文化層出土遺物(11)



第421図　第1文化層出土遺物(12)

している。

154は接合しなかった同一母岩のナイフ形石器で，縦長剥片の打面側を基部として，左側縁と右側縁下部に調整加工を行っている。

・頁岩D11（第423図155～157）　黄灰色（2.5Y5/1）などの硬質緻密な頁岩である。155は剥片１点（156），石核２点（１個体；157）の接合資料である。157は比較的節理の発達した厚めの剥片を素材として，打面と作業面を入れ替えながら，156を含む小型で不定型な剥片を剥離している。157は２点が接合して１個体となる。

・頁岩C22（第423図158～160）　灰オリーブ色（5Y4/2）などの嶺岡産頁岩である。158は使用痕ある剥片１点（159），石核２点（１個体；160）の接合資料である。160は両設打面の石核で，比較的厚めの剥片を素材として，159を含む寸詰まりの不定型な剥片を剥離している。また，裏面左側縁に細かい剥離痕が見られ，削器としての機能も考えられる。159は右側縁に微細な剥離痕が見られる。160は２点が接合して１個体となる。

・黒曜石B３（第424図161～164）　半透明で黒灰色などの黒曜石である。信州和田峠周辺産と考えられる。161は剥片２点（162・163），石核１点（164）の接合資料である。164は両設打面の石核で，162・163のような縦長剥片や不定型な剥片を剥離している。

・頁岩C23（第424図165～168）　オリーブ灰色（2.5GY5/1）などの嶺岡産頁岩である。165は剥片２点（166・167），石核１点（168）の接合資料である。子供の拳大の不定型な礫を素材として，求心的な剥離作業により，166・167のような縦長剥片や不定型な剥片を剥離している。

・軟質の安山岩３（第424図169～173，第425図174～178）　灰白色（10Y7/1）などの軟質の安山岩である。169は剥片２点（170・172），石核２点（171・173）の接合資料である。169は両設打面の石核から縦長剥片を剥離していたが，172・173の個体と170・171の個体に分割あるいは欠損し，その後もそれぞれの個体で剥離作業が行われていると考えた。なお，173の正面の大きな剥離痕をネガティブな面と認識して石核とした。

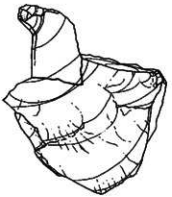
174は剥片２点（175・176），石核１点（177）の接合資料である。177は両設打面の石核で，不定型な剥片を剥離している。175は打面作出のための剥片と思われる。

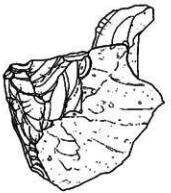
178は接合しなかった同一母岩の石刃あるいは石刃状の縦長剥片である。

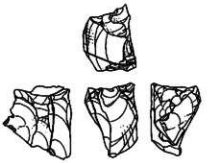
・ホルンフェルス13（第425図179～183）　灰色（10Y4/1）などのホルンフェルスである。179は剥片３点（180～182），石核１点（183）の接合資料である。厚めの剥片が４つに分割あるいは欠損後，183は小型で不定型な剥片を剥離している。なお，180は明確に新旧関係を決定できなかったが，上面図の左側に素材の主要剥離面を切る剥離面が図示されており，もし図示した通りだとすると石核の可能性がある。

・頁岩E１（第426図）　灰白色（5Y8/2）などの頁岩である。184は剥片９点（185～193），石核１点（194）の接合資料である。比較的小型で扁平な礫を素材として，裏面からの187，右からの190，下からの加撃の192を除いて，上からの加撃により，打面と作業面を入れ替えながら，185～191・192→193の順に縦長剥片や不定型な剥片を剥離している。

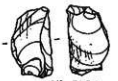
138　139+140
AN8A
107.11g



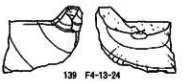




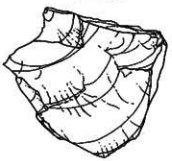
141　142+143
SHD13A
13.4g

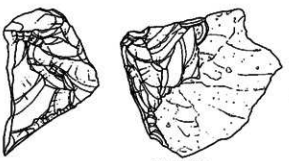


142　E4-7-1
SHD13A
FL
3.69g

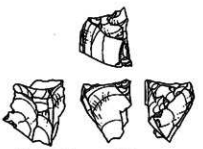


139　F4-13-24
AN8A
FL
6.67g

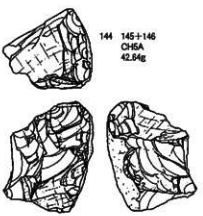




140　F4-13-3
AN8A
CO
100.44g

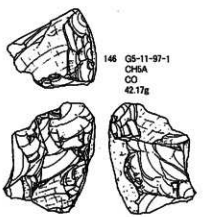


143　E4-7-3-2
SHD13A
CO
9.71g



144　145+146
CH5A
42.64g

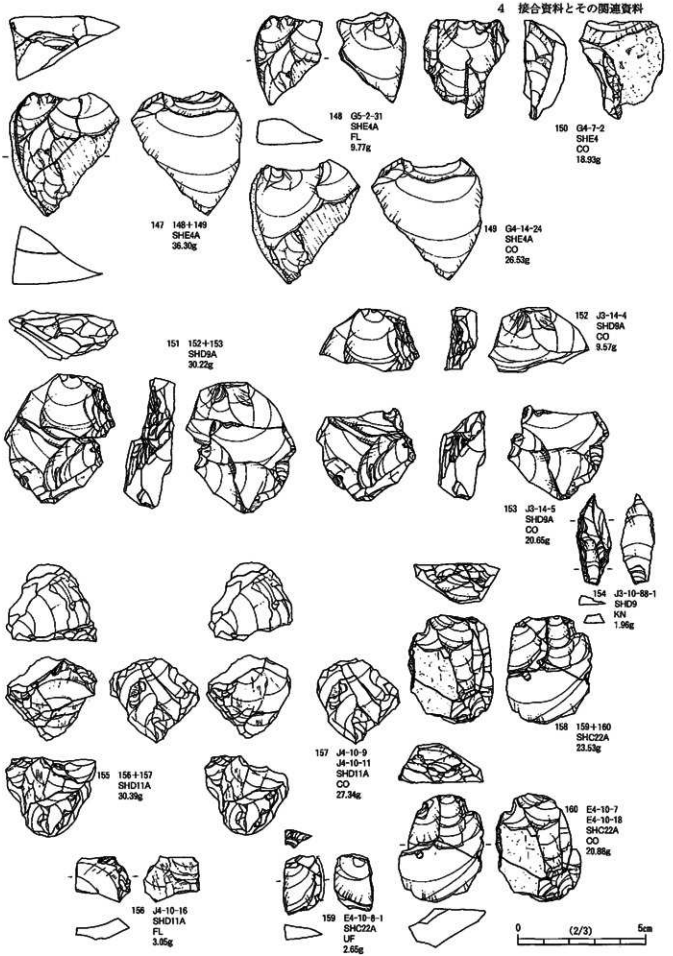
145　G5-11-80
CH5A
FL
0.47g



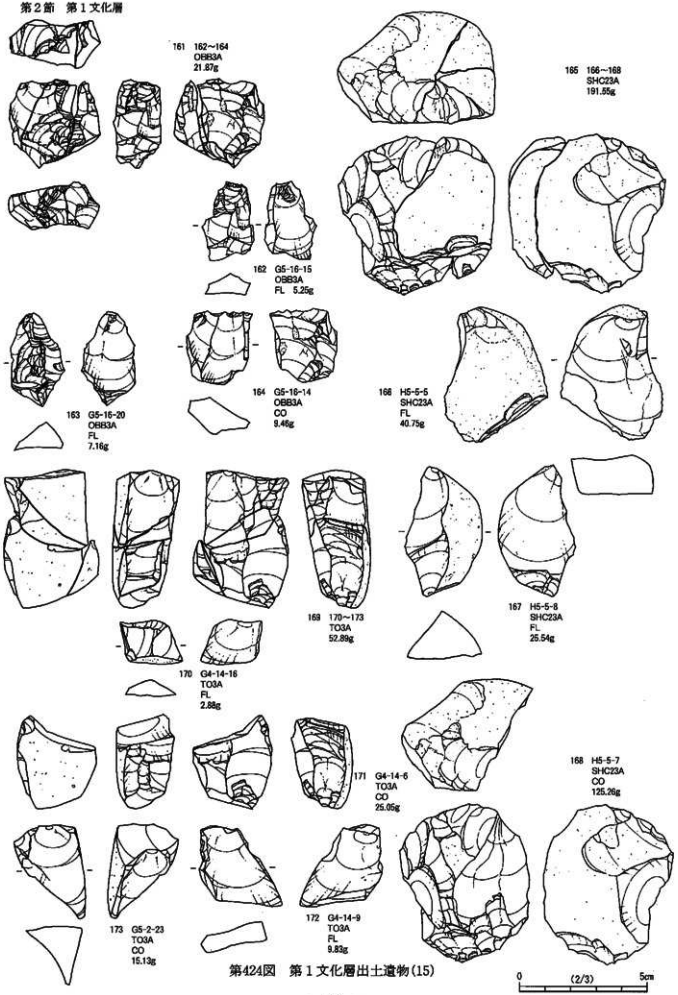
146　G5-11-97-1
CH5A
CO
42.17g

0　(2/3)　5cm

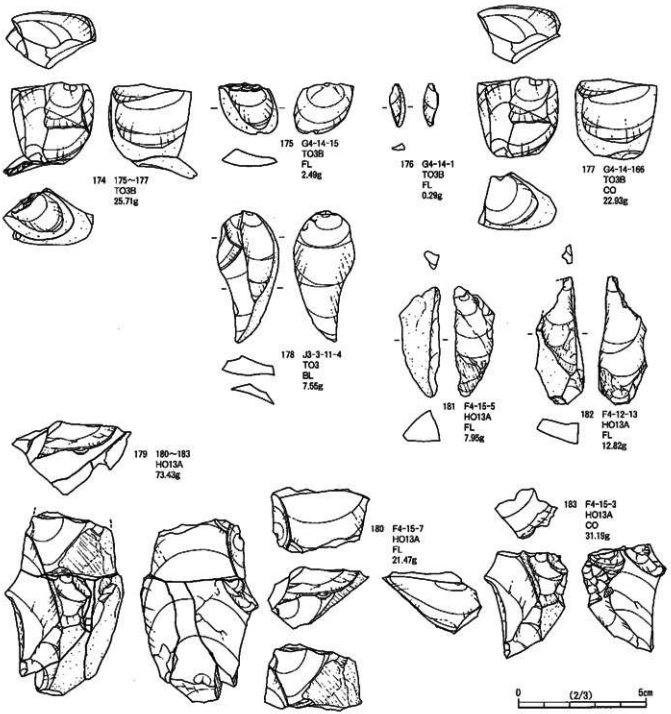
第422図　第１文化層出土遺物(13)



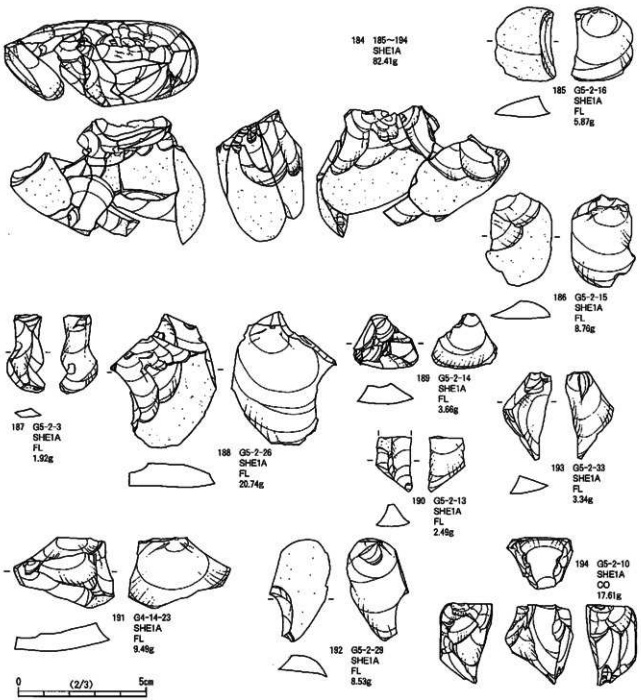
第423図　第１文化層出土遺物(14)



第424図　第1文化層出土遺物(15)



第425図　第１文化層出土遺物(16)



第426図　第１文化層出土遺物(17)

第３節　第２文化層

第２文化層は，立川ローム層ソフトローム層（Ⅲ層下部）を中心に包含されている石器群である。

1　石器群の概要（第427～436図，第244～250表，カラー図版27～29，図版19・20）

第２文化層の遺物は，調査範囲東側のH5-16，H6-04，I5-13，J2-12，J3-01・02・05・13グリッド，台地上の東側に分布する（第427～429図）。

石器群は，ナイフ形石器３点，角錐状石器２点，削器１点，加工痕ある剥片７点，使用痕ある剥片２点，石刃５点（３個体），敲石５点（２個体），剥片104点（101個体），砕片46点，石核11点（10個体）の合計186点（177個体）と礫854点で構成される。石器石材は，黒曜石Ａ１点，黒曜石Ｃ１点，安山岩12点，軟質の安山岩２点，流紋岩６点，頁岩Ｂ７点，頁岩C81点，頁岩D34点，チャート２点，凝灰岩５点，粘板岩２点，砂岩12点，ホルンフェルス19点，珊瑚・玉髄２点である。礫石材は，安山岩９点（３母岩；１～３），流紋岩101点（46母岩；１～46），チャート77点（18母岩；１～５・７～19），凝灰岩80点（33母岩；１～33），砂岩493点（173母岩；１～173），ホルンフェルス94点（31母岩；１～31）で，識別率は92％である。

第244表　第２文化層グリッド別器種組成

グリッド	KN	KP	SS	RF	UF	BL	HS	FL	CH	CO	PE	合計
H5-16								2	4		2	8
H6-04								1	1			2
I5-13	2					5		38	38	1	45	129
J2-12				1				2			68	71
J3-01	1							1			82	84
J3-02		1	1	3	2		5	26	3	2	304	347
J3-05								6			65	71
J3-13				3				28		8	288	327
合計	3	1	1	7	2	5	5	104	46	11	854	1,039

上層等出土の遺物（上記は含まれない）

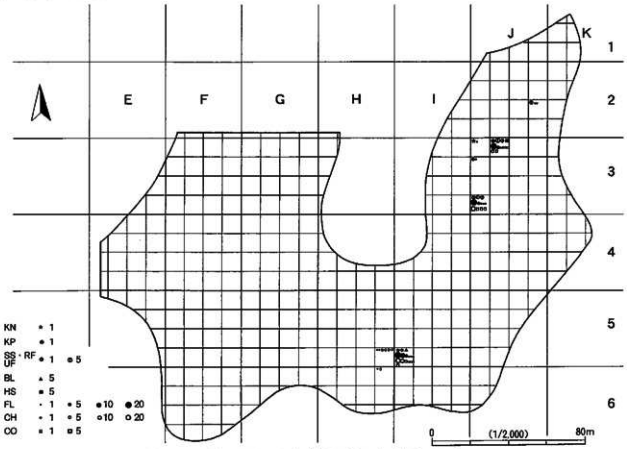
グリッド	KN	KP	SS	RF	UF	BL	HS	FL	CH	CO	PE	合計
G13-15		1										1
合計		1										1

第245表　第２文化層グリッド別石材組成

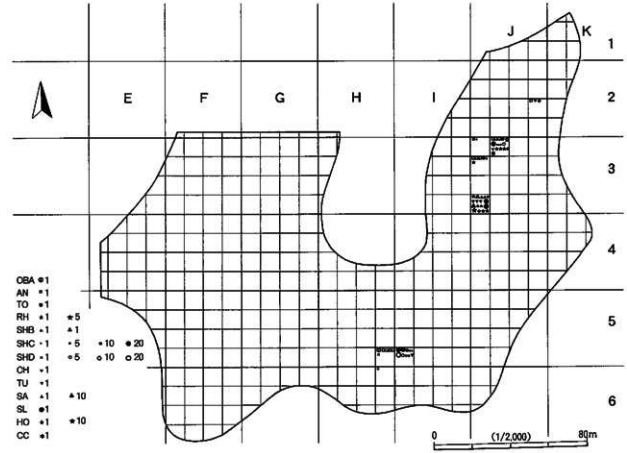
グリッド	OBA	OBC	AN	TO	RH	SHB	SHC	SHD	CH	TU	SL	SA	HO	CC	合計
H5-16	1		4					1							6
H6-04								1						1	2
I5-13							56	27	1						84
J2-12			1							1			1		3
J3-01			1				1								2
J3-02			3	1	5		23	5		1			4	1	43
J3-05			3	1			1						1		6
J3-13					1	7			1	3	2	12	13		39
合計	1		12	2	6	7	81	34	2	5	2	12	19	2	185

上層等出土の遺物（上記は含まれない）

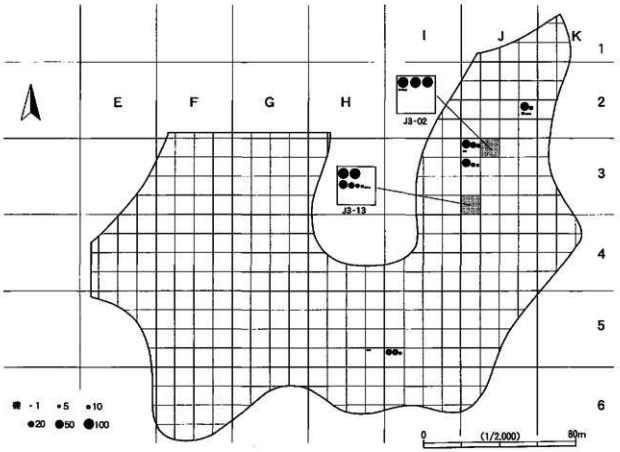
グリッド	OBA	OBC	AN	TO	RH	SHB	SHC	SHD	CH	TU	SL	SA	HO	CC	合計
G3-15		1													1
合計		1													1

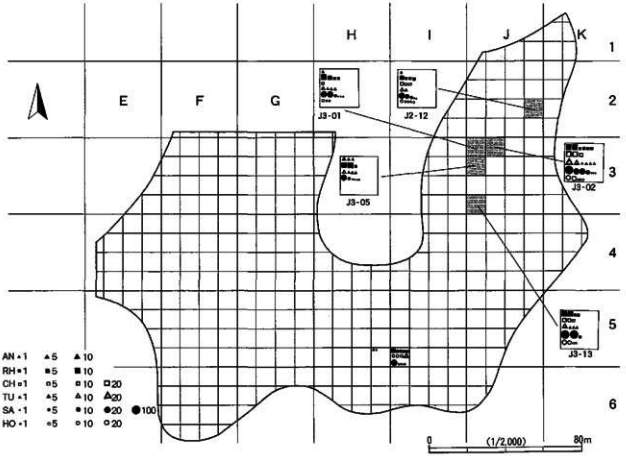


第427図　第２文化層出土遺物分布（１）－器種別分布－



第428図　第２文化層出土遺物分布（２）－石材別分布－





第429図　第２文化層出土遺物分布（３）－礫・礫石材別分布－

第246表　第2文化層母岩別石器組成

母岩 番号	KN	KP	SS	RF	UF	BL	HS	FL	CH	CO	合計
OBA 1								1			1
OBO その他		1									1
AN 1								1	3		4
AN 2								1			1
AN 3								1			1
AN 4	1										1
AN 5										1	1
AN 6								1			1
AN 7								1			1
AN その他								2			2
TO 1								1			1
TO 2								1			1
RH 1								1			1
RH 10							4(1)				4(1)
RH 11							1				1
SHB 1								6		1	7
SHC 1	2					5(3)		10			17(15)
SHC 2								7(6)			7(6)
SHC 3								2(1)			2(1)
SHC 4								5	3		8
SHC 5								4			4
SHC 6								3			3
SHC 7								3			3
SHC 8								2			2
SHC 9								2			2
SHC 11								1			1
SHC 13										1	1
SHC 14								1			1
SHC 15								1			1
SHC 16				1							1
SHC 17										1	1
SHC 18								1			1
SHC 19				1							1
SHC 20					1						1
SHC 21								1			1
SHC その他								2	21		23
SHD 1								6	1		7
SHD 2								2			2
SHD 3								2			2
SHD 4			1					1			2
SHD 5								1			1
SHD 6								1			1
SHD 7					1						1
SHD その他									18		18
CH 2								1			1
CH 3								1			1
TU 1				1							1
TU 2				1							1
TU 3				1							1
TU 4										1	1
TU 5								1			1
SL 1								1			1
SL 2								1			1
SA 1								7		3(2)	10(9)
SA 2				1							1

母岩 番号	KN	KP	SS	RF	UF	BL	HS	FL	CH	CO	合計
SA 3								1			1
HO 1								7(6)		1	8(7)
HO 2		1						1			2
HO 4										1	1
HO 5										1	1
HO 6								1			1
HO 7								1			1
HO 8								1			1
HO 9				1							1
HO 10								1			1
HO 11								1			1
HO 12								1			1
CC 1								1			1
CC 2								1			1
合 計	3	2	1	7	2	5(3)	5(2)	104(101)	46	11(10)	186(177)

第247表　第２文化層石材別石器組成

	KN	KP	SS	RF	UF	BL	HS	FL	CH	CO	合計
OBA								1			1
OBC		1									1
AN	1							7	3	1	12
TO								2			2
RH							5(2)	1			6(3)
SHB								6		1	7
SHC	2			2	1	5(3)		45(43)	24	2	81(77)
SHD			1		1			13	19		34
CH								2			2
TU				3				1		1	5
SL								2			2
SA				1				8		3(2)	12(11)
HO		1		1				14(13)		3	19(18)
CC								2			2
合計	3	2	1	7	2	5(3)	5(2)	104(101)	46	11(10)	186(177)

第248表　第２文化層グリッド別礫石材組成

グリッド	AN	RH	CH	TU	SA	HO	総数	総重量
H5-16				1	1		2	113.09
I5-13		9	3	10	20	3	45	3,923.18
J2-12	1	8	7	6	37	9	68	4,818.67
J3-01	1	17	1	8	48	7	82	4,681.32
J3-02		24	50	34	153	43	304	16,747.56
J3-05	7	21		8	29		65	3,548.61
J3-13		22	16	13	205	32	288	16,521.20
総数	9	101	77	80	493	94	854	50,353.63
総重量	544.67	7,127.34	2,745.82	4,042.74	31,827.54	4,065.52	50,353.63	

第249表　第２文化層母岩別礫組成

母岩番号	個数	重量
R-AN 1	1	176.80
R-AN 2	1	202.82
R-AN 3	7	165.05
R-RH 1	2	346.02
R-RH 2	2	215.80
R-RH 3	2	233.74
R-RH 4	1	231.56
R-RH 5	1	253.92
R-RH 6	1	251.90
R-RH 7	1	201.25
R-RH 8	1	84.23
R-RH 9	1	120.75
R-RH 10	1	125.95
R-RH 11	1	72.53
R-RH 12	1	77.85
R-RH 13	1	125.27
R-RH 14	1	78.51
R-RH 15	10	388.84
R-RH 16	8	373.95
R-RH 17	6	208.81
R-RH 18	5	277.55
R-RH 19	5	212.81
R-RH 20	3	154.93
R-RH 21	3	196.84
R-RH 22	3	334.42
R-RH 23	2	207.87
R-RH 24	2	226.49
R-RH 25	3	148.09
R-RH 26	3	155.34
R-RH 27	2	30.08
R-RH 28	2	111.10
R-RH 29	2	23.05
R-RH 30	2	201.85
R-RH 31	2	78.88
R-RH 32	4	39.15
R-RH 33	2	23.08
R-RH 34	1	220.85
R-RH 35	1	310.87
R-RH 36	1	105.12
R-RH 37	1	62.32
R-RH 38	1	221.20
R-RH 39	1	187.95
R-RH 40	1	83.54
R-RH 41	1	52.41
R-RH 42	1	35.57
R-RH 43	1	16.47
R-RH 44	1	17.42
R-RH 45	1	12.36
R-RH 46	1	4.28
R-RH その他	2	4.59
R-CH 1	1	172.35
R-CH 2	1	101.80
R-CH 3	1	88.33
R-CH 4	1	275.43
R-CH 5	1	35.91
R-CH 7	16	525.51
R-CH 8	16	294.81
R-CH 9	11	226.82
R-CH 10	7	283.94
R-CH 11	6	227.75
R-CH 12	3	132.80
R-CH 13	3	30.22
R-CH 14	2	22.90
R-CH 15	1	200.74
R-CH 16	2	69.10
R-CH 17	1	11.78
R-CH 18	1	28.80
R-CH 19	1	14.38
R-CH その他	2	2.45
R-TU 1	1	191.27
R-TU 2	1	171.56
R-TU 3	1	149.14
R-TU 4	1	100.60
R-TU 5	1	89.30
R-TU 6	1	26.84
R-TU 7	6	218.32
R-TU 8	5	203.03
R-TU 9	5	197.44
R-TU 10	4	185.91
R-TU 11	5	101.47
R-TU 12	5	92.43
R-TU 13	3	554.12
R-TU 14	3	24.29
R-TU 15	2	227.81
R-TU 16	5	173.85
R-TU 17	2	158.65
R-TU 18	4	127.56
R-TU 19	2	7.58
R-TU 20	1	233.35
R-TU 21	1	142.82
R-TU 22	1	137.08
R-TU 23	1	79.68
R-TU 24	1	50.55
R-TU 25	1	122.39
R-TU 26	1	54.20
R-TU 27	1	48.55
R-TU 28	1	44.63
R-TU 29	1	41.01
R-TU 30	1	22.50
R-TU 31	1	18.67
R-TU 32	1	10.74
R-TU 33	1	6.38
R-TU その他	9	29.04
R-SA 1	7	2,634.23
R-SA 2	3	346.08
R-SA 3	2	249.54
R-SA 4	2	233.30
R-SA 5	1	192.75
R-SA 6	1	202.49
R-SA 7	1	257.10
R-SA 8	1	191.15
R-SA 9	1	254.14
R-SA 10	1	259.13
R-SA 11	1	235.49
R-SA 12	1	326.23
R-SA 13	1	159.62
R-SA 14	1	174.59
R-SA 15	1	206.58
R-SA 16	1	153.61
R-SA 17	1	123.80
R-SA 18	1	154.88
R-SA 19	1	172.09
R-SA 20	1	114.49
R-SA 21	1	118.67
R-SA 22	1	93.26
R-SA 23	1	108.69
R-SA 24	1	135.41
R-SA 25	1	76.00
R-SA 26	1	84.00
R-SA 27	1	87.11
R-SA 28	1	111.98
R-SA 29	1	94.06
R-SA 30	1	84.14
R-SA 31	1	128.62
R-SA 32	1	69.70
R-SA 33	1	54.70
R-SA 34	1	88.43
R-SA 35	1	94.23
R-SA 36	1	60.48
R-SA 37	1	114.17
R-SA 38	1	99.89
R-SA 39	17	782.57
R-SA 40	14	277.38
R-SA 41	12	575.11
R-SA 42	13	791.24
R-SA 43	11	360.10
R-SA 44	11	538.22
R-SA 45	9	994.24
R-SA 46	9	341.62
R-SA 47	7	332.91
R-SA 48	7	341.51
R-SA 49	6	368.43
R-SA 50	6	180.05
R-SA 51	6	435.12
R-SA 52	6	307.04
R-SA 53	5	368.51
R-SA 54	5	189.51
R-SA 55	5	452.79
R-SA 56	5	291.71
R-SA 57	4	403.34
R-SA 58	4	276.93
R-SA 59	4	230.36
R-SA 60	3	165.64
R-SA 61	3	255.83
R-SA 62	3	209.86
R-SA 63	3	164.54
R-SA 64	3	208.85
R-SA 65	3	185.85
R-SA 66	3	116.18
R-SA 67	2	170.14
R-SA 68	2	186.29
R-SA 69	1	182.64
R-SA 70	1	198.48
R-SA 71	1	108.25
R-SA 72	1	217.42
R-SA 73	1	110.66
R-SA 74	1	245.94
R-SA 75	1	120.79
R-SA 76	1	126.31
R-SA 77	1	195.15

母岩番号	個数	重量
R-SA 78	1	40.55
R-SA 79	4	224.61
R-SA 80	14	593.75
R-SA 81	8	283.57
R-SA 82	5	369.88
R-SA 83	5	338.91
R-SA 84	5	212.27
R-SA 85	5	117.84
R-SA 86	5	311.36
R-SA 87	4	118.97
R-SA 88	4	248.55
R-SA 89	3	137.81
R-SA 90	4	221.23
R-SA 91	4	205.69
R-SA 92	4	126.73
R-SA 93	3	82.13
R-SA 94	3	262.37
R-SA 95	3	68.12
R-SA 96	3	390.87
R-SA 97	3	287.76
R-SA 98	3	87.66
R-SA 99	3	51.04
R-SA 100	3	65.05
R-SA 101	3	83.61
R-SA 102	3	161.45
R-SA 103	3	160.36
R-SA 104	2	154.20
R-SA 105	2	69.67
R-SA 106	2	62.63
R-SA 107	2	130.43
R-SA 108	2	15.79
R-SA 109	2	86.30
R-SA 110	2	87.65
R-SA 111	2	51.80
R-SA 112	2	52.38
R-SA 113	2	217.66
R-SA 114	2	208.21
R-SA 115	2	21.33
R-SA 116	2	112.43
R-SA 117	3	64.82
R-SA 118	2	26.45
R-SA 119	2	92.38
R-SA 120	2	129.79
R-SA 121	1	190.65
R-SA 122	1	240.53

母岩番号	個数	重量
R-SA 123	1	188.70
R-SA 124	1	129.50
R-SA 125	1	156.58
R-SA 126	1	197.41
R-SA 127	1	180.52
R-SA 128	1	192.43
R-SA 129	1	135.82
R-SA 130	1	155.62
R-SA 131	1	150.31
R-SA 132	1	169.22
R-SA 133	1	131.91
R-SA 134	1	118.78
R-SA 135	1	118.84
R-SA 136	1	134.66
R-SA 137	1	70.42
R-SA 138	1	66.44
R-SA 139	1	76.47
R-SA 140	1	57.70
R-SA 141	1	92.08
R-SA 142	1	61.44
R-SA 143	1	64.33
R-SA 144	1	40.86
R-SA 145	1	66.65
R-SA 146	1	52.02
R-SA 147	1	26.36
R-SA 148	1	57.39
R-SA 149	1	72.76
R-SA 150	1	39.17
R-SA 151	1	50.20
R-SA 152	1	34.78
R-SA 153	1	28.99
R-SA 154	1	46.37
R-SA 155	1	34.37
R-SA 156	1	44.11
R-SA 157	1	20.20
R-SA 158	1	30.12
R-SA 159	1	27.43
R-SA 160	1	34.26
R-SA 161	1	22.14
R-SA 162	1	30.19
R-SA 163	1	27.13
R-SA 164	1	17.76
R-SA 165	1	31.62
R-SA 166	1	19.19
R-SA 167	1	22.27

母岩番号	個数	重量
R-SA 168	1	23.79
R-SA 169	1	15.46
R-SA 170	1	18.84
R-SA 171	1	26.84
R-SA 172	1	17.12
R-SA 173	7	455.81
R-SA その他	43	196.44
R-HO 1	1	165.13
R-HO 2	1	169.82
R-HO 3	1	153.49
R-HO 4	1	194.58
R-HO 5	1	194.09
R-HO 6	1	80.75
R-HO 7	1	49.57
R-HO 8	8	348.03
R-HO 9	6	543.65
R-HO 10	10	108.02
R-HO 11	5	300.87
R-HO 12	7	181.10
R-HO 13	4	217.32
R-HO 14	2	104.36
R-HO 15	10	148.18
R-HO 16	2	110.78
R-HO 17	2	153.09
R-HO 18	2	63.87
R-HO 19	2	28.63
R-HO 20	4	242.62
R-HO 21	1	81.55
R-HO 22	4	81.35
R-HO 23	1	10.40
R-HO 24	1	36.02
R-HO 25	1	39.19
R-HO 26	1	157.06
R-HO 27	1	20.57
R-HO 28	1	8.55
R-HO 29	1	34.02
R-HO 30	1	14.13
R-HO 31	1	14.29
R-HO その他	9	8.44

第250表　第２文化層石材別礫母岩復元率

母岩復元率	a		b		c		d		合　計	
石材	母岩数	母岩数比	母岩数	母岩数比	母岩数	母岩数比	母岩数	母岩数比	母岩数	母岩数比
AN	2	66.7%			1	33.3%			3	100.0%
RH	14	30.4%	10	21.7%	22	47.8%			46	100.0%
CH	5	27.8%	6	33.3%	7	38.9%			18	100.0%
TU	6	18.2%	6	18.2%	20	60.6%	1	3.0%	33	100.0%
SA	38	22.0%	42	24.3%	93	53.8%			173	100.0%
HO	7	22.6%	2	6.5%	22	71.0%			31	100.0%
合　計	72	23.7%	66	21.7%	165	54.3%	1	0.3%	304	100.0%

２　母岩の特徴と内容

本文化層では65母岩を識別した内訳は，黒曜石Ａ１母岩（１），安山岩７母岩（１～７），軟質の安山岩２母岩（１・２），流紋岩３母岩（１・10・11），頁岩Ｂ１母岩（１），頁岩C19母岩（１～９・11・13～21），頁岩Ｄ７母岩（１～７），チャート２母岩（２・３），凝灰岩５母岩（１～５），粘板岩２母岩（１・２），砂岩３母岩（１～３），ホルンフェルス11母岩（１・２・４～12），瑪瑙・玉髄２母岩（１・２）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は76％（142/186点）である。

・**黒曜石Ａ１**：黒色半透明な黒曜石である。栃木県高原山産と考えられる。φ１㎜ほどの黄灰色の夾雑物を含む。剥片１点（2.8ｇ）の単独資料である。

・**安山岩１**：内部は灰色（5Y4/1）・灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石器群の内訳は，剥片１点，砕片３点の合計４点（5.2ｇ）である。

・**安山岩２**：自然面は爪形の裂痕があり，自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y5/2）の安山岩である。剥片１点（18.1ｇ）の単独資料である。

・**安山岩３**：自然面は敲打痕状の裂痕があり灰色（5Y6/1），内部は灰色（5Y5/1）の地に黄灰色のごま塩状の粒が混じり，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片１点（11.2ｇ）の単独資料である。

・**安山岩４**：暗灰黄色（2.5Y4/2）の安山岩である。ナイフ形石器１点（6.1ｇ）の単独資料である。

・**安山岩５**：自然面は爪形の裂痕の部分と紙ヤスリ状の部分があり黄灰色(2.5Y6/1)，内部は暗灰黄色(2.5Y5/2)，新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。石核１点（32.2ｇ）の単独資料である。

・**安山岩６**：自然面は爪形の裂痕があり，自然面及び内部は暗灰黄色（2.5Y5/2），新鮮な面は暗灰色（N3/0）の安山岩である。剥片１点（9.1ｇ）の単独資料である。

・**安山岩７**：暗灰黄色（2.5Y5/2）の安山岩である。剥片１点（2.2ｇ）の単独資料である。

・**軟質の安山岩１**：内部は明黄褐色（2.5Y7/6）・にぶい黄色（2.5Y6/3）。新鮮な面は灰白色（5Y7/1）の軟質の安山岩である。軟質の安山岩２と同一母岩の可能性がある。剥片１点（3.8ｇ）の単独資料である。

・**軟質の安山岩２**：内部は明黄褐色（2.5Y7/6）・黄褐色（2.5Y5/3），新鮮な面は灰白色（5Y7/1）の軟質の安山岩である。軟質の安山岩１と同一母岩の可能性がある。剥片１点（3.4ｇ）の単独資料である。

・**流紋岩１**：自然面は比較的平滑で淡黄色（2.5Y8/3），内部は浅黄色（2.5Y7/4）・にぶい黄橙色（10YR6/4），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4），新鮮な面は灰白色（2.5Y8/1）の流紋岩である。剥片１点（25.4ｇ）の単独資料である。

・**流紋岩10**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部はにぶい黄色（2.5Y6/3）・オリーブ灰色（2.5GY5/1）の流紋岩である。石器群の内訳は，敲石４点（１個体；140.7ｇ）である。接合資料は，敲石４点（１個体；140.7ｇ）である。

・**流紋岩11**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は淡黄色（2.5Y8/3）・明オリーブ灰色（2.5GY7/1）の流紋岩である。敲石１点（85.4ｇ）の単独資料である。

・**頁岩Ｂ１**：自然面は比較的平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部及び新鮮な面はにぶい黄色（2.5Y6/3）・にぶい黄橙色（10YR6/4），節理は黄褐色（10YR5/6）の北関東産頁岩である。石器群の内訳は，剥片６点，石核１点の合計７点（86.3ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片３点（17.2ｇ），Ｂは剥片１点，石核１点の合計２点（59.6ｇ）である。

・**頁岩Ｃ１**：内部及び新鮮な面は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰オリーブ色（5Y5/3）・灰色（5Y4/1），節理は

灰オリーブ色（5Y5/3）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，ナイフ形石器２点，石刃５点（３個体），剥片10点の合計17点（15個体；100.1ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは石刃２点（１個体；9.2ｇ），Ｂは石刃２点（１個体；12.5ｇ）である。

・頁岩Ｃ２：黄褐色（2.5Y5/4）・灰オリーブ色（5Y5/3）・灰色（5Y5/1）に一部灰色（5Y4/1）の混じる嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片７点（６個体；19.9ｇ）である。接合資料は，２グループあり，Ａは剥片２点（8.2ｇ），Ｂは剥片２点（１個体；3.0ｇ）である。

・頁岩Ｃ３：灰オリーブ色（5Y5/3）・黄褐色（2.5Y5/3）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（１個体；4.7ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体；4.7ｇ）である。

・頁岩Ｃ４：暗灰黄色（2.5Y5/2）・黄灰色（2.5Y4/1）・灰黄色（2.5Y6/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片５点，砕片３点の合計８点（25.9ｇ）である。

・頁岩Ｃ５：自然面は凹凸があり暗褐色（7.5YR3/3），内部は灰オリーブ色（5Y6/2）・灰オリーブ色（7.5Y6/2）・灰白色（5Y8/2）に一部明黄褐色（10YR6/6）が混じり，新鮮な面は灰白色（2.5Y8/1）の資料，自然面は暗褐色（7.5Y3/3），内部は灰オリーブ色（7.5Y6/2）・灰白色（5Y8/2）・オリーブ灰色（5GY5/1）の資料など変異のある嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片４点（57.0ｇ）である。

・頁岩Ｃ６：暗灰黄色（2.5Y4/2）の地に黒褐色（2.5Y3/1）・暗灰色（N3/0）が部分的に混じる資料，灰オリーブ色（5Y4/2）の地にオリーブ黒色（5Y3/1）が部分的に混じる資料など変異のある嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片３点（13.0ｇ）である。

・頁岩Ｃ７：自然面は比較的平滑で黄褐色（2.5Y5/3），内部は黄褐色（2.5Y5/3）・灰オリーブ色（5Y5/2），節理は褐色（7.5YR4/3）・褐色（7.5YR4/6）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片３点（18.8ｇ）である。

・頁岩Ｃ８：灰オリーブ色（5Y4/2）・にぶい黄色（2.5Y6/3）・灰オリーブ色（5Y5/3）の地に暗灰色（N3/0）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（5.4ｇ）である。

・頁岩Ｃ９：黄褐色（2.5Y5/4）・灰オリーブ色（5Y4/2）の嶺岡産頁岩である。石器群の内訳は，剥片２点（5.1ｇ）である。

・頁岩Ｃ11：灰オリーブ色（5Y4/2）の地に灰色（5Y4/1）・オリーブ黒色（5Y3/2）・青黒色（5PB2/1）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。剥片１点（7.4ｇ）の単独資料である。

・頁岩Ｃ13：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y6/2）・黄褐色（2.5Y5/4）・にぶい黄褐色（10YR5/4），節理はにぶい褐色（7.5YR5/4）の嶺岡産頁岩である。石核１点（31.3ｇ）の単独資料である。

・頁岩Ｃ14：自然面は比較的平滑で褐色（7.5YR4/4），内部は黄褐色（2.5Y5/4）・黄灰色（2.5Y6/1）・黄灰色（2.5Y5/1）の嶺岡産頁岩である。剥片１点（19.8ｇ）の単独資料である。

・頁岩Ｃ15：自然面は比較的平滑でオリーブ褐色（2.5Y4/6）・にぶい黄色（2.5Y6/4），内部は黄灰色（2.5Y5/1）・灰オリーブ色（5Y5/2）・灰オリーブ色（5Y6/2）・少量のオリーブ黒色（5Y3/1）が混じる嶺岡産頁岩である。剥片１点（7.8ｇ）の単独資料である。

・頁岩Ｃ16：自然面は爪形の浅い裂痕があり褐色（10YR4/4），内部はにぶい黄褐色（10YR5/4）・暗灰黄色（2.5Y5/2）・黄褐色（10YR5/6）に一部オリーブ灰色（2.5GY6/1）・黄灰色（2.5Y5/1）の混じる嶺岡産頁岩である。加工痕ある剥片１点（25.7ｇ）の単独資料である。

・頁岩C17：自然面は凹凸があり褐色(10YR4/6)，内部及び新鮮な面は黄褐色(2.5Y5/4)の地に黄灰色(2.5Y5/1)が部分的に混じり，節理は褐色（7.5YR4/4）・にぶい黄色（10YR5/4）の嶺岡産頁岩である。石核1点（53.9g）の単独資料である。

・頁岩C18：オリーブ黄色（5Y6/3）の地に灰黄色（2.5Y7/2）・黄灰色（2.5Y5/1）・暗青灰色（5PB3/1）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。剥片1点（1.5g）の単独資料である。

・頁岩C19：自然面は平滑で褐色（7.5YR4/4），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰オリーブ色（5Y6/2）の地に灰色（5Y4/1）が部分的に混じり，節理は黄褐色（10YR5/6）・にぶい黄色（2.5Y6/4）の嶺岡産頁岩である。加工痕ある剥片1点（16.6g）の単独資料である。

・頁岩C20：灰オリーブ色（5Y5/2）の地に黄褐色（10YR5/6）・灰色（5Y4/1）が部分的に混じる嶺岡産頁岩である。使用痕ある剥片1点（14.4g）の単独資料である。

・頁岩C21：自然面は平滑で褐色（10YR4/4），内部は暗オリーブ色（5Y4/4）・灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y4/1），節理はにぶい黄褐色（10YR5/4）・褐色（10YR4/4）の嶺岡産頁岩である。剥片1点（22.9g）の単独資料である。

・頁岩D1：内部及び新鮮な面は灰白色（2.5Y7/1）の資料，灰黄色（2.5Y6/2）・黄灰色（2.5Y6/1）の一部に黒褐色（2.5Y3/1）の混じる資料，にぶい黄色（2.5Y6/4）の地に暗灰黄色（2.5Y5/2）が部分的に混じる資料など変異のある硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片6点，砕片1点の合計7点（27.4g）である。接合資料は，剥片4点（23.6g）である。

・頁岩D2：黄灰色（2.5Y5/1）・にぶい黄色（2.5Y6/3）の資料，暗灰黄色（2.5Y5/2）・にぶい黄色（2.5Y6/3）の資料など変異のある硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（4.3g）である。

・頁岩D3：自然面は比較的平滑でオリーブ黒色（5Y3/2），内部は灰色（5Y4/1）・灰オリーブ色（5Y4/2）・オリーブ黒色（5Y3/2）の資料，灰色（5Y4/1）・黒褐色（2.5Y3/2）・黄灰色（2.5Y5/1）の資料など変異のある硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片2点（15.2g）である。

・頁岩D4：黄灰色（2.5Y4/1）の地に灰オリーブ色（5Y5/2）が部分的に混じる硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，削器1点，剥片1点の合計2点（11.9g）である。

・頁岩D5：内部は黄灰色（2.5Y5/1）・灰黄色（2.5Y6/2）・灰黄色（2.5Y7/2），新鮮な面は灰白色（2.5Y7/1）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（5.4g）の単独資料である。

・頁岩D6：自然面は比較的平滑で褐灰色（10YR4/1）・にぶい赤褐色（5YR5/3）・暗灰黄色（2.5Y5/2），内部は灰色（5Y4/1）・灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y5/1）・青黒色（10BG2/1）の硬質緻密な頁岩である。剥片1点（15.7g）の単独資料である。

・頁岩D7：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y4/2）の硬質緻密な頁岩である。使用痕ある剥片1点（8.9g）の単独資料である。

・チャート2：灰オリーブ色（7.5Y4/2）・灰色（7.5Y4/1）のチャートである。剥片1点（2.0g）の単独資料である。

・チャート3：自然面は平滑でにぶい黄色（2.5Y6/3），内部は灰色（10Y4/1）・灰黄色（2.5Y6/2），節理は暗灰黄色（2.5Y5/2）のチャートである。剥片1点（1.7g）の単独資料である。

・凝灰岩1：自然面は平滑でオリーブ黄色(5Y6/3)・灰オリーブ色(5Y6/2)，内部は明オリーブ灰色(2.5GY7/1)の地に灰白色（2.5GY8/1）が部分的に混じり，節理はにぶい黄色（10YR5/4）の凝灰岩である。加工痕ある

剥片１点（37.3ｇ）の単独資料である。

・**凝灰岩２**：自然面は平滑でにぶい黄色（2.5Y6/4），内部は明オリーブ灰色（2.5GY7/1）・灰白色（7.5Y7/2），新鮮な面は暗緑灰色（10GY3/1）の凝灰岩である。加工痕ある剥片１点（14.7ｇ）の単独資料である。

・**凝灰岩３**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y5/3）の凝灰岩である。加工痕ある剥片１点（10.2ｇ）の単独資料である。

・**凝灰岩４**：自然面は平滑で明オリーブ灰色（2.5GY7/1）・にぶい黄色（2.5Y6/4），内部は灰白色（10Y7/2），節理は褐色（10YR4/4），新鮮な面は明緑灰色（7.5GY7/1）の凝灰岩である。石核１点（39.9ｇ）の単独資料である。

・**凝灰岩５**：灰オリーブ色（5Y5/3）の凝灰岩である。剥片１点（1.3ｇ）の単独資料である。

・**粘板岩１**：自然面は平滑で灰オリーブ色（5Y6/2），内部は灰色（5Y4/1）・灰オリーブ色（5Y5/2），新鮮な面は灰色（5Y4/1）の粘板岩である。剥片１点（3.1ｇ）の単独資料である。

・**粘板岩２**：自然面は平滑で灰色（10Y4/1），内部は灰色（10Y4/1）・灰オリーブ色（5Y5/2）の粘板岩である。剥片１点（14.5ｇ）の単独資料である。

・**砂岩１**：自然面は平滑でにぶい黄色（2.5Y6/4）・褐色（7.5YR4/3）・にぶい黄褐色（10YR5/4），内部は灰オリーブ色（5Y6/2）・にぶい黄色（2.5Y6/4）・浅黄色（2.5Y7/3），節理は明褐色（7.5YR5/6）の砂岩である。石器群の内訳は，剥片７点，石核３点（２個体）の合計10点（９個体；1,345.8ｇ）である。接合資料は，剥片６点，石核３点（２個体）の合計９点（８個体；1,321.4ｇ）である。

・**砂岩２**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰色（7.5Y5/1）の地に灰オリーブ色（5Y6/2）が筋状あるいは部分的に混じり，新鮮な面は灰色（7.5Y4/1）の砂岩である。加工痕ある剥片１点（70.8ｇ）の単独資料である。

・**砂岩３**：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は灰色（10Y6/1），節理は黄褐色（10YR5/6）・褐色（10YR4/4）の砂岩である。剥片１点（8.9ｇ）の単独資料である。

・**ホルンフェルス１**：自然面は平滑で灰色（5Y4/1）・オリーブ黄色（5Y6/3），内部は灰色（5Y5/1）・浅黄色（5Y7/3），節理は灰色（5Y5/1）・浅黄色（5Y7/3）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片７点（６個体），石核１点の合計８点（７個体；209.3ｇ）である。接合資料は，剥片７点（６個体），石核１点の合計８点（７個体；209.3ｇ）である。

・**ホルンフェルス２**：灰色（10Y5/1）のホルンフェルスである。石器群の内訳は，角錐状石器１点，剥片１点の合計２点（7.5ｇ）である。

・**ホルンフェルス４**：自然面は平滑で灰オリーブ色（5Y5/2）・にぶい黄褐色（10YR5/4），内部は灰色（5Y5/1），節理はにぶい褐色（7.5YR5/4）のホルンフェルスである。石核１点（111.7ｇ）の単独資料である。

・**ホルンフェルス５**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y6/2）・浅黄色（5Y7/3），新鮮な面は灰色（5Y4/1）のホルンフェルスである。石核１点（80.1ｇ）の単独資料である。

・**ホルンフェルス６**：自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は黄褐色（2.5Y5/3），新鮮な面は灰色（5Y5/1）・灰色（5Y6/1）のホルンフェルスである。剥片１点（5.6ｇ）の単独資料である。

・**ホルンフェルス７**：内部は灰オリーブ色（5Y6/2），節理は褐色（7.5YR4/4）のホルンフェルスである。砂岩の可能性がある。剥片１点（3.6ｇ）の単独資料である。

・**ホルンフェルス８**：自然面は平滑で灰褐色（7.5YR4/2），内部は灰色（5Y5/1）・灰オリーブ色（5Y6/2），

節理は灰褐色（7.5YR4/2）のホルンフェルスである。剥片1点（20.4g）の単独資料である。

・**ホルンフェルス9**：自然面は平滑で，自然面及び内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y5/1）・灰オリーブ色（5Y6/2）のホルンフェルスである。加工痕あるる剥片1点（22.0g）の単独資料である。

・**ホルンフェルス10**：灰色（10Y4/1）・灰色（10Y6/1）のホルンフェルスである。剥片1点（10.7g）の単独資料である。

・**ホルンフェルス11**：自然面は比較的平滑で褐色（7.5YR4/3），内部は灰色（10Y4/1）・褐色（7.5YR4/3）のホルンフェルスである。剥片1点（14.6g）の単独資料である。

・**ホルンフェルス12**：自然面は比較的平滑で，自然面及び内部は灰色（10Y4/1）のホルンフェルスである。黄粉状の斑紋がある。剥片1点（16.8g）の単独資料である。

・**瑪瑙・玉髄1**：黄灰色（2.5Y4/1）・暗灰黄色（2.5Y5/2）の半透明な瑪瑙・玉髄である。剥片1点（3.7g）の単独資料である。

・**瑪瑙・玉髄2**：にぶい黄色（2.5Y6/4）・淡黄色（2.5Y8/3）の一部に褐色（7.5YR4/6）が混じる半透明な瑪瑙・玉髄である。剥片1点（10.6g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石Cの角錐状石器1点（2.3g），安山岩の剥片2点（2.7g），頁岩Cの剥片2点，砕片21点の合計23点（7.2g），頁岩Dの砕片18点（3.2g）がある。

3　出土遺物（第430・431図，第432図28～31）

1は安山岩によるナイフ形石器で，縦長剥片の打面側を基部として，左側縁と右側縁の一部に鋸歯状の調整加工を行っており，右側縁の上部には細かい剥離痕が見られる。2・3は嶺岡産頁岩によるナイフ形石器で，左側縁上部に細かい調整加工を行っている。また，2は裏面の左側縁上部に微細な剥離痕が見られる。

4は黒灰色半透明で，φ1㎜ほどの灰白色の夾雑物を含む信州麦草峠産と考えられる黒曜石による角錐状石器である。なお，石材については栃木県高原山産あるいは信州和田峠周辺産の可能性もあり，産地不明とした方が良いかもしれない。横長剥片を横位に用い，両側縁に鋸歯状の急角度の調整加工を行っている。460住居（G3-15グリッド）から出土した。5はホルンフェルスによる角錐状石器で，剥片の打面側を先端部として，両側縁に急角度の調整加工を行っている。

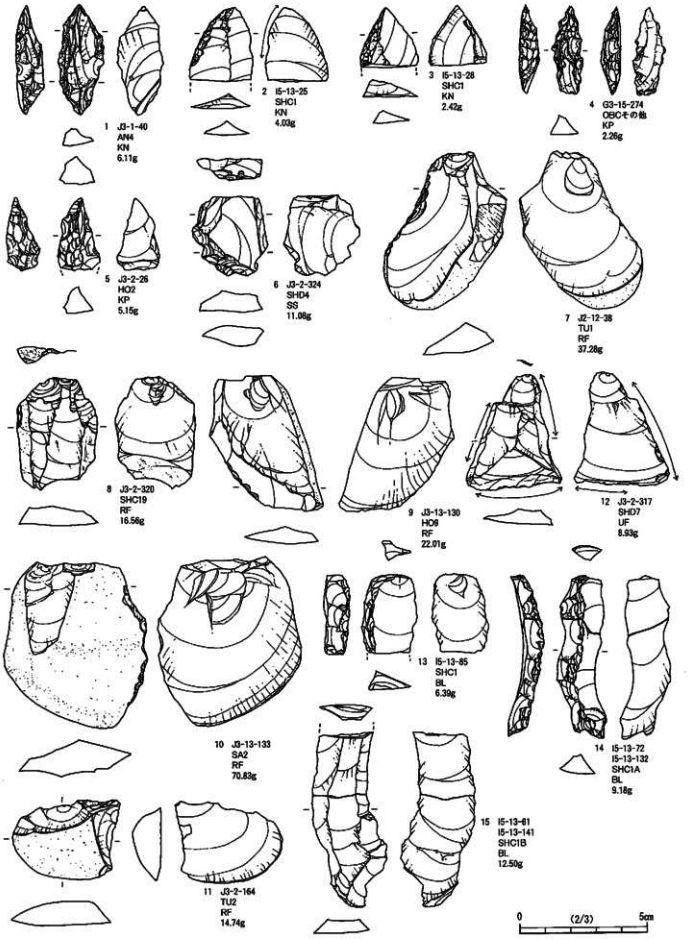
6は硬質緻密な頁岩による削器で，横長剥片を素材として，左側縁に鋸歯状の調整加工を行っている。

7・11は凝灰岩，8は嶺岡産頁岩，9はホルンフェルス，10は砂岩による加工痕ある剥片である。7～9は縦長剥片を素材として，左側縁の一部に細かい調整加工を行っている。10・11は不定型な剥片を素材として，10は右側縁に細かい調整加工，11は上部に調整加工を行っている。なお，11はその剥離痕の大きさから，石核の可能性もある。

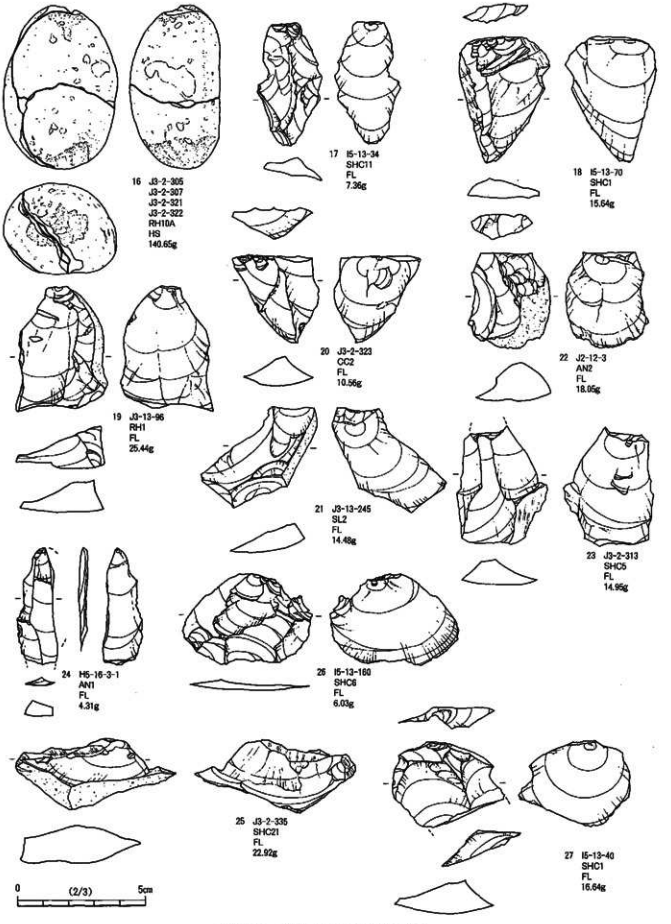
12は硬質緻密な頁岩による使用痕ある剥片で，縦長剥片の両面右側縁と末端，正面左側縁に微細な剥離痕が見られる。

13～15は嶺岡産頁岩による石刃で，この内，13・14は稜付き石刃である。

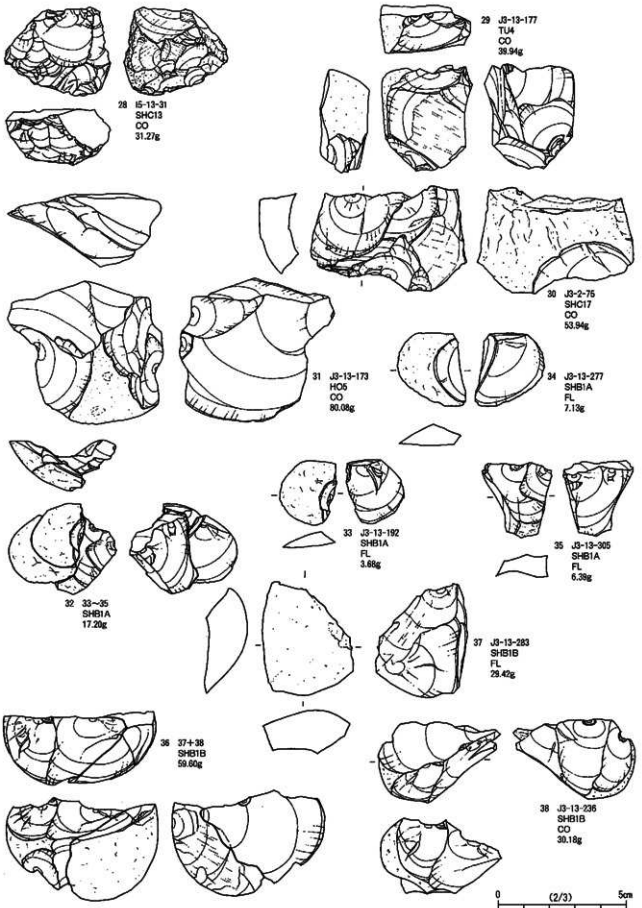
16は流紋岩による敲石で，上下両端に敲打痕が見られる。4点が接合して1個体となる。使用による欠損と思われるが，表面が若干，赤褐色化しており，焼礫への転用に伴う可能性もある。なお，割れ面の赤褐色化は見られない。



第430図　第２文化層出土遺物（１）



第431図　第２文化層出土遺物(２)



第432図　第２文化層出土遺物(３)

17・18・23・25～27は嶺岡産頁岩，19は流紋岩，20は瑪瑙・玉髄，21は粘板岩，22・24は安山岩による剥片で，17～19・24は縦長剥片，20～23・26・27は不定型な剥片，25は横長剥片である。

28・30は嶺岡産頁岩，29は凝灰岩，31はホルンフェルスによる石核である。28・29は打面と作業面を入れ替えながら求心的な剥離作業を行い，30・31は打面と作業面を入れ替えながら，小型で不定型な剥片を剥離している。

4　接合資料とその関連資料（第432図32～38，第433～436図）

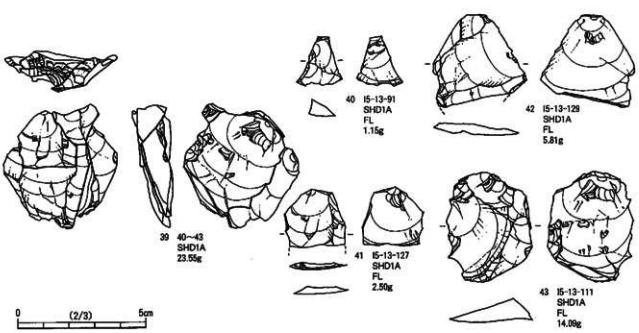
・**頁岩Ｂ１（第432図32～38）**　にぶい黄色（2.5Y6/3）などの北関東産頁岩である。32は不定型な剥片３点（33～35）の接合資料である。

36は剥片１点（37），石核１点（38）の接合資料である。37・38を剥離した後，38は主要剥離面を打面として，求心的な剥離作業により不定型な剥片を剥離している。

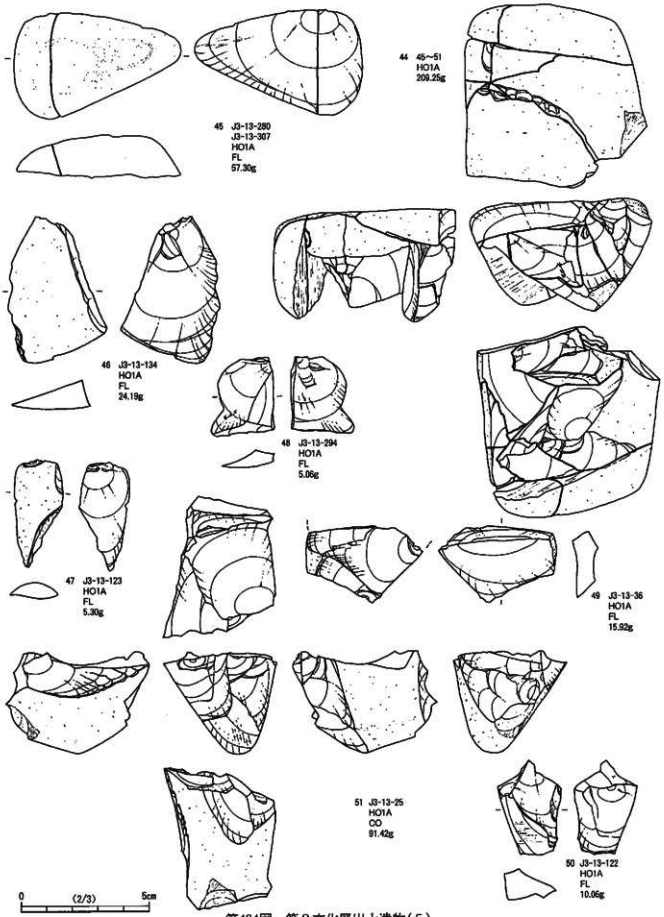
・**頁岩Ｄ１（第433図）**　灰白色（2.5Y7/1）などの硬質緻密な頁岩である。39は剥片４点（40～43）の接合資料である。40を剥離した後，90度打面転移して，同一の打面から41～43を剥離している。

・**ホルンフェルス１（第434図）**　灰色（5Y5/1）などのホルンフェルスである。44は剥片７点（６個体；45～50），石核１点（51）の接合資料である。その内，45は剥片２点が接合して１個体となる。44は大型で厚めの不定型な礫を素材として，打点を頻繁に移動しながら，正面から45→右から46→下から47→左から48と49→斜め上から50を剥離している。

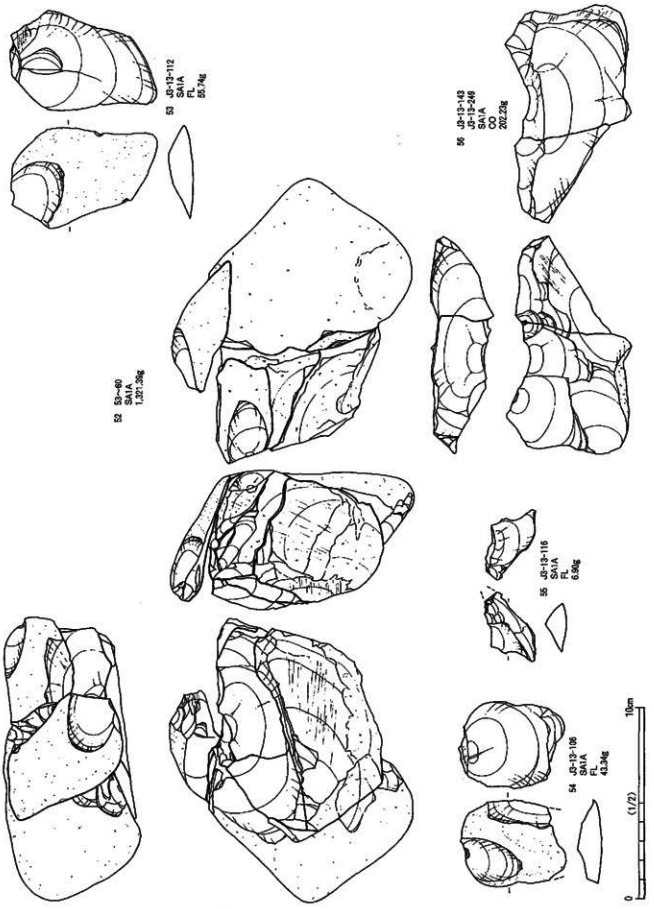
・**砂岩１（第435・436図）**　灰オリーブ色（5Y6/2）などの砂岩である。52は剥片６点（53～55・57～59），石核３点（２個体；56・60）の接合資料である。その内，56は石核２点が接合して１個体となる。52は大型の礫を素材として，53を剥離した後，54～56・57の個体では打面と作業面を入れ替えながら，58～60の個体では平坦な自然面あるいは作業面を打面として，不定型な剥片を剥離している。



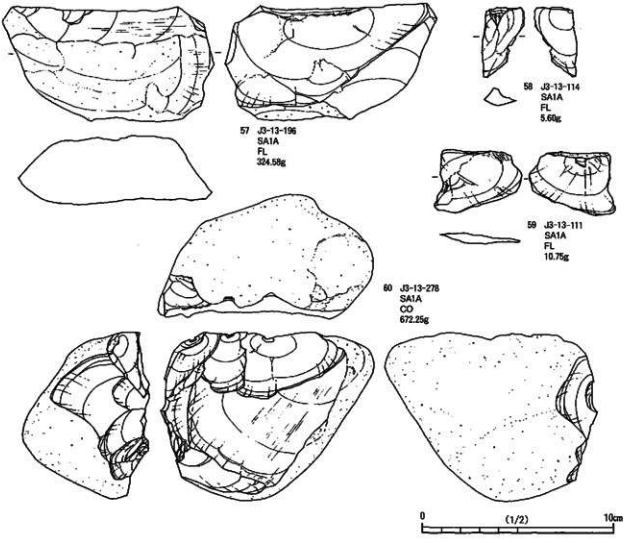
第433図　第２文化層出土遺物（４）



第434図　第２文化層出土遺物（５）



第435図　第２文化層出土遺物(６)



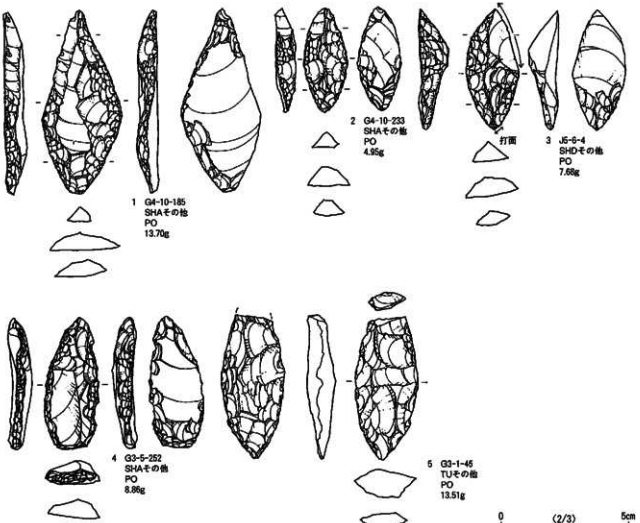
第436図　第２文化層出土遺物(７)

第４節　第３文化層・第４文化層・時期不明

第３文化層・第４文化層・時期不明は，上層遺構等から出土した遺物である。第３文化層は，槍先形石器を指標とする石器群，第４文化層は，細石刃石器群，時期不明は，帰属文化層を決定することができなかった石器群で，概ね第１文化層あるいは第２文化層に帰属するものと考えられる。

１　第３文化層（第437図，第251表，カラー図版28）

１は灰黄褐色（10YR5/2）の東北産頁岩による槍先形石器で，いわゆる有樋尖頭器である。G4-10グリッドから出土した。２はにぶい黄褐色（10YR5/3）の東北産頁岩による槍先形石器で，いわゆる有樋尖頭器である。292住居（G4-10グリッド）から出土した。３は黄褐色（2.5Y5/4）の地に黄灰色（2.5Y6/1）が部分的に入る硬質緻密な頁岩による槍先形石器である。通常の樋状剥離と異なり，基部側からの加工であるが，有樋尖頭器の範疇に入るのであろうか。刃部には微細な剥離痕が見られる。J5-06グリッドから出土した。



第437図　第３文化層出土遺物

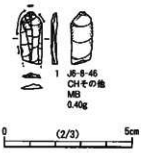
４は黒褐色（10YR3/2）の東北産頁岩による槍先形石器である。両面の周縁に調整加工を行っている。特に裏面基部側の加工は入念に行われている。G3-05グリッドから出土した。５は内部は灰色（10Y6/1），新鮮な面は灰色（N6/0）の凝灰岩あるいは流紋岩による両面調整の槍先形石器である。364住居（G3-01グリッド）から出土した。縄文時代草創期に帰属する可能性もある。

第251表　第３文化層遺物属性

挿図番号	グリッド	遺物番号	器種	石材	母岩	重量	備　考
第437図 1	G4-10	185	PO	SHA	その他	13.70	
第437図 2	G4-10	233	PO	SHA	その他	4.95	292住居
第437図 3	J5-06	4	PO	SHD	その他	7.68	
第437図 4	G3-05	252	PO	SHA	その他	8.86	
第437図 5	G3-01	45	PO	TU	その他	13.51	364住居
	F4-08	118	PO	TO	その他	5.33	241住居

2　第４文化層（第438図，第252表，カラー図版28）

１はオリーブ灰色（2.5GY5/1）・暗褐色（10YR3/3）のチャートによる細石刃である。正面の打面側及び左側縁の一部に微細な剥離痕が見られる。659住居（J6-08グリッド）から出土した。



第438図　第４文化層出土遺物

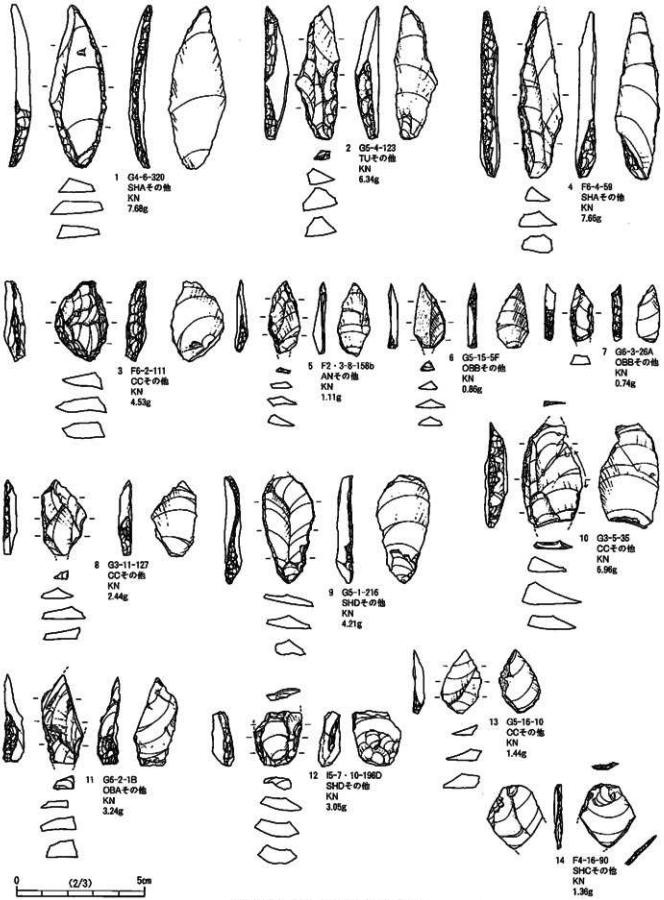
第252表　第４文化層遺物属性

挿図番号	グリッド	遺物番号	器種	石材	母岩	重量	備　考
第438図 1	J6-08	46	MB	CH	その他	0.40	659住居

３　時期不明（第439～442図，第253表，カラー図版28）

１～９は二側縁加工，10は一側縁加工，11・12は基部加工あるいは二側縁加工，13・14は部分加工のナイフ形石器である。１は灰黄褐色（10YR4/2）の東北産頁岩で，290住居（G4-06グリッド）から出土した。石刃を用い，素材の打面側を基部として，右側縁と左側縁の基部に細かい調整加工を行っている。２は灰オリーブ色（5Y5/2）の凝灰岩で，481住居（G5-04グリッド）から出土した。石刃を用い，素材の打面側を基部として，左側縁と右側縁の基部に急角度の調整加工を行っている。３は暗灰黄色（2.5Y5/2）の地に浅黄色（2.5Y7/4）が部分的に入る瑪瑙・玉髄で，38住居（F6-02グリッド）から出土した。不定型な剥片を用い，素材の打面側を基部として，右側縁と左側縁の基部に調整加工を行っている。４は暗灰黄色（2.5Y4/2）の東北産頁岩で，76住居（F6-04グリッド）から出土した。石刃を用い，素材の打面側を基部として，左側縁と右側縁の基部に急角度の調整加工を行っている。５は暗灰黄色（2.5Y4/2）の安山岩で，２住居（D4-11グリッド）から出土したが，注記はF2・3-08グリッドである。石刃あるいは縦長剥片を用い，素材の打面側を基部として，右側縁と左側縁の基部に細かい調整加工を行っている。６は自然面が平滑で透明な地に灰色の筋の入る信州和田峠周辺産と考えられる黒曜石で，212住居（G5-15グリッド）から出土した。石刃あるいは縦長剥片を用い，素材の打面側を基部として，右側縁と左側縁の基部に細かい調整加工を行っている。７は黒色半透明な信州和田峠周辺産と考えられる黒曜石で，G6-03グリッドから出土した。石刃あるいは縦長剥片を用い，素材の末端側を基部として，右側縁と左側縁の基部に急角度の調整加工を行っている。８は浅黄色（2.5Y7/3）の地に淡黄色（2.5Y8/4）が部分的に入る半透明な瑪瑙・玉髄で，464住居（G3-11グリッド）から出土した。縦長剥片を用い，素材の打面側を基部として，左側縁と右側縁の基部に細かい調整加工を行っている。９は灰色（5Y4/1）の地に黒色（10Y2/1）が部分的に入る硬質緻密な頁岩で，334住居（G5-01グリッド）から出土した。石刃を用い，素材の打面側を基部として，右側縁と左側縁に細かい調整加工を行っている。右側縁の上半部を使用痕とすれば，二側縁加工と考えられる。10は褐灰色（10YR4/1）・褐灰色（10YR5/1）・黒褐色（10YR3/2）半透明な瑪瑙・玉髄で，360住居（G3-05グリッド）から出土した。石刃あるいは縦長剥片を用い，素材の打面側を基部として，左側縁に急角度の調整加工を行っている。右側縁に微細な剥離痕が見られる。11は黒色半透明で，φ１mmほどの黄灰色の夾雑物を含む栃木県高原山産と考えられる黒曜石で，G6-02グリッドから出土した。縦長剥片あるいは不定型な剥片を用い，素材の末端側を基部として，基部に調整加工を行っている。右側が欠損しているので，二側縁加工の可能性もある。12はにぶい黄褐色（10YR5/4）・にぶい黄橙色（10YR6/4）の硬質緻密な頁岩で，638住居（I5-07・10グリッド）から出土した。不定型な剥片を用い，素材の打面側を基部として，基部に調整加工を行っている。先端側が欠損しているので，二側縁加工の可能性もある。13は自然面は凹凸がありにぶい黄褐色（10YR5/3）で半透明，内部は灰黄褐色（10YR6/2）で半透明な瑪瑙・玉髄である。不定型な剥片を用い，素材の末端側を基部として，左側縁の基部に細かい調整加工を行っている。14はオリーブ褐色（2.5Y4/6）・黄灰色（2.5Y6/1）の横岡産頁岩で，261住居（F4-16グリッド）から出土した。不定型な剥片を用い，素材の末端側を基部として，裏面側の左側縁上半部と右側縁の下半部に細かい調整加工を行っている。

15～19は掻器である。15は内部が浅黄色（2.5Y7/3）・暗灰黄色（2.5Y5/2），新鮮な面は暗灰黄色（2.5Y5/2）の東北産頁岩で，表採資料である。石刃の末端と裏面左側縁の上半部に調整加工を行っている。裏面の加工から削器としての機能も考えられ，複合石器と思われる。16は内部が黒色（2.5Y2/1）の地に，にぶい褐色（7.5YR5/4）の線が入り，節理は黄灰色（2.5Y4/1）の地に灰白色（7.5Y8/1）が部分的に混じる硬質緻密



第439図　時期不明出土遺物(1)

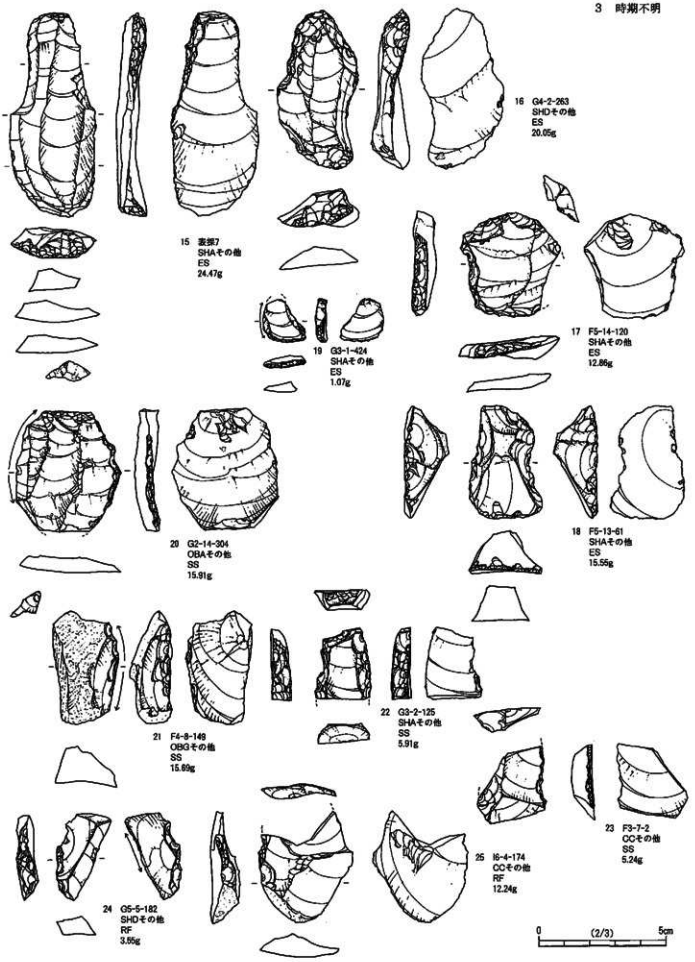
な頁岩で，336住居（G4-02グリッド）から出土した。石刃あるいは石刃状の縦長剥片の末端と両側縁の上半部に調整加工を行っている。17は浅黄色（2.5Y7/3），暗灰黄色（2.5Y4/2）の東北産頁岩で，F5-14グリッドから出土した。不定型な剥片の末端と左側縁に調整加工を行っている。18は自然面は平滑で灰黄褐色(10YR5/2)，内部は黒褐色（10YR3/2）の東北産頁岩で，F5-13グリッドから出土した。厚めの剥片の末端に細かい調整加工と両側縁に調整加工を行っている。なお，両側縁の剥離痕の大きさから，石核の可能性もある。19は灰黄褐色（10YR6/2）の地に灰白色（10YR7/1）が部分的に混じる東北産頁岩で，G3-01グリッドから出土した。小型で不定型な剥片の末端と右側縁下部に細かい調整加工を行っている。また，左側縁に微細な剥離痕が見られる。

20～23は削器である。20は黒灰色半透明で，φ１mmほどの灰白色の夾雑物を含む栃木県高原山産と考えられる黒曜石で，416住居（G2-14グリッド）から出土した。不定型な剥片の右側縁に細かい調整加工を行っている。また，左側縁に微細な剥離痕が見られる。21は自然面は凹凸がありにぶい黄橙色（10YR7/4），内部及び新鮮な面は黒褐色（10YR3/1）で産地不明の黒曜石で，小竪穴258（F4-08グリッド）から出土した。不定型な剥片の右側縁に細かい調整加工を行っており，同部位に微細な剥離痕が見られる。22はにぶい黄褐色（10YR5/3）の東北産頁岩で，G3-02グリッドから出土した。剥片の両側縁と上部に調整加工を行っている。23は褐灰色（10YR6/1）の地に灰黄褐色（10YR6/2）が部分的に混じる半透明な瑪瑙・玉髄で，土坑369（F3-07グリッド）から出土した。剥片の右側縁に細かい調整加工を行っている。

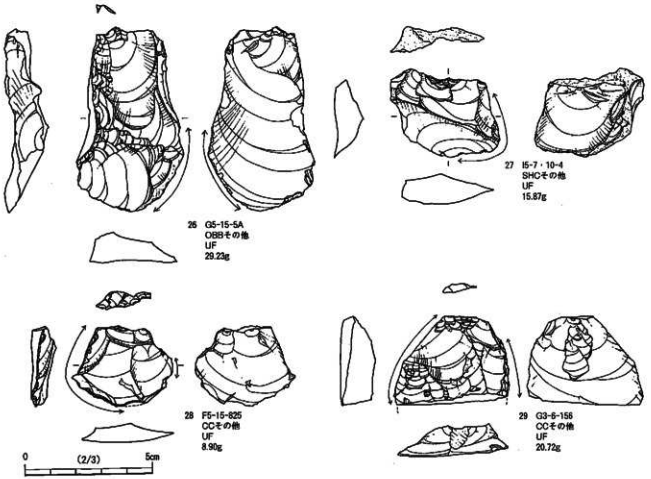
24は灰オリーブ色（5Y6/2）の硬質緻密な頁岩による加工痕ある剥片である。86住居（G5-05グリッド）から出土した。横長剥片の正面左側縁に通常の調整加工，裏面右側縁に鋸歯状の調整加工を行っている。また，裏面左側縁に微細な剥離痕が見られる。25は自然面は敲打痕状の裂痕があり，にぶい黄橙色(10YR7/4)，内部はにぶい黄橙色（10YR6/4）の地に暗赤褐色（5YR3/4）・浅黄色（2.5Y7/4）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄による加工痕ある剥片である。648住居（I6-04グリッド）から出土した。不定型な剥片の左側縁に調整加工を行っている。

26は自然面は平滑で，自然面及び新鮮な面は薄墨を流したような透明な地に黒灰色の筋が入る信州和田峠周辺産と考えられる黒曜石による使用痕ある剥片である。212住居（G5-15グリッド）から出土した。石刃状の縦長剥片の正面右側縁下半部と裏面左側縁下半部に微細な剥離痕が見られる。左側面には加撃軸に直交する剥離痕が見られる。27は自然面は比較的平滑で褐色（10YR4/6）・黄褐色（10YR5/6），内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・黄褐色(2.5Y5/4)の嶺岡産頁岩による使用痕ある剥片である。638住居（I5-07・10グリッド）から出土した。不定型な剥片の末端から右側縁にかけて微細な剥離痕が見られる。28は灰白色(10YR7/1)の地に灰白色（10YR8/1）が部分的に混じる瑪瑙・玉髄による使用痕ある剥片である。F5-15グリッドから出土した。不定型な剥片の末端から左側縁にかけて細かい剥離痕，右側縁の一部に微細な剥離痕が見られる。29は灰黄褐色（10YR5/2）・灰白色（2.5Y7/1）・灰黄色（2.5Y7/2）の瑪瑙・玉髄による使用痕ある剥片である。G3-06グリッドから出土した。不定型な剥片の右側縁に細かい剥離痕，左側縁に微細な剥離痕が見られる。

30～37は石刃で，この内，31・34は稜付き石刃である。30は透明な地に若干褐色がかった黒色のモヤが入る信州和田峠周辺産と考えられる黒曜石で，H5-13グリッドから出土した。31は自然面は平滑で薄墨を流したような透明な信州和田峠周辺産と考えられる黒曜石で，表採資料である。32は透明な地に若干褐色がかった黒灰色のモヤが入り，φ１mmほどの灰色の夾雑物の入る信州和田峠周辺産と考えられる黒曜石で，



第440図　時期不明出土遺物（2）

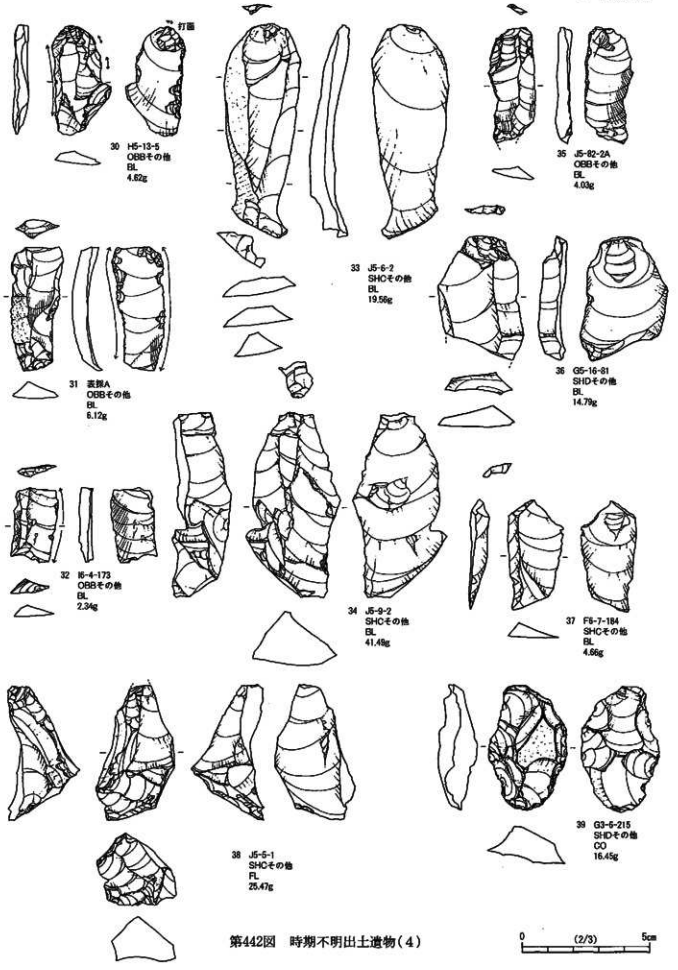


第441図　時期不明出土遺物（3）

648住居（I6-04グリッド）から出土した。33は自然面は平滑でにぶい黄褐色（10YR5/4），内部は灰オリーブ色(5Y5/3)・オリーブ褐色(2.5Y4/6)の嶺岡産頁岩で，J5-06グリッドから出土した。34は灰オリーブ色(5Y4/2)・灰オリーブ色（5Y5/2）・灰色（5Y5/1）・灰黄褐色（10YR4/2）の嶺岡産頁岩で，636住居（J5-09グリッド）から出土した。35は透明な地に黒色のモヤ・黒灰色のモヤ状の筋が入る信州和田峠周辺産と考えられる黒曜石で，J5-82グリッドから出土した。36は内部は灰オリーブ色（5Y5/2）・暗灰黄色（2.5Y4/2），新鮮な面は灰オリーブ色（5Y5/2）の硬質緻密な頁岩で，G5-16グリッドから出土した。37は内部及び新鮮な面は黄褐色（2.5Y5/3）の嶺岡産頁岩で，37住居（F6-07グリッド）から出土した。30・31には調整加工と微細な剥離痕，32には微細な剥離痕が見られる。

38は灰色（7.5Y5/1）の地にオリーブ黒色（7.5Y3/1）が部分的に混じる嶺岡産頁岩による石核の底面を残す剥片である。土壙墓624（J5-05グリッド）から出土した。正面と各側面の剥離痕の状況から，90度の打面転移を行いながら，あるいは打面と作業面を入れ替えながら，様々な剥片を剥離したと考えられる。

39は自然面は平滑で暗灰黄色（7.5Y5/2）・にぶい黄橙色（10YR6/3），内部は灰黄褐色（10YR4/2）・にぶい黄褐色（10YR5/3）の硬質緻密な頁岩による石核である。掘立柱建物跡463（G3-06グリッド）から出土した。剥片を素材として，求心的な剥離作業により横長剥片や不定型な剥片を剥離している。石核としたが，その形態や加工のあり方から槍先形石器の未製品の可能性が高いかもしれない。



第442図　時期不明出土遺物（4）

第253表　時期不明遺物属性

挿図番号	グリッド	遺物番号	器種	石材	母岩	重量	備　考
第439図　1	G4-06	320	KN	SHA	その他	7.88	290住居
第439図　2	G5-04	123	KN	TU	その他	6.34	481住居
第439図　3	F6-02	111	KN	CC	その他	4.53	38住居
第439図　4	F6-04	59	KN	SHA	その他	7.66	76住居
第439図　5	F2・3-08	158b	KN	AN	その他	1.11	2住居
第439図　6	G5-15	5F	KN	OBB	その他	0.86	212住居
第439図　7	G6-03	26A	KN	OBB	その他	0.74	
第439図　8	G3-11	127	KN	CC	その他	2.44	464住居
第439図　9	G5-01	216	KN	SHD	その他	4.21	334住居
第439図　10	G3-05	35	KN	CC	その他	6.96	360住居
第439図　11	G6-02	1B	KN	OBA	その他	3.24	
第439図　12	I5-7・10	196D	KN	SHD	その他	3.05	638住居
第439図　13	G5-16	10	KN	CC	その他	1.44	
第439図　14	F4-16	90	KN	SHC	その他	1.36	281住居
第440図　15	表採	7	ES	SHA	その他	24.47	
第440図　16	G4-02	263	ES	SHD	その他	20.05	336住居
第440図　17	F5-14	120	ES	SHA	その他	12.86	
第440図　18	F5-13	61	ES	SHA	その他	15.55	
第440図　19	G3-01	424	ES	SHA	その他	1.07	
第440図　20	G2-14	304	SS	OBA	その他	15.91	416住居
第440図　21	F4-08	149	SS	OBQ	その他	15.69	小竪穴258
第440図　22	G3-02	125	SS	SHA	その他	5.91	
第440図　23	F3-07	2	SS	CC	その他	5.24	土坑369
第440図　24	G5-05	182	RF	SHD	その他	3.55	86住居
第440図　25	I6-04	174	RF	CC	その他	12.24	648住居
第441図　26	G5-15	5A	UF	OBB	その他	29.23	212住居
第441図　27	I5-7・10	4	UF	SHC	その他	15.87	638住居
第441図　28	F5-15	825	UF	CC	その他	8.90	
第441図　29	G3-06	156	UF	CC	その他	20.72	
第442図　30	H5-13	5	BL	OBB	その他	4.62	
第442図　31	表採	A	BL	OBB	その他	6.12	
第442図　32	I6-04	173	BL	OBB	その他	2.34	648住居
第442図　33	J5-06	2	BL	SHC	その他	19.56	
第442図　34	J5-09	2	BL	SHC	その他	41.49	636住居
第442図　35	J5-82	2A	BL	OBB	その他	4.03	
第442図　36	G5-16	81	BL	SHD	その他	14.79	
第442図　37	F6-07	184	BL	SHC	その他	4.66	37住居
第442図　38	J5-05	1	FL	SHC	その他	25.47	土壙墓624
第442図　39	G3-06	215	CO	SHD	その他	16.45	掘立柱建物跡463
	C4-11	12	BL	OBB	その他	3.91	31号墳
	D4-09	17	BL	SHE	その他	19.86	32号墳　3区
	D4-09	40	BL	TU	その他	17.16	32号墳　4区
	D4-09	74	BL	SHE	その他	7.07	32号墳　9区
	D4-09	95	BL	SHC	その他	6.28	32号墳　6区
	D4-09	710	BL	SHA	その他	6.90	32号墳　10区
	D4-09	712	BL	TO	その他	12.31	32号墳　10区
	D5-01	1	BL	SHD	その他	7.63	
	F3-08	144	BL	SHA	その他	6.31	360住居
	F4-02	639	BL	AN	その他	6.88	
	F5-15	48	BL	AN	その他	17.50	46号墳　3区
	F6-03	36	BL	CC	その他	2.34	39号墳　W区表土
	G4-09	22	BL	SHE	その他	4.54	307住居
	G5-06	67	BL	AN	その他	3.18	321住居
	G6-04	316	BL	OBB	その他	0.76	
	G6-04	5A	BL	OBB	その他	0.86	536方墳
	J3-10	59	BL	TU	その他	6.01	37号墳　Ⅱ区周

第3章　まとめ

川焼台遺跡では，遺跡の西半分（E～Kグリッド）は上層の遺構が密で，その掘り込みはⅤ層～Ⅵ層にまで及んでおり，第２文化層の遺物はほとんど発見されなかった。また，遺跡の東半分（Ⅰ～Kグリッド）は住居跡などの遺構が検出されたグリッドを除き，ほぼ全面で遺物が発見されており，遺跡全体では，約2,100点の石器・礫を発見した。これらは，立川ローム層第２黒色帯から立川ローム層ソフトローム層にかけて出土しており，石器群の内容とその出土層準から帰属時期不明の１枚を含み５枚の文化層に区分した。

第１文化層

第１文化層は，立川ローム層第２黒色帯上半部（Ⅶ層）を中心に包含されている石器群である。石器904点，礫126点が出土し，その内訳は，ナイフ形石器，掻器，削器，彫器，錐状石器，楔形石器，加工痕ある剥片，使用痕ある剥片，石刃，局部磨製石斧，敲石，剥片，砕片，石核である。武蔵野台地のⅥ層下部～Ⅶ層の石器群に概ね相当すると考えられるが，細分される可能性もある。調査範囲ほぼ全体のE4-07・10，F4-12・13・15，G3-11・13，G4-02・07・09・10・14・15，G5-01・02・07・08・10～12・14～16，H5-05・14～16，I4-08・14，I5-01・02・06・13，I6-01，J1-12，J2-07～10・12，J3-02・03・10・11・14・15，J4-03・04・09・10・14，J5-01・05・06，K1-10グリッド，台地全体に分布する。

第２文化層

第２文化層は，立川ローム層ソフトローム層（Ⅲ層下部）を中心に包含されている石器群である。石器186点，礫854点が出土し，その内訳は，ナイフ形石器，角錐状石器，削器，加工痕ある剥片，使用痕ある剥片，石刃，敲石，剥片，砕片，石核である。概ね武蔵野台地のⅣ層下部の石器群に相当すると考えられる。調査範囲東側のH5-16，H6-04，I5-13，J2-12，J3-01・02・05・13グリッド，台地上の東側に分布する。

第３文化層・第４文化層・時期不明

第３文化層・第４文化層・時期不明は，上層遺構等から出土した遺物である。第３文化層は，槍先形石器を指標とする石器群，第４文化層は，細石刃石器群，時期不明は，帰属文化層を決定することができなかった石器群で，概ね第１文化層あるいは第２文化層に帰属するものと考えられる。

石器石材について

本遺跡では，既報告の草刈遺跡，押沼大六天遺跡，ナキノ台遺跡，押沼第１遺跡と同様に，東北産頁岩・北関東・東関東方面と考えられている頁岩，県南嶺岡産と考えられている頁岩，上総丘陵砂礫層ほかと考えられているチャート・砂岩・凝灰岩・瑚璃・玉髄，信州産・栃木県高原山産などと考えられる黒曜石，産地の特定できない安山岩などが用いられている。頁岩類については，田村　隆氏を中心に精力的な産地探索が継続されており，その実態も判明しつつあるようである。なお，本報告では，珪化度の高いものも頁岩に区分し，「珪質頁岩」を用いていない。また，土色計及び標準土色帖のマンセル表色系による色調の表示は，遺跡内で出土した石器の母岩をまとめる上などで有効であった。

参考文献

加納　実ほか　2003　「房総の石器石材２　－白滝層の珪質頁岩－」『千葉県史料研究財団だより』第14号

（財）千葉県文化財センター　1987　『千葉県文化財センター研究紀要』11号

（財）千葉県文化財センター　2001　『千葉県文化財センター研究紀要』22号

（財）千葉県文化財センター　2004　『千原台ニュータウンⅩ　－市原市草刈遺跡（東部地区旧石器時代）－』

（財）千葉県文化財センター　2005　『千原台ニュータウンⅫ　－市原市草刈遺跡（西部地区旧石器時代）－』

（財）君津郡市文化財センター　2005　『首都圏中央連絡自動車道（木更津～東金）埋蔵文化財調査報告書２　千葉県木更津市　巡礼街道遺跡１・巡礼街道遺跡２・下野洞遺跡・野洞遺跡』

（財）千葉県教育振興財団　2006　『千原台ニュータウンⅩⅤ　－市原市押沼大六天遺跡（下層）－』

（財）千葉県教育振興財団　2007　『千原台ニュータウンⅩⅢ　－市原市ナキノ台遺跡（下層）－』

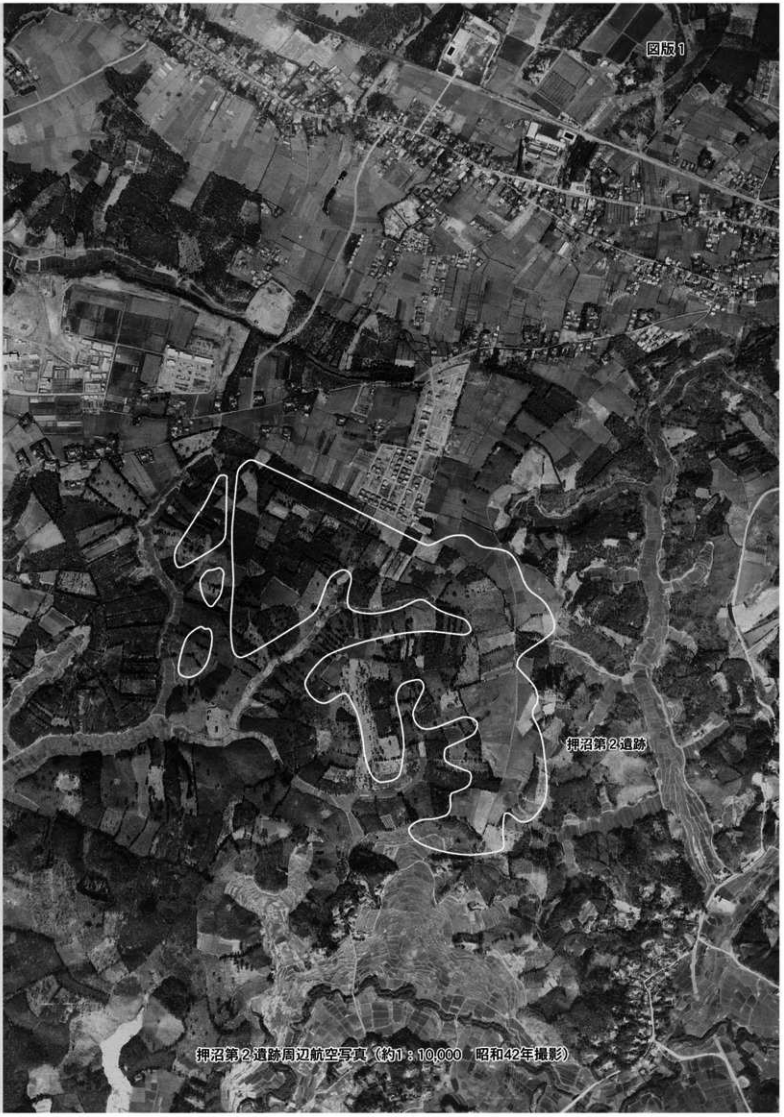
（財）千葉県教育振興財団　2008　『千原台ニュータウンⅩⅩ　－市原市押沼第１遺跡（下層）－』

田村　隆ほか　2003　「下野－北総回廊外縁部の石器石材（第１報）　－特に珪質頁岩の分布と産状について－」『千葉県史研究』第11号

田村　隆ほか　2004　「下野－北総回廊外縁部の石器石材（第２報）」『千葉県史研究』第12号石器石材について

写 真 図 版

図版1



押沼第2遺跡周辺航空写真（約1：10,000　昭和42年撮影）

図版２　遺物出土状況

M17・18、N17～19グリッド出土遺物分布

押沼第２遺跡　土層断面

押沼第２遺跡　土層断面

U14-73・74グリッド　北壁土層断面

Ｊ13-96，Ｊ14-06グリッド　西壁土層断面

N14-78グリッド　南壁土層断面

N17-10グリッド　西壁土層断面

V17-77グリッド　西壁土層断面

N19-87グリッド　北壁土層断面

図版４　第１文化層遺物出土状況，第２文化層遺物出土状況１

第１文化層　S15-Aブロック　南から

第１文化層　V16-Aブロック　西から

第１文化層　V16-Aブロック　南から

第１文化層　V17-Aブロック　西から

第１文化層　V17-Aブロック　北西から

第１文化層　A17-Aブロック　北から

第２文化層　R24-Aブロック　東から

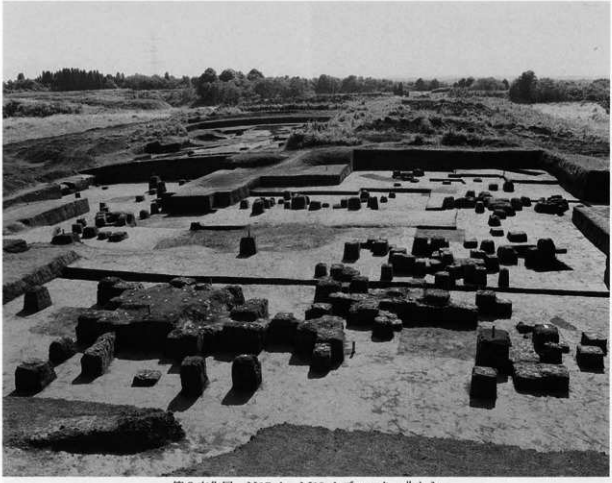
第２文化層　S25-Kブロック　北から

第２文化層　S26-Eブロック　北東から

第２文化層　S26-Fブロック　北から

第２文化層　S26-56・66グリッド　北東から

第３文化層　K15-Aブロック　西から



第３文化層　N17-A，M18-Aブロック　北から

図版6　第3文化層遺物出土状況2

第3文化層　N17-Aブロック　北西から

第3文化層　N17-Aブロック　北東から

第3文化層　N18-E～H，N19-Aブロック　北から

第3文化層　N18-E・Fブロック　北東から

第3文化層　N18-Hブロック　東から

第3文化層　N19-Aブロック　北東から

第3文化層　N19-Bブロック　北から

第3文化層　N19-Aブロック　ナイフ形石器　南から

第３文化層　S14-Aブロック　東から

第３文化層　V18-Bブロック　西から

第３文化層　M20-Aブロック　北から

第３文化層　Q20-Aブロック　南から

第３文化層　S20-A・Bブロック　東から

第３文化層　T20-Aブロック　西から

第３文化層　U20-B・Cブロック　北西から

第３文化層　U20-Bブロック　東から

図版８　第３文化層遺物出土状況４，第４文化層遺物出土状況１

第３文化層　U20-Cブロック　西から

第３文化層　U21-Bブロック　西から

第３文化層　N17-82グリッド　南から

第３文化層　N18-65グリッド　南から

第３文化層　炭化物集中地点C-1　西から

第３文化層　炭化物集中地点C-3　北西から

第４文化層　J13-Aブロック　北から

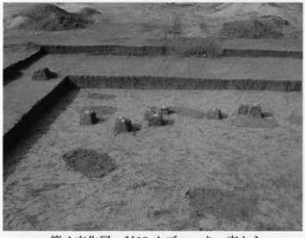
第４文化層　J13-Aブロック　敲石　東から

第４文化層　M16-A～Cブロック　南東から

第４文化層　P14-Aブロック　南から

第４文化層　P14-Bブロック　北西から

第４文化層　R14-Aブロック　東から


第４文化層　V13-Aブロック　東から

第４文化層　V13-Bブロック　西から

第４文化層　V13-Cブロック　西から

第４文化層　V13-Cブロック　南から

図版10　第４文化層遺物出土状況３

第４文化層　V13-Eブロック　南東から

第４文化層　U14-Bブロック　南から

第４文化層　V17-Bブロック　南西から

第４文化層　V18-Aブロック　北西から

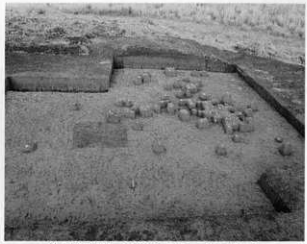
第４文化層　U20-Aブロック　北東から

第４文化層　U21-Dブロック　北から

第４文化層　U21-Eブロック　東から

第４文化層　U21-F・G・Hブロック　北西から

第４文化層　N21-Aブロック　北から


第４文化層　N22-Aブロック　西から

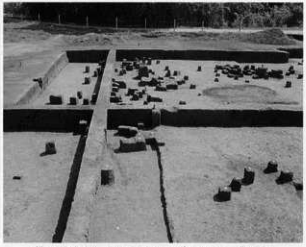
第４文化層　R22-Bブロック　南西から

第４文化層　S23-Aブロック　北西から

第４文化層　Q25-A，R25-A～Dブロック　北東から

第４文化層　R25-A・Bブロック　南から

第４文化層　R25-B・Dブロック　南西から


第４文化層　R25-B・Dブロック　北から

図版12　第４文化層遺物出土状況５，第５a文化層遺物出土状況１

第４文化層　R25-Dブロック　南東から

第４文化層　Q25-Aブロック　南西から

第４文化層　Q25-Aブロック　西から

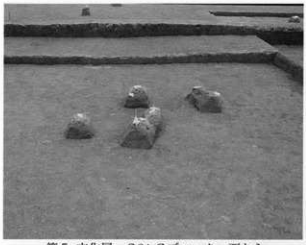
第４文化層　Q25-Aブロック　北東から

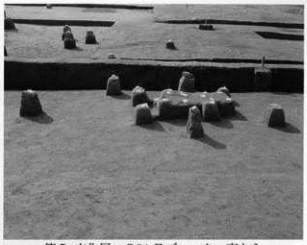
第４文化層　M25-Aブロック　南西から

第５a文化層　L13-Aブロック　南から

第５a文化層　T24-Aブロック　北西から

第５a文化層　S24-Aブロック　北東から


第５a文化層　S24-Cブロック　西から


第５a文化層　S24-Eブロック　東から

第５a文化層　S26-Dブロック　北東から

第５a文化層　S25-68グリッド　東から

第５b文化層　U14-Aブロック　北から

第５b文化層　U14-Aブロック

第５b文化層　U14-Aブロック　尖頭器　南から

第５b文化層　U14-Aブロック　尖頭器　東から

図版14　第５b文化層遺物出土状況２，第６文化層遺物出土状況

第５b文化層　U14-Aブロック　西から

第５b文化層　S24-Bブロック　南東から

第５b文化層　S24-Dブロック　西から

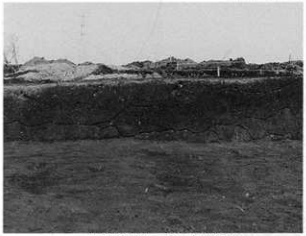
第６文化層　M13-Aブロック　南東から

第６文化層　M13-Aブロック　西から

川焼台遺跡周辺航空写真（約1：10,000　昭和45年撮影）

図版16　土層断面，第１文化層遺物出土状況１

Ｊ３-13グリッド　土層断面

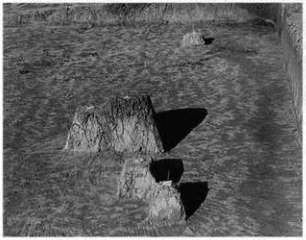


Ｊ３-13グリッド　土層断面

Ｊ３-02グリッド　土層断面

第１文化層　Ｊ３-11グリッド炭化材　南東から

第１文化層　Ｊ３-15グリッド炭化物　西から



第１文化層　Ｅ４-07グリッド　南から

第１文化層　Ｆ４-12グリッド　南から

第１文化層　Ｅ４-10グリッド　南から

第１文化層　Ｅ４-10グリッド　南から

第１文化層　Ｅ４-10グリッド

第１文化層　Ｅ４-10グリッド　石刃

第１文化層　Ｅ４-10グリッド　石斧

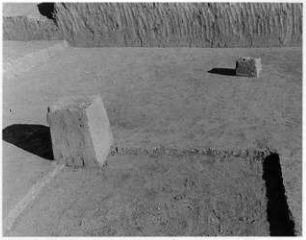
第１文化層　Ｆ４-13グリッド　東から

第１文化層　Ｆ４-15グリッド　北から

第１文化層　Ｇ３-11グリッド　南から

図版18　第１文化層遺物出土状況３

第１文化層　Ｇ３-13グリッド


第１文化層　Ｇ４-20グリッド　西から

第１文化層　Ｇ４-07グリッド　南西から

第１文化層　Ｇ４-09グリッド　東から

第１文化層　Ｇ４-10グリッド　南東から

第１文化層　Ｇ４-14グリッド　東から

第１文化層　Ｇ５-01グリッド　東から

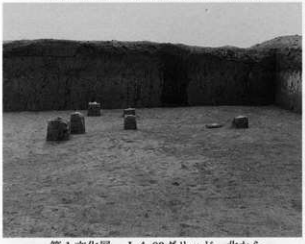
第１文化層　Ｇ５-02グリッド　東から

第１文化層　Ｇ５-11グリッド　南から

第１文化層　Ｇ５-15グリッド　北から

第１文化層　Ｊ３-10グリッド　南から

第１文化層　Ｊ３-14グリッド　東から


第１文化層　Ｊ４-03グリッド　北から

第１文化層　Ｊ４-03グリッド　石器

第１文化層　Ｊ４-10グリッド　西から

第１・２文化層　Ｊ３-03・Ｊ３-02グリッド　西から

図版20　第１・２文化層遺物出土状況２，第２文化層遺物出土状況

第１・２文化層　Ｊ３-02グリッド　西から

第１・２文化層　Ｊ３-02グリッド　礫群　西から

第１・２文化層　Ｉ５-13グリッド　南から

第１・２文化層　Ｊ２-12グリッド　東から

第２文化層　Ｊ３-01グリッド　南西から

第２文化層　Ｊ３-05グリッド　礫群　東から

第２文化層　Ｊ３-13グリッド　西から

第２文化層　Ｊ３-13グリッド　西から

S15-Aブロック　V16-Aブロック

2．第１文化層出土遺物２．第２文化層出土遺物

M13-Bブロック
K15-Aブロック
S14-Aブロック
V18-Bブロック
N17-Aブロック

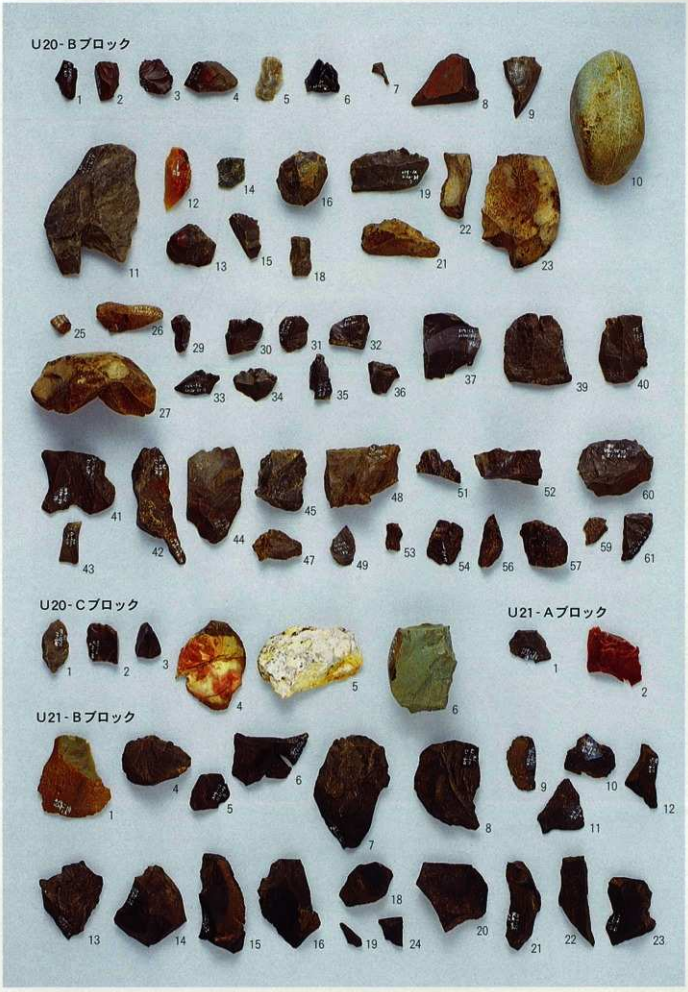
N17-Aブロック
61
62
63
65
66
67
69
70
72
73
N17-Bブロック
1
2
3
4
6
7
9
10
M18-Aブロック
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
12
13
14
15
16
17
19
20
21
23
24
26
27
28
29
30
32
33
35
36
N18-Aブロック
1
2
3
4
5
6
7
8
10
11
13
14
N18-Bブロック
1
2
3
N18-Cブロック
1
2
N18-Eブロック
1
2
3
N18-Fブロック
1
2

N18-Gブロック
N18-Hブロック

N18-Hブロック
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
69
70
72
73
74
75
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
88
89
90
91
92
93
94
95
96
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
110
111
112
113
114
115
116
117
118
120
121
122
124
125
126
128
129
130
132
133
134
N19-Aブロック
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16

N19-Aブロック
N19-Bブロック
M20-Aブロック
Q20-Aブロック
S20-Aブロック

8．第３文化層出土遺物６


U20-Bブロック
U20-Cブロック
U21-Aブロック
U21-Bブロック

10. 第３文化層出土遺物８，第４文化層出土遺物１

V13-Aブロック
V13-Bブロック
V13-Cブロック
V13-Eブロック

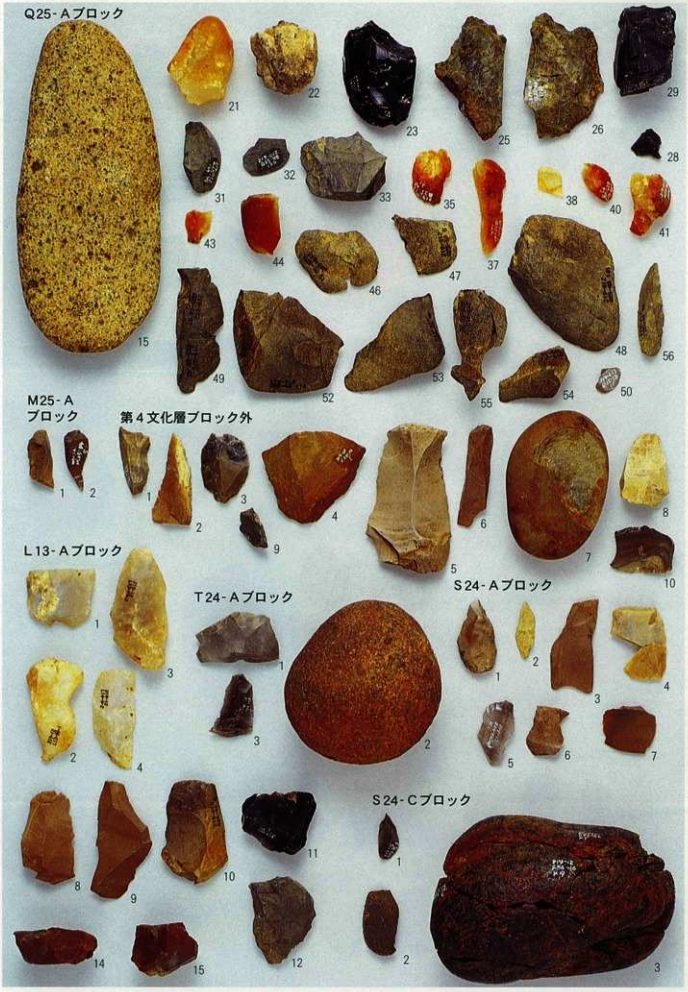
12. 第４文化層出土遺物３

U21-Gブロック
U21-Hブロック
N21-Aブロック
N22-Aブロック
R22-Bブロック

14. 第４文化層出土遺物５

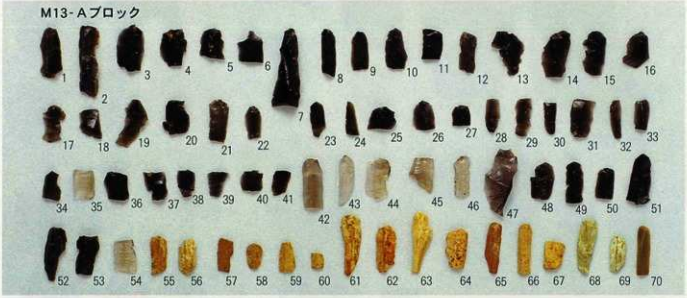
R25-Cブロック
R25-Dブロック
Q25-Aブロック

16. 第４文化層出土遺物７，第５a文化層出土遺物１



S24-Eブロック
S25-Aブロック
S25-Bブロック
S25-Cブロック
S25-Jブロック
S26-Aブロック
S26-Bブロック
S26-Dブロック
第５a文化層ブロック外
U14-Aブロック

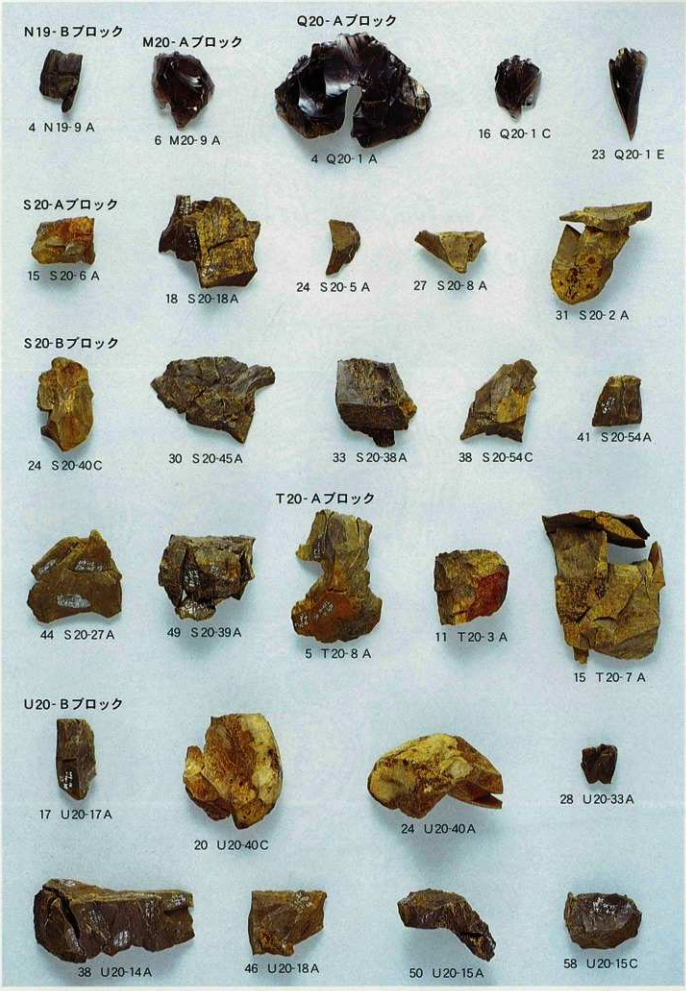
18. 第５b文化層出土遺物２，第６文化層出土遺物，時期不明出土遺物



V16-Aブロック
29 V16-15A
41 V16-45A
33 V16-43A
38 V16-44A
86 V16-105A
45 V16-39A
V17-Aブロック
61 V16-79A
73 V16-83A
77 V16-80A
80 V16-102A
17 V17-24A
R24-Aブロック
3 R24-6 A
S25-Kブロック
4 S25-2 A
7 S25-6 A
10 S25-1 A
S26-Eブロック
5 S26-6 A
M13-Bブロック
1 M13-26A
4 M13-25A
K15-Aブロック
1 K15-1 A
N17-Aブロック
41 N17-12A
47 N17-83A
60 N17-84A
68 N17-47A
N17-Bブロック
50 N17-79A
64 N17-48A
71 N17-54A
8 N17-8 A
5 N17-1 A

20. 接合資料 2

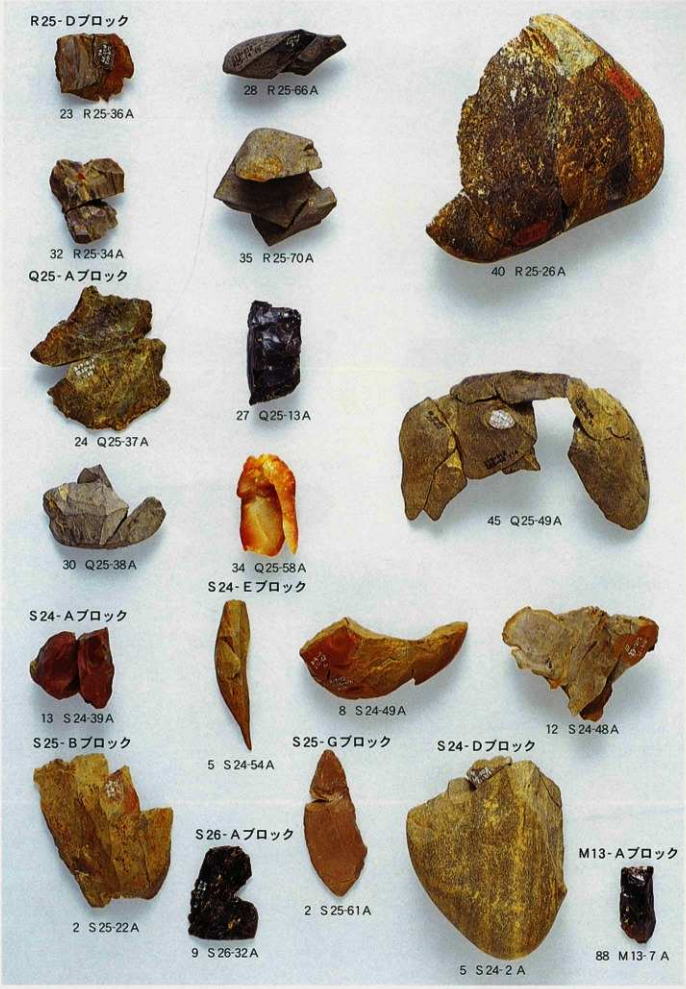
M18-Aブロック
11 M18-5 A
18 M18-7 B
22 M18-7 D
25 M18-14A
31 M18-14B
34 N18-95A
N18-Gブロック
N18-Aブロック
9 N18-13A
12 N18-17A
21 N18-44A
27 N18-38A
M18-Hブロック
20 N18-86A
25 N18-104B
29 N18-107A
32 N18-120A
97 N18-98A
127 N18-99E
35 N18-94A
109 N18-99A
131 N18-99G
119 N18-99B
N19-Aブロック
22 N19-18E
30 N19-38A
34 N19-44A
38 N19-53A
43 N19-50A


N19-Bブロック
4 N19-9 A
M20-Aブロック
6 M20-9 A
Q20-Aブロック
4 Q20-1 A
16 Q20-1 C
23 Q20-1 E
S20-Aブロック
15 S20-6 A
18 S20-18A
24 S20-5 A
27 S20-8 A
31 S20-2 A
S20-Bブロック
24 S20-40C
30 S20-45A
33 S20-38A
38 S20-54C
41 S20-54A
T20-Aブロック
44 S20-27A
49 S20-39A
5 T20-8 A
11 T20-3 A
15 T20-7 A
U20-Bブロック
17 U20-17A
20 U20-40C
24 U20-40A
28 U20-33A
38 U20-14A
46 U20-18A
50 U20-15A
58 U20-15C

U21-Bブロック
2 U21-110A
S26-Cブロック
3 S26-42A
8 S26-41A
J13-Aブロック
5 J13-2A
P14-Aブロック
8 P14-5A
P14-Bブロック
3 P14-20A
V13-Aブロック
1 V13-2A
V13-Bブロック
4 V13-20A
27 V13-10A
38 V13-21A
11 V13-12A
7 V13-14A
V13-Cブロック
8 V13-24A
11 V13-23A
14 V13-36A
22 V13-62A
U14-Bブロック
7 U14-49A
V17-Bブロック
3 V17-29A
V18-Aブロック
12 V18-8A
16 V18-16A

U21-Cブロック
12 U21-11A
17 U21-18A
U21-Eブロック
7 U21-49A
11 U21-43A
U21-Gブロック
8 U21-98A
11 U21-83A
18 U21-106A
14 U21-96A
24 U21-104A
28 U21-85A
31 U21-97A
N21-Aブロック
6 N21-6A
N22-Aブロック
7 N22-15A
R22-Bブロック
8 R22-11A
28 R22-17A
38 R22-17B
46 R22-17C
R25-Bブロック
6 R25-114A
9 R25-113A
12 R25-111A
38 R25-112B
18 R25-112A

24. 接合資料6


R25-Dブロック
23 R25-36A
28 R25-66A
40 R25-26A
32 R25-34A
35 R25-70A
Q25-Aブロック
24 Q25-37A
27 Q25-13A
45 Q25-49A
30 Q25-38A
34 Q25-58A
S24-Eブロック
S24-Aブロック
13 S24-39A
5 S24-54A
8 S24-49A
12 S24-48A
S25-Bブロック
S25-Gブロック
S24-Dブロック
2 S25-22A
S26-Aブロック
2 S25-61A
M13-Aブロック
9 S26-32A
5 S24-2A
88 M13-7A

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75

26. 第１文化層出土遺物２

27．第１文化層出土遺物３，第２文化層出土遺物１

28. 第２文化層出土遺物２，第３文化層出土遺物，第４文化層出土遺物，時期不明出土遺物

第1文化層
95 OBB2A
98 CC4A
101 SHB3A
104 CH4A
109 SHB4A
113 OBB1A
116 CC3A
120 SHE2A
124 SHB2B
128 SHD8B
132 SHD8C
135 SHD8A
138 AN8A
141 SHD13A
144 CH5A
147 SHE4A
151 SHD9A
155 SHD11A
158 SHC22A
161 OBB3A
165 SHC23A
169 TO3A
174 TO3B
179 HO13A
184 SHE1A
第2文化層
32 SHB1A
36 SHB1B
52 SA1A
39 SHD1A
44 HO1A

報告書抄録

ふりがな	ちはらだいにゅーたうん
書名	千原台ニュータウン
副書名	市原市押沼第２遺跡（下層）・川焼台遺跡（下層）
巻次	22
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告
シリーズ番号	第632集
編著者名	田島　新
編集機関	財団法人千葉県教育振興財団　文化財センター
所在地	〒284-0003　千葉県四街道市鹿渡809番地の2　　TEL　043(424)4848
発行年月日	西暦2010年１月29日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
押沼第２遺跡（おしぬまだいに）	千葉県市原市（ちばけんいちはらし）ちはら台東 ７丁目11番地ほか	12219	012	35度 31分 50秒	140度 12分 13秒	1983. 10. 04 ～ 1997. 03. 07	193,872㎡	千原台地区土地区画整理事業に伴う事前調査
川焼台遺跡（かわやきだい）	千葉県市原市（ちばけんいちはらし）ちはら台南 ２丁目７番地ほか	12219	025	35度 31分 18秒	140度 10分 49秒	1986. 04. 01 ～ 1987. 03. 27	30,000㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
押沼第２遺跡	包蔵地	旧石器時代	石器集中地点91か所	石斧・ナイフ形石器・槍先形石器・細石刃・細石刃核・掻器・削器・彫器・楔形石器・石刃・石核・剥片・砕片	立川ローム層下部～立川ローム層最上部で７枚の文化層を確認した。特にⅥ層～Ⅶ層にかけて信州産黒曜石による石刃石器群が，最上層では細石刃石器群が発見されている。
川焼台遺跡	包蔵地	旧石器時代		石斧・ナイフ形石器・角錐状石器・槍先形石器・細石刃・錐状石器・掻器・削器・彫器・楔形石器・石刃・敲石・石核・剥片・砕片	立川ローム層下部～立川ローム層上部で５枚の文化層を確認した。Ⅵ層～Ⅶ層にかけての石器群とⅢ層下部の石器群が中心である。

要約

押沼第２遺跡は，立川ローム層下部～立川ローム層最上部で７枚の文化層を確認した。第１文化層は，立川ローム層第２黒色帯下半部（Ⅸ層下部）を中心に包含される石器群で，４か所のブロックが発見された。第２文化層は，立川ローム層第２黒色帯下半部（Ⅶ層～Ⅸ層）に包含される石器群で，６か所のブロックが発見された。第３文化層は，立川ローム層のハードローム層から第２黒色帯上半部（Ⅵ層～Ⅶ層）にかけて包含される信州産黒曜石による石刃石器群で，26か所のブロックが発見された。第４文化層は，立川ローム層のソフトローム層下部（Ⅳ層）からハードローム層最上部（Ⅴ層）にかけて包含される武蔵野台地のⅣ層下部に相当すると考えられる石器群で，34か所のブロックが発見された。第５文化層は，立川ローム層のソフトローム層（Ⅲ層）を中心に包含される武蔵野台地のⅣ層上部の砂川期に概ね相当すると考えられる石器群で，石器群の内容から２枚に分けた。第５a文化層はナイフ形石器を主体とし，13か所のブロックが発見された。第５b文化層は槍先形石器を主体とし，５か所のブロックが発見された。第６文化層は，立川ローム層のソフトローム層（Ⅲ層）上部を中心に包含される細石刃石器群で，野岳－休場型の細石刃核などが３か所のブロックから発見された。他に，帰属時期不明の石器が見つかっている。

川焼台遺跡は立川ローム層下部～立川ローム層上部で５枚の文化層を確認した。第１文化層は，立川ローム層第２黒色帯上半部（Ⅵ層）を中心に包含される石器群である。第２文化層は，立川ソフトローム層（Ⅲ層下部）を中心に包含される石器群である。第３文化層・第４文化層・時期不明は上層遺構等から出土した遺物で，第３文化層は槍先形石器，第４文化層は細石刃，他に，帰属時期不明の石器が見つかっている。

千葉県教育振興財団調査報告第632集

千原台ニュータウンXXⅡ

－市原市押沼第２遺跡（下層）・川焼台遺跡（下層）－

第２分冊

平成22年１月29日発行

編　集　財団法人　千葉県教育振興財団
文化財センター

発　行　独立行政法人　都市再生機構千葉地域支社
千葉市美浜区中瀬1-31

財団法人　千葉県教育振興財団
四街道市鹿渡809番地の2

印　刷　三陽工業株式会社
市原市五井5510番地1